

## 樋越南部遺跡群

# 東前沖・西前沖・西久保遺跡

—大胡町樋越南部土地区画整理事業に伴う

埋蔵文化財発掘調査報告書—



樋越南部遺跡群

東前沖・西前沖・西久保遺跡

2006

前橋市埋蔵文化財発掘調査団

2006. 3

前橋市埋蔵文化財発掘調査団

樋越南部遺跡群

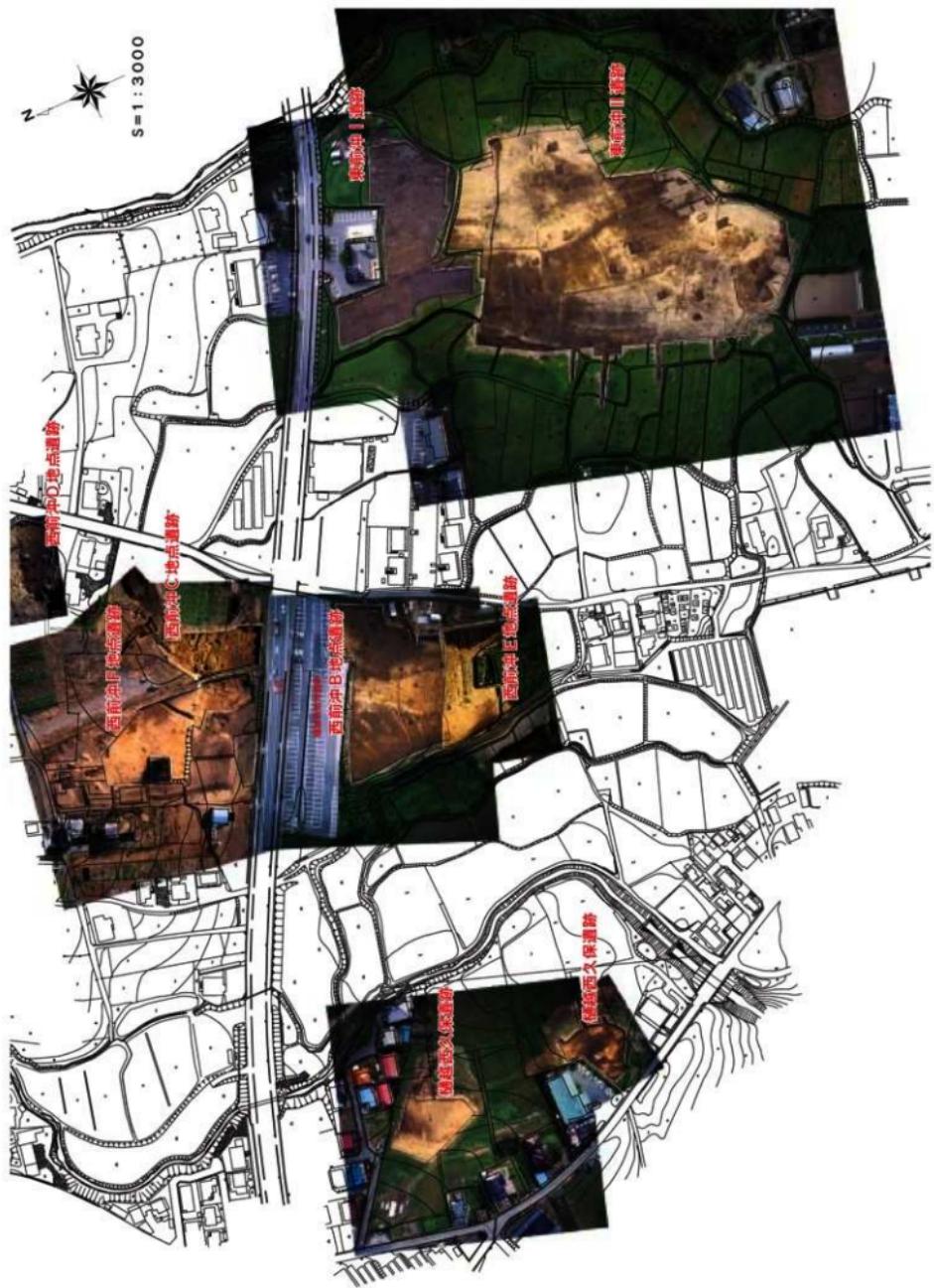
# 東前沖・西前沖・西久保遺跡

大胡町樋越南部土地区画整理事業  
に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書



B地点91号・92号土坑出土  
刀装具 槌金具





図絵2



東前沖遺跡Ⅰ区（上北方向）（西側の沖積地形が読み取れる）



東前沖遺跡Ⅱ区（上東方向）（西側に前橋・大間々・棚生線（大胡バイパス）走行）



西前沖遺跡B地点（上東方向）（北側東西に走行する溝跡近くが段切り整地面）



西前沖遺跡E地点（上南方向）（中央部分に掘立柱建物跡群に伴うピット群・地下式土坑群、近世以降の耕作溝等が分布）

図絵4



西前沖遺跡C地点（下北方向）（南半部を中心に、井戸・土坑群が密集）



西前沖遺跡F地点（上南方向）（右側プレハブ右手付近がC地点調査区。手前に大胡バイパス東西走行）



西前沖遺跡D地点（北北方向）



1



西前沖遺跡C地点-23 漆器片



東前沖遺跡 漆付着土器



西前沖遺跡C地点-33  
銅製品水滴



西前沖遺跡B・D地点-青磁片  
C地点-白磁片



西前沖遺跡B地点-出土飾り金具類

図絵6



西久保遺跡北区（上北方向）



西久保遺跡南区（上西方向）(中央に1号墳主体部)

## 序

前橋市の北にそびえる赤城山は、往古から人々とかかわりが深く、親しまれ愛される逍遙の山であります。とりわけ、赤城山南麓は、その悠々と裾野を広げる台地を中心として、岩宿遺跡に代表されるように遠い旧石器時代から現在まで人々のさまざまな生活が繰り広げられました。

前橋市・大胡町・宮城村・粕川村の1市1町2村は昨年12月5日に合併を行い、赤城山南麓の広範囲を占めることとなりました。

かつて、この地の養蚕を支えた風物詩といえる桑畠は消えゆく運命を辿っております。近年、赤城山南麓一帯は産業構造の変化と相まって大規模な開発整備事業や工業団地、住宅団地造成、道路建設が広範囲に実施されたため数多くの発掘調査が展開されました。

樋越町に所在する樋越南部遺跡群も赤城山南麓に立地するものであり、調査によって縄文時代、古墳時代、奈良・平安時代そして近世まで連綿と続く生活の痕跡を検出することができました。残念ながら、現状のままでの保存が無理なため、記録保存という形になりましたが、今後、地域の歴史・前橋の歴史を解明する上で、貴重な資料を得ることができました。

最後になりましたが、この調査事業を円滑に進められたのは、旧大胡町樋越南部土地区画整理組合の物心両面でのご協力と関係機関や各方面のご配慮の結果といえます。また、猛暑・寒風の中、直接調査に携わってくださった作業員のみなさんに厚くお礼申しあげます。

本報告書が斯学の発展に少しでも寄与できれば幸いに存じます。

平成18年3月

前橋市埋蔵文化財発掘調査団

団長 根岸 雅



## 例　　言

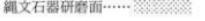
1. 本書は前橋（旧大胡町）櫛越南部土地区画整理事業に伴い事前調査された櫛越南部遺跡群－東前沖遺跡・西前沖遺跡・西久保遺跡に関する発掘調査報告である。平成16年12月5日をもって本町は前橋市との市町村合併が成立し、所属機関・町名呼称などの変更が実施された。ここでは整理上旧町名のままとした。
2. 櫛越南部遺跡群の各遺跡の所在地は以下の通りである。

東前沖遺跡－群馬県勢多郡大胡町大字櫛越字西前沖233－1・234・627・628－1・631・632・633・634・
638・639・640・641・643・644・645・646－1・648－1
西前沖遺跡－同字西前沖534・535－1・536－1・2・3・537－1・538－1・2・544－1・2・6・
7・8・11・546－1・554－1・556・564－1・2・573－4・6・8・580－7・11
西久保遺跡－同字西久保503－1・504－1・508－1・511－2
3. 事業主体 前橋市（旧大胡町）櫛越南部土地区画整理組合
4. 調査主体 旧大胡町教育委員会
5. 調査期間 平成13年度 平成13年6月29日～平成13年12月17日  
平成14年度 平成14年5月11日～平成14年9月11日  
平成15年度 平成15年6月5日～平成15年12月26日
6. 整理期間 平成13年度 平成13年8月1日～平成14年3月25日  
平成14年度 平成14年9月12日～平成15年3月31日  
平成15年度 平成15年8月1日～平成16年3月31日  
平成16年度 平成16年6月14日～平成17年3月31日  
平成17年度 平成17年8月8日～平成18年3月31日
7. 発掘調査・整理事業組織  
合併前 旧大胡町教育委員会 係長 山下歳信 主査 藤坂和延 調査補助員 水谷貴之  
合併後 前橋市教育委員会 係長 前原豊 主任 食品敦子  
主任 須藤健夫嘱託 綿貫綾子
8. 本書の編集は縦貫が行い、執筆については、I章～VI章及びVII章を縦貫が、縄文時代の出土遺物については、前原・食品がそれぞれ担当した。本書添付の付図については、デジタルトレス・合成を大崎和久（前橋市教育委員会主任）が行なった。また、本書監修に際して、山下歳信、藤坂和延両氏の御教示を得た。
9. 本書中記載の遺構図面作成・空中写真撮影については、㈱枝研測量に、出土遺物の一部実測・トレスは㈱前橋文化財研究所に、第VII章の自然科学分析については、パリノ・サーヴェイ㈱に、出土遺物写真撮影は角田写真館に委託した。
10. 中・近世陶器について、大西雅広氏（群馬県埋蔵文化財調査事業団）にご指導をいただいた。また、縄文時代の石器実測・トレスについては、小島純一氏（柏川支所）にお願いした。
11. 本書作成にあたり以下の方々、並びに諸機関からのご協力、ご指導をいただいた。ここに記して感謝いたします。(敬称略・順不同)  
小川卓也 前原照子 加藤勉 北爪隆雄 清水正行
12. 発掘調査・整理事業参加者(順不同・敬称略)  
勒使河原幸枝・石井よね・小沢チヅエ・石川節子・友永茂・萩原秀子・荒井愛子・須田善正

大原 昇・鶴 栄子・石川欣司・石川ミサヨ・阿部清子・鎌塚重治・須田 誠・瀬下 昇・鹿沼善三郎  
鹿沼義勝・山下雅江・五十嵐文江・鈴木久美子・田村志づ江・北爪珠美・齊藤 準・杉瀬富雄  
茂木愛子・石原好江・梅澤きく江・角田美知代・登坂うた子・井上美代子・荻野若男・荻野春子  
大原好江・石原スミエ・松村福二郎・齊藤頼江・鳩岡政雄・吉沢啓介・前原栄子・青木久子  
吉澤乃里子・吉澤てい子・鈴木幸子・武井洋子・松村寿江・北爪栄子・深澤郁子・石原由紀  
岡田三津子

13. 発掘調査で出土した遺物、図面・写真資料に関しては、前橋市教育委員会が保管している。

## 凡 例

1. 本書中の地図は国土地理院発行一平成8年刷の1/25000および旧大胡町原形図－アジア航測㈱調整平成12年度版を適宜縮尺して使用した。
2. 道構跡図中の方位は座標北を示している。
3. 道構断面図中に表記した数値は標高を示している。
4. 出土遺物観察表中に表記した数値単位はcm・g・kgを表す。
5. 道構全体図・付図等に表記した道構分類は以下のことを表している。
- 豎穴住居跡－住　豎穴道構－豎穴　地下式土坑－地坑　土坑－D　井戸跡－井　溝跡－溝  
    溝状土坑－MD　掘立柱建物跡－掘立　墓壙－墓　地割れ跡－地割　ピット－P　柵跡－柵  
    水田跡－田　古墳－墳
6. 出土遺物写真中に添付した番号は、挿図中の番号を表す。
7. 本書挿図中に記載した道構・出土遺物の縮尺は以下の倍率を示し、これ以外のものについては挿図中に記載した。
- 豎穴住居跡－1/60・同竈1/30　  豎穴道構－1/60　  地下式土坑－1/60　  土坑－1/60  
    井戸跡－1/60　  溝跡・柵跡－1/200・1/100　  同断面図1/40・1/50・1/60・1/100  
    掘立柱建物跡　1/80　  墓壙－1/30　  地割れ跡－1/400・1500　  ピット－60  
    柵跡－1/200　  水田跡－1/300・同断面図－60　  古墳－1/120・1/50・1/80  
    建物跡　160・1/100・同断面図1/60  
    土器・陶磁器・石製品（磁石・硯・磨石類）・木製品－1/3・1/4　  凹石類－1/3  
    礫－1/3　  金属製品1/1・2/3・1/3・1/2　  銭貨－2/3・1/2  
    内耳鍋・焰烙・石臼・石鉢－1/3・1/5　  砥石・硯－1/3　  板碑－1/3・1/5  
    鉄滓－1/5　  石造物類－1/5・1/6
8. 本書記載の火山降下物は次のことを示している。
- As-B　浅間山噴出軽石（天仁元年・1108年）  
    Hr-FP　榛名山二ッ岳噴出軽石（6世紀中葉頃）
9. 本書中に使用したスクリーントーンは以下のことを表している。
- 住居跡竈貼付粘質土……                地山……  
    焼土分布・範囲……                炭化物・灰分布範囲……  
    漆範囲……                縞文石器研磨面……

# 目 次

口 絵  
序 文  
例 言  
凡 例  
目 次  
挿図目次・表目次  
報告書抄録

## 第Ⅰ章 調査に至る経緯と経過

第1節 調査に至る経緯.....	1
第2節 調査の経過.....	1

## 第Ⅱ章 遺跡の位置と周辺の遺跡

第1節 遺跡の位置.....	5
第2節 周辺の遺跡.....	5

## 第Ⅲ章 調査の方法と各遺跡の概要・層序

第1節 調査の方法.....	7
第2節 各遺跡の概要.....	7
第3節 層 序.....	18

## 第Ⅳ章 東前沖遺跡（I・II区）

第1節 繩文時代の遺構と遺物 (1) 出土遺物について.....	18
第2節 古墳～平安時代・中・近世の遺構と遺物 (1) 壇穴住居跡.....	23
(2) 壇穴遺構.....	80
(3) 挖立柱建物跡.....	82
(4) 土 坑.....	85
(5) 溝跡・柵跡 .....	107
(6) 地割れ跡 .....	117

## 第Ⅴ章 西前沖遺跡

第1節 繩文時代の遺構と遺物 B・C・E・F地点 (1) 土 坑 .....	119
(2) その他の出土遺物 .....	122
第2節 中・近世の遺構と遺物 B・E地点 (1) 壇穴住居跡 .....	123
(2) 地下式土坑 .....	124
(3) 壇穴遺構 .....	127

(4) 挖立柱建物跡	128
(5) 土 坑	141
(6) 井 戸 跡	161
(7) 溝 跡	166
(8) 水 田 跡	171
C・F地点	
(1) 穫穴遺構	187
(2) 土 坑	188
(3) 性格不明土坑	194
(4) 井 戸 跡	203
(5) 挖立柱建物跡	207
(6) 溝 跡	209
(7) その他の遺構	212
D地点	
(1) 土 坑	237
(2) 井 戸 跡	241
(3) 挖立柱建物跡・柵跡	243
(4) 溝 跡	243
(5) 屋 敷 跡	243

## 第VI章 西久保遺跡

### 第1節 繩文時代の遺構と遺物

(1) 土 坑	259
(2) その他の出土遺物	259

### 第2節 古墳時代の遺構と遺物

(1) 第1号墳	262
----------	-----

### 第3節 古代・中・近世の遺構と遺物

(1) 溝 跡	267
(2) 古 墓 跡	267
(3) その他の出土遺物	267

## 第VII章 自然科学分析

第1節 西前沖遺跡C地点出土木製品の樹種について	269
第2節 同C地点出土銅製品の蛍光X線分析	270

## 第VIII章 成果と問題点

第1節 東前沖遺跡出土の漆付着土器群について	277
第2節 西前沖遺跡にみる中世屋敷群の形成とその後の展開について	280

出土遺物観察表 ..... 285

写真図版

付図1 東前沖遺跡（I・II区）遺構全体図

付図2 西前沖遺跡B・E地点遺構全体図

## 挿図目次

第 1 図	柵越南部遺跡群試掘調査区位置図	3	第 32 図	10号住居跡・出土遺物(1).....	39
第 2 図	柵越南部遺跡群試掘トレンド状況図	4	第 33 図	10号住居跡出土遺物(2).....	40
第 3 図	柵越南部遺跡群の位置・周辺の遺跡	6	第 34 図	10号住居跡出土遺物(3).....	41
第 4 図	柵越南部遺跡群グリッド配置図	8	第 35 図	11号住居跡.....	41
第 5 図	東前沖遺跡遺構全体図①	9	第 36 図	11号住居跡出土遺物.....	42
第 6 図	東前沖遺跡遺構全体図②	10	第 37 図	12号住居跡.....	43
第 7 図	東前沖遺跡遺構全体図③	11	第 38 図	12号住居跡出土遺物(1).....	44
第 8 図	東前沖遺跡遺構全体図④	12	第 39 図	12号住居跡出土遺物(2).....	45
第 9 図	西前沖遺跡 B・E 地点遺構全体図	13	第 40 図	13号住居跡.....	46
第 10 図	西前沖遺跡 C・F 地点遺構全体図	16	第 41 図	13号住居跡出土遺物(1).....	47
第 11 図	西前沖遺跡 D 地点・西久保遺跡 遺構全体図	17	第 42 図	13号住居跡出土遺物(2).....	48
第 12 図	基本土層柱状図	18	第 43 図	13号住居跡出土遺物(3).....	49
第 13 図	東前沖遺跡 (I・II 区) 繩文時代 出土遺物分布図	19	第 44 図	14号住居跡.....	49
第 14 図	東前沖遺跡 (I・II 区) 繩文時代 出土遺物(1)	21	第 45 図	14号住居跡出土遺物.....	50
第 15 図	東前沖遺跡 (I・II 区) 繩文時代 出土遺物(2)	22	第 46 図	15号住居跡.....	51
第 16 図	1号住居跡	23	第 47 図	15号住居跡出土遺物(1).....	52
第 17 図	1号住居跡出土遺物	24	第 48 図	15号住居跡出土遺物(2).....	53
第 18 図	2号住居跡・出土遺物	25	第 49 図	15号住居跡出土遺物(3).....	54
第 19 図	3号住居跡・出土遺物・ 3号竪穴遺構	26	第 50 図	16号住居跡.....	55
第 20 図	4号住居跡	27	第 51 図	16号住居跡出土遺物.....	56
第 21 図	4号住居跡出土遺物	28	第 52 図	17号住居跡.....	57
第 22 図	5号住居跡	29	第 53 図	17号住居跡・出土遺物(1).....	58
第 23 図	5号住居跡出土遺物	30	第 54 図	17号住居跡出土遺物(2).....	59
第 24 図	6号住居跡	31	第 55 図	18号住居跡.....	60
第 25 図	6号住居跡出土遺物	32	第 56 図	18号住居跡出土遺物.....	61
第 26 図	7号住居跡	33	第 57 図	19号住居跡.....	62
第 27 図	7号住居跡出土遺物	34	第 58 図	20号住居跡.....	63
第 28 図	8号住居跡	35	第 59 図	20号住居跡出土遺物.....	64
第 29 図	8号住居跡出土遺物	36	第 60 図	21号住居跡.....	65
第 30 図	9号住居跡	37	第 61 図	21号住居跡出土遺物.....	66
第 31 図	9号住居跡出土遺物	38	第 62 図	22号住居跡.....	67
			第 63 図	22号住居跡・出土遺物(1).....	68
			第 64 図	22号住居跡出土遺物(2).....	69
			第 65 図	22号住居跡出土遺物(2).....	70
			第 66 図	23号住居跡.....	71
			第 67 図	23号住居跡出土遺物.....	72

第 68 図 24号住居跡	73	B・E地点	
第 69 図 24号住居跡出土遺物(1)	74	第102図 1号竪穴住居跡	123
第 70 図 24号住居跡出土遺物(2)	75	第103図 1号竪穴住居跡出土遺物分布図	124
第 71 図 25号住居跡	76	第104図 1号・2号・3号地下式土坑	125
第 72 図 25号住居跡出土遺物	77	第105図 4号・5号地下式土坑	127
第 73 図 26号住居跡	78	第106図 1号・2号竪穴遺構	128
第 74 図 26号住居跡出土遺物	79	第107図 1号・2号掘立柱建物跡	130
第 75 図 1号竪穴遺構	80	第108図 3号・4号掘立柱建物跡	131
第 76 図 2号竪穴遺構・出土遺物	81	第109図 5号・6号掘立柱建物跡・1号・2号	
第 77 図 4号・5号竪穴遺構	82	ピット列	132
第 78 図 1号・2号・3号掘立柱建物跡	83	第110図 7号・8号掘立柱建物跡	134
第 79 図 4号掘立柱建物跡	84	第111図 9号・10号掘立柱建物跡	135
第 80 図 1号～27号土坑	86	第112図 11号・12号・13号掘立柱建物跡	137
第 81 図 28号～36号・39号～54号土坑	88	第113図 14号・15号・16号掘立柱建物跡	139
第 82 図 55号～79号土坑	91	第114図 17号・18号掘立柱建物跡	140
第 83 国 80号～93号土坑	93	第115図 1号～26号土坑	142
第 84 国 94号～105号土坑	95	第116図 27号～52号土坑	145
第 85 国 106号～117号・119号～121号土坑	96	第117図 53号～73号土坑	148
第 86 国 122号～142号土坑	98	第118図 74号～92号土坑	151
第 87 国 143号～159号土坑	101	第119図 93号～120号土坑	154
第 88 国 160号～174号土坑	103	第120図 115号・117号～119号・121号～128号・	
第 89 国 175号～177号・179号～186号・188号・		131号・132号土坑・ピットA	156
190号～193号・196号～200号土坑	104	第121図 129号・130号・133号～147号土坑	159
第 90 国 出土土坑法量比率図	106	第122図 148号～152号土坑	160
第 91 国 溝跡・柵状遺構位置図	107	第123図 1号・2号・4号～12号井戸跡	162
第 92 国 1号柵状遺構・3号・6号・21号・		第124図 13号～20号井戸跡	164
22号溝跡	111	第125図 B・E地点溝跡全体図	166
第 93 国 17号溝跡	112	第126図 1号溝跡	167
第 94 国 14号溝跡	113	第127図 2号・3号・4号溝跡	168
第 95 国 25号・27号溝跡	114	第128図 5号・6号溝跡	169
第 96 国 17号・34号溝跡	115	第129図 7号・8号溝跡	170
第 97 国 溝跡出土遺物(1)	117	第130図 1号水田跡遺構	172
第 98 国 溝跡出土遺物(2)・ピットB出土遺物	118	第131図 B地点出土遺物(1)	173
西前沖遺跡		第132図 B地点出土遺物(2)	174
B・C・E・F地点		第133図 B地点出土遺物(3)	175
第 99 国 E地点J1号・F地点J1号土坑	119	第134図 B地点出土遺物(4)	176
第100図 繩文時代出土遺物分布図	120	第135図 B地点出土遺物(5)	177
第101図 繩文時代出土遺物	121	第136図 B地点出土遺物(6)	178

第137図	B地点出土遺物(7).....	179	第172図	C地点出土遺物(8).....	228
第138図	B地点出土遺物(8).....	180	第173図	C地点出土遺物(9).....	229
第139図	B地点出土遺物(9).....	181	第174図	C地点出土遺物(10).....	230
第140図	B地点出土遺物(10).....	182	第175図	F地点出土遺物(1).....	231
第141図	E地点出土遺物(1).....	184	第176図	F地点出土遺物(2).....	232
第142図	E地点出土遺物(2).....	185	第177図	F地点出土遺物(3).....	233
第143図	E地点出土遺物(3).....	186	第178図	F地点出土遺物(4).....	234
C・F地点					
第144図	1号・2号竪穴遺構.....	187	第179図	F地点出土遺物(5).....	235
第145図	1号・2号・4号～14号土坑.....	189	第180図	F地点出土遺物(6).....	236
第146図	15号～22号土坑.....	191	D地点		
第147図	23号～31号土坑・1号遺構.....	193	第181図	1号～14号・16号土坑.....	238
第148図	2号～11号遺構.....	195	第182図	15号・17号～20号土坑・1号～6号 井戸跡.....	240
第149図	12号～24号遺構.....	198	第183図	1号掘立柱建物跡・1号ピット列・ 1号溝跡.....	242
第150図	25号～31号遺構.....	200	第184図	1号建物跡.....	244・245
第151図	32号～39号遺構・1号・3号・5号 井戸跡.....	202	第185図	D地点出土遺物(1).....	246
第152図	4号・6号～15号井戸跡.....	205	第186図	D地点出土遺物(2).....	247
第153図	16号・17号井戸跡・1号掘立柱建物跡 ・E地点3号ピット列.....	206	第187図	D地点出土遺物(3).....	248
第154図	2号・3号掘立柱建物跡.....	208	第188図	D地点出土遺物(4).....	249
第155図	2号～7号・11号溝跡.....	210	第189図	D地点出土遺物(5).....	250
第156図	1号・8号～10号溝跡.....	211	第190図	D地点出土遺物(6).....	251
第157図	C地点出土遺物(1).....	213	第191図	D地点出土遺物(7).....	252
第158図	C地点出土遺物(2).....	214	第192図	D地点出土遺物(8).....	253
第159図	C地点出土遺物(3).....	215	第193図	D地点出土遺物(9).....	254
第160図	C地点出土遺物(4).....	216	第194図	D地点出土遺物(10).....	255
第161図	C地点出土遺物(5).....	217	第195図	D地点出土遺物(11).....	256
第162図	C地点出土遺物(6).....	218	西久保遺跡		
第163図	C地点出土遺物(7).....	219	第196図	1号土坑・J1号～J6号土坑.....	258
第164図	C地点出土遺物(8).....	220	第197図	縄文時代出土遺物分布図.....	259
第165図	C地点出土遺物(9).....	221	第198図	縄文時代出土遺物(1).....	260
第166図	C地点出土遺物(10).....	222	第199図	縄文時代出土遺物(2).....	261
第167図	C地点出土遺物(11).....	223	第200図	第1号噴全体図.....	263・264
第168図	C地点出土遺物(12).....	224	第201図	第1号噴主体部(1).....	265
第169図	C地点出土遺物(13).....	225	第202図	第1号噴主体部(2).....	266
第170図	C地点出土遺物(14).....	226	第203図	1号古墓跡.....	267
第171図	C地点出土遺物(15).....	227	第204図	西久保遺跡出土遺物.....	268

## 表 目 次

第1表 西前沖遺跡B・D地点出土銭貨一覧表	第5表 西前沖遺跡C地点出土遺物観察表 .....292
.....180	
第2表 東前沖遺跡出土遺物観察表 .....285	第6表 西前沖遺跡F地点出土遺物観察表 .....296
第3表 西前沖遺跡B地点出土遺物観察表 .....290	第7表 西前沖遺跡D地点出土遺物観察表 .....298
第4表 西前沖遺跡E地点出土遺物観察表 .....292	第8表 西久保遺跡出土遺物観察表 .....301

## 報告書抄録

フリガナ 書名	ヒゴシナシナブイセキグン ヒガシマエオキイセキ ニシマエオキイセキ ニシクボイセキ 権越南部遺跡群 東前沖遺跡 西前沖遺跡 西久保遺跡					
巻次						
編著者名	前原 豊 倉品敦子 織賀綾子					
編集機関	群馬県前橋市埋蔵文化財発掘調査団					
編集機関所在地	〒371-0018 群馬県前橋市三俣町二丁目10-2					
発行年月日	2006年3月13日					
フリガナ 所収遺跡名	フリガナ 所 在 地	コ ー ド	北 緯	調査機関	面 積	調査要因
東前沖遺跡	市町村 前橋市種越町東前233-1番地他	市町村 10201	道 跡 番 号 —	東 經 北緯 362434 東經 1391022	H13, 6, 29~ H14, 3, 29 H14, 5, 11~ H15, 3, 31 H15, 6, 5~ H16, 3, 31	土地区画 整理事業 306.09m <sup>2</sup>
西前沖遺跡	前橋市種越町西前535-1番地他					
西久保遺跡	前橋市種越町西久保503-1番地他					
所収遺跡名	種	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項	
東前沖遺跡	集落	縄文時代前期～中・後期 古墳時代前期・奈良時代 ～平安時代・中・近世	遺物包含層 堅穴住居 掘立柱建物跡 棚列 土坑 溝跡	諸磯b・賀曾利E4土器他 漆付着土器類(バレット)		
西前沖遺跡	屋敷	縄文時代前・後期 中・近世	遺物包含層 土坑(陥穴合)8基 掘立柱建物跡 屋敷跡 地下式土坑 井戸跡 土坑	201期 35条 18棟 257基 37基 257基	石製品・石造物・陶磁器類	
西久保遺跡		縄文時代前期 古墳時代後期	遺物包含層 古墳	1基	諸磯a・b・式土器 土師器壊・須恵器長頸壺	大胡24号墳

## 第Ⅰ章 調査に至る経緯と経過

### 第1節 調査に至る経緯

本書において報告する「穂越南部遺跡群」と称される東前沖遺跡・西前沖遺跡・西久保遺跡は、発掘調査時旧大胡町東方大字穂越地区にあって、各々小字東前沖・西前沖・西久保地区に所在し、遺跡名称に冠する所以となっていた。(その後平成16年12月10日をもって前橋市・宮城村・大胡町の三市町村の合併が成立。現在は前橋市穂越町東前沖地区…と呼称される) 遺跡地のほぼ中央北には、西前沖遺跡B・E地点およびC・F地点調査区を、それぞれ南北に分断する形で主要地方道前橋・大間々・桐生線(通称大胡バイパス)が東西に走行、日々前橋～柏川・桐生方面への頻繁な車の往来が続いている。

平成13年6月当地における「土地区画整理事業」の実施計画に伴い、穂越南部土地区画整理組合と大胡町教育委員会との間で事前協議がもたれた。この際周辺一帯が昭和58年～59年当時調査された「上大屋・穂越地区遺跡群」等をはじめ、過去の試掘調査事例(第1図)の結果から多時代にわたる遺跡群の存在が予測された。こうした状況をふまえた結果、事業開始に先立ち事前の発掘調査を行うことになった。

調査対象面積については試掘調査の結果、東前沖遺跡・西前沖遺跡は共に10,000m<sup>2</sup>を超えること、さらに多時期にわたる遺跡の存在が濃厚となった。よって調整会議の結果、次年度以降の調査続行が決定され、結果的には整理事業も合わせると四ヵ年に及ぶ調査が継続されることになった。

発掘調査着手は工事行程との調整から、平成13年度には東前沖遺跡I区(対象面積3,470m<sup>2</sup>)、西前沖遺跡B地点(対象面積3,650m<sup>2</sup>)、同C地点(対象面積1,170m<sup>2</sup>)、同D地点(対象面積2,490m<sup>2</sup>)が行われた。翌平成14年度には東前沖遺跡II区(対象面積14,730m<sup>2</sup>)が、平成15年度には西前沖遺跡E地点(対象面積1,429m<sup>2</sup>)、同F地点(対象面積2,909m<sup>2</sup>)、西久保遺跡(対象面積1,580m<sup>2</sup>)を実施。

調査で得られた出土遺物・図面等の整理については発掘調査と合わせて実施することとし、その内容は出土遺物については洗浄・注記・復元・実測・トレース作業、出土遺構については図面整理・トレース・写真整理等を行うこととし平成16年度の報告書刊行に備えることになった。

### 第2節 調査の経過

各年度毎の調査経過の大枠は以下の通りである。

#### 平成13年度 東前沖遺跡I区・西前沖遺跡B・C・D地点

平成13年6月29日より東前沖遺跡から発掘調査開始。バックホーでの表土掘削、それを追う形で現場作業員を動員配置して表土精査・プラン確認作業を行った。その後7月～8月にかけて竪穴住居跡、龜大な数の土坑群を中心として検出・作図作業、遺構写真撮影を行った。竪穴住居跡に関してはその数4軒程度となった。他遺構との重複関係も少なく、調査は順調に進行した。縄文時代遺物は一部土器集中区が確認されたが、遺物量は比較的少ない結果となった。この他溝跡・地割れ跡等が検出。共に次年度に予定されるII区へ続くことが予測された。8月下旬、遺跡全体の空中写真撮影を行い同調査区の調査を終了した。9～10月にかけて西前沖遺跡B地点の調査が行われた。ここでは特に調査区南半において龜大な数のピット群が検出。掘立柱建物跡等の建物跡に伴うものであると推定されたが、現場での柱間検査は困難を極め、室内整理での検討を余儀なくされる結果となった。この他調査区西側で、西に向かい低く傾斜する台地縁辺上に地下式土坑群が並列して出土。遺構の性格を考える上で示唆に富む資料である。10月下旬、井戸跡等の検出・作図作業、及び空中写真撮影を経て同C区調査へ移行した。

ここでは井戸跡・竪穴遺構数基に加え、土坑や大型で竪穴状ともみえる性格不明の遺構や井戸跡状遺構、さらにはピット群等が密集して検出、重複切り合いも顕著であった。北区のD区調査を控え、11月下旬にかけて

## 第1章 調査に至る経緯と経過

かなり急ピッチの調査となった。このD区の調査はC区とほぼ同時併行して、12月中旬まで行われた。その結果北端部に屋敷跡とみられる区画礎石跡、土坑群・井戸跡数基が検出された。他に掘立柱建物跡に関連するとみられるものを加え、ピット群等が確認される等、全体として比較的遺構数が少なく12月17日をもって現場の作業を終了。同月下旬も押し迫る中、遺跡全体写真撮影が行われ、年末の作業を終了した。その後、年明けから室内作業を経て3月29日、当年度の全作業を終了した。

整理作業に関しては、平成13年8月1日より遺構図面等の基礎整理から作業が開始された。順次発掘調査が進行するに従い、竪穴住居跡を中心として出土遺物の整理も行われた。東前沖遺跡の遺物量はパンケース5箱程度であった。その後西前沖B地点からは陶器片・骨・銅製品・錢貨・石臼他、主には中世の遺物がパンケース10箱、C地点でも同時期的な遺物がパンケース15箱、D地点で5箱の遺物箱数となった。発掘調査時には記述作業後、分類・選別作業を経て、実測可能な遺物を中心に作図作業を行った。発掘作業が一応の目処がたった12月上旬頃から、本格的な整理作業を実施した。

### 平成14年度 東前沖遺跡II区

平成14年5月10日付けをもって契約締結後、5月11日より発掘調査を開始。整理作業も同時併行で行うこととした。本年度調査区は前年度実施されたI区の南側に続く約14,000m<sup>2</sup>の範囲である。

バックホーで表土除去後、作業員による遺構精査を開始。プラン確認の結果、約22軒程度竪穴住居跡の存在が明らかとなった。この他100基を超える土坑群や溝跡・地割れ跡等の他、掘立柱建物跡に伴うピット群が確認、昨年度の調査で予測された遺構の南側への継続が明らかとなった。7~8月下旬にかけて、主に竪穴住居跡、土坑群を重点的に調査、日々掘っては作図・写真撮影などの作業に追われる状況であった。9月上旬残りの土坑群・溝跡を調査、9月10日遺跡全体の空中写真撮影を行い現場での作業を終了した。この後平成15年3月にかけて室内整理作業を続行した。

### 平成15年度 西前沖遺跡E・F地点 西久保遺跡（北・南区）

平成15年6月5日発掘調査開始、同年12月26日に現場作業を終了した。E地点は平成13年度に実施されたB区の南側に、F地点は同C区西側にそれぞれ隣接する調査区である。E地点では竪穴状の落ち込み2基、地下式土坑1基、土坑約30基、さらにB地点と連続する溝跡、調査区東縁下で水田遺構の他、近世代の耕作溝列等が検出された。

F地点では調査区全体に削平が進行し、遺構密度は散漫であった。C地点から連続する溝跡、南端部で地下式土坑他、若干の土坑群が確認された。他に北側に遡隔調査区で井戸跡2基・溝跡が出土。

西久保遺跡では南調査区で、「上毛古墳縕覧」記載とみられる古墳1基、北調査区で、繩文時代の土坑6基、古代と考えられる土坑1基の他、地割れ跡、若干の繩文時代遺物包含層が検出された。

資料整理については同年8月1日より開始。E・F地点遺物を軸に3月31日まで続行された。

### 平成16年度 東前沖遺跡・西前沖遺跡・西久保遺跡

本年度はこれまで得られた資料を基に、報告書刊行に向けて整理作業を行った。平成16年6月14日付けをもって契約締結、平成17年3月31日終了日とした。しかし平成17年1月段階で作業に遅延が生じる状況となり、本年度刊行を断念することになった。

### 平成17年度 報告書刊行目的とした整理全般

合併事業後平成17年8月8日をもって契約締結。直ちに整理作業を開始。特に遅延状況にあった西前沖遺跡D・E・F地点、西久保遺跡を中心に、その他未整理分の各区遺物実測・トレース作業、土坑・井戸跡・溝跡等の木トレース分等の整理も合わせ行った。この作業の中で特に遺構整理に関して、番号の振り替えが前年度途中まで進んでおり、その作業にかなり困難を極めた。その後遺構トレース等の作業後遺物写真撮影・版組等の行程を経て、平成18年3月報告書刊行の運びとなった。



第1図 桶越南部遺跡群試掘調査区位置図



第2図 楠越南部道路群試掘トレンチ状況図

## 第II章 遺跡の位置と周辺の遺跡

### 第1節 遺跡の位置

穂越南部遺跡群は、旧大胡町東方、上毛電鉄線樋越駅南方約550m付近にあって、東西方向に走行する主要地方道前橋・大間々・桐生線（通称大胡バイパス）の北～南に緩傾斜する洪積舌状台地に占地する。遺跡地は、赤城南麓下に発達した河川のひとつ旧宮城村が源の能満川と旧大胡町境で合流する西能満川に挟まれた台地上、標高160～165m付近に位置する。また東・西前沖遺跡・西久保遺跡の三遺跡の間にそれぞれ沖積地形の形成が読み取れ、低位面には水田地帯、台地上には畠地が拡がっている。検出された縄文時代・古代～中・近世の遺構からも、まさに集落の營為過地の場所であったことが窺える。

### 第2節 周辺の遺跡

**旧石器時代**では、相沢忠洋氏によって発見され、県下の嚆矢的資料「三ッ屋遺跡」(4)が茂木地区荒砥側右岸にある。近年の調査成果では、同一遺跡地の「小林遺跡」(8)で削器・搔器が出土。三ッ屋遺跡の西側への広がりが注目されている。また本跡北約1.2km「日光道東遺跡」(5)で細石核・ナイフ形石器・槍先形尖頭器等が検出。両者間の標高高低差の違いは、遺跡占地の有り様で注目される。この他1,700点の石刃、ナイフ形石器出土の堀越甲真木B地点遺跡がある。

**縄文時代**では、遺跡数が多く枚挙にいとまがない。(5)で縄文早期の押形文・燃糸文、主軸となる前期諸礪式系土器、中期阿玉台式・勝坂式土器を伴う陥し穴・土坑等が出土。また本跡西側バイパス道敷地内「上大屋・樋越地区遺跡群」(6)で、縄文前期諸礪式を中心に竪穴住居跡12軒、土坑群等が検出された。また本跡北上毛電鉄線の北側「浅見遺跡」(7)で前期諸礪式期・同浮島式、後期堀之内式土器片を伴う土坑・陥し穴が出土。さらに遺跡南の天王山地区で本町初見の草創期爪形文土器他、早期土器片が採取されている(7)。これらの遺跡群はいずれも穂越南部遺跡群をはじめ標高160m以高に立地する。こうした充実した分布の在り方は多くの示唆に富み、検証資料の軒材となっている。

**弥生時代**では、縄文時代と比較して遺跡数が減少する。その中で標高420mの高地で、滝窪地区金丸にある「金丸遺跡」は著名である。畠掘削中に出土、本格的な調査を経緯していない為詳細は不明とされている。壺形土器・甕形土器・小型鉢形土器・小型台付土器等が出土。弥生中期の良好資料である。この他出土資料として明記し得る遺跡が発見されず、今後の調査成果に委ねられている。

**古墳時代**では、荒砥川側縁辺を中心に古墳・集落共に充実する。最も古い段階の一例に荒砥川左岸の「上ノ山遺跡」(9)出土の集落・方形周溝墓群がある。弥生後期の系譜とされる古墳前期4世紀代前半の赤井戸式土器群を擁する集落・方形周溝墓や、5世紀末～6世紀初頭の堅穴式古墳～後期横穴式古墳等が検出。また「横沢向山遺跡」(10)では柴崎・向山・向日地区にまたがる古墳群に関連する後期古墳が確認されている。さらに終末期古墳では、さい石切組積の石室で著名な県指定史跡「堀越古墳」(11)等がある。集落関連では加えて「小林遺跡」(8)や、「天神風呂遺跡群」(12)等で堅穴住居跡を中心に後期の良好資料が出土。河川流域の生産基盤を背景に集落進展の様相が窺知される。

**奈良・平安時代**では、「上大屋・樋越地区遺跡群」(6)内「ハッ峰生産跡」で、8世紀前半とみらる須恵器、平安時代の炭窯・製鉄跡が検出された。特に窯跡から出土した杯・蓋・高大付椀・短頸壺・広口壺・薬壺・横瓶・長頸壺等の器種揃いが極めて充実している。該期的には律令体制が本格化する段階にあり、寺院あるいは

## 第II章 遺跡の位置と周辺の道路

官衛施設への一元的な供給を想定する上で指標資料である。また製鉄跡の存在は、「浅見遺跡」(7)、横沢芳山遺跡等でも鍛冶関連遺構が出土する等、同様の生産跡を検証する一助となる。「堀越中道遺跡」(13)では39軒の堅穴住居跡、官衛的な様相にある掘立柱建物跡群等が検出されている。この他石敷遺構や、出土遺物で焼印・鉄鍋等がみられる等特殊な遺跡である。「天神風呂遺跡群」(12)では古墳以降へ平安時代後期に至る多数の堅穴住居跡群が検出され、出土遺物の中に瓦塔が出土している。この他「中宮関遺跡」(14)では弘仁九年（818年）の地震災害で埋没した水田跡等が調査されている。

中・近世では、大胡町北の浸食崖上に、赤城南麓連郭式の名城「大胡城」がある。戦国時代～近世とされ、近年の成果では大堀切り部「本丸大堀切跡遺跡」(15)がある。15～17世紀間、三時期の普請痕が確認されている。他に武家屋敷跡に関連する「殿町遺跡」(15)がある。また本跡南「上大屋中組遺跡」(16)・「上大屋天王山遺跡」(17)で15世紀代の堅穴遺構・地下式土坑等、(9)では近世の掘立柱建物跡等が検出。古墓関連では(9)その南にある「茂木古墓」(18)、「日光道東遺跡」(5)等がある。



第3図 堀越南部遺跡群の位置・周辺の道路（横沢芳山遺跡・堀越甲真木B地点遺跡は共に未報告）

## 第III章 調査の方法と各遺跡の概要・層序

### 第1節 調査の方法

発掘調査区グリッドの設定は、世界測地系国家座標を基準として作成した。まず $10 \times 10\text{m}$ 四方の大グリッドを設定し、この中をさらに $5 \times 5\text{m}$ グリッドに分割し、南西端を基準に東西方向を横軸として算用数字、南北を縦軸としてアルファベットで表記した。各グリッド名は北西隅の番号で呼称することとした。(例J-5グリッド)。縦軸はA～Zの26まで使用し、以後はAA、ABというようにアルファベットを重ねた名称とした。国家座標軸については付図・遺構全体図の中で、100m間隔で表記した。

遺構の調査は、プラン確認後原則として十字状あるいは一字状に、土層観察を行う為のブリッジを残した。土層観察・作図・写真撮影後発掘した。一部井戸跡等の調査は湧水も起りやすく危険が伴うものもあるので、深いものについては上記の手順で調査後あえて完掘しない状況が生じた。現場での実測図は平面図・断面図共に $1/20$ 、竪穴住居跡等に伴う施設は平面図・断面図 $1/10$ の縮尺とし、手書きで行い、一部土坑・ピット等及び全体図については $1/20$ 縮尺で業者委託した。また個々の遺構写真撮影については、 $35\text{mm}$ フィルムモノクロ・リバーサルを使用、各遺構別を原則として調査担当者が行い、一部掘立柱建物跡・古墳等の俯瞰写真・遺跡全体写真については業者委託した。出土遺構番号については、東前沖・西前沖遺跡共に発掘調査時各区・各地点毎の番号で扱ったが、一連の遺跡調査区(例西前沖-B・E地点等)について、整理作業段階で新たに番号を振り替えた。

整理作業は、洗浄→注記→分類→台帳記載→遺構別収納→実測(一部写真実測)→トレース(一部パソコントレース)→挿図作成→計測→原稿作成の順で行った。遺物写真撮影は、モノクロ・リバーサル共に $6 \times 9$ サイズで行い、版組段階で適宜縮尺した。なお出土遺物の一部は業者委託した。

### 第2節 各遺跡の概要

#### 東前沖遺跡I区

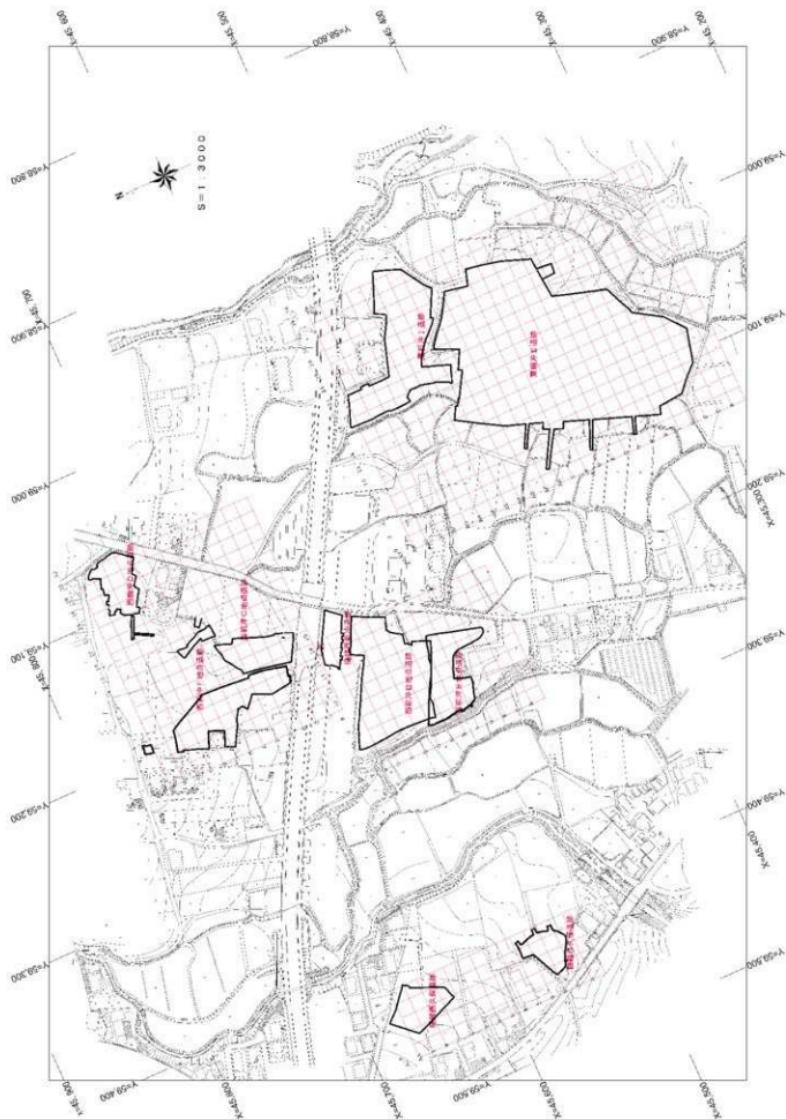
調査区は北～南への緩傾斜地。調査区は東西約95m、南北90mの範囲。遺構検出面の標高は南側で162.40m、北側で163.40m、その比高差1.0mである。調査区北西～中央部にかけて地割れ跡が縦断、これを間に東側は竪穴住居跡・土坑群・ピット状の落ち込みが密集、重複関係も顕著である。これに対し西側は南・北両端部寄りに竪穴住居跡・竪穴遺構があり、間に土坑群が点在する在り方を示す。溝跡は縦・横断さらには東側で鉤の手状に折れる3者がある。特に中央部を縦断する溝は、幅広・台形状断面で、II区に向かって連続する。

ここで検出された遺構は、古墳時代末～奈良時代初頭の竪穴住居跡4軒、中世の竪穴遺構5軒、時期不明土坑79基、溝跡5条、地割れ跡等である。この他遺構は伴わないが、縄文時代前期・中期の遺物片が出土した。

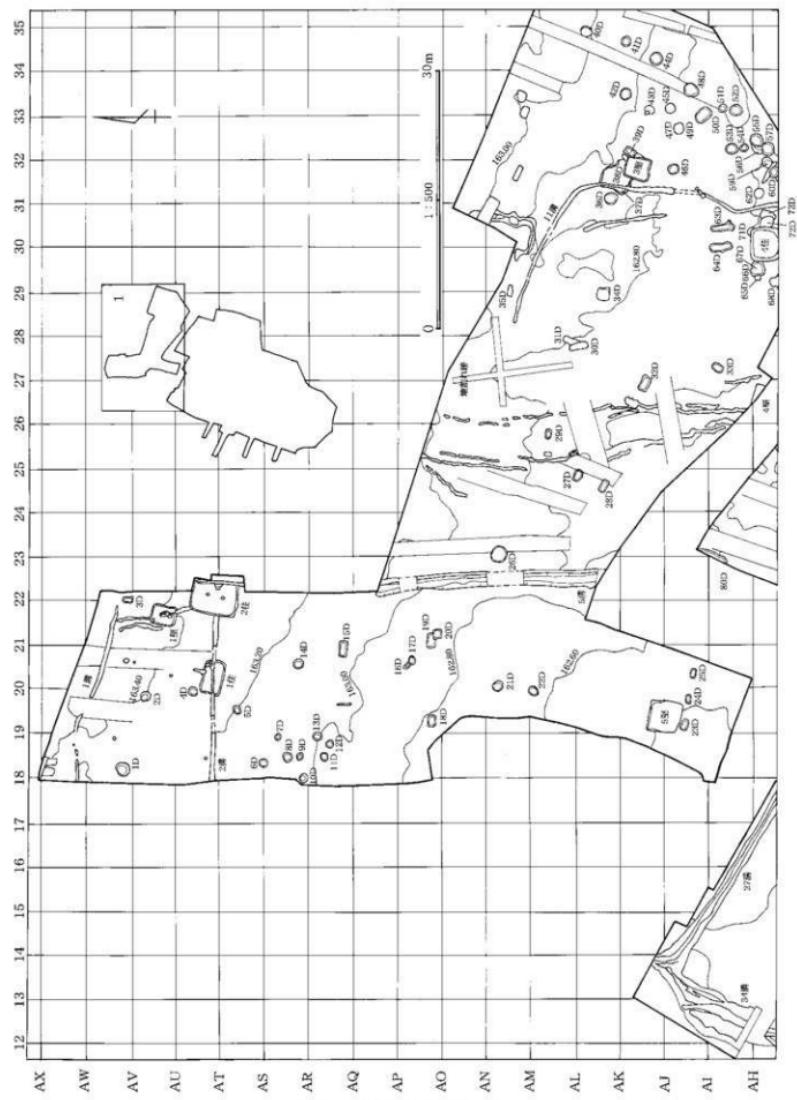
#### 東前沖遺跡II区

I区南へ続く東西約180m、南北175mの調査区である。I区同様北～南へ緩傾斜し、標高は北端で162.20m、南端で159.21mを計り、その比高差約3mである。調査区北西部がI区共に遺構の分布が概して薄いのに対し、南半部および北東部は特に土坑群の分布が多くなる様相にある。

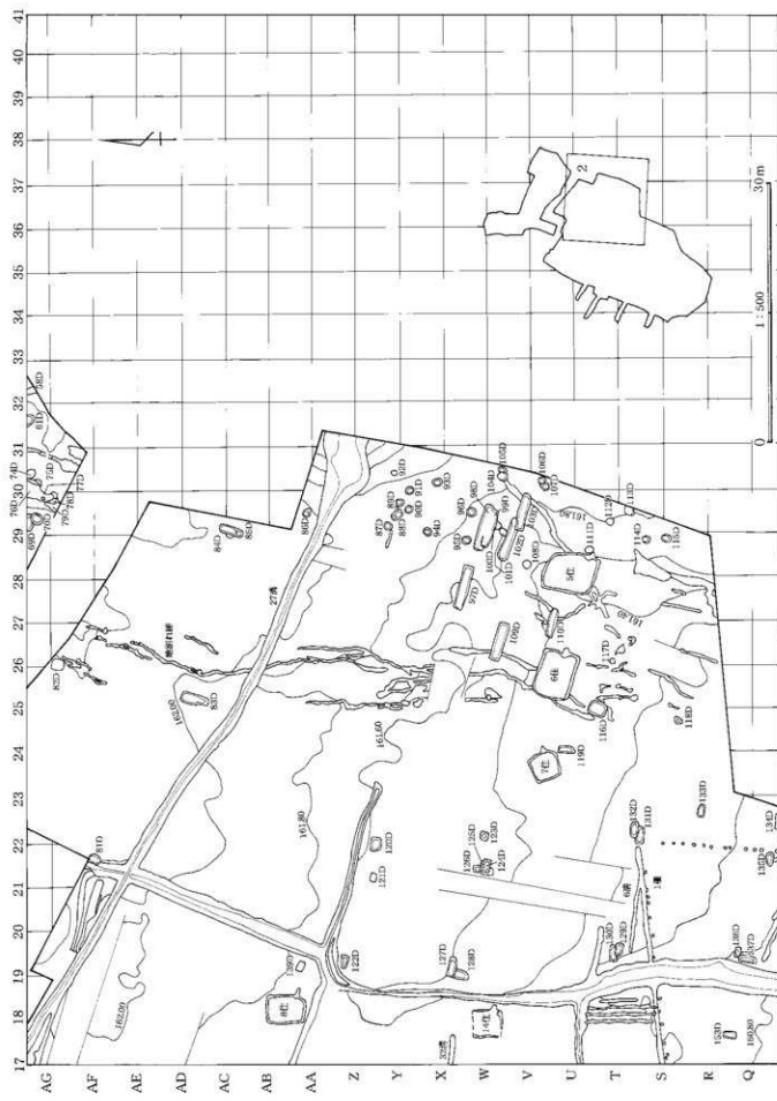
検出された遺構は、古墳時代前期末の竪穴住居跡1軒、I区と同時期の古墳時代末～奈良時代初頭の竪穴住居跡21軒、掘立柱建物跡4棟、柵列2本、時期不明土坑122基、溝跡30条、地割れ跡等が検出された。古墳前期の竪穴住居跡は、本跡南に隣接する「上大屋天王山遺跡」で同時期的な竪穴住居跡群が確認されており、単軒



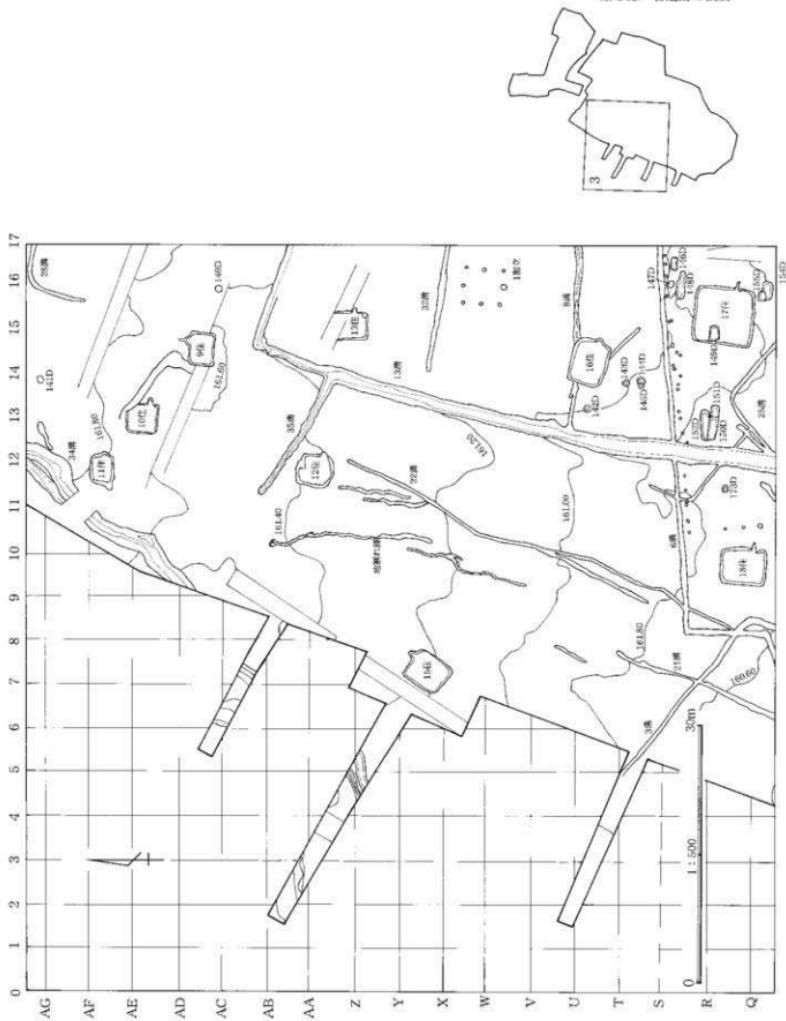
第4図 桶越南部遺跡群グリッド配図



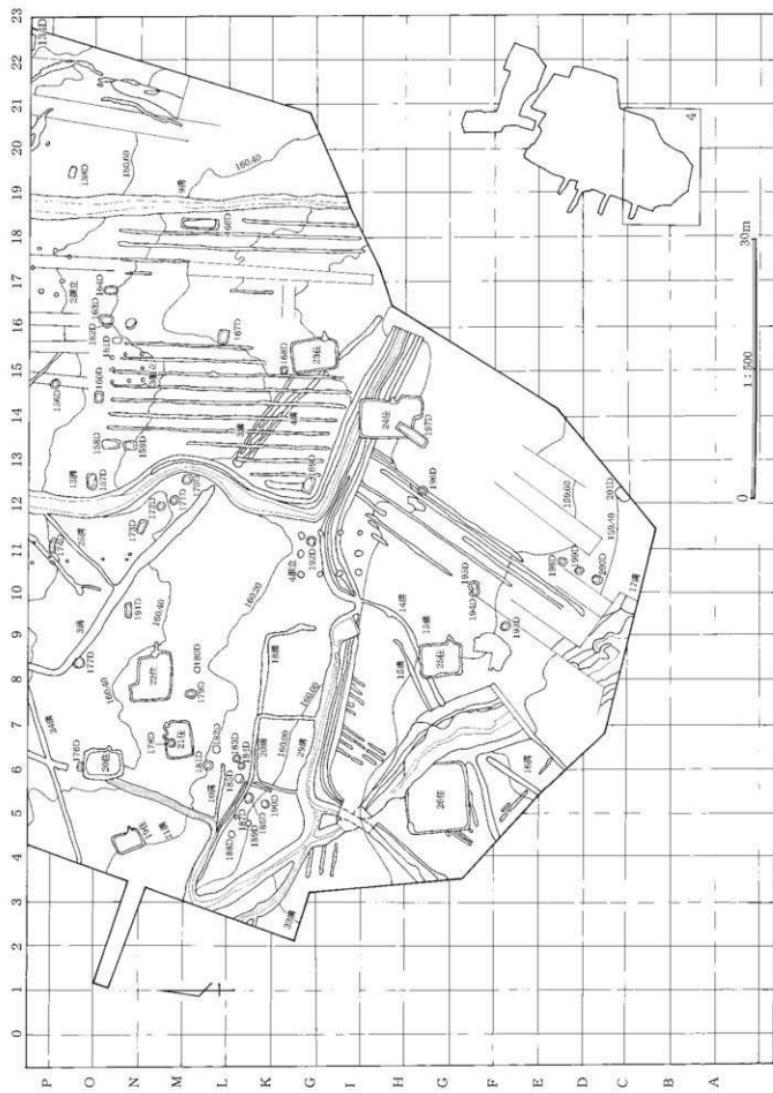
第5図 東前沖遺跡遺構全体図(1)



第6図 東前沖遺跡遺構全体図(2)



第7図 東前沖遺跡遺構全体図(3)



第8図 東前沖遺跡遺構全体図(4)



第9図 西前冲遺跡B・E地点遺構全体図

ながら遺跡の拡がりを検証する上で重要な資料といえる。

#### 西前沖遺跡B・E地点

バイパス道敷地内で、昭和58・59年に調査された「上大屋・樋越地区遺跡群」西前沖遺跡A・L地点の南側隣接地にあたる。東西90m、南北約105mの範囲である。調査区北半がB区、南半がE区である。調査区の標高は北端部で標高165.00m、南端で163.20mを計り、北～南へ緩傾斜地形をなす。調査区中央部は馬の背状に平坦面を形成、北側に向かってやや仰臥状に開き、東西両側が谷低地に向かって落ち込む。特に西側の傾斜角度は東側よりも急傾斜である。低地面との比高差は約3.5mである。遺構立地面は、調査区北半部より台地先端にかけて造成された段切り整地面上に形成される。台地縁辺の土壌切り崩しについては、バイパス調査区L地点において、西→東方向への同じ様な整地面が確認されている。

検出された遺構は中世の竪穴住居跡1軒、地下式土坑5基、竪穴遺構2基、土坑15基、井戸跡20基、掘立柱建物跡18棟、水田跡1面、溝跡8条、地割れ跡等の他、縄文時代の土坑1基である。

ここで遺構の在り方は、B地点北半の段切り整地平坦面の西側縁辺部際に地下式土坑・竪穴遺構が縦列するように並び、中央部及び北東部の平坦面に掘立柱建物跡群が近接するように占地する。特に中央南半部は建物跡を含め多数のピット群が確認され、コの字に折れる溝跡等との関連も想われる。また井戸跡は比較的建物跡に近い位置に出土する一方、土坑群は縁辺部を除く全域に散在してみられた。

#### 西前沖遺跡C・F地点

前記バイパス道を挟んだ北側部分にあたる調査区である。道路予定地部分を間に東側がC区、西側がF区にあたる。C区は北東側に2調査区、南西側の調査区の3地区に分かれる。また一方F区は南側の調査区に加え、北側に飛び地の小調査区の2地区に分かれる。これらC・F両地点は北西～南東方向へ向けて緩傾斜し、北西部での標高167.30m、南東部で163.90mを計る。発掘調査当初、両地点の南半、西側部分は、土取りによる搅乱が進行し、遺構の多くが失われていた。C区南東部は未調査であるが、B区東側でみられた谷地形の存在が想定される。

検出された遺構は、中・近世の竪穴遺構2基、土坑41基、溝状土坑8基、地下式土坑を含む性格不明遺構39基、井戸跡17基、掘立柱建物跡2棟、溝跡11条、地割れ跡、縄文時代土坑1基、風倒木跡等である。

検出された遺構の大半は、C地点北側溝跡付近以南の段切り整地面及びF区南東部に集中し、F区北西部で縄文時代土坑を含め、若干の土坑状の落ち込みが見られたに止まる。北飛び地調査区ではC区から続くとみられる溝跡の他、井戸跡2基が出土しており、東側のD区との関わりも考慮される。掘立柱建物跡に関しては2棟を柱間から抽出したが、さらに増える可能性を残す。

#### 西前沖遺跡D地点

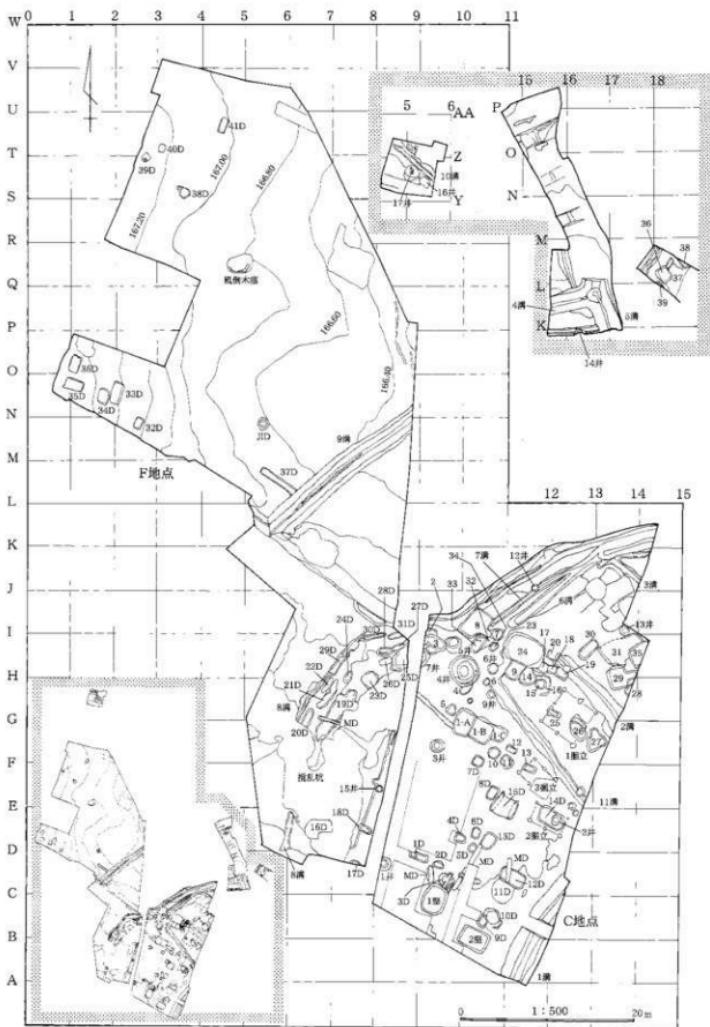
C区北東側に隣接する調査区である。調査区西半部の一部は蒸畑となっており、調査の対象はもっぱら東半部を中心に行われた。本遺跡中最も北側に位置し、標高は遺構検出面で北側167.60m、南側で166.20m、比高差約1.4m弱のなだらかな傾斜地である。

ここで検出された遺構は、中・近世の井戸跡6基、土坑20基、溝跡1条、近世とみられる屋敷跡、掘立柱建物跡1棟、ピット列1列である。

北側奥部に東西方向に向けて屋敷跡が、その南側のやや平坦部に掘立柱建物跡、その周辺に扇状をなして井戸跡・土坑群が点在する。C区の状況からみて、さらに南側への集落の拡がりが推考される。

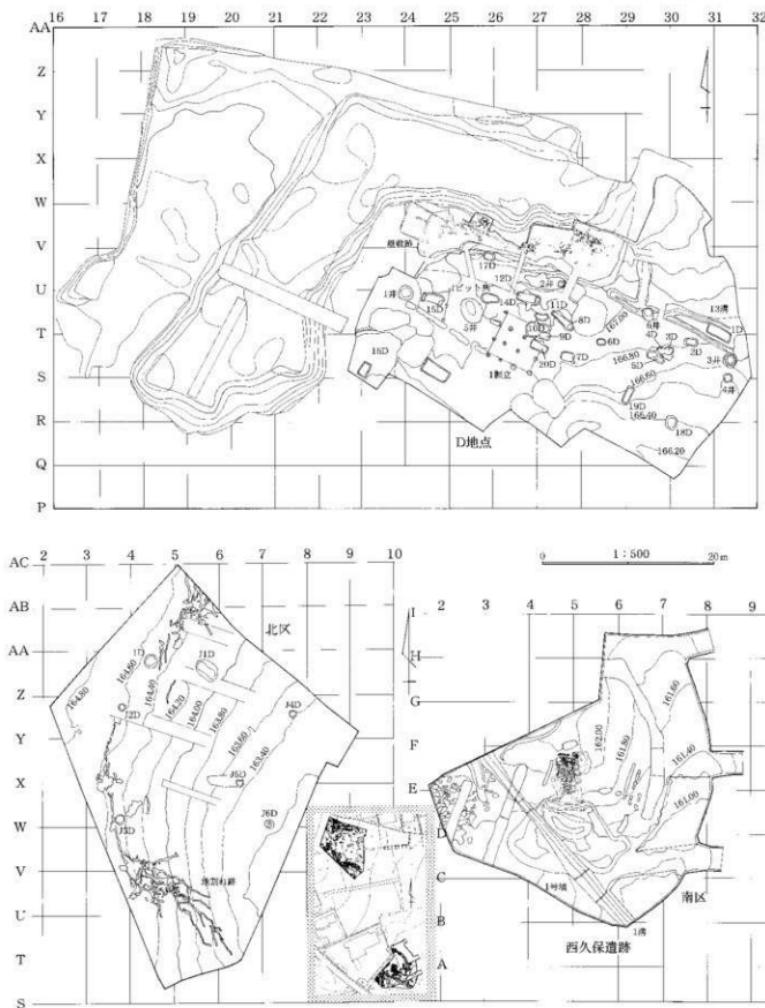
#### 西久保遺跡

西前沖遺跡西側の沖積谷地形沿いを南下する西能満川対岸台地状に位置する。南・北二つの調査区に分かれ



第10図 西前沖遺跡C・F地点遺構全体図（性格不明遺構は番号のみ）

第2節 各道路の概要



第11図 西前冲道路D地点・西久保道路遺構全体図

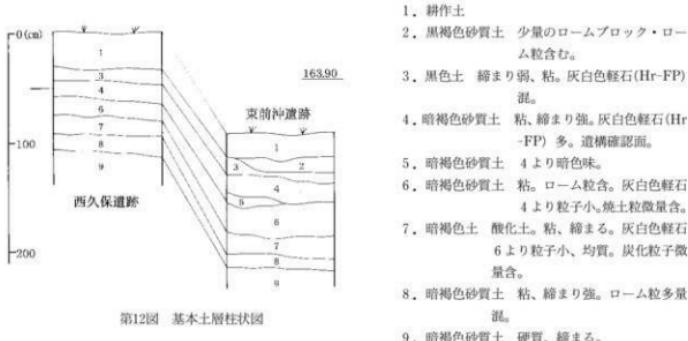
る。両調査区共に東～西方向に向かって緩傾斜し、比較的標高の高い（164.80m～）北調査区で縄文時代を中心とする土坑群・風倒木等の他、縄文時代前期を軸とする土器片類、平安時代の地割跡が検出。標高162.20m～以下の南調査区では、横穴式石室を持つ古墳1基が検出された他、古墳東側で縄文時代前期を中心とする遺物集中区等が確認された。

### 第3節 層 序

大胡町に分布する土壌は群馬県下全域にみられるのと同様、所謂関東ローム層に由来するものである。これらは主に赤城・榛名・浅間山から噴出されたもので、この中に含まれる軽石層等を鍵層に上・中・下部ローム層に分類されるといわれている<sup>(1)</sup>。大胡町ではこのうち浅間山・榛名山起源とする上・中部ローム層に該当、各々噴火に伴う火山降下物の影響を受けている。

本跡で確認された基本土層は、東前沖遺跡I区及び西久保遺跡の2箇所で作成した。火山降下物では、浅間山As-B・榛名Hr-FPに関連する土層堆積が確認されている。

(1) 「大胡町誌」第二章 地質・地形 頁44～



## 第IV章 東前沖遺跡（I・II区）

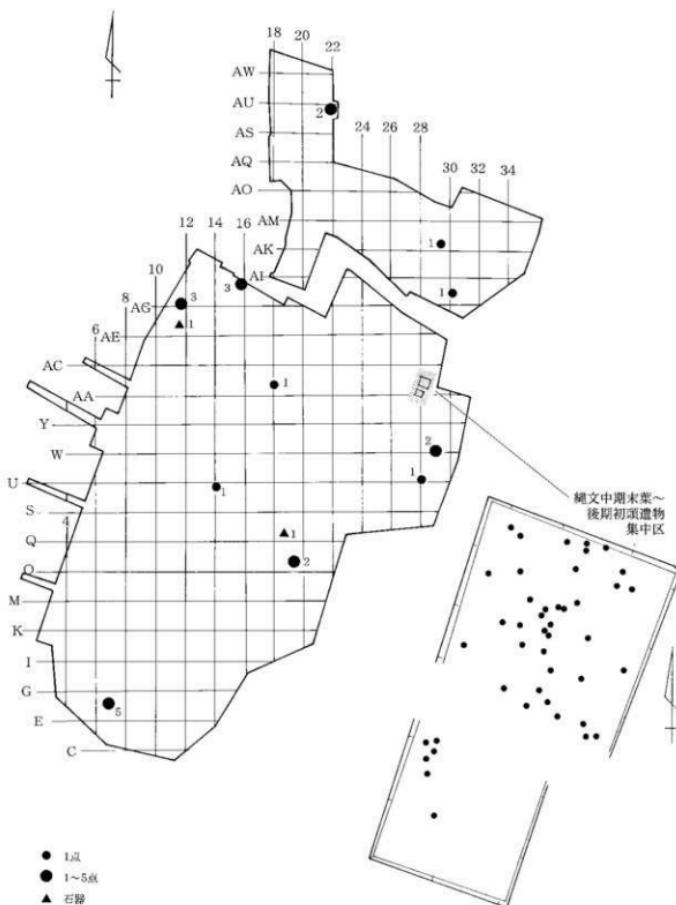
### 第1節 縄文時代の遺構と遺物

東前沖遺跡（第13・14・15図 P L69）

縄文時代の遺物は遺物包含層から出土したもので、直接遺構に結びつかない。遺物分布は、AC～AA・27～29グリッドから中期末葉から後期初頭の遺物が50片程度まとまって出土したほかは偏在性はなかった。ただし、遺物の検出から、今後、周辺区域の調査で縄文時代の集落の検出が考えられる。

出土した遺物は、大きく縄文時代前期後半の諸職b式期、中期末葉の加曾利E4式から後期前葉の称名寺II式、堀之内II式、加曾利B式期の所産である。この中でも称名寺II式が主体を占めている。

1は諸職b式。2条の浮線文に矢羽根の刻みと刺突が入る。色は明黄褐色。焼成・胎土とも良好。2も諸職b式。半截竹管による絵線文。色は暗棕褐色。焼成・胎土とも良好。3は阿玉台式。肉厚の爪形文。色は暗赤

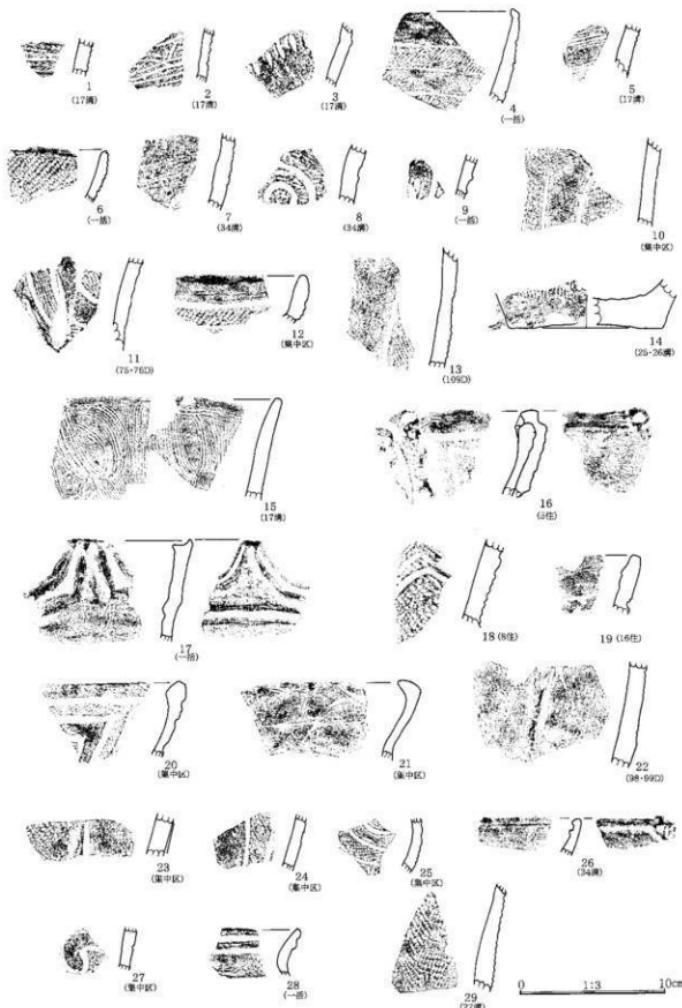


第13図 東前沖遺跡（I・II区）縄文時代出土遺物分布図

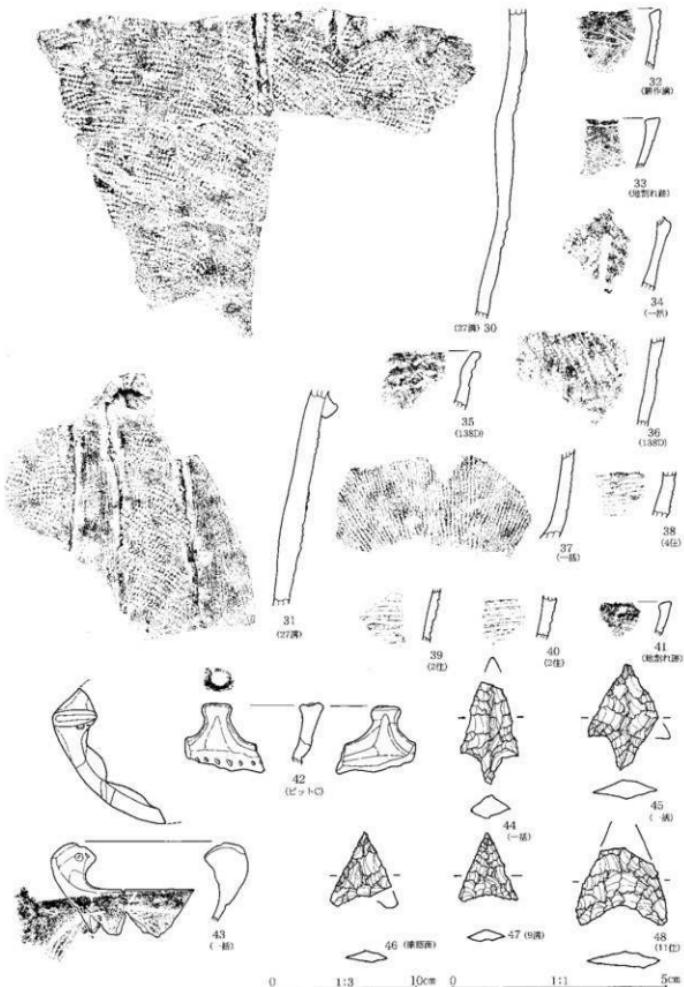
#### 第IV章 東前沖遺跡（I・II区）

褐色。焼成・胎土とも良好。胎土に金雲母を含む。4は口辺部。堀之内II式。横位の沈線が入る。細縞文LRが充填される。色はにぶい橙色。焼成・胎土とも良好。5は諸磯b式。地文にRLが施文、半截竹管による沈線。色はにぶい赤褐色。焼成・胎土とも良好。6は口辺部、諸磯b式。繩文LR施文。色はにぶい橙色。焼成・胎土とも良好。7は諸磯b式。半截竹管による平行沈線と刺突が入る。色はにぶい赤褐色。焼成・胎土とも良好。8は称名寺I式。地文に繩文RL、渦巻沈線。摩滅、色は灰褐色。焼成・胎土とも良好。9は称名寺II式。太い沈線と列点で構成。色はにぶい黄橙色。焼成・胎土とも良好。10は加曾利E4式。やや太い沈線が入る。繩文LRが充填される。色は浅黄色。焼成・胎土とも良好。11は称名寺I式。太い弧状の沈線。充填繩文RL。色は浅黄色。焼成・胎土とも良好。12は口辺部。加曾利B1式。太い横位沈線と充填繩文LR。色は灰白色。焼成・胎土とも良好。13は称名寺I式。太い沈線と充填繩文LR。色は灰白色。焼成・胎土とも良好。14は底部。加曾利E式。縦位に条線を施文。色はにぶい褐色。焼成・胎土とも良好。15は堀之内I式。条線文。弧線を描く。色はにぶい橙色。焼成・胎土とも良好。16は口辺部。称名寺I式。隆帶に刻み。太い沈線間に充填繩文LR施文。色は浅黄色。焼成・胎土とも良好。17は加曾利B1式。波状口辺。沈線による装飾、内面に一条横位沈線。丁寧な研磨。色は黒褐色。焼成・胎土とも良好。18は加曾利E3式。沈線とLRの繩文。色はにぶい褐色。焼成・胎土とも良好。19は口辺部。隆帶に交互刺突。色はにぶい褐色。焼成・胎土とも良好。20は口辺部。16と同一個体。重ね沈線による幾何学的文様。充填繩文LR。色は浅黄色。焼成・胎土とも良好。21は口辺無文部。称名寺式。口縁内部が突出。色はにぶい橙色。焼成・胎土とも良好。22は加曾利E4式。微隆帶。充填繩文LRが微かに見える。色はにぶい黄橙色。焼成・胎土とも良好。23は加曾利E4式。微隆帶による縦位区画。充填繩文LR。色は明黄褐色。焼成・胎土とも良好。24は称名寺I式。沈線と充填繩文LR。色はにぶい赤褐色。焼成・胎土とも良好。25は称名寺I式。弧状の沈線と充填繩文LR。色はにぶい橙色。焼成・胎土とも良好。26は鉢の口辺部か。加曾利B1式。内面に円形刺突。色は黒褐色。焼成・胎土とも良好。27は称名寺I式。沈線と充填繩文LR。色は赤褐色。焼成・胎土とも良好。28は加曾利B1式。横位の2条隆帶。色は黒褐色。焼成・胎土とも良好。29は加曾利E4式。繩文LR施文。色は灰白色。焼成・胎土とも良好。30は加曾利E4式。器面全体に繩文RL。縦位の微隆帶。色は黒褐色。焼成・胎土とも良好。31は加曾利E4式。30と同一個体か。微隆帶による縦位区画。充填繩文LR。横位微隆帶に瘤が貼付。色は黒褐色。焼成・胎土とも良好。32・33・41は口辺部。加曾利BII式。綾衫状の沈線。色はにぶい黄褐色。焼成・胎土とも良好。34は加曾利E3式。縦位沈線と充填繩文LR。色は黄灰色。焼成・胎土とも良好。35は口辺部。横位の絡条体圧痕文が3条施文。原体は繩文LR。胴部に0段多条のRL。前期末か。色は明褐色。焼成・胎土とも良好。36は加曾利E式。繩文RL。色はにぶい褐色。焼成・胎土とも良好。37は加曾利E1式。原体はRの燃系文。色はにぶい褐色。焼成・胎土とも良好。38は繩文L。色はにぶい赤褐色。焼成・胎土とも良好。39は堀之内I式。横位の集合沈線。色は黒褐色。焼成・胎土とも良好。40は諸磯b式。半截竹管による横位の平行沈線。色は灰黄色。焼成・胎土とも良好。42は突起部。加曾利B1式。外面上に横位の連続刺突。内面は丁寧なナデ。色は黒褐色。焼成・胎土とも良好。43は把手。称名寺I式。口辺部に横位の無文部。胴部に沈線による幾何学構成。充填繩文LR。色は暗灰黄色。焼成・胎土とも良好。

統いて石器である。44是有茎鍬。重さ1.3g。チャート製。先端部を欠損する。45も有茎鍬。重さ1.0g。チャート製。右基部を欠損。46は無茎鍬。重さ0.4g。黒曜石製。基部欠損。47は無茎鍬。重さ0.5g。チャート製。48は無茎鍬。重さ1.4g。チャート製。先端欠損。



第14図 東前沖遺跡（I・II区）縄文時代出土遺物(1)



第15図 東前沖遺跡（I・II区）縄文時代出土遺物(2)

## 第2節 古墳～平安時代・中・近世の遺構と遺物

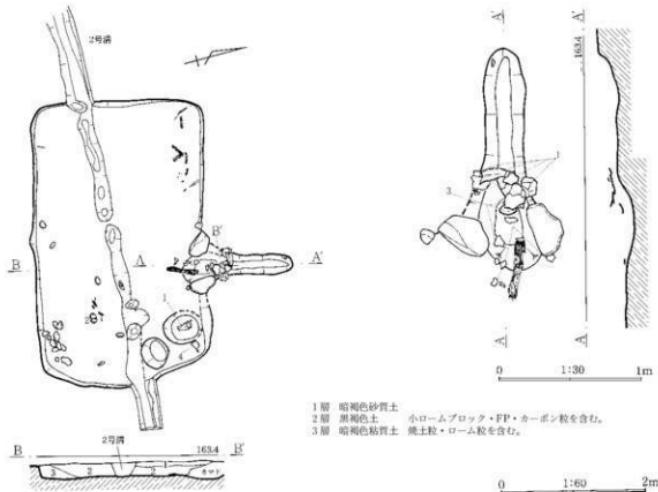
### (1) 竪穴住居跡

1号住居跡（第16・17図 PL. 1・61）

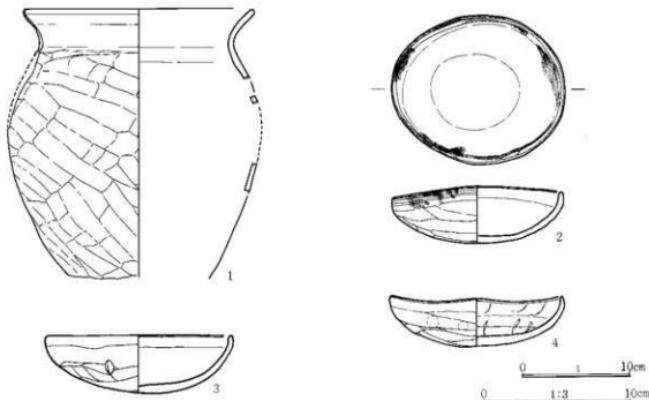
I区調査区北西、2U・2V-19・20グリッドに跨って位置する。住居跡中央を2号溝が横断、新旧関係は溝が新しい。周辺は比較的住居跡の分布が薄い。標高は163.25m付近である。

住居跡の形状は隅丸長方形を呈し、東壁側が若干湾曲する。規模は東西長4.0m、南北長2.5m、主軸方位は、N-76°-Wである。壁高は南辺下で20cm、西辺下で14.2cm程度とやや浅い。住居跡覆土は3層から形成され、南壁際では第3層ロームブロック・FP・炭化物を含む黒褐色土が確認された他は、暗褐紅色砂質土主体の覆土である。床面はほぼ平坦だが、東半側は踏み固められより硬く締まる。周溝・柱穴は検出されなかった。北東部コーナー寄りに貯蔵穴状の落ち込み2基が出土。共に椭円形状の形状、北側のは径55×45cm、深さ10cm弱、南側のは40×35cm、深さ17.6cmである。

竈は北壁東寄りに敷設される。燃焼部奥部より壁外に長円形状に張り出す。焚き口左右には径37cm大、安山岩質大形礫2個を配し袖部とする。燃焼部は梢円形状に浅く窪み、燃焼部奥壁へ焚き口・貯蔵穴にかけて土師器甕(1)、土師器杯(4)、燃焼部内へ土師器甕(3)が出土。(1)は煮沸具として使用していたものとみられる。また薪材であろうか焚き口部に炭化材1本出土。竈全長1.5m煙道部30cm、先端で緩く窪む。焚き口幅33cm、深さ10cm、主軸N-12°-Eを計る。遺物は他に、北壁西寄り・南東寄り床面に炭化材が出土。前者は東西・北西・南東の規則的な方向にあり、住居構築材の一部とみられるが、焼失に因るものか。また南東コーナー部床面に蕭



第16図 1号住居跡



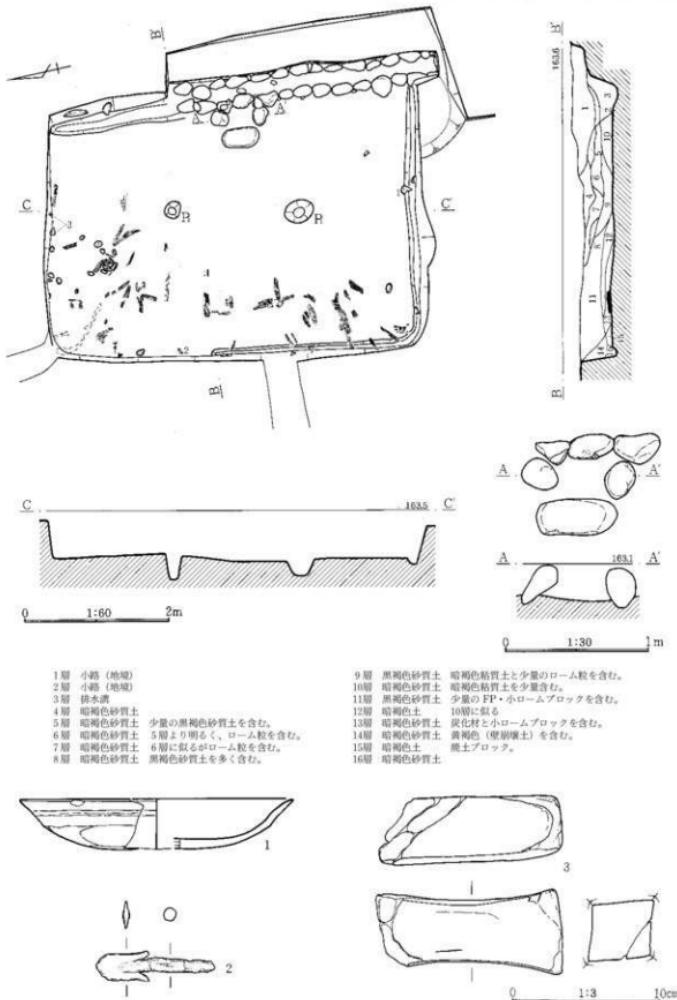
第17図 1号住居跡出土遺物

石状の躙群、土師器杯(2)が出土。口縁部付近を中心として漆状付着物がみられる。

#### 2号住居跡（第18図 PL 2・68）

1号住居跡の東約5m U・2 V-21・22グリッドに位置する。標高値は1号住居跡と同ライン上に位置する。形状は整美な隅丸長方形をなすが、東辺部は後生、近世頃とみられる暗渠構造によって壊されている。東側の延長部分は予定地外の為調査には至らなかった。また住居跡中央上面には前述2号溝が走行。規模は西辺で5.3m、壁面の深さは45~50cm、壁面の立ち上がりはほぼ直線的である。主軸はN-20°-Eを計る。検出面中央部に主柱穴とみられるP1・P2の2本のピットが検出された。形状はいずれも楕円形で、P1-径40×30cm、深さ19.6cm、P2-径25×20cm、深さ32cmである。南壁側～西壁中央部にかけて周溝が巡る。上幅最大25~30cm、下幅5~8cm、床面よりの深さ5~8.8cmである。床面の状況はほぼ平坦面を形成するが、中央部へ向かって若干低くなる。土層断面を観察すると、4~9層で形成される溝状の落ち込みが見え、覆土の大半がや人為的な堆積土の様相にある。いずれにしても暗渠構築前あるいは構築時に何らかの掘削が行われたものと考えられる。

竈は暗渠施設によって大半を失っている。しかし同施設南中央部に安山岩質罐2石が住居跡側に長軸を向いて他の1石が手前側に南北方向を向いて横たわる。おそらく竈に関連する袖石・天井石の一部と考えられる。2石の径は25~28cm、3石目は52cm大である。前2石の間は幅33cmの間隔をもち、若干窪む。出土遺物は住居跡西壁下において、多数の炭化材群が壁際から住居跡側に向けて倒れるように出土。焼失による結果とみられる。長いものは85cm、幅8~10cm大、厚さ3.0cm大~14cm大である。一見して丸太状が大半で、角材とみられるものは認めがたい。さらに北西コーナー部の壁面に地盤に起因関連するとみられる噴砂痕が確認され、こうした要因が住居跡焼失に繋がった可能性も考慮されよう。この他南壁面で土師器杯(1)、北壁下床面で磁石(3)、西辺壁面に鉄錆(2)が検出した。

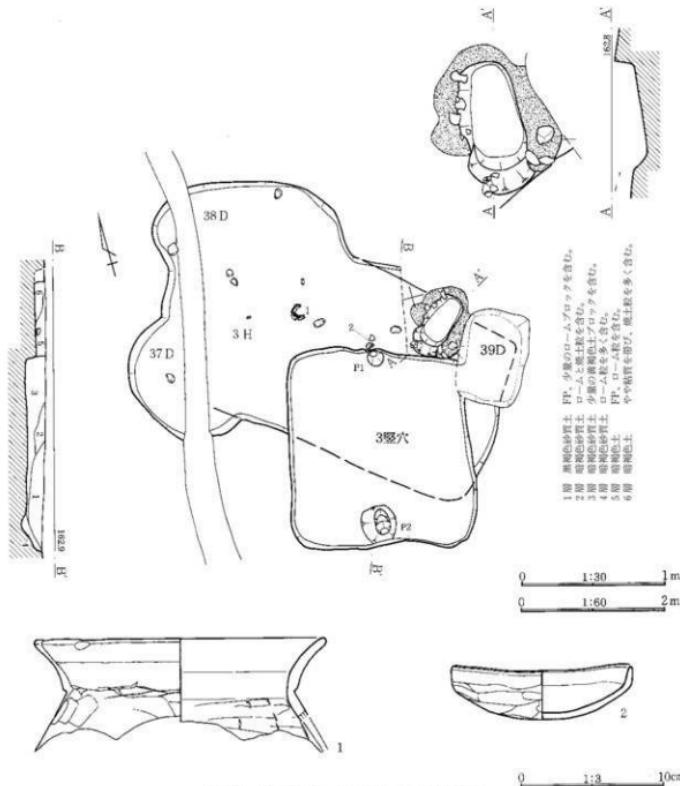


第18図 2号住居跡・出土遺物

## 3号住居跡（第19図 PL 3・61）

I区調査区東半2L-31・32グリッドに位置し、37・38号土坑、3号竪穴遺構（中世）と重複する。また北東隅で39号土坑に、西端部で11号溝に切られる。37・38号土坑との新旧関係は不明である。住居跡東側で標高162.80mを計る。形状は楕丸長方形状とみられる。残存部から判断して南北2.5m、東西は現3.2m、確認面からの深さ15cmを計る。壁面は北・東辺で直線的である。床面は粘質で硬く締まる。柱穴・周溝・貯藏穴等は未検出である。主軸方位はN-38-Wを示す。

竈は東壁南寄りに付設、焚き口部は半円状に浅く窪み、燃焼部が長円状に壁外へ張り出す。奥壁部は若干傾斜して立ち上がる。外周部～袖部にかけて、リング状に黄褐色粘質土を貼り込み構築している。粘質土は燃焼



第19図 3号住居跡・出土遺物・3号竪穴遺構

## 第2節 古墳～平安時代・中・近世の遺構と遺物

部上縁部より幅10～20cmの範囲にある。右袖部には径13～15cm大の安山岩円礫3個が出土、補強材としたのであろう。竈全長-85cm、焚き口幅38cm、燃焼部上幅43cm、深さ15cm、主軸方位N-59°-Eである。

遺物は住居跡中央西寄り床面に、くの字状口縁の土師器甕(1)、土師器杯(2)が出土。他に竈壁上面、焚き口側覆土中に土師器片等の土器片が確認された。

### 37・38・39号土坑（第19図 PL 3）

37号土坑は東半部を3号住居跡、37号土坑と重複、上面の一部を11号溝跡に切られる。3号住居跡、38号土坑との新旧関係は不明である。形状・規模は37号-梢円形、南北最大2.4m、深さ12.5cm。38号-不整梢円形、東西最大2.5m、深さ最大15cmである。出土遺物は床面を中心に礫、土器片等出土。

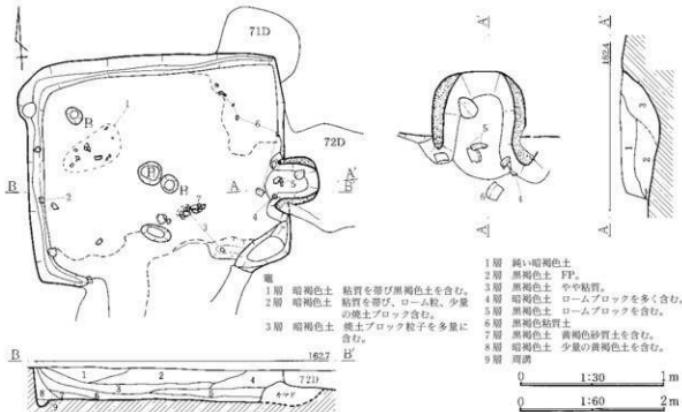
39号土坑は隅丸長方形の形状、規模は1.3×0.9m、深さ30cm。主軸はN-27°-Eを示す。新旧は調査段階で3号竪穴遺構より新しいと判断した。遺物は検出されなかった。

### 3号竪穴遺構（第19図 PL 3）

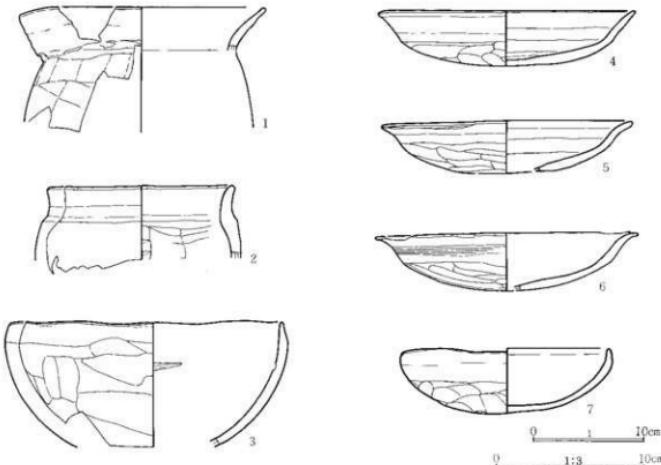
AJ・AL-31・32グリッドに位置。39号土坑との重複関係は前述。形状は隅丸方形、南・北辺壁面下にピット状の落ち込み2本を付設する。東・西辺2.8m、南・北辺2.6m、深さ25～28cm。P 1-23×22cm、深さ35.4cm、P 2-35×22cm、深さ48.2cmである。床面は壁際がやや低く、中央部がわずかに高い。遺物は覆土上面で土器片1点が出土、直接本跡に伴う遺物ではなかった。

### 4号住居跡（第20・21図 PL 3）

AH・AI-29・30グリッドに跨って位置する。東辺側は71～73号土坑と、南辺側で75・76号土坑にそれぞれ切られている。標高は162.60mに位置、周辺一帯は土坑群が密集して分布する。形状は隅丸方形を呈し、東辺



第20図 4号住居跡



第21図 4号住居跡出土遺物

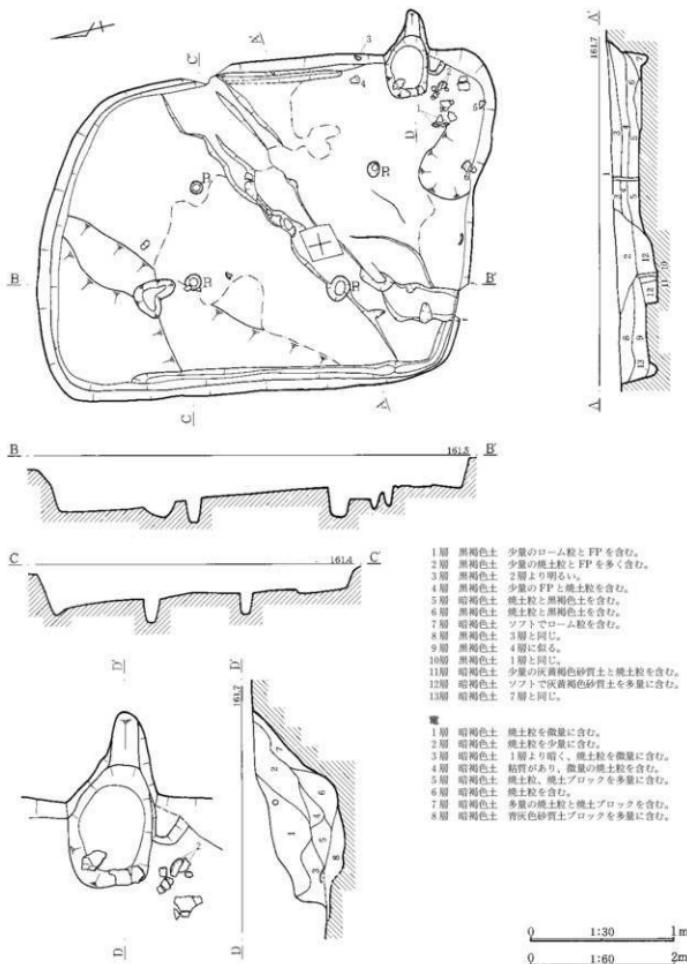
部を除く三壁下に周溝巡り、北西コーナー寄りおよび中央部付近にピット3本、南壁下にピット状落ち込み1本、南東コーナー部に貯蔵穴が出土した。規模は東西長3.5m、南北長3.1m、深さ0.9m、周溝幅20~28cm大、深さ10cm、貯蔵穴深さ20cmである。主軸はN-59°-E。ピットの深さはP1-15.4cm、P2-17.5cm、P3-27.4cmで、P3は柱穴になろう。床面は南壁下・北東隅部分が堅緻面を形成する。

竈は東壁下に付設、燃焼部上端縁に粘土質構築土がリング状に残る。竈全長85cm、燃焼部幅32cm、主軸方位はN-86°-Wを計る。燃焼部内に支脚材の長円蹠、土師器杯(4・5)が出土。この他遺物は床面・竈付近で土師器杯(3・6・7)等が出土。

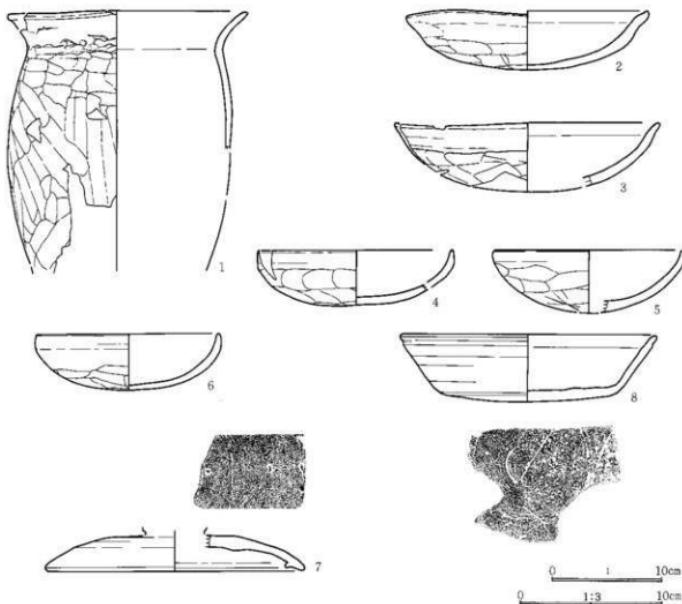
## 5号住居跡（第22・23図 P L11・61）

II区調査区北西U・V-27・28グリッドに跨って出土。周辺はI区東半から続くとみられる土坑群が本跡北側に密集する。加えて地割れ跡も同様に北～南方向へ継続、本跡もその影響を受け、住居跡中央斜方向に走行する。標高161.40mに位置する。形状はやや菱形に近い隅丸方形をなし、規模は東西長5.6m、南北長4.3m、深さ35~40cm大、壁面はほぼ直線的である。主軸方位はN-10°-E、東壁、南～西壁下の一部に周溝が巡る。上幅最大18cm、深さ6.5~10cm前後である。床面は南壁下～中央部にかけて堅緻面が拡がり、主柱穴とみられるピット4本、南東コーナー部に極浅い落ち込みを検出した。ピットの深さはP1-41cm、P2-34.2cm、P3-29.4cm、P4-33.8cmを計る。

竈は東壁下に付設、燃焼部奥壁から煙道部への傾斜はかなり急で、傾斜角約43°を示し壁外へ張り出す。主軸N-70°-W。右袖側はかろうじて残存。竈全長-1.2m、燃焼部幅0.6m、深さ15cmである。遺物は竈手前を中心とし土師器壺(1・2)、杯(2・4~6)、壁面に土師器杯(3)等が出土した。



第22図 5号住居跡

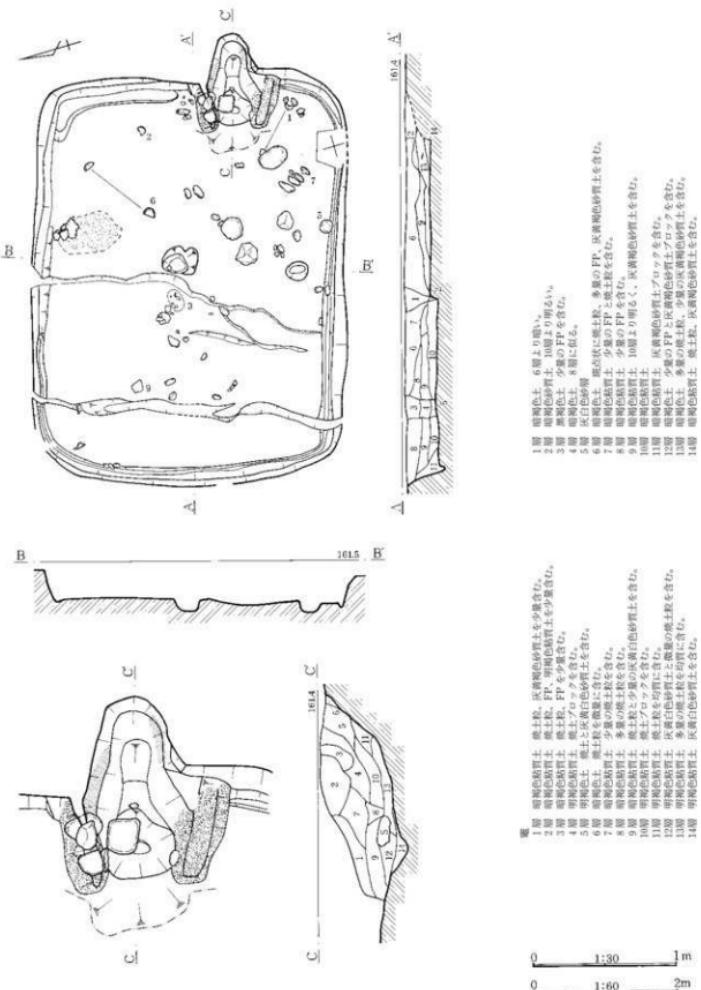


第23図 5号住居跡出土遺物

## 6号住居跡（第24・25図 P L11・12・61）

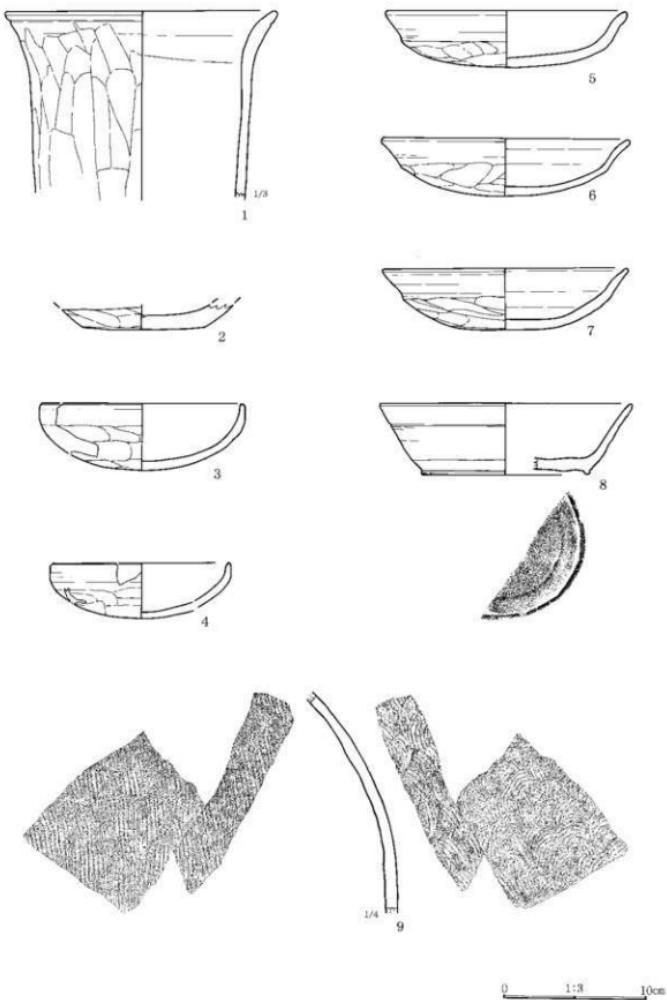
5号住居跡の西約10m、V-25・26グリッドに検出。ここでも地割れ現象が床面で確認された。形状は胴丸長方形を呈し、各辺共に遺存良好で、北側の一部を除き壁下に周溝が巡る。規模は東西長5.9m、南北長4.3m、壁高30cmで、立ち上がりはほぼ直線的である。主軸方位はN-72°-Wにとる。周溝は上幅10~26cm大、床面からの深さ7~9.5cmである。床面は東半部ではほぼ平坦であるが、西半部は地割れの影響とみられる段差が生じ、一段低くなる。土層では住居跡覆土第1層土が地割れ内の覆土を形成し、住居跡が埋まりきった後に地割れ現象が起つたことがわかる。ビットは中央・南壁寄りに小ビット2本を確認、深さはP 1-14cm、P 2-15.4cmである。

竈は東壁南寄りに付設される。袖は暗褐色粘質土で構築、焚き口側は浅く窪み、燃焼部中央は幅10cmでビット状に落ち込む。支脚痕が。燃焼部奥壁から緩やかに傾斜して壁外に張り出す。左袖部上面～燃焼部側にかけて、構築材とみられる安山岩質円礫（径15~22cm）が数点確認された。覆土中には焼土の堆積が暑く、使用頻度が高いことがわかる。竈全長-1.6m、焚き口幅65cm、燃焼部40cm、煙道部幅45cm、煙道部長75cm、袖長70~75cm、同幅2630cm大、主軸はN-78°-Wを計る。遺物は竈手前に大小の礫が散在、竈付近床面に土師器甕(1)、床より若干上で土師器杯(5・6・7)、西寄りに須恵器甕片(9)が出土。



第24図 6号住居跡

第IV章 東前沖遺跡（I・II区）

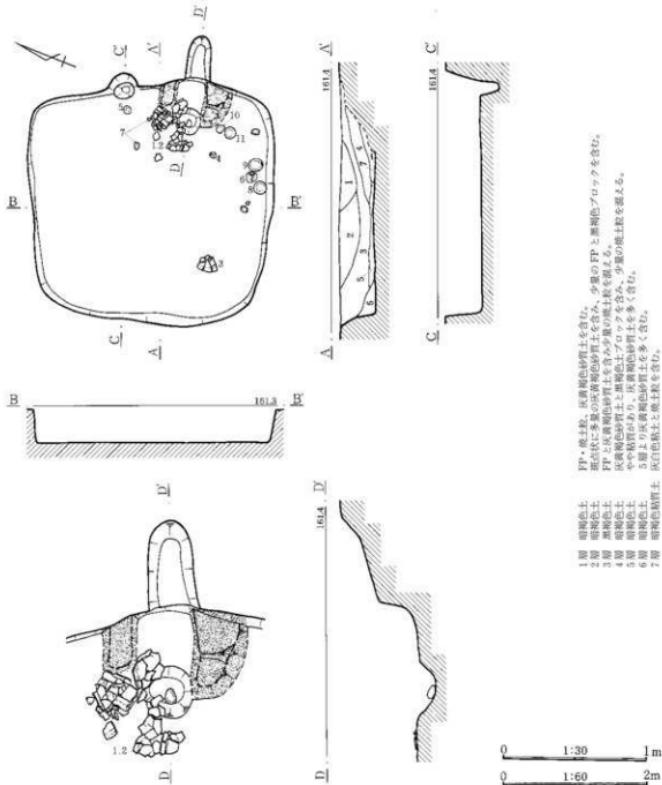


第25図 6号住居跡出土遺物

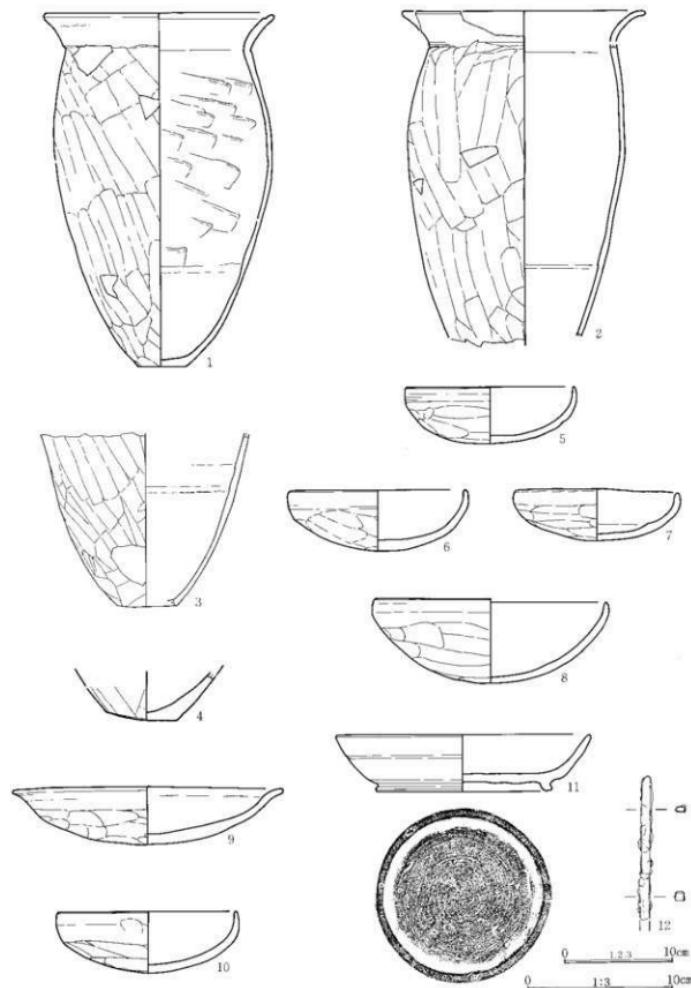
## 7号住居跡（第26・27図 P.L.12・61・62）

6号住居跡の西6m付近、V・W-23グリッドに位置する。標高は161.30m付近で、5～7号住居跡がほぼ同ライン上に並ぶ。本跡の形状はやや小型の隅丸方形で、規模は東西長3.35m、南北長3.4m、壁高は西壁部で最大50cmで、ほぼ直線的な立ち上がりを示す。主軸方位はN-65°-Eを計る。周溝・柱穴は検出されず、東壁東寄りの壁面にピット状の落ち込み1本が確認された。確認面よりの深さは73.4cmである。1つのみの出土であり、機能に関しては不明である。床面はほぼ平坦で凹凸はない。覆土はFP・灰褐色砂質土を含む黒褐色土主体である。

竈は東壁南寄りに付設される。袖部は左右共に良好で、灰白色粘土で構築、U字状に張り出す。左袖部へ焚



第26図 7号住居跡

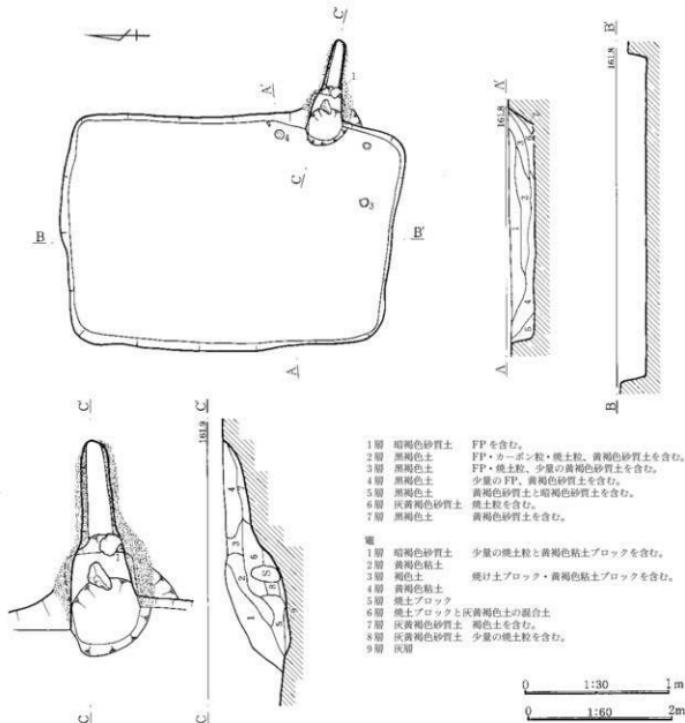


第27図 7号住居跡出土遺物

## 第2節 古墳～平安時代・中・近世の遺構と遺物

き口側にかけて、土師器長胴甕2個体(1・2)が横倒しの状態で出土した。焚き口部は楕円形をなして深さ10cm程度窪み、灰・焼土の堆積が確認されたが、燃焼部では被熱痕が概して弱い。燃焼部奥で段を形成、緩傾斜して立ち上がる煙道部へと続く。甕全長1.35m、横幅1.0m、燃焼部幅40cm、焚き口幅35cm。袖幅最大36cm大、煙道長58cm、主軸方位N-76°-Eを示す。遺物は前述した遺物の他に、南西コーナー寄り床面に土師器長胴甕(3)、同じく甕焚き口手前で長胴甕底部(4)、甕付近の南東コーナー寄り土師器杯類(6・8・9)須恵器高台付鉢(11)等が床面に貼り付いた状態で検出された。これらの中でも土師器長胴甕にみえる胴部の膨らみ、土師器杯の中で、口縁部に接をもつ器種に対して、体部内湾するタイプのものが数量的に多くなる等の特徴がみられ、後出的な形態種が多くなる。

8号住居跡 (第28・29図 P L12・62)

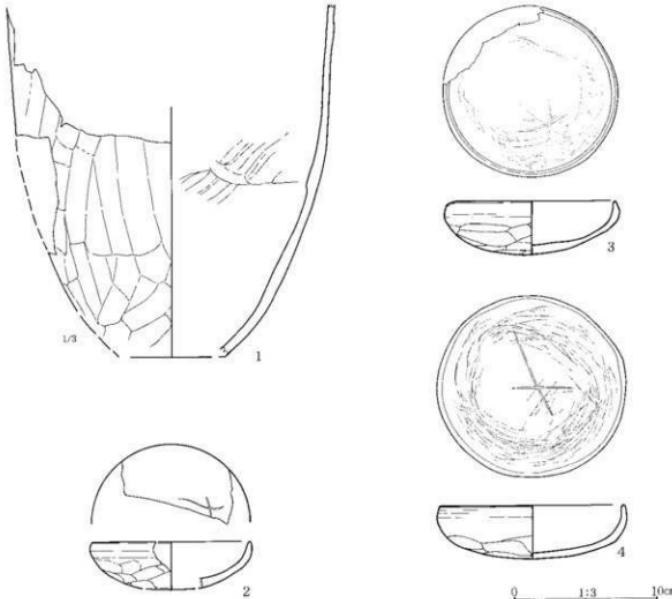


第28図 8号住居跡

第IV章 東前沖遺跡（I・II区）

AB・AC-17・18グリッドに位置し、標高は、161.70m付近である。東・南側に5号および13号溝跡が隣接するが、後者はいずれも中世以降に該期するとみられる新しい溝跡である。住居跡の形状は隅丸長方形状を呈し、柱穴・周溝・貯藏穴等の施設は検出されなかった。主軸方位はN-1°-Wを示す。規模は東西3.3m、南北長4.8m、壁高30~35cmを計る。床面は黄褐色土を呈し硬く締まる。覆土は暗褐色土~黒褐色土主体で、分層中のほとんどにFPが混入する。

竈は東壁南寄りに付設される。焼き口~燃焼部にかけて梢円形形状に窪み、奥壁部で段を形成、煙道部へ向かって緩く立ちあがる。平面形状は燃焼部先端でやや窄まり長円形をなす。袖部らしき張り出しは確認出来なかつた。燃焼部~煙道部の壁面~上縁部にかけて黄褐色粘土構築土が検出された。また燃焼部中央には、支脚とみられる長径20cm大の安山岩礫が据置された状態で、また土師器塵片(1)が燃焼部奥壁寄りにそれぞれ検出された。覆土には天井部崩落土が確認された他、焼土・灰層が5~10cmと厚く堆積する。規模は竈全長1.47m、燃焼部上幅58cm、深さ8cm、煙道部幅20cm、深さ15cm、燃焼部~煙道部への傾斜角は59°、主軸はN-82°-Wを計測。遺物は全体量が少なく、竈手前床面で土師器杯(4)、床面やや上で同(3)他、覆土内で土師器杯(2)が出土した。この中で(3・4)は内面に漆状付着痕が認められ、この後周辺の住居跡群から土師器壺、あるいは須恵器蓋形態等に同様の痕跡が確認され、集落の基盤の有り様に関連する可能性として注目される。

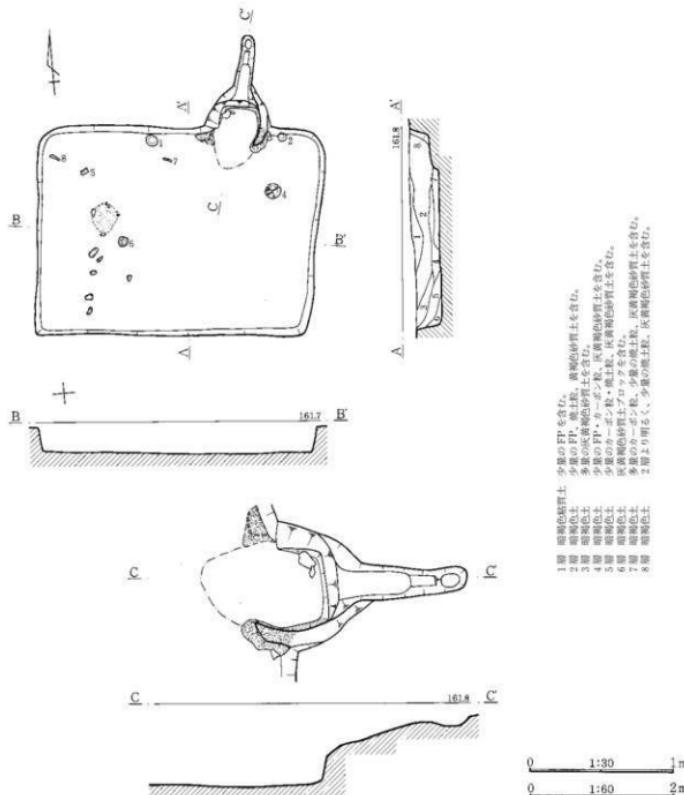


第29図 8号住居跡出土遺物

## 9号住居跡（第30・31図 P.L.13・62・68）

A・D-14グリッドに検出。北西約5mに10号住居跡、南西15mに8号住居跡が近接する。標高は161.65m付近に位置する。形状は隅丸方形状を呈し、規模は東西長4.0m、南北長2.9m、壁高25～35cmを計る。主軸はN-84°-Wを示す。床面は西側が若干浅く東側へ向かって低くなる。西側床面に焼土・炭化物・炭化材分布が確認されたが、柱穴・周溝・貯蔵穴等は検出されなかった。住居跡覆土は暗褐色土主体で、FPの混入度は8号住居跡とほぼ同様である。

竈はこれまで検出された1号住居跡と同じ北壁に付設される。袖部は灰黄褐色粘土で構築され、右袖側の遺

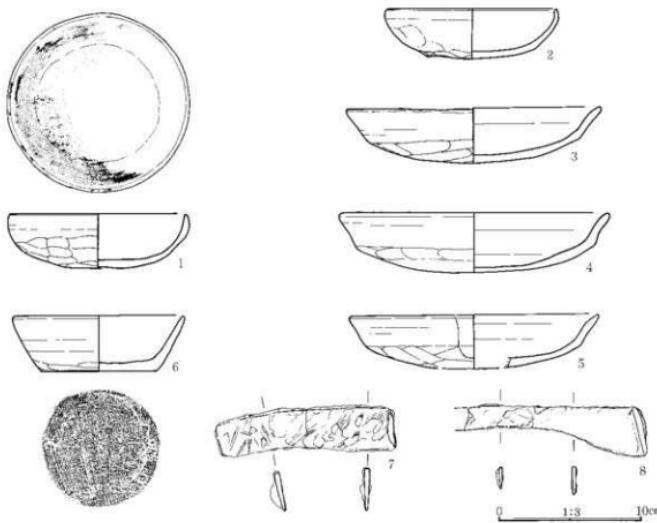


第30図 9号住居跡

#### 第IV章 東前沖遺跡（I・II区）

存が良好である。燃焼部奥壁はやや方形に近い平面形をなし、断面直線的に立ち上がり、緩傾斜で煙道部へ移行する。先端には煙出し様の小ピットが出土。焚き口側は落ち込みが未検出で、円形状に硬化面が確認された。竈全長1.83m、燃焼部幅57cm、煙道部幅23cm、主軸N-12°-Eである。

遺物は竈付近床面で土師器杯(1・2・4)、鉄製品鍵(7・8)が北壁下西寄りで、検出された他、炭化物分布付近床面で須恵器杯(6)、小形罐等が出土。この内(1)は内面に漆痕が顕著。



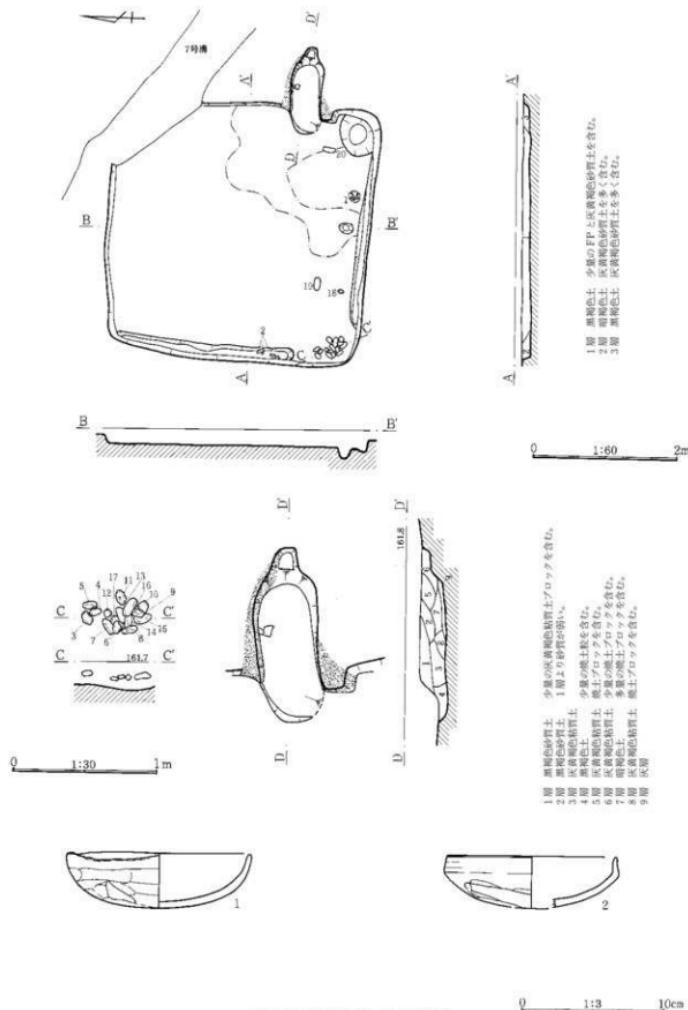
第31図 9号住居跡出土遺物

#### 10号住居跡（第32・33・34図 P L13・62・68）

AE・AF-12・13グリッドに出土。北東辺は一部7号溝跡に切られる。標高は161.70m付近に位置する。形状は隅丸方形で、南・西壁下の一部に周溝、南東コーナー部に梢円形の貯蔵穴（深さ15cm）をもち、南壁直下に小ピット（深さ15.6cm・径20×15cm）を確認。梯子穴であろうか。住居跡規模は東西長3.7m、南北長3.7m、壁高10~13cm、周溝幅15~23cm、深さ西壁下で8.4cmを確認した。主軸方位はN-5°-Eを示す。床面は北～南壁下に向かい若干低くなる。竈付近の南東コーナー部付近は不整形状の堅緻面が拡がる。

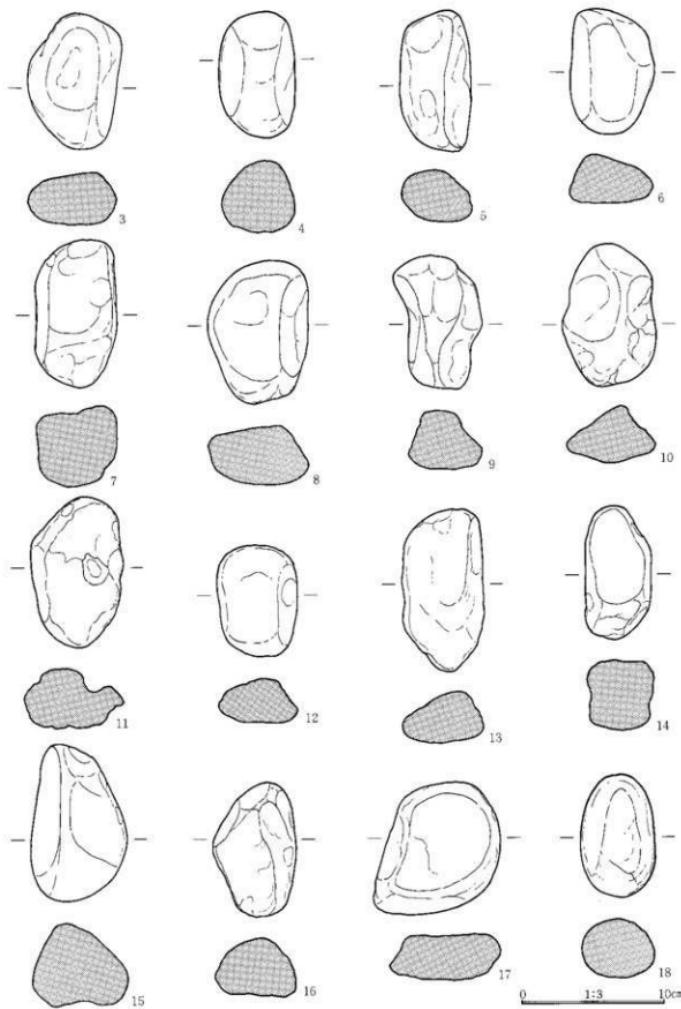
竈は灰褐色粘質土で構築され、燃焼部左壁面および右袖部にその痕跡を遺していた。左袖は検出するには至らなかったが、残存状況からみて当初は同じような張り出し部を形成していたものであろう。焚き口部～燃焼部にかけて長円形をなし、奥壁先端部で直線的に立ち上がり、段をつくり煙道部としている。煙道部の規模は奥行き15cm程度と小さく、本来の形態なのかは不明である。

遺物は南西コーナー部～南壁下や西寄りの床面に磨石状の安山岩質小形罐がまとまって出土。また貯蔵穴南側で土師器杯(1)、西壁面～床面にかけて同杯(2)が検出されている。

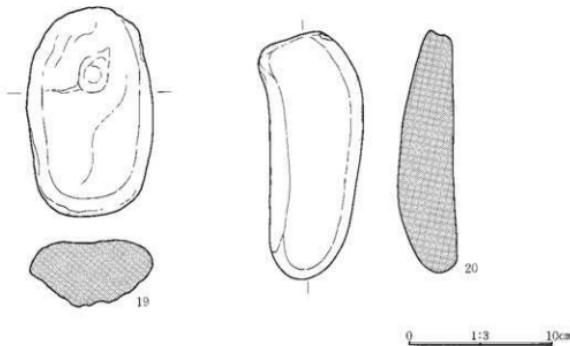


第32図 10号住居跡・出土遺物(1)

第IV章 東前沖遺跡（I・II区）

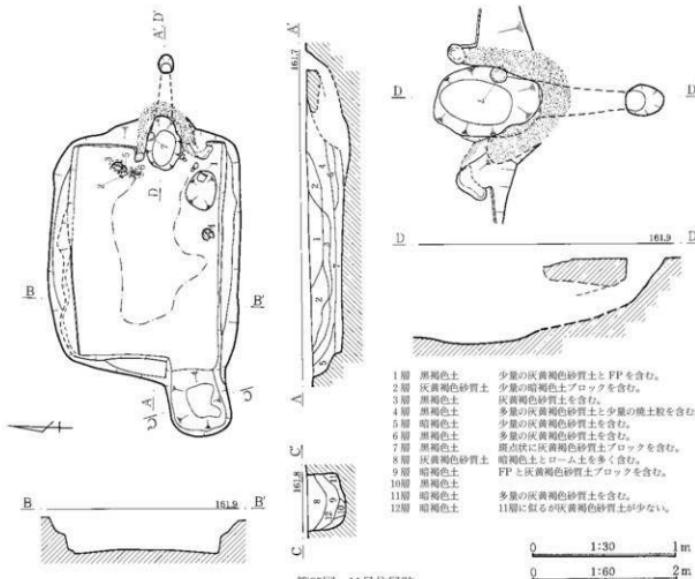


第33図 10号住居跡出土遺物(2)



第34図 10号住居跡出土遺物(3)

11号住居跡 (第35・36図 P L14・62)

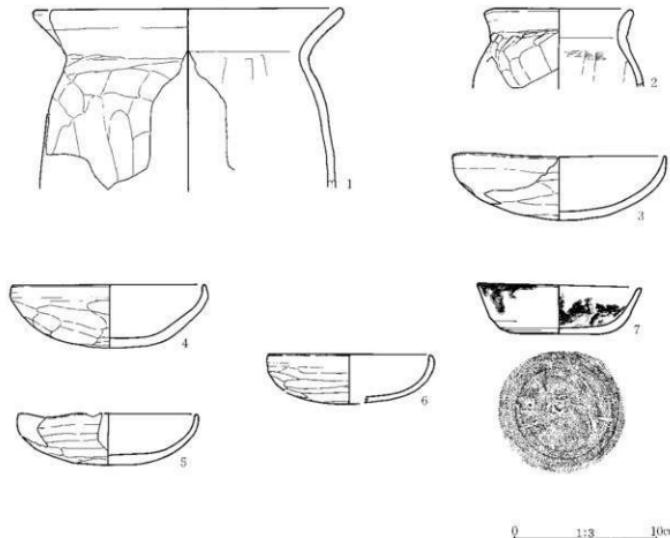


第35図 11号住居跡

#### 第IV章 東前沖遺跡（I・II区）

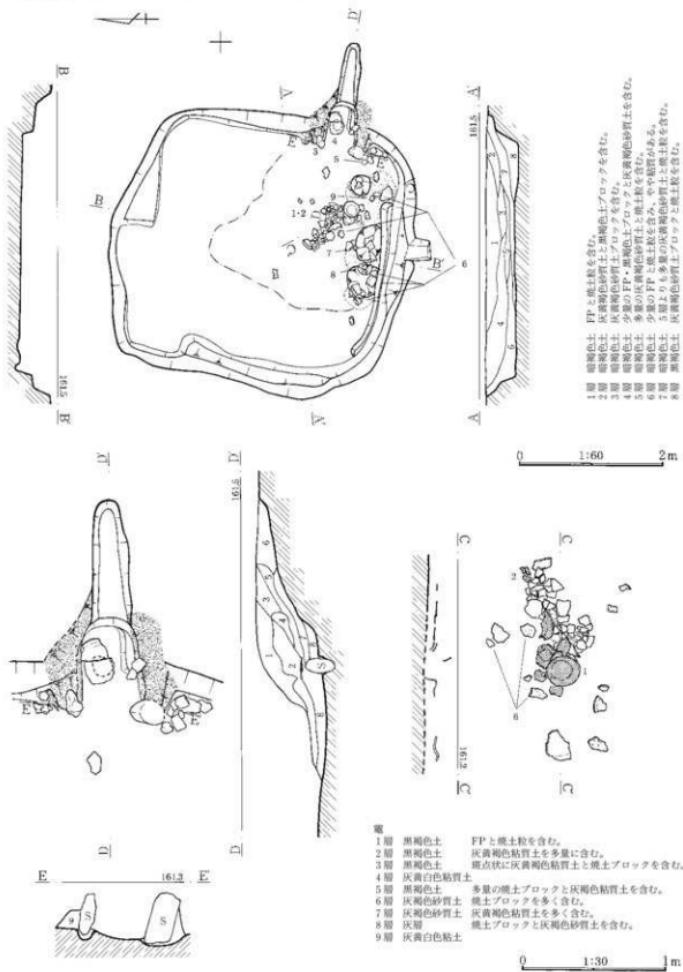
AF・AG-11・12グリッドに跨って位置、南東に隣接して10号住居跡がある。標高は161.80mである。形状は東西に長い隅丸方形をなし、南西コーナー部に方形状の張り出し状遺構を伴う。また南壁下全面にわたり棚状のテラス部を合わせもつ。北・西壁下においても、同様の特徴を捉えることができ、住居跡構築上に関連するのかあるいは、付随施設的な役割を担うのが明確ではない。南東コーナー部に貯蔵穴が検出された以外は柱穴・周溝は出土しなかった。規模は東西長3.5m、南北長2.7m、壁高40~46cm、テラス部幅15~22cm、(西壁側が幅広)張り出し幅95×80cm、深さ50cm、主軸方位N-90°-Eを示す。張り出し部は底面浅く落ち込み、住居跡覆土との大きな違いはない。床面は中央部分が不整形状に堅緻面が拡がりわずかに高くなり、周縁に向かって低くなる。

竈は東壁南寄りに付設される。構築土は灰黄褐色粘質土で造られ、左右両袖部先端には安山岩質の長円窓が据置される。左袖部は立った状態で、右袖部の窓は横転した状態で出土した。焚き口～燃焼部は橢円形を呈し、浅く窪む。燃焼部東壁より壁外にかけて天井部が残存、先端部で煙出し様の小ピットが確認された。竈全長-1.6m、袖部・焚き口幅1.0m、燃焼部幅50cm、煙道部長85cm、同高-18cm、小ピット径27×21cm、煙道部底面までの深さ30cm、主軸方位は住居跡方位と同じである。遺物は竈内及びその周辺に集中して検出された。竈壁面に付着した状態で須恵器杯(7)、焚き口左侧床面で土師器杯(3・5・6)、土師器小形壺(2)がまとめて出土。また貯蔵穴内には土師器甕片(1)、南壁下上面で杯(4)等がある。この内(7)は内面に漆痕が明顯に残る。パレット仕様であろうか。



第36図 11号住居跡出土遺物

12号住居跡 (第37・38・39図 P.L.14・15・62)

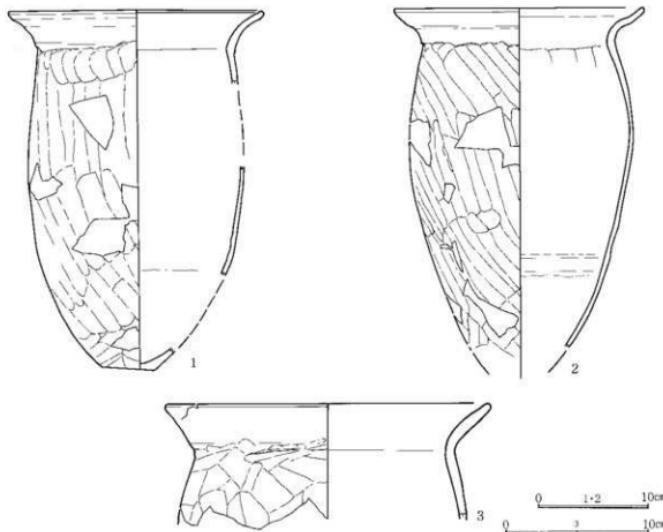


第37図 12号住居跡

#### 第IV章 東前沖遺跡（I・II区）

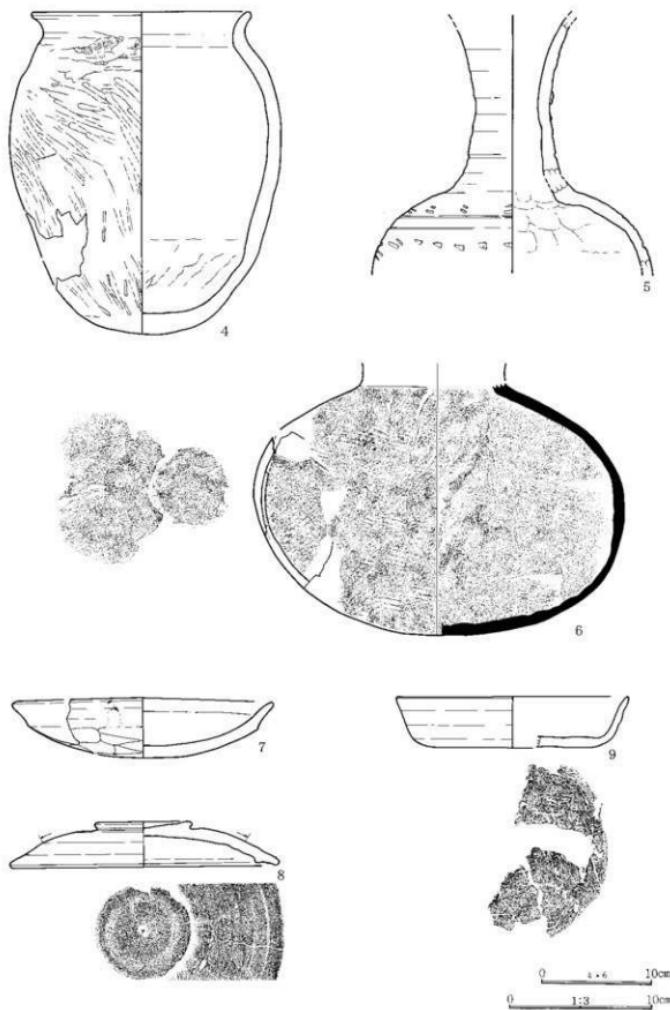
II区調査区、AA・AB-11・12グリッドに跨って位置する。周辺は土坑等の分布がなく、住居跡群が点在して占地する。標高は161.40mに位置する。形状はやや不整圓丸方形をなし、南壁下の一部に周溝、加えて南・西壁下及び北壁下野一部にテラス状平坦面を併設する。ただ北壁側はややだれた傾斜面を形成、テラスの範囲になるかは明確ではない。また南壁下に2本のピット状落ち込み、南東コーナー寄りに貯蔵穴とみられるピット1基を検出した。前者は2本いずれも浅く、堆積土は焼土・黄白色粘土で、上面に遺物が散乱する。また後者貯蔵穴付近にも焼土分布が広がり、遺物が集中して検出された。しかし住居跡に伴う柱穴は未確認である。住居跡の規模は東西長3.9m、南北長4.1m、深さ40~45cmを計測した。主軸方位はN-10°-Eを示す。床面は竈がある南東半寄りに、凡そ $2 \times 2.5$ mの不整形を呈し堅緻面を確認した。この範囲は周囲に比較して若干低くなる。

竈は東壁下に設置され、灰黃白色粘土で構築されている。左右両袖部先端には、長径30cmの大形角礫を据置し、燃焼部中央や片側寄りに、同様の礫を支脚材としている。燃焼部両壁上面には焼土分布が幅15cmの範囲に拡がり使用頻度の高さが窺える。規模は竈1.95m、幅0.9m、燃焼部長65cm、幅40cm、煙道部長80cm、25cm、主軸方位はN-80°-Wである。遺物は前述したように竈を中心として南壁下に集中する。南壁下北側床面で倒壊した状態で、土師器長頸壺(1・2)2個体が、竈袖部に接して土師器壺(3)・須恵器長頸壺(5)、竈内および貯蔵穴付近の2カ所に分散して土師器甕(4)が出土。さらには南壁下の落ち込み周辺床面で、須恵器横瓶(6)、床よりわずかに上へ土師器杯(7)、須恵器蓋(8)、同杯(9)が検出されている。



第38図 12号住居跡出土遺物(1)

第2節 古墳～平安時代・中・近世の遺構と遺物



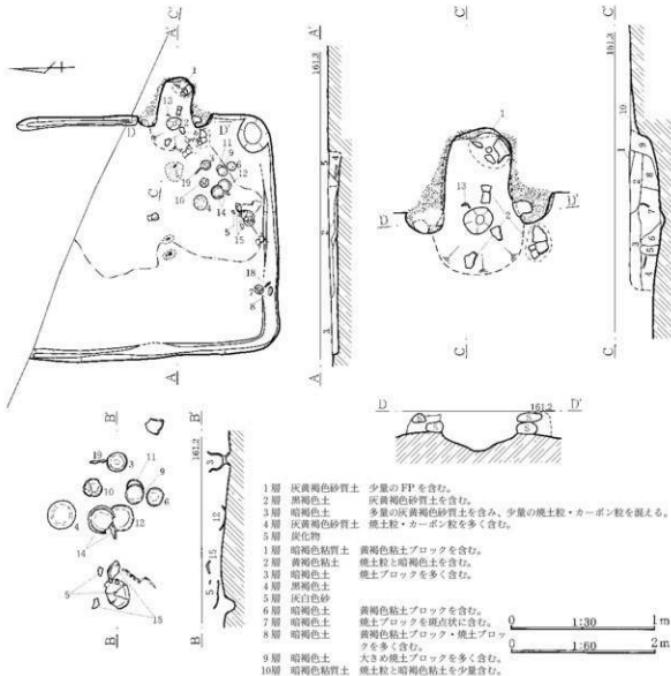
第39図 12号住居跡出土遺物(2)

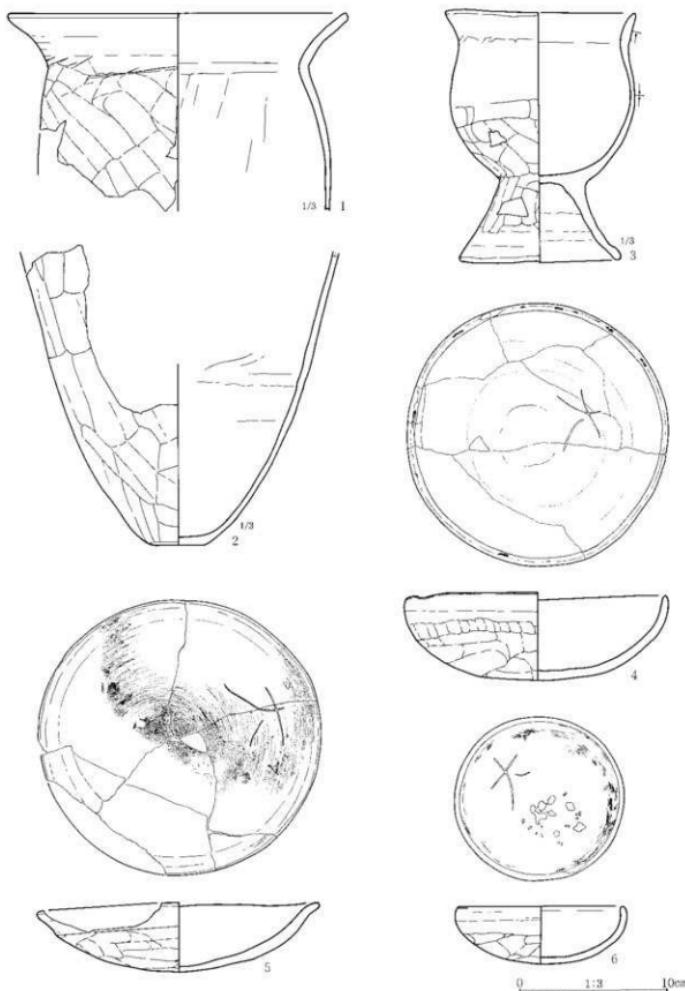
第IV章 東前沖遺跡 (I・II区)

13号住居跡 (第40・41・42・43図 P L15・63・68)

Z・AA-14・15グリッドに位置する。形状は隅丸方形状を呈し、北辺部は試掘トレンチで切られる。標高は161.30m付近。東・西・南壁野三壁下に周溝が巡り、南東コーナー部に貯蔵穴を検出した。柱穴は未検出である。規模は東西長3.4m、南北長3.6m、壁高10cm程度残存。周溝は上幅10~20cm、深さ2.5~4.0cm、貯蔵穴径50×45cm、深さ7cm弱である。主軸方位はほぼN-0°を示す。床面は黄褐色土で、竈前付近に不整形状の堅緻面があり、一部に炭化物分布が点在してみられた。

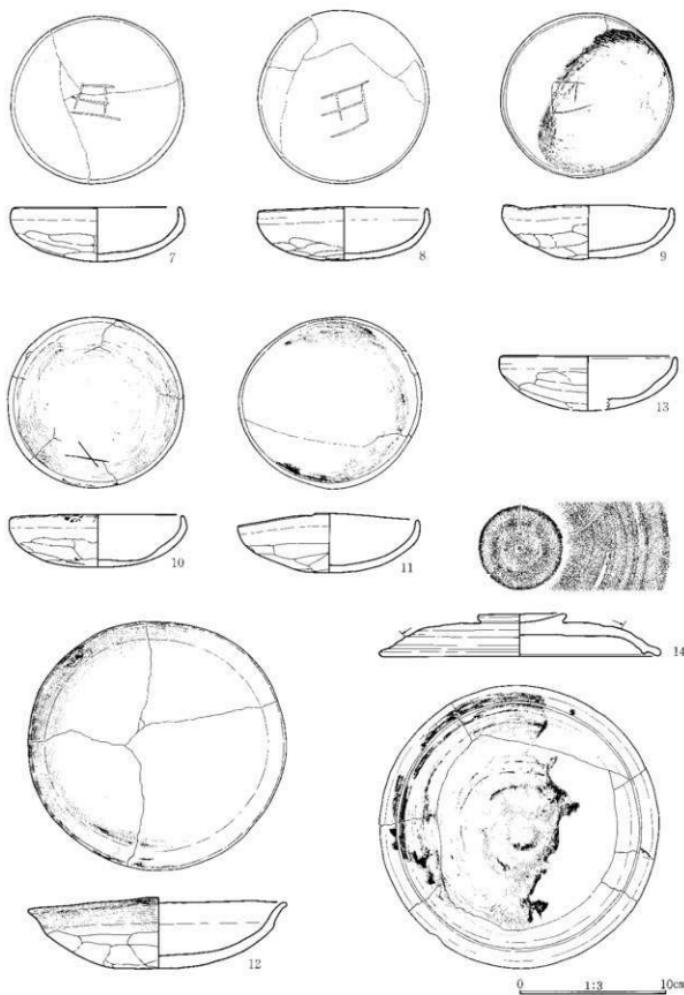
竈は東壁南寄りに付設される。黄褐色粘土で構築し、袖部・燃烧部外面にかけてその痕跡を遺す。また袖部端側には安山岩質円錐を積み上げ、粘土を貼り付け補強材としている。焚き口へ燃烧部にかけて浅く窪み、奥壁部で煙道部立ち上がりを確認。また中央部に支脚痕とみられるビット状落ち込みを検出した。竈全長1.0m、幅1.0m、燃烧部幅50cm、深さ25cm。支脚痕径20×20cm、主軸N-80°-Wを計る。遺物は竈内及び南東コーナー寄りに集中する。竈内に土器類(1・2)、小形甕(3)、が、床面に土器類(5~13)、須恵器蓋・高台付楕瓶(14・15)の他、南壁面に鉄製品鍛(18)、焚き口付近に棒状品(19)等があり、遺存状態が極めて良好であった。これら



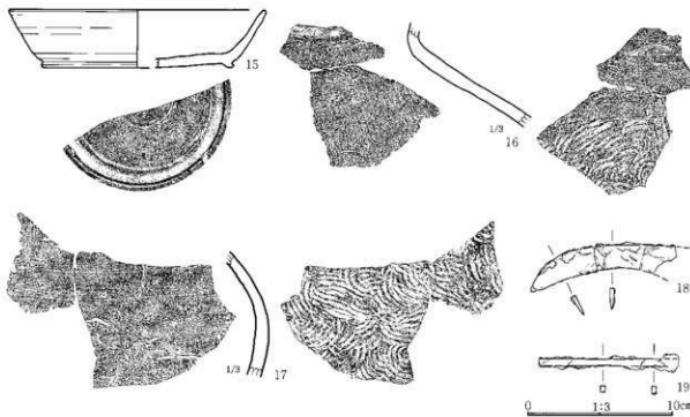


第41図 13号住居跡出土遺物(1)

第IV章 東前沖遺跡（I・II区）



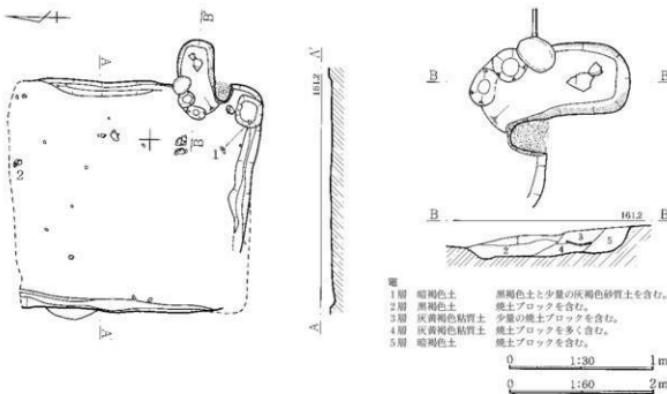
第42図 13号住居跡出土遺物(2)



第43図 13号住居跡出土遺物(3)

のうち土師器杯(5・6・9・10～12)、須恵器蓋(14)には内面に漆痕が確認され、所謂漆容器の機能が考えられる。ここまで見てきた中では、8・9・11号住居跡等で同様の遺物が確認されており、加えて土師器杯類の一部に線刻痕が確認される等注目される土器資料である。

14号住居跡 (第44・45図 P.L. 15・16・63)



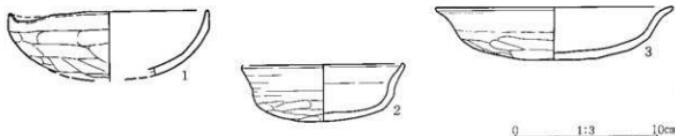
第44図 14号住居跡

#### 第IV章 東前沖遺跡（I・II区）

W・X-17・18グリッドに位置する。西側に隣接して1号掘立柱建物跡がある。標高は161.20m付近にある。北辺部は試掘トレンチにある。形状は残存部からみて、隅丸長方形を呈し、北辺を除く三壁下に周溝、また南東コーナー部に貯蔵穴の落ち込みが検出。柱穴は出土しなかった。規模は東西長3.3m、南北長3.5m、壁高5cm弱が残存。周溝は幅約20~25cm内外、深さ3cm弱、貯蔵穴径40×37cm、深さ12.7cmである。床面はほぼ平坦、南壁下部分が若干低く窪む。主軸方位はN-2°-Eを示す。

竈は東壁南寄りに付設される。袖部は灰黄褐色粘土で構築される。右袖部は検出されたが、左袖側は補強材に使用したとみられる大形円礫（径25cm大）が出土したに止まる。焚き口～燃焼部にかけて長円形を呈し、先端は緩い傾斜で立ち上がり壁外へ張り出す。燃焼部壠面は被熱による焼塗化が顕著である。また焚き口部には浅いビット状落ち込み2基が検出。袖部構築の際の躊躇感であろうか。竈全長1.1m、幅85cm、燃焼部幅85cm、深さ10cm弱、袖幅28cm、焚き口部ビット径（北側ビット-22×20cm・南側ビット-25×16cm）、主軸方位N-89°-Wを計る。

遺物は竈手前、北半部を中心に点在する。大小の礫、竈内に土師器杯（3）、床面に同土師器杯（1・2）が検出された。このうち（2）は内面底部に「×」の線刻が施文される。

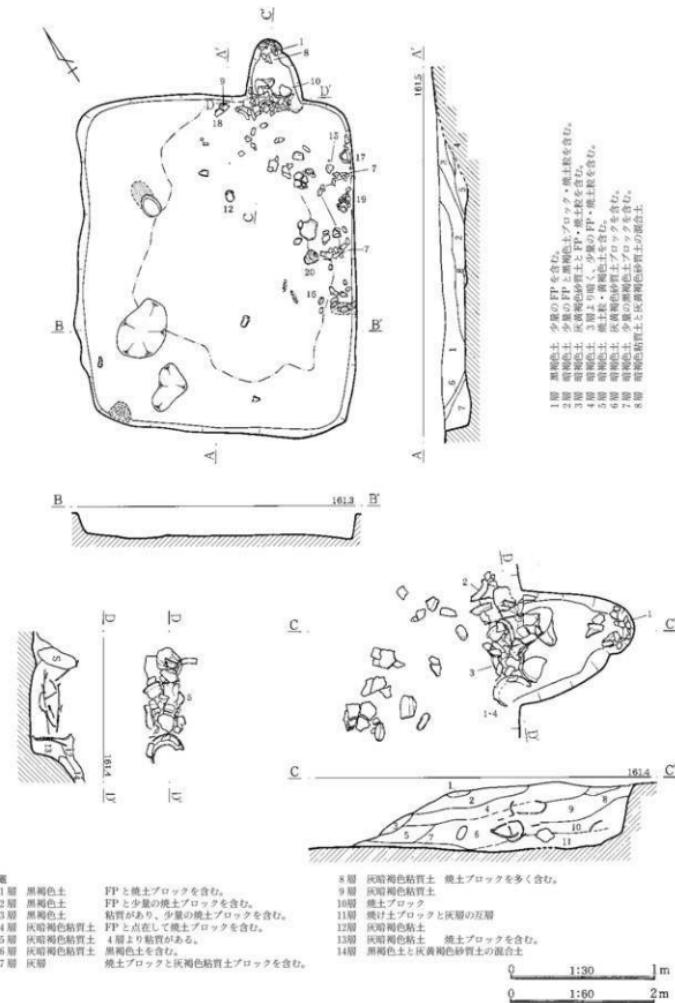


第45図 14号住居跡出土遺物

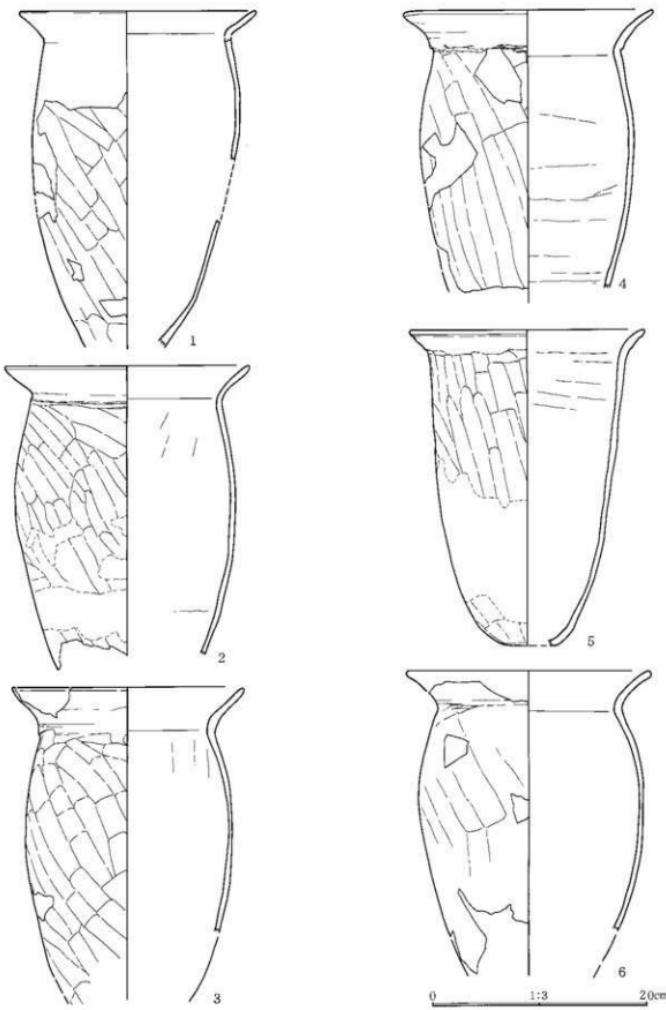
#### 15号住居跡（第46・47・48・49図 P L16・17・64）

X・Y-6・7グリッドに位置する。西側冲積地形に向かって台地西端部に占地する。標高は161.20mにある。形状は南北に長い隅丸長方形を呈し、南西コーナー寄りに極浅い落ち込み2基、北西コーナー中央寄りに、ビット状の落ち込み1本が検出された他は確認出来なかった。各辺共に遺存良好で、東西長3.9m、南北長4.7m、壁高は38cm程度、P1径30×23cm、深さ40cmである。主軸方位はN-33°-Eを示す。床面は灰褐色土砂質土主体で、ほぼ平坦だが、東壁際部分が若干低くなる。また中央部分～北東コーナー部にかけて堅敏面が抜かる。

竈は東壁南寄りに付設される。焚き口付近は極浅く窪み、燃焼部は梢円形に壁外へ張り出す。中央部には支脚材の長円礫がやや斜位をなし出土。規模は竈全長1:9m、幅0.8m、燃焼部幅45cm、主軸方位N-30°-Eを計る。調査当初、焚き口付近に多数の土器片（土師器長胴壠頭）が出土した。調査の結果、ここでは竈構築の際の、補助材の機能を果たしていたことが判明した。左袖部はこれまでみられたと同様、安山岩質の長円礫（径28cm大）を使用。これに対し右袖部は土師器壠（4）を立てた状態、（1）を伏せ逆位で入れ子にした状態で、さらに天井部には同様に、（5）→（3）→（6）の順に入れ子とした土師器壠が、口縁部を西袖側にむけて横位倒壠した状態で検出された。基本的な構築土は灰褐色粘土とみられ袖部礫下や、右袖側の壠上縁部付近の土層から確認される。この他の遺物は竈燃焼部奥壁寄りで土師器壠（8）、燃焼部で土師器杯（10・14）、竈焚き口付近で土師器台付壠（9）が出土した。さらに南壁下に遺物が集中して検出。なかで須恵器長頸壠（20）等は床面出土だが、その在り方に斜位をなすものが多く、住居跡破棄後投げ入れられた可能性も考えられる。

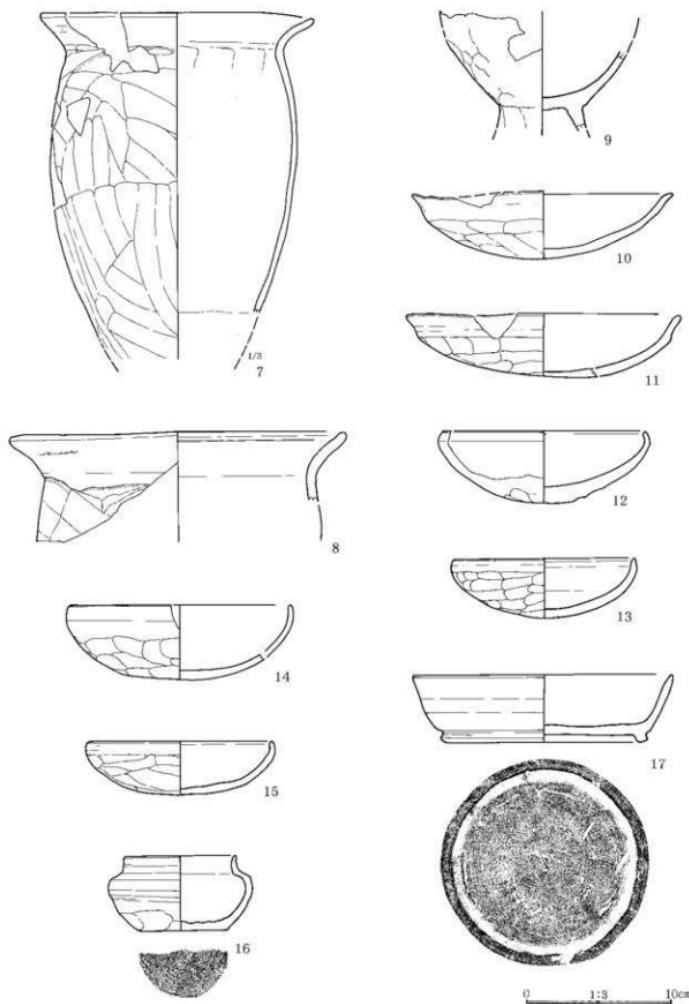


第46図 15号住跡



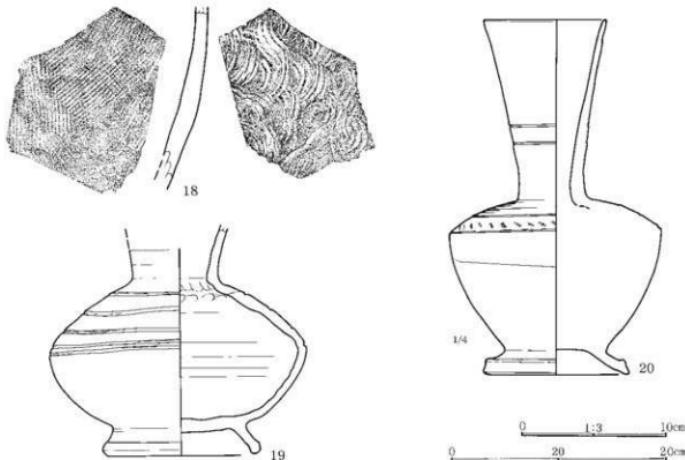
第47図 15号住居跡出土遺物(1)

第2節 古墳～平安時代・中・近世の遺構と遺物



第48図 15号住居跡出土遺物(2)

第IV章 東前沖遺跡（I・II区）

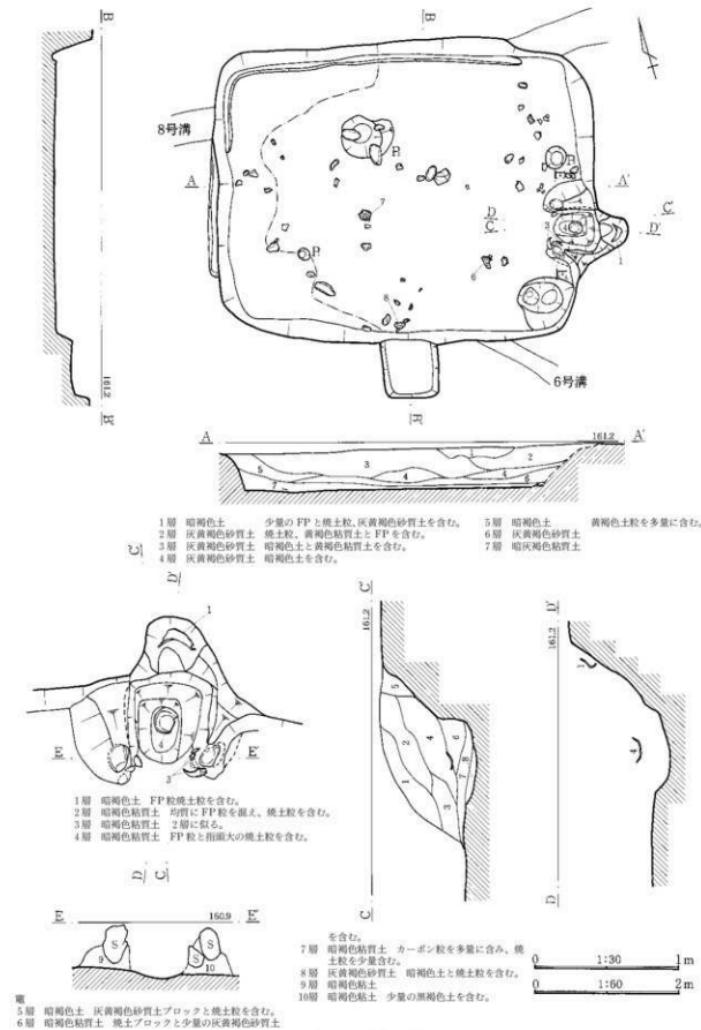


第49図 15号住居跡出土遺物(3)

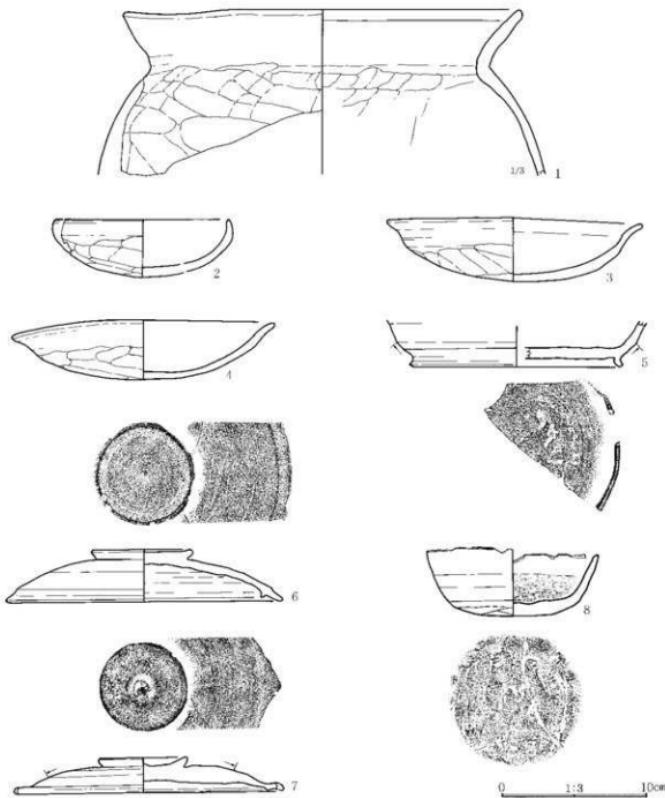
16号住居跡（第50・51図 P.L.17・64・65）

U・V-13・14グリッドに検出された。周辺には北東約20mに14号住居跡が位置する。標高161m付近である。上面を6・8号溝が走行する。形状は東西に長い隅丸長方形をなし、北・西壁下の一部に周溝が巡り、南東コーナー部に貯蔵穴、床面や南半寄りに柱穴3本が確認された。規模は東西長5.35m、南北長4.1m、壁高50~55cmである。周溝は幅10cm、深さ5cm弱、柱穴の深さはP1-16.8cm、P2-21.1cm、P3-20cmを計る。貯蔵穴は一旦浅く窪んだ後落ち込み、底部に小ピットをもつ。径75×70cm、深さ20~27.4cmである。住居跡主軸方位はN-72°-Wを示す。床面は西壁下の一部を除き堅緻面が拡がる。全体的にほぼ平坦で、灰褐色粘土質による貼床が想定される。

竈は東壁南寄りに付設される。袖部は下面に黄褐色粘土を配し、上面は暗褐色粘土で形成され、先端部には安山岩質の礫を据置し補強材としている。燃焼部はやや方形状を呈し、奥壁側は直線的に立ち上がり、短く壁外へ張り出す。中央部に土壌器杯(4)が底面より16cm上面で出土した。直下の土は覆土と同じであり、支脚とするには問題が残る。また煙道部先端で土壌器蓋(1)が口縁部を下にして出土。補強材としたものか。規模は竈全長1.1m、幅1.25m、燃焼部長60cm、深さ13cm、焚き口幅40cm、煙道部長40cm、同幅45cm、主軸はN-66°-Wを示す。その他の遺物は住居跡全体に散在して検出された。土壌器杯(3)が竈袖部に接し、床面より上面で、須恵器蓋(6)が焚き口部床面で出土。また須恵器蓋(7・8)が床面中央西で、同杯(8)が南壁下で共に床面より上で出土。この他床面中央～西半部に大小の礫、竈付近に土器片等が確認されている。この内(8)は内面に漆痕が確認された。容器に使用したものであろうか。



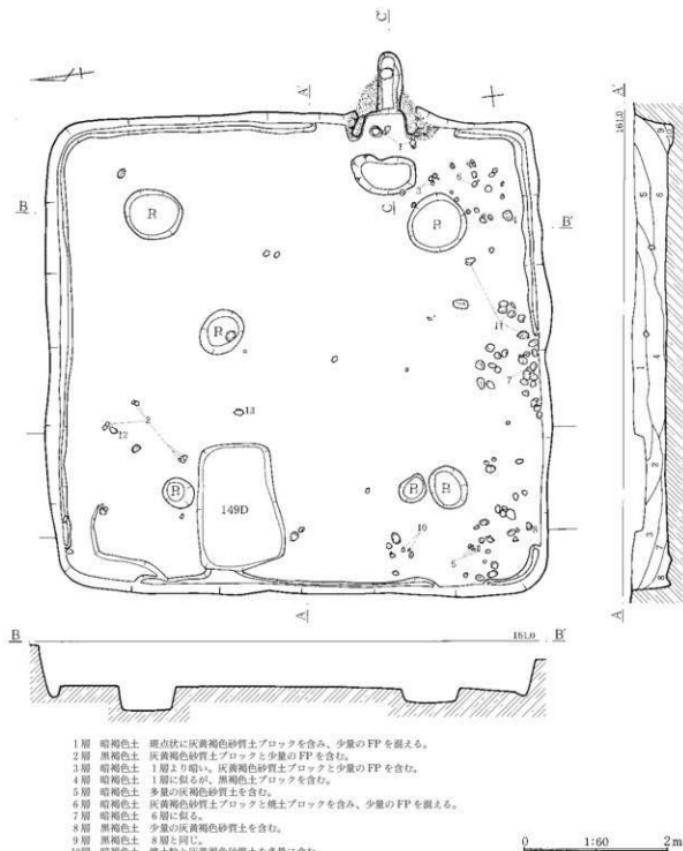
第50図 16号住居跡



第51図 16号住居跡出土物

17号住居跡（第52・53・54図 P L18・65）

II区調査区のほぼ中央R・S-14・15グリッドに跨って検出。本調査区住居跡群の中で、大形住居跡の一つに数えられる。標高は160.90m付近に占地する。形状は整った方形状を呈し、コーナー寄りの壁下に合計6本の柱穴が出土。この内P1・2・4・5は主柱穴である。南壁の一部を除き四壁下に周溝が巡り、西壁寄り上面で149号土坑と重複、土坑が新しい。貯蔵穴は検出されなかった。規模は東西長6.7m、南北長7.05m、壁高50~56cm大、主軸方位はN-7°-Eである。柱穴はP1・P5は平面径80cm大とやや大形であるのに対し、P2・4は45~60cmとやや小さい規模である。各ピットの深さは、P1-20cm、P2-25cm、P3-10cm、P4-



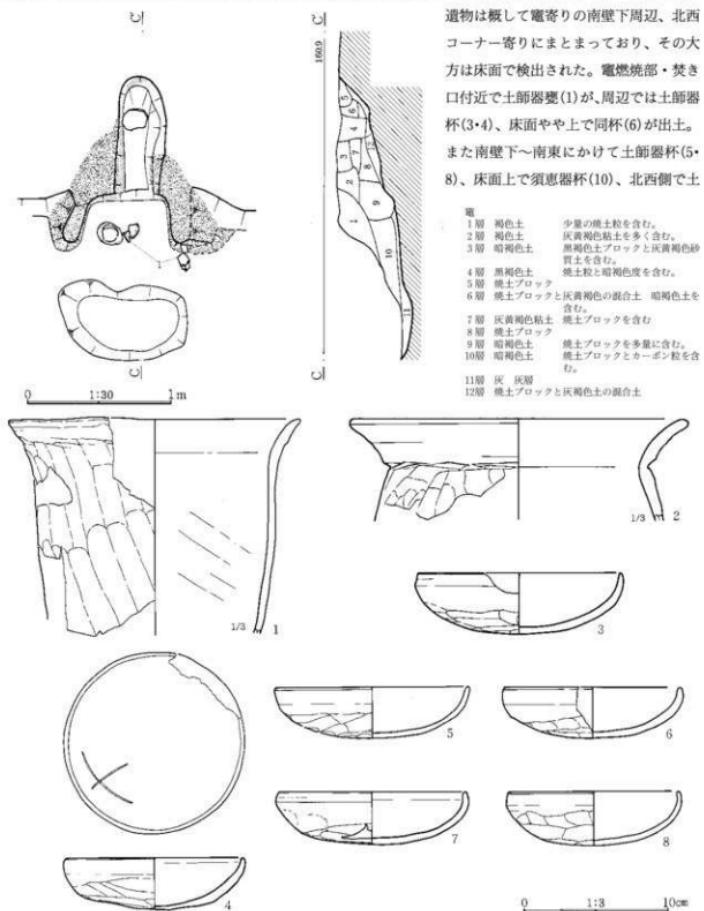
第32図 17号住居跡

24cm、P 5 - 33cm、P 6 - 21cmを計り、平均22cm大の数値にある。周溝はおおよそ幅12~15cm、深さは南北および東壁側で11~14cm大、西壁側で5cm大とやや浅い。床面は灰褐色粘質土で、硬く締まり、ほぼ平坦面をなす。

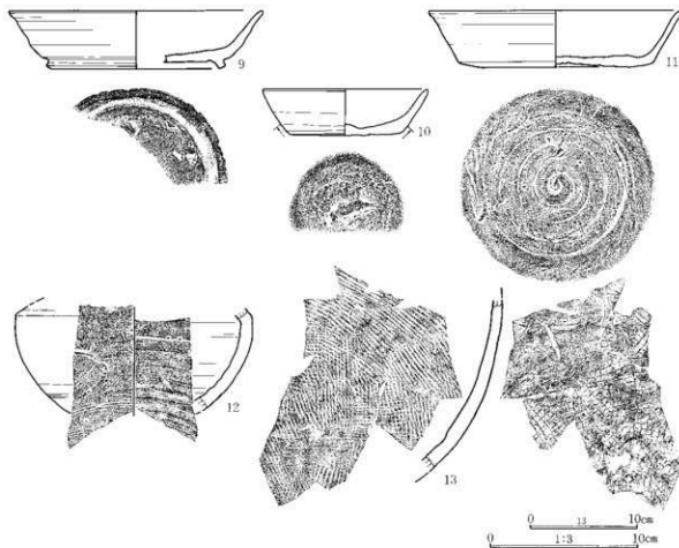
竈は東壁南寄りに出土。焼き口側には灰原とみられる楕円形状の落ち込みを確認。燃焼部奥壁はやや方形状

第IV章 東前沖遺跡（I・II区）

をなし、緩傾斜して煙道部側へ立ち上がる。煙道部先端、底部で土師器壺片が出土。竈構築土は灰黄褐色粘土で、左右両袖部～煙道部側に痕跡をよく残す。また煙道部～煙道部壁面は被熱による焼上分布が顕著である。規模は竈全長1.95m、幅1.15m、煙道部幅60cm、煙道長78cm、袖幅25～30cm、主軸方位はN-82°Wである。



第53図 17号住居跡・出土遺物(I)



第54図 17号住居跡出土遺物(2)

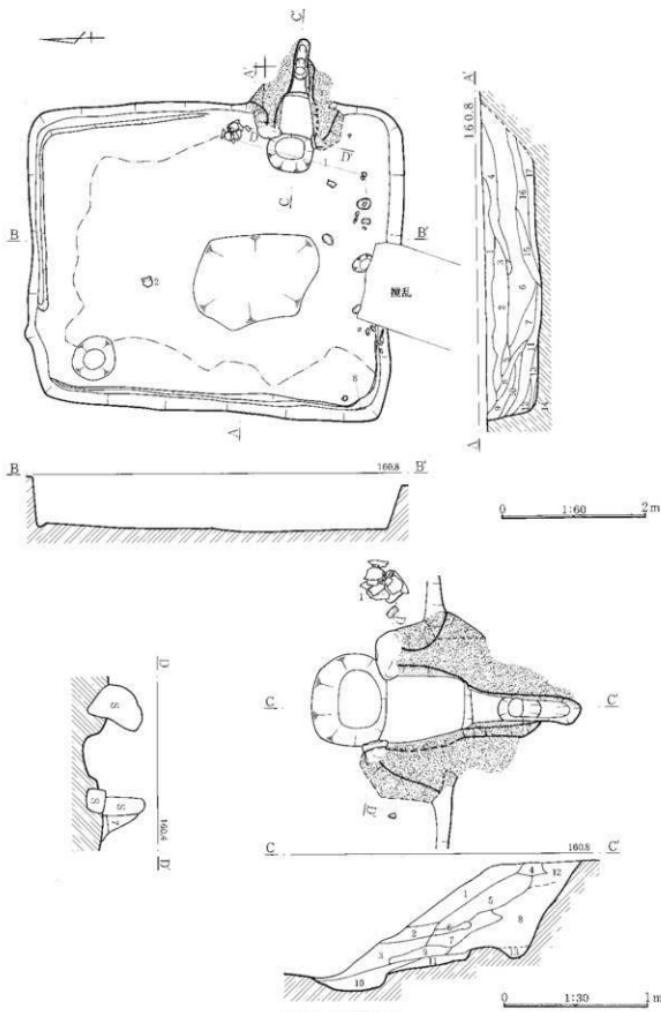
師器壺(2)、須恵器壺(12)・同壺(13)が床面上でそれぞれ検出された。この内須恵器脚付鉢(9)は覆土内の遺物であるが、北西60mに位置する5号住居跡出土の破片と接合した。これらのなかで土師器杯では、体部が浅くなる傾向が窺える。

## 18号住居跡 (第55・56図 P L18・65・68)

Q・R-9・10グリッドに位置し、東25mに17号住居跡がある。標高は160.60mである。形状は整った圓丸方形状で、壁下には部分的に途切れるものの周溝が巡る。柱穴は検出されなかったが、北西コーナー寄りに梢円形を呈し、深さ約12cm程度の深い落ち込みが出土した。また南壁下に深さ5cm大の小ビットが検出され、梯子穴等の機能が考えられる。規模は東西長4.4m、南北長5.3m、壁高70cm、周溝幅は比較的残りが明瞭な北・東壁下で、10~17cm、深さ5.8cm程度が残存する。主軸方位はN-6°-Eを示す。床面は壁下部分を除く中央部を中心に堅緻面面が拡がる一方、中央やや南西寄りに不整梢円形で、1.7×1.2mの深い皿状の窪みが確認された。この部分に遺物の分布が全くみられないことや、土層堆積からみて、住居跡との間に時間差があろうか。

竈は東壁南寄りに付設される。両袖部が焚き口側に明瞭に張り出し、燃焼部は方形状の平面形で、奥部～煙道部への立ち上がりは緩い。これに対し煙道部は立ち上がり際で、ビット状の落ち込みをなし、傾斜角約30°で直線的に立ち上がる。ビット状落ち込み内には焼土・灰混合土10cm程度が堆積していた。熱効率強化に関連する補強材の挿入痕?。竈構築は壁外部に堀り方をもうけ、灰褐色粘土で造成する方法とみられ、燃焼部～煙道

第IV章 東前沖遺跡（I・II区）

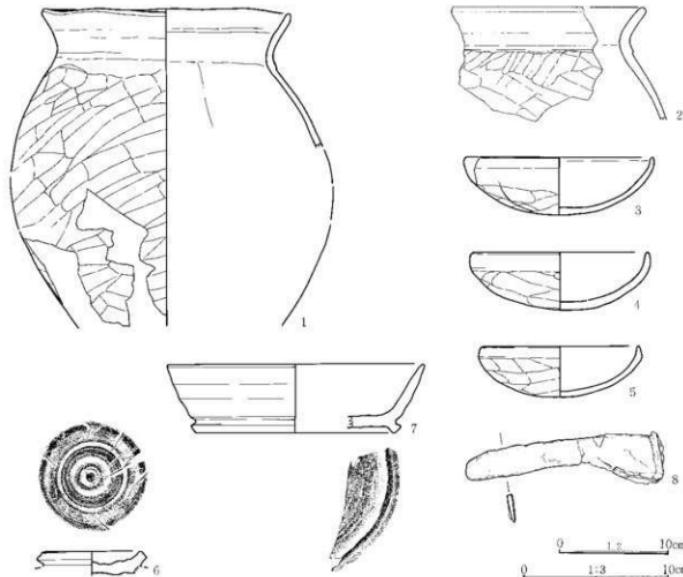


第55図 18号住居跡

## 第2節 古墳～平安時代・中・近世の遺構と遺物

1層 黒褐色土	少量のFPと灰黃褐色砂質土を含む。
2層 噴褐色土	斑点状に灰黃褐色砂質土を含む。
3層 噴褐色土	灰黃褐色土。
4層 噴褐色土	2層より少しき黄褐色砂質土ブロック少ない。
5層 噴褐色土	小粒の灰黃褐色砂質土ブロックを含む。
6層 噴褐色土	1層よりウツカミに灰黃褐色砂質土ブロックを含む。少部分噴褐色砂質土ブロックを含む。
7層 噴褐色土	やや粘質有り、斑点状に灰黃褐色砂質土ブロックを含む。
8層 灰黃褐色砂質土	少量の黒褐色土ブロックを含む。
9層 黒褐色土	小粒の灰黃褐色砂質土ブロックを含む。
10層 灰黃褐色砂質土	喷褐色土を含む。
11層 灰黃褐色砂質土	灰黃褐色砂質土。
12層 噴褐色土	灰褐色砂質土を含む。
13層 灰黃褐色砂質土	少量の焼土粒を含む。
14層 灰黃褐色砂質土と噴褐色土の混合土	灰褐色砂質土を含む。
15層 噴褐色砂質土	灰黃褐色砂質土を含む。
16層 噴褐色土	小粒の灰黃褐色砂質土ブロックと燒土粒・黒褐色土ブロックを含む。
17層 噴褐色砂質土	含む。

部に粘土範囲が良好に残り、左袖部と住居跡壁際に堀り方を確認。規模は竪全長1.85mm、幅1.25m、焚口側に幅65cmの楕円形窓みを設ける。煙道70cm、袖幅35~40cm、主軸方位N-83°-Wを計る。遺物は竪手前・中央付近床面に土師器甕(1・2)、南西コーナー壁面に鉄製品鎌(8)が出土した他、覆土内で土師器杯(3~5)、須恵器高台付鉢(7)等検出。



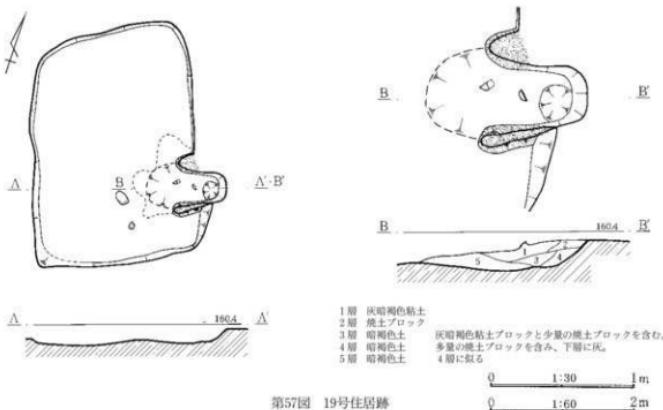
第56図 18号住居跡出土遺物

#### 第IV章 東前沖遺跡（I・II区）

##### 19号住居跡（第57図 PL18）

N・O-3・4グリッドに位置する。形状は北辺がやや歪な隅丸台形をなし、周溝・柱穴は未検出である。標高は160.20m。規模は東西長2.3m、南北長3.3m、壁高西・南壁側で6~8.6cm程度残。主軸方位N-21°-Wを示す。床面は南半中央付近がやや高く、周縁壁際に向かいわずかに低くなる。

竈は東壁南側で、灰暗褐色粘土で構築された袖部をもち、燃焼部奥側は逆U字状に壁外へ張り出す。焚き口～燃焼部にかけて浅く窪む。焚き口周辺には、不整形形状で、幅1.1×0.9mの範囲に焼土分布が確認されている。規模は竈全長1.1m、焚き口幅60cm、燃焼部幅40cmを計る。主軸はN-72°-Eを示す。遺物は焚き口手前に長径20cm大の砾、燃焼部上層で須恵器杯小片他、若干の土器片が出土。



第57図 19号住居跡

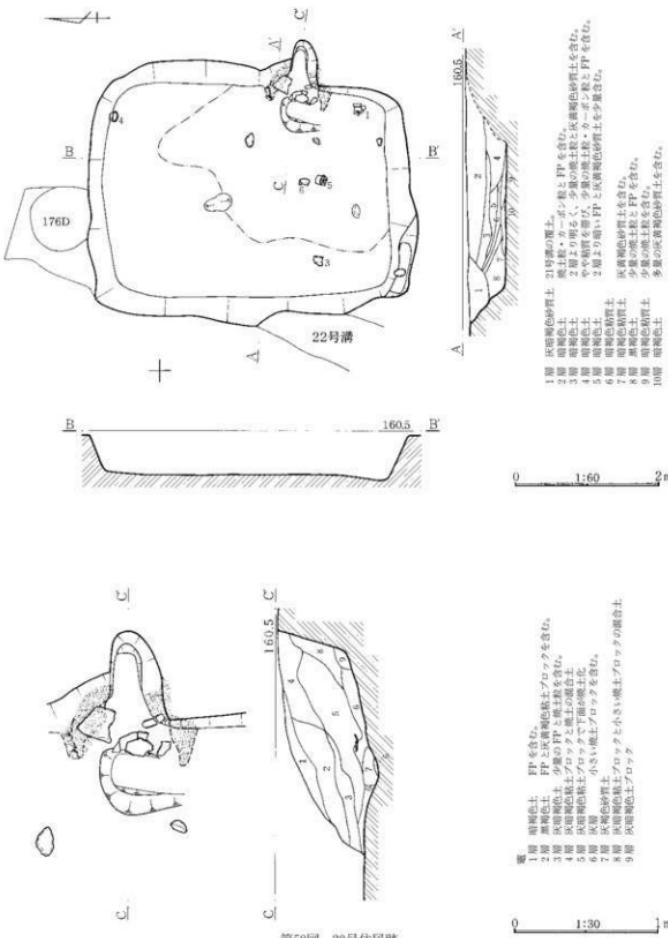
##### 20号住居跡（第58・59図 PL18・19・65）

19号住居跡の東約5m、O・P-5・6グリッドに位置する。住居跡北・西辺の一部は22号溝跡・176号土坑にそれぞれ切り取られている。標高は160.40m付近である。形状は隅丸長方形を呈し、床面中央部付近に極浅いピット状の落ち込み1基、南北壁面中に棚状？施設が確認されたに止まる。規模は東西長3.55m、南北長4.57m、壁高は北辺で50cm、南辺で60cm程度が残存、直線的な立ち上がりをなす。棚状部分は壁面下、長径70×15cmの幅で平坦面を形成、床面までの高さは23.5cmである。円砾（径15cm大）が接地した状態で出土。これについては規模的にも狭く、棚としてよいかはなお流動的である。主軸方位はN-3°-Eと、ほぼ真北にちかい。床面は平坦で硬く綿まる。中心より南東コーナーにかけて堅緻面が拡がる。ピット状窪みは深さわずか5cm弱を計測した。

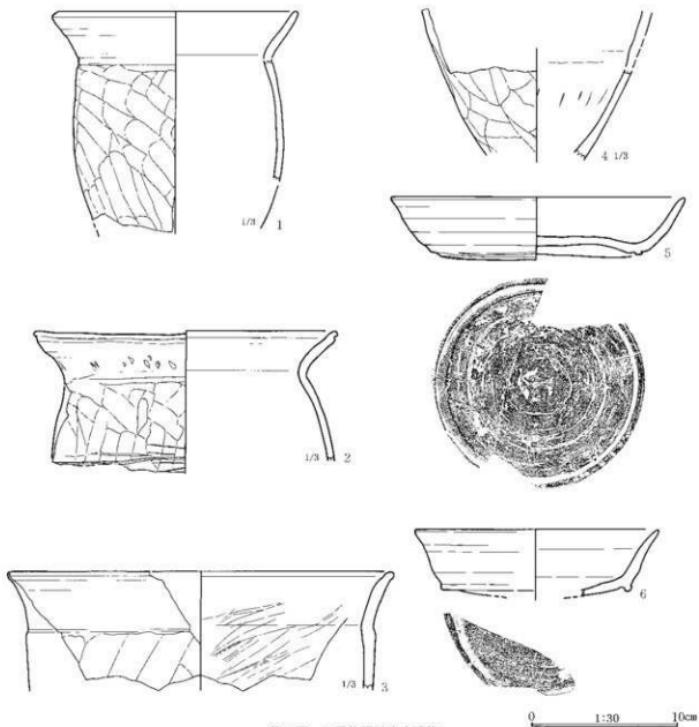
竈は東壁南寄りに付設される。焚き口側は浅く窪み、燃焼部両側には、灰黄褐色粘土で構築されたU字状の袖をもち（ただし右袖部は既に失われ、その痕跡ラインを推定）、燃焼部壁面にかけて同粘土分布が確認された。また左袖部には大形角砾が一部露呈し、補強材としたことがわかる。さらに土層-第5層において、下面が焼土化、上層が灰褐色粘土をなし、天井崩落に伴う現象が観察された。燃焼部付近や上面には土器片がまとまって出土した。規模は竈全長1.27m、幅推定0.9m、焚き口幅60cm、燃焼部幅約50cm、煙道長45cm。主軸方位N-

## 第2節 古墳～平安時代・中・近世の遺構と遺物

84°-Wを示す。その他の遺物は竈手前で、住居跡南半付近に多くみられる。南東コーナー部床面で土器窯(1)、南西寄りで同窯(3)、北辺床面やや上で同窯(4)。他に竈西側付近、床面より若干上で須恵器盤状灰杯(5)、高台付椀(6)が出土。



第58図 20号住居跡



第59図 20号住居跡出土遺物

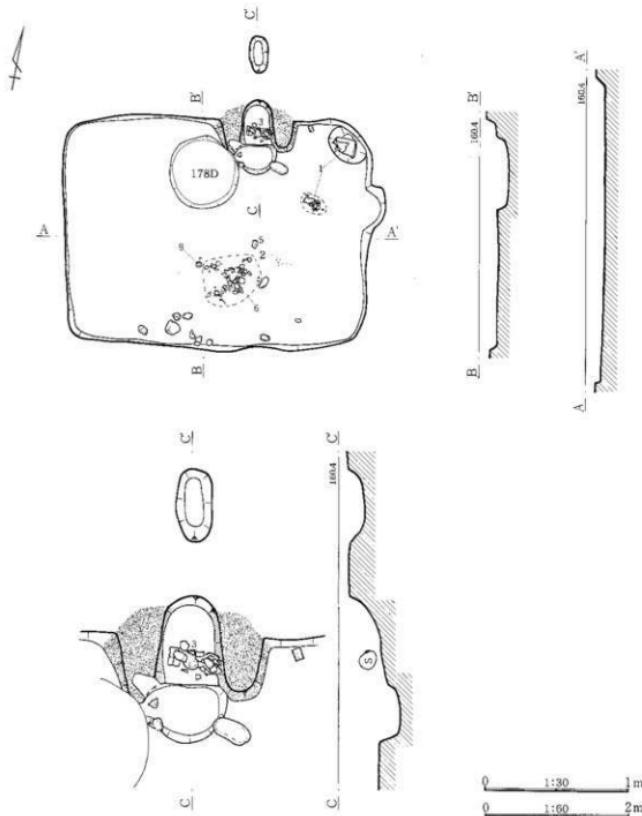
21号住居跡（第60・61図 P L19・65）

M・N-6 グリッドに検出された。住居跡北半部側で178号土坑と重複、土坑が新しい。形状は東辺の一部が弧状をして張り出しが、ほぼ東西に長い卵円形状をなし、北東コーナー部に貯蔵穴をもつ。標高は160.30m付近にあたり、北西に隣接して160.40m地点に22号住居跡がある。柱穴、周溝は検出されなかった。規模は東西長4.5m、南北長3.3m、壁高は比較的遺存が良好な東辺側でわずか12cm程度を計測した。主軸方位はN-80°-Eを示す。床面は東半部がわずかに低くなる。貯蔵穴は楕円形プランで、径56×37cm、深さ32cm、後述する土器窯(1)が出土している。

竈は北壁東寄りに付設される。北側に竈を持つ住居跡は、1・9・15号住居跡に次ぐ出土例である。住居跡内側にU字状に張り出す袖部をもち、燃焼部も逆U字状に壁外へ張り出す。これに連動して壁外には、長円形プランで煙道部が検出され、燃焼部との間に天井部が残存する。袖部は灰黄褐色粘土で構築され、燃焼部壁面

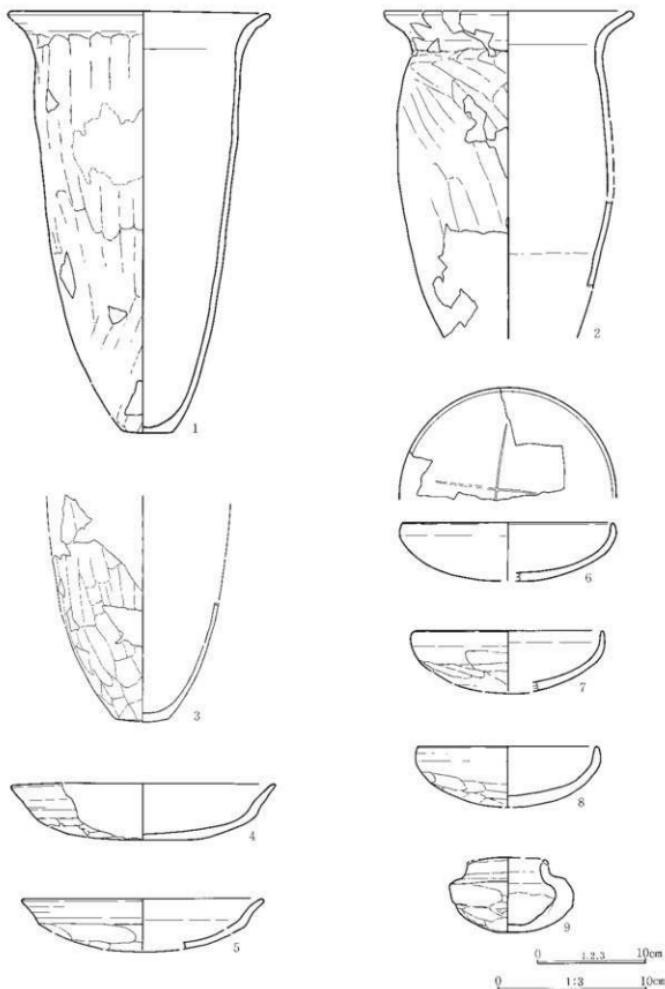
第2節 古墳～平安時代・中・近世の造構と遺物

には被熱による焼土化が明瞭である。焚き口部は梢円形を呈し、浅く窪み、燃焼部との間に若干の段差を設ける。燃焼部には土師器甕(3)、支脚材であろうか長円窪が横転した状態で検出。また左袖部側は一部ピット状の擾乱坑がある。規模は竈全長1.9m、幅1.15m、焚き口幅50cm、燃焼部長60cm、煙道部長88cm、煙道部幅25cm、袖幅35cm大。主軸方位N-10°-Wを示す。遺物は前述したように、貯藏穴で出土した土師器甕(1)と同一個体遺物が床面で出土した。また南壁下床面に大小の砾と共に、土器類が散乱した状態で検出された。土師器杯(5・6)、甕(2)、須恵器小形短頸壺(9)がある。



第60図 21号住居跡

第IV章 東前沖遺跡（I・II区）

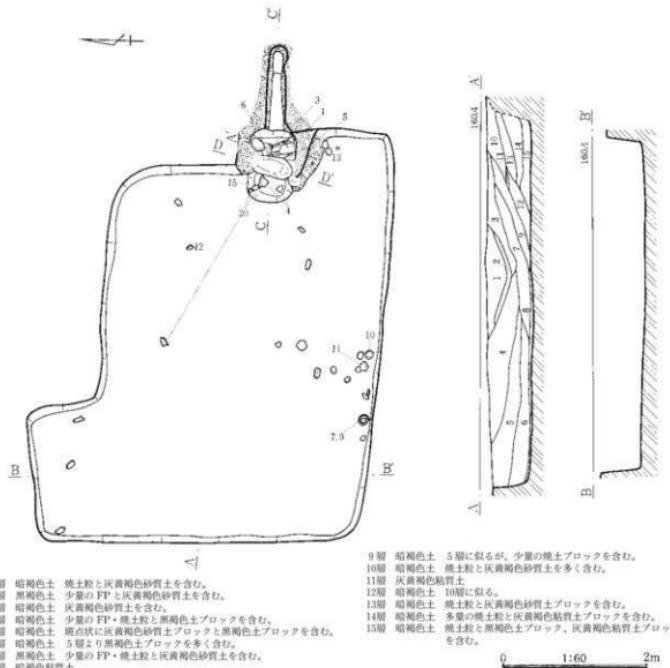


第61図 21号住居跡出土遺物

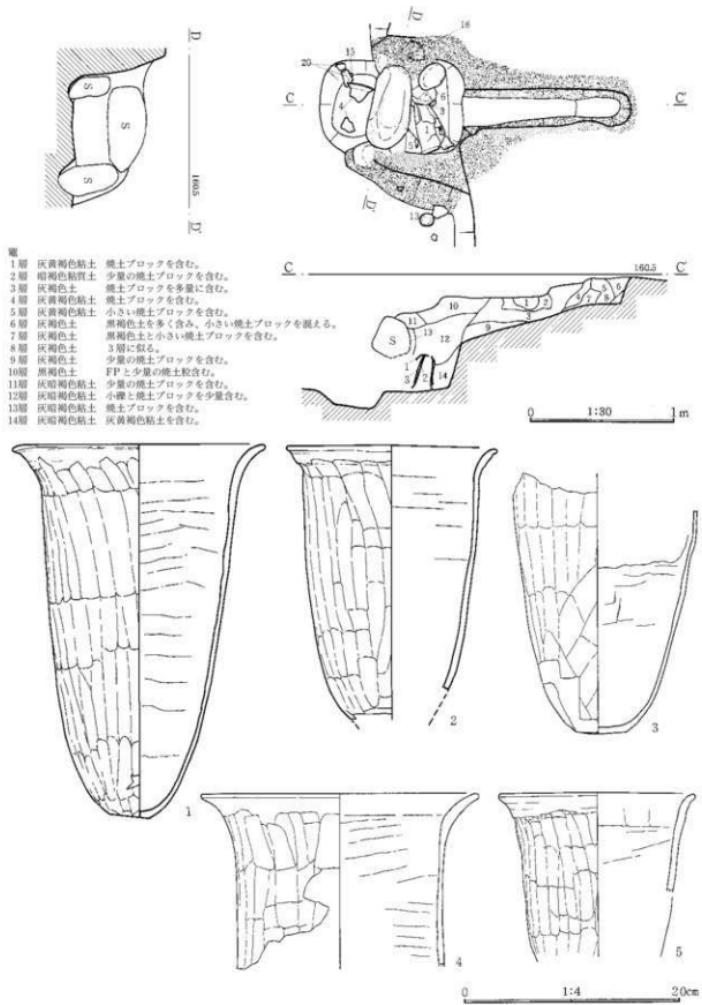
## 22号住居跡（第62・63・64・65図 P L20・66）

N・O・7・8グリッドに位置する。周辺は19～21号住居跡が比較的近接した位置にあり、居住地に関する占地性や集落の在り方を探る上で注目される。標高は160.40m付近である。形状は東西に長い隅丸長方形をなし、北西隅に方形状の張り出しをもつ。また、東辺側は竪を中心北・南側でくいちかいがみられ、やや南側が張り出しがなる。規模は東西長5.8m、南北長4.0m、壁高は南・北両側で各々53～63cm程度が残存している。張り出しへは東西径1.9m、南北径1.0m、床面までの深さ54cmを計る。主軸方位はN-90°である。床面はほぼ平坦で、締まる。土層観察で最下層第8層に、暗褐色粘質土が層厚3～5cm程度均一に堆積している。おそらく貼り床を形成していたのであろうか。

竪は東壁南寄りに付設される。袖部へ煙道部にかけて、暗褐色粘土によって構築されている。袖部先端には径30～40cm大の安山岩質長円窓を配し、さらに径60cm大の縫をこれらの縫に架ける形で設置している。袖石掘り方には、焼土を含む灰黄褐色砂質土が確認された。煙道部へ煙道部壁面は被熱による焼化痕が顕著である。焚き口側は楕円形状に窪む。規模は竪全長1.45m、幅1.2m、焚き口幅65cm、煙道部幅65cm、天井部高25cm、



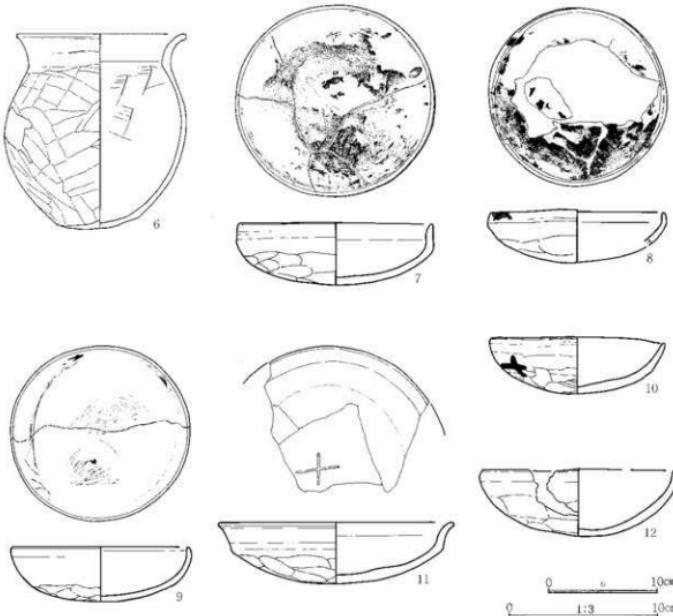
第62図 22号住居跡



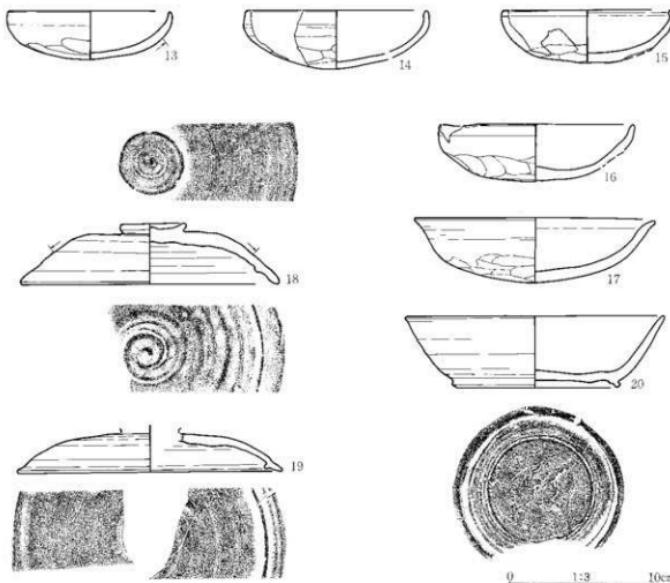
## 第2節 古墳～平安時代・中・近世の遺構と遺物

煙道部1.2m、同幅26cm。主軸方位はほぼN-90°である。燃焼部には向かって北側に土師器長胴甕(1)、南側に同長胴甕(5)がそれぞれ横倒しの状態で出土した。また(1)の左壁際に土師器甕(3)が口縁部を下に向け、さらにそれに被る形で入り子状になる形で小形甕(6)がそれぞれ検出された。このうち(3)・(6)の甕は(1)を支える支脚として機能していたとみられる。従い(1)は煮沸具として使用していたとみて大過ないと思われる。(5)については、底部が欠損していること等を援用材とすれば、器高等を考慮して(3・6)と同様の役割ではなかったろうか。

この他の遺物については、竈焚き口内で土師器甕(4)、同杯(15)、須恵器高台付鉢(20)は中央北付近床面の遺物に接合、右袖部側床面で土師器杯(13)が検出されている。また竈掘り方内で須恵器蓋(18)、さらには南壁下ほぼ床面で土師器杯類と碟等がまとまって出土。特には土師器杯(10・11)の他に同土師器杯(7・9)の出土が挙げられる。これは内面に漆痕が明瞭に残る点である。同様の遺物は、張り出し部付近でも同杯(8)が確認されている。所謂パレットとして使用されたとみられ、今回の調査で同様の痕跡を遺す遺物が、ある程度まとめて検出され、今後の検証材といえる。



第64図 22号住居跡出土遺物(2)



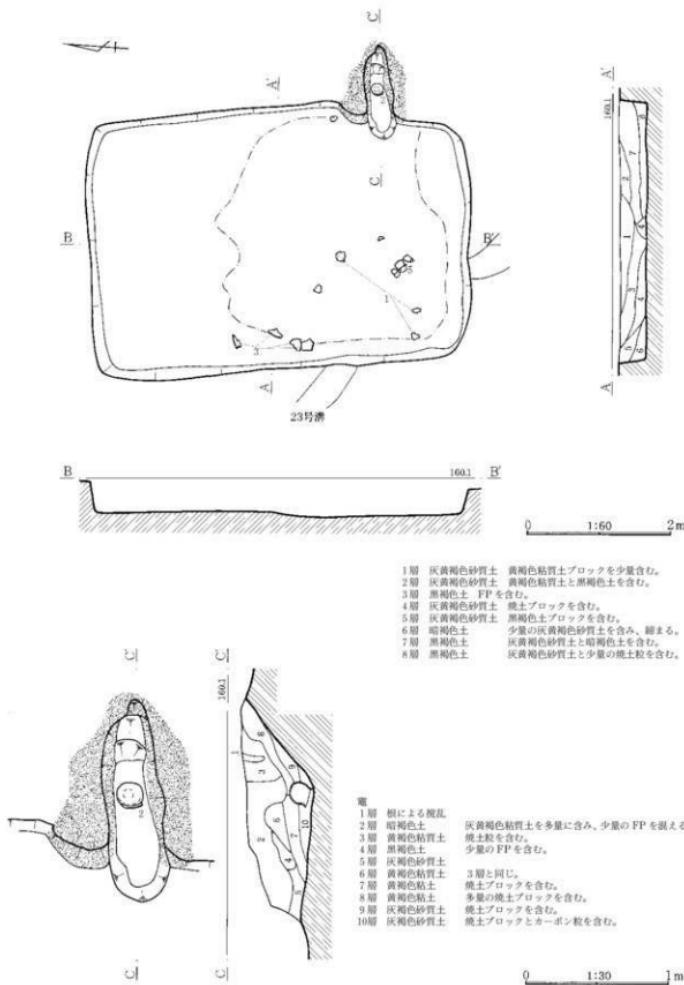
第65図 22号住居跡出土遺物2)

## 23号住居跡（第66・67図 P L20・66・68）

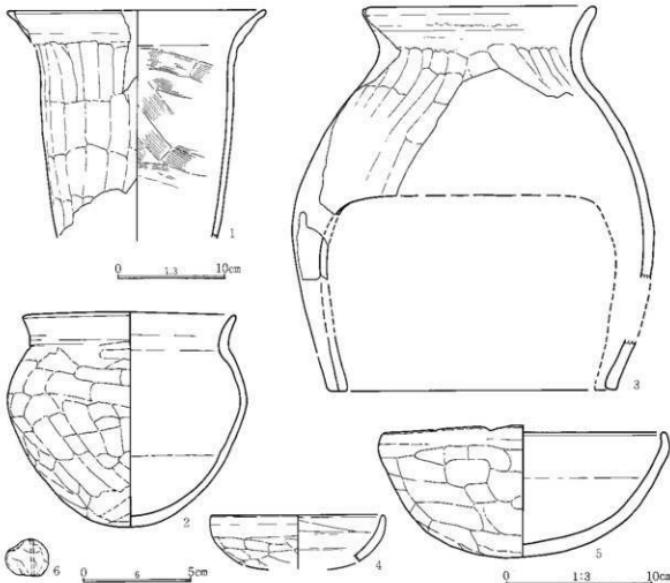
調査区南端J・K-14・15グリッドに跨って位置する。形状は圓丸長方形をなし、東辺南側が一部壁の張り出しが小さく、やや台形状にちかい形となっている。周溝・柱穴及び貯蔵穴等は検出されなかった。西辺の一部は新しい4号溝跡に切られている。標高は160.0mである。規模は東西長3.7m、南北5.35m、壁高40cmが残存。主軸方位はN-8°-Wである。床面はほぼ平坦であるが、竈側に近い南半部の壁際を除くほぼ全域に堅緻面が確認され、その部分だけは床面がわずかに低く窪む。

竈は東壁南側に付設される。黄褐色粘土で構築され、袖部～燃焼部外縁にかけて不整形形状プランをなして拡がる。このうち左袖部はU字状張り出しで遺存状態が良好であるが、右袖部は痕跡がわずかに確認されるに止まる。焚き口側でわずかに窪み、燃焼部奥壁の立ち上がりはかなり急勾配で、直線的である。中央部付近で(2)の土師器小形甕が口縁部を下にし、片側が若干浮いた状態で検出された。小形器種であること、前述の出土状況等から判断して支撑材として機能していたのであろうか。規模は竈全長1.36m、幅0.95m、焚き口幅35cm、燃焼部幅最大40cm、主軸方位N-80°-Eを計る。

遺物は南東コーナー寄りに比較的集中してみられ、床面で土師器長胴甕(1)、同鉢(5)が、また床面より上で竈形土製品(3)、竈覆土内で土師器杯(4)、土玉(6)が検出されている。



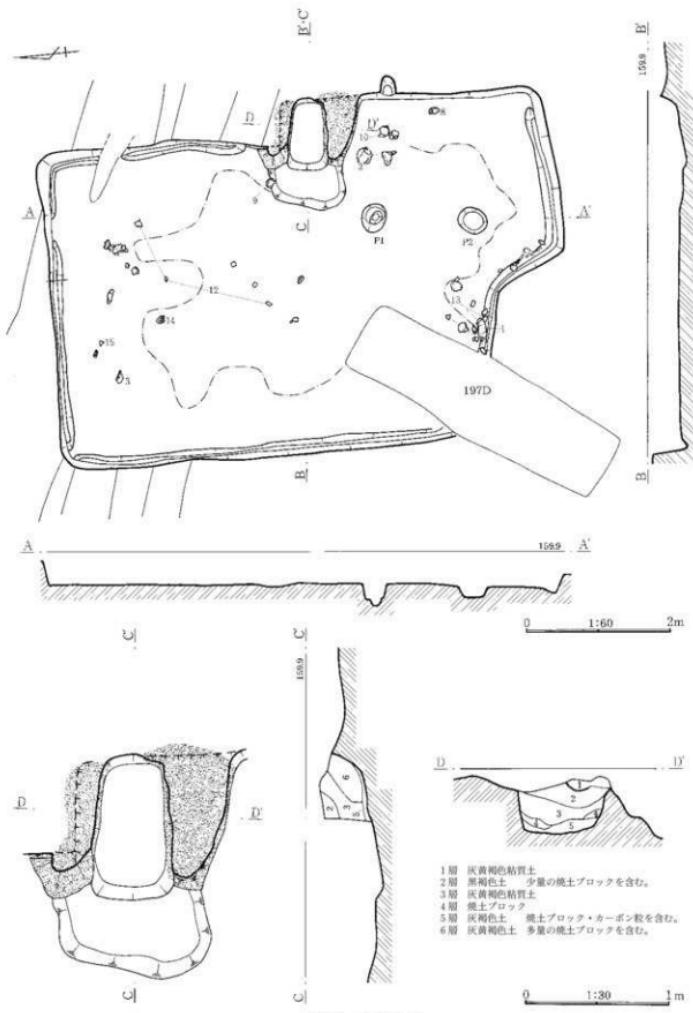
第66図 23号住居跡



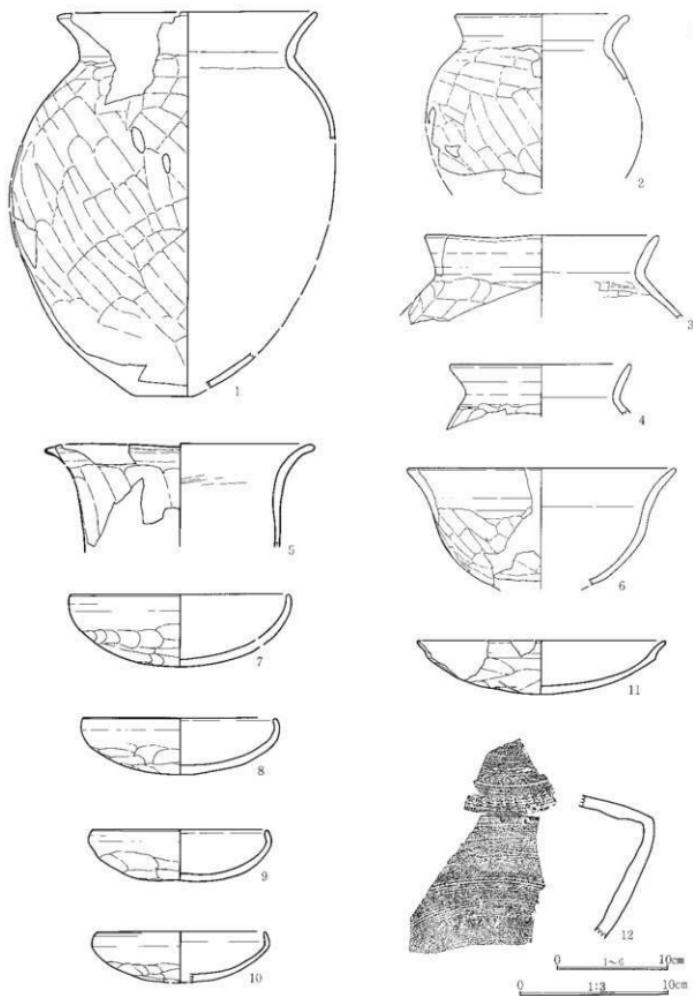
第67図 23号住居跡出土遺物

## 24号住居跡（第68・69・70図 P L20・67）

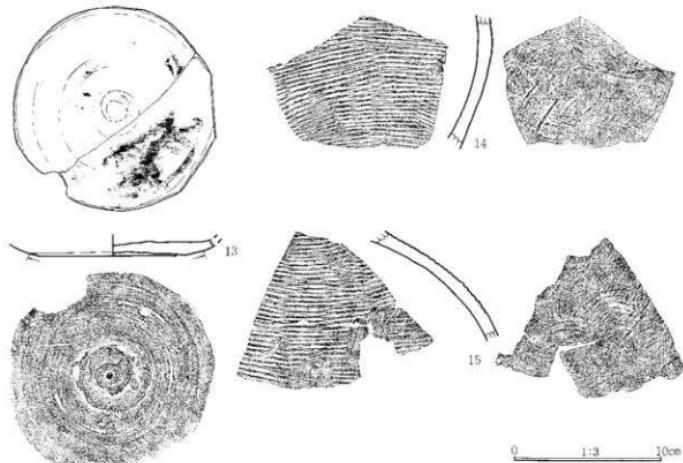
II区調査区南半H・I・J-13・14グリッドに跨って検出された。標高は159.80m。南西辺の一部は197号土坑と、北東辺は12・13号溝跡とそれぞれ重複し、溝跡との部分は壁下部がかろうじて残存する。新旧関係はそれぞれ土坑・溝跡の方が新しい。平面形状は南北に長い隅丸長方形をなし、南東コーナー部にかけて方形状プランが確認され、本跡より旧い住居跡遺構の存在が明らかとなった。しかし本住居跡に伴うとみられる遺物等が重複域床面に検出される等、拡幅住居跡として使用していたものとみられる。各辺下には周溝が巡り、旧住居跡南壁まで連続する。東辺側では検出することが出来なかった。また住居跡南側で、南北に並列してピット状落ち込み2基が検出された。位置的には旧い住居跡に伴うとするのが妥当であるが、拡幅後間仕切り的な機能を果たしていた可能性も想定されようか。規模は東西長4.4m、南北長6.0m、南北2.6m、壁高は最も残存が良好な西辺側で約40cm程度が確認された。周溝は確認段階で、北辺側二ヶ所が一部途切れる状態であった。上幅20~25cm、深さ4.1~6.7cm大、西辺下・旧住居跡南壁側が比較的の残りが良好である。ピットはちょうど本跡竈南側で、旧住居跡西壁際下とみられる境目あたりにある。いずれも楕円形プランを呈し、ピット間は約1mの間隔、P 1は二重の落ち込みで、径40×33cm、深さ約30cm、P 2は径40×35cm、深さ16cmを計る。住居跡主軸方位はN-0°-である。床面はほぼ平坦で、竈手前の住居跡中央付近に堅緻面が拡がる。



第68図 24号住居跡



第69図 24号住居跡出土遺物(1)



第70図 24号住居跡出土遺物(2)

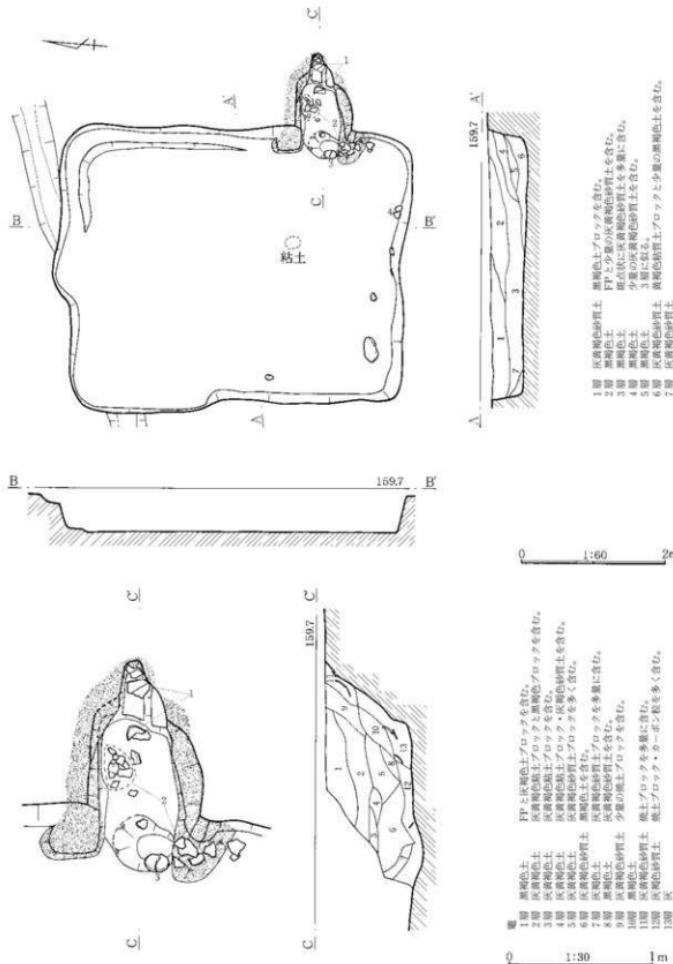
竈は東壁南寄りに付設される。左右袖部平面に、旧住居跡プランが土質の違いとなって露呈（写真図版参照）している。構築材は灰黄褐色粘土によってなされ、土層観察では天井部崩落に伴う第3層の確認からもそのことがわかる。焚き口部は楕円形をなして浅く窪み、長円形状の燃焼部へと移行する。規模は竈全長1.5m、幅最大1.4m、焚き口幅1.0m、燃焼部長1.0m、幅55cm、袖幅最大46cm、主軸方位はN-85°-Wを示す。

遺物は竈周辺及び、南・北壁下にある程度まとめて検出された。右袖南側で土師器小形壺(2)同杯(10)が床面よりやや上で、床面で同杯(8)が、焚き口部で土師器杯(9)、南壁周辺では床面および床面若干上で土師器壺(1)、床面で須恵器杯(13)、他張り出し括れ部壁下に炭化材が出土。北半部周辺では、須恵器壺(12)が床面で、その他床面やや上で土師器壺(3)、須恵器壺(14-15)等が検出された。このうち(13)は人為的に身部周縁を打ち欠いたとみられ、内面に漆痕が顕著に残る。

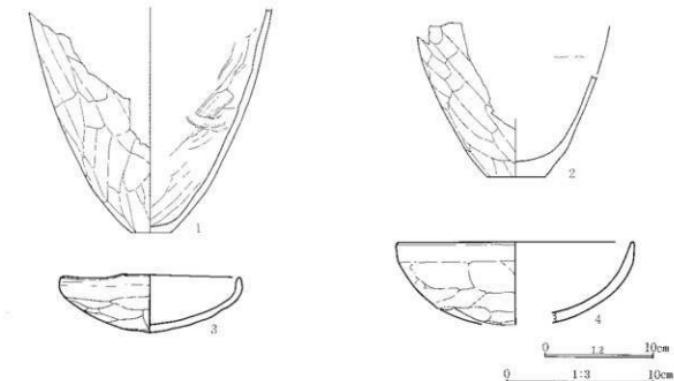
#### 25号住居跡（第71・72図 P L21・67）

G・H-7・8グリッドに位置する。標高は159.60m地点である。北辺部は一部14号溝跡に切られる。形状は隅丸方形をなすが、北辺中央部が不整形をなす一方、西辺北側はわずかに凸状に張り出す形となっている。また北東コーナー部付近は、壁下に棚状の平坦面をつくる。周溝・柱穴等は検出されなかつた。規模は東西長4.0m、南北長4.9m、壁高は最大で50cm程度が残存している。棚状部分は幅最大20cm、床面からの高さは5cm程度。主軸方位はN-3°-W。床面は平坦で、硬質である。

竈は東壁南寄りに出土した。灰黄褐色粘土で構築され、舌状に張り出す袖部～燃焼部奥壁煙道部にかけてその分布が確認された。袖部は右袖側が比較的の残りが良好だが、左側は上半部がほとんど欠損し、下半部がわず



第71図 25号住居跡



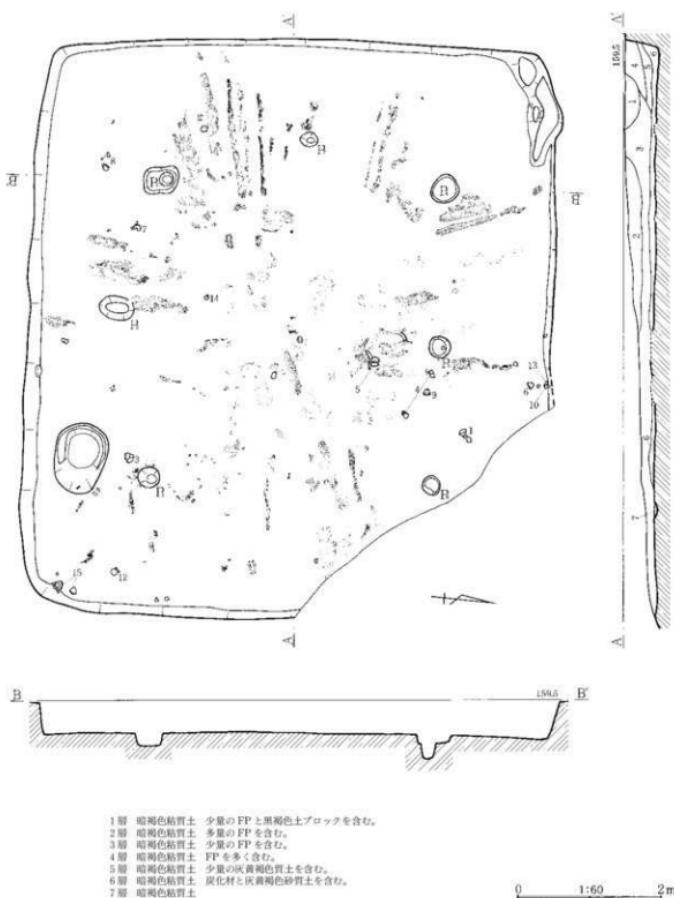
第72図 25号住居跡出土遺物

かに残る程度である。焚き口部は小ピット状に浅く窪む。燃焼部奥壁では、筒状をなして緩傾斜し、煙道部を形成する。直下の土層観察では第13層-焼土を含む層厚約15cmの灰層が堆積し、使用頻度の高さが窺える。また燃焼部壁面には部分的に被熱による焼土化がみられた。規模は竈全長1.45m、幅1.3m、焚き口幅50cm、燃焼部長80cm、幅80cm大、煙道部長40cm、袖幅最大40cm残存。主軸方位はN-83°-Eを示す。

遺物は竈内及び南壁下に散在する。土師器裏(1)が竈煙道部で、燃焼部内及び右袖部で同裏(2)、焚き口部で同杯(3)が出土。また南壁下周辺床面で、大小の躰数点と土師器杯(4)が検出されている。この他竈手前床面に粘土分布が確認された。

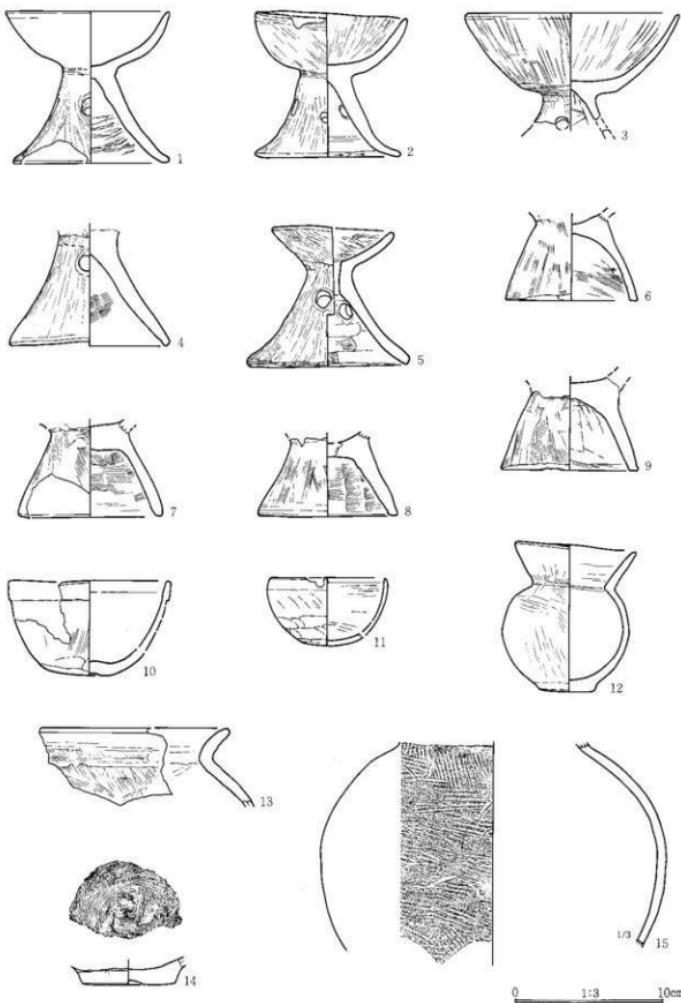
## 26号住居跡（第73・74図 P L21・67）

II区調査区南端G・H-4・5グリッドに跨って位置する。本遺跡中唯一軒のみの出土で、古墳時代に該期する住居跡である。標高は159.50m付近に占地する。ただ本遺跡南西50m地点に上大屋天王山遺跡があり(1)、本住居跡と同時期と考えられる住居跡が存在する。本遺跡の中で標高的に高い地点に同時期的な遺構が一切検出されないことから考えて、26号住居跡付近を北限として、これより以南～東に主体的な集落の展開があるものと推定される。住居跡の形状は整った楕円形を呈し、北東コーナー部は後世の17号溝跡に切り取られている。住居跡床面には、大量の炭化材群が中央部に向かい倒れた状態で出土、焼失家屋であったことが明瞭に解る。規模は東西長8.1m、南北長7.3m、壁高は西辺側で45cm、比較的良好な北辺部で50cm大を計る。ほぼ直線的な立ち上がりを示す。各辺下には柱穴とみられるピット7本、土坑状の落ち込み1基が検出された。主軸方位はN-87°-Eを示す。各ピットの平面形は円形、ないしは橢円形を呈し、P1-30×30cm、深さ-1cm、P2-50×32cm、深さ-1cm、P3-50×35cm、深さ9cm、同内側ピット2020cm、深さ34cm、P4-40×35cm、深さ18cm、P5-30×30cm、深さ9cm、P6-25×23cm、深さ23cm、P7-2320cm、深さ-1cmである。土坑状落ち込みは長円形の形状で、二重に落ち込む。規模は径73×55cm、深さ51cmを測る。位置的に南東コーナー寄り



第73図 26号住居跡

第2節 古墳～平安時代・中・近世の構造と遺物



第74図 26号住居跡出土遺物

#### 第IV章 東前沖遺跡（I・II区）

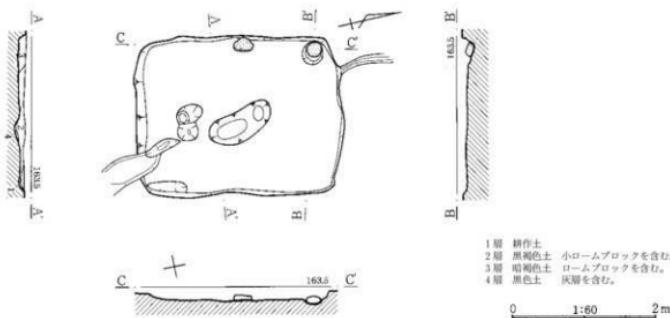
にあり、貯蔵穴の可能性が考えられる。床面は中央部分がややレンズ状に高く、壁際が低くなる傾向にある。P7の西側、住居跡中央寄りに炉跡らしき焼土痕が、土層観察でかろうじて判別されたが、明確なプランを追査するには至らなかった。

遺物は前述した多量の炭化材の他に、北西コーナー部では焼土・炭化材が塊状をなして堆積している。特に西壁～南壁側にかけて、炭化材が並列した状態で検出し、焼失住居跡検証の好資料といえる。この他土器類では中央部分での分布が希薄であるが、西壁下を除く三壁下にある程度まとまって出土する傾向が窺え、その多くは床面で検出されている。土器器高杯(1~3)の内(3)が貯蔵穴北側に、(1)および土器器台(4~5)、同壺(10)は北壁下床面で、台付壺脚部(6~9)は南・北壁下で出土。また土器小形壺(12)、同壺(15)が南東コーナー部壁下で検出されている。これらの遺物は観察されるかぎり、炭化材の上に土器が乗った状態で出土している。このことは住居跡焼失後、時間をおかずして土器類を廃棄？したことになるだろうか。壁下に遺物が多くみられることも、そうした行為を窺知しれる検証材といえる。時期的には器台の器形、あるいは平底壺、台付壺の特徴からみて、4世紀前半代に該期すると判断して大過ないと考えられる。前述上大屋天王山遺跡では、これよりやや下る5世紀前半代の住居跡が確認されており、本遺構を含み、集落展開に一定程度の時間幅が存在したことが予測される。

#### (2) 穴空遺構

##### 1号穴空遺構（第75図 P L 1）

I区調査区北端 AV・AW-21グリッドに位置する、標高は163.40m地点である。一部北西～南東へ走る地割れに切り取られている。標高は163.40m付近である。形状は南北に長い楕円方形をなし、中央部に長円形土坑、およびピット状遺構を検出した。また西壁下面、北寄り床面で、扁平疊2点が1mの間隔で並列し、うち北側の方はピット状底面で出土した。他の壁下面では確認されないこと等から、出入り口等に関連するか。規模は東西長2.2m、南北長2.9m、壁高は10cm程度残存。土坑状落ち込みは径95×43cm、深さ4.5cm、覆土は灰を含む黒褐色土で、炉跡であろうか。ピットは楕円形プランで径50×30cm大、深さ37cmである。主軸方位はN-12°-Eを示す。遺物は確認されなかった。時期は地割れ跡との重複関係から、これより以前ということになる。周辺遺跡の「上大屋植越遺跡群」では地割れ現象の年代を弘仁9年(818年)に起因するとしており、これに従え

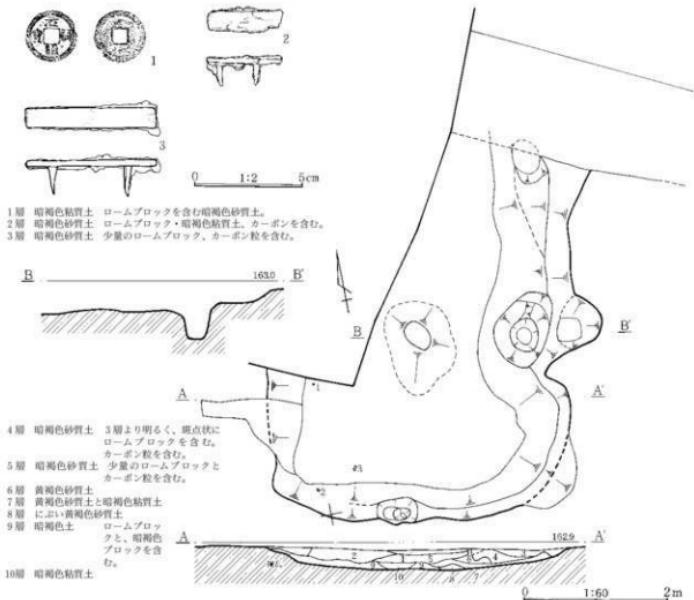


第75図 1号穴空遺構

ばその下限は9世紀前半以前の年代が付与される。

### 2号竪穴遺構（第76図 P.L.1-68）

I区調査区、AN・AO-29・30グリッドに跨って位置する。標高は163m地点である。遺構北側は調査区外の未調査、また東辺側も一部後世の擾乱で壊されている。形状は検出された部分でみるとかぎり、ややいびつな隅丸方形を呈し、壁上端から緩い皿状をなして底面へ傾斜する。東・南辺の中程で、壁中にピット状落ち込みをもつ。特に東辺側は一旦テラス状に浅く傾斜した後、ピット状に落ち込む。また底面では一部瘤状の高まりを形成している。底面までの高さは5~6cmである。検出面での遺構規模は、東西長4.3m、東西現長5.0m、壁高は南辺下で28.7cm、東辺下ピットの深さ35.3cmを測る。底面はやや凹凸がある。主軸方位は大凡N-13°-E方向にある。遺物は南西壁下、底面より10cm程度上で古鉄「元祐通宝」（北宋 1086年）1枚と、床上約8.5cmおよび壁面で、板状の身に針状の突起をもつ不明鉄製品2点が出土している。ここでは竪穴遺構として扱ったが、性格その他は不明である。



第76図 2号竪穴遺構・出土遺物

## 4号竪穴遺構（第77図）

I区調査区、AH・AI-26グリッドに位置する。検出されたのは北・東辺の一部であり、南半の大部分は調査区外にあたり未調査である。本遺構の立地する標高162.60m付近には、北へ南方に走る地割れ跡が顕著である。形状は検出面で比較的整った方形状で、深さは40cm程度が確認され、壁面の立ち上がりはほぼ直線的である。土層観察の結果、覆土中央部分には後土土壇状の落ち込みが確認され、丸釘が出土している。

遺構に伴う遺物は検出されず、時期・性格は不明である。

## 5号竪穴遺構（第77図）

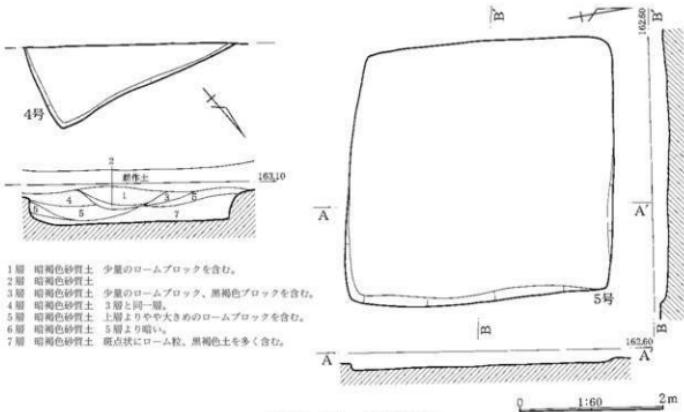
I区調査区、AI・AK-18・19グリッドに跨って位置する。南側に方形状の土坑群が隣接する。確認されたプランは、方形状であることがかろうじて分かる程度であった。残存規模は東西長3.5m、南北長3.6m、深さ10cm程度が残存。主軸方位はN-10°-Eを示す。床面はほぼ平坦で、凹凸はなく、柱穴等もみられない。

遺物その他は検出されなかった。時期・性格は不明である。

## (3) 堀立柱建物跡

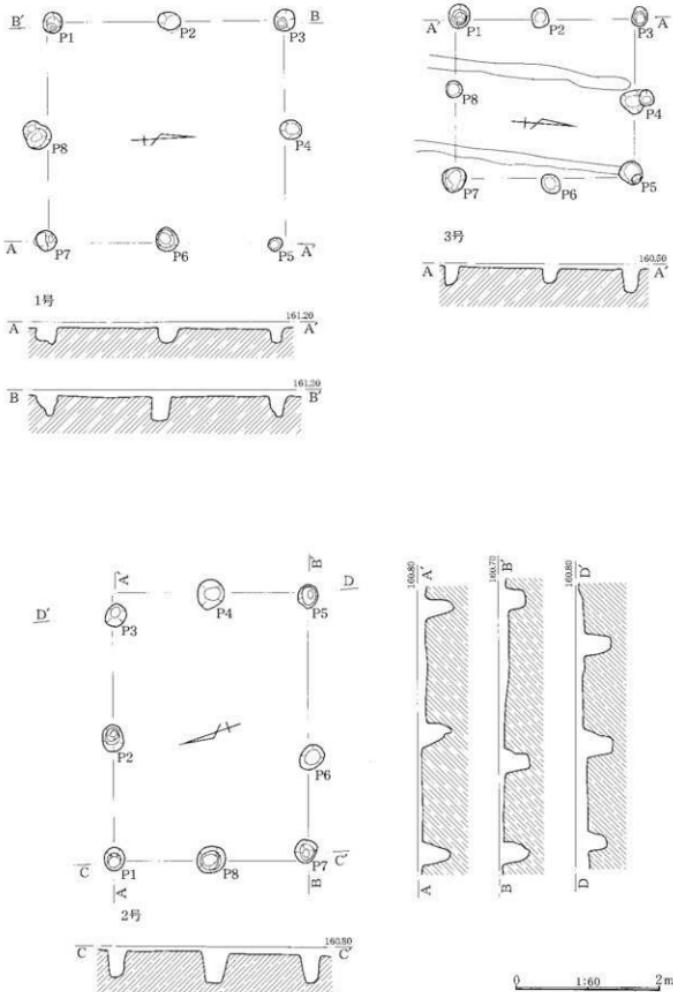
## 1号掘立柱建物跡（第78図 P L22）

II区調査区W・X-15・16グリッドに検出された。東5m地点に14号住居跡が隣接する。構造は桁行2間（P1～P3・P5～P7）、梁行2間（P3～P5・P7・P8・P1）より構成される。主軸方位は南北桁行（棟方向）でN-4°-Eを示す。柱間寸法（芯々間）は桁行東西両側共に北～南に向かって2.1-2.1m（7尺）、梁行側は西～東に向かって2.0-2.1m（6.7尺～7尺）となる。このことから規模は桁行4.2m、梁行4.1m、面積17.22m<sup>2</sup>となる。各柱穴は円形ないしは梢円形で、二重に落ち込む形態をなすものが主体的である。柱穴の平面規模は28～50cm、深さは桁行東側で30cm前後、西側で37～45cm大、P4-40cm、P8-20.6cmとやや高低差がある。遺物は検出されなかった。



第77図 4号・5号竪穴遺構

第2節 古墳～平安時代・中・近世の遺構と遺物



第78図 1号・2号・3号掘立柱建物跡

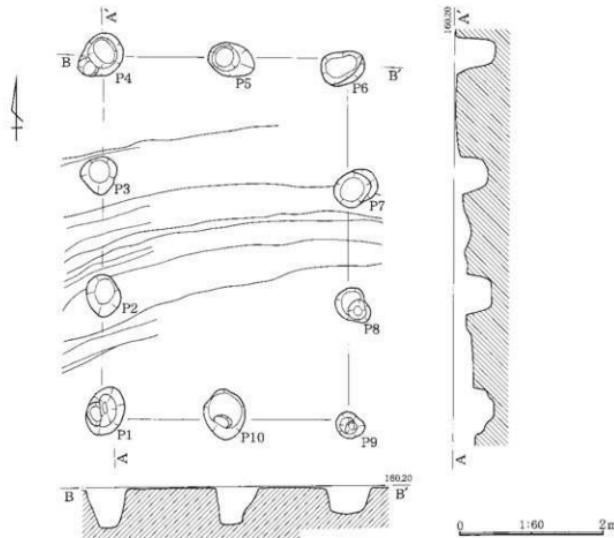
#### 第IV章 東前沖遺跡（I・II区）

##### 2号掘立柱建物跡（第78図 PL22）

II区調査区、P・O-17・18グリッドに検出された。北西に隣接して大形住居跡、17号住居跡があり、また東側には幅広の9号溝跡が隣接する。構造は桁行2間（P1～P3・P5～P7）、梁行2間（P3～P5・P7・P8・P1）で構成される。主軸方位は桁行（棟方向）方向N-69°-Wを示す。柱間寸法は桁行北側でP1～P3にかけて各7.5尺-7.5尺（2.2m）であるが、南側はP5-P6間が9.5尺（2.85m）、P6-P7間が6尺（1.8m）とわずかに0.5尺程。北側よりずれが生じている。梁行側は東西両側共に6尺-6尺（1.8m）。規模は桁行4.4-4.7m、梁行3.6m、面積約21.15m<sup>2</sup>である。柱穴平面はほぼ円形を呈し、二重の柱坑をもつものが主体的である。深さは45-55cm程度である。

##### 3号掘立柱建物跡（第78図 PL22）

II区調査区、N・O-14・15グリッドに検出された。前述2号掘立柱建物跡の南西側にあり、北10m地点に17号住居跡がある。構造は桁行2間（P1～P3・P5～P7）、梁行（P3～P5・P7～P1）2間で構成される。主軸方位は桁行（棟方向）方向N-3°-Wを示している。柱間寸法は桁行西側でP1から北に向けて1.5m（5尺）-1.8m（6尺）であるのに対し、東側P7から北に1.8（6尺）-1.5m（5尺）となり、芯々間寸法が逆転する。梁行寸法は北側でP3から東に1.5m（5尺）-1.2m（4尺）を測るが、南側はやや不規則である。規模は桁行3.3m、梁行2.7m、面積約8.91m<sup>2</sup>である。



第79図 4号掘立柱建物跡

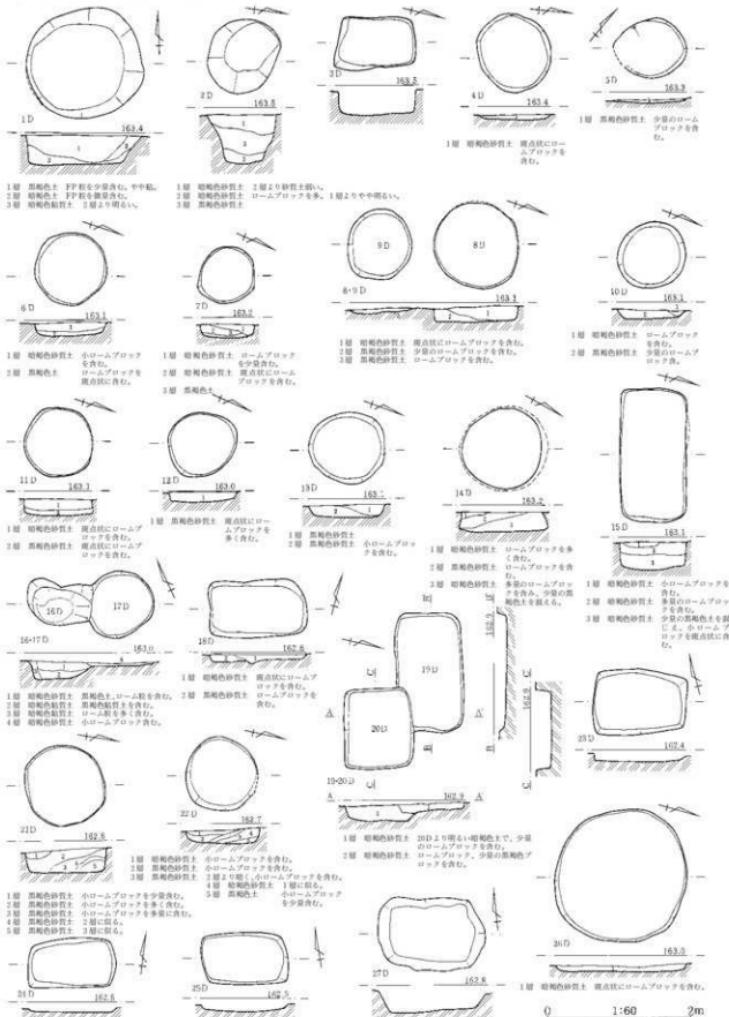
## 4号掘立柱建物跡（第79図 P L22）

II区調査区、J・K-10・11グリッドに検出された。柱穴上半部は14号溝跡に切り取られている。これまでみてきた掘立柱建物跡の中で、平面規模からみて最も大形の建物跡である。構造は桁行3間(P 1～P 4)、梁行2間(P 4～P 6・P 9～P 1)で構成される。主軸方位は桁行(棟方向)でN-3°-Wを示す。これまでみてきた建物跡は本遺構も同様に、2号建物跡を除きほぼ同方向に主軸をもつ。柱間寸法は桁行西側でP 1から北に向かって2.25m(7.5尺)-2.25m(7.5尺)-2.1m(7尺)、東側はP 9から北に2.25m(7.5尺)-2.1m(7尺)-2.25m(7.5尺)と若干の違いがみられる。梁行側は南北共にほぼ同寸法で、西から東側に2.25m(7.5尺)-2.25m(7.5尺)である。規模は桁行6.6m、梁行4.5m、面積29.7m<sup>2</sup>である。柱穴平面形はやや楕円形気味で、一旦緩く傾斜した後落ちこみ、掘り方を形成するか。柱穴の径50～90cm前後、深さ40～55cm大である。遺物は検出されなかった。

## (4) 土 坑

- 1号土坑(第80図 P L 4) 位置 AW-18G 形状 円形 規模 1.60×1.46m  
深さ 40cm 底面 平坦 主軸 N-73°-E 備考 時期不明
- 2号土坑(第80図 P L 4) 位置 AV-19G 形状 楕円形 規模 1.05×0.94m  
深さ 70cm前後 底面 平坦 主軸 N-55°-W 備考 逆台形の掘り込み
- 3号土坑(第80図 P L 4) 位置 AW-21・22G 形状 方形 規模 1.10×0.70m  
深さ 30cm前後 底面 平坦 主軸 N-11°-W 備考
- 4号土坑(第80図 P L 4) 位置 AV-19・20G 形状 円形 規模 1.06×0.98m  
深さ 6cm前後 底面 四角状 主軸 N-90° 備考 1号北西側に隣接
- 5号土坑(第80図 P L 4) 位置 AT-19G 形状 楕円形 規模 1.00×0.80m  
深さ 3cm 底面 四角状 主軸 N-51°-E 備考
- 6号土坑(第80図 P L 4) 位置 AS・AT-18G 形状 円形 規模 1.00×1.00m  
深さ 20cm前後 底面 平坦 主軸 N-2°-E 備考
- 7号土坑(第80図 P L 4) 位置 AS-18G 形状 円形 規模 0.80×0.80m  
深さ 20cm前後 底面 平坦 主軸 N-3°-W 備考
- 8号土坑(第80図 P L 4) 位置 AS-18G 形状 円形 規模 1.23×1.17m  
深さ 20cm前後 底面 平坦 主軸 N-58°-E 備考 9号と南北に併列関係
- 9号土坑(第80図 P L 5) 位置 AS-18G 形状 円形 規模 0.96×0.88m  
深さ 5cm前後 底面 四角状 主軸 N-67°-E 備考
- 10号土坑(第80図 P L 5) 位置 AS-17・18G 形状 円形 規模 0.97×0.90m  
深さ 10cm前後 底面 平坦 主軸 N-77°-W 備考
- 11号土坑(第80図 P L 5) 位置 AR-18G 形状 円形 規模 0.95×0.95m  
深さ 22cm 底面 平坦 主軸 N-20°-W 備考
- 12号土坑(第80図 P L 5) 位置 AR-18G 形状 円形 規模 0.95×0.88m  
深さ 14cm 底面 平坦 主軸 N-88°-W 備考 6号～12号近接関係にある。  
群を形成するか。
- 13号土坑(第80図 P L 5) 位置 AR-18G 形状 円形 規模 1.05×1.00m

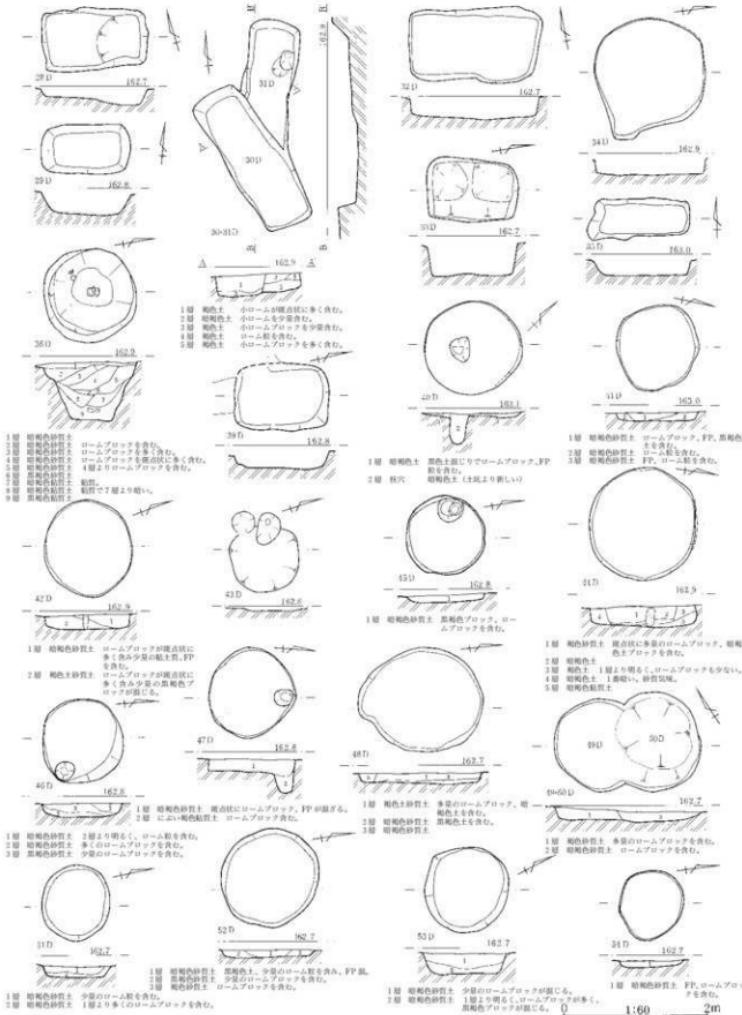
第IV章 東前沖遺跡（I・II区）



第80図 1号～27号土坑

- 深さ 16cm 底面 平坦 主軸 N-11°-W 備考 一
- 14号土坑** (第80図 P L 5) 位置 AS-20G 形状 円形 規模 1.10×1.10m  
深さ 25cm前後 底面 平坦 主軸 N-58°-E 備考 袋状断面
- 15号土坑** (第80図 P L 5) 位置 AR-20・21G 形状 東西に長い方形 規模 1.85×0.90m  
深さ 40cm 底面 平坦 主軸 N-76°-E 備考 土層堆積14号に類似。
- 16号土坑** (第80図 P L 6) 位置 AP-20G 形状 並んだ梢円形 規模 0.90×0.55cm～  
深さ 26cm前後 底面 ほぼ平坦 主軸 N-67°-W 備考 17号土坑と重複。本跡が旧い。
- 17号土坑** (第80図 P L 6) 位置 AP-20G 形状 並んだ円形 規模 0.94×0.90m  
深さ 4cm前後 底面 皿状 主軸 N-30°-E 備考 16号土坑と重複関係。新旧は前述。
- 18号土坑** (第80図 P L 6) 位置 AP-19G 形状 方形 規模 1.35×0.80m  
深さ 10cm前後 底面 ほぼ平坦 主軸 N-75°-E 出土遺物 なし 備考 一
- 19号土坑** (第80図 P L 6) 位置 AP-20・21G 形状 東西に長い方形 規模 1.63×0.93m  
深さ 10cm前後 底面 平坦 主軸 N-76°-E 備考 20号と重複。本跡が新しい。
- 20号土坑** (第80図 P L 6) 位置 AP-21G 形状 方形 規模 1.10×0.95m  
深さ 20cm前後 底面 ほぼ平坦 主軸 N-77°-E 備考 19号と重複。新旧関係は前述
- 21号土坑** (第80図 P L 6) 位置 AN-19・20G 形状 円形 規模 1.15×1.10m  
深さ 30cm前後 底面 平坦 主軸 N-18°-E 備考 一
- 22号土坑** (第80図 P L 6) 位置 AM-19・20G 形状 円形 規模 1.00×1.00m  
深さ 20cm前後 底面 平坦 主軸 N-12°-E 備考 覆土21号に似る。
- 23号土坑** (第80図) 位置 AJ-19G 形状 東西に長い方形 規模 1.26×0.85m  
深さ 最深部で10cm 底面 ほぼ平坦 主軸 N-73°-W 備考 5号竖穴遺構の南側。  
23～25号東西に並ぶ。
- 24号土坑** (第80図) 位置 AJ-19G 形状 東西に長い方形 規模 1.20×0.65m  
深さ 10cm大 底面 平坦 主軸 N-81°-E 備考 一
- 25号土坑** (第80図) 位置 AJ-20G 形状 東西に長い方形 規模 1.20×0.70m  
深さ 最深部11cm 底面 皿状 主軸 N-81°-W 備考 一
- 26号土坑** (第80図 P L 6) 位置 AN-22・23G 形状 円形 規模 1.85×1.80m  
深さ 8cm 底面 平坦 主軸 N-87°-E 備考 大形
- 27号土坑** (第80図 P L 6) 位置 AM-L-24G 形状 方形 規模 1.47×0.95m  
深さ 最深部30cm 底面 ほぼ平坦 主軸 N-82°-W 備考 一
- 28号土坑** (第81図 P L 6) 位置 AL-24G 形状 東西に長い方形 規模 1.45×0.80m  
深さ 最深部20cm 底面 東方に掘り込み 主軸 N-74°-W 備考 一
- 29号土坑** (第81図 P L 7) 位置 AM-25G 形状 方形 規模 1.23×0.70m  
深さ 30cm 底面 平坦 主軸 N-84°-E 備考 一
- 30号土坑** (第81図 P L 7) 位置 AM-L-27G 形状 方形 規模 2.15×0.80m  
深さ 30cm 底面 平坦 主軸 N-27°-W 備考 31号と重複。31号より新。
- 31号土坑** (第81図 P L 7) 位置 AM-27G 形状 方形 規模 ～×0.70m  
深さ 25cm 底面 平坦 主軸 N-11°-E 備考 30号より旧。

第IV章 東前沖遺跡 (I・II区)



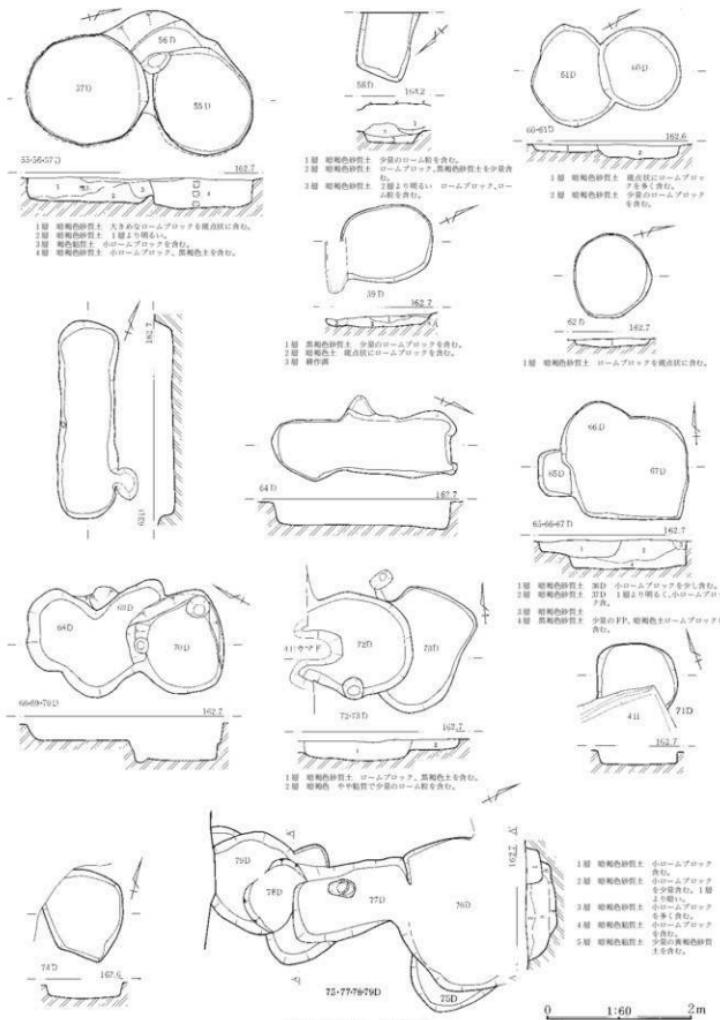
第81図 28号～36号・39号・54号土坑 (37号・38号・39号については第81図参照)

- 32号土坑（第81図 P L 7） 位置 AK-26・27G 形状 東西に長い方形 規模 1.80×1.10m  
深さ 30cm前後 底面 ほぼ平坦 主軸 N-78°-W 備考 28号土坑と主軸方向同じ。
- 33号土坑（第81図 P L 7） 位置 AI-27G 形状 方形 規模 1.25×0.88m  
深さ 45cm 底面 凹凸あり 主軸 N-12°-E 備考 一
- 34号土坑（第81図） 位置 AL-28・29G 形状 不整円形 規模 1.75×1.55m  
深さ 20cm 底面 平坦 主軸 N-60°-W 備考 一
- 35号土坑（第81図） 位置 AN-28・29G 形状 東西に長い方形 規模 1.30×0.50m  
深さ 20cm 底面 平坦 主軸 N-86°-W 備考 一
- 36号土坑（第81図） 位置 AL-30・31G 形状 円形 規模 1.30×1.25m  
深さ 80cm 底面 平坦 主軸 N-73°-E 備考 逆台形状断面
- 37号・38号・39号土坑（第19図） 3号住居跡中に記載
- 40号土坑（第81図 P L 7・8） 位置 AL-34G 形状 円形 規模 1.34×1.34m  
深さ 5cm 底面 畦状 主軸 N-47°-E 備考 一
- 41号土坑（第81図 P L 7・8） 位置 AK-34G 形状 円形 規模 1.15×1.10m  
深さ 10cm前後 底面 平坦 主軸 N-23°-W 備考 一
- 42号土坑（第81図 P L 7・8） 位置 AK-33G 形状 やや楕円形 規模 1.35×1.20m  
深さ 20cm 底面 平坦 主軸 N-71°-W 備考 一
- 43号土坑（第81図 P L 8） 位置 AK-33G 形状 円形 規模 0.95×0.92m  
深さ 4cm 底面 畦状 主軸 N-6°-E 備考 ピットと重複
- 44号土坑（第81図 P L 8） 位置 AK-34G 形状 円形 規模 1.55×1.50m  
深さ 25cm前後 底面 平坦 主軸 N-10°-W 備考 北壁抉れ
- 45号土坑（第81図 P L 8） 位置 AJ-33G 形状 円形 規模 1.10×1.10m  
深さ 10cm前後 底面 平坦 主軸 N-7°-E 備考 一
- 46号土坑（第81図 P L 8） 位置 AJ-31G 形状 円形 規模 1.15×1.10m  
深さ 20cm 底面 平坦 主軸 N-61°-E 備考 ピットと重複
- 47号土坑（第81図 P L 8） 位置 AJ-32G 形状 円形 規模 1.20×1.15m  
深さ 16cm大 底面 平坦 主軸 N-50°-W 備考 ピットより新しい。
- 48号土坑（第81図） 位置 AJ-33G 形状 不整楕円形 規模 1.75×1.45m  
深さ 15cm 底面 平坦 主軸 N-5°-E 備考 南半部擾乱か。
- 49号土坑（第81図 P L 8） 位置 AJ-32・33G 形状 円形 規模 1.26×(1.20)m  
深さ 18cm 底面 平坦 備考 50号土坑より旧。
- 50号土坑（第81図 P L 8） 形状 円形 規模 1.37×1.15m  
深さ 13cm前後 底面 平坦 主軸 N-28°-E 備考 49号土坑より新。
- 51号土坑（第81図 P L 8） 位置 AI-33G 形状 円形 規模 1.15×1.10m  
深さ 15cm 底面 平坦 主軸 N-81°-W 備考 一
- 52号土坑（第81図 P L 9） 位置 AI-33G 形状 円形 規模 1.40×1.30m  
深さ 10cm大 底面 平坦 主軸 N-46°-W 備考 一
- 53号土坑（第81図 P L 9） 位置 AI-32G 形状 円形 規模 1.20×1.15m

第IV章 東前沖遺跡（I・II区）

- 深さ 28cm 底面 中央凸状 主軸 N-62°-W 備考 —
- 54号土坑（第81図 P L 9） 位置 AI-32G 形状 円形 規模 1.0×0.95m  
深さ 10cm前後 底面 平坦 主軸 N-72°-W 備考 —
- 55号土坑（第82図 P L 9） 位置 AH・I-32G 形状 楕円形 規模 1.55×1.30m  
深さ 40cm 底面 平坦 主軸 N-16°-W 備考 57号土坑より新。
- 56号土坑（第82図 P L 9） 位置 AI・H-32G 形状 楕円形か  
規模他詳細不明 備考 55号土坑より旧
- 57号土坑（第82図 P L 9） 位置 AH-32G 形状 円形 規模 1.64×1.50m  
深さ 33cm 底面 平坦 主軸 N-17°-E 備考 55号土坑より旧。
- 58号土坑（第82図 P L 9） 位置 AH-32G 形状 方形 規模 —×0.65m  
深さ 15cm前後 底面 平坦 主軸 — 備考 東方調査区外。
- 59号土坑（第82図 P L 9） 位置 AH-31・32G 形状 楕円形 規模 1.25×1.06m  
深さ 15cm 底面 平坦 主軸 N-20°-E 備考 南半擾乱か。
- 60号土坑（第82図 P L 10） 位置 AH-31G 形状 円形 規模 1.15×1.15m  
深さ 20cm 底面 平坦 主軸 N-11°-E 備考 61号土坑より新。
- 61号土坑（第82図 P L 10） 位置 AH-31G 形状 不整円形 規模 1.35×(1.15)m  
深さ 10cm 底面 平坦 主軸 N-87°-E 備考 60号土坑より旧。
- 62号土坑（第82図 P L 10） 位置 AH-31G 形状 円形 規模 1.15×1.05m  
深さ 10cm 底面 平坦 主軸 N-82°-W 備考 —
- 63号土坑（第82図 P L 10） 位置 AI-30G 形状 南北に長い方形 規模 2.73×0.80m  
深さ 25cm 底面 平坦 主軸 N-20°-W 備考 —
- 64号土坑（第82図 P L 10） 位置 AI-29・30G 形状 63号に同 規模 2.47×0.70m  
深さ 30cm 底面 ほぼ平坦 主軸 N-22°-W 備考 耕作跡か。
- 65号土坑（第82図 P L 10） 位置 AI・H-29G 形状 方形 規模 —×1.00m  
深さ 最深部23cm 底面 ほぼ平坦 主軸 — 備考 67号土坑より新。
- 66号土坑（第82図 P L 10） 位置 AI・H-29G 形状 円形？ 規模 1.00m前後  
深さ — 底面 ほぼ平坦 主軸 — 備考 67号土坑との新旧不明。
- 67号土坑（第82図 P L 10） 位置 AI・H-29G 形状 方形 規模 1.60×1.40m  
深さ 40cm 底面 ほぼ平坦 主軸 N-86°-W 備考 66号土坑と重複。
- 68号土坑（第82図 P L 10） 位置 AH-29G 形状 不整楕円形？ 規模 —  
深さ 20cm前後 底面 平坦 主軸 — 備考 69号・70号土坑と重複。
- 69号土坑（第82図 P L 10） 位置 68号に同 形状 方形 規模 (1.70)×(1.10)m  
深さ 25cm 主軸 — 備考 備考 4号住・73号土坑より新。
- 70号土坑（第82図 P L 10） 位置 AH-29G 形状 楕丸方形 規模 1.38×1.30m  
深さ 50cm 底面 平坦 主軸 N-38°-E 備考 69号土坑より新。
- 71号土坑（第82図） 位置 AI-30G 形状 楕丸方形 規模 1.10×—m  
深さ 15cm 底面 平坦 主軸 — 備考 4号住より新。
- 72号土坑（第82図） 位置 AH-30G 形状 楕円形 規模 —×1.40m

第2節 古墳～平安時代・中・近世の造構と遺物

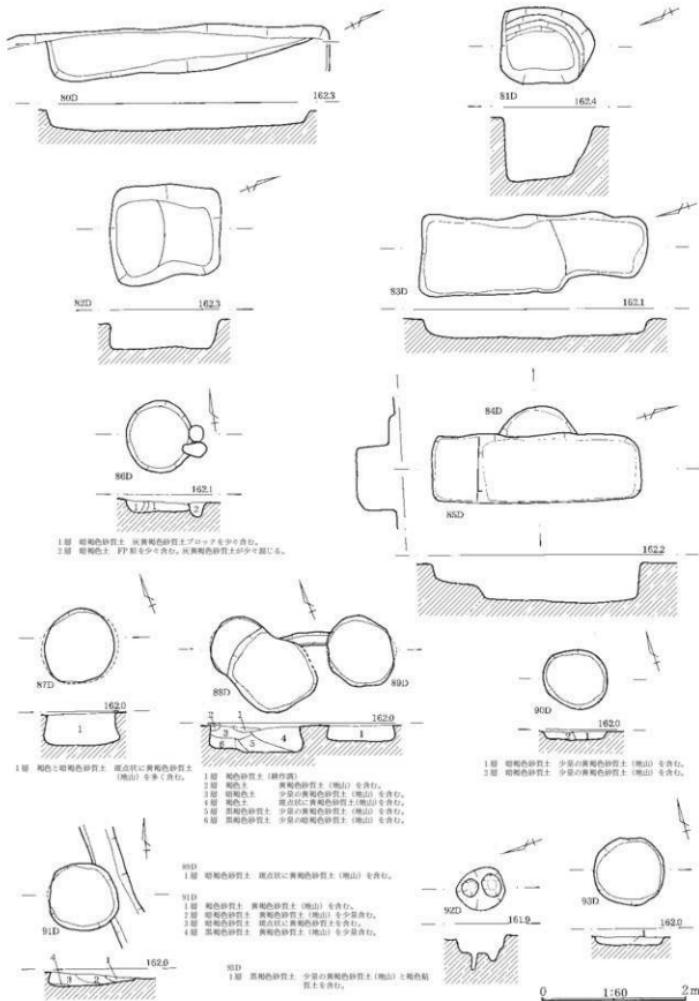


第82図 55号～79号土坑

第IV章 東前沖遺跡（I・II区）

- 深さ 25cm 主軸 - 備考 4号住と重複。本跡が新。
- 73号土坑（第82図）位置 AH-30G 形状 楕丸形 規模 1.70×(1.30) m  
深さ 15cm 底面 平坦 主軸 N-29°-E 備考 72号土坑より旧。
- 74号土坑（第82図）位置 AH-30G 形状 不整楕円形 規模 1.15×1.10m  
深さ 20cm 底面 平坦 主軸 N-3°-W 備考 76号土坑との新旧不明。
- 75号・76号・77号・78号・79号土坑（第82図 P L10）位置 AG・AH-29・30G  
75号土坑 形状 楕円形？ 規模 - 深さ 10.5cm 備考 76号土坑より旧いか。
- 76号土坑 形状 方形状 規模 (2.15)×-m 深さ 30cm前後 底面 ほぼ平坦  
主軸 - 備考 75号土坑より新、77号土坑との新旧不明。
- 77号土坑 形状 南北に長い方形 規模 (1.65)×1.0m 深さ 37cm 底面 ほぼ平坦  
主軸 N-18°-E 備考 78号土坑より新、76号土坑との新旧は不明。
- 78号土坑 形状 東西に長い方形 規模 (1.50)×(1.20) m 深さ 40cm前後 底面 やや凹凸  
主軸 N-78°-W 備考 77号土坑より旧、79号土坑との新旧不明。
- 79号土坑 形状 楕円形 規模 (1.45)×-m 深さ 38cm前後 底面 平坦 主軸 -
- 80号土坑（第93図）位置 AJ・AI-22G 形状 南北に長い方形か 規模 -  
深さ 25cm大 底面 ほぼ平坦 主軸 - 備考 西半部調査区外。
- 81号土坑（第93図 P L23）位置 AG・AF-21G 形状 楕円形 規模 (1.85)×(1.00) m  
深さ 73cm 底面 ほぼ平坦 主軸 N-3°-E 備考 北壁直立。
- 82号土坑（第93図 P L23）位置 AG-25・26G 形状 不整形 規模 1.50×1.35m  
深さ 最深部40cm 底面 北壁に窓み 備考 -
- 83号土坑（第93図）位置 AD・AE-25G 形状 南北に長い方形 規模 3.05×1.050.85m  
深さ 25cm前後 底面 ほぼ平坦 主軸 N-20°-E 備考 2基重複か。
- 84号土坑（第93図 P L23）位置 AC・AD-28・29G 形状 円形 規模 -  
深さ 10cm 底面 平坦 主軸 - 備考 85号土坑より旧。
- 85号土坑（第93図 P L23）位置 84号に同 形状 南北に長い方形 規模 2.85×0.95m  
深さ 30cm前後 底面 平坦 主軸 N-17°-E 備考 2基重複？。
- 86号土坑（第93図 P L23）位置 AB-29G 形状 円形 規模 1.0×0.90m  
深さ 15cm 底面 平坦 主軸 N-19°-W 備考 -
- 87号土坑（第93図 P L23）位置 Z-29G 形状 円形 規模 1.07×0.95m  
深さ 42cm 底面 平坦 主軸 N-23°-E 備考 断面袋状。
- 88号土坑（第93図 P L23）位置 Y・Z-29G 形状 楕円形 規模 1.15×1.0m  
深さ 35cm 底面 平坦 主軸 N-25°-W 備考 北側に重複土坑？。幅0.85m
- 89号土坑（第93図 P L23）位置 Y・Z-29G 形状 円形 規模 1.0×0.9m  
深さ 20cm 底面 平坦 主軸 N-4°-W 備考 壁面袋状、西側に88号土坑。
- 90号土坑（第93図 P L23）位置 Y-29G 形状 円形 規模 0.90×0.80m  
深さ 10cm前後 底面 ほぼ平坦 主軸 N-32°-W 備考 -
- 91号土坑（第93図 P L23）位置 Y-29・30G 形状 円形 規模 0.95×0.90m  
深さ 最深部20cm 底面 平坦 主軸 N-4°-E 備考 東上半削平される。

第2節 古墳～平安時代・中・近世の遺構と遺物

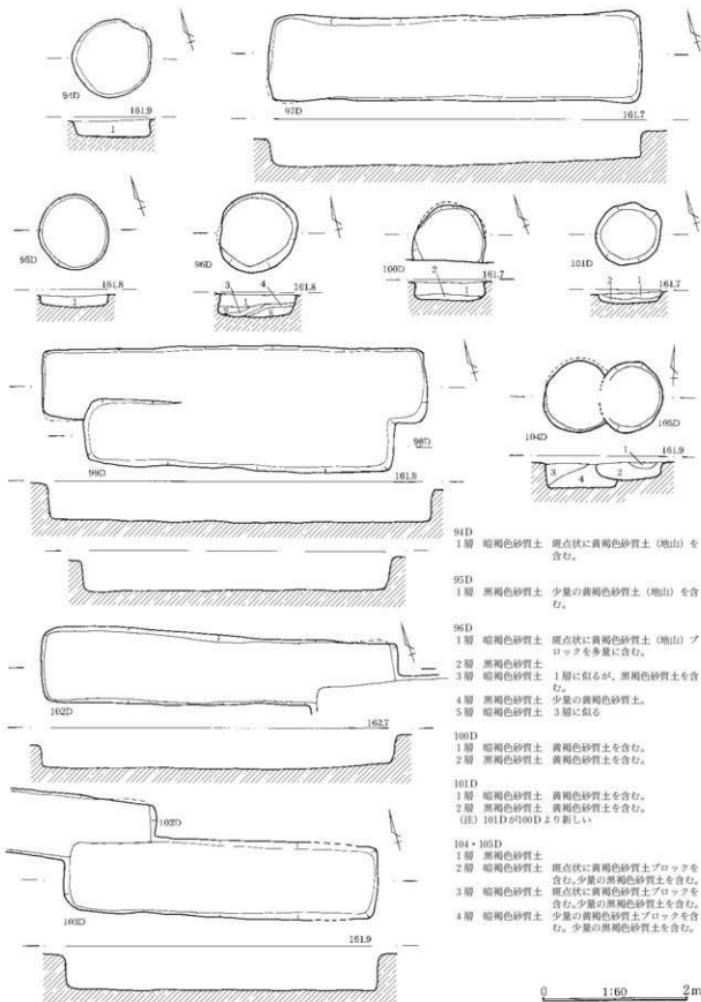


第83図 80号～93号土坑

第IV章 東前沖遺跡（I・II区）

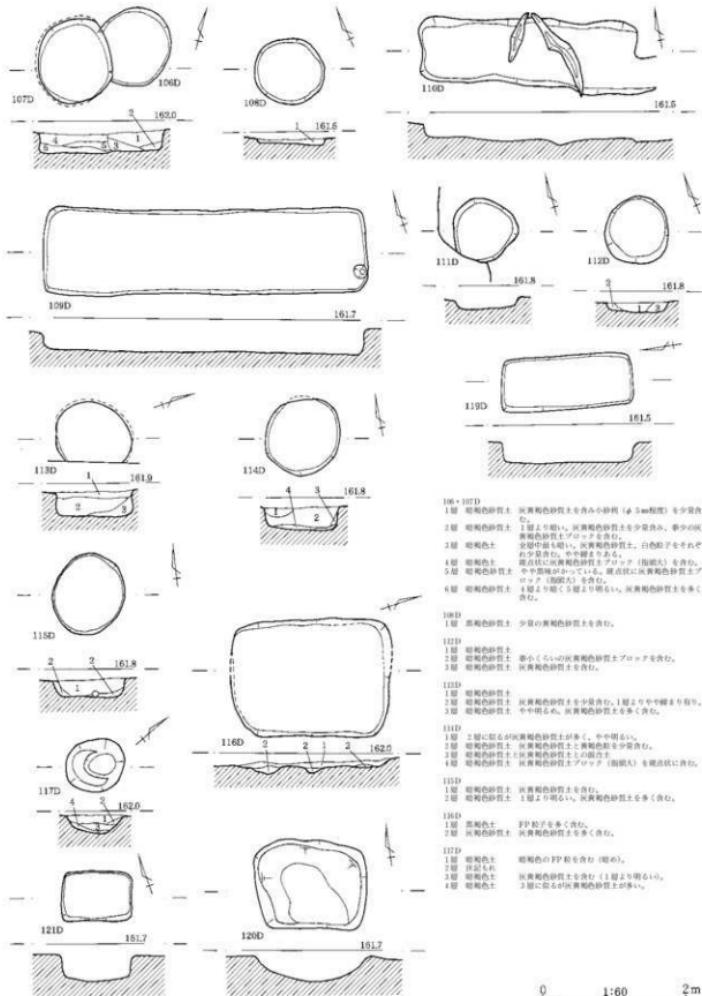
- 92号土坑（第93図 P L23） 位置 Z-30G 形状 円形ピット状 規模 0.68×0.56m  
深さ 20cm ピット深さ 30~35cm 主軸 N-8°-E 備考 —
- 93号土坑（第93図 P L23） 位置 Y-30G 形状 円形 規模 1.0×1.0m  
深さ 10cm前後 底面 平坦 主軸 N-0°- 備考 —
- 94号土坑（第84図 P L23） 位置 Y-28・29G 形状 円形 規模 1.10×1.04m  
深さ 22cm前後 底面 平坦 主軸 N77°-E 備考 —
- 95号土坑（第84図 P L23） 位置 X-28G 形状 円形 規模 1.0×0.95m  
深さ 14cm 底面 平坦 主軸 N-8°-W 備考 —
- 96号土坑（第84図 P L24） 位置 X-29G 形状 楕円形 規模 1.10×1.0m  
深さ 30cm 底面 平坦 主軸 N-21°-E 備考 —
- 97号土坑（第84図 P L24） 位置 X-27・28G 形状 東西に長い方形 規模 5.18×1.15m  
深さ 45cm 底面 平坦 主軸 N-72°-W 備考 —
- 98号土坑（第84図） 位置 X・W-28・29G 形状 東西に長い方形 規模 5.30×1.0m  
深さ 50cm前後 底面 平坦 主軸 N-72°-W 備考 99号より旧？。
- 99号土坑（第84図） 位置 98号に同 形状 東西に長い方形 規模 4.30×0.90m  
深さ 50cm前後 底面 平坦 主軸 N-70°-W 備考 98号土坑と重複。
- 100号土坑（第84図 P L24） 位置 W-29G 形状 円形 規模 1.00×-m  
深さ 25cm 底面 平坦 主軸 — 備考 99号土坑と重複、旧。
- 101号土坑（第84図 P L24） 位置 W-28G 形状 円形 規模 0.95×0.85m  
深さ 13cm 底面 平坦 主軸 N-67°-E 備考 100号土坑より新。
- 102号土坑（第84図） 位置 W-28・29G 形状 東西に長い方形 規模 4.95×1.05m  
深さ 40cm大 底面 平坦 主軸 N-69°-W 備考 103号と重複。
- 103号土坑（第84図 P L24） 位置 W-29G 形状 東西に長い方形 規模 4.35×1.10m  
深さ 40cm 底面 平坦 主軸 N-73°-W 備考 102号土坑と重複。
- 104号土坑（第84図 P L24） 位置 W-30G 形状 円形 規模 1.00×-m  
深さ 34cm 底面 平坦 主軸 N-5°-E 備考 105号土坑と重複、旧。
- 105号土坑（第84図 P L24） 位置 W-30G 形状 円形 規模 1.0×0.90m  
深さ 25cm 底面 平坦 主軸 N-18°-E 備考 104号土坑より新。
- 106号土坑（第85図） 位置 V-30G 形状 円形 規模 1.10×1.05m  
深さ 25cm前後 底面 平坦 主軸 N-0°- 備考 107号土坑と重複、新。
- 107号土坑（第85図） 位置 V-29・30G 形状 円形 規模 1.10×1.0m  
深さ 25cm前後 底面 平坦 主軸 N-28°-W 備考 106号と重複、旧。
- 108号土坑（第85図 P L24） 位置 W-28G 形状 円形 規模 0.95×0.90m  
深さ 5~10cm 底面 東側に傾斜 主軸 N-20°-W 備考 —
- 109号土坑（第85図） 位置 W-26G 形状 東西に長い方形 規模 4.50×1.15m  
深さ 30cm前後 底面 平坦 主軸 N70°-W 備考 —
- 110号土坑（第85図） 位置 V-26・27G 形状 東西に長い方形 規模 3.0×0.9m  
深さ 最深部20cm 底面 ほぼ平坦 主軸 N-76°-W 備考 地割れ跡に一部切られる。

第2節 古墳～平安時代・中・近世の構造と遺物



第84図 94号～105号土坑

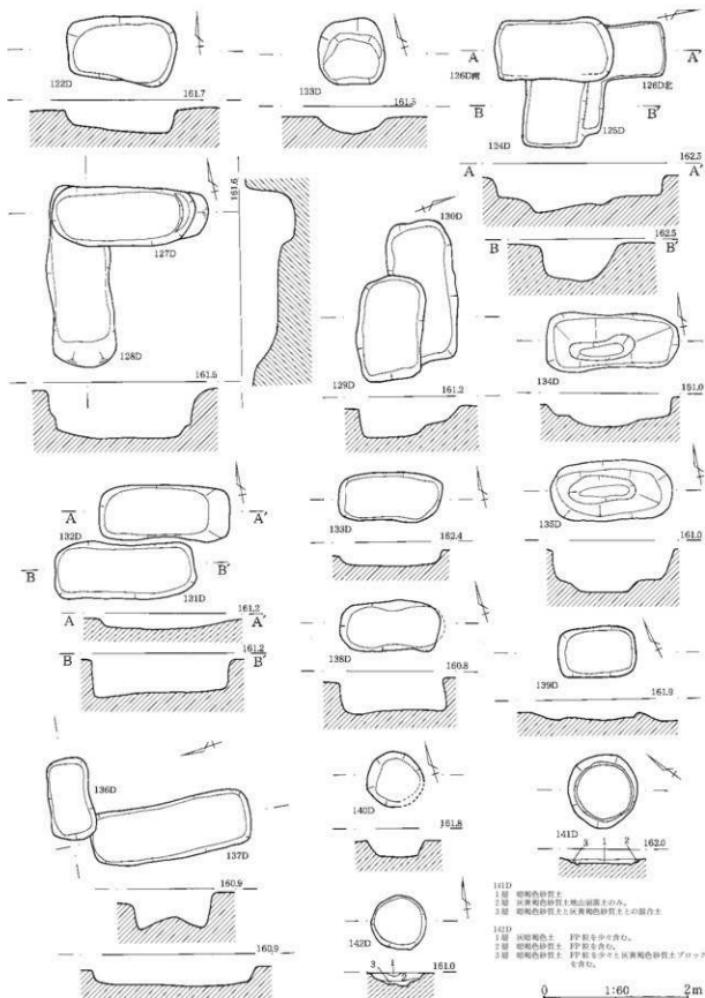
第IV章 東前沖遺跡（I・II区）



第85図 106号～117号・119号～121号土坑（第118号については全体図参照）

- 111号土坑（第85図） 位置 U-28G 形状 円形 規模  $0.90 \times 0.80m$   
 深さ 15cm 底面 平坦 主軸 N-43°-E 備考 5号住と重複、新旧不明
- 112号土坑（第85図 P L24） 位置 U-29G 形状 円形 規模  $0.90 \times 0.85m$   
 深さ 15cm前後 底面 平坦 主軸 N-23°-E 備考 —
- 113号土坑（第85図 P L24） 位置 T-29G 形状 円形 規模  $1.00 \times -m$   
 深さ 30cm 底面 平坦 主軸 — 備考 東方は調査区外。
- 114号土坑（第85図） 位置 T-28G 形状 円形 規模  $1.00 \times 1.00m$   
 深さ 30cm 底面 平坦 主軸 N-7°-E 備考 —
- 115号土坑（第85図 P L24） 位置 T・S-28G 形状 円形 規模  $1.10 \times 0.95m$   
 深さ 25cm 底面 平坦 主軸 N-7°-E 備考 —
- 116号土坑（第85図） 位置 V-24・25G 形状 漏丸方形 規模  $2.20 \times 1.60m$   
 深さ 最深部15cm 底面 凹凸あり 主軸 N-18°-E 備考 —
- 117号土坑（第85図） 位置 V-26G 形状 円形 規模  $0.80 \times 0.70m$   
 深さ 最深部25cm 底面 摺鉢状 主軸 N-37°-E 備考 —
- 118号土坑（第6図） 位置 S-24G 形状 円形 規模・他詳細不明
- 119号土坑（第85図） 位置 V-23・24G 形状 南北に長い方形 規模  $1.78 \times 0.75m$   
 深さ 25cm前後 底面 平坦 主軸 N-10°-E 備考 7号住南に隣接
- 120号土坑（第85図） 位置 Z-21・22G 形状 方形 規模  $1.50 \times 1.20m$   
 深さ 最深部37cm 底面 中央部に窪み 主軸 N-82°-W 備考 —
- 121号土坑（第85図） 位置 Z-21G 形状 方形 規模  $0.95 \times 0.70m$   
 深さ 35cm 底面 ほぼ平坦 主軸 N-70°-W 備考 120号土坑と近接、並列する
- 122号土坑（第86図） 位置 AA-19G 形状 方形 規模  $1.50 \times 0.85m$   
 深さ 30cm 底面 ほぼ平坦 主軸 N-78°-W 備考 —
- 123号土坑（第86図） 位置 X-22G 形状 方形 規模  $0.90 \times 0.90m$   
 深さ 20cm前後 底面 ほぼ平坦 主軸 N-17°-E 備考 —
- 124号土坑（第86図） 位置 W・X-21G 形状 東西に長い方形 規模  $- \times 1.1m$   
 深さ 50cm前後 底面 ほぼ平坦 主軸 — 備考 125・126号土坑と重複
- 125号土坑（第86図） 位置 X-21G 形状 南北に長い方形 規模 —  
 深さ 40cm前後 底面 ほぼ平坦 主軸 — 備考 124号土坑より旧。
- 126号土坑（第86図） 位置 W・X-21G 形状 南北に長い方形 規模 (北)  $- \times 0.70m$   
 深さ 30cm前後 底面 平坦 主軸 — 備考 2基の土坑重複。(南)  $1.65 \times 0.80m$   
 深さ 33cm大 底面 やや凹凸 主軸 N-10°-E 備考 —
- 127号土坑（第86図 P L25） 位置 X-18・19G 形状 東西に長い方形 規模  $2.10 \times 0.85m$   
 深さ 65cm前後 底面 ほぼ平坦 主軸 N-77°-W 備考 128号と重複
- 128号土坑（第86図 P L25） 位置 X-18・19G 形状 南北に長い方形 規模  $2.50 \times 0.85m$   
 深さ 40cm大 底面 平坦 主軸 N-8°-E 備考 127号より新
- 129号土坑（第86図） 位置 T・V-19G 形状 東西に長い方形 規模  $1.40 \times 0.90m$   
 深さ 45cm 底面 平坦 主軸 N-70°-W 備考 130号土坑と重複

第IV章 東前沖遺跡（I・II区）



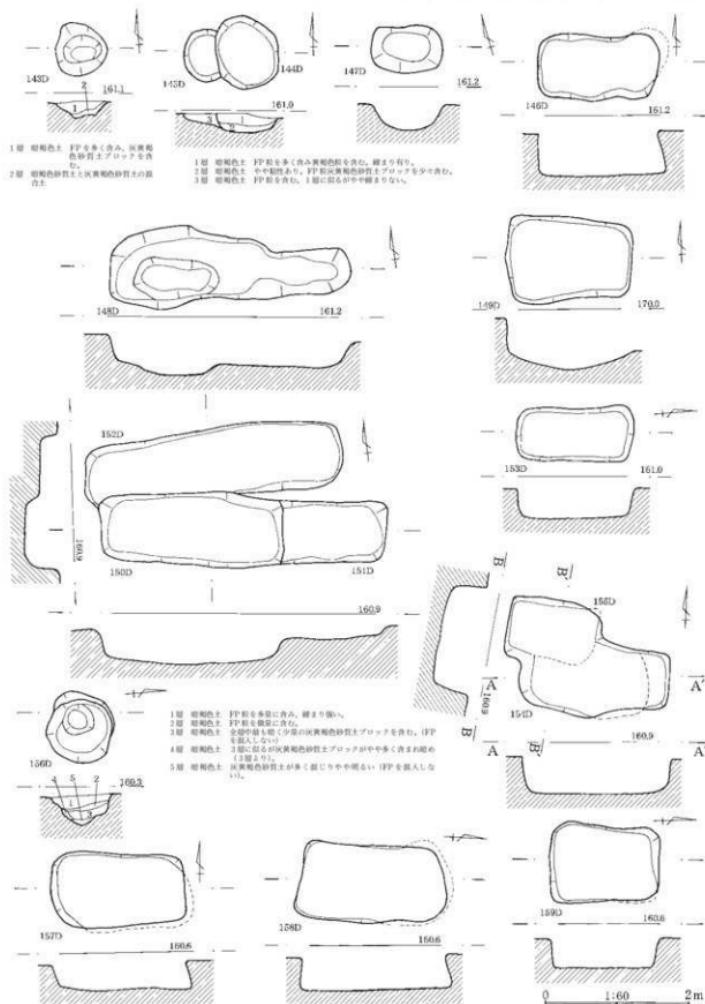
第86図 122号～142号土坑

- 130号土坑（第86図） 位置 U-19G 形状 東西に長い方形 規模 1.90×0.90m  
深さ 25cm前後 底面 平坦 主軸 N-77°-W 備考 129号より旧。
- 131号土坑（第86図） 位置 T-21・22G 形状 東西に長い方形 規模 1.8×0.7m  
深さ 40cm 底面 平坦 主軸 N-78°-W 備考 132号土坑に隣接。
- 132号土坑（第86図） 位置 T-22G 形状 東西に長い方形 規模 1.95×0.75m  
深さ 15cm 底面 平坦 主軸 N-81°-W 備考 —
- 133号土坑（第86図） 位置 S-22G 形状 東西に長い方形 規模 1.40×0.65m  
深さ 20cm前後 底面 ほぼ平坦 主軸 N-75°-W 備考 —
- 134号土坑（第86図） 位置 Q-22G 形状 東西に長い方形 規模 1.80×0.75m  
深さ 25cm 底面 中央部窪み 主軸 N-79°-W 備考 —
- 135号土坑（第86図） 位置 Q-21G 形状 東西に長い方形 規模 1.65×0.80m  
深さ 最深部60cm 底面 中央部窪み 主軸 N-83°-W 備考 —
- 136号土坑（第86図） 位置 R-19G 形状 東西に長い方形 規模 1.10×0.60m  
深さ25cm前後 底面 平坦 主軸 N-79°-W 備考 137号土坑と重複。
- 137号土坑（第86図） 位置 Q・R-19G 形状 南北に長い方形 規模 2.20×0.80m  
深さ25cm 底面 平坦 主軸 N-10°-E 備考 136号より旧。
- 138号土坑（第86図） 位置 P-19G 形状 東西に長い方形 規模 1.35×0.70m  
深さ 45cm 底面 平坦 主軸 N-68°-W 備考 —
- 139号土坑（第86図） 位置 AB-19G 形状 方形 規模 1.05×0.65m  
深さ 10cm前後 底面 平坦 主軸 N-66°-W 備考 —
- 140号土坑（第86図） 位置 AD-15・16G 形状 円形 規模 0.80×0.78m  
深さ 20cm前後 底面 平坦 主軸 N-32°-W 備考 —
- 141号土坑（第86図） 位置 AH-13G 形状 円形 規模 1.00×1.00m  
深さ 6 cm 底面 平坦 主軸 N-6°-E 備考 桶埋設、リング状窪み。
- 142号土坑（第86図） 位置 U-13G 形状 円形 規模 0.80×0.70m  
深さ 最深部20cm 底面 起伏あり 主軸 N-81°-W 備考 —
- 143号土坑（第87図） 位置 T-13G 形状 不整椭円形 規模 0.75×0.70m  
深さ 最深部22cm 底面 起伏あり 主軸 N-22°-W 備考 —
- 144号土坑（第87図 P L25） 位置 T-13G 形状 椭円形 規模 1.00×0.90m  
深さ 25cm 底面 平坦 主軸 N-37°-W 備考 145号土坑より新。
- 145号土坑（第87図 P L25） 位置 T-13G 形状 円形 規模 0.70×(0.60) m  
深さ 最深部 15cm 底面 東に傾斜 主軸 N-23°-W 備考 144号より旧。
- 146号土坑（第87図） 位置 S-16G 形状 東西に長い方形 規模 1.65×0.90m  
深さ 60cm大 底面 平坦 主軸 N-88°-W 備考 —
- 147号土坑（第87図） 位置 S-16G 形状 條丸方形 規模 1.0×0.65m  
深さ 35cm大 底面 ほぼ平坦 主軸 N-72°-W 備考 —
- 148号土坑（第87図） 位置 S-15・16G 形状 東西に長い方形 規模 3.30×0.6~1.0m  
深さ 最深部 58cm 底面 西方に窪み 主軸 N-80°-W 備考 2基の土坑重複か。

第IV章 東前沖遺跡（I・II区）

- 149号土坑（第87図） 位置 R-14・15G 形状 東西に長い方形 規模 1.73×1.10m 前後  
深さ 70cm大 底面 ほぼ平坦 主軸 N-85°-W 備考 17号住居跡と重複、土坑が新。
- 150号土坑（第87図 P L25） 位置 R-12G 形状 東西に長い方形 規模 2.50×1.05m  
深さ 50cm前後 底面 平坦 主軸 N-80°-W 備考 151・152号と重複。
- 151号土坑（第87図） 位置 R-13G 形状 東西に長い方形 規模 -×0.85m  
深さ 20cm前後 主軸 - 備考 150号土坑と重複。
- 152号土坑（第87図 P L25） 位置 R・S-12・13G 形状 東西に長い方形 規模 3.6×1.0m  
深さ 25cm前後 底面 平坦 主軸 N-90°- 備考 重複前述。
- 153号土坑（第87図） 位置 R-17G 形状 南北に長い方形 規模 1.60×0.70m  
深さ 40cm大 底面 平坦 主軸 N-6°-E 備考 -
- 154号土坑（第87図） 位置 Q-15・16G 形状 東西に長い方形 規模 2.0×1.10m  
深さ 50cm大 底面 平坦 主軸 N-87°-W 備考 155号と重複。
- 155号土坑（第87図） 位置 Q-15G 形状 方形 規模 1.30×0.85m  
深さ 50cm前後 底面 ほぼ平坦 主軸 N-81°-W 備考 154号土坑と重複。
- 156号土坑（第87図 P L25） 位置 P-14G 形状 楕円形 規模 1.0×0.92m  
深さ 最深部40cm 底面 摺鉢状 主軸 N-72°-E 備考 土師器杯片出土。
- 157号土坑（第87図 P L25） 位置 O・P-12G 形状 東西に長い方形 規模 1.80×0.90~1.05m  
深さ 35cm大 底面 ほぼ平坦 主軸 N-90° 備考 -
- 158号土坑（第87図） 位置 O-13G 形状 南北に長い方形 規模 2.0×1.05m  
深さ 45cm前後 底面 平坦 主軸 N-2°-E 備考 -
- 159号土坑（第87図） 位置 O-13G 形状 南北に長い方形 規模 1.50×1.00m  
深さ 40cm前後 底面 平坦 主軸 N-2°-E 備考 -
- 160号土坑（第88図 P L25） 位置 O-14G 形状 桶丸方形 規模 1.40×0.90m  
深さ 45cm前後 底面 ほぼ平坦 主軸 N-77°-W 備考 -
- 161号土坑（第88図） 位置 O-15G 形状 南北に長い方形 規模 1.15×0.60m  
深さ 10cm前後 底面 平坦 主軸 N-0° 備考 -
- 162号土坑（第88図） 位置 O-15G 形状 方形か 規模 -×1.10m  
深さ 35cm 底面 平坦 主軸 - 備考 163号土坑と重複。
- 163号土坑（第88図） 位置 O-16G 形状 南北に長い方形 規模 1.60×0.95m  
深さ 40cm大 底面 平坦 主軸 N-8°-E 備考 162号と重複。
- 164号土坑（第88図） 位置 O-16G 形状 南北に長い方形 規模 1.7×0.95m  
深さ 35cm前後 底面 ほぼ平坦 主軸 N-3°-E 備考 -
- 165号土坑（第88図） 位置 O-15・16G 形状 円形 規模 (0.90)×-m  
深さ • 他詳細不明
- 166号土坑（第88図） 位置 N・M-18G 形状 南北に長い方形 規模 4.43×1.25m  
深さ 最深部48cm 底面 平坦 主軸 N-0° 備考 -
- 167号土坑（第88図） 位置 M-15G 形状 東西に長い方形 規模 1.75×1.20m  
深さ 30cm前後 底面 平坦 主軸 N-80°-W 備考 -

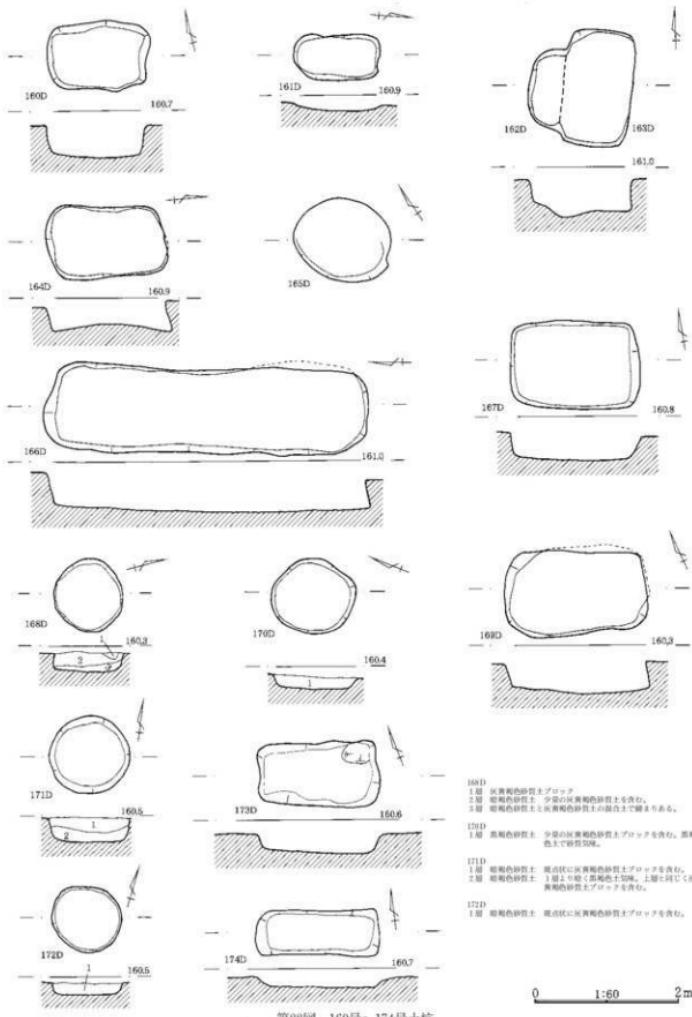
### 第2節 古墳～平安時代・中・近世の遺構と遺物



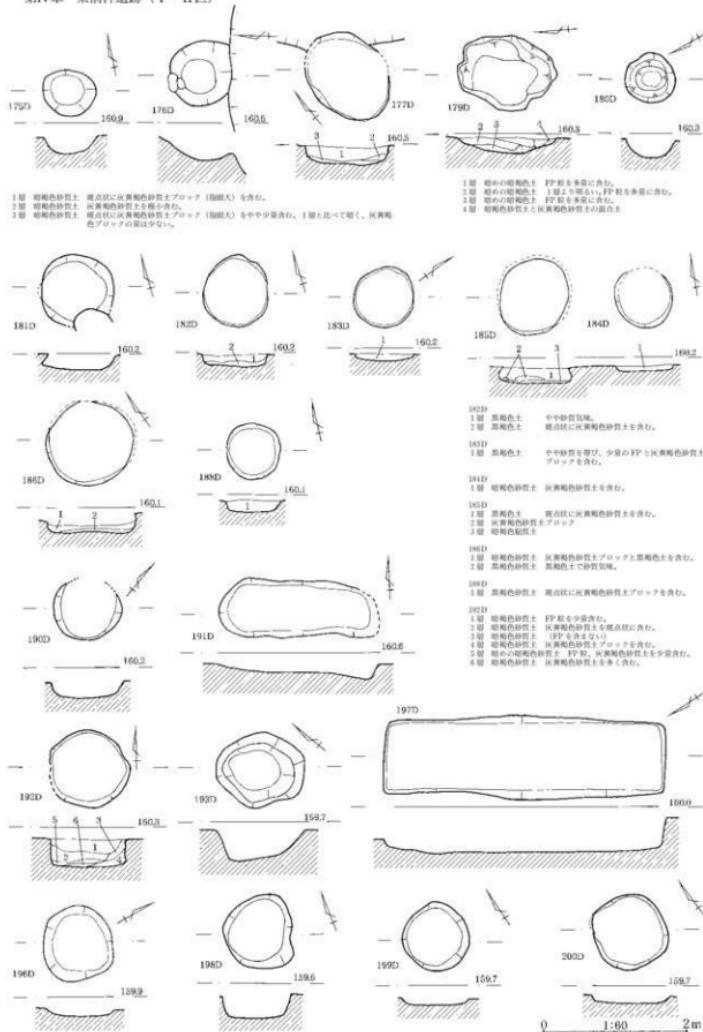
第87図 143号～159号土坑

第IV章 東前沖遺跡（I・II区）

- 168号土坑（第88図 P L25） 位置 K-14・15G 形状 円形 規模 0.95×0.95m  
深さ 25cm 底面 平坦 主軸 N-63°-E 備考 —
- 169号土坑（第88図） 位置 K-12G 形状 東西に長い方形 規模 1.90×1.10m  
深さ 45cm前後 底面 ほぼ平坦 主軸 N-70°-W 備考 —
- 170号土坑（第88図） 位置 N・M-12G 形状 円形 規模 1.10×1.00m  
深さ 15cm 底面 ほぼ平坦 主軸 N-4°-W 備考 —
- 171号土坑（第88図） 位置 N-11・12G 形状 円形 規模 1.10×1.10m  
深さ 30cm 底面 平坦 主軸 N-2°-W 備考 —
- 172号土坑（第88図） 位置 N-11・12G 形状 円形 規模 0.95×0.90m  
深さ 15cm 底面 平坦 主軸 N-78°-W 備考 —
- 173号土坑（第88図） 位置 O・N-11G 形状 東西に長い方形 規模 1.70×0.85m  
深さ 25cm前後 底面 平坦 主軸 N-71°-W 備考 —
- 174号土坑（第88図） 位置 Q・P-10・11G 形状 東西に長い方形 規模 1.70×0.60m  
深さ 15cm 底面 平坦 主軸 N-82°-W 備考 —
- 175号土坑（第89図） 位置 R-11G 形状 円形 規模 0.70×0.60m  
深さ 25cm前後 底面 平坦 主軸 N-48°-W 備考 —
- 176号土坑（第89図） 位置 P-16G 形状 円形 規模 0.90×-m  
深さ 35cm前後 底面 平坦 主軸 — 備考 20号住居跡より新
- 177号土坑（第89図） 位置 P-8G 形状 楕円形 規模 1.30×1.10m  
深さ 20cm 底面 平坦 主軸 N-3°-E 備考 3号溝跡と重複、旧
- 178号土坑（第60図） 位置 N-6G 形状 円形 規模 1.00×0.95m  
深さ 16cm大 底面 平坦 主軸 N-17°-W 備考 21号住居跡と重複、新
- 179号土坑（第89図） 位置 M-7G 形状 南北に長い楕円形 規模 1.35×1.05m  
深さ 最深部20cm 底面 起伏あり 主軸 N-3°-E 備考 —
- 180号土坑（第89図） 位置 M-8G 形状 円形 規模 0.70×0.70m  
深さ 最深部25cm 底面 平坦 主軸 N-29°-E 備考 —
- 181号土坑（第89図） 位置 M-6G 形状 円形 規模 1.05×1.00m  
深さ 20cm前後 底面 平坦 主軸 N-41°-W 備考 —
- 182号土坑（第89図） 位置 M-6G 形状 円形 規模 1.00×0.90m  
深さ 15cm 底面 平坦 主軸 N-10°-E 備考 —
- 183号土坑（第89図） 位置 L-6G 形状 円形 規模 0.80×0.80m  
深さ 10cm前後 底面 ほぼ平坦 主軸 N-4°-W 備考 —
- 184号土坑（第89図） 位置 L-6G 形状 円形 規模 0.85×0.75m  
深さ 5 cm前後 底面 平坦 主軸 N-6°-E 備考 —
- 185号土坑（第89図） 位置 L-5G 形状 円形 規模 1.10×0.90m  
深さ 20cm 底面 平坦 主軸 N-26°-E 備考 一部袋状
- 186号土坑（第89図） 位置 L-5G 形状 円形 規模 1.20×1.15m  
深さ 25cm前後 底面 平坦 主軸 N-88°-W 備考 —



第IV章 東前沖遺跡（I・II区）



第89図 175号～186号・188号・190号～193号・196号～200号土坑

(第178号については第60図187号・189号・194号・195号については第8図参照)

- 187号土坑（第8図） 位置 L-4G 形状 円形 規模 0.65×0.60m  
深さ・他詳細不明 備考 —
- 188号土坑（第89図） 位置 I-4G 形状 円形 規模 0.75×0.75m  
深さ 15cm 底面 平坦 主軸 N-9°-E 備考 —
- 189号土坑（第8図） 位置 L-4G 形状 円形 規模 0.55m×0.53m  
深さ・他詳細不明 備考 —
- 190号土坑（第89図） 位置 L-5G 形状 円形 規模 1.00×0.9m  
深さ 20cm 底面 平坦 主軸 N-60°-E 備考 —
- 191号土坑（第89図） 位置 O-9G 形状 東西に長い方形 規模 1.20×0.75m  
深さ 20cm 底面 東に傾斜 主軸 N-85°-W 備考 —
- 192号土坑（第89図） 位置 K-10G 形状 円形 規模 1.10×1.05m  
深さ cm 底面 平坦 主軸 N-34°-W 備考 —
- 193号土坑（第89図） 位置 F-9G 形状 楕円形 規模 1.20×1.00m  
深さ 最深部40cm 底面 中央部窪む 主軸 N-63°-W 備考 —
- 194号・195号土坑（第8図） 位置 G-9・10G 形状 円形 詳細不明
- 196号土坑（第89図） 位置 H-12G 形状 円形 規模 1.05×0.90m  
深さ 10cm前後 底面 平坦 主軸 N-61°-W 備考 —
- 197号土坑（第89図） 位置 H・I-13G 形状 南北に長い方形 規模 3.85×1.15~1.00m  
深さ 50cm 底面 平坦 主軸 N-34°-E 備考 24住より新。
- 198号土坑（第89図） 位置 E-10G 形状 円形 規模 1.00×1.00m  
深さ 30cm前後 底面 ほぼ平坦 主軸 N-22°-E 備考 —
- 199号土坑（第89図） 位置 E-10G 形状 円形 規模 0.90×0.90m  
深さ 10cm前後 底面 平坦 主軸 N-11°-W 備考 —
- 200号土坑（第89図） 位置 D-10G 形状 円形 規模 1.00×0.98m  
深さ 10cm前後 底面 平坦 主軸 N-8°-E 備考 —
- 201号土坑（付図1） 位置 C・D-12G 形状 方形状 詳細不明。 備考 —

以上、東前沖遺跡I・II区出土の土坑についてその概要をみてきた。これら検出された201基の土坑については、平面形態から大きさは2種類に分類することが可能である。さらにこれらの内、形態種あるいは主軸方位の違い等から、さらに幾つかのタイプ別に細分される。

円形タイプ……108基 方形タイプ……79基

① 円形	87基	④ 隅丸方形	22基
② 楕円形	15基	⑤ 東西に長い方形	40基
③ 不整円・楕円形	4基	⑥ 南北に長い方形	17基

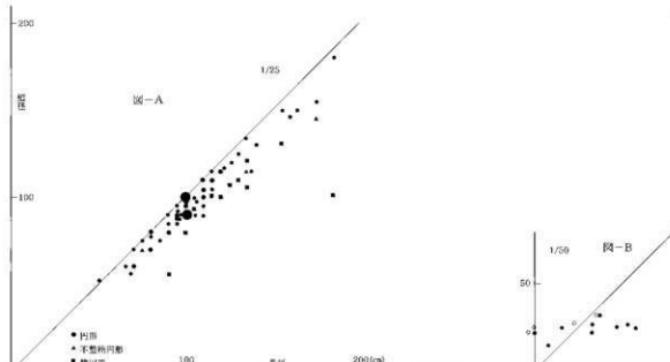
これらの内、数量的に最も多い形態は円形であり、次いで方形タイプのうち東西に長い形態、南北に長い方形タイプが比較的多くみられる。この内円形タイプは同形態全体の80パーセントに達し、次い東西長軸タイプが約50パーセント、南北長軸が約17パーセントの割合を示している。両方向長軸形全体で、70パーセントを占め、円形タイプにはほぼ拮抗する位置を占めている。

#### 第IV章 東前沖遺跡（I・II区）

次に規模の違いについて一覧表Aをみてみると、円形形態ではほぼ1.0～1.20mあたりに集中する傾向がみられ、その数値以上を示すものが少なくなる。これに対し方形形態では、円形タイプよりややばらつきがみられるが、長径1.0～2.0m内、短径1.0m内に収まるものが多い。また一覧表Bで示したように、⑤・⑥タイプの内、長軸数値が3.0m前後～5.0mを超えるものが、東西長軸形で9基、南北長軸形で4基確認される。これらは長径3.0～5.0m内、短径1.0m前後に収まる傾向を示している。

これらの土坑群は、位置的には一局的な集中としては捉えがたいが、I区では5号溝跡西側のAR・AS-18・19グリッド及び東側AG～AJ-28～33グリッドより、II区S～X-24～29グリッド周辺、II区南西18号溝跡周辺のJ～M-4～14グリッド周辺にある程度のまとまりが鳥瞰される。

時期については、出土遺物等が検出されておらず明言はさけるが、周辺一帯に奈良時代初めの住居跡群が分布することからも当該期に伴う遺構もあるろうが、確認には至らない。近年の調査事例等からみてその多く、特に長方形タイプの存在等を俎上材として中・近世あるいはそれ以降の可能性も想起されよう。円形タイプの中で、141号土坑底部に桶埋設痕とみられる痕跡が確認される等興味深い。



第90図 出土土坑法量比率図

(5) 溝跡・槽状遺構



第91図 溝跡・柵状遺構位置図

#### 第IV章 東前沖遺跡（I・II区）

東前沖遺跡ではI・II区合わせて33条に及ぶ溝跡が検出されている。特にはII区において、鈎の手状に屈曲する溝跡群が多くみられる。当初中・近世の屋敷跡の存在等が期待されたが、それと思われる痕跡の検出には至らなかった。しかし南半部には耕作痕とみられる溝状列等が確認される等、その一部は地割り等の区画に関連する可能性が考えられる。溝自体の上幅は狭いもので20cm前後から、幅広のもので2~5m前後を計るもの等幾つかのパターンが確認される。出土遺物は全体的に少なく、覆土内より出土したものが数点確認されている。以下その概要をみてみたい。

##### 1号溝跡

AW-19~21・AX-18・19グリッド跨って検出され、北西~南東方向に向かい、AW-21グリッド東端で消滅する。一旦西側で緩く湾曲した後ほぼ直線的に走行する。比較的浅い溝跡で、上幅約30~50cm前後、総距離13m大である。遺物は検出されなかった。時期は不明。

##### 2号溝跡

AU-18~21グリッドに検出。主軸方位ほぼN-90°で、東西方向に走行、22グリッドより東側へ延長するともみられる。一部1・2号住居跡を切り取る。上幅30~35cm、深さ24cm前後。断面U字状。1号住居跡では床面下まで達している。遺物はない。

##### 3・4・23号溝跡（第92図 P L25）

3号溝跡はII区調査区、T-5グリッドから南東方向に走行、P・Q-8グリッド付近で鈎の手状に折れ、K-14グリッド付近で23号、4号溝跡と重複、消滅する。途中L・M-12グリッドあたりで北から南走る13号溝跡に切られる。北西及び南東部へさらに延長するとみられる。上幅40cm~最大1.4m前後。周辺の原形図からみて、比較的新しい区割り溝に関連するとみられる。

4号溝跡はK・L-13・14グリッドに跨って検出。L-13グリッド付近で3号溝跡から枝状に分かれ、K-15グリッド西端付近で消滅する。上幅は凡そ10cm程度であろうか。

23号溝跡は3号溝跡と合流後、I-16グリッド北西付近まで確認されるが、途中I-15グリッド付近で23号住居跡と重複、さらに調査区南東方向へ連続するとみられる。上幅は最大50cm前後。

##### 5号溝跡

I区調査区AL~AQ-22グリッドラインからほぼ直線的に南下し、II区調査区北AF-21グリッド~AA-19グリッドラインにかけて継続するとみられる。II区調査区ではやや角度を変え、南北方向に傾く。途中AF-21グリッドで東西方向に走る27号溝跡と、さらにAA-19グリッドでは、同じく東西方向の26号溝跡と重複する。相互の新旧関係は不明である。また26号溝跡との交差以南は鈎の手状を呈した後9号溝跡となるが、恐らく一連の溝跡とみられる。規模は上幅15~20cm前後、深さ24~26cm前後、断面逆台形状をなす。遺物は検出されなかった。規模・形状から中・近世に該当か。

##### 6号溝跡・1号ピット列遺構（第92・97図 P L25）

溝跡はII区調査区中央南、西端P-4グリッドから北東方向に向かい、Q-8グリッド及びS-8グリッドで一旦それぞれL字に折れる。その後北・東方向に向かって直線をなし、T-21グリッドで枝状に小溝跡を形成、消滅する。途中S-11・12グリッド付近で、西より24号・13号溝跡と、T-18・19グリッドで9号溝跡と、さらにR-8グリッド内で北西~南東下する3号溝、北東~南西下する22号溝跡とそれぞれ重複する。前者は24号との関係は不明、13号・9号溝跡が新しい。後者は土層堆積から本跡が古い。規模は上幅40~60cm前後、深さ最大14cm前後。断面U字状をなす。覆土内より土師器長胴壺(1)、同杯(2)が出土している。

また溝跡南及び東西両端部より南側へかけて小ピット列が並び、全体でほぼコの字状区画をなす。東西方向38本、東側14本、西側8本を数える。東西ピット列については、西側部分がS-10グリッド付近で西側へ続かず、南側へ折れる形をとっている。また6号溝跡とほぼ主軸方向が同じであり、一連の遺構であろうか。これらのピット列は、大凡2.0～2.5m間隔で穿たれているようであり、近接位置のピットもあることから、2～3回程度の穿ち替えを行ったのであろうか。距離は東西列55m、東方列16.5m、西方列22mを計る。ピットの平面形は円形ないしは梢円形、規模は径25～30cm前後、深さ約14～32cm前後である。

#### 7号溝跡

AD-14・AE-13・14グリッド～AF-13グリッドにかけて検出された。ADラインで北西方向に向けて鉤の手状に折れ、北西方向へ向かい、一部10号住居跡を切る。しかし南・西側共に延長部分は確認されなかった。ただ南側AA-12グリッドライン、22号溝跡と走行方向が同じであり、これに続く可能性もある。上幅約40～7cm前後、深さ約10cm前後、断面U字状をなす。遺物はない。

#### 8号溝跡

II区調査区、V-12～東方向U・V-18グリッドに位置、東西方向に走行する溝跡である。東・西両端部で9号・13号溝跡に連結し、東側は9号溝よりさらに東側、U-19グリッドラインまで延長するとみられる。またU-14グリッド付近で、16号住居跡の北西辺の一部を切る。上幅40～45cm、深さ最大10cm前後、断面U字状をなす。

#### 9号溝跡（第97・98図）

II区調査区北よりAA-18・19グリッドラインから南下し、J-18グリッドまで繙続、さらに調査区外南側へ延長する。北側は前述5号溝跡から引き続くとみられる。M～T-18・19グリッド付近はやや幅広となり、若干湾曲する。上幅最大3.5mを計る。覆土内で削り出し高台をもつ須恵器鉢(3)、高台付鉢(6)、同じく頸部に波状文をもつ壺(4)、横瓶(5)、壺(7)等が検出されている。溝跡自体は現形状況からみて、比較的新しい溝跡ではなかろうか。

#### 10号溝跡

II区南西M-4～6グリッドに跨って検出。北から南下する21号溝跡、さらに東西方向の20号溝跡との間で、東西方向に走行する溝跡。調査区西側へ延長するのか詳細は不明。21号溝跡より旧いか。

#### 11号溝跡

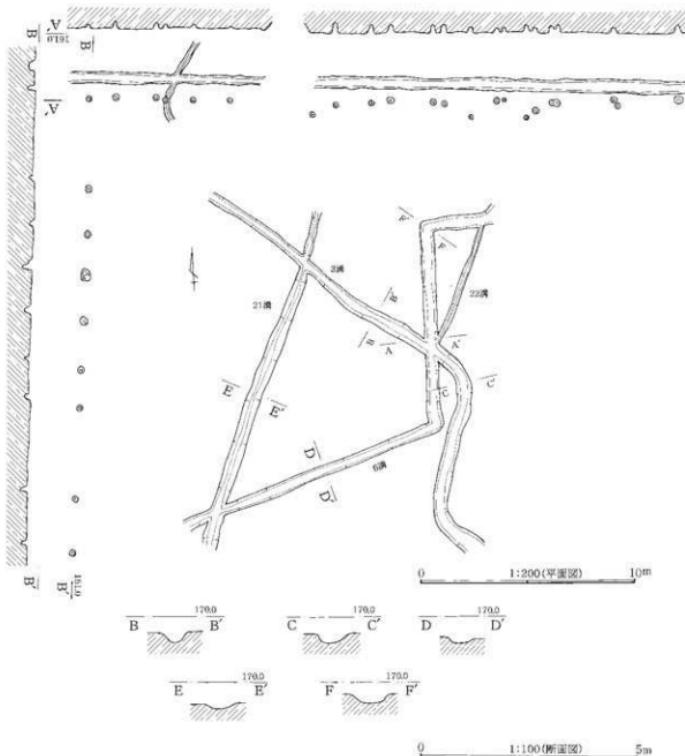
I区調査区東半、AN-28～AL-31グリッド付近で逆L字状に折れ、AG-30グリッドに向かい南下する。現状の地形現形から、区割りに関連する近年の新しい溝とみられる。

#### 12号溝跡（第98図）

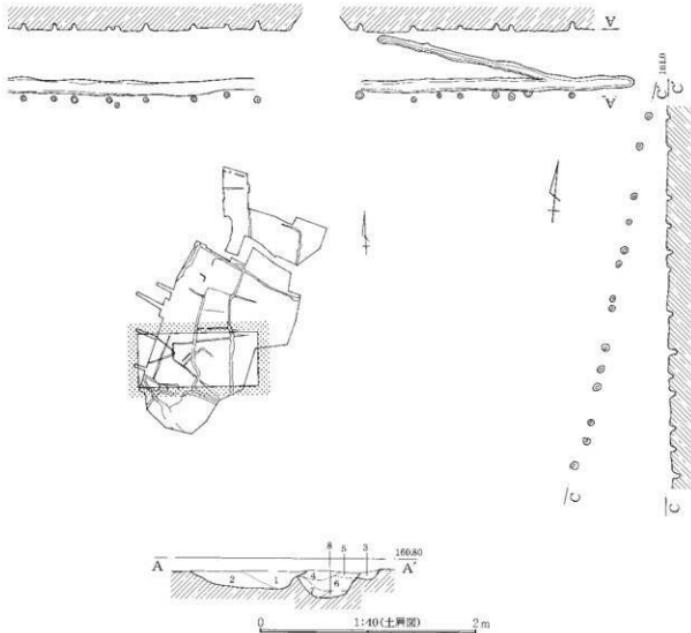
II区調査区、O-12グリッド～J-12グリッド付近まで緩く湾曲して南下し、L字に折れてI-15グリッド付近まで東西方向に走行する。同じ流路をたどる13号溝跡があり、一連の溝跡であろう。東側に併行する9号溝跡と、ほぼ同じような長軸方向を示していることや、幅広形態の特徴等から新しい溝跡か。遺物は直接遺構に伴わないので、12・13号溝北周辺で須恵器蓋(8)・壺(9)が確認された。

#### 13号溝跡（第98図）

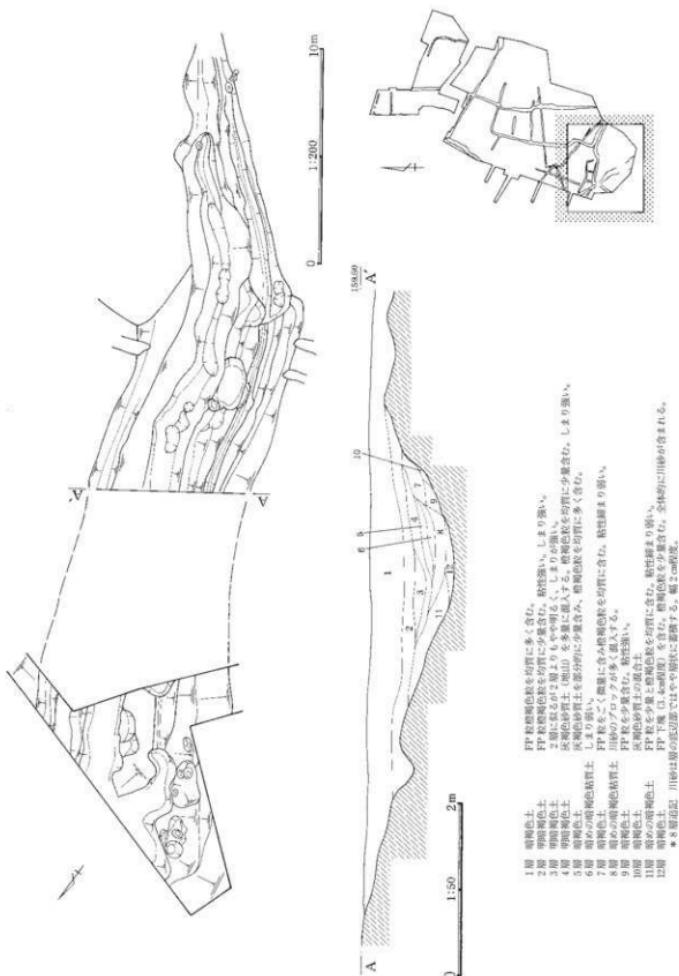
II区AA-18～AC-14グリッドにかけて東西走行、L字に折れ南下、J-11グリッド付近で再び東に折れる。南端部は一部湾曲するが、ほぼコの字状の区画をもつ。南端東に折れる部分は30・31号溝跡等と合流する。幅広で、上幅2.0m前後。9号溝跡と同じ機能をもつとみられる。



第92図 1号櫛状遺構



- 1層 黒褐色土 少量の黄褐色砂質土を含む。  
 2層 黒褐色砂質土 喀斯特土ブロックと灰黃褐色砂質土を含む。  
 3層 黒褐色砂質土 2層に似る。  
 4層 黒褐色土 FPを多く含む。  
 5層 黒褐色土 灰黃褐色砂質土を含む。  
 6層 黒褐色土 やや粘性がありFPと灰黃褐色砂質土を含む。  
 7層 灰暗褐色粘質土  
 8層 灰暗褐色粘質土 FPと灰黃褐色砂質土を含む。



第93図 17号溝跡

## 14号溝跡（第94図）

II区調査区J-10・11～南西H-7・8グリッドに跨る。J-11グリッド付近では、北から14号・31号・30号溝跡が東西方向に並んで緩く湾曲し、I-9グリッドあたりで14号溝が南北方向に走行し、17号溝跡と、さらにJ-10グリッドラインで4号掘立柱建物跡と重複、いずれに対しても本溝跡が新しいとみられる。規模は上幅最大70cm前後、深さ確認面で15cm程度が残存。

## 15号溝跡

H-8グリッドより南西方向、G-4グリッド付近で消滅する。途中17号溝跡・26号住居跡と重複する。新旧は26住→17号溝→15号溝の順とみられる。上幅約30cm前後、総距離23m程度の極浅い溝跡である。南側の14号溝跡とほぼ主軸方向が同じであり、時期的に併行するかもしれない。

## 16号溝跡

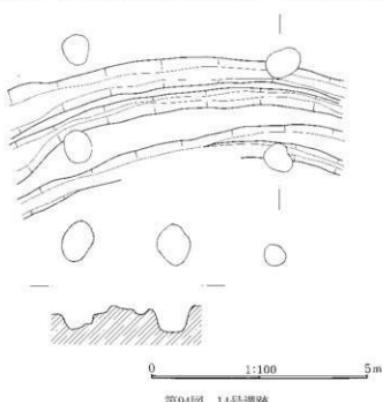
15号溝跡の南、F-6・7、G-6グリッドに検出。検出長7m程度出、調査区外南西方向に継続する。上幅約45～50cm前後である。主軸方向・調査区南側の現状状況からみて、地割り溝であろうか。

## 17号溝跡（第95・98図 P L26）

II区調査区南端、M-2・3グリッド～南東方向に走行、H-5・6・7グリッド付近でやや幅広となり、D-7・8・9グリッドに至る。長軸方位はN-32°W。北西部途中で29・30・33号溝跡と、さらに南東側で前述14・15号溝跡と重複する。前者との新旧関係は、30・33号溝跡との新旧は不明、29号溝跡とは調査段階で本溝跡が古いと判明した。規模は、北西側で上幅約2.0m前後であるが、南東側では最大9mとなる。これは数回にわたる改修に因るものとみられ、最終的には2.5m前後、深さ1.0m、断面U字状をなす。底面で互層形成の砂層堆積が確認された。遺物は底面で、須恵器高台付鉢(11)、やや上で土師器杯(6)が確認された他、覆土1層内で土師器小形甕(12)が出土した。時期的には、遺物からみてほぼ集落形成期と重なり、その後平安時代の前半代頃にはほぼ平坦地であったとみられる。

## 18号溝跡

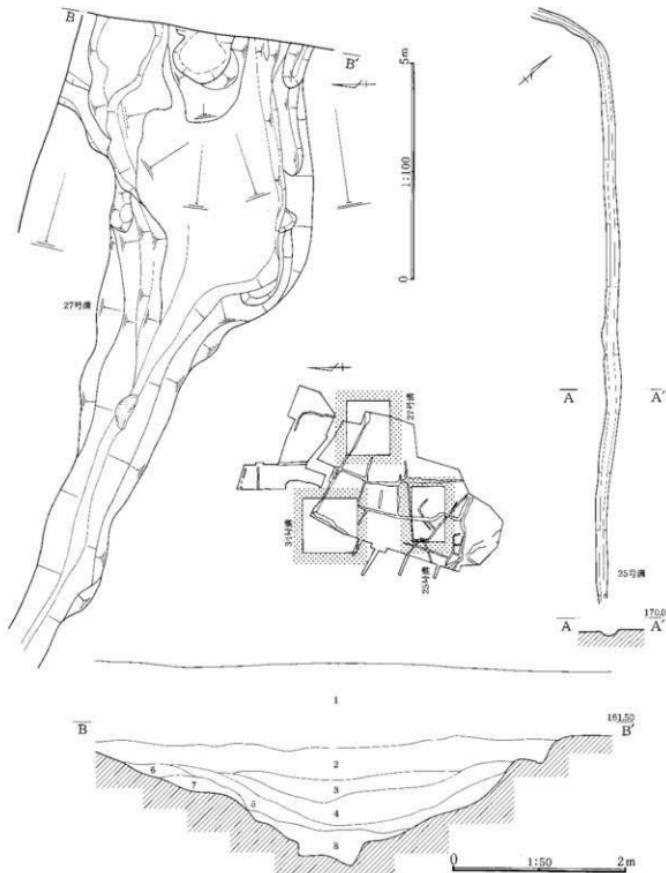
K・L-5グリッドから東に折れ、同9グリッド付近で再び南に向かって折れ、全体がコの字状を成す。途中K・L-5～7グリッド付近で、西から東へ走行する20号溝跡と重複する。新旧は18号→20号の順とみられる。上幅約30～40cm前後。20号溝跡について南・西側に展開する田園の地割りのラインに合致しており、これを判断材とすれば比較的新しい時期ではなかろうか。



第94図 14号溝跡

## 19号溝跡

P-10グリッドから北東方向、Q-11グリッドにかけて検出。南に隣接する25号溝跡と主軸方位がほぼ同じである。また北側部分には1号ピット列があり、西端から南に延びるピット列と重複する。



- 1 層 耕作度  
 2 層 黒の強い暗褐色土 FP 粒と棕褐色を均一に含む。しまり強く粘質。  
 3 層 黒の強い暗褐色土 2 層より黒味がかった暗褐色土。FP 粒と棕褐色を均質に少量含む。しまり弱く粘性。  
 4 層 前めの暗褐色土 棕褐色を多量に含む。FP 粒指頭大のブロックをやや多めに含む。層の底部に幅約 7 cm 程の明白棕色粘質土(砂利、及び砂質土)の塊状層。しまり弱く粘性弱い。  
 5 層 黑褐色土 灰白色の砂土(地山) ブロックと棕褐色を(やや大きめ)を部分的に少量含む。しまり弱く粘性あり。極小の砂利(1 mm 程度)を均一に多く含む。  
 6 層 前褐色土 灰白色砂質土(地山) を多く混入する。しまりある。  
 7 層 前褐色土 灰白色砂質土の混合土。灰白色砂質土の方が多い(崩れ過ぎか?)  
 8 層 黑褐色土 砂利を含む明灰色褐色土ブロックを多く含む。灰白色粘質土ブロックと棕褐色ブロック(指頭大)を少量含む。しまりなし粘性。  
 \* 5 層と 8 層の黒褐色部分は近似する。

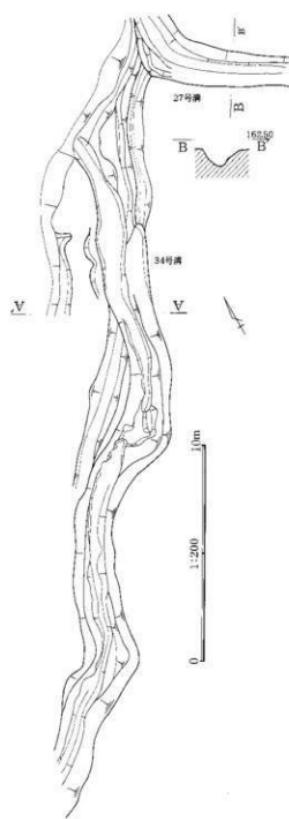
第95図 25号・27号溝跡

新旧関係・時期は詳明。

#### 20号溝跡

M-3グリッドから緩い角度で南東方向へ走り、L-7グリッド付近で字に折れ南下する。18号溝跡との新旧関係は前述の通りである。調査区外西側には田園城が拡がり、本遺構の延長ラインにその区割りが合致することが判明した。溝の上幅は18号溝跡とほぼ同様で30~40cm前後である。

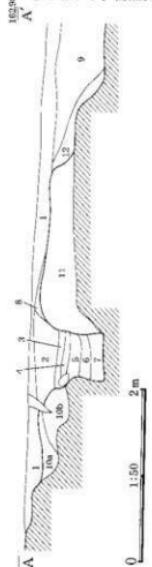
#### 21号溝跡（第92図）



T-7グリッド付近からほぼ直線的に南下、M-4グリッドラインでL字に折れ20号溝跡と合流する。途中S-7・P-6グリッドで3・6号溝跡と重複。上幅60cm前後、深さ20cm大である。

#### 22号溝跡（第92図 P L25）

Z-2グリッドより南西方向に向かって直線的に南下、R-8グリッドで3号溝と合流する。途中V-10グリッドあたりで、長さ約13mにわたり枝状に分離する。溝の上幅20~30cm程度。時期は不明。等高線の小支谷地形に合致することから、自然流路の溝であろうか。



1回 細かな網状の褐色土。  
FP斜面の褐色土をもとにした。  
2回 布施の褐色土。  
3回 布施の褐色土。  
4回 布施の褐色土。  
5回 布施の褐色土。  
6回 布施の褐色土。  
7回 布施の褐色土。  
8回 布施の褐色土。  
9回 布施の褐色土。  
10a 斜 布施の褐色土。  
10b 斜 布施の褐色土。  
11回 布施の褐色土。  
12回 布施の褐色土。

\* 6, 7号は水のため、注記や不明りうつ。6号は引渡はまつたく含まれない。

第96図 27号・34号溝跡

#### 第IV章 東前沖遺跡（I・II区）

##### 24号溝跡

T-11グリッドより南西下、途中でL字に折れ、R-12グリッド付近で25号溝と重複する。25号溝手前で6・13号溝とぶつかるが、いずれに対しても新しいと思われ、近年の区割り溝であろう。

##### 25号溝跡（第95図）

24号溝跡の南東側で、P-15～R-13グリッド方向に走行、L字に折れて南西下O-10グリッド3号溝と重なり消滅する。途中13号溝と重複する。上幅30～35cm前後、深さ約15cm程度が残存。

##### 26号溝跡

Z-23～西方向 AA-19グリッドにかけて東西走行する。同19グリッド付近で鈎の手状に屈曲、9号溝となつて南下する。上幅約40～70cm前後である。

##### 27号溝跡（第95・96図 P L26）

II区AJ・AK-13グリッド付近からほぼ直線的に、N-60°-Wの長軸をもって南東下、AA-31グリッドラインに至る。検出延長約140mに達する。同グリッド付近ではやや幅広となり、東に向かって低く傾斜する。底面はやや凹凸が確認され、東端部分は不整円形状をなし、調査段階でかなりの湧水がみられ、底面レベルの確認ができなかった程である。幅広の要因はこの為であろう。規模は上幅1.4～最大5.0m、深さ75cm～最大1.35mである。覆土は、南端部で検出された17号溝跡に類似しており、同時期の溝跡と考えられる。とすると両溝跡の間に展開される集落との関係が注目される。さらに北西端部では、さらに北側に折れることが確認されている点も見せない。

##### 28号溝跡

AG・AH-15・16グリッド～AH-18グリッド、さらにAG-19～21グリッドラインまで跨る。全体的にL字状の溝跡で、これまで出土した24号溝跡等と同機能の遺構であろう。上幅最大50cm大。

##### 29号・30号溝跡

J-5～9グリッドラインで東西走行し、同J-5グリッド付近で南にL字に折れ、H-4グリッド付近で調査区外方向へ抜ける。途中Jラインで30号溝跡と東西に並行、J-5グリッドで合流する一連の溝跡である。調査区外南西側に、田圃及び畠地境の区割りが確認され、それに繋がる溝であろう。

##### 31号溝跡

J-10～13・J-14・15グリッド付近に跨る。凡そ東西方向に走行し、J-10グリッド付近で若干南に湾曲、14号溝に繋がる。前述12・13・30号溝跡と走行方向が共通する。上幅45cm、深さ11cm。

##### 32号溝跡

Y-14・15～X-15・16グリッドに跨る。東西方向に走行する溝跡で、東・西両側にそれぞれ南走する9号・13号溝跡が接する。これについては南側に8号溝跡と主軸方向も同じであり、同機能の溝であろう。上幅は50cm、深さ約7cm前後、断面U字状をなす。

##### 33号溝跡

J・K-4グリッドで17号溝跡と重複、北西L-2グリッドに至る。17号との新旧は、恐らく東側29号溝跡あたりから走行しており、この関連でみれば33号が新しい可能性をもつ。上幅最大1.2m。

##### 34号溝跡（第96・98図 P L26）

AJ・AK-13グリッド内で27号溝跡と交差した後、南西方向に走行、AD・AE-9グリッドまで調査した。長軸方位はN-33°-Eにあり、交差する27号溝跡とは90°の角度で折れる。平面的には交差する2条の溝単位として確認された。両者間に若干の時間差があったといえる。27号溝跡との交差地点では、本溝跡が27号に切

## 第2節 古墳～平安時代・中・近世の造構と遺物

られるプランが確認され、旧い溝跡ということになる。土層堆積では、縮まりの強い暗褐色土主体で、最下層面には多量の川砂が確認される。規模は上幅1.3～最大2.0m、深さ70cm、断面U字状をなす。

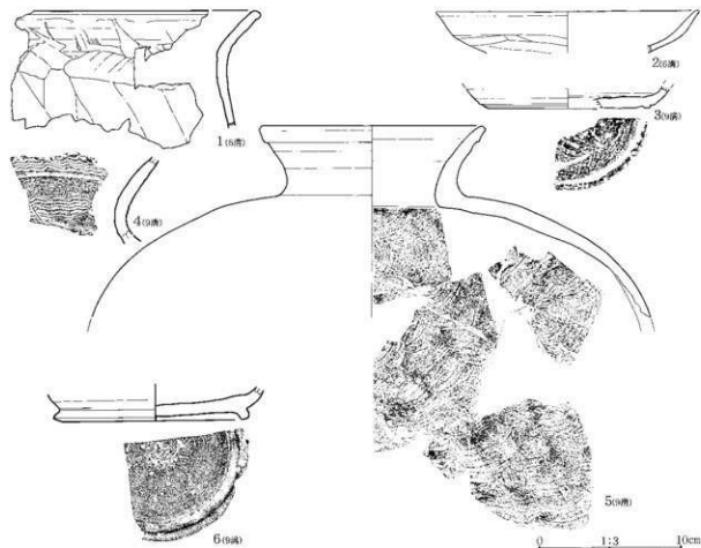
### 35号溝跡

AC-11～南西方向 AA-13グリッドに跨る。東端部で13号溝跡にぶつかる。東側の26号溝跡とはほぼ同様の方向性にある。周辺には他に32号溝跡等、同方向の溝群が多い。上幅約70cm前後。

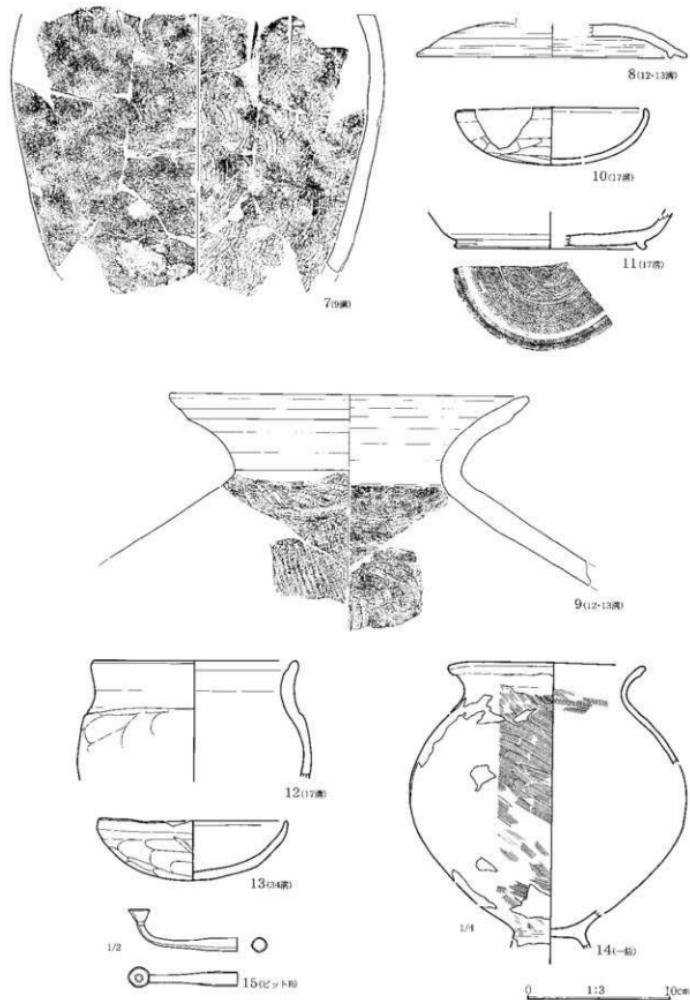
#### (6) 地割れ跡

I・II区調査区の東半部に検出。I区では AH～AP-24～26グリッドライン、これに続くII区では R～AG-24～30グリッドライン、さらに南側で、M～Q-19～21グリッドラインに及ぶ部分で検出された。標高はI区北側で163.00m～II区南側160.50m付近にわたる。走行方向は、主軸方向からみて凡そ三方向が確認される。この内最も長いものは、I・II区に跨って確認される地割れ跡-1で、総距離約139m、途中で若干湾曲気味となる。これに対しU～Wラインの地割れ跡-2は北東～南西方向に、Q-19・20グリッドの地割れ跡-3は、北西～南東方向というように、距離自体は短いものの、それぞれ異なった方向性を示す。

これらの時期については、今のところ近隣遺跡の「上大屋・樋越地区遺跡群」「上ノ山遺跡」等の類例から、平安時代前期に成立された「類聚国史」に記載される弘仁九年（818年）の地図に伴うと考えられる。



第97図 溝跡出土遺物(1)



第98図 溝跡出土遺物(2)・ビットB

## 第V章 西前沖遺跡

### 第1節 繩文時代の遺構と遺物

#### B・C・E・F地点

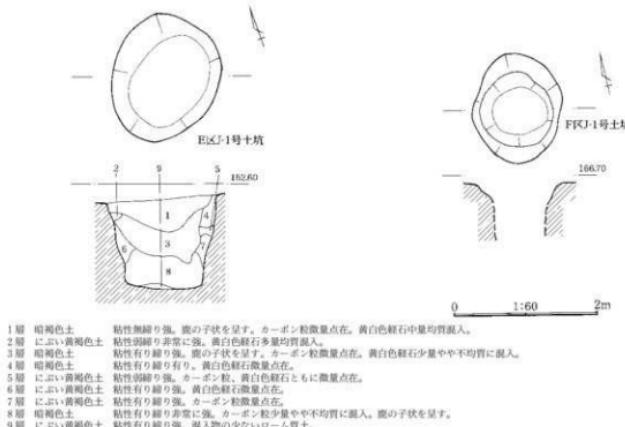
##### (1) 土 坑

###### E地点J-1号土坑(第99図 P.L45)

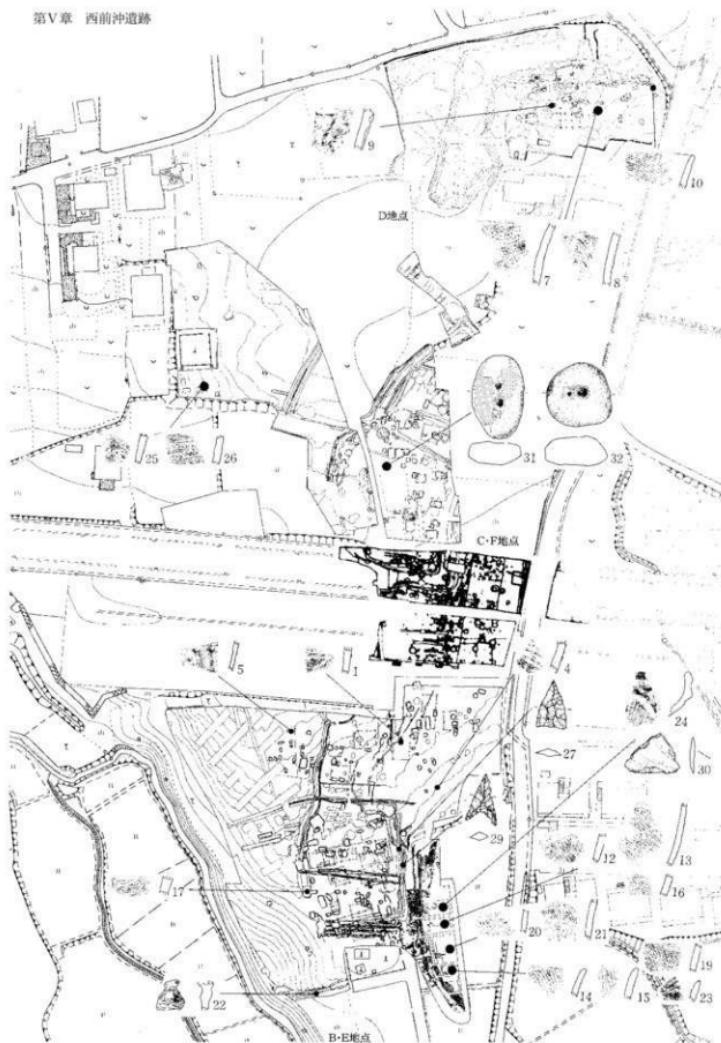
E地点K-5グリッドに位置する。標高162.50m付近で、台地先端部西側緩斜面地に検出された。周辺一帯では、縄文時代に該期する遺構は他に確認されず、本遺構1基のみである。上面部は『類聚国史』記載、弘仁九年(818年)に発生したとされる地震災害に起因する地割れ痕が確認される。平面形は、東西方向に長軸をもつ梢円形を呈し、長径1.15m、短径0.93m、確認面よりの深さ0.9m前後である。底面は平坦で、断面形は逆台形状をなす。覆土主体土は暗褐色土、微量のカーボン粒を含む。壁面際には崩落に伴うとみられる黄褐色土が互層を形成。出土遺物はみられなかった。

###### F地点J-1号坑(第99図)

F地点N-6グリッドで、標高166.60m付近に検出。東側に向かって傾斜する緩斜面上にある。周辺には北側約17m付近に、同時代とみられる風倒木跡1基が検出された他は、遺構は確認されなかった。平面形は南北に長い梢円形をなし、規模は長径1.5m、短径1.3mmである。断面上半段く外反後、直線的に立ち上がる。深さは0.7m程度まで確認。E地点あるいは西久保遺跡出土土坑と同様、台地斜面上に占地する共通性を示す。出土遺物は検出されなかった。

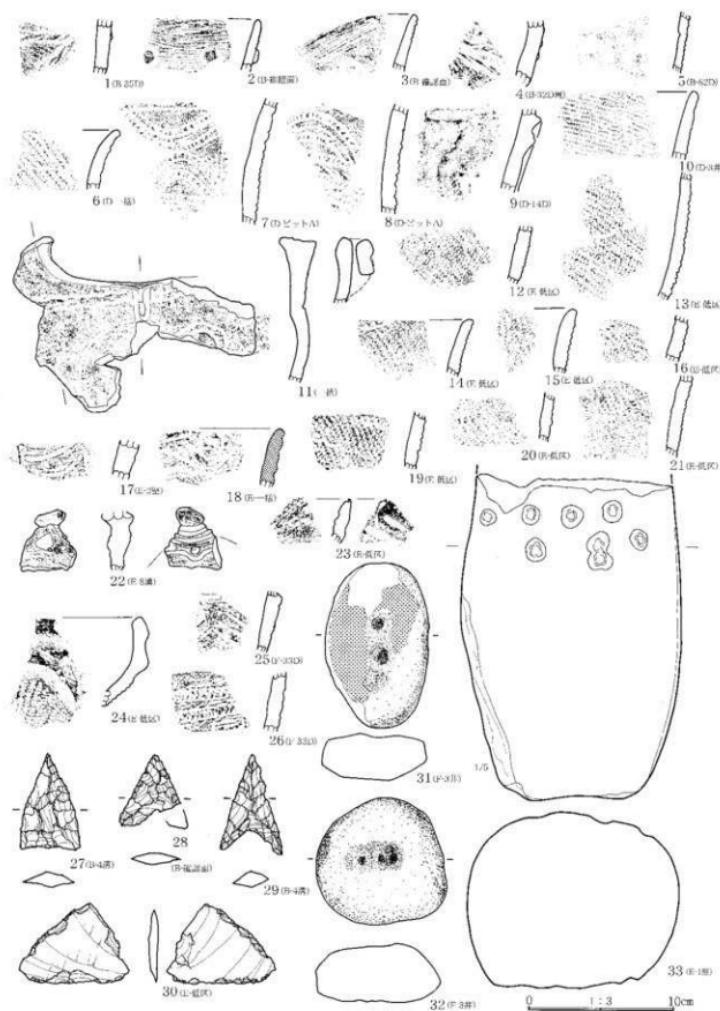


第99図 E地点J-1号・F地点J-1号土坑



第100図 繩文時代出土遺物分布図

第1節 繩文時代の遺構と遺物



第101図 繩文時代出土遺物

## (2) その他の出土遺物

## 西前沖遺跡（第100・101図 P L72）

東前沖遺跡と同様に縄文時代の遺物は遺物包含層から出土したもので、直接遺構に結びつかない。遺物分布は、B・E地点の東側にやや偏在性するものの、全体に亘って出土した。ただし、遺物の検出から、今後、周辺区域の調査で縄文時代の集落の検出が考えられる。

出土した遺物は、大きく縄文時代前期後半の諸磯b式期が主体を成す。このほか後期前葉の堀之内式の出土が見られる。

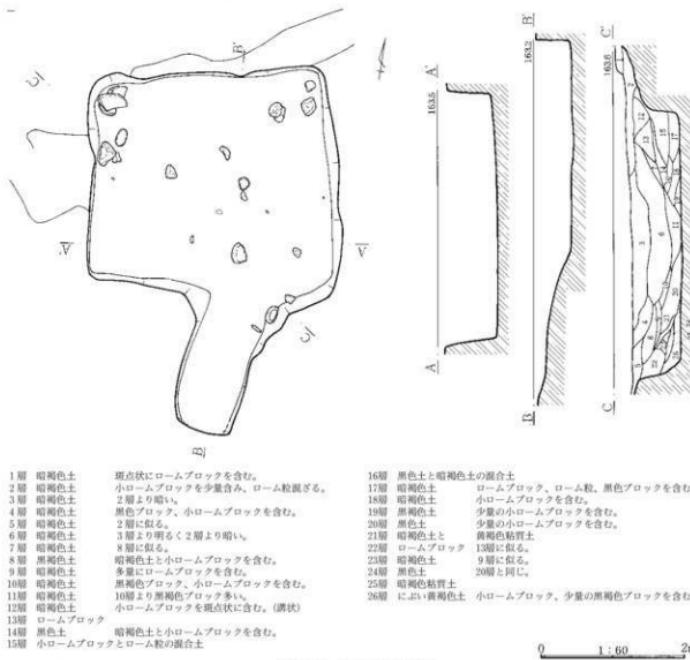
1・4は諸磯b式。斜めの刻みが入る浮線文。地文に縄文RL。色は浅黄色。焼成・胎土とも良好。2は諸磯c式。横位の集合沈線文と円形貼付文。色は黄灰色。焼成・胎土とも良好。3は波状口辺。諸磯b式。集合沈線。色は黄灰色。焼成・胎土とも良好。5は諸磯c式。集合沈線。色はにぶい黄色。焼成・胎土とも良好。6は口辺部。諸磯b式期。縄文LR施文。色は黄褐色。焼成・胎土とも良好。7・8は諸磯b式。半截竹管による連続爪形文による弧状沈線。色は赤褐色。焼成・胎土とも良好。9は阿玉台III式。隆帯と浅い爪形文が入る。色はにぶい橙色。焼成・胎土とも良好。胎土に金雲母含む。10は口辺部。諸磯式。斜行縄文RL。色はにぶい赤褐色。焼成・胎土とも良好。11は阿玉台式。沈線による波状文、弧線。色は暗赤褐色。焼成・胎土とも良好。胎土に金雲母を含む。12は諸磯式。斜行縄文RL。にぶい赤褐色。焼成・胎土とも良好。13は諸磯式。斜行縄文RL。にぶい赤褐色。焼成・胎土とも良好。14は口辺部。諸磯式。斜行縄文RL。にぶい赤褐色。焼成・胎土とも良好。15は口辺部。諸磯式。斜行縄文RL。にぶい赤褐色。焼成・胎土とも良好。16は諸磯式。斜行縄文RL。にぶい赤褐色。焼成・胎土とも良好。17は称名寺I式。沈線による波状文、弧線。色は灰黄色。焼成・胎土とも良好。18は口辺部。戸戸上層式。内削ぎ口唇。色は赤褐色。胎土に纖維を僅かに含む。19は諸磯b式。綾線文。斜行縄文RLに結節が入る。色は赤褐色。焼成・胎土とも良好。20は諸磯式。斜行縄文RL。色は赤褐色。焼成・胎土とも良好。21は諸磯式。斜行縄文RL。色は赤褐色。焼成・胎土とも良好。22は突起部。堀之内II式。鎖状隆帯。色は灰黄色。焼成・胎土とも良好。23は加曾利B式。沈線による区画。色は浅黄色。焼成・胎土とも良好。24は加曾利E3式。沈線と充填縄文RL。色は黒褐色。焼成・胎土とも良好。25は諸磯b式。半截竹管による沈線。色はにぶい黄色。焼成・胎土とも良好。26は諸磯b式。半截竹管による連続爪形文。色はにぶい黄色。焼成・胎土とも良好。統いて石器である。27は平基無茎鍬。重さ1.0g。チャート製。28も凹基無茎鍬。重さ0.6g。チャート製。右基部を欠損。29は凹基無茎鍬。重さ0.7g。黒曜石製。30は削器。重さ31g。頁岩製。2辺に刀部が形成される。2面に大きく主要な剝離面を残す。31はくぼみ磨り石。重さ450g。粗粒安山岩。表裏面とも2側ずつくぼみ。表裏・側面とも磨り石として使用。熱を受けている。32はくぼみ石。重さ450g。粗粒安山岩。33は多孔石。重さ29.75kg。粗粒安山岩。

## 第2節 中・近世の遺構と遺物

## B・E地点

## (1) 積穴住居跡 (第102・103図 PL27・70・71)

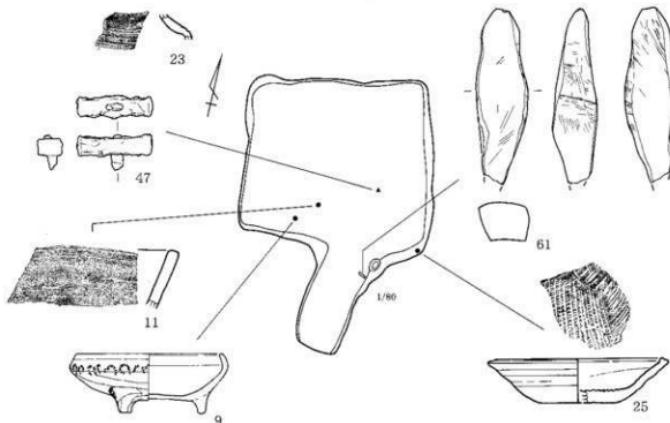
台地上のほぼ中央平坦面P・Q・7・8・8グリッドに位置する。西側縁辺には地下式土坑群、北側には東西南方向の1号溝跡等が接続する。また遺構北西部には、5号溝跡が南北方向に走行。土層堆積から本遺構より新しいとみられる。形状は方形状を呈し、北西コーナー部が若干圓丸状に膨らむ。南辺側やや東寄りに長方形状の張り出しがもつ。出入り口施設であろうか。規模は、東西長3.55m、南北長3.18m、壁高60cm前後を計る。張り出しが南北方向に長軸をもち、幅0.9m、長さ1.3m、確認よりの深さ約15cm前後である。遺構竪穴部に向かい、緩やかなスロープを形成、本体部との境部に小ピットを検出。仕切り等に伴うものか。竪穴部分の主軸はN-80°-E、張り出しがN-5°-Eを示し、南北辺に対して平行ではなく、やや斜め南西方を向く形態となっている。壁面は直立気味に立ち上がる。床面はほぼ平坦で硬く、壁際内外面共に精査したが、柱穴等は検出されなかった。床面は中央部にわずかに円形プランを呈し、炉床痕が確認され、このことから竪穴遺構



第102図 1号竪穴住居跡

とは一線を画し住居跡とした。

出土遺物は、20~30cm前後の大形礫が北西コーナー部、遺構全体の床面に散在して出土。他に軟質陶器内耳鍋(11)、鉄製品柄(47)が床面で出土。張り出し部若干上で砥石(61)、南東コーナー壁面で瀬戸・美濃系鉢皿(25)、床面やや上で土師質三足香炉(9)等の他、覆土内で瓦器質茶壺？肩部片(23)が出土。



第103図 1号穴住居跡出土遺物分布図

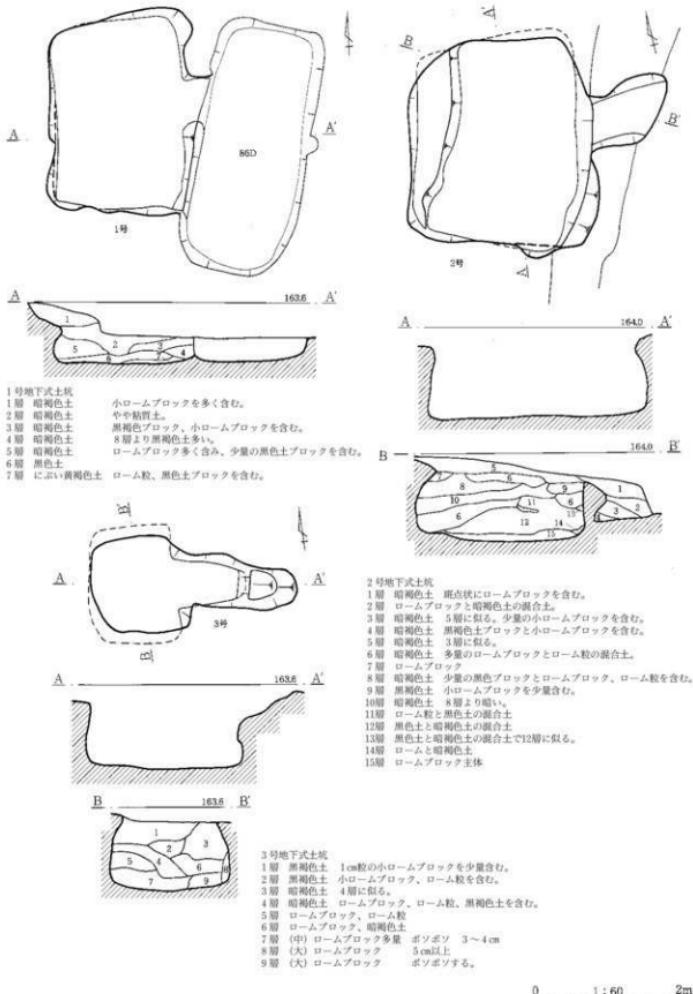
## (2) 地下式土坑

### 1号地下式土坑（第104図 PL27）

O-6グリッドに位置し、東側で長円形の86号土坑に東入り口部を、また南北方向に走行する5号溝跡によって、竪穴部壁上半及び天井部は既に失われている。周辺では北側1.3mに2号地下式土坑が隣接する。形状は、竪穴部隅丸方形状をなし、東辺やや北寄りに出入り口部を設ける。出入り口の形状は不明である。規模は、出入り口幅約55cm程度が確認。竪穴部は南北方向にやや長く、西辺側は袋状をなしてオーバーハングする。規模は南北長2.9m、東西長2.0m、確認面よりの深さ80cm。竪穴部の主軸方位は、N-2°-Eを示す。床面はほぼ平坦で、覆土はロームブロックを含む暗褐色土。遺物は検出されなかった。

### 2号地下式土坑（第104図 PL27）

1号地下式土坑の北、P-6グリッド内に検出。1号同様東辺側上半は5号溝跡によって切られている。東辺やや北寄りに出入り口が付設するとみられるが、現状では崩落に由来するか、土坑状の落ち込みとなっている。天井部は既にない。形状は竪穴部で、南北に主軸をもつやや不整隅丸方形状を呈し、東辺側が梢円形にわずか張り出す。また北辺側及び南辺側の一部は、わずかに内側に向かいオーバーハングする。規模は南北長



第104図 1号・2号・3号地下式土坑

## 第V章 西前沖遺跡

2.05m、東西長1.70m、張り出し幅0.15m、深さ1.2m程度残存する。竪穴部の主軸方位はN-12°-Eを示す。底面は西辺内側で若干の段差がみられるが、17層形成のロームブロック主体土による一種の貼り床を形成していたものか。出入り口の形状は不明である。遺構内の覆土状況からみて、1号土坑と同時期に構築されたものとみられる。出土遺物は検出されなかった。

### 3号地下式土坑（第104図 PL27）

2号地下式土坑の北約2.5m、Q-6グリッドで、5号溝跡の西1.5m地点にある。竪穴部は南北に長く、東辺中央部に出入り口とみられる、東西に長い張り出しをもつ。竪穴部は上面で、やや楕円形状に近い平面プランをなすが、底面では楕丸方形に拡がる形態をなし、袋状にオーバーハングする。東側出入り口は検出当初、ややだれた状態であったが、ほぼ二段ないし三段の階段状を形成していたと想定される。規模は、出入り口幅60~70cm前後、一段の階段高推定25~30cm前後、長さ1.7m前後、竪穴部南北長1.6m、東西長1.25m、深さ1.0m程度残存。竪穴部の主軸方位は、N-5°-Wを示す。覆土はこれまでみてきた1・2号とはほぼ同様である。下層付近では天井部の崩落に伴うとみられるローム主体土が確認されている。出土遺物は検出されなかった。

### 4号地下式土坑（第105図 PL28）

Q・R-6グリッドに検出された。前述3号地下式土坑の北側約3mに位置し、遺構北側に東西走行の1号溝跡が隣接する。竪穴部はこれまでと同様、南北に長い楕丸方形をなし、東辺部ほぼ中央に出入り口施設の張り出しを付設する。竪穴部から出入り口への変換点は一部天井部が残存し、底面から外部へ向かい傾斜角50°で立ち上がる。かなり急角度であり、構築当初は階段状等の形態を想定したい。規模は、出入り口幅最大1.0m、全長1.9m、検出現長1.4m。竪穴部南北長2.7m、東西長2.08m、深さ1.2m程度が残存する。主軸方位はN-2°-Wを示す。底面は平坦、壁面はわずかにオーバーハングする。覆土は、暗褐色土主体で、これまでみてきた遺構と基本的に同じである。出土遺物は検出されなかった。

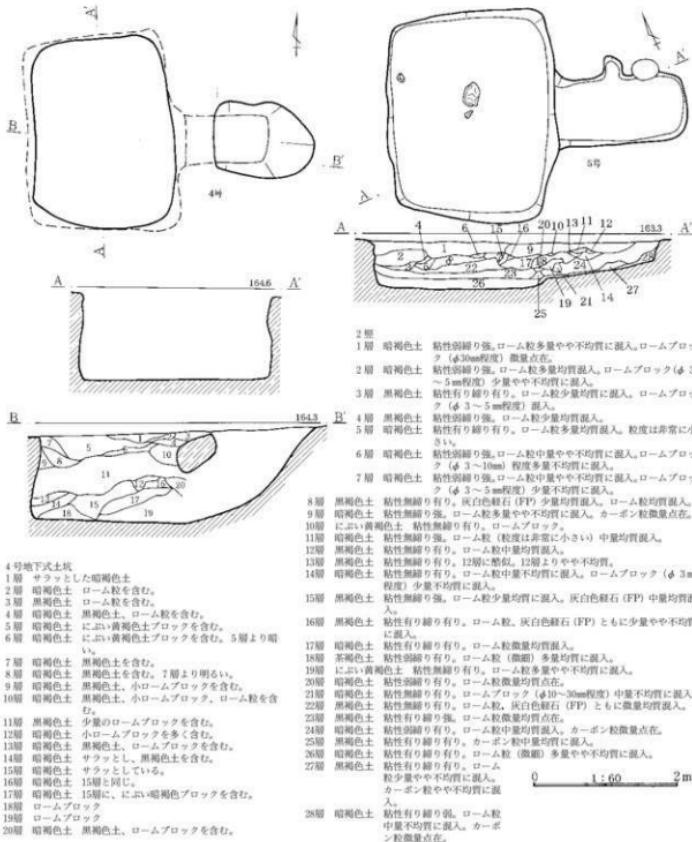
### 5号地下式土坑（第105・143図 PL28）

M・N-5・6グリッドに跨って検出。北側約5mに1号地下式土坑がある。また遺構北側で南下していく7・10号溝跡と重複、いずれに対しても本遺構が新しい。竪穴部は南北に長い楕丸方形をなし、東辺部中央に出入り口とみられる長円形状の張り出しをもつ。天井部は既に失われている。竪穴部からの変換部は、底部より段を形成後、緩傾斜状のスロープをなし直線的に立ち上がる。規模は竪穴部南北長2.9m、東西長2.28m、確認面よりの深さ65cm、張り出し部幅90~95cm前後、長さ1.8m、深さ45cmである。竪穴部主軸方位は、N-22°-Eを示す。出土遺物は、竪穴部覆土内で径12~30cm前後の安山岩礫2点程度が確認されたに止まる。

### (3) 竪穴遺構

#### 1号・2号竪穴遺構（第106・143図 PL45・80・81）

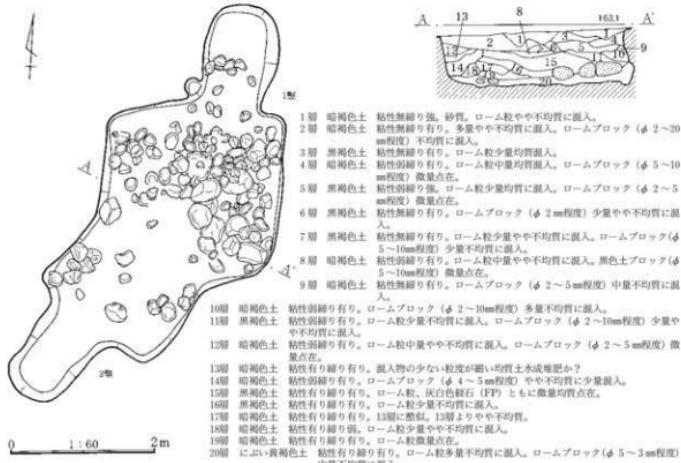
K・L-5・6グリッドに跨り検出された。1・2号の新旧関係は不明である。两者共に楕丸方形の本体をもち、1号は北辺部に、2号は南辺部にそれぞれ長円形の張り出しを付設する。遺構内には大小の安山岩自然礫を中心として、大量の礫群が検出された。中に縄文時代の多孔石(33)等も含まれており、遺構該期との時間差があること等を前提にすれば廃棄されたものと考えられる。ただしこうした礫群がみられるのは本遺構の



第105図 4号・5号地下式土坑

みであり、周辺の土坑群にはみられない。このことからすると、廃棄行為？に何か特殊な意味合いでもあったのであろうか。

遺構の規模は、1号で本体南北長2.3m、東西長2.5m、深さ62cm前後、張り出し部幅最大1.0m、長さ1.4m、深さ50cm。竪穴部の主軸方位N-90°-。2号で南北長1、東西長1.9m、深さ67cm、張り出し部幅90cm、長さ1.35m、深さ38cmを計る。出土遺物は、石製品の多孔石の他は検出されなかった。



第106図 1号・2号窓穴遺構

## (4) 掘立柱建物跡

## 1号掘立柱建物跡 (第107図)

調査区北東R・S・T・U-16・17グリッドに検出された。周辺一帯は土坑群等が散在し、比較的の遺構が少ない。構造は桁行2間 (P1~P3・P5~P7)、梁行2間 (P3~P5・P7~P9)で構成される。主軸方位は桁行 (棟方向) 方向でN-18°-Eを示す。柱間寸法は桁行東側で、P1から南にかけて2.4m (8尺)-2.4m (8尺)だが、西側は東側ほど均一ではなく、P7から南にかけて2.55m (8.5尺)-2.25m (7.5尺)と若干の違いがみられる。梁行寸法はP1~西側に1.5m (5尺)-1.8m (6尺)であるのに対し、P3~西側では約1.95m (6.5尺弱)-1.8m (6尺)とP3・P4間がやや幅広で、柱穴自体が軸線より若干南にそれる様相となっている。規模は桁行4.8m、梁行3.3~3.75m、面積15.84~18m<sup>2</sup>。規範的にやや小さく、倉庫等の付随施設に隣接するか。遺物は未検出である。

## 2号掘立柱建物跡 (第107図)

調査区北東S・T・U-15・16グリッドに検出され、東側に隣接して1号掘立柱建物跡がある。また本跡西北側に地割れ跡が走行、加えて方形プランの22号土坑があり、桁行P7に相当する柱穴を検出するには至らなかった。構造は、桁行4間 (P1~P5・P6~P10)、梁行1間 (P5・P6・P10・P1)で構成される。主軸方位は、桁行方向でN-30°-Eを示している。桁行西側で、P7にあたる柱穴は柱間寸法は桁行東・西側共にほぼ2.3m (7.7尺弱) 間隔。梁行北・南側共に3.6m (12尺) である。規模は桁行9.2m、梁行3.6m、面積33.12m<sup>2</sup>である。梁行1間であるのに対し、桁行が4間と南北に長く、性格を考慮する上で注目される建物跡である。遺物は(4)かわらけ底部片出土。

**3号掘立柱建物跡（第108図）**

2号掘立柱建物跡の南西側に隣接、R・S-13・14グリッドに検出された。構造は桁行2間（P1～P3・P4～P6）、梁行1間（P1・P6・P3・P4）で構成される。梁行は、間の柱穴が予測されたが、検出には至らなかった。主軸方位は桁行（棟方向）方向でN-27°-Eを示す。柱間寸法は、桁行東・西両側共に2.25m（7.5尺）-2.25m（7.5尺）、梁行は南側4.35m（14.5尺）、北側4.5m（約15尺）を計る。従って規模は桁行4.5m、梁行4.35m、面積19.57m<sup>2</sup>である。遺物は検出されなかった。

**4号掘立柱建物跡（第108図）**

北東区、S・T-12・13グリッドに検出された。南東側8m付近に3号掘立柱建物跡がある。構造は桁行2間（P1～P3・P5～P7）、梁行2間（P3～P5・P7～P1）で構成され、東西にやや長い建物跡である。このうち梁行北側のP8にあたる柱穴は、重複する13号井戸によって切り取られ、梁行P1とP8の間は若干ずれがある。主軸方位は桁行方向で、N-68°-Wを示している。柱間寸法は、桁行東側でP1～東に向けて2.4m（8尺）-2.25m（7.5尺）。これに対し南側は、P5～北に向かってやや幅狭となり、2.25m（7.5尺）-2.25m（7.5尺）を計測。梁行は東側P3～南へ2.1m（7尺）-1.8m（6尺）である。規模は桁行4.5～4.65m、梁行3.9m、面積17.55～18.13m<sup>2</sup>である。柱穴は柱痕に関連するか二重円形をなすものが主体的である。遺物は検出されなかった。

**5号掘立柱建物跡（第109図）**

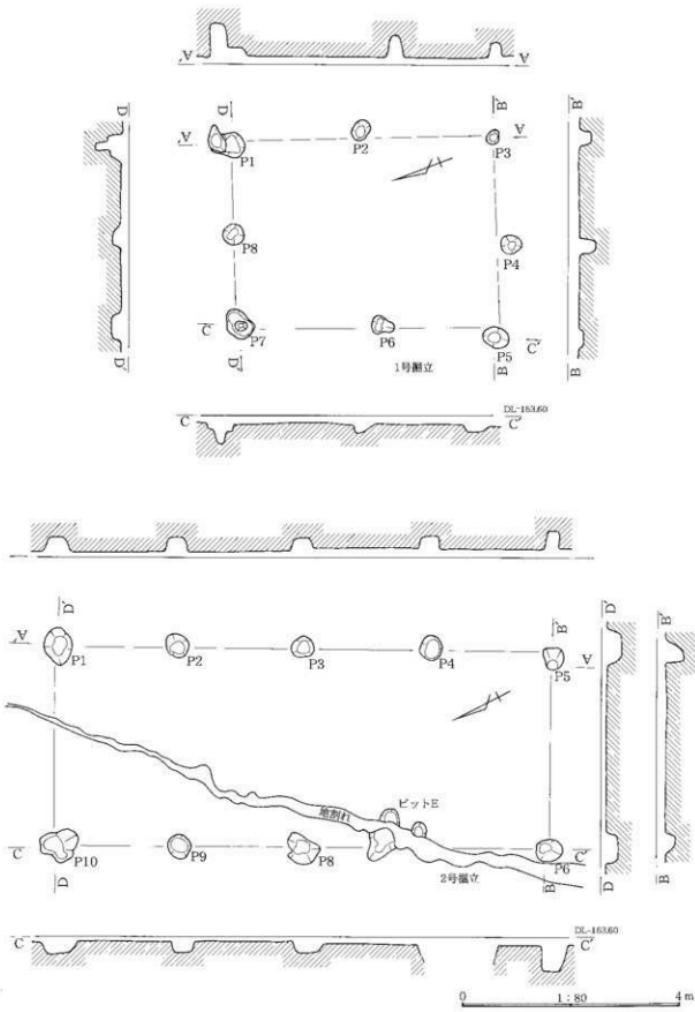
R・S-9・10・12グリッドに跨って検出された。周辺はピット・土坑群が密に分布する区域である。構造は桁行2間（P1～P3・P5～P7）、梁行2間（P3～P5・P7～P1）で構成される。梁行西側の柱穴列は東側に比較してやや小さく、P1は軸線よりやや南側にずれる位置にある。主軸方位は桁行（棟方向）方向でN-62°-Wを示し、前述4号掘立柱建物跡と同様東西に長い建物跡である。柱間寸法は比較的良好な桁行北側で、P1～東に向かって2.85m（9.5尺）-2.25m（7.5尺）、梁行は西側で、P1～南に向かって1.8m（6尺）-2.1m（7尺）、東側で1.65m（5.5尺）-2.7m（9尺）を測る。規模は桁行5.1m、梁行最大4.35m、面積22.2m<sup>2</sup>である。周辺で常滑片（31）が出土。

**6号掘立柱建物跡（第109図）**

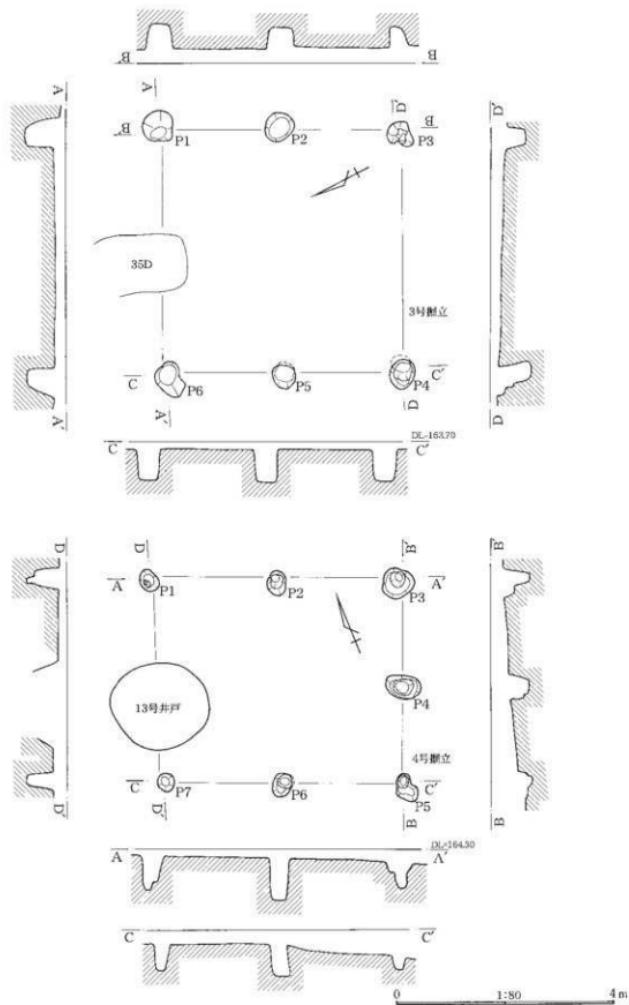
調査区中央部にあたり、ピット群が最も過密集中する地区である。M・N-9・10グリッドに検出され、コの字状に区画する溝跡が建物跡群を囲むように位置する。構造は、桁行2間（P1～P3・5～P7）、梁行2間（P3～P5・P7～P1）で構成され、東西に長い建物跡である。主軸方位はN-82°-Wを示す。柱間寸法は、桁行北側でP1～東に向かって1.95m（6.5尺）-1.8m（6尺）、南側でP5～西に向かって1.5m（5尺）-2.25m（7.5尺）と総寸法は同じながら、柱穴間の寸法に若干の違いがある。同様に梁行東側でP3～南に向かって1.95m（6.5尺）-1.35m（4.5尺）、西側でP7～北に向かって1.65m（5.5尺）-1.65m（5.5尺）と間隔が異なる。規模は桁行3.75m、梁行3.3m、面積12.37m<sup>2</sup>となる。柱穴平面形はやや長円形をなし、深さ70～80cm前後と深い。遺物は検出されなかった。

**7号掘立柱建物跡（第110図）**

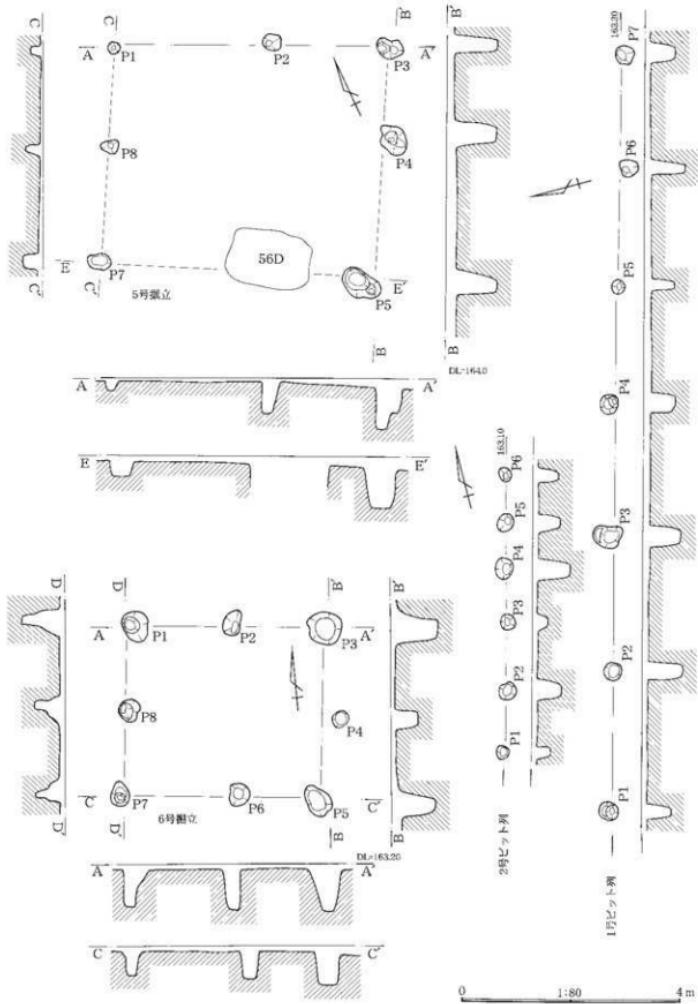
6号掘立柱建物跡の西側に隣接、N・O-8・9・10グリッドに検出された。周辺一帯にかけて建物跡群が



第107図 1号・2号掘立柱建物跡



第108図 3号・4号掘立柱建物跡



第109図 5号・6号櫛立建物跡・1号・2号ビット列

林立し、おしなべて東西に主軸をもつものが主体的である。構造は身舎桁行4間（P1～P5・P7～P11）、梁行2間（P5～P7・P11～P1）で構成され、南側に1.35m（4.5尺）の間隔をもって間口4間（P13～P17）の庇が付設される。比較的大型であることや、北側に柵列を設ける等特殊様相にあり、主軸的な建物跡であろうか。梁行西側のP12は、西側に隣接する8号建物跡と共通柱穴であり、西側へ延長する可能性もある。主軸方位は桁行（棟方向）方向でN-73°-W。柱間寸法は桁行北側で、P1～東2.1m（7尺）-1.95m（6.5尺）-2.1m（7尺）-2.1m（7尺）、南側ではP11より東側に向かい1.95m（6.5尺）-1.95m（6.5尺）-2.1m（7尺）-2.25m（7.5尺）となり、南北同規格となる。庇部は桁行間P13～西へ1.35m（4.5尺）-2.25m（7.5尺）-2.1m（7尺）-2.55m（8.5尺）である。規模は桁行8.25m、梁行3.0m、面積24.75m<sup>2</sup>を測る。遺物は未検出。

#### 8号掘立柱建物跡（第110図）

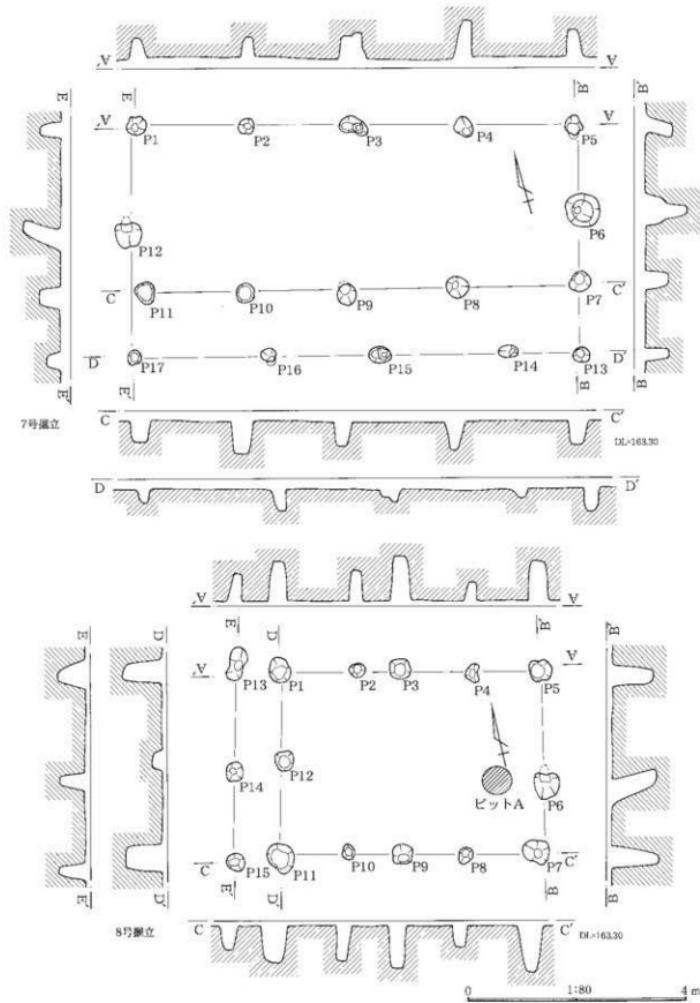
N-0-7・8グリッドに検出され、7号掘立柱建物跡の西側に隣接する。構造は身舎桁行4間（P1～P5・P7～P11）、梁行2間（P5～P7・P11～P1）で、梁行西側に0.9mの間隔をもって庇状の付随施設（P13～P15）がある。身舎は東西方向に長い建物跡である、主軸方位は棟方向でN-78°-Wを示す。柱間寸法は、桁行北側でP1～東に1.35m（4.5尺）-0.9m（3尺）-1.35m（4.5尺）、南側でP9～東に1.35m（4.5尺）-0.9m（3尺）-1.2m（4尺）である。南側P6・7間が北側P3・4間に若干短い。梁行は西側でP1～南に1.65m（5.5尺）-1.65m（5.5尺）。庇部分はP11～南側に1.95m（6.5尺）-1.65m（5.5尺）で、身舎より1尺程度幅広である。規模は桁行3.6m、梁行3.3m、面積11.8m<sup>2</sup>、庇部を含み4.5m、総面積14.85m<sup>2</sup>である。瓦器質土器（22）が出土。

#### 9号掘立柱建物跡（第111図）

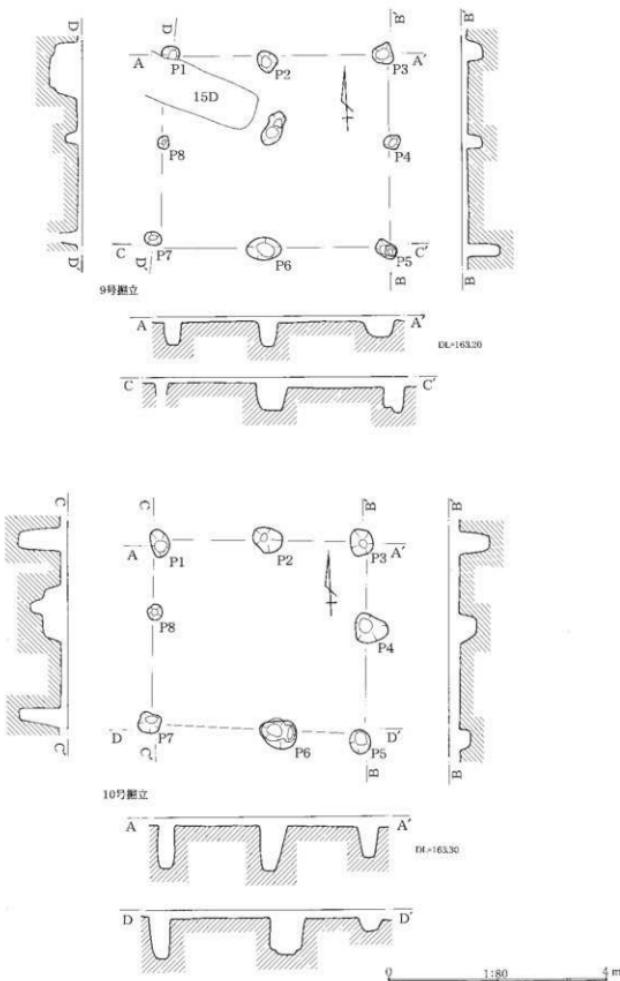
M-8・9グリッドに検出され、調査区南半部で、東西方向に走行する5号溝跡に跨る形で位置する。この点でこれまでみてきた建物跡群とは明らかに異なる。時間差に関連することも予測される。北西P1付近で15A号土坑に切られる。構造は桁行2間（P1～P3・P5～P7）、梁行2間（P3～P5・P7～P1）で構成される。主軸方位は梁行（棟方向）方向でN-87°-Wを示す。柱間寸法は桁行北側でP1～東に1.8m（6尺）-2.1m（7尺）、同南側でP7～東に1.95m（6.5尺）-2.25m（7.5尺）で北よりやや幅広となる。このうちP7は軸線より若干西北側に振れる。梁行東側P3～南に1.65m（5.5尺）-1.95m（6.5尺）、西側はP1～南側に1.65m（5.5尺）-1.8m（6尺）と東側より幅狭となる。規模は桁行最大4.2m、梁行3.6m、面積15.12m<sup>2</sup>である。遺物は検出されなかった。

#### 10号掘立柱建物跡（第111図）

M-N-7・8グリッドに検出。北側で11号掘立柱建物跡と重なる。新旧は不明である。構造は桁行2間（P1～P3・P5～P7）、梁行2間（P3～P5・P7～P1）で構成される。主軸方位は棟方向でN-83°-W。柱間寸法は桁行北側でP1～東へ1.95m（6.5尺）-1.8m（6尺）、南側P7～東へ2.4m（8尺）-1.5m（5尺）。梁行東側でP3～南へ1.5m（5尺）-2.1m（7尺）、P1～南へ1.5m（5尺）-1.95m（6.5尺）を測る。桁行・梁行共に二方向で約0.15m（0.5尺）程度のずれがみられる。規模は桁行最大3.9m、梁行3.6m、面積14.04m<sup>2</sup>となる。遺物は検出されなかった。



第110図 7号・8号櫛立柱建物跡



第111図 9号・10号掘立柱建物跡

## 第V章 西前沖遺跡

### 11号掘立柱建物跡（第112図）

M・N-7・8グリッドに検出。南東部に10号掘立柱建物跡が重なる。構造は東西方向に主軸をもち、桁行2間（P 1～P 3・P 5～P 7）、梁行2間（P 3～P 5・P 7～P 1）で構成される。主軸方位はN-87°-Wを示す。柱間寸法は桁行北側でP 1～東へ2.25m（7.5尺）-2.55m（8.5尺）、P 7～東へ2.4m（8尺）-2.25m（7.5尺）で、互いの中間柱穴P 2・6を挟んで東西幅が逆転している。寸法上は南側が若干0.5尺（0.15m）程短くなる。梁行寸法は東・西側共に南へ向かい2.1m（7尺）-1.65m（5.5尺）を測る。規模は桁行4.8m、梁行3.75m、面積18.0m<sup>2</sup>である。遺物は未検出。

### 12号掘立柱建物跡（第112図）

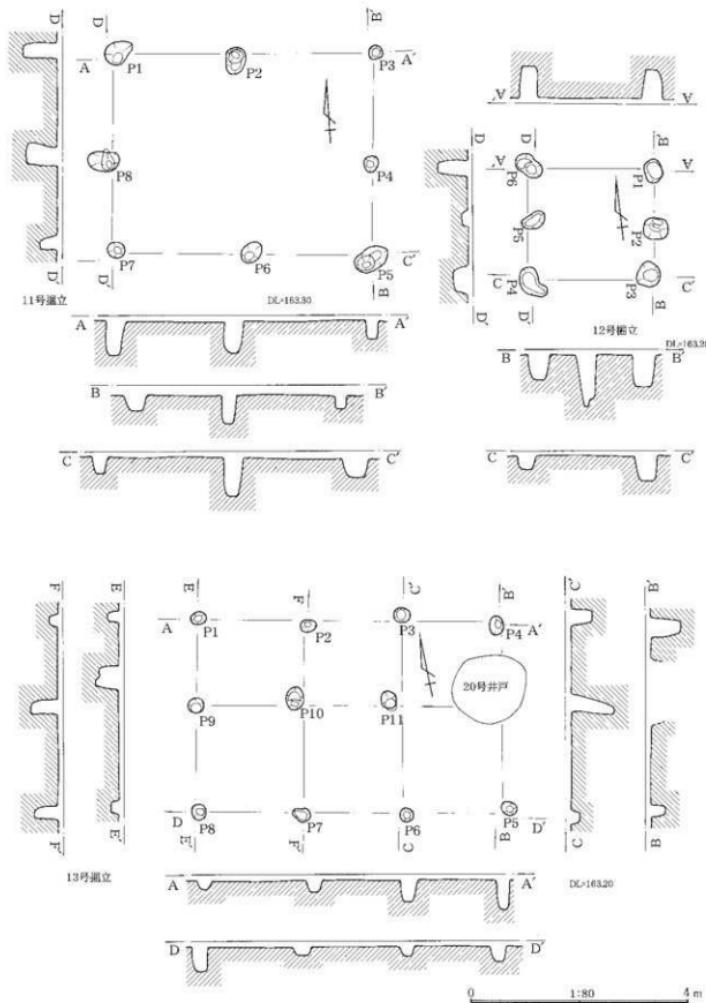
調査区南、L-6・7グリッドに検出された。北側で南北方向に主軸をもつ15号掘立柱建物跡と重なる。新旧関係は不明だが、本遺構柱穴P 2が15号でも採用されることから、立て替えと仮定すると、より面積的に大きい15号が新しい可能性も考えられる。構造は桁行2間（P 1～P 3・P 4～P 6）梁行1間（P 3・4・P 1・6）で構成される。主軸方位は桁行方向で、N-6°-Eを示す。柱間寸法は桁行東西共に南に向かい、1.05m（3.5尺）-1.05m（3.5尺）、梁行方向も共に2.25m（7.5尺）を測る。芯々間でみると、わずかに梁行側が0.5尺ほど広くなる。規模は桁行2.1m、梁行2.25m、面積4.725m<sup>2</sup>となる。これまでみてきた中で最も小形の建物跡である。遺物は検出されなかった。

### 13号掘立柱建物跡（第112図）

K・L-7・8グリッドに検出され、南側に隣接する17号掘立柱建物跡と重複する。新旧関係は不明だが主軸方位が異なっており、時間差に伴うと考えられる。構造は桁行3間（P 1～P 4・P 5～P 8）、梁行2間（P 4・P 12・P 5～P 8・P 9・P 1）で構成され、純柱式建物跡であろうか。主軸方位はN-77°-Wを示す。柱間寸法は桁行北側でP 1～東へ1.95m（6.5尺）-1.8m（6尺）-1.8m（6尺）、南側でP 8～東へ1.95m（6.5尺）-1.95m（6.5尺）-1.95m（6.5尺）で、北側P 2～P 4間にやや幅狭となる。P 2・3がそれぞれ内・外側へ柱穴位置がずれている点であろうか。梁行は東側P 12相当柱穴が20号井戸によって失われている。西側でみるとP 1～南側へ1.65m（5.5尺）-1.95m（6.5尺）である。東柱部分はP 9～東へ1.8m（6尺）-1.8m（6尺）で、P 10+11は桁行側からの軸線によりやや西側へずれる。規模は桁行最大5.85m、梁行3.6m、面積21.06m<sup>2</sup>を測る。遺物は未検出。

### 14号掘立柱建物跡（第113図）

調査区南端J・K-7・8グリッドに検出された。北側に隣接して、同軸方向を向く17号建物跡がある。構造は桁行3間（P 1～P 4・P 5～P 8）、梁行1間（P 4・5～P 8・1）で構成される。南側P 7相当の柱穴は精査したが、検出には至らなかった。周辺一帯は東西方向に条線状をなして耕作関連の溝列があり、これによって切られたか。主軸方位は桁行（棟方向）でN-84°-Wを示す。柱間寸法は桁行北側で、P 1～東へ2.25m（7.5尺）-2.10m（7尺）-1.8m（6尺）で、やや柱間間にばらつきがみられ、不均一である。梁行西側で2.4m（8尺）、東側で2.55m（8.5尺）と0.5尺ほど幅広となっている。規模は桁行6.15m、梁行最大2.55m、面積15.68m<sup>2</sup>である。遺物は検出されなかった。



第112図 11号・12号・13号掘立柱建物跡

15号掘立柱建物跡（第113図）

L・M-6・7グリッドに検出。南側に前述12号建物跡が重なる。構造は桁行2間（P1～P3・P4～P6）、梁行1間で構成。主軸方位は桁行方向でN-6°-Eを示す。柱間寸法は桁行東・西共に南へ向かい1.95m(6.5尺)-1.5m(6.5尺)、梁行は南北共に1.95m(6.5尺)で、両方向共に均一である。P3は12号建物跡でも使用。規模は桁行3.45m、梁行1.95m、面積6.72m<sup>2</sup>である。東西両側で133・134号土坑と重複、新旧は不明である。遺物は未検出である。

16号掘立柱建物跡（第113図）

N・O-6～8グリッドに検出。東半部で8号掘立柱建物跡と重複、東に7号建物跡がある。構造は桁行3間（P1～P4・P6～P9）、梁行2間（P4～P6・P9～P1）で構成。東西方向に長い。主軸方位はN-74°-Wを示す。柱間寸法は桁行北側で、P1～東へ2.25m(7.5尺)-2.1m(7尺)-2.1m(7尺)、南側はP9～東へ2.1m(7尺)-2.1m(7尺)-2.25m(7.5尺)。梁行東側でP4～南へ2.1m(7尺)-2.1m(7尺)、同西側でP1～南へ2.1m(7尺)-1.95m(6.5尺)で、半尺程東より幅狭となる。規模は桁行6.45m、梁行最大4.2m、面積27.09m<sup>2</sup>となる。磁石(68)出土。

17号掘立柱建物跡（第114図）

調査区南で、J・K-6～8グリッドに検出。L字の4号溝跡を跨ぐ形で位置。構造は桁行5間（P1～P6・P8～P13）、梁行2間（P6～P8・P13～P1）で構成。主軸方位はN-82°-Wを示す。梁行東側P7相当の柱穴は、144号土坑に切られてゐる。柱間寸法は桁行北側で、P1～東へ2.1m(7尺)-1.95m(6.5尺)-2.1m(7尺)-1.95m(6.5尺)-1.95m(6.5尺)、南側でP8～西へ1.95m(6.5尺)-1.95m(6.5尺)-2.1m(7尺)-2.1m(7尺)-1.95m(6.5尺)。梁行は西側でP1～南へ2.1m(7尺)-2.1m(7尺)である。規模は桁行10.05m、梁行4.2m、面積42.21m<sup>2</sup>を測る。

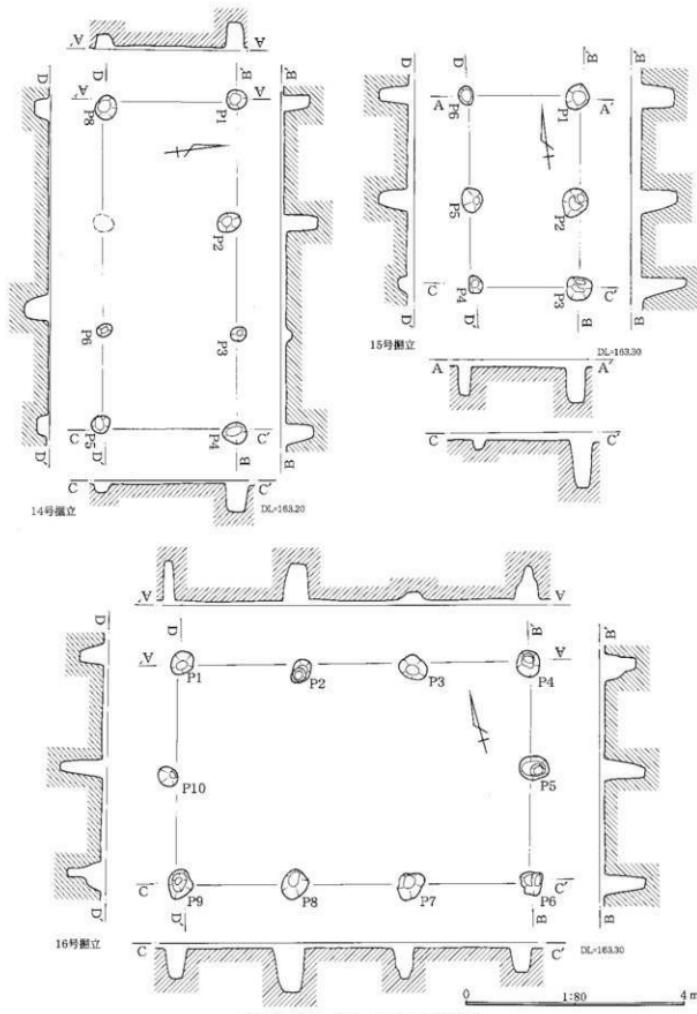
18号掘立柱建物跡（第114図）

M・N-10・11グリッドに検出。西側に隣接する7・8号建物跡と同軸方向に併列する形で位置。このうち桁行南西側P5がやや軸線より内側に位置している。桁行構造は桁行3間（P1～P4・P5～P8）、梁行1間（P4・P5～P8・P1）で構成。柱間寸法は桁行東でP1～南へ2.1m(7尺)-1.95m(6.5尺)-2.25m(7.5尺)、西側ではP5～P6間が1.95m(6.5尺)と1尺程度幅狭となる。柱穴の深さはほぼ均一的で、深さ50～70cmを測る。遺物は未検出である。

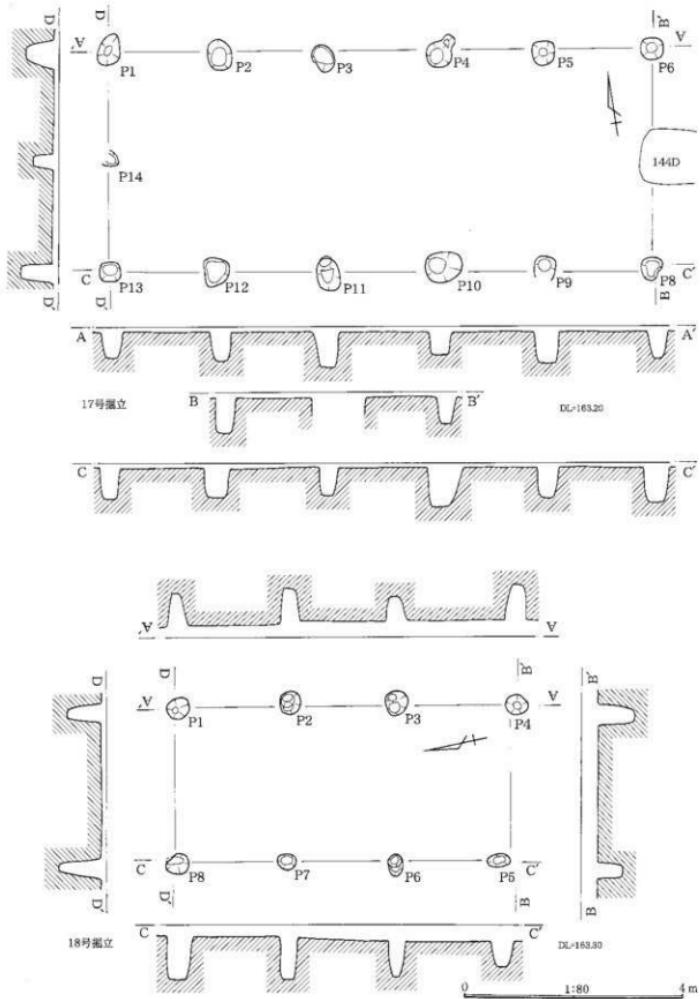
1号・2号ピット列（第109図）

1号-7・8号建物跡の北側N・O-7～10グリッドに検出。7・8号建物跡の北約1.3m前後（約4.5尺）で、計7本（P1～P7）の柱穴が検出された。全長は19.5m、柱間寸法は西側P1より東へ2.55m(8.5尺)-2.55m(8.5尺)-2.4m(8尺)-2.25m(7.5尺)-2.25m(7.5尺)-2.1m(7尺)であり、東側に移行するに従いやや幅狭となる。主軸方位はN-75°-Wを示す。

2号-M・N-10・11グリッドに検出。18号建物跡の東側約80cmの位置にあたり、6本のピット（P1～P6）で形成。全長約5.2m。柱間寸法はP1～P3間が各1.2m、(各1.2尺)、同3・4間1.05m、(3.5尺)、同P4～6間各0.9m(3尺)を測る。主軸方位N-14°-Eを示す。遺物はない。



第113図 14号・15号・16号掘立柱建物跡



第114図 17号・18号掘立柱建物跡

## (5) 土坑

## 1号土坑（第115図）

位置 S・T-19グリッド 形状 東西に長い長方形 南西部わずかに張り出す。埋土ロームブロック混土。  
規模 長径2.0m、短径1.13m 深さ8cm 主軸方位 N-48°-W 備考 断面皿状。 遺物 なし

## 2号土坑（第115図 P L28）

位置 S・T-18グリッド 形状 卵丸方形 規模 長径1.3m 短径1.3m 深さ7cm  
主軸方位 N-31°-E 備考 底面平坦 南壁面直線的。埋土1号に同。 遺物 なし

## 3号土坑（第115図 P L28）

位置 S-18グリッド 形状 南北に長い長方形 規模 長径1.38m 短径0.9m 深さ13cm  
主軸方位N-35°-E 備考 覆土1・2号に同 暗褐色土主体。 遺物 なし

## 4号土坑（第115図）

位置 R-18グリッド 形状 楕円形 規模 長径1.22m 短径1.0m 深さ10cm  
主軸方位 N-53°-W 備考 ごく浅い落ち込み 覆土1～3に同。 遺物 なし

## 5号土坑（第115図）

位置 R-17・18グリッド 形状 楕円形 規模 長径1.18m 短径1.0m 深さ8cm  
主軸方位 N-48°-W 備考 浅い皿状 南北両側掘りすぎ。 遺物 なし

## 6号・7号・8号・9号土坑（第115・134図 P L29）

位置 R-17・18グリッド

6号 形状 卵丸方形 規模 長径1.67m 短径1.6m 深さ58cm 主軸方位 N-68°-W  
備考 断面袋状 底面若干凸凹 新旧7号より新。 遺物 小刀(43)が出土。墓壙関連か

7号 形状 楕円形 規模 長径 - 短径1.3m 深さ23cm 主軸方位 -

備考 新旧8号より旧。6・7号共に土層状況が人為的である。 遺物 なし

8号 形状 - 規模 長径 - 短径 - 深さ10cm 主軸方位 -

備考 新旧7号より新。浅い落ち込み。覆土1～4号に同。 遺物 なし

9号 形状 - 規模 長径 - 短径 - 深さ 10cm前後 主軸方位 -

備考 覆土8号に似る。同一遺構か。 遺物 なし

## 10号土坑（第115図）

位置 S-17グリッド 形状 不整形形状 規模 長径1.47m 短径1.38m 深さ8cm前後  
主軸方位 N-31°-E 備考 1号建物跡と重複。新旧不明。 遺物 なし

## 11号・12号土坑（第115図 P L29）

位置 R・S-17グリッド

11号 形状 卵丸方形 規模 長径1.35m 短径1.2m 深さ15cm 主軸方位 N-63°-W  
備考 12号土坑・1号建物跡と重複。11号新。 遺物 なし

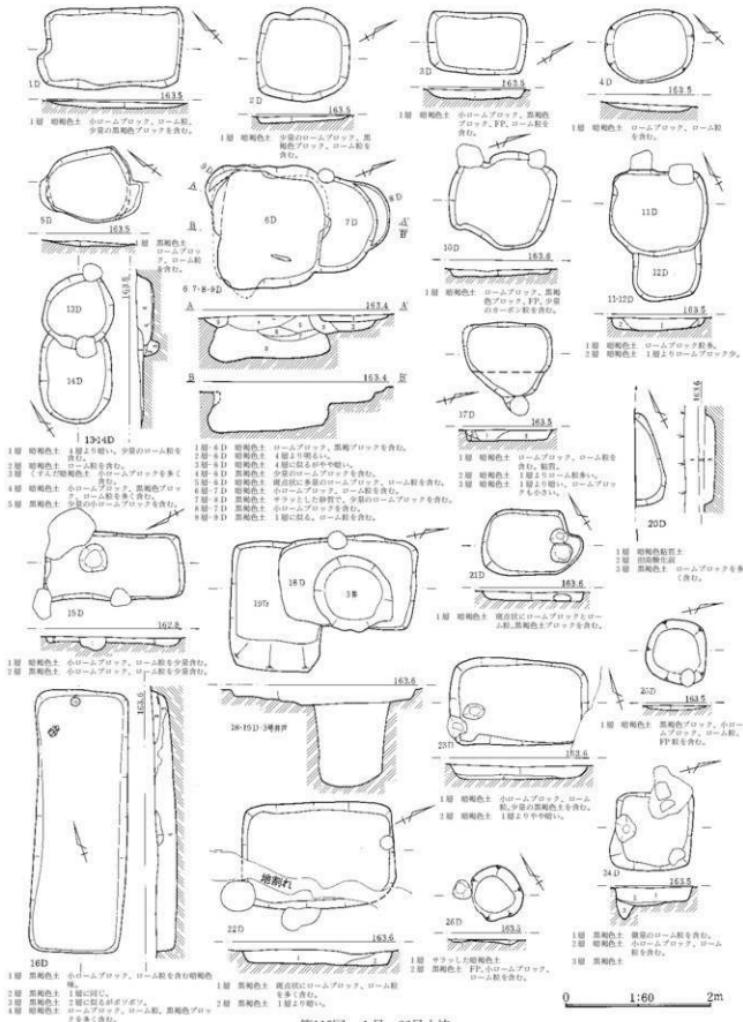
12号 形状 長方形か 規模 長径 - 短径 0.95m 深さ 不明 主軸方位 -  
備考 1号建物との新旧不明。 遺物 なし

## 13号・14号土坑（第115図 P L29）

位置 R-16・17グリッド

13号 形状 楕円形 規模 長径1.05m 短径0.95m 深さ23cm 主軸方位 N-55°-E

第V章 西前冲遺跡



第115図 1号～26号土坑

- 備考 14号より旧。立ち上がり直線的。底面平坦。 遺物 なし
- 14号 形状 長円形 規模 長径 — 短径1.0m 深さ 8 cm程度 主軸方位 N-37°-E  
備考 極浅い落ち込み。 遺物 なし
- 15号土坑 (第115図 P L29)**  
位置 S・T-16グリッド 形状 南北に長い長方形 規模 長径1.95m 短径0.95m 深さ最大 12cm  
主軸方位 N-27°-E 備考 2号建物跡と重複。2号新。 遺物 なし
- 16号土坑 (第115・131図 P L29・70)**  
位置 S-15・16グリッド 形状 南北に長い長方形 規模 長径3.62m 短径1.3m 深さ28cm前後  
主軸方位 N-20°-E 備考 2号建物跡と重複。新旧不明。遺物 覆土かわらけ片(1・2・3)出土
- 17号土坑 (第115図)**  
位置 R・S-15グリッド 形状 南北に長い長方形 規模 長径1.25m 短径推70cm前後 深さ14cm  
主軸方位 N-17°-E 備考 東側掘りすぎ。直線的立ち上がり。 遺物 なし
- 18号・19号土坑 (第115図)**  
位置 T・U-15グリッド  
18号 形状 南北に長い長方形 規模 長径1.93m 短径 1.26m 深さ15cm前後  
主軸方位 N-17°-E 備考 19号土坑・3号井戸より新。 遺物 なし
- 19号 形状 東西に長い長方形 規模 長径1.80m 短径1.28m 深さ13cm前後 主軸方位 N-77°-W  
備考 浅い落ち込み。底部凸凹。18号より旧。 遺物 なし
- 20号土坑 (第115図)**  
位置 T・U-14・15グリッド 形状 南北に長い長方形か 規模 長径1.3m 短径 — 深さ15cm  
主軸方位 N-9°-E 備考 遺構直上面、現水田酸化面形成。西側調査区外。 遺物 なし
- 21号土坑 (第115図 P L30)**  
位置 T-14・15グリッド 形状 殽丸形状 規模 長径1.4m 短径0.92m 深さ10cm  
主軸方位 N-57°-W 備考 東側若干張り出す。径30cm大躰出土。 遺物 なし
- 22号土坑 (第115図 P L30)**  
位置 S-15グリッド 形状 南北に長い長方形 規模 長径2.13m 短径1.45m 深さ20cm  
主軸方位 N-24°-E 備考 地割れ跡・2号建物跡と重複。いずれより新か。 遺物 なし
- 23号土坑 (第115・132図 P L30・71)**  
位置 S-14・15グリッド 形状 東西に長い長方形 規模 長径1.90m 短径1.20m 深さ15cm  
主軸方位 N-72°-W 備考 底面平坦。覆土22号に同。 遺物 朱墨痕天目碗(27)出土
- 24号土坑 (第115図 P L30)**  
位置 S-14グリッド 形状 殽丸形状 規模 長径1.15m 短径1.10m 深さ25cm  
主軸方位 N-16°-E 備考 周辺ピットより新。 遺物 なし
- 25号土坑 (第115図 P L31)**  
位置 R-14グリッド 形状 楯円形 規模 長径0.88m 短径0.87m 深さ 6 cm  
主軸方位 N-63°-W 備考 極浅い皿状。覆土 FP 合黑褐色土。 遺物 なし
- 26号土坑 (第115図)**  
位置 R-14グリッド 形状 楯円形 規模 長径0.78m 短径0.68m 深さ 6 cm前後

## 第V章 西前沖遺跡

主軸方位 N-3°-E 備考 浅い落ち込み。覆土25号に同。 遺物なし

### 27号土坑 (第116図 P L31)

位置 Q-14グリッド 形状 南北に長い長方形 規模 長径1.43m 短径0.85m 深さ10cm

主軸方位 N-6°-E 備考 周辺に同形態の土坑群点在。浅い皿状。 遺物 なし

### 28号土坑 (第116図)

位置 Q-14グリッド 形状 楕円方形 規模 長径1.05m 短径0.83m 深さ8cm残存

主軸方位 N13°-E 備考 覆土FP含黒褐色土。極浅い落ち込み。 遺物 なし

### 29号・30号土坑 (第116図)

位置 Q-15グリッド

29号 形状 楕円形か 規模 長径 - 短径1.06m 深さ6cm程度残存 主軸方位 -

備考 30号土坑より旧。 遺物 なし

30号 形状 南北に長い長方形 規模 長径1.6m 短径0.9m 深さ13cm残存 主軸方位 N-13°-E

備考 底面若干凹凸 遺物 なし

### 31号土坑 (第116図 P L31)

位置 Q-14グリッド 形状 南北に長い長方形 規模 長径1.05m 短径0.6m 深さ50cm

主軸方位 N-2°-E 備考 周辺土坑群中、深さが残存。時期的に旧いか。 遺物 なし

### 32号土坑 (第116図 P L31)

位置 P-14グリッド 形状 楕円方形 規模 長径1.1m 短径0.83m 深さ最大20cm

主軸方位 N-6°-E 備考 墓壇形態。

遺物 「開元通寶」(唐621年)～「永楽通寶」(明1408年)等の銭貨20枚(1～20)出土。15世紀代に該期。

### 33号土坑 (第116図 P L31)

位置 P-14グリッド 形状 楕円方形 規模 長径0.9m 短径0.85m 深さ18cm程度残存

主軸方位 N-11°-E 備考 墓壇形態。 遺物 「開元通寶」・「永楽通寶」他銭貨5枚(1～3)出土。

### 34号土坑 (第116図)

位置 N-15グリッド 形状 円形 規模 長径1.3m 短径1.15m 深さ10cm程度残存

主軸方位 N46°-W 備考 覆土33号に似る。台地南先端部に位置。 遺物 なし

### 35号土坑 (第116図 P L31)

位置 S-14グリッド 形状 南北に長い長方形 規模 長径1.7m 短径1.1m 深さ47cm

主軸方位 N-26°-E 備考 南側で3号建物跡・地割れ跡と重複。いずれよりも3号が新。

遺物 在地土器熔培(21)が出土。埋土人為的。墓壇か。

### 36号土坑 (第116図 P L31)

位置 S-14グリッド 形状 長円形 規模 長径0.95m 短径0.55m 深さ15cm

主軸方位 N-5°-E 備考 南に向かい底部浅い。 遺物 なし

### 37号土坑 (第116図 P L31)

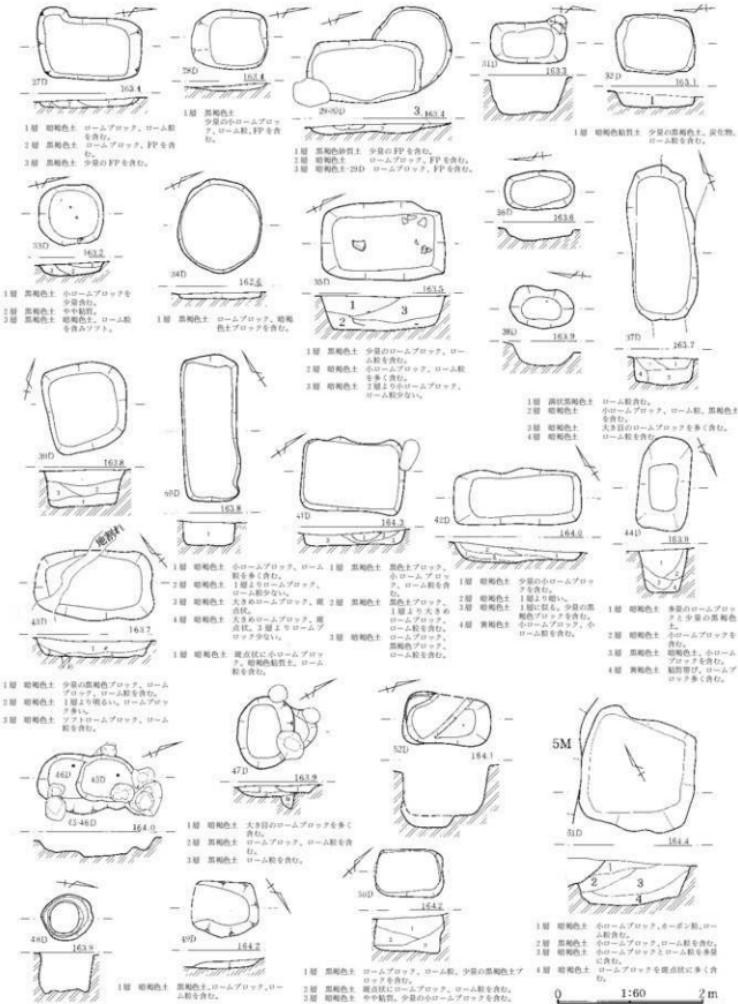
位置 S-13グリッド 形状 南北に長い長円形 規模 長径2.15m 短径0.94m 深さ35cm

主軸方位 N-18°-E 備考 東側2mに35号土坑隣接。埋土人為的。 遺物 なし

### 38号土坑 (第116図 P L31)

位置 T-13グリッド 形状 長円形 規模 長径0.87m 短径0.57m 深さ25cm

## 第2節 中・近世の遺構と遺物



## 第V章 西前沖遺跡

主軸方位 N-0° 備考 南東2mに位置する36号土坑に類似。遺物 (1)「永楽通寶」1枚出土。

### 39号土坑 (第116図 P L32)

位置 S-T-13グリッド 形状 開丸方形 規模 長径1.22m 短径1.13m 深さ50cm

主軸方位 N-25°-W 備考 南側に37・40号土坑が近接。埋土人為的。墓壙か。遺物 なし

### 40号土坑 (第116図)

位置 S-13グリッド 形状 南北に長い長方形 規模 長径2.05m 短径0.8m 深さ30cm

主軸方位 N-32°-E 備考 西側に4号建物跡が隣接。遺物 なし

### 41号土坑 (第116図 P L32)

位置 U-12グリッド 形状 南北に長い長方形 規模 長径1.45m 短径1.03m 深さ20cm

主軸方位 N-38°-W 備考 南東側に4号建物跡が隣接。埋土人為的。墓壙か。遺物 なし

### 42号土坑 (第116図)

位置 S-12グリッド 形状 東西に長い長方形 規模 長径1.78m 短径0.8m 深さ23cm

主軸方位 N-55°-W 備考 底面東側浅い。北に4号建物跡が隣接。遺物 なし

### 42号土坑 (第116図)

位置 S-12グリッド 形状 東西に長い長方形 規模 長径1.77m 短径0.80m 深さ23cm

主軸方位 N-55°-W 備考 東側浅くなる。北に4号建物跡隣接。遺物 なし

### 43号土坑 (第116図 P L32)

位置 R-12グリッド 形状 東西に長い長方形 規模 長径1.65m 短径1.0m 深さ20cm

主軸方位 N-46°-W 備考 地割れ跡より新。遺物 鉄滓片出土。

### 44号土坑 (第116図)

位置 R-11グリッド 形状 南北に長い長円形 規模 長径1.3m 短径0.7m 深さ60cm

主軸方位 N-34°-E 備考 西側に5号建物跡。埋土人為的。遺物 なし

### 45号・46号土坑 (第116図)

位置 S-11グリッド

45号 形状 南北に長い長円形 規模 長径0.80m 短径0.65m 深さ23cm 主軸方位 N-30°-E  
備考 46号土坑と同一遺構か。ピットとの新旧は不明。遺物から墓壙であろう。

遺物 銭貨(3)「永楽通寶」(明1406年)出土。遺構年代は15世紀代~。

46号 形状 南北に長い長円形 規模 長径1.30m 短径0.83m 深さ15cm 主軸方位 N-26°-E

備考 45号土坑と重複。墓壙。遺物 銭貨(1)「淳化元寶」(宋990年)、(2)「元豐通寶」(宋1078年)  
出土。遺構年代は45号とほぼ同時期か。

### 47号土坑 (第116図)

位置 S-11グリッド 形状 東西に長い長円形 規模 長径1.03m 短径 0.78m 深さ16cm

主軸方位 N-58°-W 備考 重複ピットより新。東側に45・46号土坑。埋土人為的。遺物 なし

### 48号土坑 (第116図 P L32)

位置 S-10・11グリッド 形状 桶円形 規模 長径0.68m 短径0.63m 深さ 最大55cm

主軸方位 N-32°-W 備考 底部リング状窪み。桶埋設痕か。近世の所産。遺物 なし

### 49号土坑 (第116図)

位置 T-10・11グリッド 形状 東西に長い長円形 規模 長径0.95m 短径0.75m 深さ10cm

主軸方位 N-52°-W 備考 東辺部は削平されたか。周辺ピット群多数。 遺物 なし

**50号土坑** (第116図 P L32)

位置 T-10グリッド 形状 南北に長い長方形 規模 長径1.0m 短径0.65m 深さ50cm

主軸方位 N-47°-E 備考 周辺同形態の土坑多。埋土人為的。墓壙か。 遺物 なし

**51号土坑** (第116図 P L32)

位置 T-10グリッド 形状 楕円形 規模 長径1.6m 短径1.6m 深さ62cm

主軸方位 N-40°-E 備考 5号建物跡の北西側。周辺土坑群多。西側に5号溝跡(新)。埋土人為的。 遺物 なし

**52号土坑** (第116図)

位置 S-T-10グリッド 形状 南北に長い長円形 規模 長径1.2m 短径0.73m 深さ70cm

主軸方位 N20°-E 備考 溝状遺構と重複。5号溝跡の枝溝跡?。52号新。 遺物 なし

**53号土坑** (第117・135図 P L32・71)

位置 S-T-10グリッド 形状 南北に長い長方形 規模 長径1.85m 短径1.15m 深さ65cm

主軸方位 N-31°-E 備考 南西部若干張り出す。南側に5号建物跡隣接。埋土人為的。 遺物 破片(62)

**54号土坑** (第117図 P L33)

位置 S-T-10グリッド 形状 南北に長い長円形 規模 長径1.4m 短径0.8m 深さ 53cm

主軸方位 N-32°-E 備考 西側に53号土坑隣接。埋土人為的。墓壙か。 遺物 なし

**55号土坑** (第117図 P L33)

位置 R-S-10グリッド 形状 楕円形 規模 長径0.87m 短径0.73m 深さ58cm

主軸方位 N-42°-E 備考 底面中央凸状。壁面袋状。48号土坑と同形態か。 遺物 なし

**56号土坑** (第117図 P L33)

位置 R-T-10グリッド 形状 東西に長い長方形 規模 長径1.53m、短径1.0m 深さ64cm

主軸方位 N-52°-W 備考 5号建物跡より新。西側に57号土坑並列する。埋土人為的。墓壙か。

遺物 なし

**57号土坑** (第117図 P L33)

位置 R-S-9-T-10グリッド 形状 東西に長い長方形 規模 長径1.55m 短径 0.9m 深さ13cm

主軸方位 N-58°-W 備考 5号建物跡より新。 遺物 なし

**58号土坑** (第117図 P L33)

位置 S-9グリッド 形状 円形 規模 長径0.7m 短径0.65m 深さ25cm

主軸方位 N-36°-W 備考 東側に5号建物跡。西側に5号溝跡が隣接。 遺物 なし

**59号土坑** (第117図 P L33)

位置 R-9グリッド 形状 東西に長い長方形 規模 長径1.78m 短径0.95m 深さ34cm

主軸方位 N-65°-W 備考 57号土坑の南西側に位置。 遺物 なし

**60号土坑** (第117図)

位置 U-T-10・11グリッド 形状 東西に長い長円形 規模 1.72m 短径 0.85m 深さ30cm

主軸方位 N-85°-W 備考 5号溝跡と重複。60号が新か。 遺物 なし

**61号土坑** (第117図)

位置 U-9グリッド 形状 楕丸方形状 規模 長径1.15m 短径0.9m 深さ 8cm

## 第V章 西前冲遺跡



第117図 53号～73号土坑

主軸方位 N-69°-W 備考 浅い皿状。底面若干凹凸。 遺物 なし

**62号土坑 (第117図 P L33)**

位置 V-8 グリッド 形状 円形 規模 長径0.98m 短径0.87m 深さ40cm

主軸方位 N-7°-E 備考 径10~30cm大の、大小安山岩質礫10点程度出土。集石墓。 遺物 人骨出土

**63号土坑 (第117・140図 P L33・84)**

位置 U-8 グリッド 形状 円形 規模 長径0.87m 短径0.83m 深さ55cm

主軸方位 N-85°-W 備考 径10~40cm大の安山岩自然礫10~点出土。集石墓。

遺物 齒。銭貨9枚(1~9)「開元通寶」(唐621年)・「嘉祐通寶」(宋1056年)他7枚の銭貨。

**64号土坑 (第117図 P L34)**

位置 U-8 グリッド 形状 円形 規模 長径0.65m 短径0.62m 深さ65cm

主軸方位 N-14°-E 備考 63号土坑の南側に位置。集石はない。 遺物 なし

**65号坑 (第117・139図 P L34)**

位置 U-9 グリッド 形状 円形 規模 長径0.78m 短径0.75m 深さ45cm

主軸方位 N-62°-W 備考 北西2.5m地点に63号土坑が位置。

遺物 銭貨5枚「開元通寶」(唐621年)・「元祐通寶」(宋1086年)他出土。

**66号土坑 (第117・140図 P L34・35)**

位置 T-8・9 グリッド 形状 南北に長い長円形 規模 長径0.80m 短径0.47m 深さ20cm前後

主軸方位 N-57°-E 備考 径10~20cm大の安山岩質自然礫3~4点程度が遺構、その周辺に出土。土廣墓か。銭貨(1)「元祐通寶」(宋1086年)1枚出土。

**67号土坑 (第117図 P L35)**

位置 T-9 グリッド 形状 南北に長い長方形 規模 長径0.95m 短径0.57m 深さ58cm

主軸方位 N-0° 備考 南半部に径10~27cm大の自然礫数点出土。土壤墓。 遺物 繖

**68号土坑 (第117・139図 P L35)**

位置 T-9 グリッド 形状 両丸方形 規模 長径1.04m 短径0.98m 深さ73cm

主軸方位 N-29°-E 備考 東側に接して5号溝跡。土壤墓。

遺物 銭貨「元祐通寶」(宋1086年)(1)・「永樂通寶」(明1408年)(2)出土

**69号土坑 (第117図 P L35)**

位置 S-9 グリッド 形状 南北に長い長方形 規模 長径1.12m 短径0.5m 深さ 20cm

主軸方位 N-37°-E 備考 5号溝跡中に位置。新旧は69号新か。土壤墓。 遺物 なし

**70号土坑 (第117図 P L35)**

位置 S-8 グリッド 形状 南北に長い長円形 規模 長径 0.85m 短径0.55m 深さ83cm

主軸方位 N-30°-E 備考 東側に5号溝跡が接する。底部袋状。土壤墓。 遺物 なし

**71A・B・C号土坑 (第117・139図 P L35)**

位置 S-8 グリッド

71A号 形状 東西に長い長円形 規模 長径1.0m 短径0.78m 深さ35cm 主軸方位 N-38°-W

備考 3基中最も新。土壤墓。 遺物 なし

71B号 形状 南北に長い長円形 規模 長径0.95m 短径0.65m 深さ25cm 主軸方位 N-58°-E

備考 C→B→Aの序列。東片部に径13cm大の自然礫。土壤墓。遺物 銭貨「元祐通寶」(宋1086年)

## 第V章 西前沖遺跡

(1)、「洪武通寶」(明1368年) (2)の2枚出土

71C号 形状 南北長軸長円形 規模 長径0.67m 短径0.40m 深さ25cm残存 主軸方位 N-35°-E

備考 3基中最も旧い。

遺物 錢貨2枚 「嘉寧元寶」(宋1068年) (3)・「洪武通寶」(明1368年) (4)出土。

72号土坑 (第117・140図 P L35)

位置 T-8・9グリッド 形状 堅穴状 規模 長径2.9m 短径2.1m 深さ最大43cm

主軸方位 N-33°-E 備考 北辺部に半円状の張り出しを付設。西辺下に径10~20cm大の大小礫まとまって出土。遺構北東コーナー寄り内外に板碑片、径1~5cmの小円礫、焼骨片、土器片、錢貨類が多数出土。火葬跡関連遺構であろうか。このうち、挿図中に記載した遺物は、(1~5)「開元通寶」(唐621年)・「聖宋元寶」(宋1101年)含錢貨5枚である。

73号土坑 (第117図 P L36)

位置 T-8グリッド 形状 円形 規模 長径 0.45m 短径0.43m 深さ 20cm

主軸方位 N-22°-E 備考 径7~30cm大の礫を伴う。集石墓形態か。 遺物 周辺で板碑片出土

74号・75号土坑 (第118・133図 P L36)

位置 T-8グリッド

74号 形状 南北に長い長円形 規模 長径1.0m 短径0.72m 深さ40cm 主軸方位 N-20°-E

備考 径15~40cm大の礫7点出土。集石墓。 遺物 鋼連弁文碗(龍泉窯系)片(36)出土

75号 形状 長円形 規模 長径0.67m 短径0.5m 深さ12cm程度残存 主軸方位 N-19°-E

備考 74号と同様径8~15cm大の礫出土。集石墓形態か。 遺物 なし

76号土坑 (第118図)

位置 U-V-7・8グリッド 形状 東西に長い長円形 規模 長径1.73m 短径0.50m 深さ18cm

主軸方位 N78°-W 備考 東側に63号土坑近接。 遺物 なし

77号土坑 (第118図)

位置 U-7・8グリッド 形状 南北に長い長方形 規模 長径1.15m 短径0.7m 深さ7cm程度残存

主軸方位 N-12°-E 備考 76号の南側に位置。極浅い皿状。 遺物 なし

78号土坑 (第118図 P L36)

位置 U-7グリッド 形状 南北に長い長円形 規模 長径1.05m 短径0.84m 深さ20cm

主軸方位 N-10°-E 備考 覆土74号に似る。人為的。 遺物 なし

79号土坑 (第118図)

位置 U-7グリッド 形状 南北に長い長円形 規模 長径1.35m 短径0.60m 深さ8cm程度残存

主軸方位 N-4°-W 備考 78~80号並列関係にある。 遺物 なし

80号土坑 (第118図 P L36)

位置 U-7グリッド 形状 楽丸方形状 規模 長径1.0m 短径0.80m 深さ10cm

主軸方位 N-7°-E 備考 遺構底面に多数の礫出土。集石墓形態か。 遺物 なし

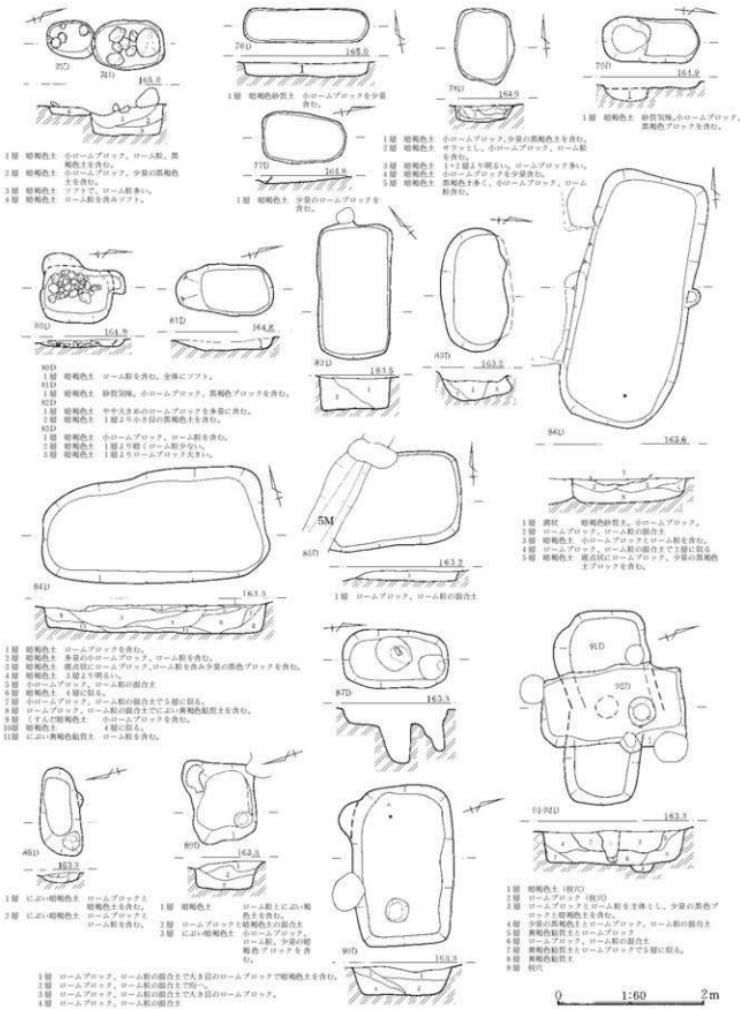
81号土坑 (第118図)

位置 T-7グリッド 形状 南北に長い長円形 規模 長径1.35m 短径0.7m 深さ15cm

主軸方位 N16°-E 備考 北東側に74号土坑近接。 遺物 なし

82号土坑 (第118図 P L36)

## 第2節 中・近世の構造と遺物



第118図 74号～92号土坑

## 第V章 西前沖遺跡

位置 Q-10グリッド 形状 南北に長い長方形 規模 長径1.37m 短径1.05m 深さ43cm

主軸方位 N-40°-E 備考 北側に1・2号溝跡がある。 遺物 なし

### 83号土坑（第118図 P L36）

位置 P-7・8グリッド 形状 東西に長い長円形 規模 長径1.9m 短径0.9m 深さ27cm

主軸方位 N-86°-E 備考 1号住居跡の南側に位置。北辺袋状。埋土人為的。 遺物 なし

### 84号土坑（第118図 P L37）

位置 P-7グリッド 形状 東西に長い長円形 規模 長径3.15m 短径1.55m 深さ40cm

主軸方位 N-77°-W 備考 大形。西側に5・7号溝跡隣接。埋土人為的。 遺物 なし

### 85号土坑（第118図）

位置 P-6・7グリッド 形状 東西に長い長方形か 規模 長径 - 短径1.32m 深さ13cm

主軸方位 - 備考 5・7号溝跡より旧。 遺物なし

### 86号土坑（第118・131・138図）

位置 O-6グリッド 形状 南北に長い長方形 規模 長径3.5m 短径1.65m 深さ32cm

主軸方位 N-17°-E 備考 西側で1号地下式土坑と重複。86号新。5・7号溝跡より旧。埋土人為的。

遺物 土鍋片(13)、錢貨(1)「治平通寶」(北宋1064年)が出土。

### 87号土坑（第118・135図 P L37）

位置 N-O-7グリッド 形状 南北に長い長円形 規模 長径1.47m 短径0.83m 深さ20cm

主軸方位 N-5°-E 備考 16号建物跡隣接ピットと重複。新旧は不明。 遺物 破石(63)出土

### 88号土坑（第118図）

位置 N-O-7グリッド 形状 東西に長い長円形 規模 長径1.2m 短径0.63m 深さ14cm

主軸方位 N-74°-W 備考 東西両側に89・87号土坑隣接。 遺物 なし

### 89号土坑（第118図 P L37）

位置 N-O-7グリッド 形状 隅丸方形状 規模 長径1.15m 短径0.93m 深さ40cm

主軸方位 N76°-W 備考 8号建物跡との新旧不明。北東辺重複ピットか。 遺物 なし

### 90号土坑（第118・134・138図 口絵5 P L37）

位置 O-7・8グリッド 形状 東西に長い長方形 規模 長径2.2m 短径1.4m 深さ40cm

主軸方位 N-74°-W 備考 北西側に84号土坑隣接。

遺物 花弁状飾り金具(46)、錢貨「洪武通寶」(明1368年)(1)出土

### 91号・92号土坑（第118・131・134・138図 P L37・38）

位置 N-O-7・8グリッド

91号 形状 東西に長い長方形 規模 長径2.7m 短径1.3m 深さ26cm 主軸方位 N-74°-W

備考 92号土坑より新。ピットより旧。 遺物 錢貨「紹聖元寶」(宋1094年)(1)

92号 形状 南北に長い長方形 規模 長径2.0m 短径1.12m 深さ43cm 主軸方位 N-15°-E

備考 8号建物跡と重複。 遺物 かわらけ底部(8)、蠟石(55)、刀装具(櫛金具)(44)等が出土。形態からみて91号と同一性格であろう。

### 93号土坑（第119・135図 P L38・71）

位置 O-8グリッド 形状 南北に長い長円形 規模 長径2.2m 短径0.97m 深さ10cm程度残存

主軸方位 N-15°-E 備考 7・8号建物跡と重複。新旧不明。

遺物 木葉痕の刻章をもつ磁石転用品(69)出土。

**94号土坑** (第119・138図 P L38)

位置 N・O-8 グリッド 形状 開丸方形 2基重複か 規模 長径1.4~1.95m 短径1.4m 深さ33cm

備考 東辺側ピットと重複。墓壙形態か。 遺物 銭貨「開元通寶」(唐621年) (1)出土

**95号土坑** (第119図 P L39)

位置 O-8・9 グリッド 形状 開丸方形状 規模 長径2.15m 短径1.65m 深さ40cm

主軸方位 N-25°-E 備考 南側に94号土坑、7号建物跡。埋土人為的。 遺物 なし

**96号土坑** (第119図 P L39)

位置 N-9 グリッド 形状 開丸方形状 規模 長径1.42m 短径1.04m 深さ33cm

主軸方位 N-1°-W 備考 西側に94号土坑、7号建物跡と重複。埋土人為的。 遺物 なし

**97号土坑** (第119図)

位置 O-9・10 グリッド 形状 東西に長い長方形 規模 長径1.9m 短径0.84m 深さ15cm

主軸方位 N-57°-W 備考 西南3mに95号土坑。埋土人為的。 遺物 なし

**98号・99号・100号土坑** (第119図 P L39)

位置 O・P-10・11 グリッド

98号 形状 南北に長い長方形 規模 長径1.85m 短径1.08m 深さ 23cm 主軸方位 N-18°-W

備考 98号→99号。98号→100号の序列。底部凹凸。埋土人為的。 遺物 なし

99号 形状 東西に長い長方形か。 規模 長径 - 短径 72cm 深さ24cm 主軸方位 -

備考 14号溝跡より新。埋土人為的。墓壙か。 遺物 なし

100号 形状 開丸方形 規模 長径1.2m 短径1.0m 深さ - 遺物 なし

**101号土坑** (第119図 P L39)

位置 N・O-10 グリッド 形状 開丸方形状 規模 長径1.35m 短径1.05m 深さ45cm

主軸方位 N-74°-W 備考 南側に7号建物跡。埋土人為的。墓壙か。 遺物 なし

**102号・103号・104号土坑** (第119図)

位置 N-9・10 グリッド

102号 形状 南北に長い長方形 規模 長径1.75m 短径1.05m 深さ28cm 主軸方位 N-14°-E

備考 7号建物跡→102号→103号の序列関係。 遺物 なし

103号 形状 東西に長い長方形か 規模 長径 - 短径0.70m 深さ18cm程度残存 主軸方位 -

備考 104号との新旧不明。埋土人為的。墓壙か。 遺物 なし

104号 形状 - 規模 長径 - 短径1.1m 深さ - 備考 - 遺物 なし

**105号土坑** (第119図 P L39)

位置 N-9 グリッド 形状 開丸方形状 規模 長径1.25m 短径1.0m 深さ23cm

主軸方位 N71°-W 備考 6号建物跡との関係は不明。 遺物 なし

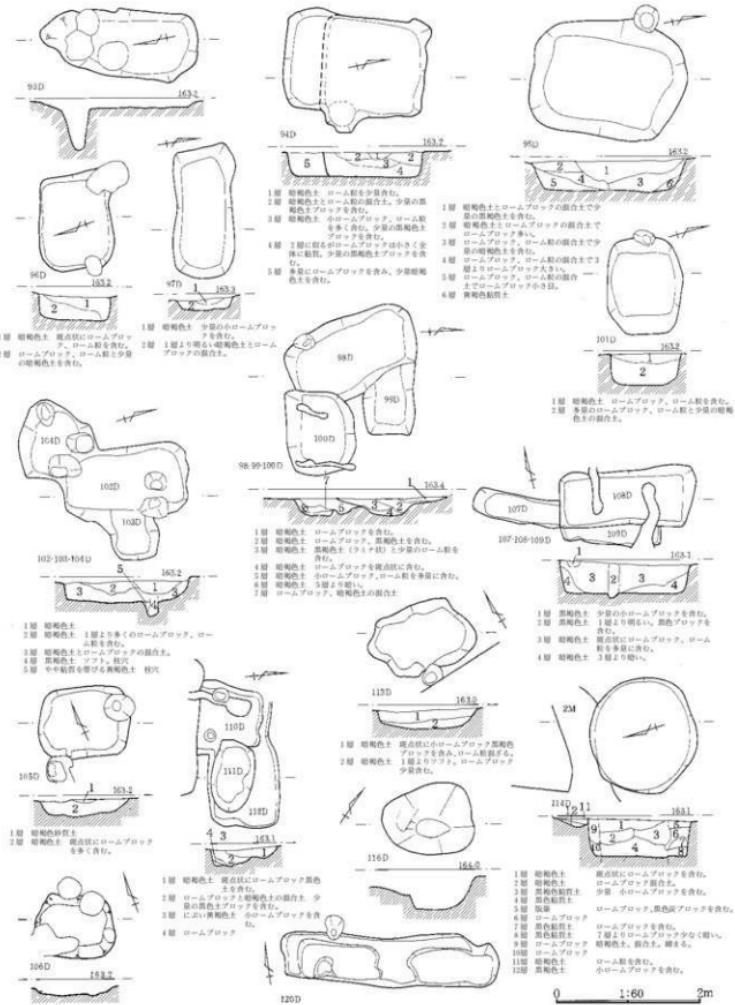
**106号土坑** (第119・131図)

位置 N-9・10 グリッド 形状 開丸方形 規模 長径1.1m 短径0.9m 深さ10cm程度

主軸方位 N63°-W 備考 西側に同形態の105号並立する。

遺物 陶器大平鉢(29)が出土、15号井戸出土の遺物と接合した。他に在地土器、かわらけ(6)が出土している。

**107号・108号・109号土坑** (第119図)



第119図 93号～120号土坑

位置 N-10グリッド

107号 形状 東西に長い長方形 規模 長径 - 短径0.43m 深さ - 主軸方位 -

備考 107→109→108の新旧関係か。 遺物 なし

108号 形状 東西に長い長方形 規模 長径1.9m 短径0.87m 深さ45cm 主軸方位 N-77°-W

備考 地割れ跡より新。埋土人為的。 遺物 なし

109号 形状 - 規模 - 遺物 なし

110号・111号・112号土坑 (第119図 PL39)

位置 N-10・11グリッド

110号 形状 南北に長い長方形か 規模 長径 - 短径1.05m 深さ - 主軸方位 -

備考 112→110→111号・168号の新旧関係か。 遺物 なし

111号 形状 長円形 規模 長径1.0m 短径0.6m 深さ20cm 主軸方位 N-77°-W

備考 18号建物跡との関係は不明。 遺物 なし

112号 形状 東西に長い長方形 規模 長径 - 短径0.95m 深さ - 主軸方位 N-86°-W

備考 埋土人為的。 遺物 なし

113号土坑 (第119図)

位置 M-10グリッド 形状 不整方形 規模 長径1.47m 短径0.95m 深さ25cm

主軸方位 N-80°-W 備考 北側に16号井戸跡隣接。 遺物 なし

114号土坑 (第119図 PL39)

位置 N-12グリッド 形状 円形 規模 長径1.6m 短径1.5m 深さ50cm

主軸方位 N-63°-W 備考 北から流下、L字に折れる2号溝跡より新。底部に掘痕。近世の所産。

遺物 なし

115A号・115B号土坑 (第120図 PL39・40)

位置 M・N-8・9グリッド

115A号 形状 東西に長い長方形 規模 長径 1.95m 短径 0.45m 深さ 30cm

主軸方位 N-63°-W 備考 B→A号の序列。 遺物 なし

115B号 形状 東西に長い長方形 規模 長径 3.35m 短径 0.5m 深さ -

主軸方位 Aに同 備考 - 遺物 なし

116号土坑 (第119図)

位置 R-5グリッド 形状 不整梢円形 規模 長径1.3m 短径1.0m 深さ 40cm

主軸方位 N-55°-W 備考 台地西斜面上に位置。 遺物 なし

117号・118号・119号土坑 (第120図)

位置 Q-3・4・5・6グリッド

117号 形状 東西に長い長方形 規模 長径 2.5m 短径 0.7m 深さ 18cm 主軸方位 N-76°-W

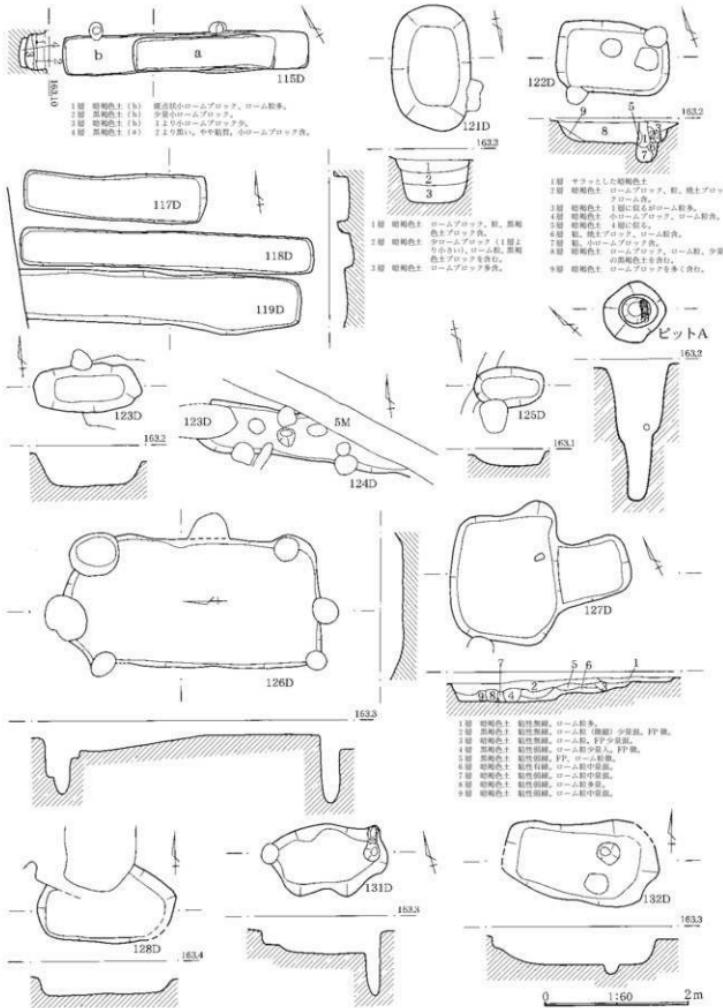
備考 117~119同一性格。耕作痕に関連か。 遺物 なし

118号 形状 117号に同。 規模 長径 4.05m 短径 0.55m 深さ 15cm。 遺物 なし

119号 形状 117号に同。 規模 長径 - 短径 0.7m 深さ極浅い。 遺物 なし

120号土坑 (第119図)

位置 Q-6・7グリッド 形状 東西に長い長方形 規模 長径 3.05m 短径0.73m 深さ -



第120図 115号・117号～119号・121～128号・131号・132号土坑・ピットA

主軸方位 N-82°-W 備考 117号と同一性格か。 遺物 なし

**121号土坑** (第120図)

位置 N-6グリッド 形状 南北に長い長円形 規模 長径1.75m 短径1.09m 深さ58cm

主軸方位 N-12°-E 備考 西側に7号溝跡が隣接。北側に86号土坑。 遺物 なし

**122号土坑** (第120図 P L40)

位置 M-N-7グリッド 形状 東西に長い長方形 規模 長径1.55m 短径1.0m 深さ28cm

主軸方位 N-73°-W 備考 周辺ピットより旧。10・11号建物との新旧は不明。埋土人為的。

遺物 なし

**123号土坑** (第120図 P L40)

位置 L-M-9グリッド 形状 東西に長い長円形 規模 1.5m 短径0.65m 深さ45cm

主軸方位 N-88°-W 備考 124号土坑より新。北に5号溝跡隣接。 遺物 なし

**124号土坑** (第120図)

位置 L-M-9グリッド 形状 東西に長い長方形 規模 長径 - 短径0.7m 深さ -

主軸方位 N-75°-W 備考 東半部5号溝跡と重複。124号新か。 遺物 なし

**125号土坑** (第120図 P L40)

位置 L-9グリッド 形状 長円形 規模 長径0.97m 短径0.57m 深さ20cm

主軸方位 N-79°-W 備考 北に123・124号土坑隣接。 遺物 なし

**A号ピット** (第120・137・138図 P L43・72)

位置 M-8グリッド 形状 円形 規模 長径28cm 短径25cm 深さ62cm 主軸方位 N-83°-W

備考 二段に落ちこむ。位置的に7・8号建物跡と関連か。備蓄銭あるいは、地鎮具的な機能も考えられる。

遺物 銭貨計48枚（1～48）繩状態で出土。銭種は19種に及び、唐銭1種、宋銭16種、明銭2種である。内訳は「開元通寶」(唐621年)～最も後出的な「永楽通寶」(明1408m年)等であり、埋設年代は最も早い段階と仮定すれば、15世紀前半以降ということになる。

**126号土坑** (第120図)

位置 L-M-6グリッド 形状 南北に長い長方形 規模 長径3.5m 短径1.85m 深さ13cm程度 残存

主軸方位 N-2°-E 備考 周辺ピットとの新旧不明。 遺物 なし

**127号土坑** (第120図 P L46)

位置 L-5・6グリッド 形状 圓丸方形。東側に張り出し状 規模 長径1.75m 短径1.5m

深さ30cm大 張り出し部 長径1.0m 短径0.8m 備考 埋土人為的。 遺物 なし

主軸方位 N-88°-W 備考 北側を近世以降の耕作痕・129号土坑に切られる。 遺物 なし

**128号土坑** (第120図)

位置 J-K-7グリッド 形状 長円形 規模 長径 - 短径0.78m 深さ22cm程度

主軸方位 N-88°-W 備考 北側を近世以降の耕作痕・129号土坑に切られる。 遺物 なし

**129号・130号土坑** (第121図)

位置 K-6・7グリッド

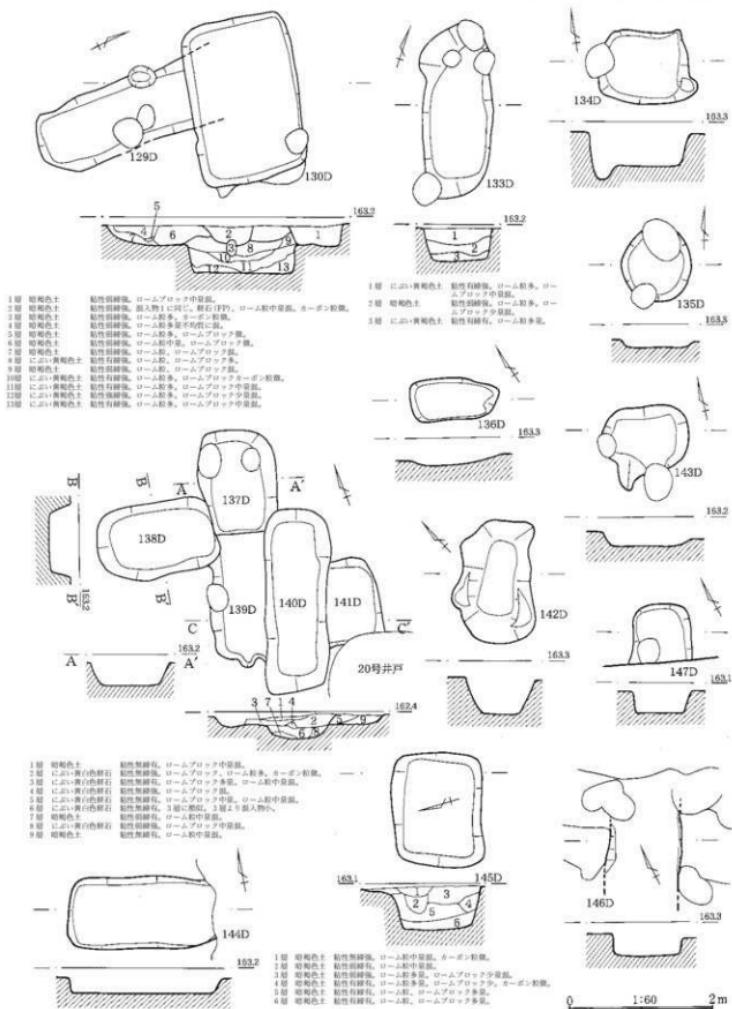
129号 形状 南北に長い長円形 規模 長径 2.3mまで確認 短径0.95m 深さ27cm

主軸方位 N-6°-E 備考 北側の30号土坑より新。上面近世以降の耕作痕。 遺物 なし

130号 形状 東西に長い圓丸方形 規模 長径2.25m 短径1.5m 深さ55cm程度確認

## 第V章 西前沖遺跡

- 主軸方位 N-74°-W 備考 上半部近世以降の耕作痕に切られる。埋土人為的。 遺物 なし
- 131号土坑** (第120図)
- 位置 L-6 グリッド 形状 長円形 規模 長径1.58m 短径1.0m 深さ25cm
- 主軸方位 N-82°-W 備考 周辺ピットとの新旧不明。 遺物 なし
- 132号土坑** (第120図)
- 位置 L-6・7 グリッド 形状 東西に長い長円形 規模 長径2.15m 短径1.15m 深さ35cm前後
- 主軸方位 N-83°-W 備考 西側に131号並列。周辺ピットとの関係不明。埋土人為的。 遺物 なし
- 133号土坑** (第121図)
- 位置 L・M-6・7 グリッド 形状 南北に長い長円形 規模 長径2.43m 短径0.98m 深さ45cm
- 主軸方位 N-14°-W 備考 西側に126号土坑。5号建物跡との関係不明。埋土人為的。 遺物 なし
- 134号土坑** (第121図)
- 位置 M-7 グリッド 形状 卵丸方形 規模 長径1.25m 短径1.02m 深さ45cm
- 主軸方位 N-75°-W 備考 西側に15号建物跡。新旧不明。 遺物 なし
- 135号土坑** (第121図)
- 位置 M-7・8 グリッド 形状 円形 規模 長径1.0m 短径0.97m 深さ10cm程度残存
- 主軸方位 N-33°-E 備考 西側に134号土坑隣接。周辺ピットと重複。 遺物 なし
- 136号土坑** (第121図)
- 位置 L-8 グリッド 形状 長円形 規模 長径1.2m 短径0.6m 深さ10cm程度
- 主軸方位 N-60°-W 備考 南東側に137号～141号土坑群。 遺物 なし
- 137号土坑** (第121図)
- 位置 L-8 グリッド 形状 南北に長い長方形 規模 長径1.42m 短径1.08m 深さ32cm
- 主軸方位 N-16°-E 備考 南側の139号と同一遺構か138・140号より旧か。 遺物 なし
- 138号土坑** (第121図)
- 位置 L-8 グリッド 形状 東西に長い長円形 規模 長径1.65m 短径1.0m 深さ30cm
- 主軸方位 N-81°-W 備考 南東の139号より新か。 遺物 なし
- 139号土坑** (第121図)
- 位置 L-8 グリッド 形状 南北に長い長方形 規模 現1.8mまで確認 短径 -
- 主軸方位 - 備考 重複土坑との関係前述。141号土坑との関係不明。 遺物 なし
- 140号土坑** (第121図)
- 位置 K・L-8 グリッド 形状 南北に長い長方形か 規模 長径2.5m 短径0.9m 深さ25cmを確認。
- 主軸方位 N-19°-E 備考 南側の13号建物跡より新か。 遺物 なし
- 141号土坑** (第121図)
- 位置 L-8 グリッド 形状 東西に長い長方形か 規模 長径 - 短径現1.15m 深さ15cm
- 主軸方位 - 備考 南側に20号井戸隣接。141号旧か。 遺物 なし
- 142号土坑** (第121図)
- 位置 L-8・9 グリッド 形状 南北に長い長円形 規模 長径1.7m 短径1.05m 深さ50cm
- 主軸方位 N-45°-E 備考 周辺ピットとの新旧不明。 遺物 なし
- 143号土坑** (第121図)



第121図 129号・130号・133号～147号土坑

## 第V章 西前沖遺跡

位置 K-9 グリッド 形状 長円形 規模 長径1.2m 短径0.87m 深さ 20cm

主軸方位 N-75°-W 備考 地割れ跡より新か。遺物 なし

### 144号土坑（第121図）

位置 K-7・9 グリッド 形状 東西に長い長方形 規模 長径2.1m 短径1.0m 深さ20cm

主軸方位 N-80°-W 備考 南側の4号溝跡より新か。埋土人為的。墓壙か。遺物 なし

### 145号土坑（第121図）

位置 K-7・7・8 グリッド 形状 溝丸方形 規模 長径1.6m 短径1.35m 深さ60cm

主軸方位 N69°-W 備考 4号溝跡より新。遺物 なし

### 146号土坑（第122図）

位置 J-8 グリッド 形状 一 規模 長径 一 短径1.0m 深さ30cm

主軸方位 一 備考 近世以降の耕作痕に南・北両側切られる。遺構の大半不明。遺物 なし

### 147号土坑（第122図）

位置 I-8 グリッド 形状 南北に長い長方形か 規模 長径 一 短径0.83m 27cm

主軸方位 N-27°-E 備考 南半部は調査区外。遺物 なし

### 148号土坑（第122図）

位置 I-9 グリッド 形状 南北に長い長方形か。 規模 長径 一 短径0.97m 深さ80cm

主軸方位 N-23°-E 備考 南半部は調査区外。西側3mに147号土坑。遺物 なし

### 149号土坑（第122図）

位置 J-9 グリッド 形状 長円形状 規模 長径1.48m 短径1.2m 深さ30cm

主軸方位 N-3°-W 備考 遺構南半部上面、近世以降の耕作痕。埋土人為的。遺物 なし

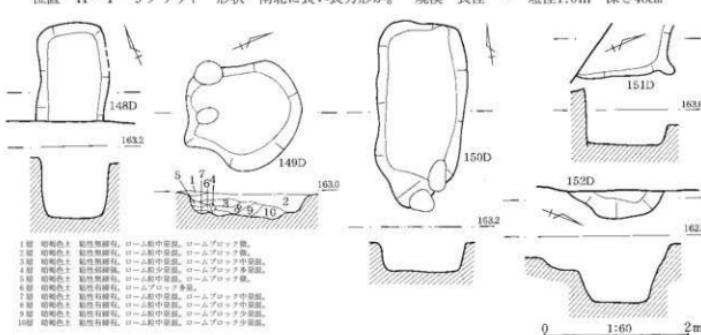
### 150号土坑（第122図）

位置 K-9 グリッド 形状 南北に長い長方形 規模 長径2.55m 短径1.2m 深さ40cm

主軸方位 N-12°-E 備考 地割れ跡より新。周辺ピットとの関係不明。遺物 なし

### 151号土坑（第122図）

位置 H-I-9 グリッド 形状 南北に長い長方形か。 規模 長径 一 短径1.0m 深さ48cm



第122図 148号～152号土坑

主軸方位 N-28°-E 備考 南半部は調査区外。地割れ跡より新か。 遺物 なし

**152号土坑 (第122図)**

位置 H-9・10グリッド 形状 楕円方形か 規模 長径 - 短径 - 深さ75cm程度

主軸方位 - 備考 8号溝跡との新旧は不明。 遺物 なし

**153号土坑 (第9図)**

位置 J-4グリッド 形状 楕円方形 規模 1.2m 長径0.9m 深さ - 主軸方位 N-3°-E

備考 台地西側斜面上に位置。北側に縄文時代1号土坑隣接。性格他不明。 遺物 なし

**154号土坑 (第9図)**

位置 N-3・4グリッド 形状 楕円方形 規模・他不明。 遺物 なし

**(6) 井戸跡**

**1号井戸跡 (第123・131・132~136図 PL40・70・71)**

位置 調査区北東端、U-15・16グリッドに跨って検出。 標高 163.50m付近に位置する。 重複 東側に2号井戸が隣接する。 形状 やや南北に長い楕円形。 規模 長径1.25m、短径1.22m。 断面形 一旦漏斗状をなした後、筒状となる。 深さ 2.0m付近まで確認した。 遺物 覆土内より瓦器質鉢(19)、瀬戸・美濃系香炉(28)、黄瀬戸鉢(30)、瀬戸・美濃系鉢(40・41)、肥前系染付碗(37・38)、小碗(39)他、断面六角形状で、先端撥状をなす安山岩質磁石(59)、石鉢(50)、角閃石安山岩質の凹石製品(54)が出土。近世17後半~18世紀代の所産とみられる。

**2号井戸跡 (第123図 PL40)**

位置 U-16グリッドに検出。 標高は移動井戸跡に同。 形状 楕円形状 規模 長径0.85m、短径0.83m。 断面形 筒状をなし、西側中位面で、ややオーバーハングする。下面で幅狭となる。 深さ 2.5m付近まで確認。 遺物 検出されなかった。

**3号井戸跡 (第123図 PL40)**

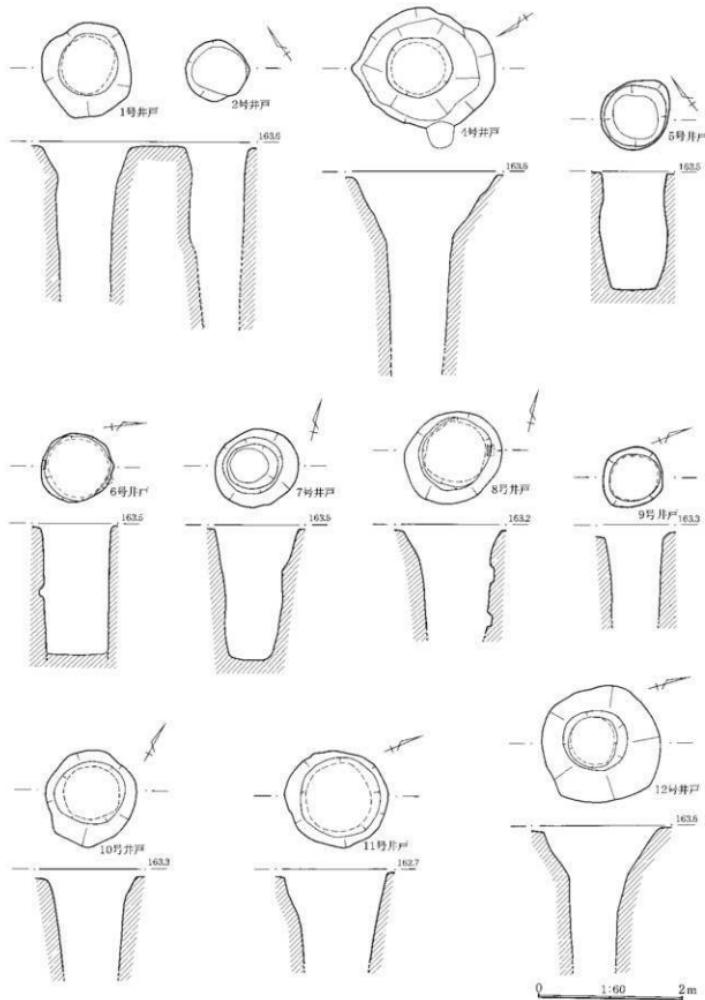
位置 T・U-15グリッドに検出。 標高 163.60m付近 重複 18号土坑と重複、3号井戸跡。 形状 楕円形 規模 長径1.2m、短径1.03m。 断面形 筒状をなし、底面U字状となる。 深さ1.15mまで確認 遺物 確認されなかった。

**4号井戸跡 (第123・131・134・136図 口絵5 PL40)**

位置 T・U-15グリッドに検出。西側に2号井戸跡、東側には2号建物跡が隣接する。 標高 163.60m付近に位置。 形状 南北に若干長い楕円形。 規模 長径1.93m、短径1.65m。 断面形 漏斗状をなし、下半部はほぼ整美な筒状。 深さ 2.8mまで確認した。 遺物 覆土内より在地産焰熔片(16)、石鉢片、茶臼(75)が出土している。遺物から中世15世紀代後半に該期するとみられる。

**5号井戸跡 (第123・134図 PL40・70)**

位置 S-17グリッドに検出。西側に1号建物跡が隣接する。 標高 163.45m付近 形状 東西にやや長い楕円形 規模 長径1.07m、短径0.92m 断面形 筒状をなし、中位面で若干膨らむ。 深さ 1.6m 底部



第123図 1号・2号・4号～12号井戸跡（3号は第115図参照）

平坦。 遺物 覆土内で 天目? 檜片、五輪塔一火輪部(57・58)が出土。15世紀代後半頃の所産とみられる。

#### 6号井戸跡 (第123・131図 P L41・71)

位置 R・S-17グリッドに検出。前述5号井戸跡の南東側に隣接する。 標高 163.43m付近とみられる。 形状 楕円形 規模 長径1.0m、短径0.96m。 断面形 筒状をなし、南側壁面中位付近に、足掛けとみられるコの字状の窪みが確認された。 深さ 1.8mまで確認した。 遺物 覆土内で山茶楓底部片(10)が出土。大西氏の御教示によれば、12世紀後半頃の所産である。

#### 7号井戸跡 (第123図 P L41)

位置 R-15グリッドに検出。西側約5m付近に3号建物跡がある。 標高163.43m付近か。 形状 やや東西に長い楕円形 規模 長径1.15m、短径1.05m。 断面形 東半部でわずかに漏斗状をなす。 深さ1.8m付近で湧水点に達する。 遺物 検出されなかった。

#### 8号井戸跡 (第123・134・136図 P L41)

位置 Q-16・17グリッドに検出。西側に910号井戸跡が並列する。周辺は遺構が少ない。 標高163.10m。 形状 楕円形状 規模 長径1.35m、短径1.2m。 断面形 上半部若干八の字状に開き、筒状におりる。東辺部側2ヶ所に足掛け状の窪みをもつ。 深さ1.5m付近まで確認。 遺物 上位付近で投棄に因るとみられる、大小の躰に混じり、在地土鍋口縁部片(12)、石鉢(53)、及び礫白上白(72)が検出された。遺物から廃棄の時期が16世紀代を前後する頃とみられ、井戸自体が機能していた時期は15世紀代中～と考えられる。

#### 9号井戸跡 (第123図)

位置 Q-16グリッド 標高163.15m付近 形状 ほぼ円形である。 規模 長径0.83m、短径0.80mとやや小形である。 断面形 ほぼ筒状 深さ 1.3mまで確認。 遺物 覆土内で板碑片(48)が出土。梵字は確認されなかったが、裏面には盤状痕が残る。

#### 10号井戸跡 (第123図 P L41)

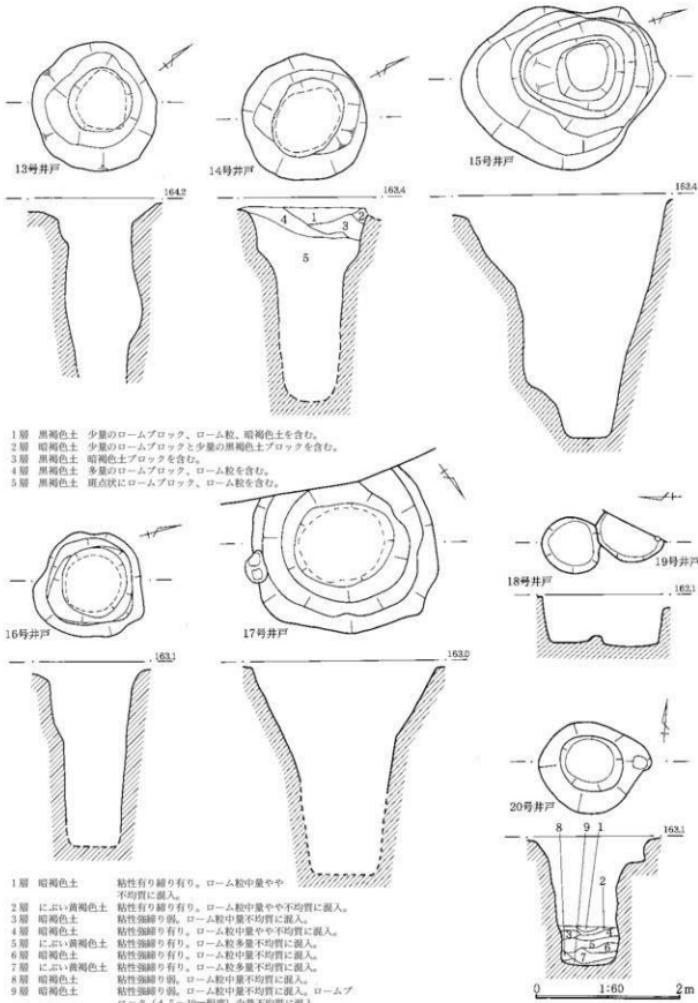
位置 Q-16グリッド 東側に9号井戸。 標高 163.15m付近。 3基の井戸が同一標高ライン上に並ぶことから、構築時期にさほどの時間差はないのではなかろうか。 形状 南北にやや長い楕円形 規模 長径1.3m、短径1.25m。 断面形 南側上面で、やや緩やかに傾斜するが、ほぼ筒状に落ちこむ。 深さ 1.4m付近まで確認。 遺物 遺物は検出されなかった。

#### 11号井戸跡 (第123図)

位置 N-14グリッド 標高 162.60m地点。 南東側に34号土坑が隣接する。 形状 やや南北に長いが、ほぼ整った楕円形 規模 長径1.42m、短径1.3m。 断面形 上端八の字状をなし、筒状に落ちこむ。 深さ 1.3m付近まで確認。 遺物 検出されなかった。

#### 12号井戸跡 (第123図 P L41)

位置 Q・R-12グリッド 標高 163.55m付近 形状 上面楕円形、中位面円形をなす。 規模 上面長



第124図 13号～20号井戸跡

径1.62m 同短径1.55m 中位面長径0.9m 同短径0.8m 断面形 上面八の字状をなし、筒状に落ちこむ。  
深さ 1.9m付近まで確認。 遺物 図化しなかったが、覆土内で土鍋片出土。時期的には、15世紀代後半か。

#### 13号井戸跡（第124・131図）

位置 T-11・12グリッド 標高 164.10m地点 重複 4号建物跡と重複。13号井戸が新。 形状 やや南北に長い楕円形 規模 上面長径1.85m、同短径1.70m、中位長径0.88m、同短径0.88m 断面形 上端八の字状をなした後、筒状となり、中位付近で内側にやや膨らむ。 深さ 2.3m付近まで確認。 遺物 底部回転糸切りの瓦器質土器(20)が出土。

#### 14号井戸跡（第124図 P L42）

位置 P-11グリッド 標高 163.30m付近 北に接して1・2号溝跡がある。本遺構と2号溝跡は、2号溝跡が新。 形状 上面ほぼ円形状、中位で平面長円形状をなす。 規模 上面長径1.85m、同短径1.85m、中位長径1.15m、同短径0.85m。 断面形 上位より0.6m付近でくの字に折れ、筒状となる。 深さ 重機掘削後2.6mを確認。上面より1.6m付近で湧水が旺盛となる。 遺物 なし

#### 15号井戸跡（第124・131・132・136図 P L70）

位置 O・P-9グリッド 標高 163.20m付近 南側に7・8号建物跡が隣接。本調査区のなかで、大形規模を示す。 形状 上面南北に長い長円形。中央で円形状をなす。 規模 上面長径2.57m、同短径2.25m。中位長径1.55m、同短径1.35m。最深底部径60cm。 断面形 上端播鉢状、中位付近でやや直立、下端近くで南側大きく崩れる。崩落に伴う現象であろうか。 深さ 3.1mまで確認。 遺物 覆土内で瓦器質壺(茶壺?) (24)、瀬戸・美濃系大平鉢(29)、天目碗底部(26)、土鍋底部片(14・15)、礪白上白(71)等が検出された。遺物から15世紀後半～16世紀代前半であろうか。

#### 16号井戸跡（第124・136・138図 P L42）

位置 M-10グリッドに検出。北に隣接して18号建物跡、南側には6号溝跡がある。 標高 163.0m付近 形状 上面不整楕円形状、中位で円形となる。 規模 上面長径1.5m、短径1.45m 中位長径0.95m、同短径0.90m。 断面形 上半播鉢状をなした後、筒状に落ちこむ。南側は中位移行点で若干抉れが生じている。 深さ 2.4mまで確認した。 遺物 銭貨「嘉祐元寶」(北宋1056年)(1)、礪白上白(74)等の他土鍋片が出土。

#### 17号井戸跡（第124・135図 P L42・71）

位置 L-10グリッドに検出。北に接して5号溝跡がある。17号井戸跡が新。また周辺には建物跡群が林立、本井戸も大形形態をなす。 標高 162.90m付近 形状 上面やや方形形状をなし、中位面で楕円形状に落ちこむ。 規模 上面長径2.53m、同短径2.30m。中位長径1.35m、同短径1.12m。 断面形 上面八の字状、中位面で筒状に落ちこむ。 深さ 2.8m付近まで確認した。 遺物 流紋岩系の砾石(60)の他、板碑片等が検出。

#### 18号・19号井戸跡（第124・132図 P L42）

位置 L-13グリッド。18・19号が南北に繋がる形で検出され、19号の東半部は調査区外の為、西側のみの調査となった。 標高 162m地点で、西側に向かって形成される谷地形の台地際部分にあたる。 重複 両者

## 第V章 西前沖遺跡

の新旧は、定かではないが19号が新しいか。

18号 形状 円形 規模 長径0.78m、短径0.78m。断面形 ほぼ筒状 深さ 65cmで湧水点に達した。遺物 覆土内で常滑かめ片(34)1点が確認された。肩部～胴部への移行点が明瞭。

19号 形状 円形 規模 長径 - 、短径0.93m。断面形 筒状 深さ 50cmまで確認。遺物 なし

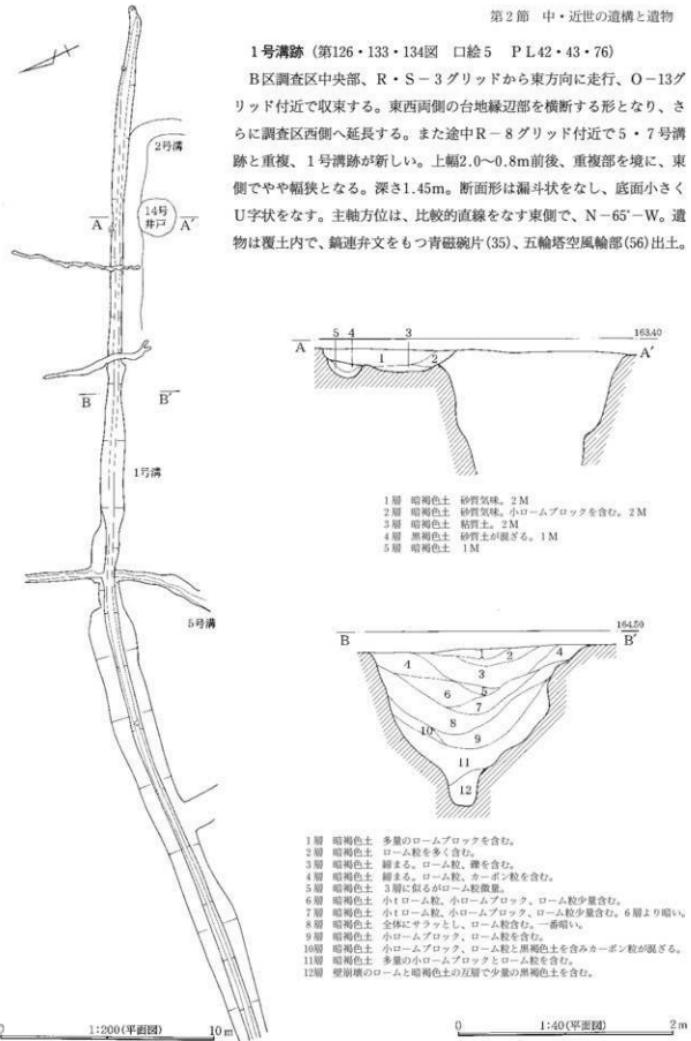
### 20号井戸跡 (第124・143図)

位置 E区 K-8グリッドに検出され、南側に14・17号建物跡が隣接する。周辺はこの他土坑群等も多く。遺構密集地帯である。標高 163.10m付近 形状 ほぼ円形状で、東側に階段状に一段下がる落ち込みを確認。規模 長径1.589m、短径1.27m。断面形 上端八の字に開き、筒状に落ちこむ。壁面は崩落に因るか、若干の凹凸が確認される。上面下30cmの段上面がAs-B形前面である。深さ1.75mで湧水点に達する。遺物 覆土内で 石鉢(29)、石臼(31)が出土。

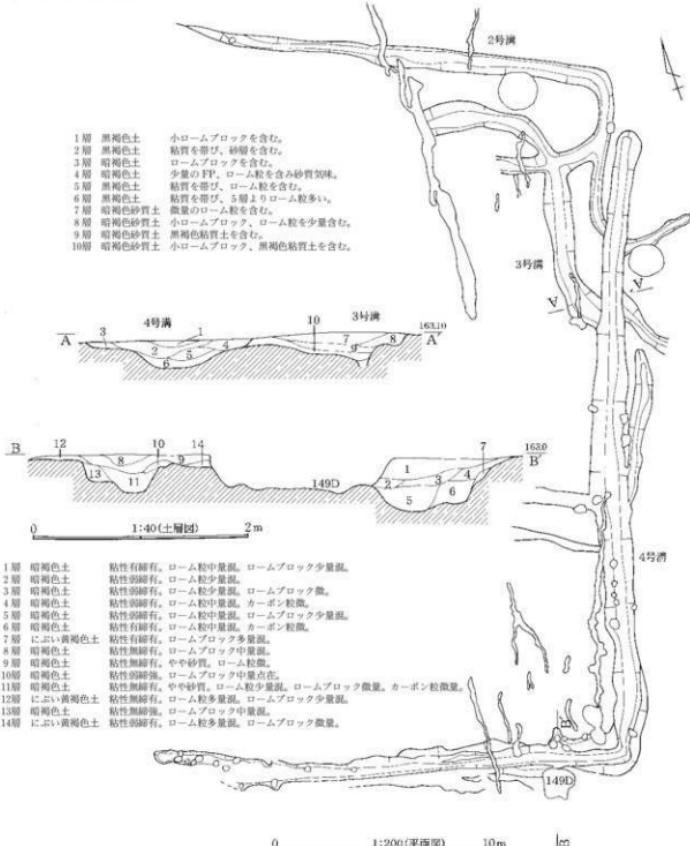
### (7) 溝 跡



第125図 B・E地点溝跡全体図



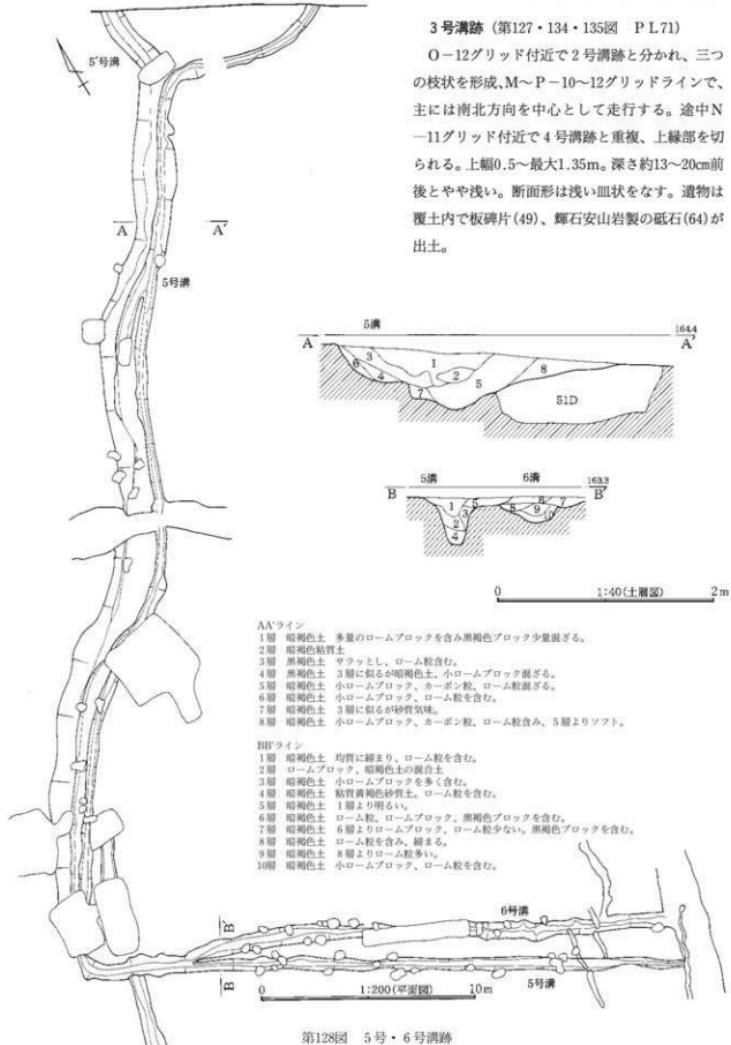
第126図 1号溝跡



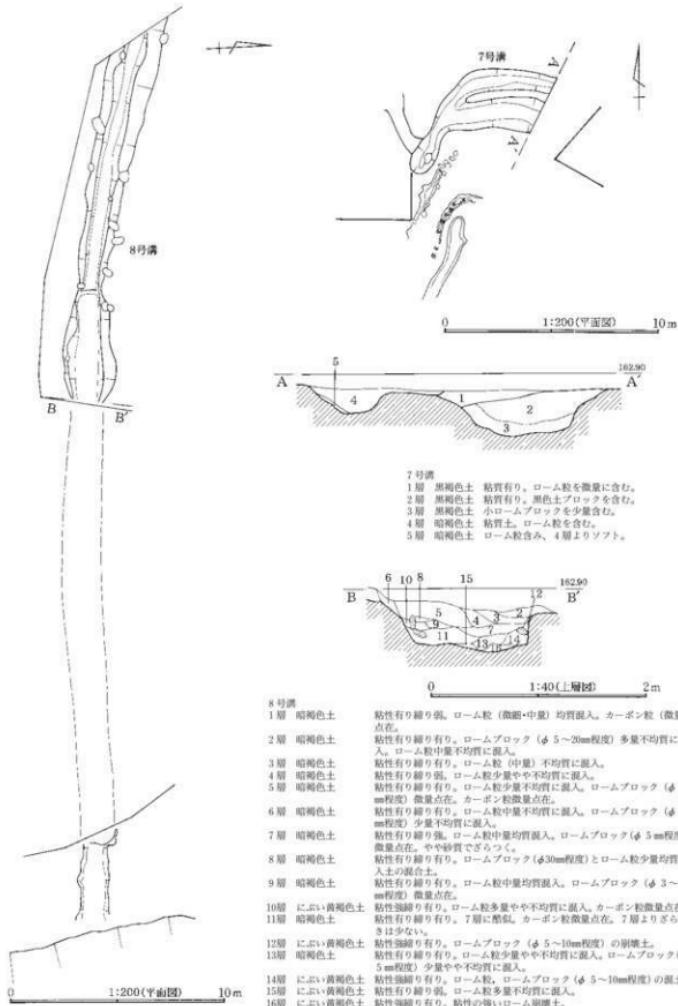
第127図 2号・3号・4号溝跡

## 2号溝跡 (第125・127図)

R-9グリッドから緩く南東方向へ向かい、P-12グリッド付近で南側にコの字に折れる。さらにN-12グリッドで収束する。この間1号溝跡14号井戸跡と重複、いずれよりも2号溝跡が新しい。上幅0.4~最大1.2m前後、特に1号溝跡と平行する北側では幅広となる。深さ約10~20cm前後。断面形は浅いU字状をなす。遺物は覆土内で瓦器質小片が出土した。



第128図 5号・6号溝跡



第129図 7号・8号溝跡

## 4号溝跡（第127・134・135・141・146図 PL46・71・81）

O-12グリッドより南西方向に直線的に走行、J-10グリッド付近でL字に折れ、台地西側に向かう。その後台地西側縁辺際、K-7グリッド付近で130号土坑と重複消滅する。途中L-10・11グリッド付近で、東西走行する5・6号溝跡と重複する。新旧は不明だが、周辺一帯に密集する建物跡群との対応を考慮する点で、主軸的な溝跡といえる。上幅0.9～最大1.6m程度、断面U字状、深さ40～50cm前後。主軸方位は東側南北走部でN-23°E。遺物は覆土内で、石鉢(51・52)、石礎(70)、砥石(27・65)、その他、馬齒、軟質陶器片(19・10)等が出土した。

## 5号溝跡（第128・134・135図 口絵5 PL43・71）

U・V-10・11グリッド付近で、一旦北西方向から流下する枝状溝と合流後、南西方向に直線やや湾曲気味に併走する。溝跡西側は東側へ向かって緩く傾斜面を形成。その後N-O-6グリッド付近でL字に折れ、L-10・11グリッド付近で前述4号溝跡と交差する。上幅0.45～0.55m、深さ45～55cm前後。断面形ほぼU字状。遺物は覆土内で、刀装具の止金具であろうか(45)、砥石2点(66・67)の他、土鍋片・板片等が出土。遺物から15世紀代後半～16世紀代の所産か。

## 6号溝跡（第128図 PL43）

N-7グリッド付近で5号溝跡から分かれ、5号溝跡に併走する形で南東方向へ向かい、L-10グリッド付近で4号溝跡と重なる。5号溝跡との新旧は土層観察から、6号→5号の序列が確認された。また周辺一帯は多くの建物跡群があり、9号～11号建物跡群との重複がみられるが、各々との新旧関係は不明である。上幅0.7～0.85m、深さ25cm前後。断面形緩いU字状。遺物は検出されなかった。

## 7号溝跡（第129・132図）

4号溝跡の東側、M・N-12・13グリッドに検出。北半は2本の枝状に分かれ、調査区概東側へ延長する。また南東側で3号溝跡と重複、その先端は一旦途切れるが、南東方向へ連続するとみられる。南側には水田跡遺構が控えており、それに関連する水路等の機能も想定される。上幅0.9～1.5m、深さ20～50cm前後。断面形U字状をなす。遺物 焼締陶器常滑窯片(33)が出土。

## 8号溝跡（第129・141・143図 PL46・81）

調査区南端H-I-2グリッド～東方向へ走行、中央部分は調査区外となるが、H-10グリッドに連続する。前述1号溝跡と同様に、台地斜面上を横断する溝跡であることから、1号溝跡と軸方向もほぼ同じであり同時期であろうか。東端部は1号水田跡上半を切り、H-11グリッド内で消滅する。152号土坑と重複するが、新旧は不明である。上幅0.9～1.3m前後、深さ32～55cm前後。断面形は東側でU字状、西側では上面やや掘鉢状、下半部U字状をなす。遺物 在地産掘鉢片(2)、焼締陶器常滑窯片(13)、輝石安山岩凹石(34)が出土している。

## (8) 水田跡

## 1号水田跡（第130・141～143図 PL44・71・81）

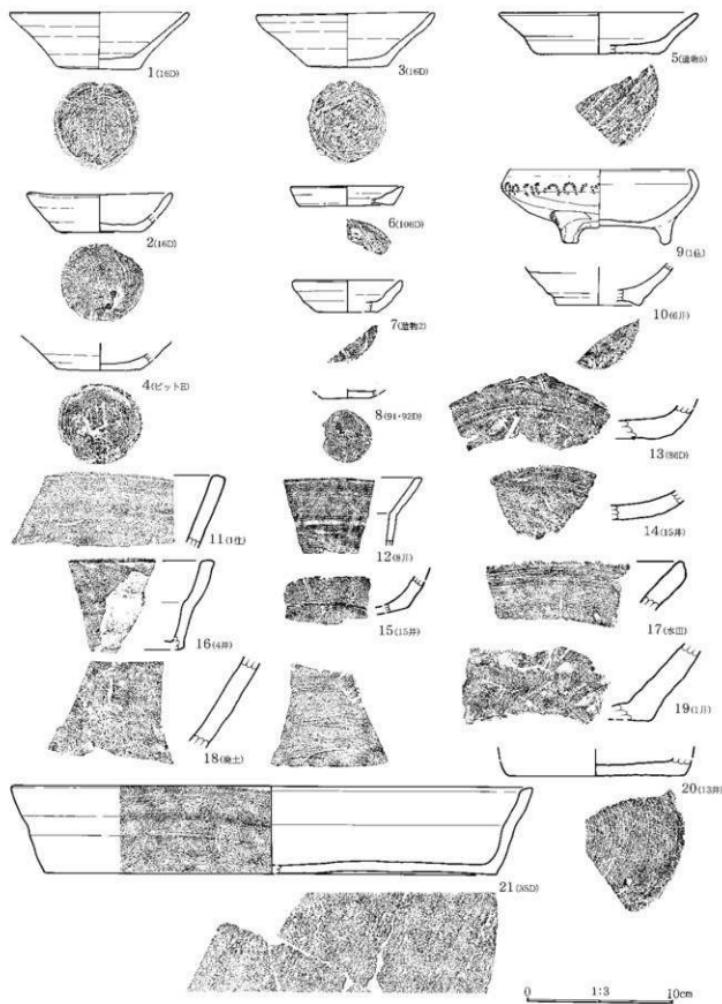
E区・D-10・11グリッドより、北・東方向に向かって湾曲、B区・M-12・13グリッド付近にかけて検出された。周辺一帯は現在も水田地帯として活用されており、本遺構はこれら水田下に展開される旧水田面とい

うことができる。遺構は、現在の水田面（第1層）下、第3層面内に確認された。この他、第8層に As-B 混土層が確認されていることに加え、北端部 L・M-13グリッド低位面には、無数の凹凸痕が確認される。こうした様相から A-S-B 降下以後、耕作が行われた可能性も考慮されるが、明瞭な痕跡として捉えることは出来なかった。第3層水田面の大凡の拡がりは、東西長7.3~9.0m、南北長45.15m前後を測る。標高は北側で162.65m、最南端部で162.30m、比高差約35cmと比較的のなだらかである。これに伴い K-M-11・12グリッド付近では、幅25cm、長さ7.5mの溝状内に鋤先状の工具痕・足跡痕？や、水利区画に関する可能性が考えられる9号溝跡の存在がある。また F区、G・H-11グリッド内に畦畔とみられる高まりの一部が出土した。規模は上幅約40cm、下幅80cm、高さ6cm前後が残存していた。主軸方位N-74°Wを示す。バイパス北側部分C地点で、

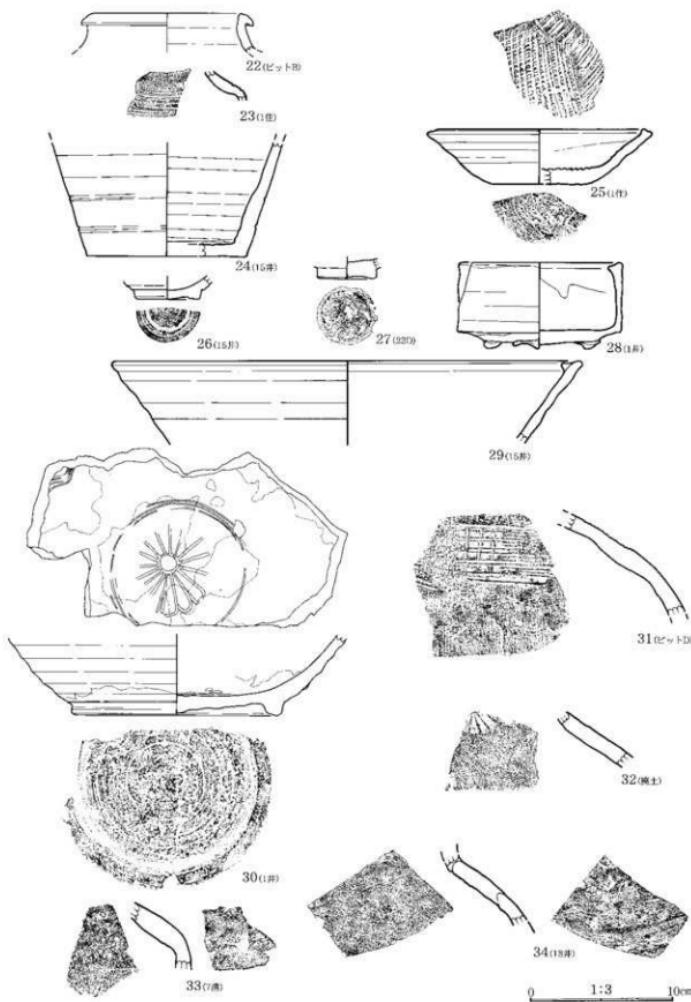
同様の水田跡が確認されており、枝状沖積谷縁辺の土地利用の一端が窺える。遺物はB・E区覆土内で常滑片（14~24）陶器鉢皿（12）、他陶器類（5・6・7・11）、在地産播鉢（3・4）、舶載青磁片（8）、等数量的には充実している。時期的に中世16世紀代～近世17・18世紀代の所産で、かなり長期間水田跡として利用されたものか。



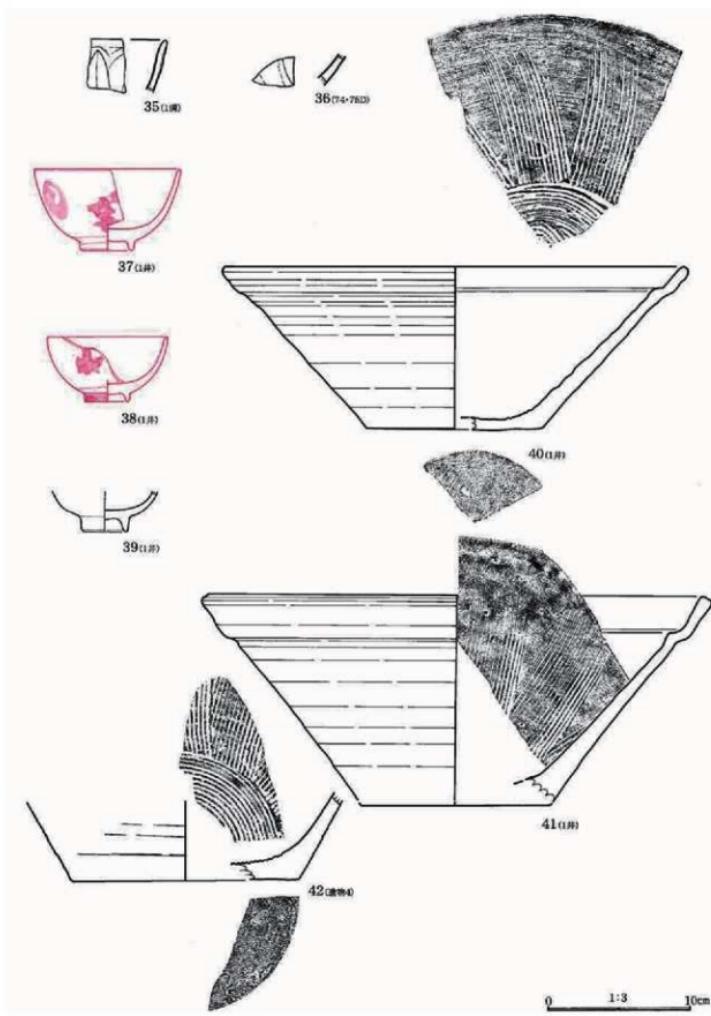
第130図 1号水田跡遺構



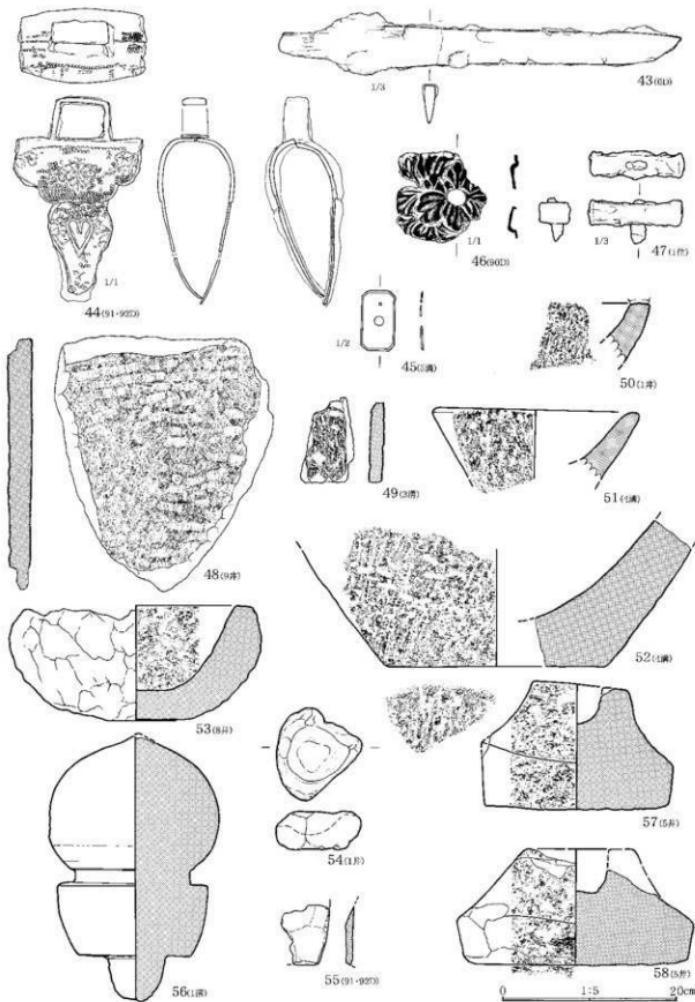
第131図 B地点出土遺物(1)



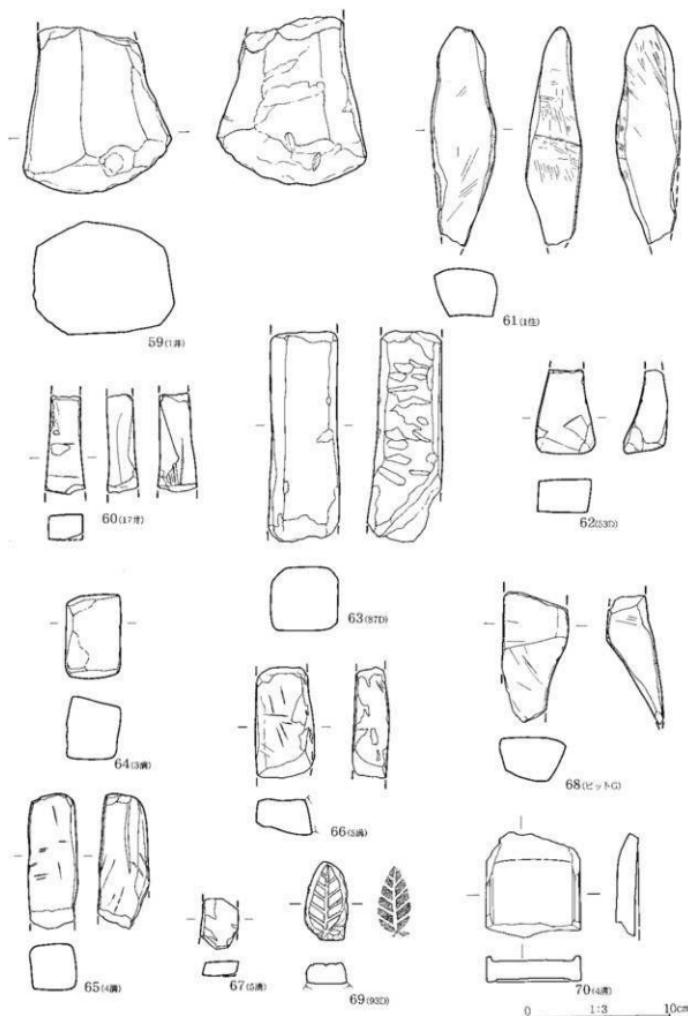
第132図 B地点出土遺物(2)



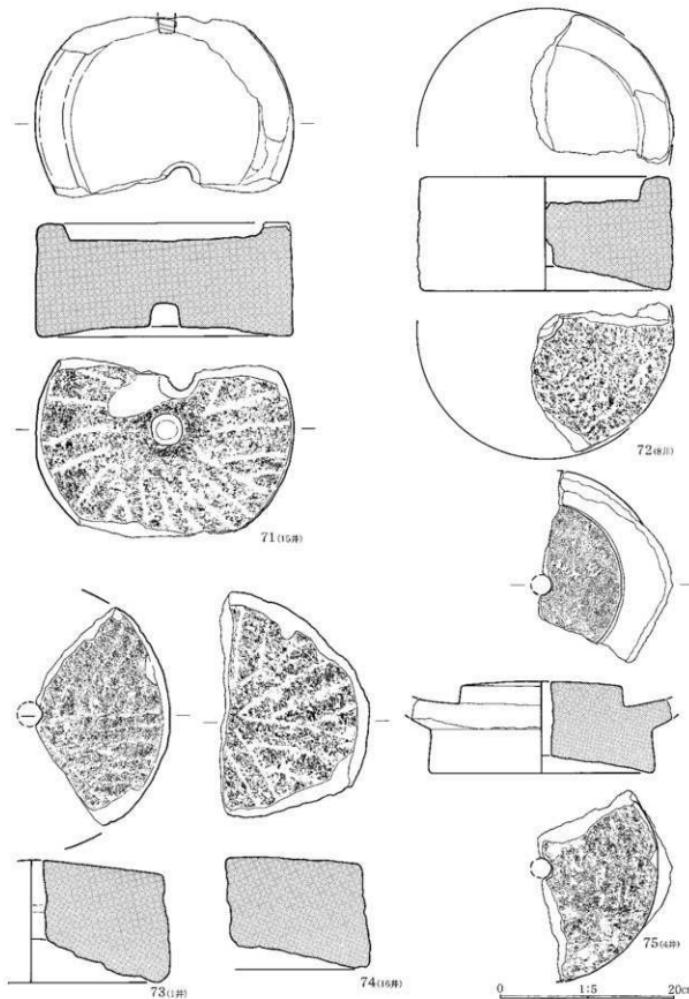
第133図 B地点出土遺物(3)



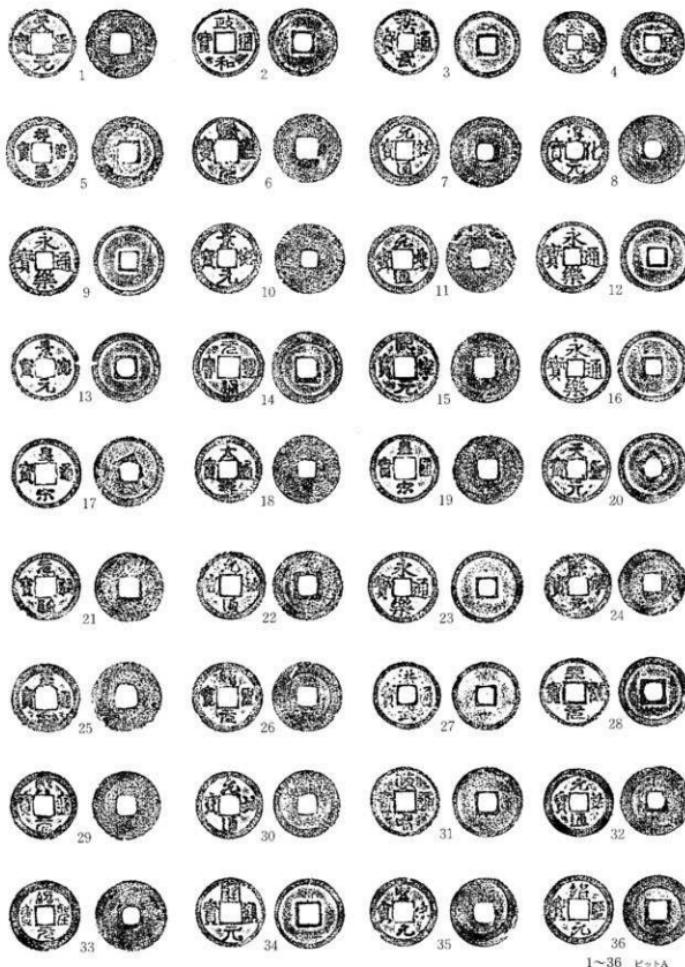
第134圖 B地點出土遺物(4)



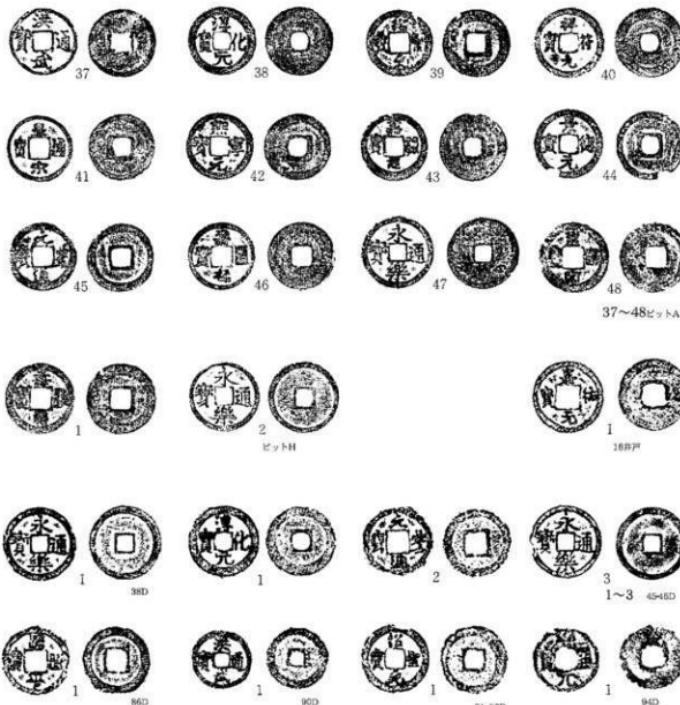
第135図 B地点出土遺物(5)



第136図 B地点出土遺物(6)



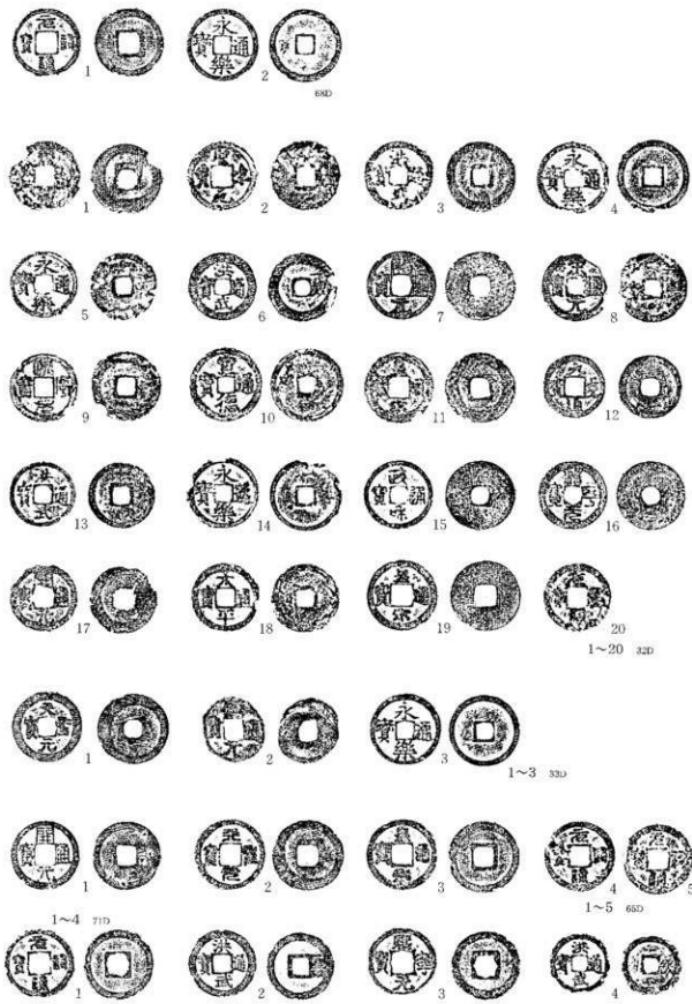
第137図 B地点出土遺物(7)



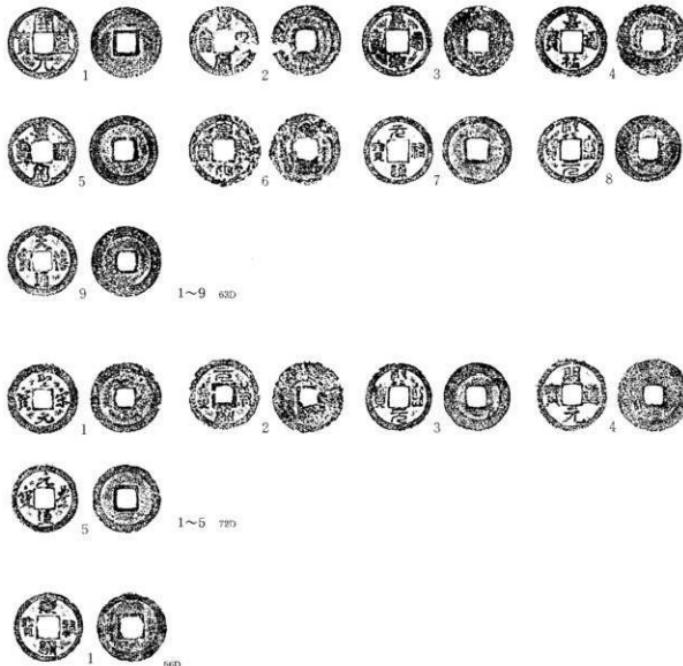
第138図 B地点出土遺物(8)

第1表 西前冲遺跡 B地点出土錢貨一覧表(1)

標印番号	通模番号	番号	錢貨名	鉄造年	鉄造地名	口径	郭径	重量	周囲番号	通模番号	番号	錢貨名	鉄造年	鉄造地名	口径	郭径	重量
第137回 ピットA	1	1	天聖元寶	1023年	北宋	2.3	0.8	3 g	第137回 ピットA	14	14	天聖通寶	1078年	北宋	2.5	0.8	4 g
	2	2	政和通寶	1111年	北宋	2.4	0.8	3 g		15	用寧元寶	1068年	北宋	2.4	0.85	2 g	
	3	3	洪武通寶	1368年	明	2.2	0.7	3 g		16	永樂通寶	1408年	明	2.4	0.7	4 g	
	4	4	洪武通寶	1368年	明	2.2	0.55	4 g		17	宣德通寶	1038年	北宋	2.4	0.8	3 g	
	5	5	祥符通寶	1009年	北宋	2.4	0.75	3 g		18	太平通寶	976年	北宋	2.3	0.7	3 g	
	6	6	聖宋元宝	1068年	北宋	2.4	0.8	4 g		19	皇宋通寶	1038年	北宋	2.4	0.8	3 g	
	7	7	祐祐通寶	1086年	北宋	2.4	0.7	3 g		20	天聖元寶	1023年	北宋	2.35	0.8	3 g	
	8	8	淳化元寶	990年	北宋	2.4	0.7	3 g		21	元祐通寶	1088年	北宋	2.4	0.8	3 g	
	9	9	永樂通寶	1408年	明	2.4	0.65	4 g		22	元祐通寶	1086年	北宋	2.4	0.8	3 g	
	10	10	聖宋元寶	1004年	北宋	2.4	0.7	4 g		23	永樂通寶	1408年	明	2.4	0.7	4 g	
	11	11	聖宋通寶	1078年	北宋	2.4	0.75	3 g		24	熙寧元寶	1068年	北宋	2.3	0.8	3 g	
	12	12	永聖通寶	1408年	明	2.4	0.7	4 g		25	至和通寶	1054年	北宋	2.35	0.8	3 g	
	13	13	聖德元寶	1004年	北宋	2.4	0.7	4 g		26	紹聖元寶	1094年	北宋	2.4	0.75	3 g	



第139図 B地点出土遺物(9)



第140図 B地点出土銭貨00

第1表 西前冲遺跡 B地点出土銭貨一覧表(2)

番号	通査番号	番号	銭貨名	鑄造年	鋳造地名	口径	開徑	重量	番号	通査番号	番号	銭貨名	鑄造年	鋳造地名	口径	開径	重量	
第137図	ビットA	27	洪武通寶	1368年	北宋	2.35	0.7	5 g	42	嘉祐元寶	1068年	北宋	2.3	0.7	3 g			
		28	天聖元寶	1023年	北宋	2.4	0.8	3 g	43	嘉祐元寶	1056年	北宋	2.3	0.7	3 g			
		29	熙寧元寶	1068年	北宋	2.3	0.8	4 g	44	景德元寶	1004年	北宋	2.35	0.7	3 g			
		30	元祐通寶	1086年	北宋	2.3	0.8	4 g	45	元豐通寶	1078年	北宋	2.3	0.8	3 g			
		31	政和通寶	1111年	北宋	2.4	0.8	3 g	46	嘉祐通寶	1056年	北宋	2.3	0.8	3 g			
		32	祐聖通寶	1088年	北宋	2.4	0.75	4 g	47	永業通寶	1408年	明	2.4	0.7	4 g			
		33	紹聖元寶	1094年	北宋	2.4	0.7	4 g	48	皇宋通寶	1038年	北宋	2.4	0.8	3 g			
		34	開元通寶	621年	唐	2.4	0.8	3 g	ビットH	1	嘉祐通寶	1056年	北宋	2.35	0.8	3 g		
		35	聖宋通寶	1101年	北宋	2.3	0.8	4 g										
		36	紹聖元寶	1094年	北宋	2.4	0.8	3 g										
		37	洪武通寶	1368年	明	2.3	0.75	4 g										
第138図	ビットA	38	淳祐元寶	990年	北宋	2.3	0.7	3 g	28号土坑	1	永業通寶	1408年	明	2.5	0.7	3 g		
		39	紹聖元寶	1094年	北宋	2.3	0.75	3 g	45+46号土坑	1	淳化元寶	990年	北宋	2.4	0.7	3 g		
		40	祥符元寶	1009年	北宋	2.4	0.75	4 g		2	元豐通寶	1078年	北宋	2.4	0.8	2 g		
		41	聖宋通寶	1038年	北宋	2.2	0.8	3 g		3	永業通寶	1408年	明	2.4	0.7	2 g		
									86号土坑	1	治平通寶	1064年	北宋	2.3	0.8	2 g		

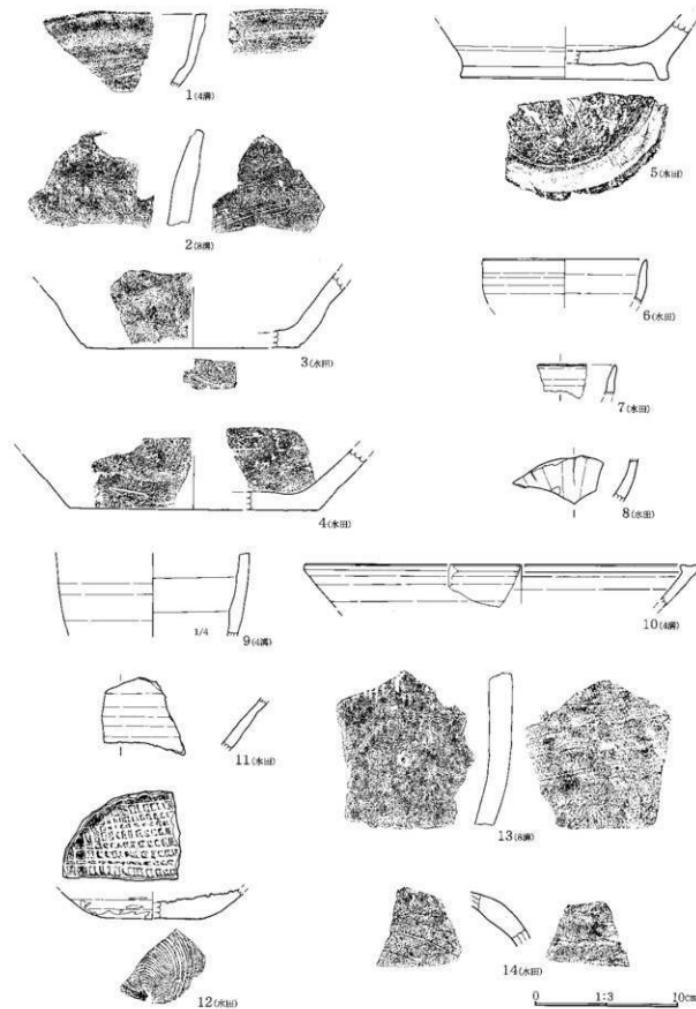
## 第2節 中・近世の造構と遺物

第1表 西前沖遺跡 B地点出土銭貨一覧表(3)

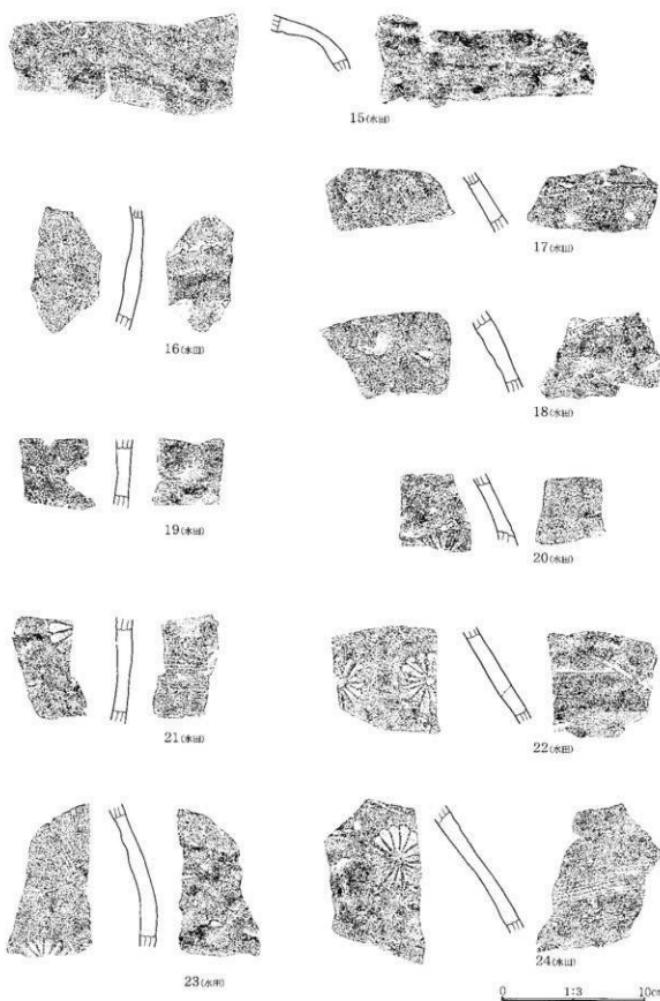
周囲番号	造構番号	番号	銭貨名	鑄造年	鉢造地名	口径	郭径	重量	周囲番号	造構番号	番号	銭貨名	鑄造年	鉢造地名	口径	郭径	重量
第138回 90号土坑	1 洪武通寶	1368年 明	2.1, 0.7 3 g	第139回 91・92号土坑	1 朝聖元寶	1394年 北宋	2.3, 0.7 3 g	33号土坑	2 宋通元寶?	960年 北宋	2.3, 0.8 3 g						
		1368年 明	2.1, 0.7 3 g			1394年 北宋	2.3, 0.7 3 g			3 永楽通寶	1408年 明	2.4, 0.7 3 g					
		621年 唐	2.2, 1.0 2 g			621年 唐	2.3, 0.8 2 g			4 元開通寶	621年 唐	2.3, 0.8 2 g					
第139回 68号土坑	1 元祐通寶	1086年 北宋	2.3, 0.8 2 g	71号土坑	1 天聖元寶	1023年 北宋	2.4, 0.8 3 g	63号土坑	1 元祐通寶	1086年 北宋	2.4, 0.8 4 g						
		1086年 北宋	2.3, 0.8 2 g			1086年 北宋	2.4, 0.8 3 g			2 洪武通寶	1368年 北宋・南文	2.35, 0.7 4 g					
		1086年 北宋	2.4, 0.8 3 g			1086年 北宋	2.3, 0.9 2 g			3 朝聖元寶	1068年 北宋	2.4, 0.8 3 g					
		1086年 北宋	2.4, 0.8 3 g			1086年 北宋	2.3, 0.9 2 g			4 洪武通寶	1368年 北宋・南文	2.0, 0.6 2 g					
		1086年 北宋	2.3, 0.6 3 g			1086年 北宋	2.4, 0.8 3 g			5 元祐通寶	1086年 北宋	2.3, 0.8 3 g					
		1086年 北宋	2.3, 0.6 3 g			1086年 北宋	2.4, 0.8 3 g			6 皇宋通寶	1039年 北宋	2.35, 0.8 2 g					
第140回 7号土坑	7 開元通寶	621年 唐	2.35, 0.8 2 g	72号土坑	1 皇宋通寶	1023年 北宋	2.4, 0.8 3 g	66号土坑	1 元祐通寶	1086年 北宋	2.4, 0.8 3 g						
		960年 北宋	2.4, 0.7 3 g			1039年 北宋	2.35, 0.8 2 g			2 皇宋通寶	1039年 北宋	2.3, 0.8 3 g					
		960年 北宋	2.3, 0.7 3 g			1039年 北宋	2.4, 0.8 3 g			3 皇宋通寶	1039年 北宋	2.4, 0.8 3 g					
		1039年 北宋	2.4, 0.8 3 g			1056年 北宋	2.4, 0.8 3 g			4 皇祐通寶	1056年 北宋	2.3, 0.8 3 g					
		1039年 北宋	2.3, 0.7 3 g			1056年 北宋	2.3, 0.8 3 g			5 皇祐通寶	1059年 北宋	2.3, 0.8 3 g					
		1039年 北宋	2.3, 0.7 3 g			1059年 北宋	2.4, 0.85 4 g			6 皇祐通寶	1059年 北宋	2.4, 0.85 4 g					
		1039年 北宋	2.3, 0.7 3 g			1066年 北宋	2.4, 0.8 3 g			7 元祐通寶	1066年 北宋	2.3, 0.8 3 g					
		1039年 北宋	2.4, 0.7 3 g			1068年 北宋	2.3, 0.8 2 g			8 乾寧元寶	1068年 北宋	2.3, 0.8 2 g					
		1039年 北宋	2.4, 0.7 3 g			1071年 北宋	2.4, 0.7 3 g			9 天禧通寶	1071年 北宋	2.4, 0.7 3 g					
		1039年 北宋	2.35, 0.7 3 g			1071年 北宋	2.4, 0.75 3 g			1 乾寧元寶	1071年 北宋	2.4, 0.75 3 g					
		1039年 北宋	2.3, 0.8 2 g			1098年 北宋	2.4, 0.85 4 g			2 元符通寶	1098年 北宋	2.4, 0.85 4 g					
		960年 北宋	2.3, 0.7 3 g			1068年 北宋	2.3, 0.75 3 g			3 乾寧元寶	1068年 北宋	2.3, 0.75 3 g					
		960年 北宋	2.4, 0.8 2 g			1071年 北宋	2.4, 0.7 3 g			4 開元通寶	621年 唐	2.4, 0.7 3 g					
		960年 北宋	2.3, 0.8 2 g			1078年 北宋	2.3, 0.75 3 g			5 元祐通寶	1078年 北宋	2.3, 0.75 3 g					
		960年 北宋	2.3, 0.8 2 g			1086年 北宋	2.4, 0.8 3 g			6 乾寧元寶	1086年 北宋	2.4, 0.8 3 g					

第1表 西前沖遺跡 D地点出土銭貨一覧表

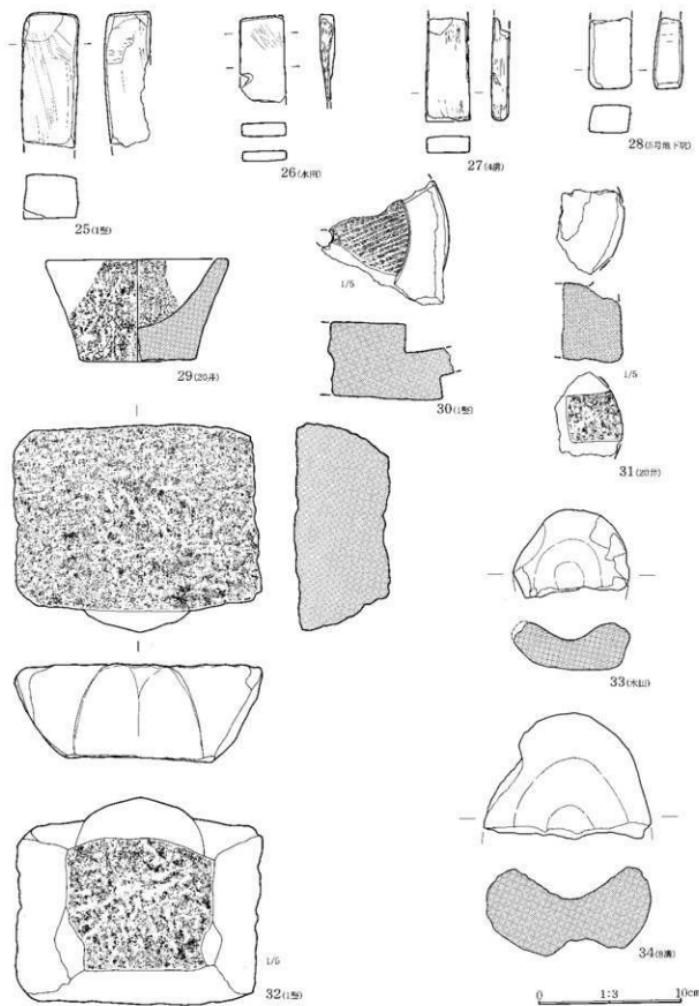
周囲番号	造構番号	番号	銭貨名	鑄造年	鉢造地名	口径	郭径	重量	周囲番号	造構番号	番号	銭貨名	鑄造年	鉢造地名	口径	郭径	重量
第195回 1号土坑	1 遺物 - I	1 宽永通寶	1636年 日本	2.3, 0.7 2 g	第195回 2号土坑	15 宽永通寶	1636年 日本	2.4, 0.7 4 g	3号土坑	1 太平通寶	976年 北宋	2.4, 0.7 3 g					
		2 宽永通寶	1636年 日本	2.4, 0.7 3 g			16 宽永通寶	1636年 日本			2 皇宋通寶	1039年 北宋	2.4, 0.9 3 g				
		3 宽永通寶	1636年 日本	2.3, 0.7 2 g			17 宽永通寶	1636年 日本			3 皇宋通寶	1039年 北宋	2.4, 0.8 3 g				
		4 宽永通寶	1636年 日本	2.2, 0.7 2 g			18 宽永通寶	1636年 日本			4 元符通寶	1098年 北宋	2.4, 0.85 4 g				
		5 宽永通寶	1636年 日本	2.2, 0.75 2 g			19 宽永通寶	1636年 日本・南文			5 乾寧元寶	1068年 北宋	2.3, 0.75 3 g				
		6 宽永通寶	1636年 日本	2.2, 0.8 2 g			20 宽永通寶	1636年 日本			6 宽永通寶	1636年 日本	2.3, 0.7 3 g				
		7 宽永通寶	1636年 日本	2.3, 0.75 2 g			21 宽永通寶	1636年 日本			7 宽永通寶	1636年 日本	2.2, 0.8 3 g				
		8 宽永通寶	1636年 日本	2.4, 0.7 2 g			22 宽永通寶	1636年 日本			8 宽永通寶	1636年 日本	2.3, 0.7 3 g				
		9 宽永通寶	1636年 日本	2.3, 0.7 2 g			1 太平通寶	976年 北宋			9 宽永通寶	1636年 日本	2.3, 0.7 3 g				
		10 宽永通寶	1636年 日本	2.3, 0.7 3 g			2 皇宋通寶	1039年 北宋			10 宽永通寶	1636年 日本	2.4, 0.9 3 g				
		11 宽永通寶	1636年 日本	2.4, 0.7 4 g			3 皇宋通寶	1039年 北宋			11 宽永通寶	1636年 日本	2.4, 0.8 3 g				
		12 宽永通寶	1636年 日本	2.15, 0.7 2 g			4 元符通寶	1098年 北宋			12 宽永通寶	1636年 日本	2.5, 0.8 3 g				
		13 宽永通寶	1636年 日本	2.3, 0.7 3 g			5 大觀通寶	1107年 北宋			13 宽永通寶	1636年 日本	2.4, 0.7 3 g				
		14 宽永通寶	1636年 日本	2.3, 0.7 3 g			1 太平通寶	976年 北宋			14 宽永通寶	1636年 日本	2.4, 0.8 3 g				



第141圖 E地點出土遺物(1)



第142図 E地点出土遺物(2)



第143圖 E地點出土遺物(3)

## C・F地点

## (1) 竪穴遺構

## 1号竪穴遺構 (第144・172図 P L48・76)

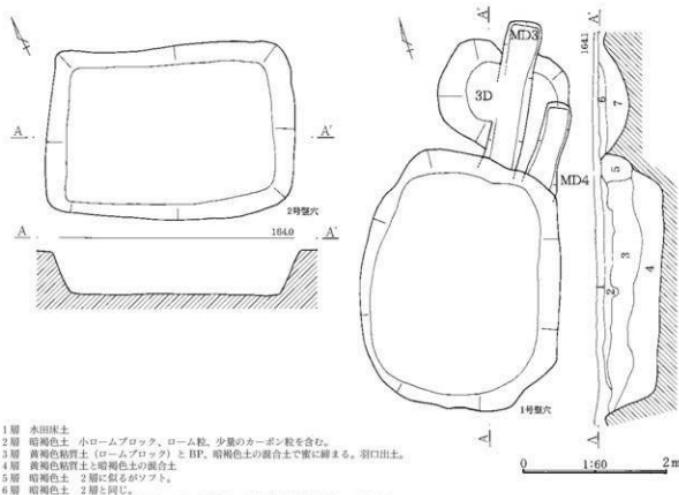
C区、C・D-9グリッドに検出。調査区西端～15号土坑付近にかけての一帯は、土層観察の結果遺構検出より上層に水田面を確認した。かつて昭和58年代、南側バイパス道部分の調査で、現水田下に旧水田跡が確認された。本検出面もその延長上にあり、所謂水田Iに該当するものであろう。

遺構上面で比較的新しいMD-1～4号土坑に切られる。(覆土5層)標高は163.90m付近。南北にやや長い隅丸方形状、規模は長径3.5m、短径2.84m、深さ88cm前後。底面は平坦、壁面直線的に立ち上がる。主軸方位N-26°-E。遺物は覆土内で繩羽口片(156)、白磁皿片(6)出土。(6)は14世紀代の所産である。

## 2号竪穴遺構 (第144・163図 P L48)

C区、B・C-9・10グリッドに跨って検出された。遺構東側に1号溝跡が隣接、南北走下する。標高は163.90m付近。形状は東西に長い長方形状、規模は長径3.43m、短径2.37m、深さ60cm前後である。底面は平坦で、硬く締まる。壁面は四面共に直線的に立ち上がる。主軸方位はN-65°-Wを示す。遺物は礫白上白(75)、砥石(124・125)が出土。

南側に隣接する「上大屋・桶越遺跡群」L区において、同形態状の土坑が検出され、その多くが中・近世に該期するとみられている。本遺構もまたそうした時代背景に類するものと考えられる。



第144図 1号・2号竪穴遺構

## 第V章 西前沖遺跡

### (2) 土 坑

1号・2号土坑 (第145図 PL52)

位置 C区、D-8・9グリッド

1号 形状 東西に長い長方形 規模 長径1.55m、短径0.90m、深さ20cm残存。 主軸方位 N-69°-W

備考 西側の同形状土坑を切る。上層面水田跡。 遺物 検出されなかった。

2号 形状 長円形 規模 長径1.35m、短径0.84m、深さ10cm弱。 主軸方位 N-67°-W

備考 極浅い落ち込み。上層面水田跡。 遺物 検出されなかった。

3号土坑 (第144図)

位置 C区、D-9グリッド 形状 南北に長い長円形 規模 長径1.74m、短径1.40m、深さ40cm前後。

主軸方位 N-40°-E 備考 1号竪穴・MD-3号溝跡と重複。いずれより新。

遺物 検出されなかった。

4号土坑 (第145図 PL52)

位置 E-9・10グリッド 形状 桶丸方形 規模 長径1.33m、短径1.0m、深さ26cm前後。

主軸方位 N-67°-W 備考 覆土 1号土坑に似る。周辺ピットとの新旧不明。 遺物 なし

5号・6号土坑 (第145図 PL52・53)

位置 C区、E-10グリッド

5号 形状 桶円形 規模 長径1.08m、短径0.85m、深さ18cm。 主軸方位 N-26°-E

備考 上層面水田跡。覆土 1号土坑に同。断面浅い皿状。 遺物 底面に安山岩礫出土

6号 形状 桶丸方形 規模 長径1.34m、短径1.05m、深さ23cm前後。 主軸方位 N-24°-E

備考 上層面水田跡。覆土 5号土坑に同。南側に4・5号土坑。 遺物 検出されなかった

7号土坑 (第145図)

位置 C区、G-10グリッド 形状 桶丸方形 規模 長径1.25m、短径1.22m、深さ30cm前後。

主軸方位 N-29°-E 備考 底面平粗、周辺ピットとの新旧不明。上層面水田跡。

遺物 検出されなかった

8号土坑 (第145図)

位置 C区、F-10グリッド 形状 長方形 規模 長径1.50m、短径1.15m、深さ15cm前後。

主軸方位 N-28°-E 備考 周辺ピットより新か。上層面水田跡。 遺物 なし

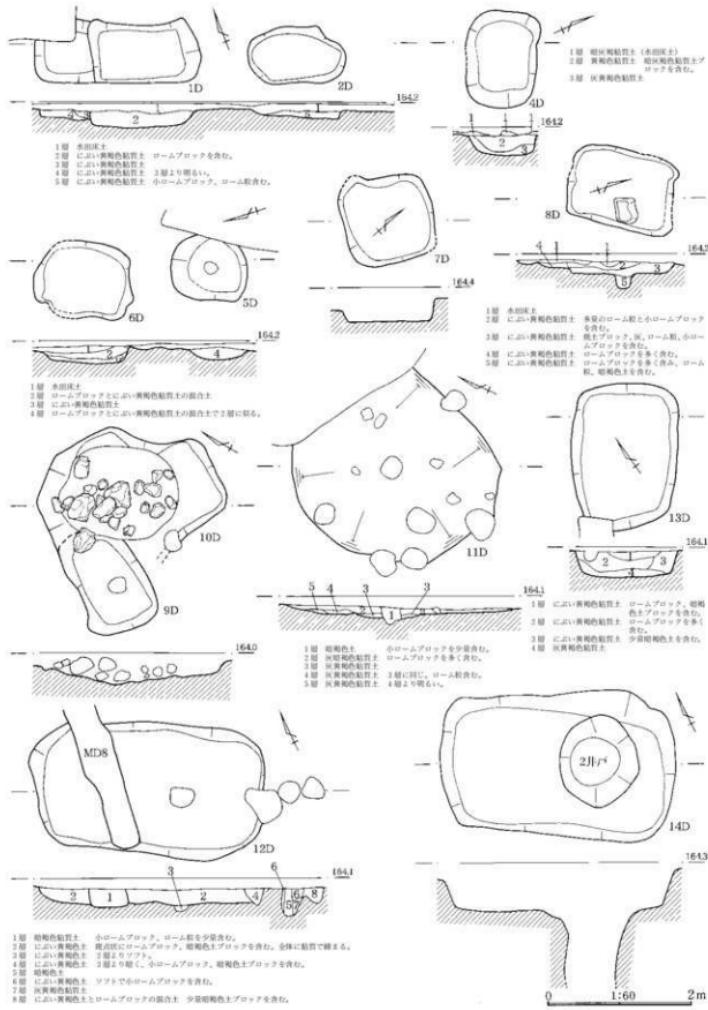
9号・10号土坑 (第145・159・172図 PL53・76)

位置 C区、C-10グリッド

9号 形状 長方形 規模 長径1.53m、短径1.03m、深さ24cm前後。 主軸方位 N-35°-E

10号 形状 長方形 規模 長径1.23m、深さ20cm前後。 主軸方位 -

備考 9号より新か。断面浅い皿状。覆土～底面に径12～40cm前後の自然礫多数、錢貨「元豊通寶」



第145図 1号・2号・4号～14号土壤

## 第V章 西前沖遺跡

1枚、鉄滓片(154)が出土。

### 11号土坑（第145図）

位置 C区、C・D-10・11グリッド 形状 円形 規模 長径一、短径2.55m、深さ極浅い落ち込み。上層面の水田跡によって削平されたか。 主軸方位 — 備考 12号土坑・周辺ピットより旧。径15~18cm大の自然疊数点出土。同様相にある10号土坑の北側に隣接。性格不明。

### 12号土坑（第145図 P L53）

位置 C区、D-10-11グリッド 形状 東西に長い長方形 規模 長径3.2m、短径1.84m、深さ20cm前後。主軸方位 N-60°-W 備考 一部 MD-8号土坑・ピット群に切られる。上層面水田跡。削平され、浅い落ち込み状をなす。 遺物 検出されなかった。

### 13号土坑（第145・172図 P L76）

位置 C区、E-10グリッド 形状 南北に長い長方形 規模 長径2.04m、短径1.47m、深さ35cm。 主軸方位 N-38°-E 備考 上層面水田跡。西側に4~6号土坑隣接。鉄滓片(139)出土。一部 MD-7号溝跡に切られる。

### 14号土坑（第145図）

位置 C区、E・F-11・12グリッド 形状 東西に長い長方形 規模 長径3.27m、短径2.1m、深さ50cm前後。 主軸方位 N-58°-W 備考 上層面水田跡。2号井戸跡と重複。遺物から井戸が新か。 遺物 覆土内で繩文土器片（第101図-9）出土。

### 15号土坑（第146図 P L53）

位置 C区、E・F-10・11グリッド 形状 南北に主軸をもつか。 規模 長径一、短径2.2m、深さ33cm前後。 主軸方位 — 備考 上層面水田跡。東西両側をMD-9・10号土坑に切られる。底面平坦。覆土13号土坑に同。 遺物 検出されなかった。

### 16号土坑（第146・178図 P L81）

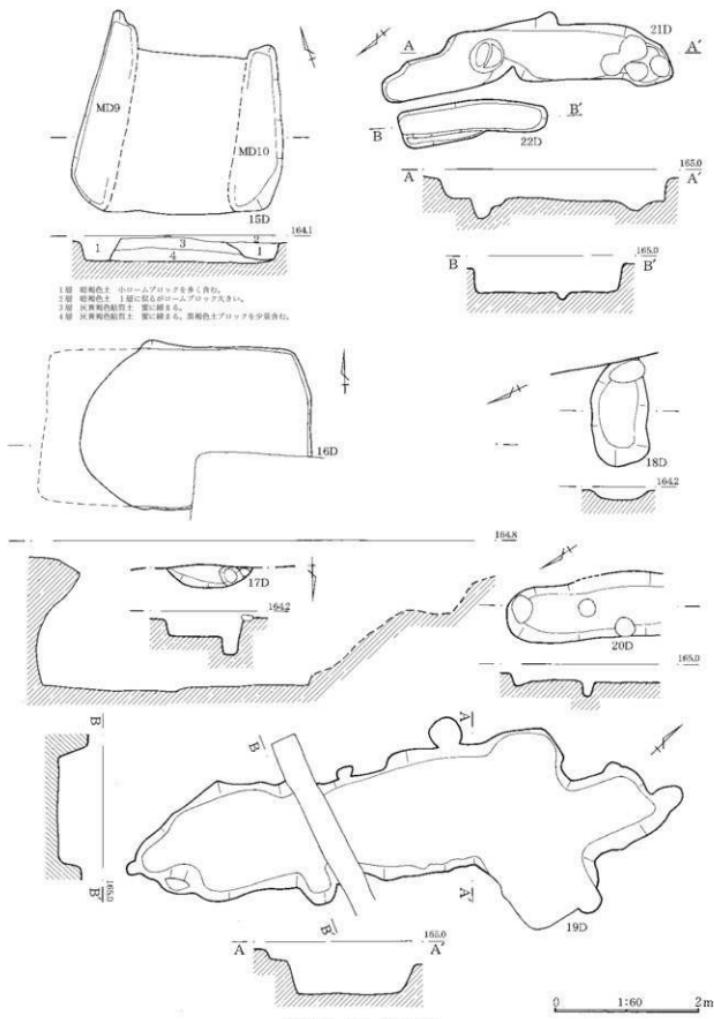
F区、E-6・7グリッド 形状 東西に長い不整長方形。西側壁面大きく袋状にオーバーハング。 規模 長径3.2m、短径2.24m、深さ1.85m。 主軸方位 N-1°-W 備考 周辺一帯は近年の耕作等に因り、遺構上面の大半が削平。東辺側が欠落、明確ではないが、断面形態から地下式土坑か。底面、中央付近で段差。 遺物 遺構周辺で礫白上白2点(53-62)、下白1点(54)が検出された。

### 17号土坑（第10図）

位置 F区、D-7グリッド。南側は調査区外。 形状 — 規模 長径一、短径現1.2m、深さ25cm前後。 主軸方位 — 備考 重複ピットより旧か。 遺物 検出されなかった。

### 18号土坑（第146図）

位置 F区、E-7グリッド 形状 長円形 規模 長径1.5m、短径0.85m、深さ14cm前後。 主軸方位



第146図 15号～22号土坑

## 第V章 西前沖遺跡

N-3°-W 備考 重複ビットより旧か。浅い落ち込み。上辺削平。 遺物 なし

### 19号土坑（第146図）

位置 F区、G・H-6・7グリッド 形状 不整長円形状。北端部鉤の手状に張り出す。規模 長径最大7.05m、短径1.7m、深さ40~50cm前後。 主軸方位 N-33°-E 備考 MD状溝跡に切られる。平面プランから、方形状土坑との重複も考えられる。 遺物 検出されなかった。

### 20号土坑（第146図）

位置 F区、G・H-6グリッド 形状 南北に長い長円形 規模 長径約2.1m、短径0.9m、深さ10cm前後。 主軸方位 N-33°-E 備考 南半側は調査区外。重複ビットとの新旧不明。 遺物 検出されなかった。

### 21号・22号土坑（第146・175・178図 P L81）

位置 F区、H・I-6・7グリッド

21号土坑 形状 南北に長い長円形 規模 長径4.0m、短径1.0m、深さ30cm前後。  
主軸方位 N-35°-E 備考 20号土坑の北。 遺物 土鍋底部片(8+9)、礫白上白(55)が出土している。

22号土坑 形状 21に同 規模 長径2.1m、短径0.5m、深さ35cm前後。 主軸方位 N-38°-E  
備考 北西側にテラス状 遺物 検出されなかった。

### 23号土坑（第147図）

位置 F区、H・I-7・8グリッド 形状 東西に長い長方形か 規模 長径一、短径1.85m、深さ30cm前後。 備考 東側は土取りにより削平。ビットとの新旧不明。 遺物 なし

### 24号土坑（第147図）

位置 F区、H・I-7グリッド 形状 長円形 規模 長径1.5m、短径0.87m、深さ2cm。 主軸方位 N-23°-E 備考 一。 遺物 検出されなかった。

### 25・27号土坑（第147・177図）

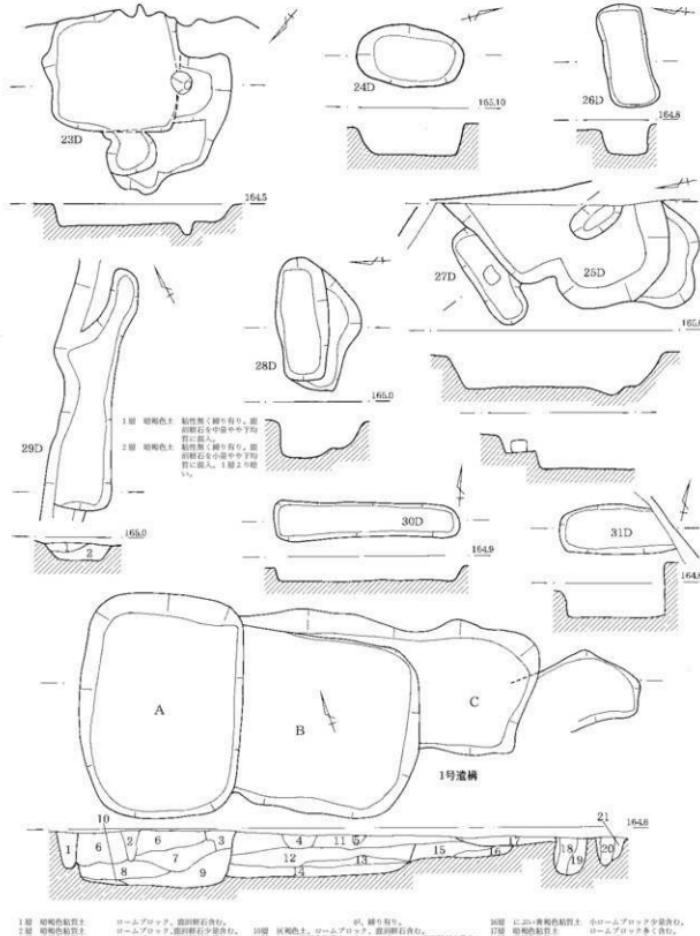
位置 F区、I-8グリッド

25号土坑 形状 不整形形状。西半部円形状に張り出す。 規模 長径一、短径約2.3m、深さ42cm前後。  
主軸方位 一。 備考 底面や凸状。方形・円形の重複形?。 遺物 烧締陶器常滑窯片(39)1点出土。12~13世紀代の所産である。

27号土坑 形状 長円形 規模 長径1.45m、短径0.54m、深さ25cm。 主軸方位 N-68°-E  
備考 25号土坑より旧か。 遺物 底面に糠1点出土

### 26号土坑（第147図）

位置 F区、I-8グリッド 形状 長方形 規模 長径1.4m、短径0.7m、深さ37cm前後。 主軸方位 N-



2種	暗褐色粘臼土	ローム・ブロッサム。樹幹断面が紫色。
3種	暗褐色粘臼土	ローム・ブロッサム。樹幹断面が紫色。
4種	暗褐色粘臼土	ローム・ブロッサム。樹幹断面が紫色。
5種	暗褐色粘臼土	ローム・ブロッサム。
6種	ローム・ブロッサム。表面樹幹部、暗褐色粘臼土の混合土。	
7種	ローム・ブロッサム。底面樹幹部、暗褐色粘臼土。黒褐色粘土の混合土。	
8種	暗褐色粘臼土	5cm上よりローム・ブロッサム大きい。
9種	ローム・ブロッサム。底面樹幹部、暗褐色粘臼土。7mmに裂けた。	

12周 にふ・黄褐色粘質土  
12周 にふ・黄褐色粘質土  
12周 にふ・黄褐色粘質土  
12周 にふ・黄褐色粘質土  
13周 にふ・黄褐色粘質土  
13周 ロームプロック  
13周 にふ・黄褐色粘質土  
13周 にふ・黄褐色粘質土

17歳	始毛色筋質土	ロームプロック多く含む。
18歳	始毛色筋質土	ロームプロック含む。
19歳	始毛色筋質土とロームプロックの混白土で織まる。	
20歳	始毛色筋質土	小ロームプロック含む。
21歳	19歳に似るが19歳より織まりない。	

0 1:60

[View Details](#)

1000

## 第V章 西前沖遺跡

72°-E 備考 25号の西側に隣接。 遺物 検出されなかった。

### 28号土坑（第147図）

位置 F区、I-8グリッド 形状 長円形 規模 長径1.7m、短径0.7m、深さ50cm。 主軸方位 N-90°- 備考 周辺同形態の土坑密集する。 遺物 検出されなかった。

### 29号土坑（第147図）

位置 F区、I-6・7グリッド 形状 南北に長い長円形 規模 長径3.4m、短径1.0m、深さ24cm前後。 備考 覆土層に鹿沼軽石混。 遺物 検出されなかった。

### 30号土坑（第147図）

位置 F区、I・J-7・8グリッド 形状 東西に長い長円形 規模 長径2.6m、短径0.6m、深さ20cm前後。 備考 31号土坑に並列。 遺物 検出されなかった。

### 31号土坑（第147・175図 P L80）

位置 F区、I・J-8グリッド 形状 東西に長い長円形 規模 長径-、短径0.7m、深さ40cm前後。 備考 東半側一部調査区外。周辺同形態の土坑密集。群形成か。 遺物 かわらけ2点(1・2)が検出されている。

### 32号～36号土坑（第10図）

位置 32～36号土坑-N～P・0～2グリッド 形状 いずれも南北に長い長方形 規模 長径1.52.5m、短径0.8～1.4m、深さ10cm前後。備考 上半部削平。墓壙として機能か。 遺物 なし

### 37号土坑（第10図）

位置 M-5・6グリッド 形状 長方形 規模 長径-、短径0.7m、深さ-。 備考 溝状土坑(MD)の範疇か。 遺物 なし

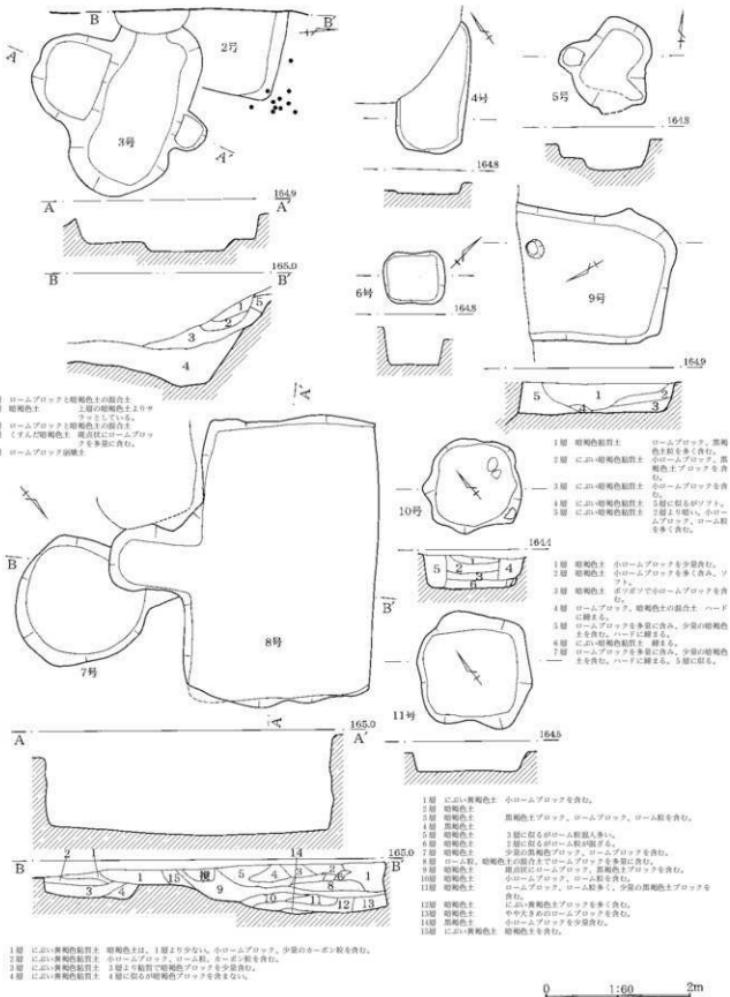
### 38号～41号土坑（第10図）

位置 T・U-2～4グリッド 形状 方形～長方形 規模 長径1.0～1.7m、短径0.7～1.0m、深さ-。 備考 32～36号土坑と同性格か。 遺物 なし  
32～36号北側未調査区は現在も墓地であり、この点を考慮すれば、本遺構群も近世を軸とする年代を考えられる。

### (3) 性格不明遺構

#### 1号-A・B・C号遺構（第147・157・159・163・171図 口絵5 P L47・76）

G・H-9～11グリッドに位置。形状はA・B号が圓丸方形、C号が長方形である。新旧関係は土層からC号→B号→A号の序列で、周辺ピット群に上半部が切られる。A・B号共に覆土上層に鹿沼軽石を含む暗褐色土・黄褐色土主体土を形成する。規模はA号-長径3.1m、短径2.3m、深さ75cm。主軸方位 N-23°-E。B号-長径-、短径2.5m、深さ40cm前後。C号-長径-、短径1.8m、深さ30cm前後。遺物はA号内で、砥石(127)、



第148図 2号～11号遺構

## 第V章 西前沖遺跡

かわらけ(4)、B号内で石英製火打ち石(74)、磁石2点(128・137)が、またC号内で青銅製水滴(33)が出土。

### 2号・3号遺構 (第148・157~160・162・167・168図 口絵5 P L75)

I・J-9グリッドに位置。南・西側に5・7号井戸が隣接する。

2号 形状は土層から、南北に長い長円形であろうか。北半部は調査区外の為、詳細不明。西側は3号遺構、旧い円形土坑状遺構と重複、東・南辺のごく一部が残存。規模は詳細不明、深さわずか6cm程度が確認された。遺物は東辺際付近で12点程度がまとまって出土。青銅製刀装具柄金具(34)、在地形土器培培(51)、内耳培培(50)、肥前系磁器碗(19)、瀬戸・美濃系陶器碗(9・11)、同壺鉢(61・62)、常滑窯片(25)、茶白下白(98)、礫臼下白(104)等で構成され、年代的には16世紀後半~18世紀後半代となり時間差があり、廃棄に伴う遺物群とみられる。

3号 形状は南北に長い長円形。東西両辺で円形状遺構と重複するか。規模は長径2.55m、短径1.38m、深さ50cm前後。主軸方位 N-59°-W。遺物は検出されなかった。

### 4号遺構 (第148図)

H-9・10グリッドに位置。北・東辺は4号井戸と重複、4号が新しい。形状は南北に長い長円形。規模は長径1.84m、短径0.95m、深さ15cm前後。主軸方位 N-41°-E。遺物 未検出。

### 5号遺構 (第148図)

H-9グリッドに位置。東側に1号遺構が隣接する。形状は長円形状、東西両側でピット状と重複。新旧は不明。規模は長径1.3m、短径0.85m、深さ40cm前後。主軸方位 N-31°-E。遺物 検出されなかった。

### 6号遺構 (第148図)

H-I-10グリッドに位置。西側に4号井戸跡が隣接する。形状は楕丸形状。規模は長径0.85m、短径0.7m、深さ54cm前後。主軸方位 N-42°-E。遺物 検出されなかった。

### 7号遺構 (第148・160図 P L47・75)

I・J-10グリッドに位置。北西側で8号遺構に切られる。形状は円形状。規模は長径1.8m、短径1.75m、深さ34cm前後。遺物 覆土内で在地形土器、内耳培培(52)が出土。16世紀後半代の所産。

### 8号遺構 (地下式土坑) (第148図 P L47)

I・J-10・11グリッドに位置。北西半側は調査区外の為詳細不明。形状は楕丸形状をなし、南側に舌状の張り出しをもつ。断面形は竪穴部より緩傾斜面をなして立ち上がり、テラス状の平坦面を形成、出入り口とみられる。規模は検出竪穴部長径4.0m、短径2.55m、深さ70cm程度が残存。張り出し部幅0.95m、長さ1.10m、深さ20cm。竪穴部主軸方位 N-20°-Eを示す 遺物 未検出。

### 9号遺構 (第148・160・172図 P L75・76)

H・I-10・11グリッドに位置。北及び東西両側でそれぞれ14・23・24号遺構と重複、14号遺構より新、24号遺構に切られる。形状はおそらく南北に長い長方形状であろうか。規模は長径 -、短径1.87m、深さ45cm

前後。遺物 覆土で在地系土器擂鉢(59)、底部丸みをもつ土鍋土器底部(49)、他鉄滓等が出土。15世紀後半代の所産。

#### 10号遺構 (第148・161・170図 P L 47・75・70)

G-10グリッドに位置。北側に1号、南東側に11号遺構が隣接。周辺一帯は多数のビット群が密集、上半部切り取られる。形状は隅丸方形。規模は長径1.37m、短径1.3m、深さ60cm。遺物 側面に条線状加工痕がある砥石(126)、底部に補修孔がある在地産土器熔片(58)が出土。近世18世紀以降か。

#### 11号遺構 (第148図 P L 47)

F・G-10・11グリッドに位置。西側に10号遺構が隣接、他に周辺にはビットが林立する。形状は隅丸方形。西側の10号と同形態である。規模は長径・短径共に1.6m、深さ28cm前後。主軸方位 N-43°-E。遺物 検出されなかった。

#### 12号遺構 (第149図)

G-11グリッドに位置。南側に10・11号遺構、西側に1号遺構が隣接する。形状は東西に長い長方形。規模は長径1.3m、短径0.72m、深さ76cm。主軸方位 N-56°-W。遺物 底面に円窪1点。

#### 13号遺構 (第149図)

F・G-11グリッドに位置。3号掘立柱建物跡と重複。13号が新か。形状は東西に長い長方形。規模は長径1.55m、0.90m、深さ30cm前後。主軸方位 N-61°-W。遺物 検出されなかった。

#### 14号遺構 (第149図)

H・I-11グリッドに位置。北辺側は9・1号遺構に切られる。形状は残存状況から、南北に長い長方形か。規模は長径-、短径2.0m、深さ42cm前後。遺物 検出されなかった。

#### 15号・16号遺構 (第149図 P L 48)

H・I-11グリッドに位置。西側で14号遺構と、16号内に15号がそれぞれ重複する。新旧不明。

15号 形状は楕円形状。規模は長径1.3m、短径1.17m、深さ16号底面から20cm前後。主軸方位 N-43°-W。遺物 検出されなかった。

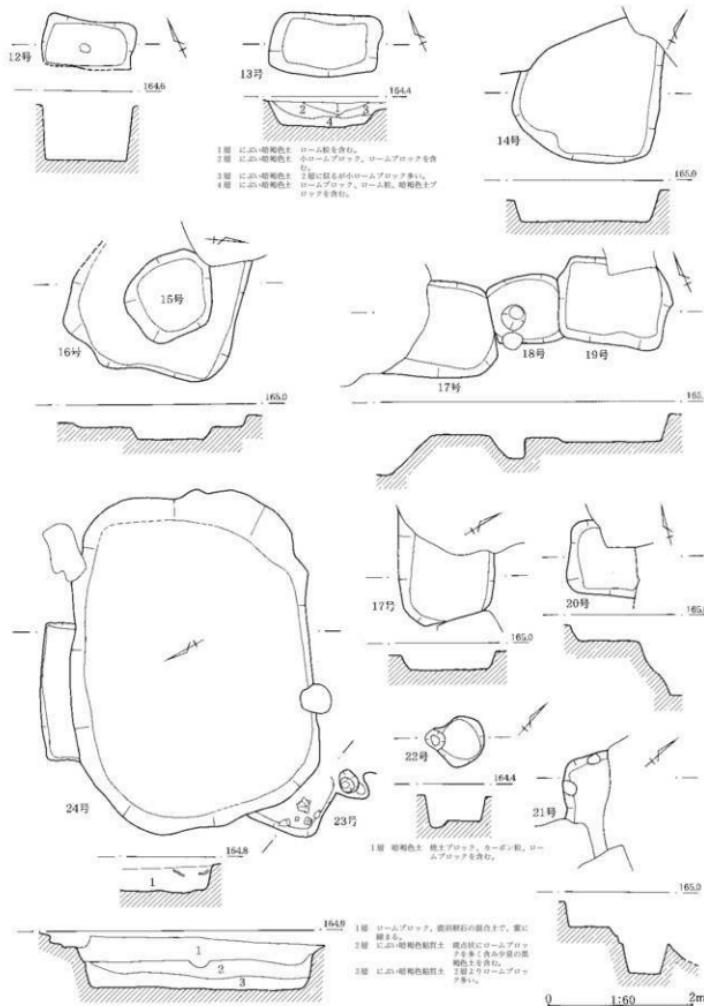
16号 形状は方形、ないしは東西に長い長方形か。規模は長径-、短径現2.4m、深さ15cm前後と浅い皿状。遺物 検出されなかった。

#### 17号遺構 (第149・159図)

H-11グリッドに位置。西側は24号に切られ、東側は18号遺構と重複。新旧は不明。形状は東西に長い長方形。規模は長径-、短径1.35m、深さ22cm前後。遺物 銭貨「天聖元寶」(北宋1023年) 1枚が出土。

#### 18号遺構 (第149図)

H-11・12グリッドに位置。東西両側で17・19号遺構、ビット群と重複。新旧は不明。形状は東西に長い長



第149図 12号～24号遺構

円形か。規模は長径一、短径現0.97m、深さ35cm前後。遺物 検出されなかった。

#### 19号遺構（第149図）

H-12グリッドに位置。18号との関係は前述。北側で2号溝跡と重複。2号溝跡出土遺物からみて本遺構が新か。形状は隅丸方形状。規模は長径1.6m、短径1.2m、深さ40cm前後。遺物 未検出。

#### 20号遺構（第149図）

I-10・11グリッドに位置。東側で2号溝跡、21号遺構と重複。新旧は不明。形状は東西に長い長方形。規模は長径一、短径現1.0m、深さ25cm前後。遺物 検出されなかった。

#### 21号遺構（第149図）

I-12グリッドに位置。重複関係は前述のとおり。形状は重複遺構紙の切り合いで詳細不明。恐らく20号同様東西に長い長方形か。規模は長径・短径共に不明。深さ30cm前後。遺物 未検出。

#### 22号遺構（第149図）

E-12グリッドに位置。北西側に10号井戸跡が隣接する他、南西側には銭貨がまとまって出土したC・Dピットがある。形状は楕円形。規模は長径0.7m、短径0.6m、深さ33cm。遺物 未検出。

#### 23号・24号遺構（第149・159・160図 P L48・75）

I・J-10・11グリッドに位置。周辺は同様の長方形状遺構をはじめ、井戸跡・溝跡等が密集する。南側で9号遺構と重複。23号との関係は、遺物からほぼ同時期である。

23号 形状は残存状況からみて、南北に長い長方形か。規模は長径・短径共に不明。深さ40cm前後。遺物 覆土内で在地産土鍋類(43・45)が出土。前者は胴部やや丸みがあり、後者は直立的であり、両者間にはやや時間差があり15世紀中～16世紀前半代頃の所産である。

24号 形状はやや大形の隅丸長方形で、東西方向に主軸をもつ。堅穴状遺構あるいは地下式土坑の可能性も考えられる。規模は長径4.65m、短径3.48m、深さ70cm。主軸方位 N-68°-W。遺物 覆土2層内で在地産土器熔片が検出された。

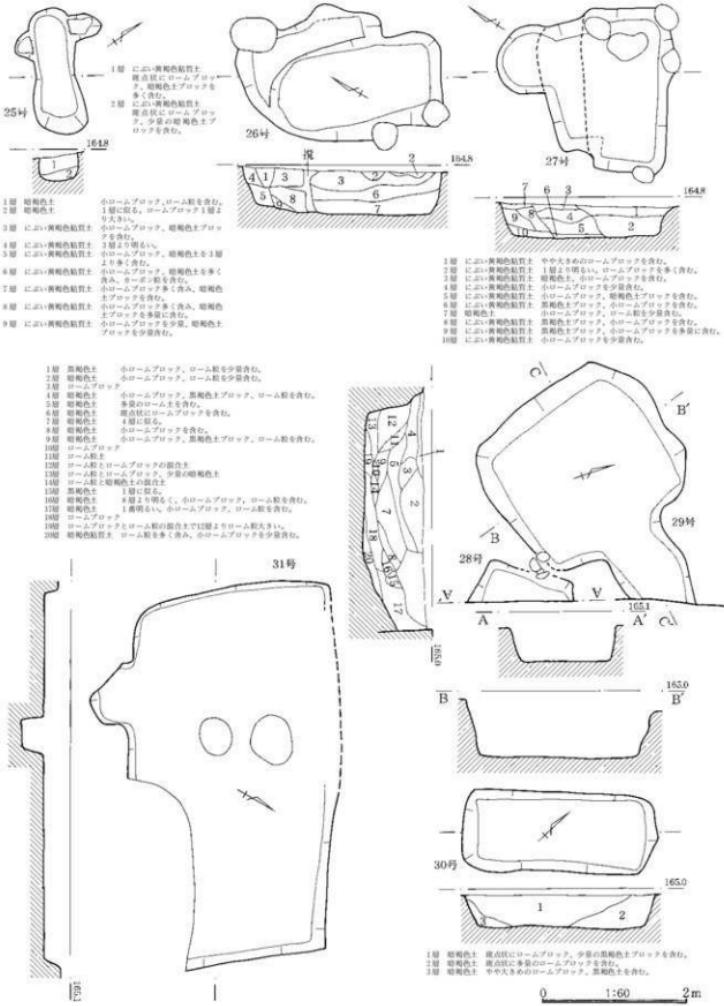
#### 25号遺構（第150図）

H-11・12グリッドに位置。1号掘立柱建物跡と重複。形状は東西に長い長円形。規模は長径1.75m、短径0.7m、深さ33cm前後。遺物 検出されなかった。

#### 26号遺構（第150図 P L48）

G・H-12グリッドに位置。25号遺構の南東側で、1号掘立柱建物跡と重複。新旧は不明。形状は東西に長い長円形。北側の張り出し部は別遺構とみられる。規模は長径2.4m、短径1.35m、深さ60cm。重複遺構幅0.5m、長さ2.0m、深さ52cm前後。土層中には攪乱による痕跡がみられ、その影響に因るか、人為的埋土を形成。本遺構の主軸方位 N-36°-W。遺物 検出されなかった。

## 第V章 西前沖遺跡



第150図 25号～31号遺構

**27号遺構（第150図 P L48）**

G-12・13グリッドに位置。北西側に26号遺構が隣接。形状は不整方形で、土層観察からみて、恐らく、二つの長方形、円形の三遺構の重複形態であろうか。最終遺構の規模、長径2.3m、短径推1.28m、深さ40cm前後（三遺構共に同程度の深さ）。主軸方位 N-60°-E。遺物 未検出。

**28号遺構（第150図）**

H-13グリッドに位置。東半側の大半は調査区外である。西北側に29号遺構が接する。形状は方形（長方形の可能性あり）。規模は長径一、短径1.4m、深さ47cm前後。遺物 未検出。

**29号遺構（地下式土坑）（第150・159・171図 P L48・75）**

H-I-13グリッドに位置。東側の一部は調査区外。形状は楕丸方形状の竪穴部に加え、東側に長円形状の張り出し部をもつ。出入り口であろう。竪穴部底面から緩い傾斜で立ち上がる。階段状になるかは不明。天井部は既に崩落し、土層中3・11・12等にその痕跡を探ることができる。規模は竪穴部長径2.63m、短径2.32m、深さ82cm、出入り口部幅0.95m、長1.25mまで確認。主軸方位 N-15°-W。遺物 竪穴部より在地土器土鍋(42)、手持ち砥石(129)の他、遺構外南東コーナー寄りで、長円形礫数点、鉄滓(146)等が検出した。土鍋は胴部にやや丸みが残り、底部平底である。15世紀前半～中頃の所産である。

**30号遺構（第150図）**

I-12・13グリッドに位置。東側に31号、南側に2号溝跡が隣接する。形状は南北に長い長方形。規模は長径2.7m、短径1.15m、深さ45cm前後。主軸方位 N-48°-E。遺物 未検出。

**31号遺構（第150図）**

I・J-13・14グリッドに位置。南側で29号遺構と重複。新旧は不明。形状はやや大形の楕丸方形状、南側に半円状の張り出しをもつ。上半部の大方を失われており、地下式土坑の範疇か判然としない。規模は長径5.3m、短径2.9m、深さ25cm前後。張り出し部幅0.9m程度を確認。底面には重複ビット落ち込みがある。主軸方位 N-62°-E。遺物 検出されなかった。

**32号・33号遺構（第150図）**

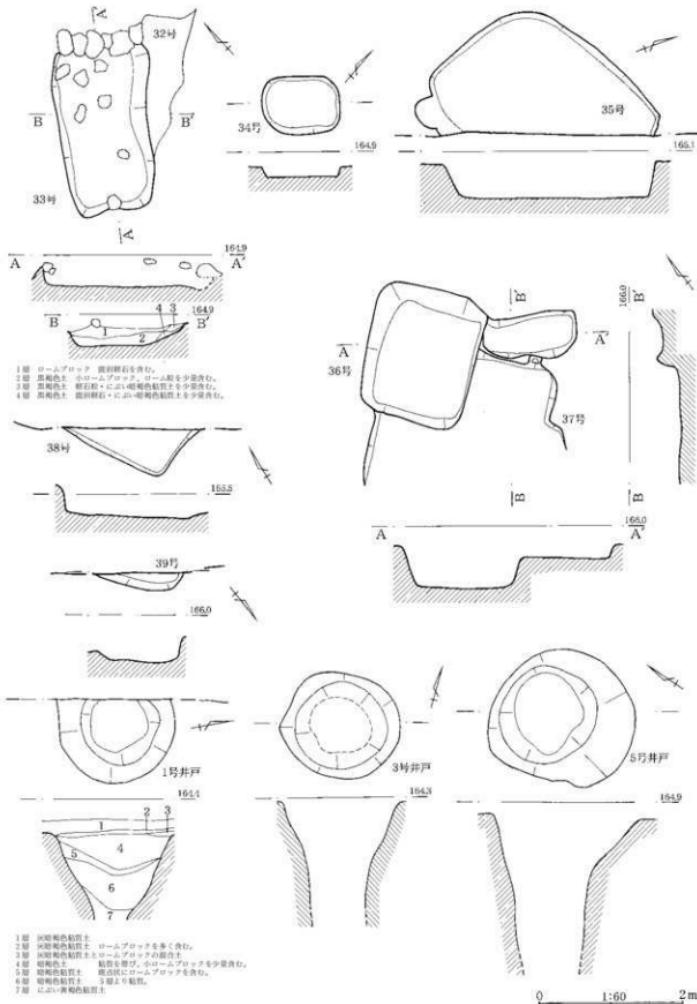
I・J-10グリッドに位置。北側で7・8号遺構と重複。残存状況から32・33号遺構が旧いか。32・33号間では33号が新しい。

32号 形状 判然としないが、南北に長い形態か。規模は長径・短径共に不明。現状で南北2.0m大まで確認。深さ20cm前後。遺物 未検出。

33号 形状は南北に長い長方形。規模は長径2.4m、短径1.3m、深さ26cm前後。主軸方位 N-38°-E。遺物 北辺上端部には、一部径20～30cm大の長円礫を二段に積み上げ配石している。北に隣接する8号遺構の出入り口コーナー部にあたることもあって、8号に関連する可能性も考慮される。

**34号遺構（第151図）**

I-19グリッドに位置。北に接して7・32・33号遺構がある。形状は小さい長円形。規模は長径1.1m、短径



第151図 32号～39号遺構・1号・3号・5号井戸跡

0.83m、深さ15cm前後。主軸方位 N-46°-E。遺物 検出されなかった。

#### 35号遺構（第151図）

I-13・14グリッドに位置。北西に31号、南側に29号遺構が接する。東半部側は調査区外。形状は東西に長い隅丸方形状。規模は長径現2.9m、短径2.15m、深さ50cm。主軸方位 N-68°-E。

#### 36号・37号遺構（第151図）

L・M-18グリッドに位置。北西側に4号溝跡が隣接。両者の新旧は不明。

36号 形状は隅丸方形状。規模は長径1.85m、短径1.55m、深さ57cm前後。主軸方位 N-60°-E。遺物 検出されなかった。

37号 形状は残存形からみて隅丸方形状をなし、東辺側がやや張り出し状。規模は東西径約2.4m、深さ30cm前後か。遺物 検出されなかった。

#### 38号遺構（第151図）

M-18グリッドに位置。北・東辺側は調査区外。形状は方形か。規模は長径・短径共に不明。深さ35cm程度を確認。遺物 検出されなかった。

#### 39号遺構（第151図）

L・M-18グリッドに位置。北東コーナー部がわずかに確認、全容は不明。深さ最大30cm大を確認。南側に向かい若干傾斜するか。遺物 検出されなかった。

### （4）井戸跡

#### 1号井戸跡（第151・165・173図 P L 49・74）

位置 D-8グリッドに検出。標高164.10m付近。西半部側は一部調査区外。上層面水田跡形成。形状 ほぼ円形。規模 長径-、短径1.62m。断面形 漏斗状。深さ1.62m付近まで確認。遺物 磨白土白(82)、石製骨蔵器としたものか、石鉢(162)が出土。

#### 2号井戸跡（第163・164・169・172・174図 P L 74・76）

位置 E-12グリッドに検出。標高164.20m付近。14号土坑内に検出。新旧は遺物から本遺構が新しいと判断。形状 楕円形。規模 長径1.23m、短径1.1m。断面形 上端八の字状をなし、筒状に落ちこむ。深さ1.2m付近まで確認。遺物 磨白類(77-105)、花崗岩製五輪塔（火輪部）(172)、種子「キリーク・サ」が確認される板碑片(71)、凹石(159)等が検出。15・16世紀代の所産が。

#### 3号井戸跡（第151図）

位置 G-9グリッドに検出。標高164.30m地点。前述1号井戸跡の北13m付近にあたる。形状 円形。規模 長径1.6m、短径1.5m。断面形 上半擴鉢状をなし、筒状に落ちこむ。深さ1.5m付近まで確認。遺物 検出されなかった。

## 第V章 西前沖遺跡

### 4号井戸跡（第152・157・160・161・164・165～167・173・174図 PL50・73・74）

位置 H-I-9-10グリッドに検出。標高164.10m地点。本調査区で最も大形の井戸跡である。井戸跡を軸に南・北両側の周辺一帯には方形、あるいは長方形形態の性格不明遺構群が密集する。形状 円形状。南側上縁部から内面向かい緩い傾斜面をなす。規模 長径3.5m、短径3.34m。断面形 上半八の字状をなし、筒状に落ちこむ。深さ2.6m付近まで確認。遺物 覆土内上面付近で、廃棄されたとみられる多数の遺物がみられた。その内訳はかわらけ2点(2・3)、瀬戸・美濃系陶器碗(12)、在地産土鍋(47・48)・焰烙類(57)、砥石(123)等の他臼・石造物類等である。時期的には15・16世紀代とみられるかわらけをはじめ、18世紀代とみられる在地産土器鍋・石臼類等かなりの時間差がある。

### 5号井戸跡（第151・158・162・163・173図 PL50・75）

I-9グリッドに検出。標高164.75m付近。西辺部側で3号遺構と重複。形状 南北にやや長い楕円形。規模 長径2.0m、短径1.87m。断面形 南辺側が緩い傾斜面を形成するが、北辺側はほぼ直立気味に落ちこみ筒状をなす。深さ1.9mで底面に達する。遺物 覆土内より在地産土器焰烙、胴部中程に一对の耳状を貼付する火消壺(26)、火消し蓋(27)瀬戸・美濃系擂鉢(63・65)の他、粘板岩製石礎(68)、安山岩質五輪塔類(166)等が出土。他に漆器椀(23)1点が出土。16～17世紀代の所産とみられる。

### 6号井戸跡（第162・166・167・169・171図 PL51・74・76）

I-10グリッドに検出。標高164.05m付近。西側に隣接して4号井戸跡がある。形状 北側に部分が若干オーバーハングするが、ほぼ円形状。規模 1.22m、短径1.12m。断面形 ほぼ直立気味に落ちこみ、筒状をなす。深さ1.2m付近まで確認。遺物 磨白3点(88・89・109)、茶臼下臼(96)、断面不整六角形状をなし、よく使いこまれた砥石(135)等が検出された。石材は輝石安山岩を主とする。

### 7号井戸跡（第152図 PL51）

位置 I-9グリッドに検出。標高165.50m地点。東半部側のごく一部が出土したにとどまり、西側の大半は調査区外である。形状 やや不整円形状か。規模 長径・短径共に不明。検出幅2.15m。断面形 上半部八の字状。深さ0.85m付近まで確認。遺物 検出には至らなかった。

### 8号井戸跡（第152・169図 PL51）

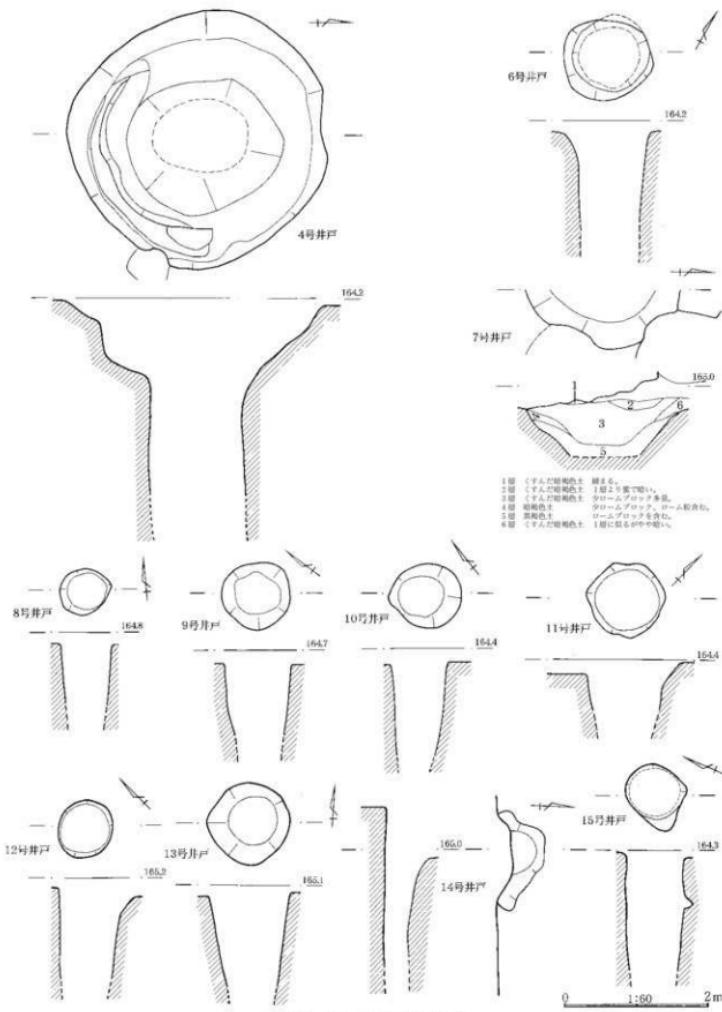
H-11グリッドに検出。標高164.60m付近。北側に4号・6号井戸跡が近接、規則的に小形形態。形状 円形。規模 長径0.68m、短径0.67m。断面形 筒状。深さ0.80m付近まで確認。遺物 覆土内より磨白下臼(108)、茶臼下臼(97)が検出された。茶臼は6号井戸のものよりやや小形。

### 9号井戸跡（第152図 PL51）

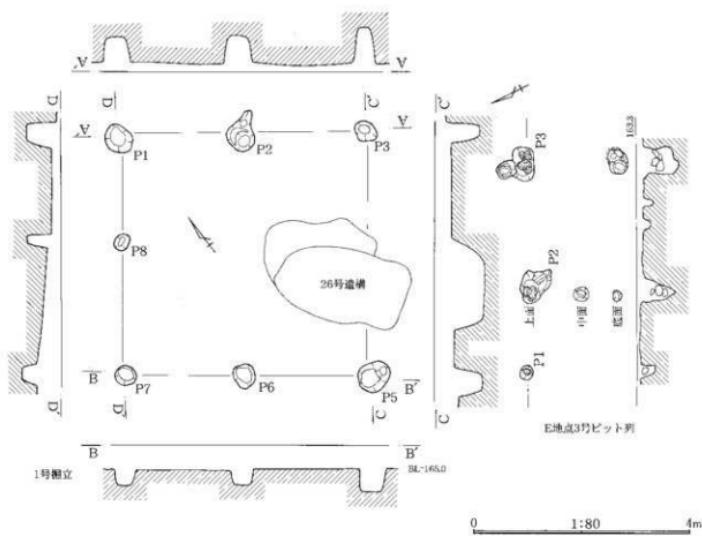
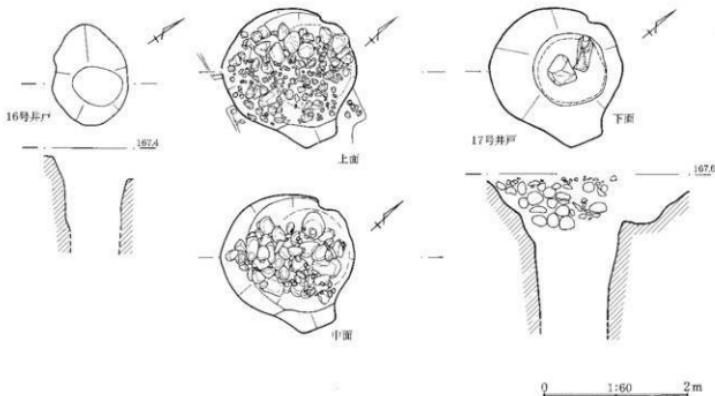
H-10グリッドに検出。標高165.50m付近。西側2mに8号井戸跡がある。形状 8号同様やや小さい円形。規模 長径1.0m、短径0.9m。断面形 筒状。深さ1.35m付近まで確認。遺物 検出されなかった。

### 10号井戸跡（第152図 PL51）

F-12グリッドに検出。標高164.10m付近。南西側2mに2号井戸跡が近接する。形状 楕円形状。規模 長



第152図 4号・6号～15号井戸跡



第153図 16号・17号井戸跡・1号掘立柱建物跡・E地点3号ピット跡

径1.0m、短径0.9m。断面形 筒状。深さ1.35m付近まで確認。遺物 なし

#### 11号井戸跡（第152図 P L51）

F-12グリッドに検出。標高164.30m付近。11号溝跡と重複。南側に10号井戸跡が隣接する。形状 円形状。規模 長径1.05m、短径1.0m。断面形 上半部やや掘鉢状か。深さ65cm付近まで掘り下げた。遺物 未検出

#### 12号井戸跡（第152・157図 P L51・75）

J・K-11グリッドに検出。標高165.0m付近。7号溝跡と重複する。形状 円形。規模 長径0.8m、短径0.76m。断面形 ほぼ筒状。深さ1.3m付近まで確認。遺物 内面櫛刷毛目・砂目積み痕が残る大鉢(15)が検出された。肥前系唐津焼で、17世紀後半～18世紀前半代であろうか。

#### 13号井戸跡（第152図 P L51）

J-13グリッドに検出。標高164.90m付近。北側一帯は擾乱による削平が抜がり、南側に31号遺構が接する。形状 楕円形。規模 長径1.1m、短径1.05m。断面系 逆台形状に落ちこむ。深さ1.2m付近まで確認。遺物 検出されなかった。

#### 14号井戸跡（第152図）

K-16グリッドに検出。南半部は調査区外。3号溝跡と重複。標高164.90m付近。形状 不整方形状か。規模 現状幅1.4m。断面形 筒状か。深さ1.4m付近まで確認。遺物 未検出

#### 15号井戸跡（第152図）

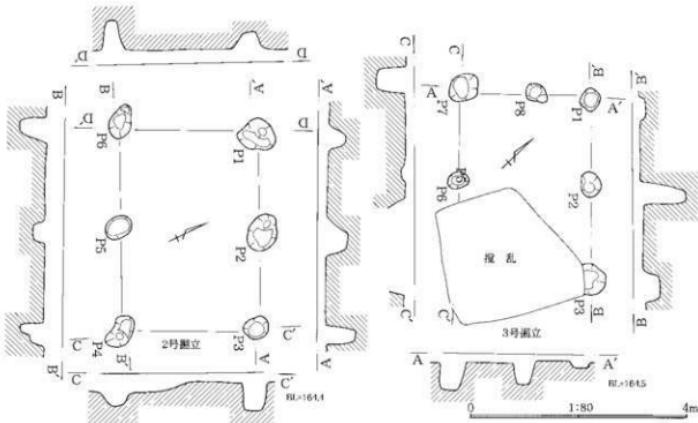
F-8グリッドに検出。標高164.20m付近。形状 円形。規模 長径0.8m、短径0.7m。断面形 ほぼ筒状。確認面下60cm地点で、南西側壁面に奥行き10cm程度で、足掛け様の凹みを確認。深さ1.7m付近まで確認。遺物 検出されなかった。

#### 16号井戸跡（第153図）

Z-5グリッドに検出。西側に接して17号井戸跡があり、北側で10号溝跡と接する。本調査区中、最も標高的に高い位置にあり、167.40m付近に位置。形状 楕円形。規模 長径1.4m、短径1.05m。断面形 ほぼ筒状。深さ約1m付近まで確認。遺物 検出されなかった。

#### 17号井戸跡（第153・175～180図 P L54・80・81）

Z-4・5グリッドに検出。標高167.50m地点。10溝跡との新旧は溝跡が新しい。形状 本体は円形状。東側に方形状の張り出しをもつか。規模 長径1.7m、短径1.33m、張り出し部幅約70cm×25cm。断面形 上半部掘鉢状をなし、筒状に落ちこむ。深さ1.8m付近まで確認。遺物 上面付近で多数の縲群に混じり、瀬戸・美濃系・肥前系等の陶磁器類はじめ、在地産土器、五輪塔頬、凹石、砥石、石臼類等が出土。恐らく廃棄に伴うものとみられ、17～18世紀代の遺物が主軸をなす。これらの遺物群の最下面、井戸跡中位面や下付近に、頭部を欠いた一体の地蔵尊像と大形角礫1点が検出。地蔵像の裏面には「寛延元年 十月……」とあり、1748年以前に掘削された遺構といえる。



第154図 2号・3号掘立柱建物跡

後日「刻書」の部分については、加藤勉氏から、「種子南無地藏尊 十月吉日 當村施主あるいは当村姓の可能性が想定され、後者の場合には人名にあたるのではないかとの御教示を賜った。

### (5) 据立柱建物跡

### 1号掘立柱建物跡（第153図）

G・H-11～13グリッドに検出。北側に2号溝跡が隣接する。構造は桁行2間（P1～P3・P5～P7）、梁行2間（P3～P5）で構成される。うち、P4相当のピットは26号遺構と重複、検出されなかつた。主軸方位はN-54°Wを示す。柱間寸法は桁行北側で、P1～東へ2.25m(7.5尺)～2.25m(7.5尺)を割り、南側も同一数値にある。梁行は西側でP1～南へ1.95m(6.5尺)～2.4m(8尺)と若干長短がある。規模は桁行4.5m、梁行4.35m、面積15.58m<sup>2</sup>である。遺物はなし。

2号掘立柱建物跡（第154・163図 P.L.76）

E・F-11・12グリッドに検出。1号掘立柱建物跡の南約7.5m地点にある。14号遺構・2号戸井戸跡と重複。構造は桁行2間（P1～P3・P4～P6）、梁行1間（P3・P4～P6・P1）で構成される。主軸方位はN-66°-W。柱間寸法は桁行北側で、P1～東へ1.8m(6尺)～1.8m(6尺)、同じく南側P6～東へ1.8m(6尺)～1.95m(6.5尺)を測り、わずか0.5尺程南側が幅広となる。梁行東・西両側は2.55m(8.5尺)。規模は桁行3.68m、梁行2.55m、面積9.384m<sup>2</sup>。遺物 線刻2条線をもつ板碑片(72)が出土。観への転用が想定される。

### 3号掘立柱建物跡（第154図）

F・G-11・12グリッド検出。2号掘立柱建物跡の北西側に隣接する。梁行側P.4・P.5相当ピットは、櫛

乱で失われている。構造は桁行2間（P1～P3・P5～P7）梁行2間（P3～P5・P7～P1）で構成される。主軸方位はN-43°-W。柱間寸法は桁行北側で、P1東へ1.65m(5.5尺)-1.65m(5.5尺)、同南側でP7・P6間1.65m(5.5尺)。梁行は西側でP1～南側へ1.05m(3.5尺)-1.35m(4.5尺)を測る。規模は桁行3.3m、梁行残存部で2.4m、面積7.92m<sup>2</sup>。遺物は未検出。

#### E区補遺 3号ピット列（第153図 P L46）

M-6・7グリッドに検出。北側に10・11号掘立柱建物跡がある。検出されたピットは計3本で、東西方向に並列する。底面あるいは中位面に径10~20cm前後の自然縁が確認され、P1-1個、P2-3個、P3-4個出土。礎石建物跡の関連性から北側B区、本区南側でのピット列を考慮したが確認できなかった。ピットの平面形は円形ないしは不整円形・長円形をなし、深さ20~60cm前後。ピット間寸法は、P1-東へ1.5m-2.25mを測る。遺物はない。

#### (6) 溝 跡

##### 1号溝跡（第156~158・160・162~166・168・170~174図 P L48・73~76）

C区南端B-11グリッド～北東方向D-12グリッドにかけて検出。断面形は逆台形状をなす。南バイパス部分で、昭和59年調査されたL区、SM-2号溝に繋がる溝である。標高は北東端で164.0m、南端部で163.30m、比高差70cmである。規模は検出面での上幅最大3.7m、中位面1.7m前後、下幅80~90cm前後、深さ1.4m大を計測。遺物は覆土内より数量的にかなりの量の遺物が出土した。陶器類では15~16世紀代を主軸とするかわらけ他、鍛冶関連の鉄滓類、金床石、磁石類等が出土した。

##### 2号溝跡（第155・159図 P L49）

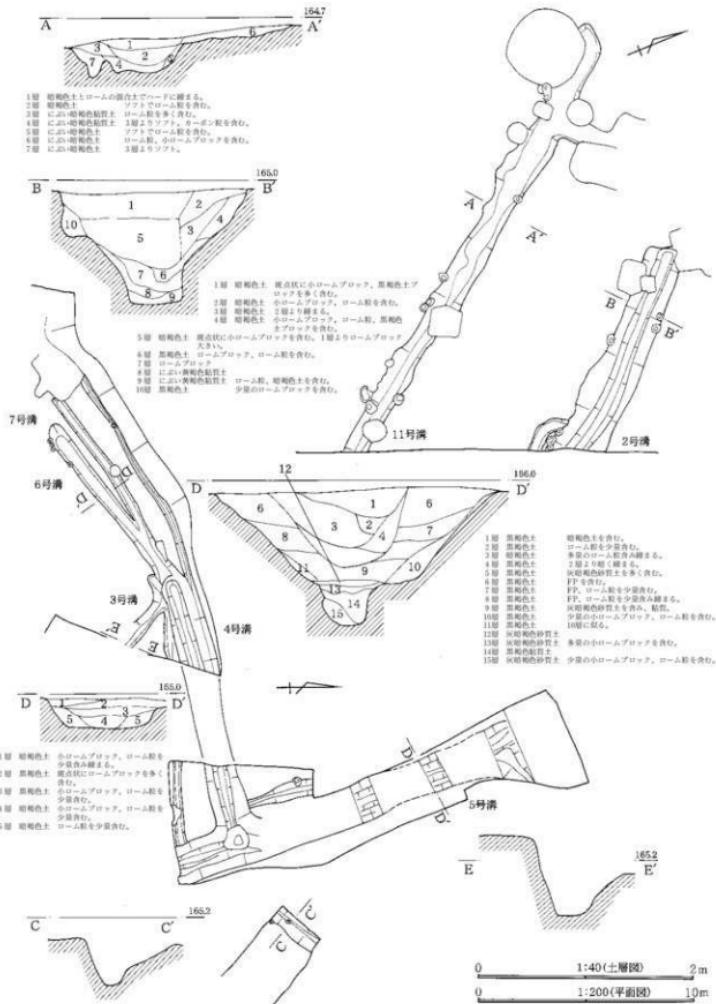
C区I-12グリッド～南東方向へ向かい、H-12・13~G-13グリッド付近まで確認した。またI-12グリッド以北の延長は確認できなかった。標高は最高地点で164.85m付近。規模は上幅最大2.3m、下幅0.4m前後、深さ1.05m。断面形上半八の字を開き、下半部で直立する。遺物は、覆土内で在地土器、内耳鍋(44)、人形首鉢(38)が出土。鍋は体部直線的であり、15世紀後半～16世紀代前半頃の所産である。

##### 3号溝跡（第155・158図 P L71）

K-13グリッド付近で4・6・7号溝跡から枝状に、一方は南東方向、他方は東方向へ走行する。標高は4号溝跡との重複地点付近で165.0m、14号井戸跡付近で164.80mを測る。比高差20cm程度で、東に向かいわずかに低く傾斜する。後者はK-16グリッドで14号井戸跡と重複し、5号溝跡に合流する。規模は上幅0.5~0.8m前後、深さ45cm前後。断面U字状をなす。遺物は検出されなかった。

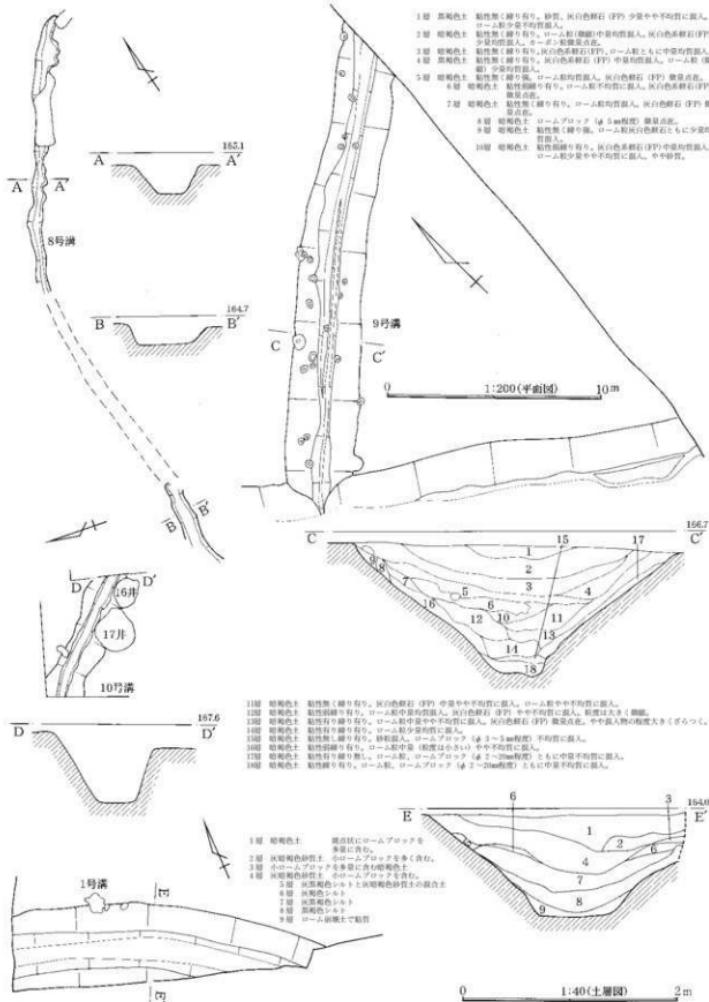
##### 4号溝跡（第155・162図 P L49・75）

K-13グリッド内で前述3・6・7号溝跡と合流後東方向に向かい、L-16グリッド内で5号溝跡と直交、さらにM-17・18グリッド区まで延長する。標高は3号溝跡との重複付近で164.90m付近、5号溝跡との合流地点では165.30m付近にある。北東方向から流下し、5号溝跡との合流地点でL字に折れる。規模は上幅2.1m前後、下幅40cm大、深さ99cm前後である。遺物は擂鉢(64)1点が出土。16世紀代の所産である。



第155図 2号～7号・11号溝跡

## 第2節 中・近世の構造と遺物



第156図 1号・8号～10号溝跡

## 第V章 西前沖遺跡

### 5号溝跡（第155・158・161・163・171図 PL49・75・76）

C区調査区北端、P-14・15グリッド～直線的に南東方向へ走行、K-16・17グリッド付近で調査区外。P-15グリッドでは、やや東に折れか。合流地点では溝跡底面が、径1.6m×1.7mの円形状をなし、低く落ちこむ。規模は上幅2.6m、下位上面幅60cm、下幅35cm。深さ1.25m。断面形は一旦逆台形状をなし、下面でさらにU字状をなす。遺物は16世紀代後半～とみられる在地産内耳培培(54)、他近世の所産である在地産土器火鉢(29・32)、擂鉢(66)、18世紀代後半～猪口(21)、砥石(136)等が出土。

### 6号溝跡（第155図 PL49）

K-13グリッド～南西方向にかけて走行。北側に同方向を向く7号溝跡がある。標高は154.90m付近。規模は上幅1.1m前後、下幅70cm大、深さ25cm。断面浅いU字状。遺物は検出されなかった。重複する4号溝跡には15・16世紀代の擂鉢片があり、ほぼ同時期であろうか。

### 7号溝跡（第155図 PL49）

C区K-13～南西方向に走行。6号溝跡に並行、J-10グリッド付近で消滅する。標高は4号溝跡との合流地点で165.0m、消滅地点で比高差約20cm程度とほぼ平坦面に形成。規模は上幅0.6m、下幅40cm前後、深さ28cm前後。遺物は検出されなかった。

### 8号溝跡（第156図）

F区I-7グリッド～南東方向に弧状をなし南下、調査区南端E-5・6グリッドまで確認した。途中攪乱で一部消滅する他、I-7グリッド内で29号土坑と重複。標高は北側で164.80m、南端側で164.60m。規模は検出総長28m、上幅60～70cm前後、深さ15～25cm前後。断面U字状をなす。

### 9号溝跡（第156・175図 PL75）

F区O-8グリッドより直線をなし南西方向に走行。L-5グリッド付近の段切り面で消滅。標高は166.25m～南端で166.65m。比高差40cmの緩い傾斜地形に占地。規模は上幅3.0m、中位上幅0.8～1.1m前後、下幅30～40cm前後、深さ1.2m大。断面形葉研状、底面矩形をなす。遺物は熔培片(7)出土。

### 10号溝跡（第156図）

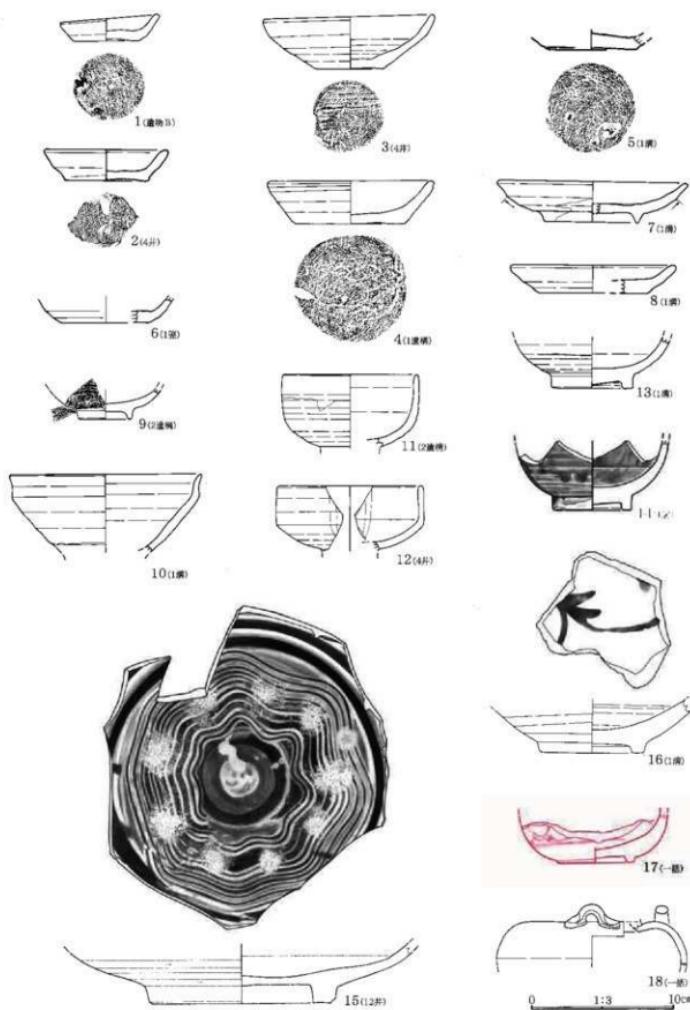
F区最北端Z・AA-4・5グリッドに検出。16・17井戸跡と重複。標高167.40m付近。規模は上幅1.6m前後、下幅40cm、深さ55cm前後。断面逆台形状。遺物は未検出、中世に該期するか。

### 11号溝跡（第155図 PL49）

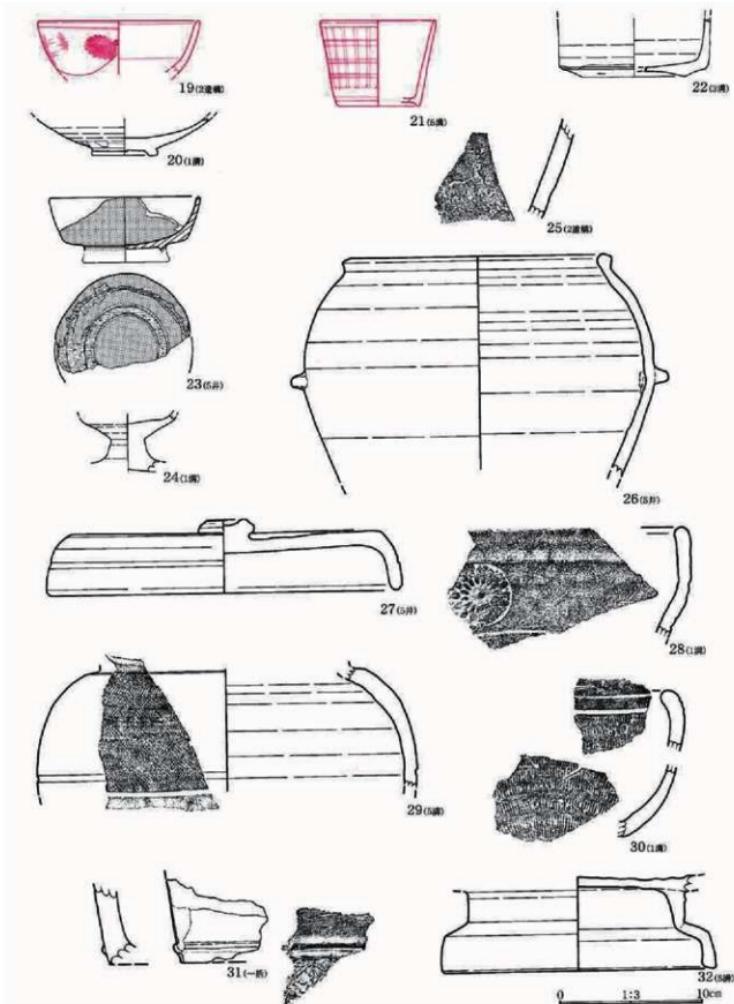
C区I-10グリッド～南東方向へ走行する一方、一部東方向へ短く折れる。F-12グリッド以南は調査区外となる。標高は北側で164.68m、南側で164.20m、比高差48cmを測る。規模は上幅1.5m前後、下幅0.5～1.0m前後、深さ30cm前後。断面U字状。遺物は16世紀代の擂鉢他、近世遺物出土

### (7) その他の遺構

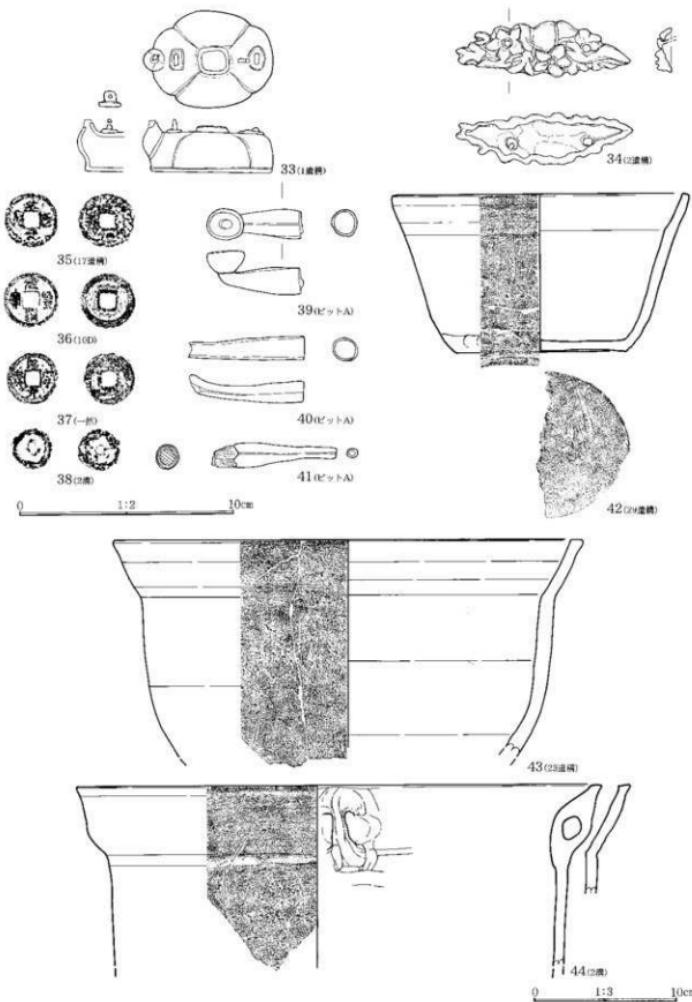
これまでみてきた遺構の他、検出された遺構には以下のものがある。



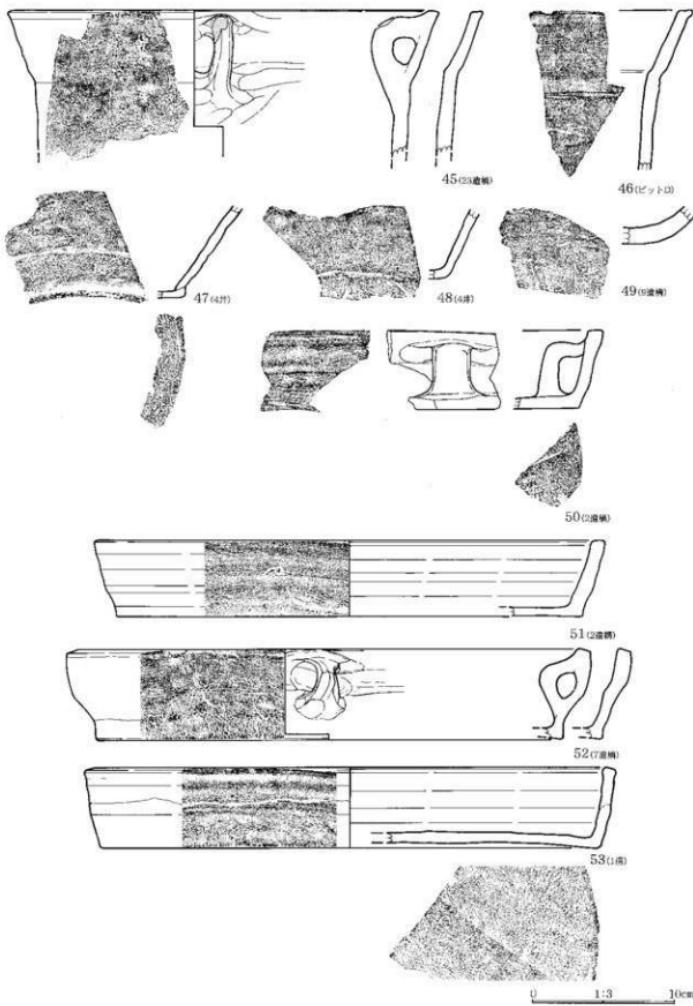
第157図 C地点出土遺物(1)



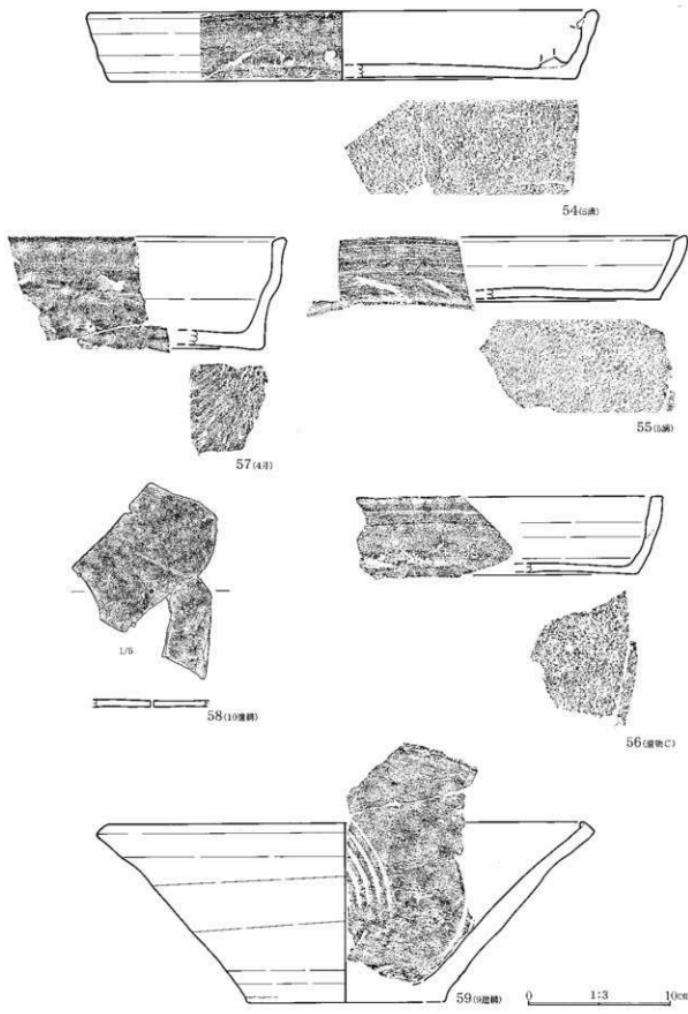
第158圖 C地點出土遺物(2)



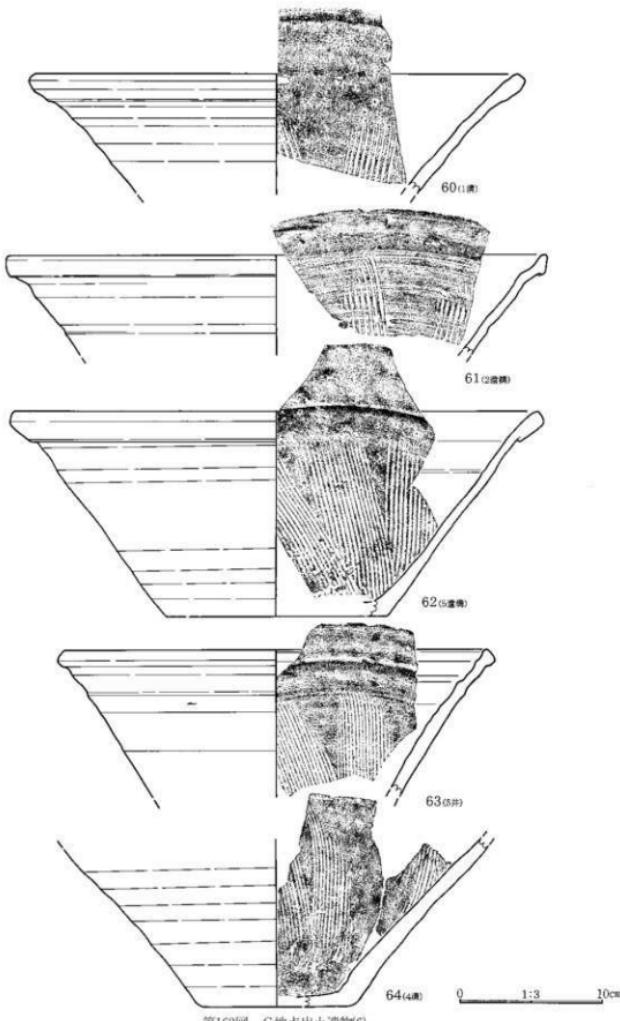
第159図 C地点出土遺物(3)



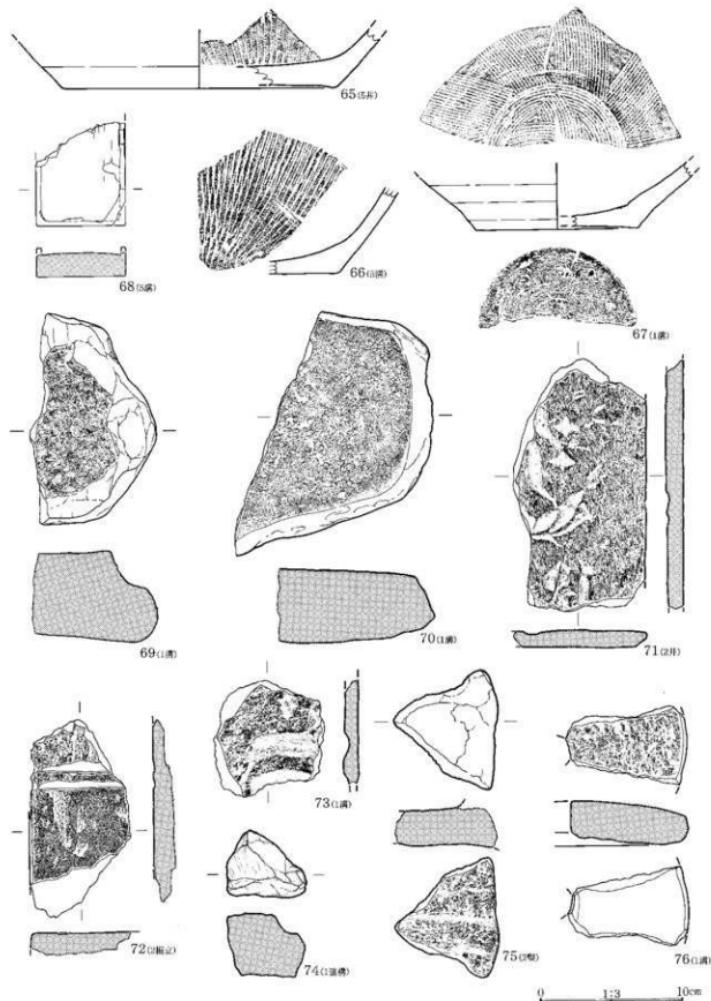
第160図 C地点出土遺物(4)



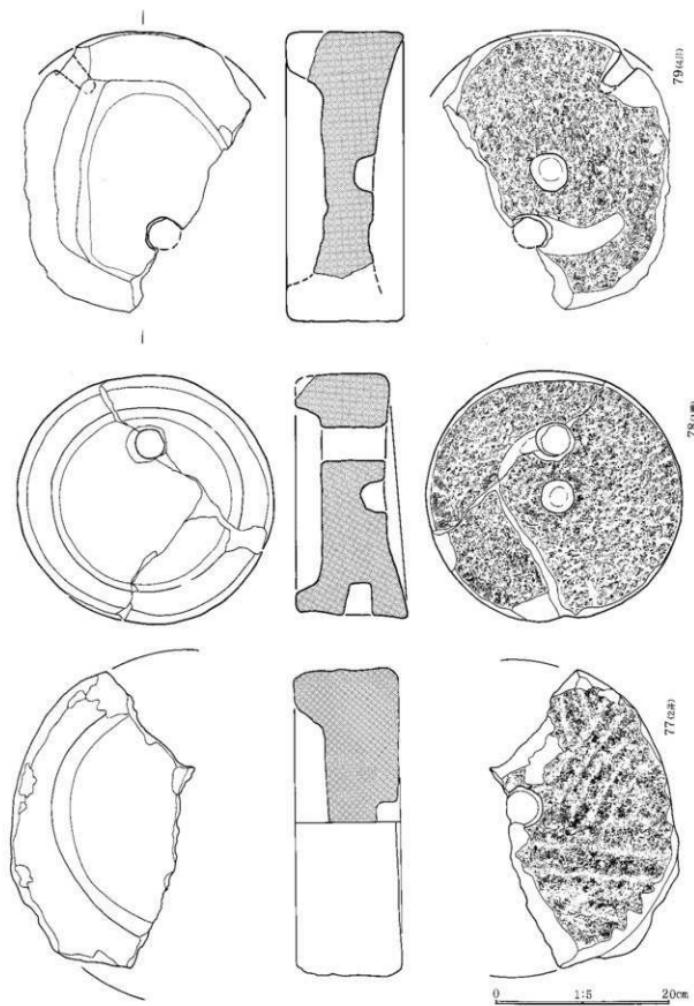
第161図 C地点出土遺物(5)



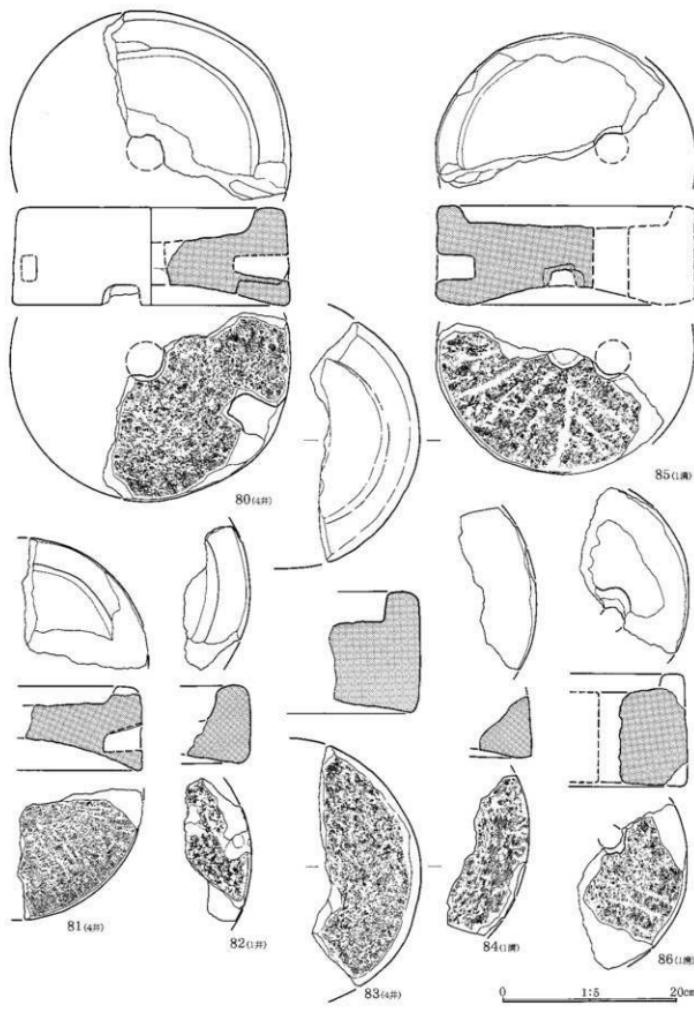
第162圖 C地點出土遺物(6)



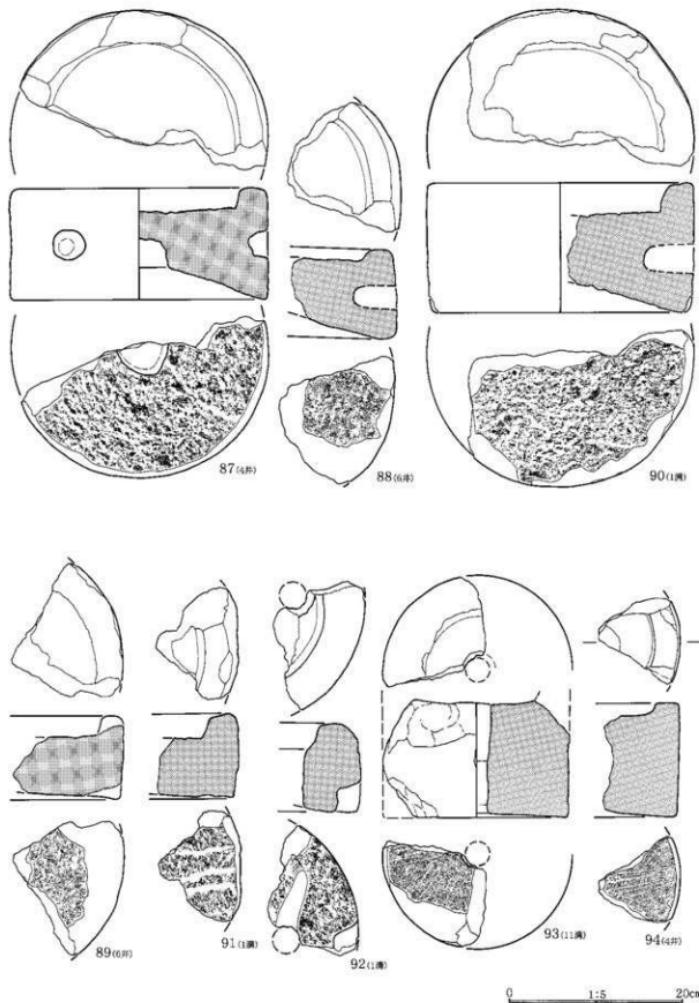
第163図 C地点出土遺物(7)



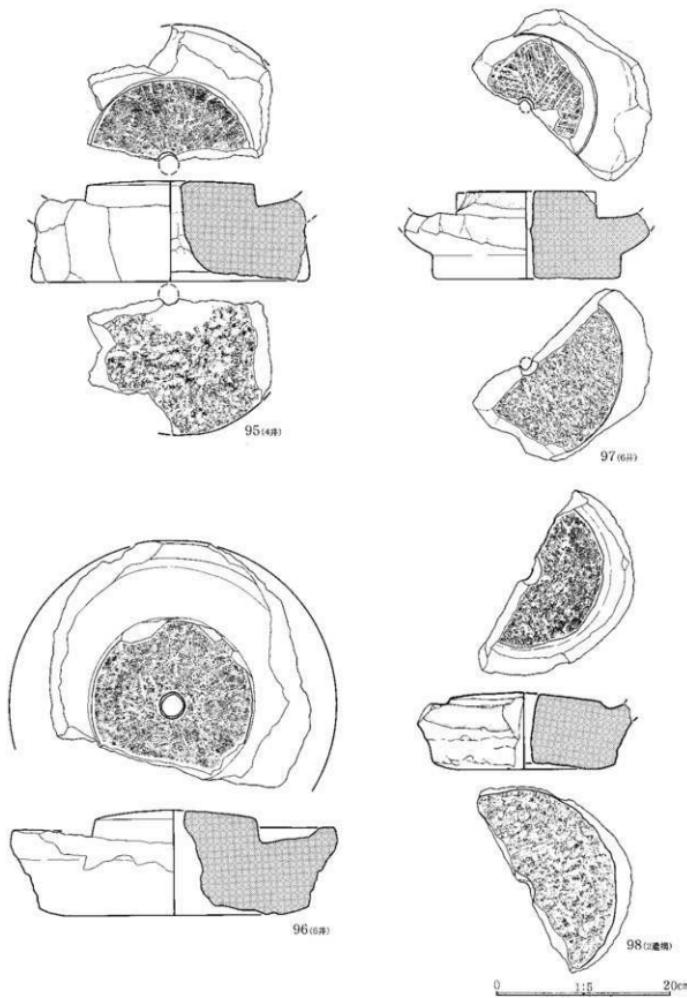
第164圖 C地點出土遺物(8)



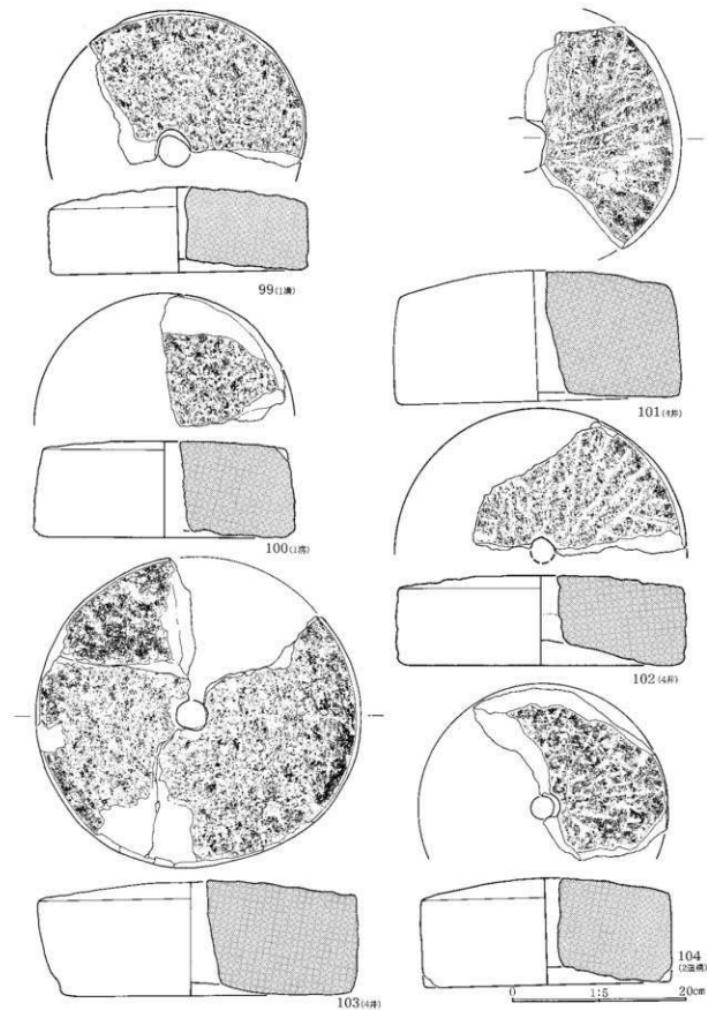
第165図 C地点出土遺物(9)



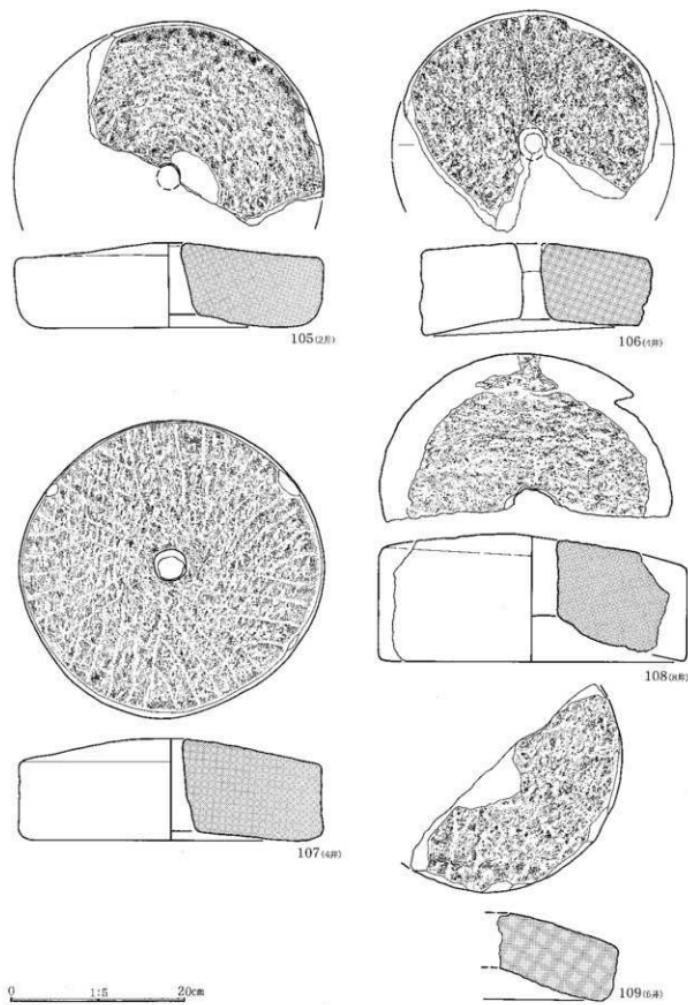
第166圖 C地點出土遺物⑩



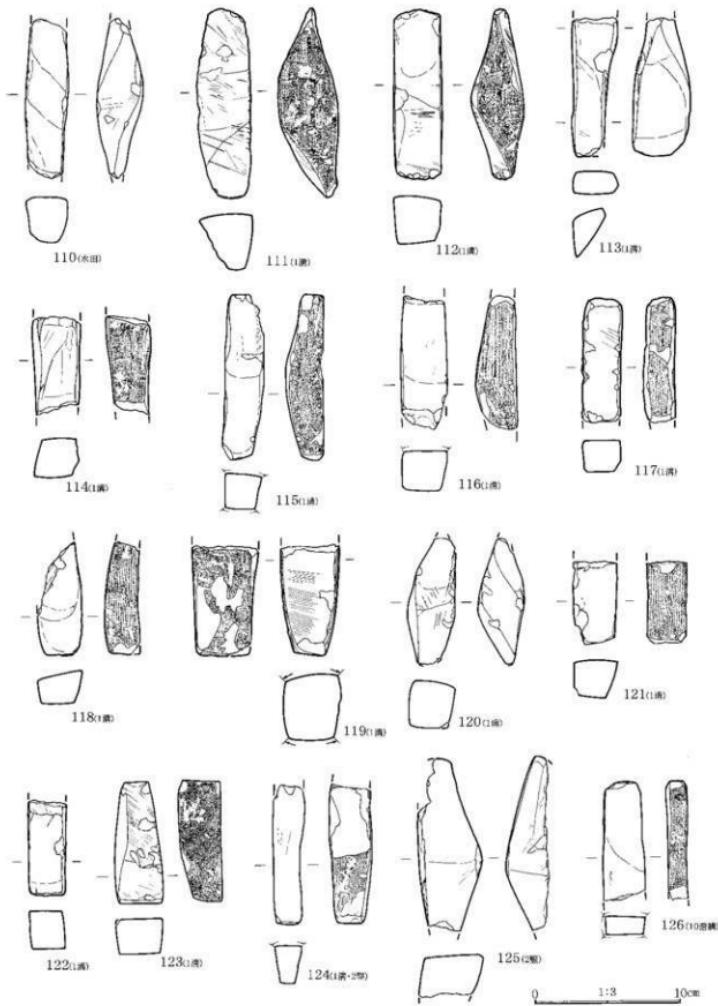
第167図 C地点出土遺物⑩



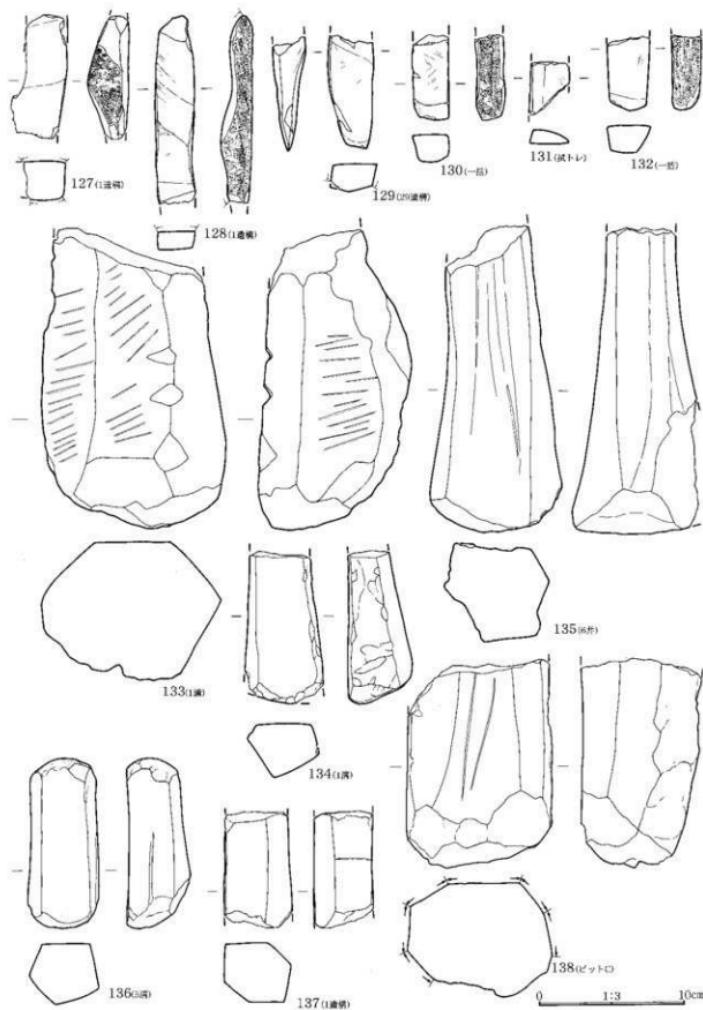
第168圖 C地點出土遺物12



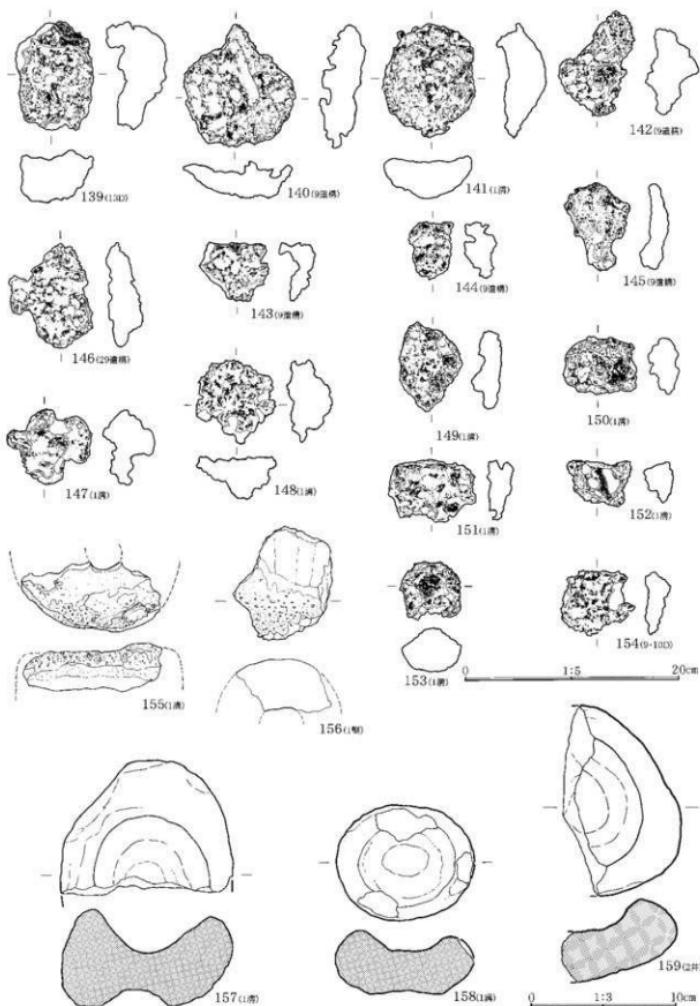
第169図 C地点出土遺物⑬



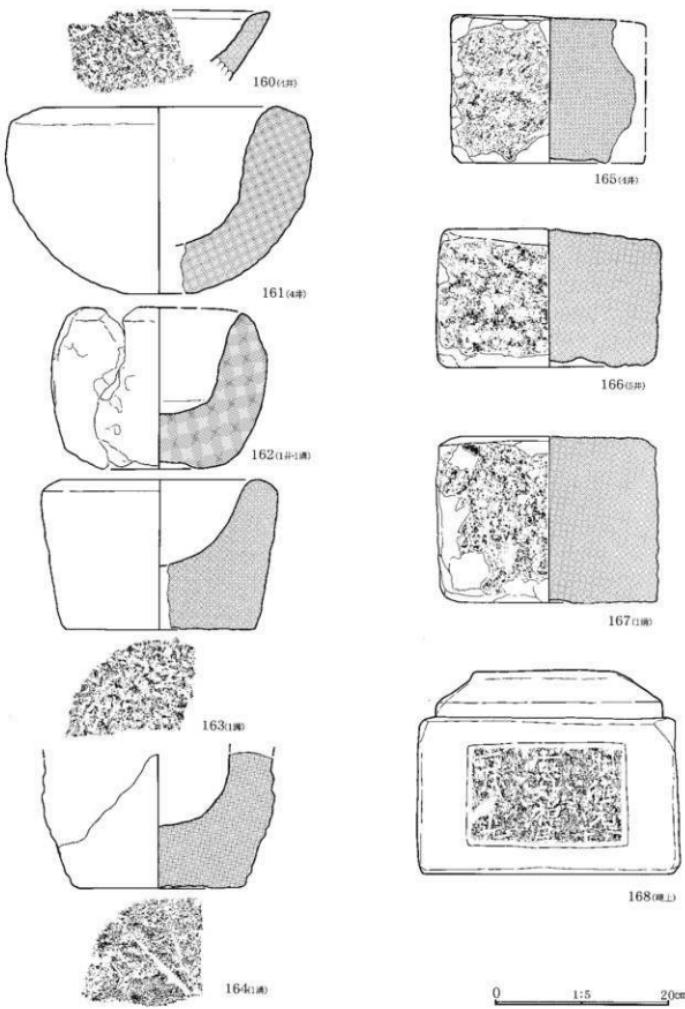
第170圖 C地點出土遺物⑩



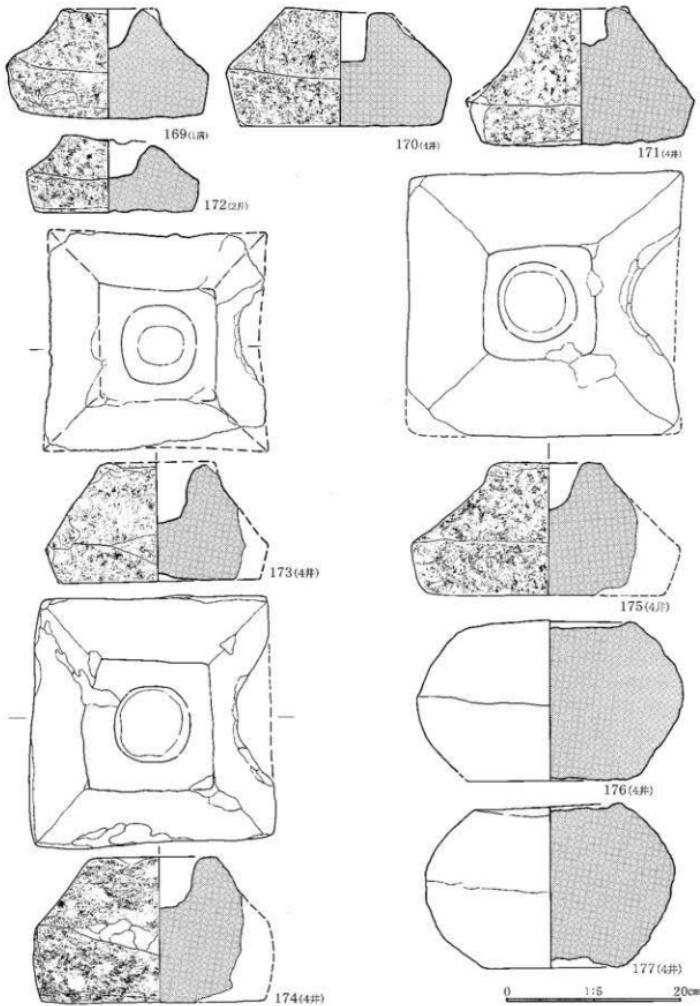
第171図 C地点出土遺物図



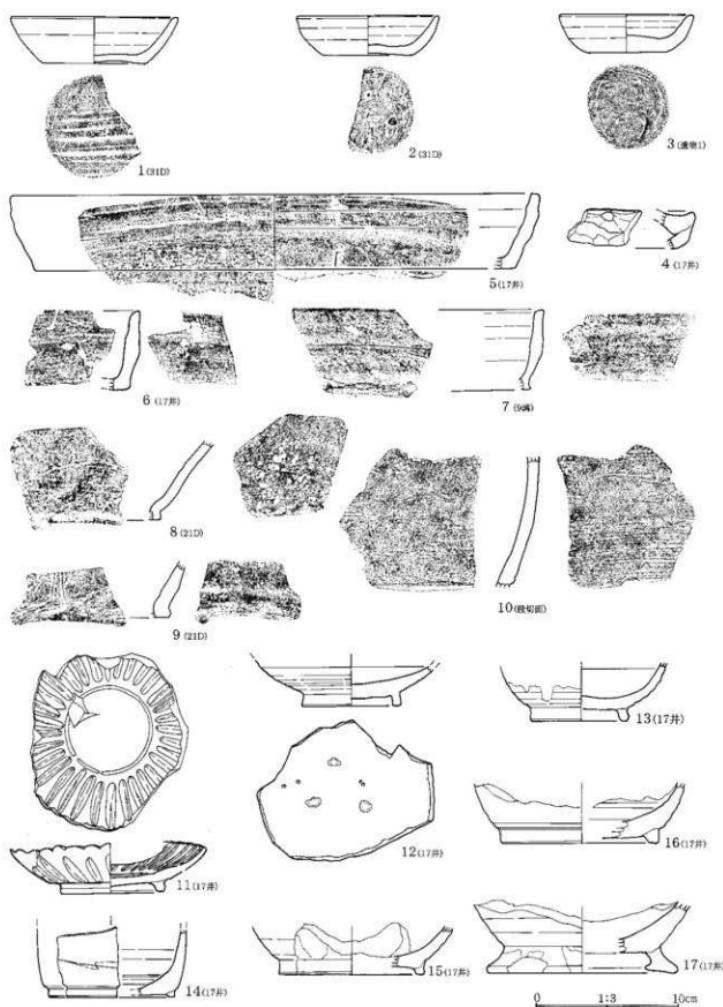
第172圖 C地點出土遺物



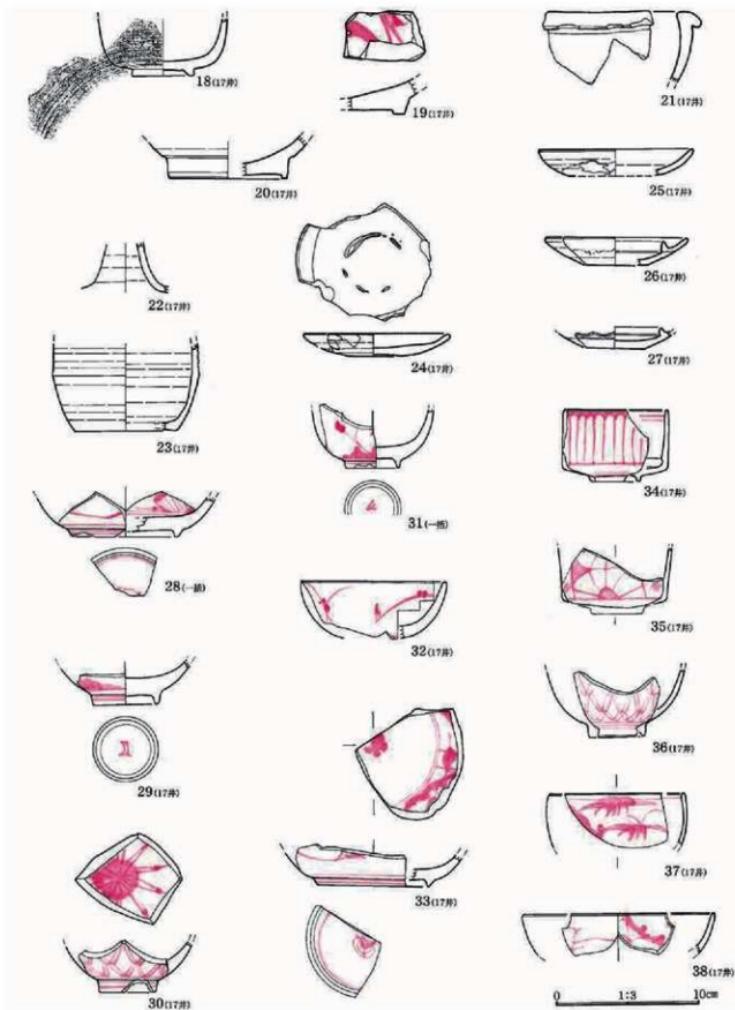
第173図 C地点出土遺物①



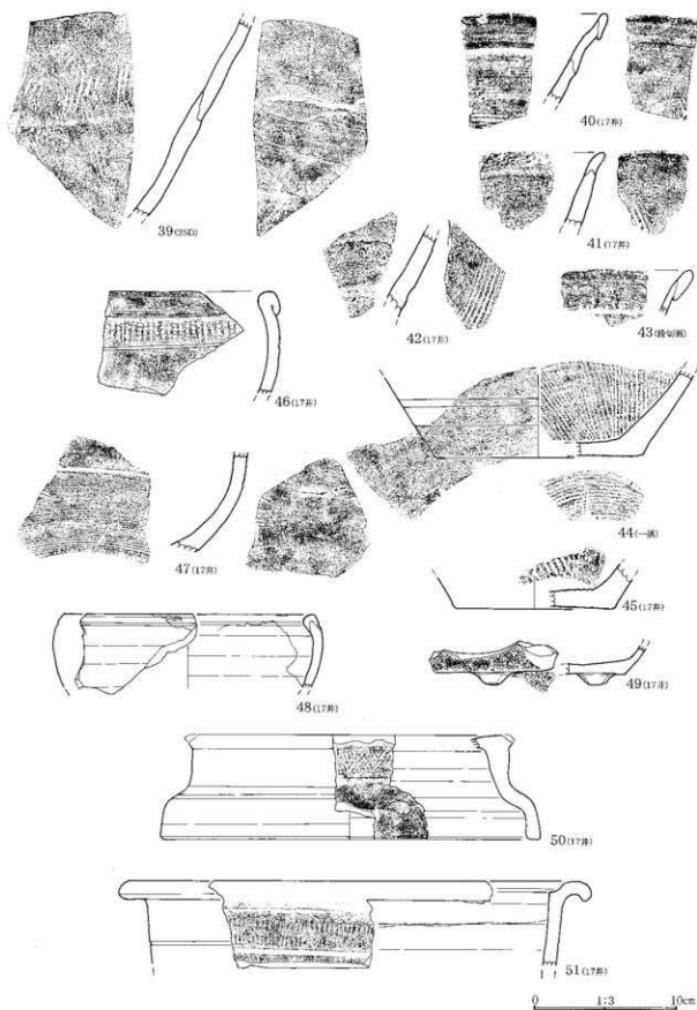
第174圖 C地點出土遺物⑧



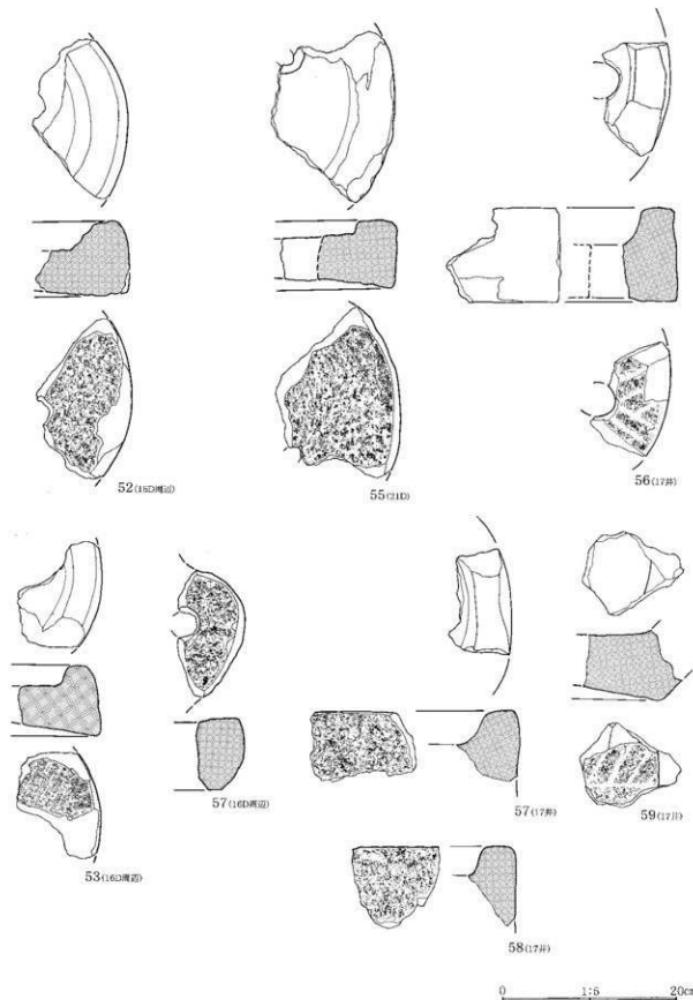
第175図 F地点出土遺物(1)



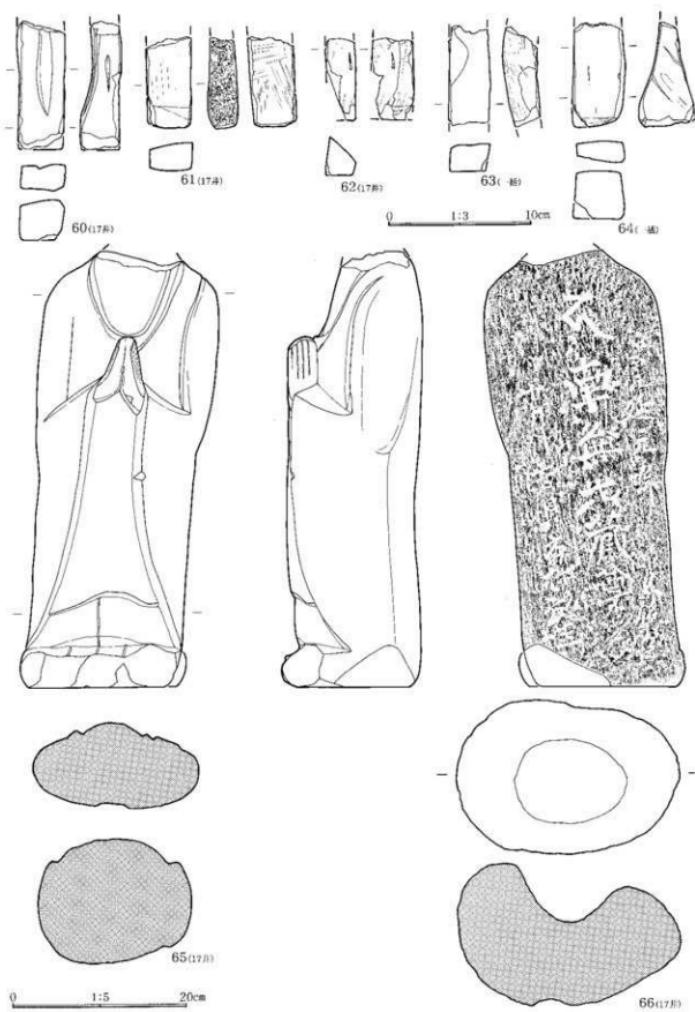
第176图 F地点出土遗物(2)



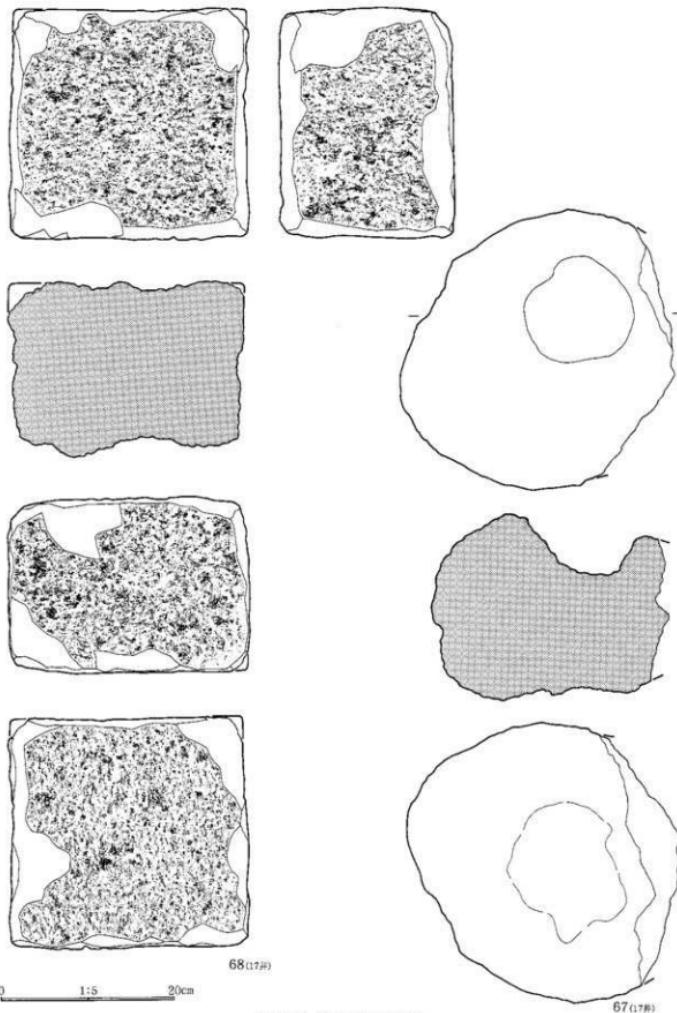
第177図 F地点出土遺物(3)



第178圖 F地點出土遺物(4)



第179図 F地点出土遺物(5)



第180圖 F地點出土遺物(6)

溝跡状遺構（MD） C区、D・F-9～11グリッド付近に10基程度確認。周辺一帯に散在する土坑群よりは新しい。恐らく近世以降の耕作痕とみられる。

地割れ跡・風倒木痕跡 地割れ跡は東前沖遺跡でみられたと同様、所謂弘仁九年（818年）の地震に由来する痕跡として捉えられる。F区P・Q-8グリッド付近に数条確認された。風倒木跡はF区R-4・5グリッド付近で出土。周辺に縄文時代の土坑があり、同時期であろうか。

A～D号ビット 某かの遺物が検出されたビットで、掘立柱建物跡に伴う可能性も少なく、規則性も窺えない性格不明の遺構である。時期的には出土遺物から中世～近世代とみられる。

#### D地点

##### （1）土 坑

###### 1号土坑（第181図 P L54）

位置 T・U-30・31グリッド。 形状 東西に長い長方形。 規模 長径3.0m、短径1.2m、深さ22cm大。 主軸方位 N-63°-W 備考 Y字状に分かれる1号溝跡の中間地点。 遺物 なし

###### 2号土坑（第181図 P L54）

位置 T-30グリッド。 形状 東西に長い長円形。 規模 長径1.6m、短径0.9m、深さ40cm前後。 主軸方位 N-80°-W 備考 底面西側に低く傾斜。 遺物 なし

###### 3号・4号・5号土坑（第181・185・195図 P L54）

位置 T-29・30グリッド

3号 形状 一 規模 長径 一、短径 一、深さ20cm前後。 主軸方位 一 備考 4・5号土坑、礫を含むビット群と重複、墓壇に伴う礫に関連か。 遺物 大觀通寶（宋1107年）他宋錢5枚、瀬戸・美濃系陶器皿(9)等の他、瀬戸瓶子(19)が出土。遺物から(9)が17世紀代、(19)が13～14世紀代の所産。

4号 形状 東西に長い長円形？ 規模 長径 一、短径 一、深さ18cm前後。 遺物 なし

5号 形状 長円形の重複遺構か。 規模 A'-長径1.45m、短径0.9m、深さ30cm前後。 A-深さ18cm前後。 遺物 なし

###### 6号土坑（第181図）

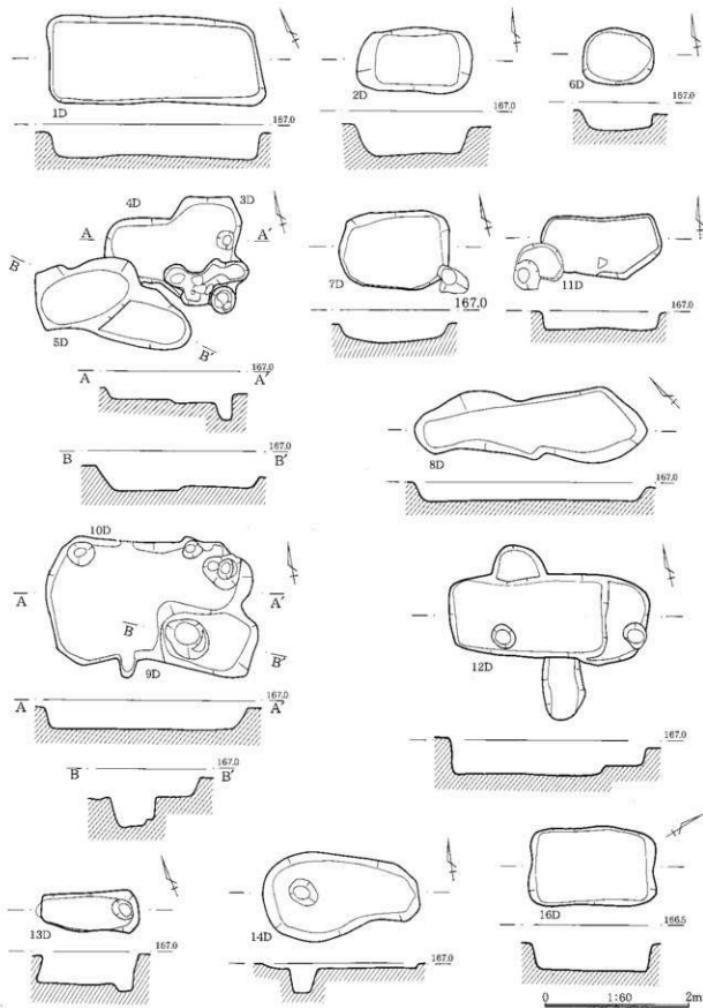
位置 T-28グリッド。 形状 長円形 規模 長径1.0m、短径0.78m、深さ24cm前後。 主軸方位 N-80°-W 備考 3～5号土坑の西側5m付近に立地。 遺物 なし

###### 7号土坑（第181図 P L54）

位置 T-27グリッド。 形状 東西に長い隅丸長方形 規模 長径1.53m、短径1.10m、深さ20cm前後。 主軸方位 N-77°-W 備考 周辺ビット群との新旧不明。 遺物 なし

###### 8号土坑（第181・186図 P L79）

位置 U-27グリッド 形状 東西に長い不整長円形。 規模 長径3.1m、短径最大1.0m、深さ20cm前後。 主軸方位 N-52°-W 備考 二遺構重複？。 遺物 肥前系染付碗出土。18世紀代の所産である。



第181圖 1号~14号・16号土坑

## 9号・10号土坑（第181・185図 PL54・77）

位置 T・U-26・27グリッド

9号 形状 東西に長い長方形。 規模 長径1.4m、短径0.9m、深さ25cm前後。 主軸方位 N-70°-W

備考 10号、1号建物跡との新旧不明。 遺物 なし

10号 形状 東西に長い楕円形状。 規模 長径2.5m、短径1.7m、深さ28cm大。 遺物 かわらけ1点出土。左回転糸切り。15-16世紀代の所産か。

## 11号土坑（第181・187図 PL54・78）

位置 U-26・27グリッド。 形状 東西に長い不整長方形。 規模 長径1.7m、短径0.9m、深さ20cm前後。 主軸方位 N-86°-W 備考 南側に10号土坑。 遺物 常滑片(54)、礫1点が出土。

## 12号土坑（第181図）

位置 U-26・27グリッド。 形状 東西に長い長方形。 規模 長径2.8m、短径1.2m、深さ30~50cm大。 主軸方位 N-75°-W 備考 底面二段形成。重複ピットとの新旧不明。 遺物 なし

## 13号土坑（第181図）

位置 U-25・26グリッド。 形状 東西に長い長方形。 規模 長径1.35m、短径0.6m、深さ40cm大。 主軸方位 N-68°-W 備考 1号建物跡と重複。 遺物 なし

## 14号土坑（第181図）

位置 U-25・26グリッド。 形状 東西に長い長円形。 規模 長径2.2m、短径1.25m、深さ10cm前後。 主軸方位 N-80°-W 備考 重複ピットとの新旧不明。 遺物 なし

## 15号土坑（第182図）

位置 U-24グリッド。 形状 東西に長い長円形。 規模 長径2.1m、短径1.2m、深さ20cm前後。 主軸方位 N-64°-W 備考 溝状？と重複。 遺物 なし

## 16号土坑（第181図 PL54）

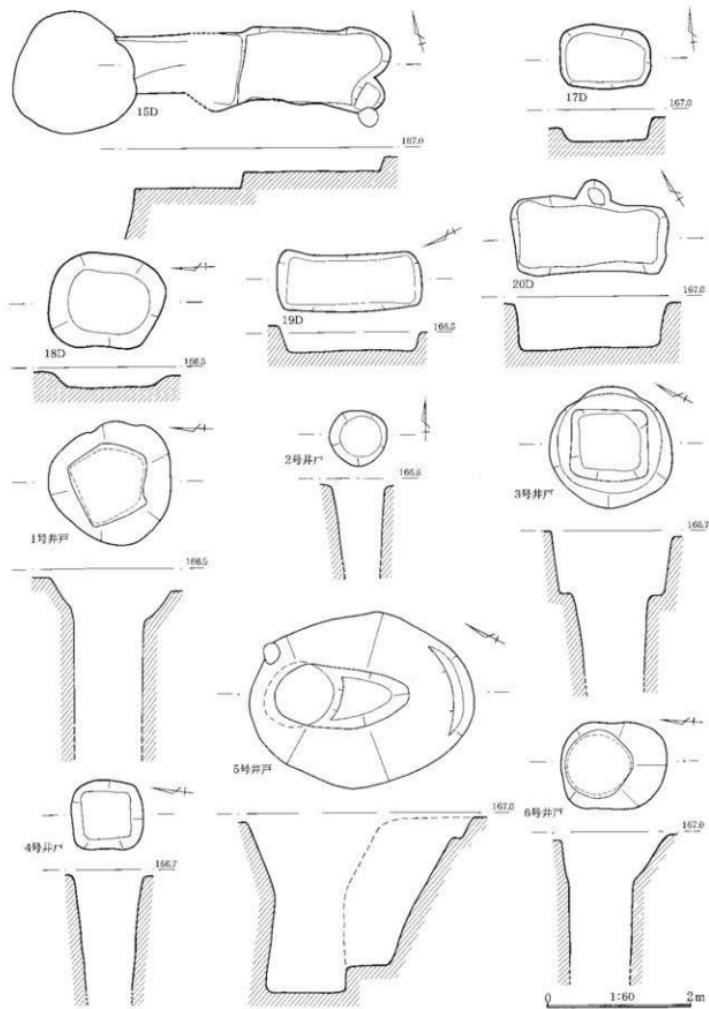
位置 T-22・23グリッド。 形状 南北に長い長方形。 規模 長径1.8m、短径1.14m、深さ38cm前後。 主軸方位 N-42°-E 備考 一連の土坑群より台地低位面に占地。 遺物 なし

## 17号土坑（第182図）

位置 V-25・26グリッド。 形状 東西に長い長円形。 規模 長径1.25m、短径0.9m、深さ30cm。 主軸方位 N-82°-W 備考 - 遺物 なし

## 18号土坑（第182図）

位置 R-S-29・30グリッド。 形状 南北に長い楕円形。 規模 長径1.6m、短径1.35m、深さ20cm前後。 主軸方位 N-4°-E 備考 16号と同様南北方向。 遺物 なし



第182図 15号・17号～20号土坑・1号～6号井戸跡

**19号土坑（第182図 P L55）**

位置 S-28・29グリッド。 形状 南北に長い長方形。 規模 長径2.0m、短径0.85m、深さ25cm。 主軸方位 N-34°-E 備考 - 遺物 なし

**20号土坑（第182・185図）**

位置 T-26・27グリッド。 形状 東西に長い長方形。 規模 長径2.2m、短径1.1m、深さ60cm。 主軸方位 N-58°-W 備考 1号建物跡と重複。 遺物 なし

**(2) 井戸跡****1号井戸跡（第182・185・187～189・192図 P L78・79）**

位置 U・V-23・24グリッド 東側に15号土坑が近接する。標高166.70m地点。形状 楊円形状、中央部方形状をなす。井戸側 規模 長径1.75m、短径1.70m。井桁幅約1.0m前後か。断面形 漏斗状。深さ 2.0m付近まで確認。遺物 在地土器鍋(44)、焙烙(43)、の他礫臼(95)、板碑片(62)、砥石(70)、上面で近世に該期する煙管(24)等が出土した。板碑片は条線部下に種子(アーチ)「大日」が彫られる。遺物の年代は16世紀後半代の所産である。

**2号井戸跡（第182図）**

位置 V-27グリッド 標高167.0m付近。形状 円形。規模 長径0.8m、短径0.8m。断面形 筒状 深さ 1.0m付近まで確認。遺物 検出されなかった。

**3号井戸跡（第182・190・193図 P L77・80）**

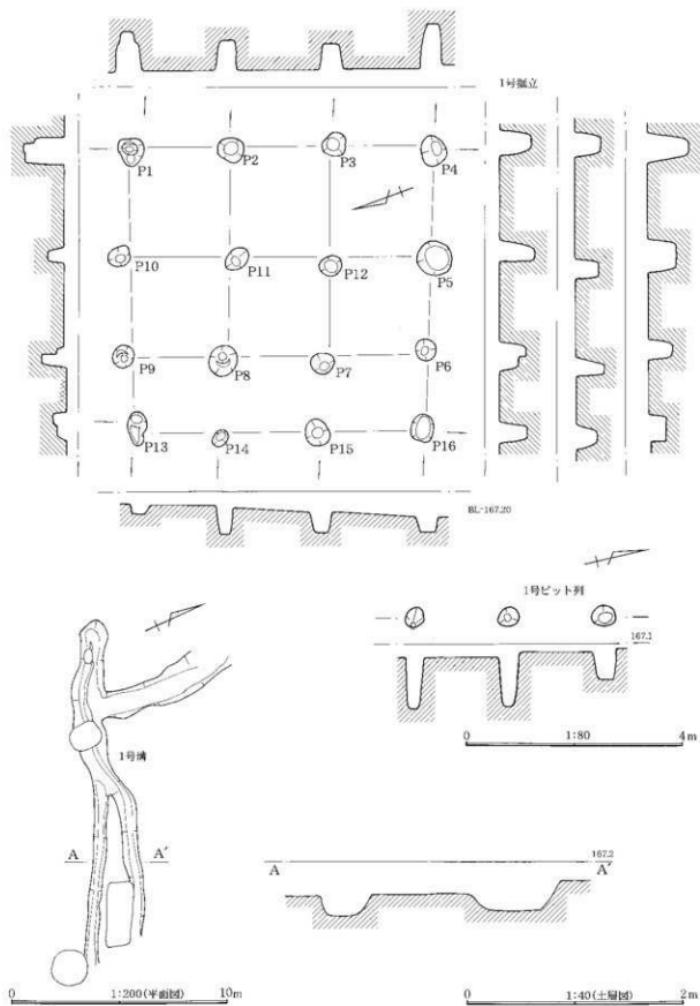
位置 T-31グリッド 標高166.70m地点。 形状 堀り方円形。中央部は方形状をなし、1号同様井戸枠に間連するとみられる。 規模 長径1.7m、短径1.7m、井桁長径1.1m、同短径1.0m。 断面形 確認面より深さ0.9m付近、井桁挿入部分矩形をなし、下部で筒状に落ちこむ。 深さ2.0m付近まで確認した。 遺物 磐石鞍山岩製の茶臼上・下臼(104・105)、特に(105)は白挽手穴に菱形の飾り文様を配す。この他角閃石鞍山岩を含む凹石類(83・85)が出土した。

**4号井戸跡（第182図）**

位置 S・T-31グリッド 3号井戸跡の南側に隣接する。標高 166.50m。形状 方形。規模 長径1.0m、短径1.0m。断面形 筒状。深さ 1.6m付近まで確認。遺物 未検出である。

**5号井戸跡（第182・190・192図 P L77・80）**

位置 U-25グリッド 1号掘立柱建物跡の西側にあたり、遺構東側に隣接して13・14号土坑がある。標高167.0m付近。形状 現状で南北に長い長円形だが、南側は崩落等に因るか原形を止めない。本来は円形形状であったと考えられる。 規模 長径約3.1m、推1.5m前後?、短径約2.45m。断面形 上半八の字状、中位面～筒状。深さ2.4mで底面。遺物 磐臼上臼(96)、凹石(80)各1点出土。



第183図 1号掘立柱建物跡・1号ビット列・1号溝跡

**6号井戸跡（第182・187・189・194図 P L78・79）**

位置 U-29グリッド 1号溝跡と重複。新旧は不明。標高167.0m付近。形状 楕円形状。規模 長径1.5m、短径1.2m。中位面径0.95m。断面形 漏斗状。南側上面～中位面は緩傾斜、下半部筒状に落ちこむ。遺物常滑甌口縁部片類(46～48)、灰釉陶器皿(6)、砥石類(71～74)の他、石造物火輪部(116)等が出土。時期的には甌口縁部片類の形状から、14世紀中～後半代の所産とみられ、17世紀代に該期するとみられる灰釉陶器皿との間にやや時間差がある。

**(3) 墨立柱建物跡・ビット列****1号墨立柱建物跡（第183図）**

T・U-25～27グリッドに跨って検出。本遺構周辺にはかなりのビット群が点在するが、建物跡に関連する柱穴列は確認できなかった。構造は桁行3間（P 1～P 4・P 6～P 9）、梁行2間（P 4～P 6・P 9～P 1）、棟持柱（P 11・P 12）で構成され、身舎西側に1.5m（5尺）の間隔をもって庇を付設する。主軸方位はN-21°-Eを示す。柱間寸法は桁行東側で、P 1～南側へ1.8m（6尺）-1.8m（6尺）-1.8m（6尺）で、西側も同数値をなす。梁行は南・北両側共に西側に向かい、1.95m（6.5尺）-1.80m（6尺）となり、やや幅狭となる。規模は桁行5.4m、梁行3.75m、身舎面積20.25m<sup>2</sup>。庇部分も含むと総面積28.35m<sup>2</sup>となる。規模的にはさほど大形建物とはいえず、また礎石等の痕跡も覗えない。出土遺物がなく時期は不明であるが、北側に近世～の礎石建物跡が確認されており、それとの関連性も考慮の対象になろうか。

**1号ビット列（第183図）**

U-24・25グリッドに検出。P 1～P 3のビットで構成される。ビット間距離は芯々間で、P 1～1.8m間隔でほぼ均一。深さはP 1が約55cm、他の二本は95cm前後である。主軸方位はN-13°-Eを示す。東側5mに1号建物跡があり、これに伴う柵列の可能性も考えられる。遺物は検出されなかった。

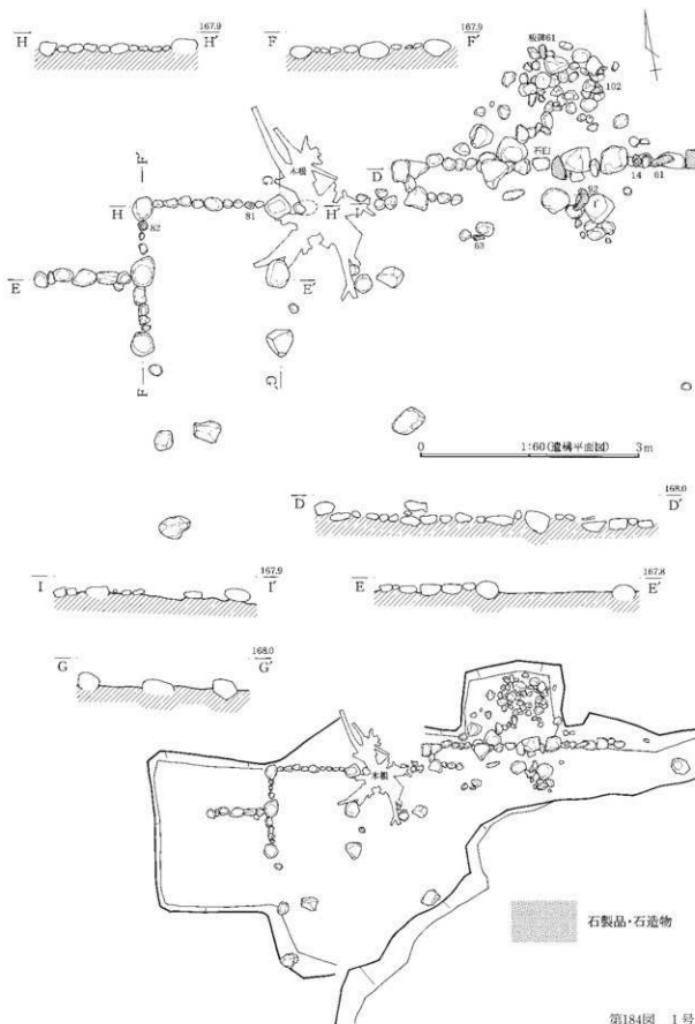
**(4) 溝 跡****1号溝跡（第183図）**

V-29グリッドで北から南下してきた後、U-28・29グリッド付近では東西方向に向きを変え、Y字状に2本の溝跡となって南東方向へ流下する。途中3・6号井戸跡と重複する。規模は上幅1.2m～0.6m前後、下幅80～30cm代、深さ20cm前後と浅く、時期的に比較的新しい溝跡か。遺物はない。

**(5) 屋敷跡****1号建物跡（第184・185・187～193図 P L55・56・77～81）**

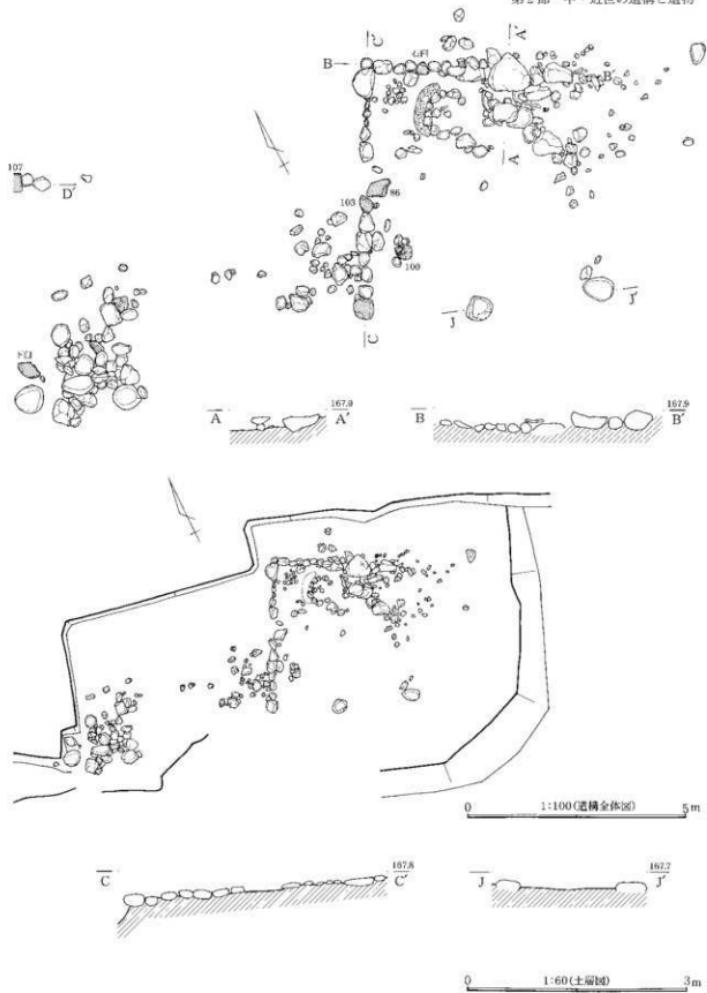
調査区北側、V・W-24～28グリッドにかけて検出された。屋敷割の全容は掌握できなかつたが、東・西側に区画割りが確認される。両者がひとつの屋敷とすると、凡そ東西方向に長軸をもつ地割となり、検出面で東西総長約32m、南北長約8mの範囲にある。南側に想定される出入り口等は確認されなかつた。また屋敷割の北側への延長部は、一段高く畠地として柔木群が繁茂し、トレンチ調査に止つた。この際、挿図に示した近世～以降とみられる陶磁器類・在地系土器類等が数多く検出された。

屋敷割に関連する間口区画は、前述2ヶ所のグリッド内（以下西側・東側と仮称）に確認された。それぞれ大小の自然縫に加え、中世～近世に該期するとみられる、五輪塔・石臼などの大形品他、板碑・凹石・鍛冶閑

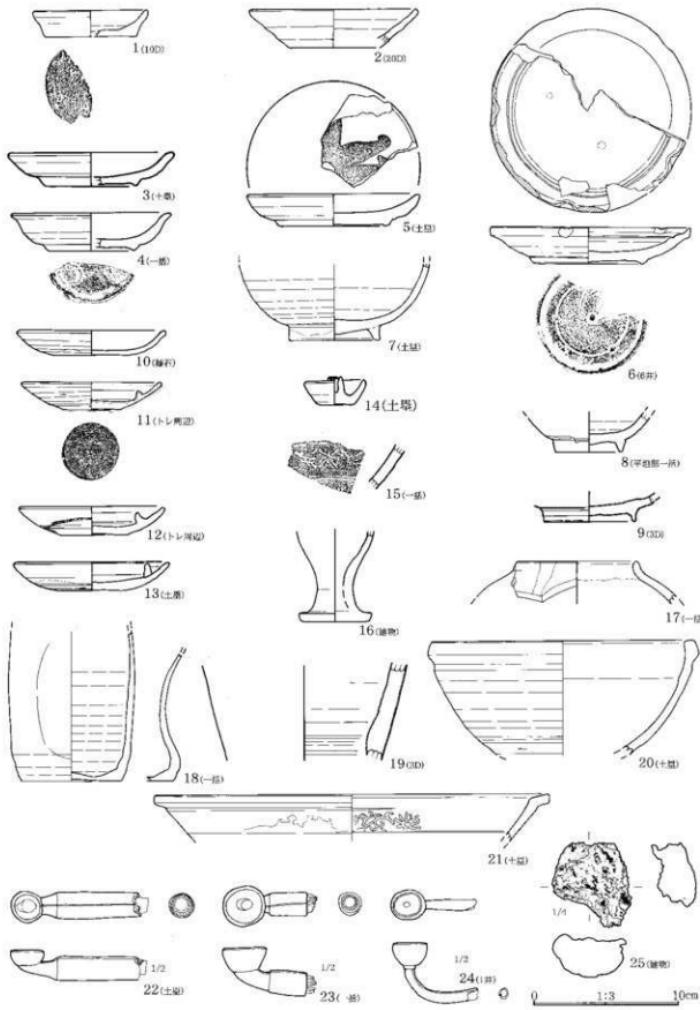


第184図 1号

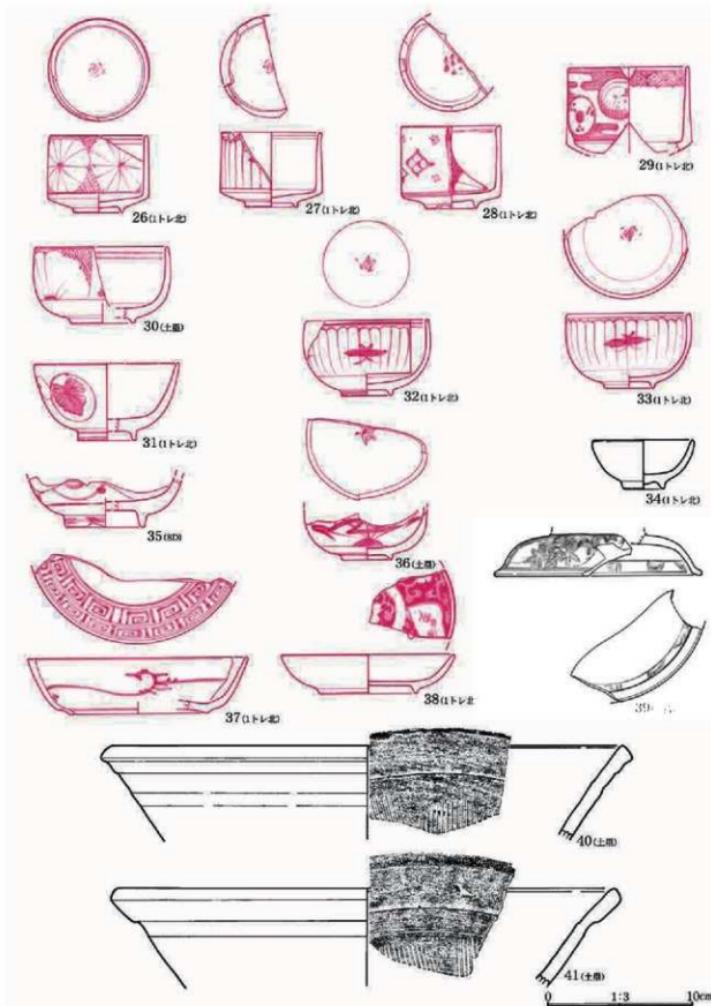
第2節 中・近世の遺構と遺物



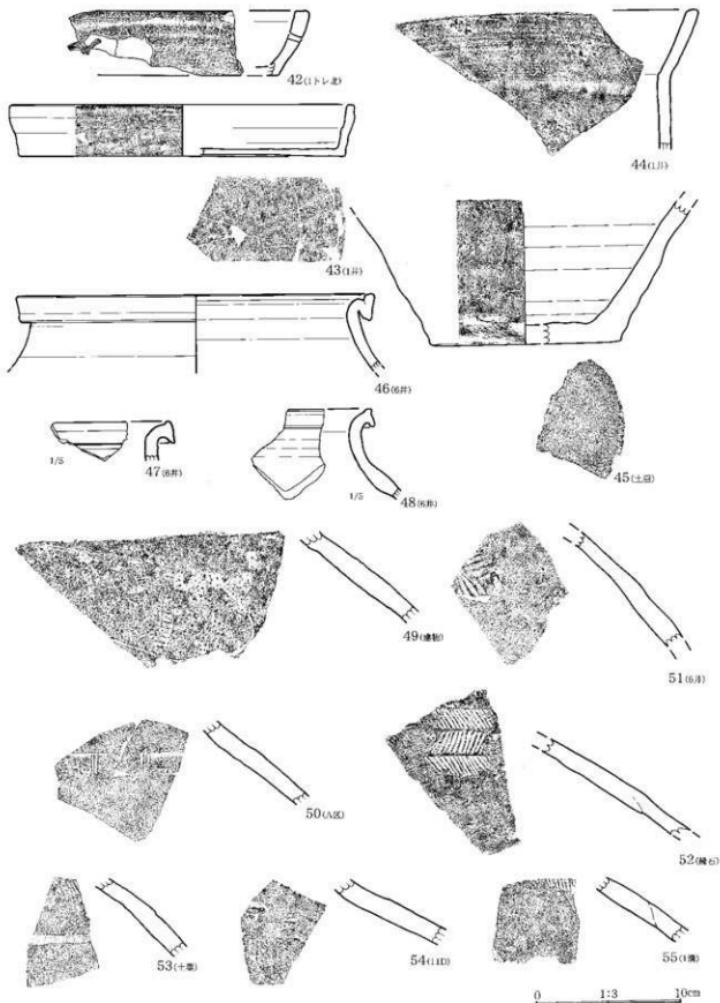
建物跡



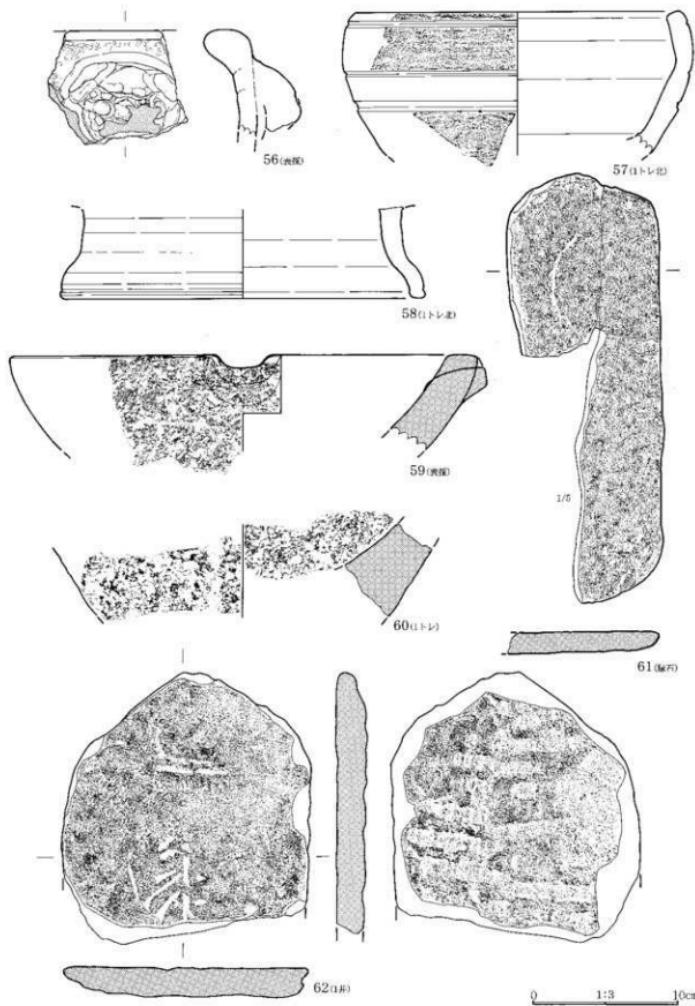
第185図 D地点出土遺物(1)



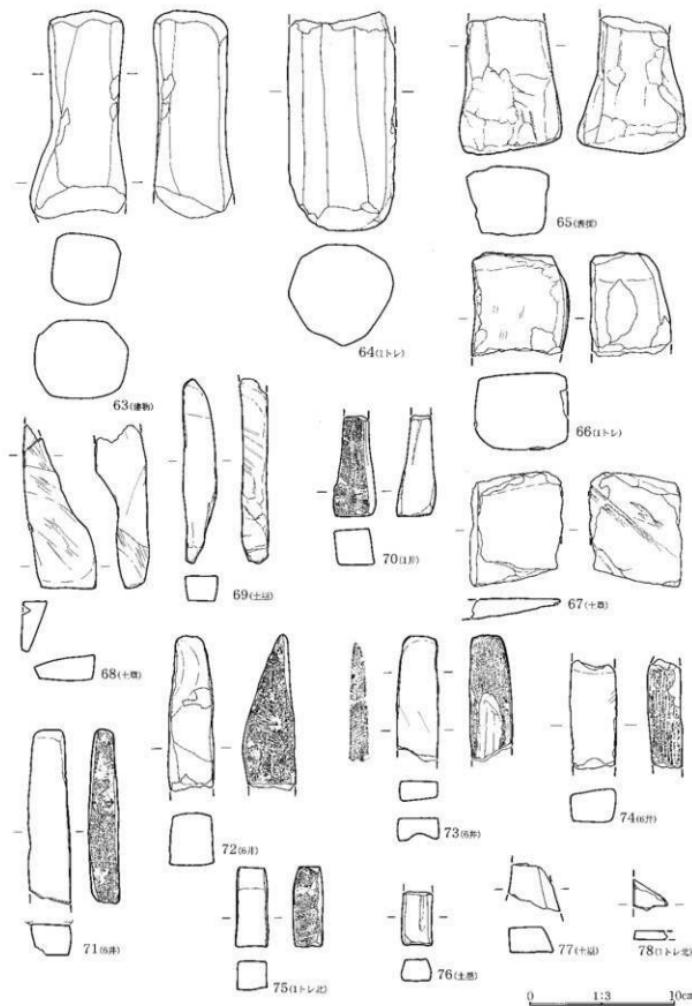
第186図 D地点出土遺物(2)



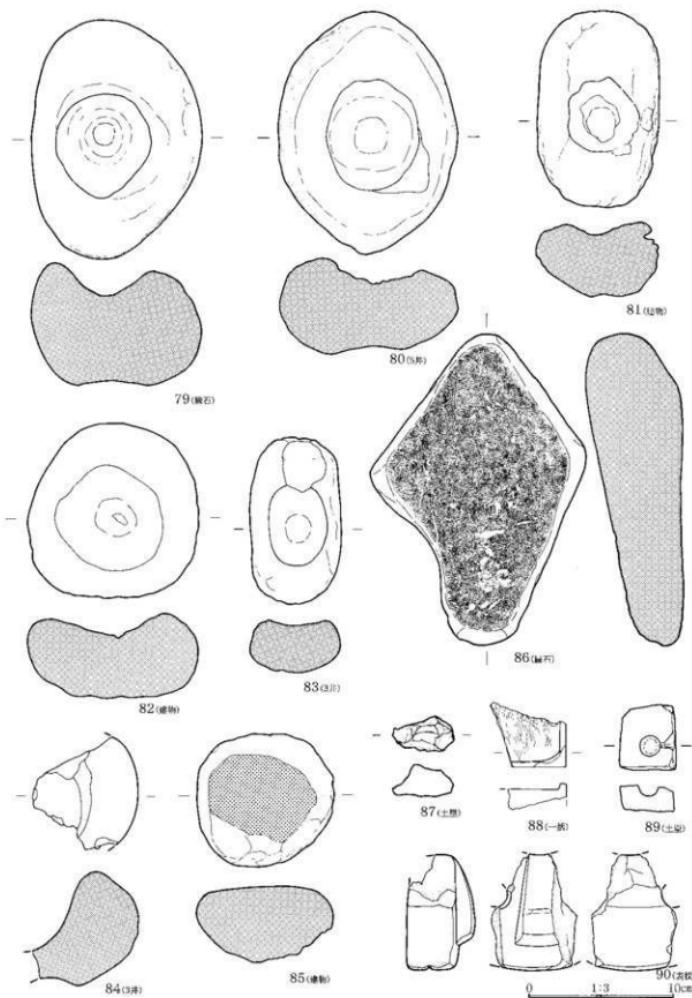
第187図 D地点出土遺物(3)



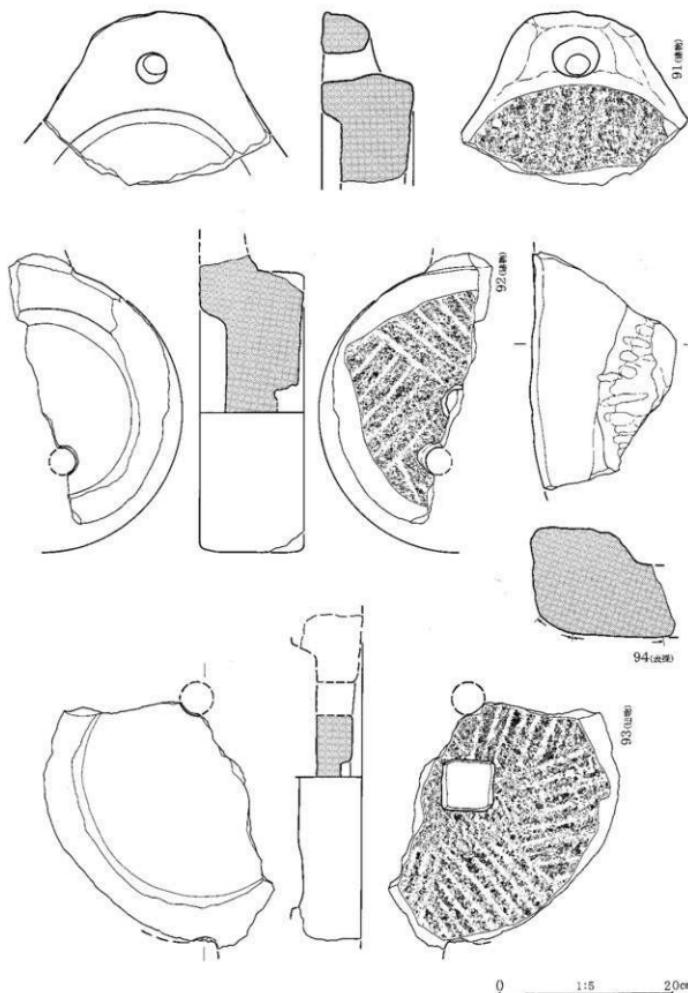
第188図 D地点出土遺物(4)



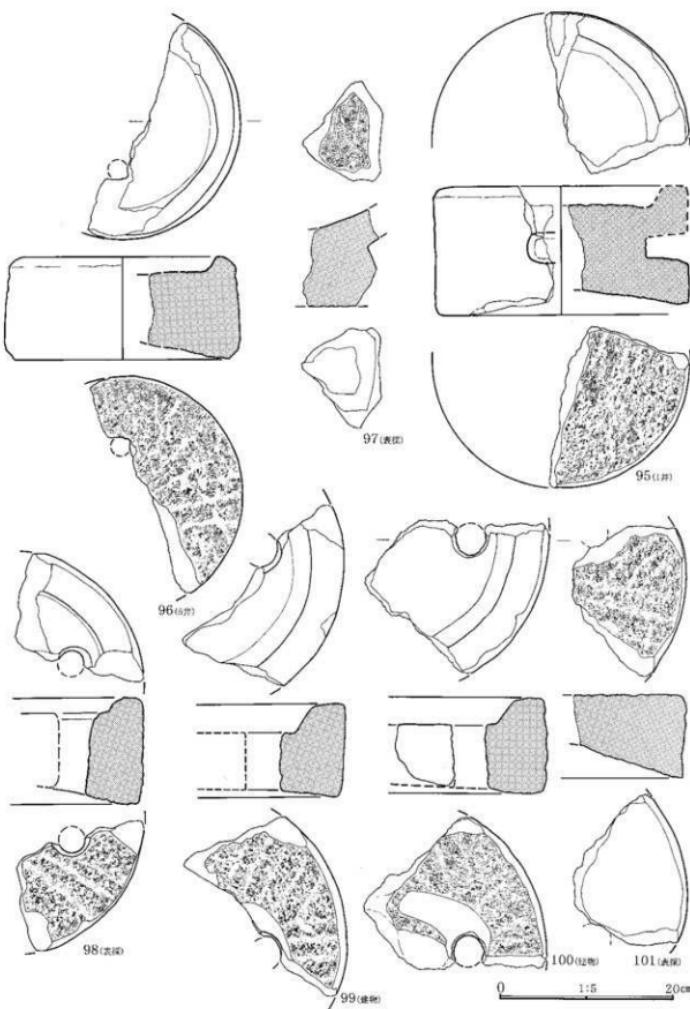
第189図 D地点出土遺物(5)



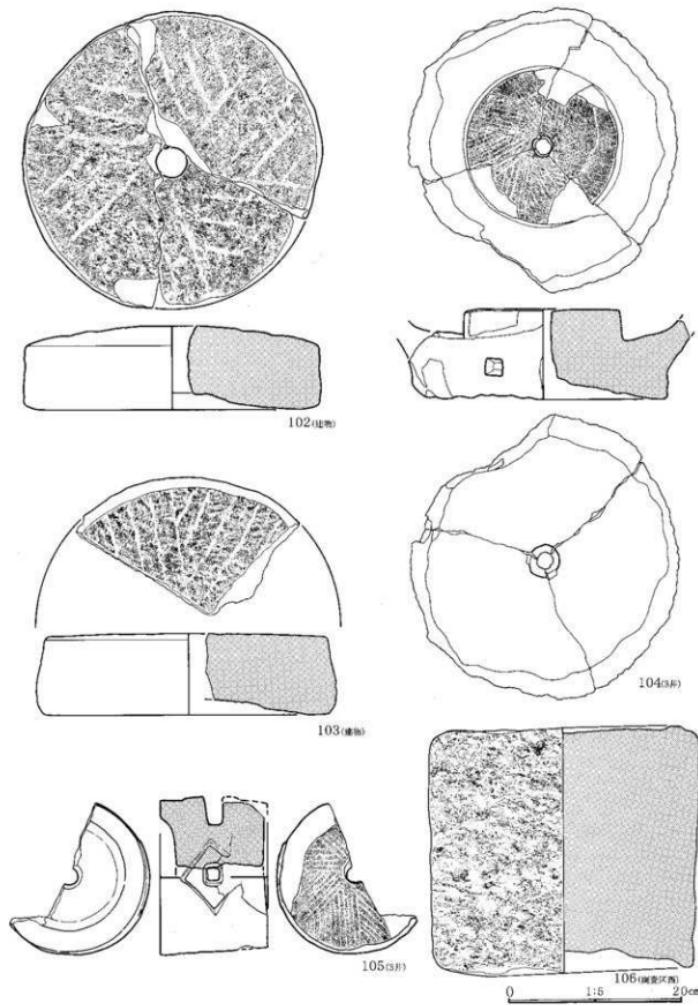
第190図 D地点出土遺物(6)



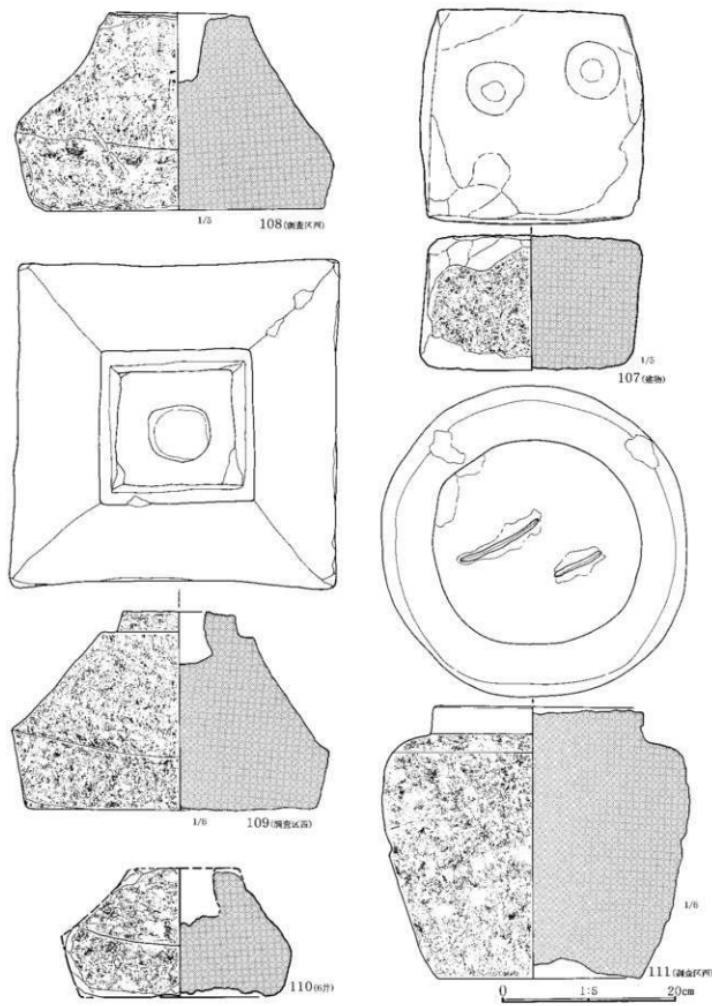
第191圖 D地點出土遺物(7)



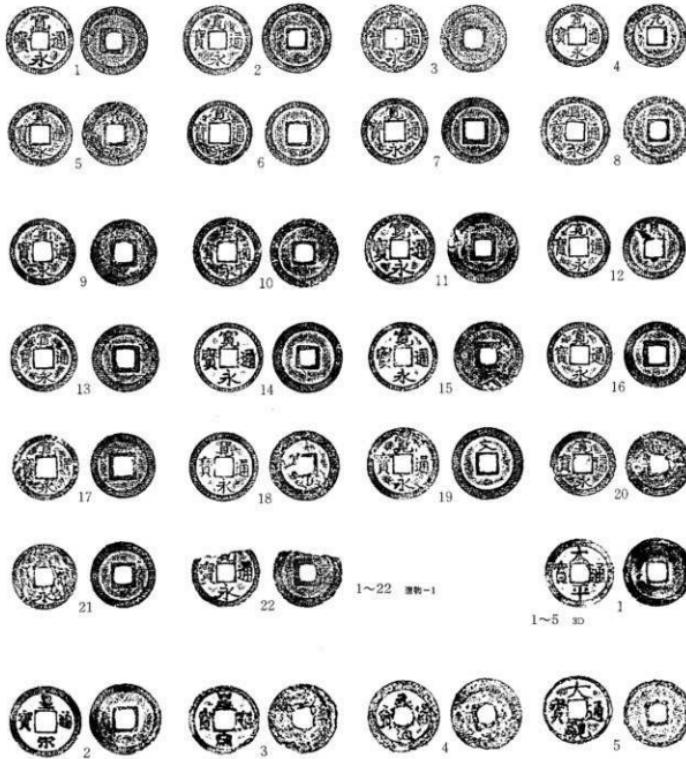
第192図 D地点出土遺物(8)



第193圖 D地點出土遺物(9)



第194図 D地点出土遺物⑩



第195図 D地点出土遺物⑩

連金床石等を直線的に配し縁石として併用している。西側にみられた間口は、西端部で径35~40cm前後の大形礫を軸に、東西1間(1.82m)、南北3尺(90cm)~3尺(90cm)約1間、さらに東1mの間隔をおいて、鉤の手状に折れ、東西長4.5mの直線区割りがみられた。南北両側への連続性は確認されなかつた。直線北側には廃棄に伴うとみられる円礫群に混じり、石臼(102)、板碑(61)が確認された。東側は北・西側で、東西長3.2m、南北3.3mのL字状区画をなし、土間とみられる。南側2間、北側約1.5間の間取りが確認され、1間(1.82m)の間隔に、比較的大形の礫を配している。区画内に径70cmの範囲に円礫を円形に据え、馬蹄形に粘土が廻る。周辺より常滑片(49・52)等が出土。

## 第VI章 西久保遺跡

### 第1節 繩文時代の遺構と遺物

#### (1) 土 坑

##### J-1号土坑（第196・198・199図 P L57）

N区北 AA-5 グリッドに位置。標高164.20m付近の、比較的なだらかな緩斜面地に検出された。底面2ヶ所に小ピットをもつ、所謂陥り穴である。本道跡内で検出された同形應種は、この1基のみであった。平面形は、ほぼ東西に長い長楕円形を呈し、長径2.8m、短径1.95m、確認面より底面までの深さ1.5m前後、底部のピット深40cm、径18cm前後である。底面はほぼ平坦面をなし、断面形は上平台形状、上面より深さ1.1m付近で細く括れる。出土遺物は前期土器片(1)、貝岩製剣片(55)が出土している。

##### J-2号土坑（第196・198図 P L57・82）

N区北半Z-3 グリッドに位置。標高164.60m地点。北東10m付近にJ-1号土坑がある。平面形楕円形状をなし、長径0.8m、短径0.72m前後、確認面よりの深さ26cm前後である。断面形は緩いU字状をなし、壁面は直立気味。底面は東に向かい若干低くなるが、ほぼ平坦である。出土遺物は、覆土中位面あたりで羽状繩文を施す前期土器(3・4)が検出された。

##### J-3号土坑（第196・198図 P L57・82）

N区中程X-3 グリッドに位置。標高164.40m地点。周辺は所謂「類從国史」に記載の、弘仁9年に伴う地割れ跡が、南北方向に走行、本跡も一部その痕跡を遺す。平面形は楕円形、長径1.1m、短径1.05m、確認面よりの深さ最大25cm。底面はやや凹凸する。遺物は前期土器片(11・12)等が出土した。

##### J-4号土坑（第196図 P L57）

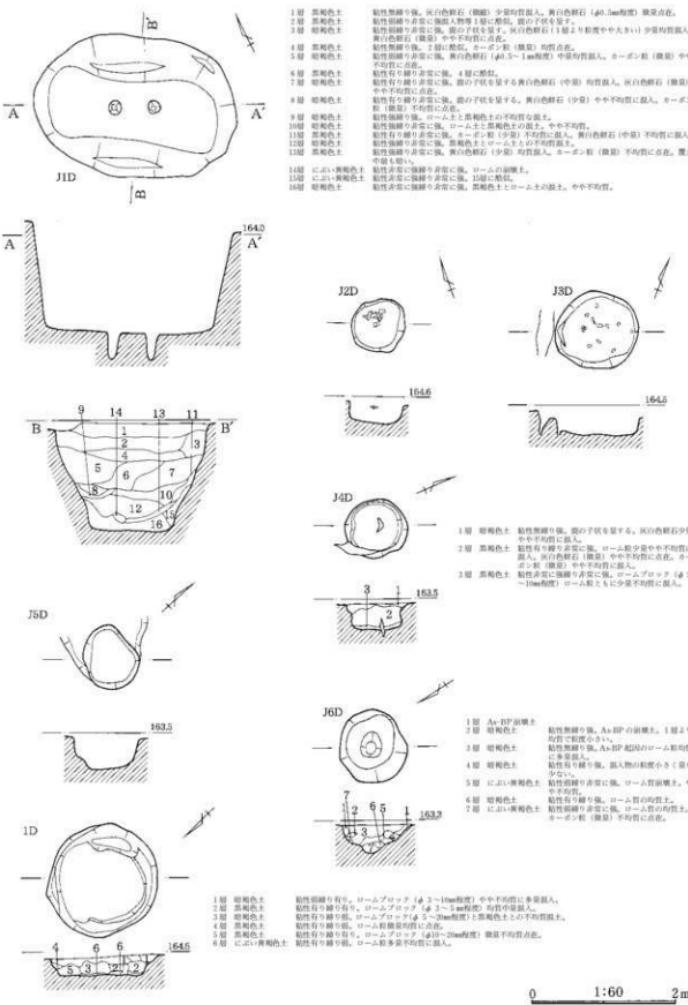
N区北東側、Z-7 グリッドに位置。標高163.40m地点。J-1号土坑の南東約11m地点にあたる。平面形は楕円形。上半部は3号同様地割れ跡を確認。長径0.85m、短径0.8m、深さ35cm。断面形はやや袋状をなす。覆土層に炭化粒が混じる。底面やや凹凸。出土遺物は検出されなかった。

##### J-5号土坑（第196図 P L57）

N区中程X-Y-6 グリッドに跨る。標高163.50m付近の緩斜面地。遺構西半側は風倒木と重なる。平面形は楕円形。長径0.9m前後、短径0.75m、確認面よりの深さ40cm大。半円形状の断面形、底面はほぼ平坦である。風倒木との前後関係は不明。出土遺物は検出されなかった。

##### J-6号土坑（第196図 P L57）

N区W-X-7 グリッドに位置。標高163.25m付近、本土坑群中最も低い標高地点にあたる。平面形は楕円形状をなし、底面中央にピット状の落ち込みをもつ。長径1.0m、短径0.85m、底面までの深さ30cm、ピット径35×28cm、深さ15cm内外。覆土最下層内に炭化粒を含む。出土遺物は検出されなかった。



### 第196図 1号土坑・J 1号～J 6号土坑

## 時期不明1号土坑（第196図）

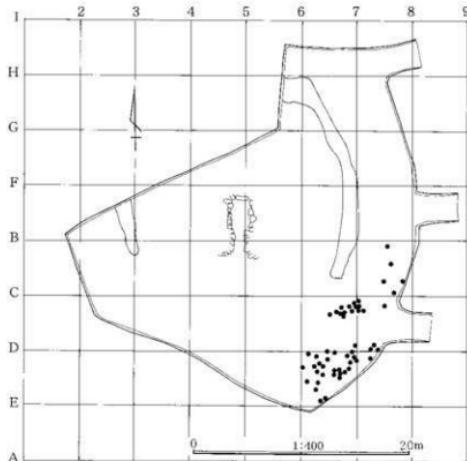
N区最北部、AA-4グリッドに位置。標高164.50m付近。比較的浅い土坑であり、ロームブロックがかなり顯著にみられ、二次堆積の可能性も考えられる。ここでは繩文時代以降の土坑としておく。平面形は橢円形状をなし、長径1.6m前後、短径1.5m、深さ約20cm前後。断面形凹凸気味をなし、底面はシャープな平坦面を形成する。出土遺物は検出されなかつた。

## (2) その他の出土遺物（第197～199図 P L82）

## 西久保遺跡（第197・198・199図 P L82）

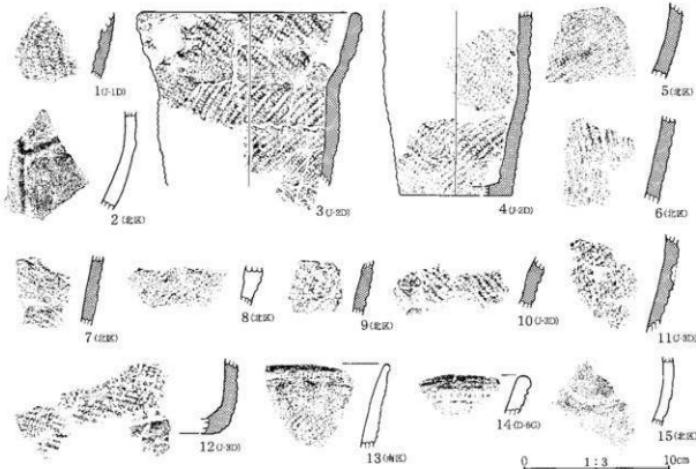
繩文時代の遺物は遺物包含層から出土したもので、直接遺構に結びつかない。南区では、B～D-6・7グリッドに集中した分布がみられた。出土した遺物は、大きく繩文時代前期後半の諸式a・b式期の所産である。

1は黒浜式。斜行縄文RL。色はにぶい黄色。胎土に纖維を含む。2は加曾利E4式。微隆帯による文様構成。色は灰黄色。焼成・胎土とも良好。3は黒浜式。綾縄文。結節縄文による横位施文。縄文LR・RLによる羽状構成。色は灰黄色。胎土に纖維を含む。4は黒浜式。斜行縄文LRとRLにより菱形構成。色は浅黄色。胎土に纖維を含む。5は黒浜式。斜行縄文RL。色は灰白色。胎土に纖維を含む。6は黒浜式。斜行縄文RL。色は明褐色。胎土に纖維を含む。7は黒浜式。斜行縄文R。色はにぶい褐色。胎土に纖維を含む。8は諸磈式。斜行縄文RL。色は浅黄色。焼成・胎土とも良好。9は黒浜式。斜行縄文RLとLRによる羽状構成。色は浅黄色。胎土に纖維を含む。10・11は黒浜式。斜行縄文RL。色は赤褐色。胎土に纖維を含む。12は底部。黒浜式。斜行縄文RL。色は赤褐色。胎土に纖維を含む。13は諸磈a式。半截竹管による連続爪形文。色は黄褐色。焼成・胎土とも良好。14は諸磈a式。半截竹管による連続爪形文。色はにぶい黄橙色。焼成・胎土とも良好。15は諸磈



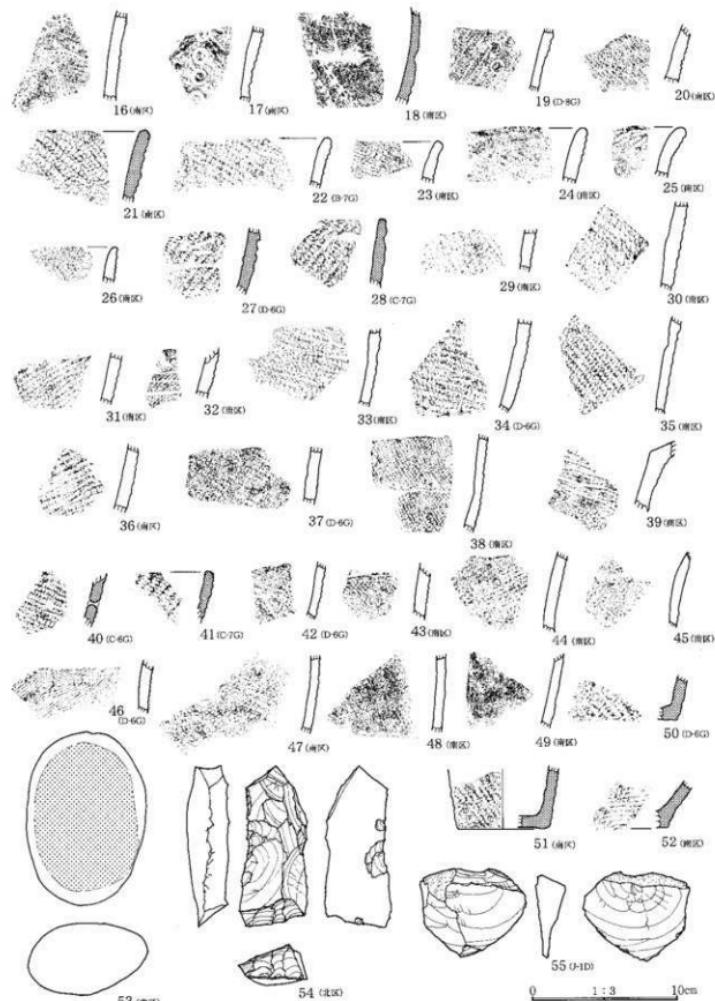
第197図 繩文時代出土遺物分布図

a式。半截竹管による連続爪形文。色は橙色。焼成・胎土とも良好。16は諸磯a式。半截竹管による連続爪形文。地文RL。色はにぶい褐色。焼成・胎土とも良好。17は諸磯a式。円管文。斜行縄文RL。色は赤褐色。焼成・胎土とも良好。18は黒浜式。半截竹管による連続爪形文。地文RL。色はにぶい橙色。胎土に纖維を含む。19は諸磯a式。斜行縄文RL。円管文。色は赤褐色。焼成・胎土とも良好。20は諸磯a式。斜行縄文RL。円管文。色は赤褐色。焼成・胎土とも良好。21は口辺部。斜行縄文RL。焼成・胎土とも良好。22は口辺部。斜行縄文RL。焼成・胎土とも良好。23は口辺部。斜行縄文RL。焼成・胎土とも良好。24は口辺部。諸磯式。斜行縄文RL。色はにぶい橙色。焼成・胎土とも良好。25は口辺部。斜行縄文RL。焼成・胎土とも良好。26は口辺部。諸磯式。斜行縄文RL。色は浅黄色。焼成・胎土とも良好。27は黒浜式。斜行縄文LR。色は浅黄色。胎土に纖維を含む。29は諸磯式。斜行縄文RL。色はにぶい黄橙色。焼成・胎土とも良好。31は諸磯式。斜行縄文RL。色はにぶい橙色。焼成・胎土とも良好。32は堀之内II式。横位沈線と縄文LRが施文される。色は浅黄色。焼成・胎土とも良好。33は諸磯式。斜行縄文RL。色はにぶい赤褐色。焼成・胎土とも良好。34は諸磯式。斜行縄文RL。色はにぶい赤褐色。焼成・胎土とも良好。35は諸磯式。斜行縄文RL。色はにぶい橙色。焼成・胎土とも良好。36は諸磯式。斜行縄文RL。色は灰褐色。焼成・胎土とも良好。37は諸磯式。斜行縄文RL。色は浅黄色。焼成・胎土とも良好。38は諸磯式。斜行縄文RL。色は浅黄色。焼成・胎土とも良好。39は諸磯式。半截竹管による平行沈線。地文は縄文RL。色はにぶい褐色。焼成・胎土とも良好。40は黒浜式。斜行縄文LR。補修孔。色はにぶい黄橙色。胎土に纖維を含む。41は口辺部。黒浜式。0段多条の縄文LR。にぶい褐色。胎土に纖維を含む。42は諸磯式。斜行縄文RL。色は赤褐色。焼成・胎土とも良好。43は諸磯a式。斜行縄文RL。半截竹管による平行沈線。色は赤褐色。焼成・胎土とも良好。44は諸磯式。斜行縄文LR。色は



第198図 縄文時代出土遺物(1)

第1節 縄文時代の構造と遺物



第199図 縄文時代出土遺物(2)

浅黄色。焼成・胎土とも良好。45は諸磠式。斜行縄文 RL。色は浅黄色。焼成・胎土とも良好。46は諸磠式。斜行縄文 L。色は赤褐色。焼成・胎土とも良好。47・48・49は諸磠式。斜行縄文 RL。色は灰褐色。焼成・胎土とも良好。50は底部。黒浜式。斜行縄文 RL。色は赤褐色。胎土に纖維を含む。51は底部。黒浜式。斜行縄文 RL。色は赤褐色。胎土に纖維を含む。52は底部。黒浜式。斜行縄文 L。色は赤褐色。胎土に纖維を含む。

続いて石器である。53は磨石。1面使用。重さ650g。細粒安山岩製。上端敲打痕。54は打製石斧。下端部に3条の剥離。裏面は自然面を残す。重さ175g。黒色頁岩製。55は使用痕ある剝片。黒色頁岩製。重さ75g。

## 第2節 古墳時代の遺構と遺物

### (1) 古 墳

#### 第1号墳 (第200・201図 P.L58~60・82)

S区ほぼ中央E・F-4・5グリッド内に主体部、同E・F 2・3グリッド及び、E~H-5・6グリッドラインの東西両側、及び北東側に周塙の一部が検出された。古墳は標高162.0~161.0m地点の、比較的なだらかな平坦面に構築されている。表土掘削段階で既に、削平により埴丘の高まりは失われていた。従って封土の状況は不明である。

埴丘規模は、検出された周塙及び、主体部南側に検出された前底部堀り方から、東西長23m、南北長24mを測り、恐らく最大24m前後の円墳とみられる。

主体部は、南側に開口する羽子板状の両袖型横穴式石室で、ローム地山面まで50cm程度掘り込んだ掘り方内に構築される。石室と堀り方間は東側で35cm、西側で70cm程度の間隙が確認された。奥壁部及び側壁西側部分で若干の裏込め石が確認され、堀り方下層面はロームブロック含む黄褐色土、上層面を黒褐色・暗褐色粘質土で充填している。

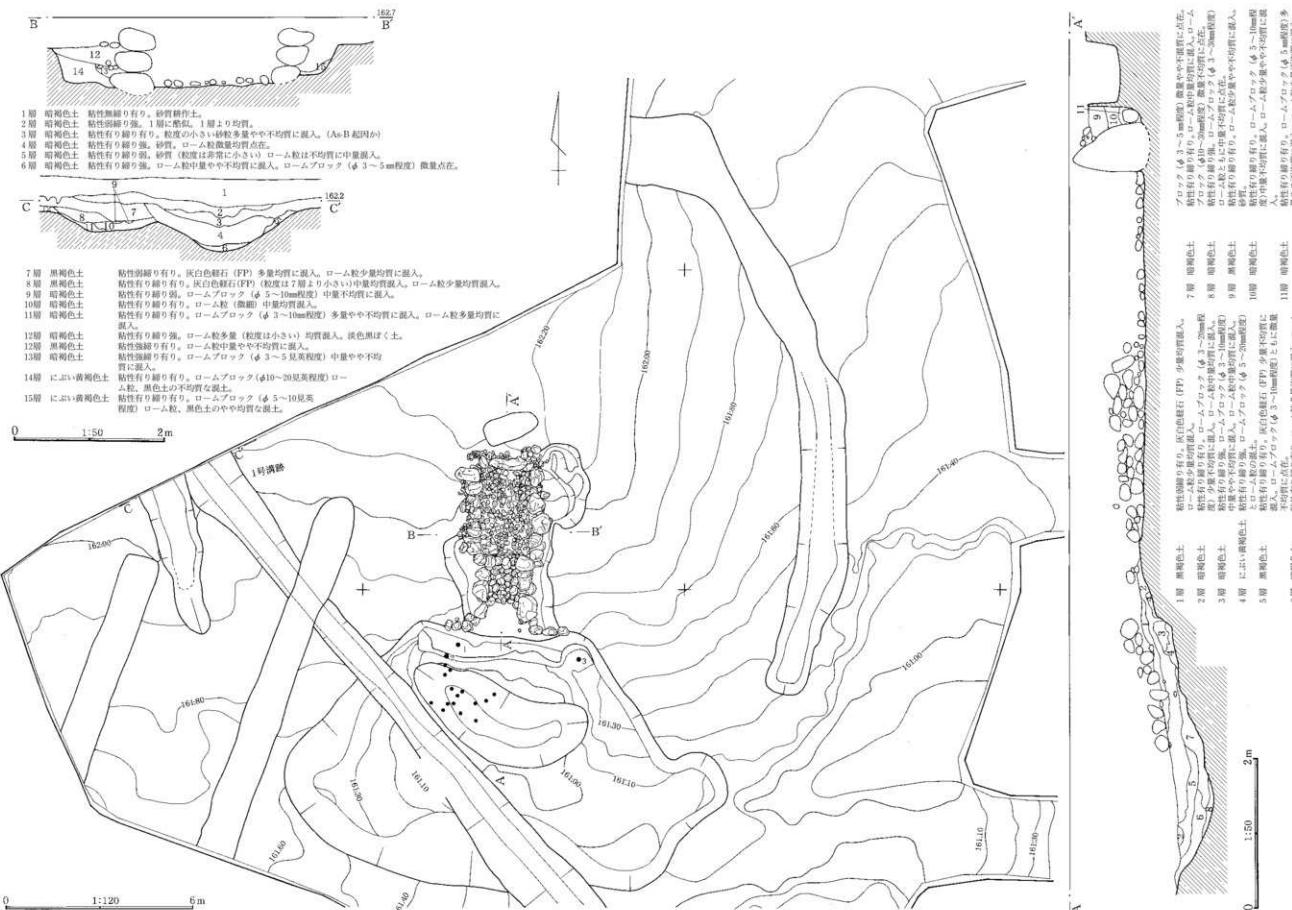
石室の規模は、全長6.0m、羨道部長2.45m、幅85~90cm、主軸方位は、N-1°-Eを示し、ほぼ真北方向に。床面には径15~最大30cm前後の円窪を敷きつめている。玄門部は径50~60cmの大形窪2石を立石状に配し、その間を30~35cm大の円窪3個を櫛石として構成している。玄室との段差は10cm程度である。

玄室は、南北に長い長方形をなす。その規模は南北長2.75m、幅1.5mを測る。側壁部分は東西両側で2~3段の平積みの石積みが残存する。奥壁は中央部に径1.2mの大形窪が配され、器表面に鑿状工具の調整痕が比較的良好に残存していた。また玄室床面は径10~20cm大の比較的小形の窪、及び小さい玉石を用い敷石としており、残存状態は比較的良好であった。出土遺物は検出されなかった。

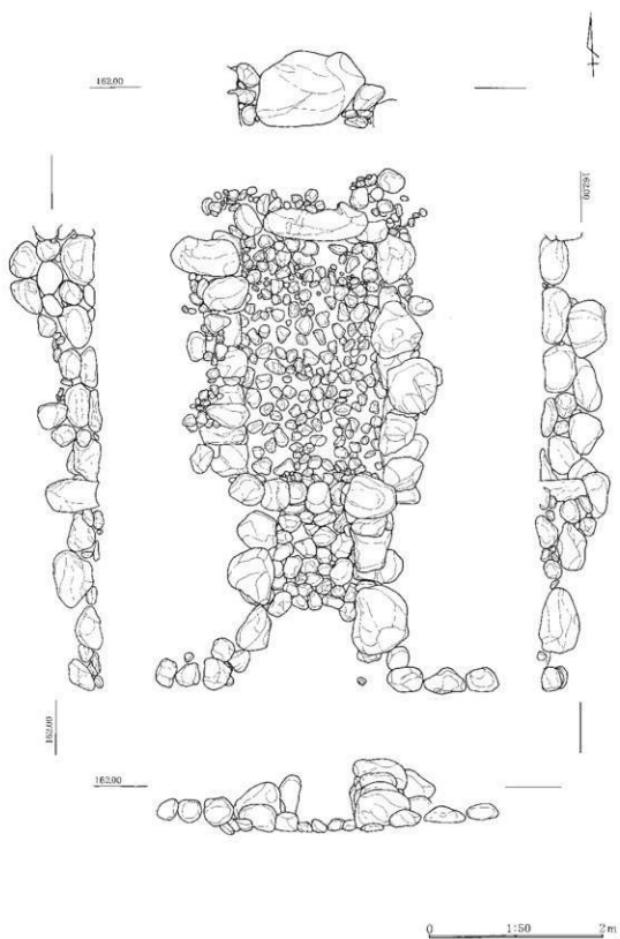
前底部は、南側が幅広の台形状をなし、中央部が東西に長い長円形状に窪む。確認当初開口部付近には拳大の窪が多數検出され、羨道部付近の封石がなされていた可能性が考えられる。前底部の規模は、東西長最大14m、南北長8.5m、深さ90cm。長円形落ち込み部東西長5.8m、南北長2.2mを測る。

覆土第5層面まではFP混土層主体である。出土遺物は土師器杯(1・2)、須恵器長頸壺(5)等が出土。

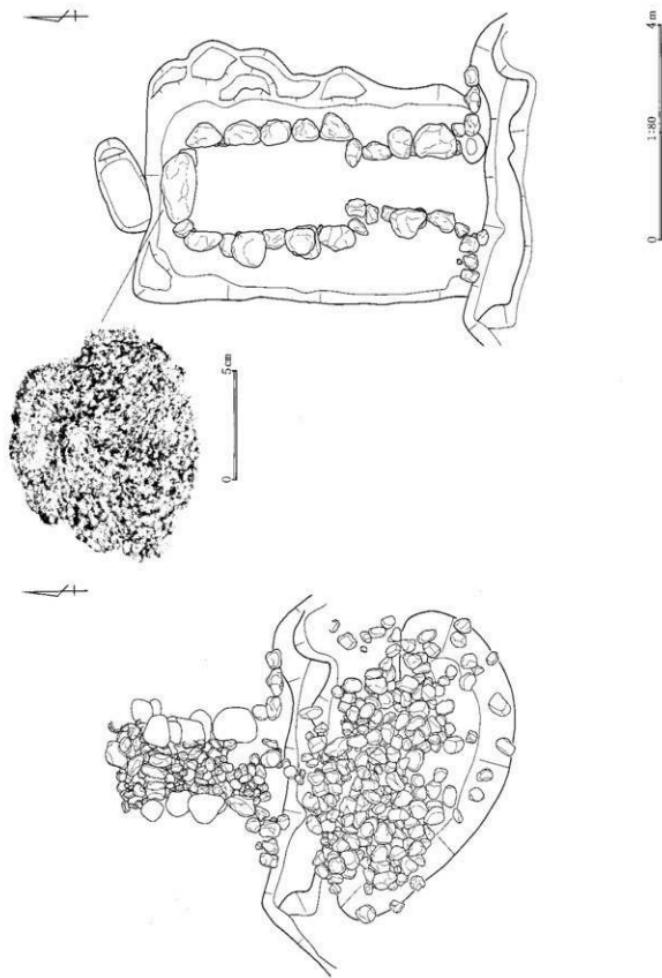
周塙は、北側の詳細は不明だが、前底部側を除き弧状をなす。検出面で幅1.5~1.7m、深さ32cm程度確認された。本古墳の構築年代は、前底部出土遺物からみて、7世紀後半代頃と推定される。



第200図 第1号噴全体図



第201図 第1号墳主体部(1)



第202図 第1号埴主体部(2)

## 第3節 古代・中・近世の遺構と遺物

## (1) 溝 跡

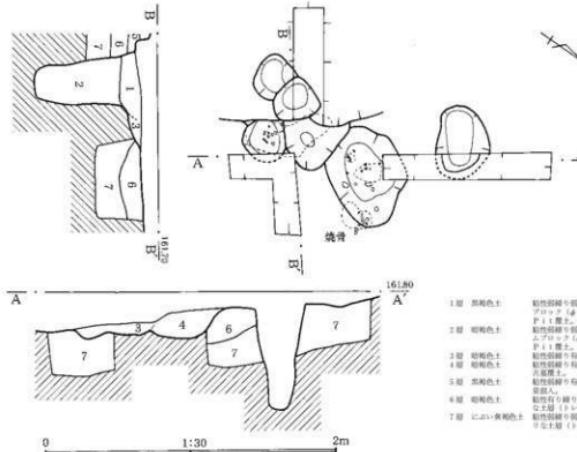
1号溝跡 (第200図 口絵6)

S区、B～F-2～6グリッドにかけて検出。北西～南東方向へ走行。主軸方位N-43°-Wを示す。上幅1.2～2.0m、下幅0.6m前後、深さ70cm前後である。断面ながらかなU字状をなす。覆土中位層面にAs-B関連土(第5層)が確認されており、出土遺物は検出されなかつたが、ここでは古代に該期すると判断した。

## (2) 古墓跡

1号古墓跡 (第203図 PL 60)

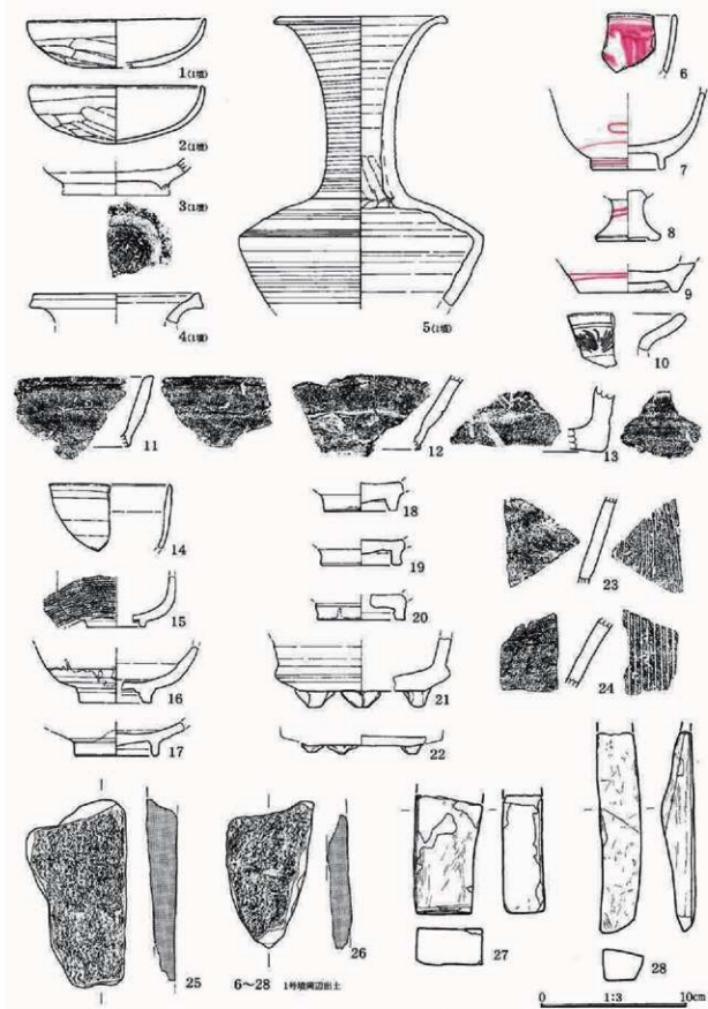
S区、E-5グリッドに検出。1号噴前底部の北東部に隣接する。遺構自体のプランは明瞭ではなく、1基あるいは2基の浅い楕円形状の落ち込みが連なるとみられ、周辺一帯に焼骨片・焼骨粉が散在した状態で検出された。また周辺にはピット状落ち込みが点在し、これが助長してプランの確認を困難にしている。規模は、平面径不明、土層観察から深さ最大40cm程度が確認されたに止まる。出土遺物等は検出されなかつた。



第203図 1号古墓跡

## (3) その他の出土遺物

提示した遺物群は、S区内一括あるいは1号噴前底部付近で検出されたものである。直接遺構に伴うものは皆無である。一部板片(25-26)、焰烙片(11)、砥石(28)等は中世の所産といえるが、その他の陶磁器類、擂鉢類、在地産土器火鉢類等は近世以降に該期する一群である。出土に関する状況も不明であり、巻末に観察表を掲載するに止めたい。



第204図 西久保遺跡出土遺物

## 第VII章 自然科学分析

### 第1節 西前沖遺跡C地点出土木製品の樹種について

パリノ・サーヴェイ株式会社

#### はじめに

西前沖遺跡は、群馬県多野郡大胡町に所在し、赤城山南麓の台地上から沖積地にかけて位置している。早田(1990)によれば、本遺跡周辺は大胡火碎流堆積面とそれを開析する沖積地(谷底平野)に区分されている。

本報告では、発掘調査の際に出土した木製品の樹種同定を行い、木材利用に関する資料を得る。また、青銅製品の成分分析を行い、その組成を明らかにする。

#### 1. 木製品の樹種

##### (1) 試料

試料は、1区5号遺構から出土した漆器1点である。破損部から2mm角程度の破片を採取して試料とした。

##### (2) 方法

剃刀の刃を用いて木口(横断面)・柾目(放射断面)・板目(接線断面)の3断面の徒手切片を作製し、ガム・クロラール(抱水クロラール、アラビアゴム粉末、グリセリン、蒸留水の混合液)で封入し、プレパラートを作製する。作製したプレパラートは、生物顕微鏡で観察・同定する。

##### (3) 結果

漆器は、落葉広葉樹のトチノキに同定された。主な解剖学的特徴を以下に記す。

・トチノキ (*Aesculus turbinata* Blume) トチノキ科トチノキ属

散孔材で、管壁は厚く、横断面では角張った楕円形、単独または2~3個が複合して散在し、年輪界に向かって径を漸減させる。道管は單穿孔を有し、壁孔は交互状に配列、内壁にはらせん肥厚が認められる。放射組織は同性、單列、1~15細胞高で階層状に配列する。

##### (4) 考察

漆器は、直徑約9cmの椀で、内側・外側とも黒漆が塗布されている。木地の木取りは、破損部に見られる状況から、いわゆる横木取りである。樹種は落葉広葉樹のトチノキであった。また、黒漆の断面は落射蛍光顯微鏡で観察すると、木地の上に炭粉下地が施され、その上に透明漆が1層塗布されている様子が確認できる。このことから、透明漆を通して下地の炭粉が見えることによって、表面が黒色を呈していることが推定される。

トチノキは、谷筋など比較的水分の多い肥沃な場所に生育し、大きいものでは直徑1m以上、樹高30mに達する。トチノキの木材は、比較的均質、緻密であるが、広葉樹材としては軽軟な部類に入り、加工は容易であるが、乾燥時に狂いが出やすく、悪条件下では腐りやすい(平井, 1979)。しかし、大量に得られるため、椀等のろくろ本地としての利用量は多いとされる(橋本, 1979)。実際に、遺跡から出土した漆器椀等の樹種同定(山田, 1993; 能城・高橋, 1996)ではブナ属、トチノキ、ケヤキが多く認められ、今回の結果とも一致する。群馬県内では、前橋市元総社寺田遺跡でトチノキの漆椀が出土した例が報告されている(藤根・鈴木, 1994)

## 第2節 西前沖遺跡C地点出土銅製品の蛍光X線分析

### (1) 試料

試料は、1区1号遺構から出土した青銅製水滴である。

### (2) 分析方法

蛍光X線分析はサンプリングが困難な文化財の材質調査に広く用いられており手法であるが、ごく表面層を測定対象としているため、出土遺物表面が風化の影響を受けている場合、遺物本来の化学組成を導くことは難しく、本来の化学組成を知るために風化層を除去しなければならない。ただし、遺物保存を重視した場合、外観上の変化を伴わない本分析法は概略の化学組成を知るために有効な手法となる。

青銅製水滴は、表面の腐蝕状況が著しい状態にあったことから、クリーニング処理を施さず分析調査を実施することとした。なお、腐蝕状況および土壌等の付着状況を考慮し、水滴外面、水滴底面、水滴外面白鈍付近、水滴破断面付近、水滴内部中心付近の5箇所を対象に測定を実施する。測定条件を表1に示す。結果は、スペクトル定性を行った後、ファンダメンタルパラメーター法(FP法)による定量演算を行い、一覧として掲げる。なお、本調査において利用した装置における検出可能元素は11Na～92Uの範囲の元素であり、これ以外の元素については今回の結果には含めていない。

### (3) 結果・考察

各測定箇所における定性スペクトル図およびFP法による定量結果を図1～5に示す。いずれの測定箇所からも主要元素として銅(Cu)、スズ(Sn)、鉛(Pb)が検出されており、また微量元素としてヒ素(As)、一部箇所からはアンチモン(Sb)も同時に検出されている。このことから、銅製品はいわゆる青銅製品であることが確認される。

5箇所の測定値をみると、各箇所における銅、スズ、鉛の比率には大きな差異が見られる。外面(図1)、底面(図2)、外面白鈍付近(図3)については、付着した土壌の影響により、ケイ素(Si)やアルミニウム(Al)が約20%程度検出されており、青銅そのものの材質である銅やスズ、鉛などが少なく見積もられている状況にある。また、外面白鈍付近については、鉛が多い傾向にあることから、鈍の成分として鉛白(塩基性炭酸鉛)などの存在が推定される。

一方、破断面付近(図4)および内部中心付近(図5)については、土壌の付着は比較的少ない状態にあり、ケイ素やアルミニウムはほとんど検出されていないが、カルシウムの存在が顕著となっている。これらの測定箇所では、表面上に白色の付着物の存在が確認されることから、石灰等の沈着が予想され、これらは水滴の内容物等に由来する可能性がある。

以上の結果から、今回得られた分析値は鉛や沈着物により、本来の組成とは異なった値が得られていることが推定される。今回のような銅製品については、成分分析を行った事例が少なく、遺物の形状・用途や製作地による成分の違い等の詳細は不明である。今後、継続して銅製品の成分分析資料を蓄積し、地域間の比較等を行っていく必要がある。

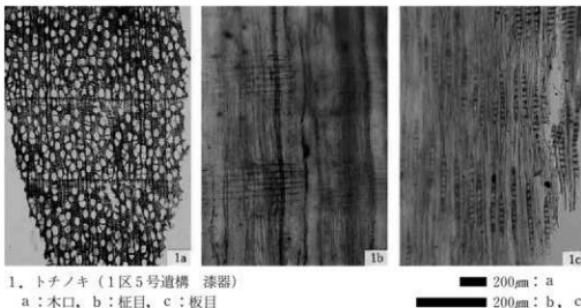
表1 測定条件

測定装置	SEA2120L
試料室雰囲気	真空
コリメータ	φ10.0mm
励起電圧(kV)	50, 15
フィルタ	なし

## 引用文献

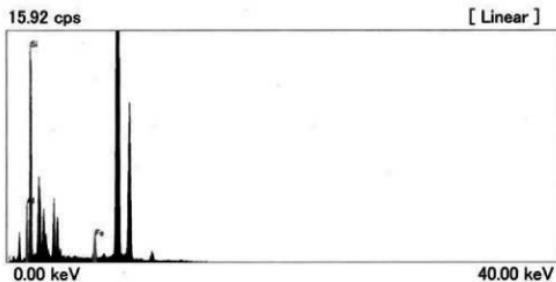
- 藤根 久・鈴木 茂 (1994) 元總社寺田遺跡出土材の樹種同定と周辺植生。「元總社寺田遺跡II 一級河川牛池川河川改修工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書第2集〈木器編〉」, p.135-185, 財團法人群馬県埋蔵文化財調査事業団。
- 橋本鉄男 (1979) ろくろ (ものと人間の文化史31), 444p., 法政大学出版局。
- 平井信二 (1979) 木の事典 第1巻, かなえ書房。
- 中川重年 (1985) 木地屋の世界 その移動と森林の変化。「ブナ帯文化」, p.165-184, 思索社。
- 能城修一・高橋 敦 (1996) 中・近世における木材利用。第11回植生史学会シンポジウム「中世・近世の植生史」発表要旨, p.7-11。
- 早田 勉 (1990) 赤城山山麓の地形発達史, 群馬県史編さん委員会編「群馬県史 通史編1 原始古代1」, p.82-97, 群馬県。
- 早田 勉 (1991) 赤城山山麓の地形と地質。「資料集 赤城山麓の歴史地震 一弘仁九年に発生した地震とその災害ー」, p.8-11, 群馬県新里村教育委員会。
- 戸部正久・里見哲夫・島野好次・松沢篤郎・須藤志成幸 (1987) 群馬県自生高等植物目録。「群馬県植物誌改訂版」, p.153-393, 群馬県・群馬県高等学校教育研究会生物部会。
- 山田昌久 (1993) 日本列島における木質遺物出土遺跡文献集成 一用材から見た人間・植物関係史, 植生史研究特別第1号, 242p., 植生史研究会。

図版1 木材

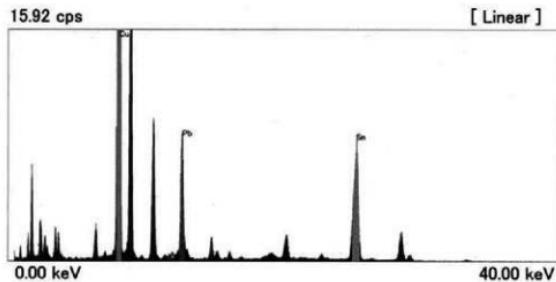


[X線スペクトル]

〈励起電圧15kV〉



〈励起電圧30kV〉



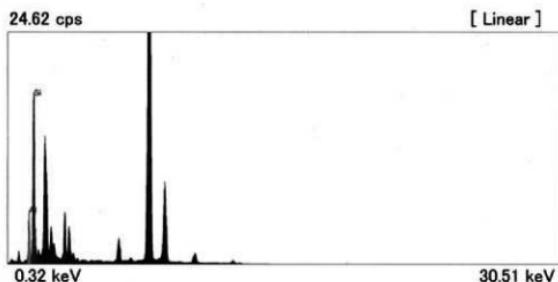
[定量結果]

Al	7.68 (wt%)	55.881 ( $\pm 0.534$ ) (cps)
Si	13.92 (wt%)	218.243 ( $\pm 1.020$ ) (cps)
Fe	0.71 (wt%)	35.489 ( $\pm 0.465$ ) (cps)
Cu	57.58 (wt%)	1611.735 ( $\pm 2.694$ ) (cps)
As	0.81 (wt%)	3.456 ( $\pm 0.176$ ) (cps)
Sn	11.40 (wt%)	151.895 ( $\pm 0.836$ ) (cps)
Pb	7.90 (wt%)	94.302 ( $\pm 0.661$ ) (cps)

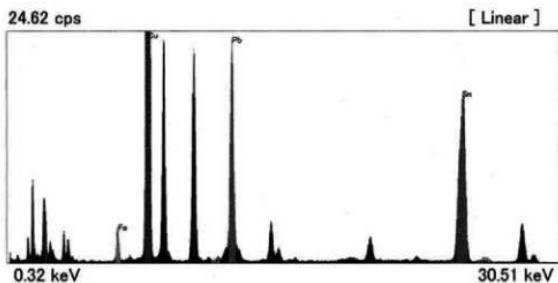
図1 水滴外面の蛍光X線定性スペクトルおよび定量結果

[X線スペクトル]

&lt;励起電圧15kV&gt;



&lt;励起電圧30kV&gt;



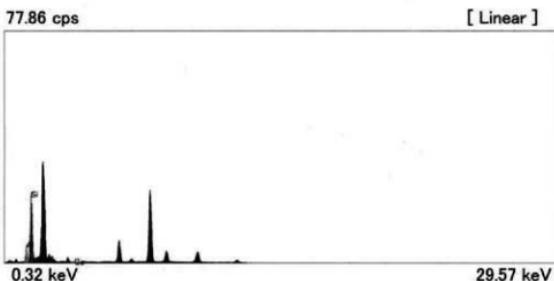
[定量結果]

Al	8.16 (wt%)	76.892 ( $\pm 0.626$ ) (cps)
Si	13.51 (wt%)	269.905 ( $\pm 1.134$ ) (cps)
Fe	1.15 (wt%)	30.053 ( $\pm 0.402$ ) (cps)
Cu	40.77 (wt%)	1319.956 ( $\pm 2.505$ ) (cps)
As	0.25 (wt%)	1.563 ( $\pm 0.187$ ) (cps)
Sn	21.31 (wt%)	330.279 ( $\pm 1.261$ ) (cps)
Sb	0.21 (wt%)	2.871 ( $\pm 0.188$ ) (cps)
Pb	14.64 (wt%)	251.855 ( $\pm 1.103$ ) (cps)

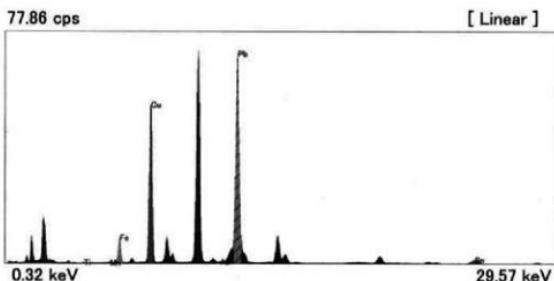
図2 水滴底面の蛍光X線定性スペクトルおよび定量結果

[X線スペクトル]

&lt;励起電圧15kV&gt;



&lt;励起電圧30kV&gt;



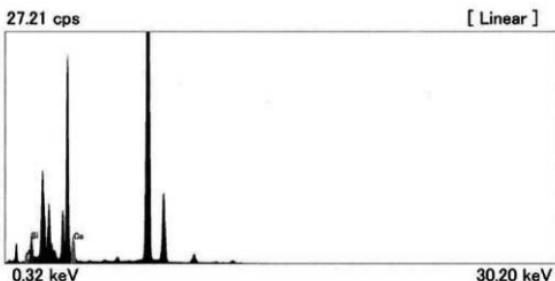
[定量結果]

Al	7.03 (wt%)	86.087 ( $\pm 0.654$ ) (cps)
Si	14.55 (wt%)	351.611 ( $\pm 1.279$ ) (cps)
Ca	1.66 (wt%)	5.491 ( $\pm 0.268$ ) (cps)
Ti	0.37 (wt%)	2.263 ( $\pm 0.144$ ) (cps)
Mn	0.09 (wt%)	1.225 ( $\pm 0.153$ ) (cps)
Fe	4.08 (wt%)	71.502 ( $\pm 0.594$ ) (cps)
Cu	17.64 (wt%)	465.228 ( $\pm 1.483$ ) (cps)
As	0.12 (wt%)	0.712 ( $\pm 0.238$ ) (cps)
Sn	2.32 (wt%)	23.095 ( $\pm 0.349$ ) (cps)
Pb	52.14 (wt%)	767.268 ( $\pm 1.903$ ) (cps)

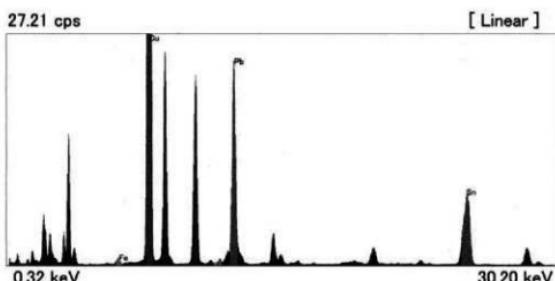
図3 水滴外面白金付近の蛍光X線定性スペクトルおよび定量結果

[X線スペクトル]

&lt;励起電圧15kV&gt;



&lt;励起電圧30kV&gt;



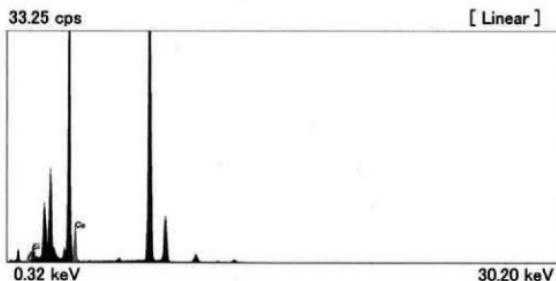
[定量結果]

Al	1.61 (wt%)	13.930 ( $\pm 0.307$ ) (cps)
Si	2.38 (wt%)	47.336 ( $\pm 0.503$ ) (cps)
Ca	17.19 (wt%)	64.868 ( $\pm 0.586$ ) (cps)
Fe	0.21 (wt%)	6.597 ( $\pm 0.219$ ) (cps)
Cu	48.91 (wt%)	1380.078 ( $\pm 2.527$ ) (cps)
As	0.19 (wt%)	0.953 ( $\pm 0.181$ ) (cps)
Sn	11.30 (wt%)	154.138 ( $\pm 0.854$ ) (cps)
Pb	18.21 (wt%)	254.613 ( $\pm 1.094$ ) (cps)

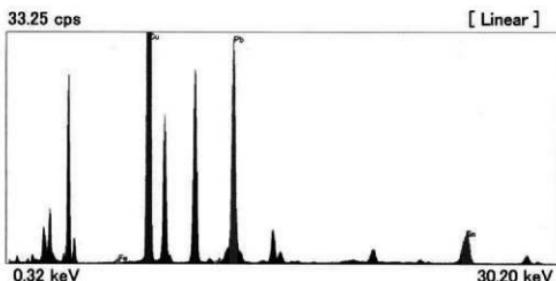
図4 水滴破断面付近の蛍光X線定性スペクトルおよび定量結果

[X線スペクトル]

&lt;励起電圧15kV&gt;



&lt;励起電圧30kV&gt;



[定量結果]

Al	1.33 (wt%)	11.922 ( $\pm 0.285$ ) (cps)
Si	1.67 (wt%)	33.940 ( $\pm 0.432$ ) (cps)
Ca	29.92 (wt%)	100.300 ( $\pm 0.703$ ) (cps)
Fe	0.20 (wt%)	5.749 ( $\pm 0.205$ ) (cps)
Cu	39.12 (wt%)	1151.506 ( $\pm 2.302$ ) (cps)
As	0.20 (wt%)	1.198 ( $\pm 0.187$ ) (cps)
Sn	5.42 (wt%)	81.484 ( $\pm 0.627$ ) (cps)
Pb	22.14 (wt%)	348.677 ( $\pm 1.274$ ) (cps)

図5 水滴内面中心付近の蛍光X線定性スペクトルおよび定量結果

## 第VIII章 成果と問題点

### 第1節 東前沖遺跡出土の漆付着土器群について

#### 1.はじめに

東前沖遺跡では、出土豎穴住居跡26軒中、約その半数13軒あたりから、漆痕が確認される土器群が出土し、その数およそ28点に及ぶ。検出された豎穴住居跡は、全26軒中、古墳時代前期に該期するとみられる26号住居跡を除き、各豎穴住居跡群は、おしなべて7世紀末～8世紀前半頃に該当するとみられる。住居跡間の重複はみられないが、竈の位置、あるいは主軸方位等からみて、若干の時間差が想定されなくもないが、大きく時期がずれることはないとみている。集落の占地状況等を鳥瞰すると、およそ台地全体に分散する様相が窺われ、居住区に対する規則性等は捉えがたい。ここでは詳述しないが、中に比較的大型の住居跡がみられること。この住居跡の周辺にやや小さい住居跡群が点在する等の状況が概観され、幾つかの群構成が成立する可能性も考慮される（図一）。

ここでは出土した漆関連土器群について、器種別・用途等において若干の違いや、諸特徴が窺えたことから、その概要について述べ、今後の検証材の一助としたい。資料として提示した資料は、いずれも外外面に漆痕とみられる痕跡が肉眼で観察し得た土器群である。

#### 2.漆付着土器類の用途（図一）

これらの土器群は口縁部～体部の外外面に黒漆痕が確認されるが、各遺物の観察の結果その残存状況から、用途に関して大きくは二つに分類されることが判明した。わけても一般的によく出土例として挙げられる灯明具は少なく、漆容器、すなわち漆を塗布する際のパレットとして使用されたか、あるいはその可能性が高いと判断される遺物が大半を占める結果となった。また、これらパレットと判断した遺物については、その付着状況に関して一様ではなく、幾つかのパターンに分類される。以下その概要と特徴についてみてみたい。なお古墳時代～平安時代前半では、黒漆が用いられたことが知られ<sup>10</sup>、本跡出土もこの範疇と考えたい。

##### ① 灯明具

12号住居跡～7、17号住居跡～7の資料2点が出土している。形態種は、前者幅広で、体部浅く鉢状をなし、口縁部変換点に稜をもつ土師器杯（仮称A類）、後者はやや小形で、体部緩溝曲する同杯（仮称B類）である。前者は遺存状態がやや不良であるが、体部内面向かい、釉流れ状に油埋痕が1ヶ所。後者は口縁部内面1ヶ所に蟹鉄状の油埋痕がそれぞれ確認される。両者共に灯芯痕に関連する痕跡とみられる。この他本遺跡では確認されなかったが、複数の灯芯痕に関連するとみられる資料（波状に油埋痕が残存する）の存在も知られている。

特に後者の例については、灯芯の位置をずらしながら使用したのか、あるいは一度に多数の灯芯を使用したのか検証の一材とする資料が散見される。<sup>11</sup>

##### ② パレット（漆容器）

I類 口縁部～体部上半の外外面に痕跡。色調は概して一様ではなく、濃淡がみられる。濃淡部の境は直線的だが、高さに違いがみられる。外面は口縁部付近に痕跡が確認されるが、緩い楕円形か、あるいは弓形状をなす。塗布用具のあてに等に因るかであろうか。該当する資料は、1号住居跡～2（B類）、7号住居跡～7（B類）、B類よりやや大形で、体部深い土師器杯8（仮称C類）、9号住居跡～2（B類）、3（A類）、10号住居跡～1（B類）、13号住居跡～4（C類）、6・11（B類）、12（A類）、22号住居跡～9（B類）の計11点である。このうち13号住居跡～4は、体部内面の一部が細かい斑点状、（粒状？）及び

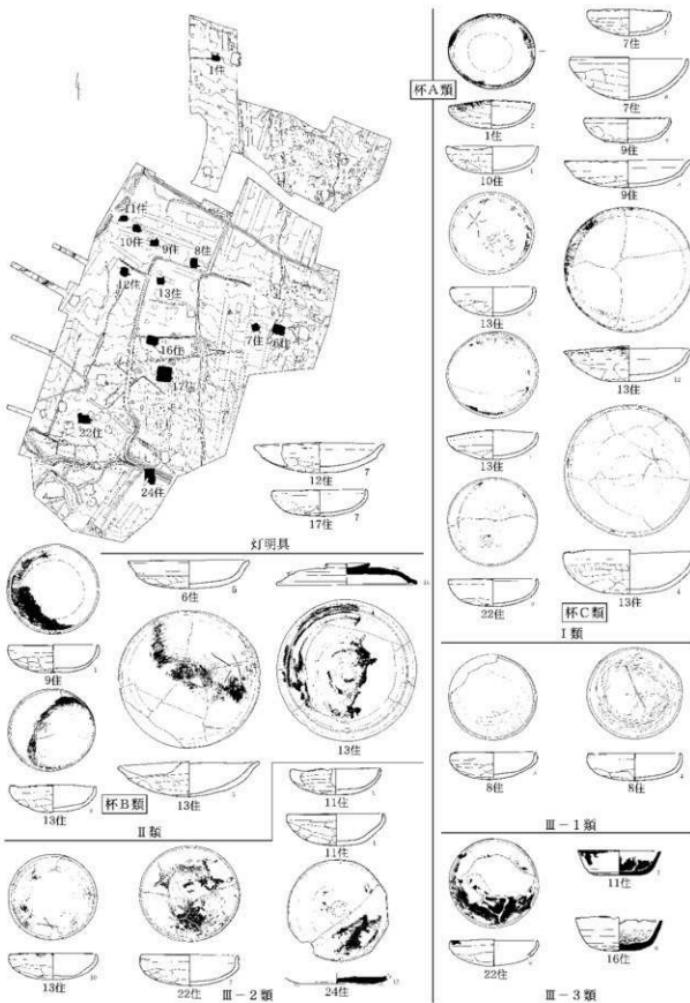


図-1 漆容器群と出土住居跡群

ドーナツ状に濃淡部が確認される他、外面は底部を除きほぼ全面が黒色味を帯び、釉流れ状痕をなす。

**II類** 体部内外面の概して1/2程度に黒色痕跡が残存するもの。痕跡のない片側を観察した結果、痕跡とみられる痕跡が全くみられないこと、該当資料自体が共通特性にあること、さらには資料の中に底部に葉状織維が付着するのに加え、その部分が焼けているものがあること等から、当初より容器自体を傾斜させ、加熱させたものと推察される。該当資料は、6号住居跡-5（A類）、9号住居跡-1（B類）、13号住居跡-5（A類）、同9（B類）、同14（須恵器高台付碗蓋）の計5点である。このうち、13号住居跡-5に火あて痕が顕著に残る。器皿自体の色調が、内外面共ににぶい褐色をなすが、加熱された部分（1/2程度）は両面共に赤褐色に変色している。底部にはその部分のみ葉状織維痕が付着している。このことは当代の漆処理を検証する上で、貴重な検証材となろう。類例資料によると、土器の部位により温度差があるとしながらも、200~300°の高温であろうと考えられている。<sup>④</sup>

**III類-1** 体部内面に条線状擦痕を残すもの。容器として使用したものと考えられるが、内面は笠状工具であろうか、時計回転方向に擦り込んだ痕跡が残り、その部分のみが黒褐色を呈する。該当資料は、8号住居跡-3・4（B類）がある。さらに前述I類の中で、22号住居跡-9（B類）にも、底部内面に同じような痕跡が確認されている。搅拌に伴う「なやし」痕に間違か。

**III類-2** 体部内外面の広範囲に皮膜状、あるいはタール状付着痕跡がみられるもの。該当資料は11号住居跡-4・5（B類）、13号住居跡-10（B類）、22号住居跡-7（B類）、24号住居跡-13須恵器蓋の計6点である。このうち、13号住居跡-10は、口唇部を除く内面全体が黒褐色の薄い皮膜状をなすが、底面にはII類でみられたと同様の葉状織維が付着、加熱痕が確認される。黒褐色部分がわずかに片側に偏ることから、II類の範疇に入る可能性も考慮される。また、24号住居跡-13は口縁端部を意図的に打ち欠いたとみられ、平坦面をパレットとしている。

**III類-3** 体部内面に厚く漆が付着し、その一部は縮み皺や、色調の違いが確認される。該当資料は11号住居跡-7須恵器、16号住居跡-8須恵器、22号住居跡-8（B類）の計3点である。口絵-5で見る通り、漆の付着が顕著に残る。このうち11号住居跡-7は錫色、他の2社は黒色味を帯び、発色の違いが顕著である。

漆加工技術史上、漆の発色に関連する混和材として、カーボン粉末を混和、黒色とするものと、鉄粉等を加え黒色とする方法が考えられており<sup>⑤</sup>、これら両者の特徴点と合致する。また漆の厚さの特徴は、すなわち生漆に鉄粉等の混和剤を用い水分を除去し塗料にする段階、「くろめ」状態の過程ではなかろうか。合わせて、加熱痕をもつ土器群を伴う等、一連の精製に関する過程を窺わせる資料といえる。

### 3. おわりに

以上簡略ながら東前沖遺跡出土の漆関連遺物について概観してきた。これらの資料は、検出された集落の性格を考える上で、極めて重要な遺物であるといえる。近隣には「上大屋・櫛越地区遺跡群」等において、「八ヶ峰生産跡」では、須恵器窯や、製鉄跡・炭窯等が検出され、当城周辺一帯が8世紀代を画として開始される国家的事業の根幹、律令制に向かいその振興が図られた時代である。本集落もこうした動きに連動した集落のひとつとして、漆加工集団等に関連する集落であった可能性が考えられるのではないかろうか。

### 引用・参考文献

- 「うるしの話」 松田権六 岩波新書
- (1) 「高崎遺跡」 多賀城市文化財調査報告書第37集 H7 多賀城市教育委員会
- (2) 永島正春「漆関係資料について」『二宮宮下東遺跡』1994 群馬県教育委員会
- (3) 「考古学ジャーナル401-黒漆の時代」1996 ニュー・サイエンス社

## 第2節 西前沖遺跡にみる中世屋敷群の形成とその後の展開について

### 1.はじめに

西前沖遺跡ではB・E地点を中心として、掘立柱建物跡群とみられるビット群が数多く検出され、加えて幾つかの特性が検出された。わけてもB・E地点が合流する調査区南半部では、南・北両側に約50mの距離をもって、東西方向に走行する2条の溝跡の間に建物跡群が占地し、特に1号溝北約3m付近より以南は段切り整地される特性を示す。西側は、台地下に拡がる沖積谷に向かい緩傾斜地形となっている。東側にはL字に折れる4号溝跡があるが、出土遺物あるいは、建物跡群の在り方との関係からみて、前者の溝跡よりは時間的にやや下ると判断されることから、初期段階の屋敷景観とは切り離すこととする。両溝跡間一帯は屋敷跡に連関であろう夥しい数のビット群で占められる。さらにこの区画の外側（ここでは北側部分）では、南半部程ではないが、同様の建物跡群が展開されている。このことから全体的な景観として、南半は中心となる館跡的な内郭機能を、またその周辺一帯は外郭的な構造としてみることができる。さらに特徴的な様相は、これら建物跡群の西側開放部の台地縁辺には、5基程度の地下式土坑が南北方向に軸線を同じくして出土、さらには数基の井戸跡等も合わせ検出され、いずれも建物跡群とは距離的に近接する位置にある。また地下式土坑群は、いずれも東側に連立する建物跡群を意識するかの様に、東側に出入り口の開口部をもつ特徴を示す。地下式土坑に関しては貯蔵施設・墓壙関連構造等とする諸説があるが、ここでは出土状況、墓壙とする出土遺物が何らみられないこと等から判断して墓壙とは考えがたく、むしろ建物跡群に伴う一連の遺構、すなわち貯蔵施設とするのが妥当と考えられる。

さらにもう一つの特徴点は、建物跡群が機能を終えた後、銭貨・かわらけ等を伴う墓壙群が台地全体に拡がりをみせることが挙げられる。B・E地点北側のC地点、あるいはさらに北側のD地点においても、五輪塔等の関連遺物もかなり検出されており、周辺一帯の墓域転換を裏付ける資料ではなかろうか。

ここでは検出された建物跡を中心として、その在り方とその後の墓域への時間経緯について概観し、中世遺構の性格を考える上で、今後の検討材の一助としたい。

### 2.検出された遺構とその概要

本調査区で検出された中世関連遺構は、掘立柱建物跡18棟、井戸跡11基、溝跡3条、土坑154基、うち出土遺物から墓壙と確認されるもの21基、地下式土坑5基、竪穴住居跡状遺構1軒、竪穴遺構2基等である。井戸跡・墓壙については、中世の所産とみられる出土遺物を伴うことを前提に、判断の基準とした。しかしこれらの遺構については、全てではないにしてもその占地状況、あるいは形状の特徴等からみて、該期の遺構である可能性は高い。このこともあって、個々の遺構として扱うことではないが、全体的な時間経緯を概観する上で記述の対象とした。

掘立柱建物跡群については、整理段階での寸法区画作業から抽出した軒数であり、出土したビット群の数的状況からみてさらに増える可能性も考えられる。本来の遺構数を100パーセント掌握したとはいえないが、ここでは抽出軒数を対象とすることをことわっておきたい。以下各遺構の様相と時間経緯についてみてみたい。

### 3.掘立柱建物跡群の占地状況と変遷

出土建物跡群の分布は図-1で見るよう、溝跡に囲まれた内郭部と、その北側に展開する建物跡群との間では様相に違いがみられる。区画内では建物跡群の間でかなりの重複が際立っており、一時期以上の時間差があったことが概観される。また郭部を区画するとみられる南・北両側の1・8号溝跡については、両者共に台地傾斜面へ台地上を東西方向に横断する形を取っており、要害的な機能も意図されたのであろうか。また屋敷

第2節 西前沖遺跡にみる中世屋敷群の形成とその後の展開について

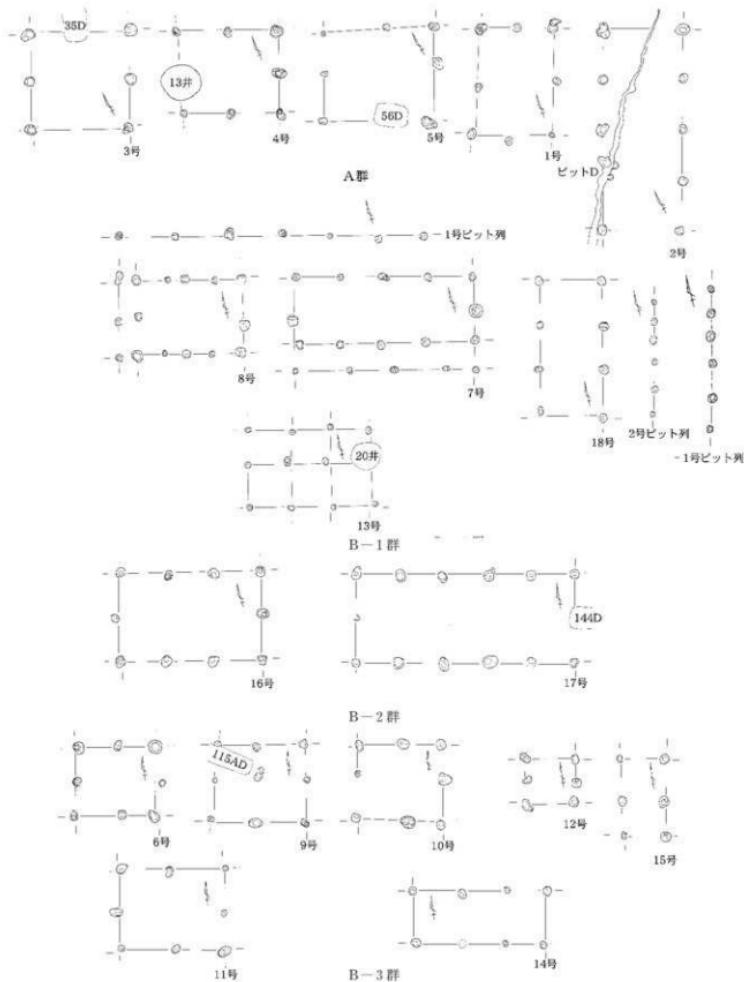


図-2 各群の掘立柱建物跡の分類

東側の4号溝跡については、南半でL字に折れる特徴があるものの、比較的浅い特徴を有する等前者の溝跡群とは異なる。また建物跡との重複がみられる等、やや齟齬が生じている。建物跡群形成のある段階まで、内郭部を区画するといった機能にあったのかその性格はいまひとつ判然としない。ここでは一応の関連遺構の範疇としておく。次に建物跡群の形態と大体想定される変遷過程についてみてみたい。

#### A群（外郭部）

溝跡北側の一群をさす。ここでは東西方向に長軸をもつ3・4・5号建物跡と、南北方向に長軸をもつ1・2号建物跡群の5軒で構成される。これら両者間は、建物跡の軸方向がほぼ同一方向を示しており、また相互の距離間隔も均一的であり、同時期存在とみられる。この中に東側に位置する1・2号建物跡に関して、2号建物跡が間口1×4間と南北方向に長い特徴をもつ。馬屋等付随施設であろうか。周辺には近接して同時期的な5・6号井戸跡群が点在すること等閉鎖性が高いと考えられる。

#### B-1群（内郭部）

内郭部のはば中央に占地する一群で、重複関係・主軸方向から2~3段階の時間差が考えられる。このうち、最も内郭的な性格を反映する建物跡として、東西方向に主軸をもつ7・8号建物跡群が挙げられる。両者は東西方向に並列して建てられており、一部柱穴が共有されており、わずかながら時間差があるのかも知れない。7号建物跡の南側、及び8号建物跡の西側に庇が付設されており、加えて7号の東には、これに付随するとみられる南北方法に主軸をもつ18号建物跡がある。またこれら18号の東側、7・8号の北側には柵状をなすとみられるピット列で囲まれている。さらに特徴的なことは、これらの建物跡群の南側は南北約12m、東西23mの規模で空間地が形成され、そこに続柱とみられる13号建物跡が構築されていることである。東西方向を向き、主軸方位は前者の一群と一致する方向にある。建物跡の用途、目的等について詳述する手段を知らないが、北側部分が居住区とすれば、周囲に建物跡を設けない点で、一線を画する意図があるのかも知れない。西側に並列する地下式土坑群を共存する点からも、最も初期段階の屋敷群ではなかろうか。

#### B-2群（内郭部）

8号建物跡と重複関係にある16号建物跡、南側で前述13号建物跡と重複する形となる17号建物跡との構成である。16号建物跡については前述8号建物跡等とはほぼ同じ主軸方向を示しているが、重複関係にあること、西側に展開される地下式土坑群とは、接することなく距離間にあること等から後出的であると判断した。また17号建物跡については桁行5間、梁行2間総面積42.21m<sup>2</sup>と面積的には前述13号建物跡より大型形態にあり前後関係の逆転も想定されるが、主軸方位のずれが生じること等から同一性にある16号建物跡との組み合わせに妥当性を付与した。

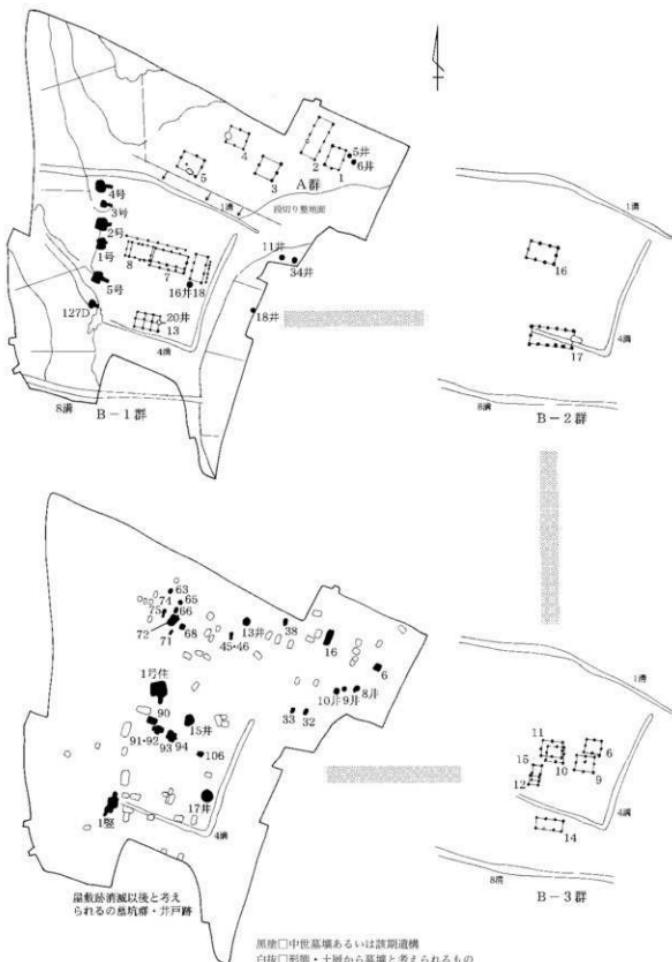
#### B-3群（内郭部）

前述A-1群で形成された一群と同様方形形状の形態で、東西方向に主軸をもつ9・10・11号建物跡、小型で付属建物とみられる12・15号建物跡、さらには南側に離れて14号建物跡で構成すると考えられる。このうち10・11号、12・15号建物跡群が重複するが、ほぼ同一位置に構築しており、立て替えに伴うとみられ、さしたる時間差はないと判断した。ここでは当初のB-1群の段階よりは、やや南側に寄る位置に建物跡を構えること、さらに南側の空閑地には一部付属的な小建物跡がみられ、スペース的には縮小されるが、やはり南端部には、これまでと同様東西方向に主軸をもつ建物跡跡14号がみられ、前段階よりは小型化するが、これまでの形態を踏襲する点で、3時期にわたる経緯は、恐らく同一集團による変遷と考えたい。

### 4. 建物跡群の年代観について

これまでみてきた建物跡群の時期については、直接遺構に伴う遺物は検出されていない。そこで遺物を伴う

第2節 西前沖遺跡にみる中世屋敷群の形成とその後の展開について



図一三 掘立柱建物跡群の変遷想定図

他遺構との重複関係、区画する溝跡の出土遺物等を傍証として、大枠の年代観を探ることとする。

#### A群

まず2号建物跡は16号土坑、ピットEと重複、いずれも建物跡より新しいとみられる。土坑は長方形形態でかわらけ類が出土。遺物からみて墓壙とみられる。出土かわらけ類は左回転糸切りの特徴をもつ。在地土器の県内における年代観は、地域により器形等多少の違いがみられ、統一した年代観では語れない現状といわれているが、大枠では底部糸切りが左へと転換する15~16世紀代の所産と考えられる。また1号建物跡東側の6号井戸跡では、12~13世紀代とみられる山茶碗(10)が、5号建物跡の柱穴列内ピットD内より、肩部に格子目状の押印文をもつ常滑焼窯(31)が出土し、大西氏によれば12~14世紀代の所産との見解を得ている。さらに4号建物跡は13号井戸跡との重複で、4号~13号の序列関係となっている。のことから本群は少なくとも15~16世紀代よりは遡る可能性が高くなり、ピットD出土遺物年代に近い、少なくとも13~14世紀代の可能性が想定される。

#### B-1~3群

内郭の区画に伴う1号溝跡から、13世紀代宋の舶載青磁片、8号溝跡では、同じく13世紀代に該当するとみられる擂鉢(2)、同13~14世紀代の所産とみられる常滑焼窯(13)が出土しており、初期段階の1群が営為したであろう年代の上限が、出土遺物の年代に近いと推察され、A群とほぼ同年代の13~14世紀代のある時期開始されたと考えたい。またA群とは主軸方位も共通することから、同時期的であり、郭の内外に占地する意味で両者の関係、性格を知る上で興味深い資料といえる。

1群以降の2・3群については、内郭部北側の15号井戸跡から15世紀代中~後半代の所産とみられる瀬戸鉢(29)、同じく15世紀代の土鍋片(14・15)類等が出土。他砥石・石臼などが出土した16・17号井戸跡も同時期とみられる。また周辺一帯に展開される墓壙群が、その埋納銭の最も後出年代からみてほぼ同時期とみられるところから、少なくとも15世紀中頃をもってその機能を終えたと推察される。

#### 5. 屋敷跡地のその後の展開

15世紀のほぼ中頃~後半頃を境として、台地には100基を超える土坑群が占する。出土遺物が未検出土坑も、墓壙周辺にまとまりとなって点在すること、埋土状況からその多くが墓壙である可能性が高い。それらの在り方は、ほぼ台地全域から台地の縁辺部まで拡散する様相が見える。形態的には方形状、長方形状、楕円形状等幾つかのパターンが概観される。これらの形態差が時間差に繋がるのか、あるいは階層による違いといった問題点に伴うのか掌握するには至らなかった。さらに、こうした墓壙及びその予備的な土壤群が台地上を占地する中で、1号堅穴住居跡の存在も特徴的である。単軒での出土である点や、出土遺物の様相から、土壤群との間で何らかの関連があるのか、あるいは工房的な性格をもつのか今後の検証材といえる。ここで詳述することはしないが、いずれにしても骨蔵器とみられる石製品、赤城塔や五輪塔等の関連遺物をはじめ、火葬跡等の存在は墓域としての特質をもつ「場」にあったことは明らかである。また中世以降近世において、井戸跡・耕作痕跡の溝跡列、あるいは東側沖積地の水田跡遺構等、当地が様々な変遷を経ながら推移したといえる。

#### 6. おわりに

これまでみてきた建物跡群について、特徴的なことは、内郭部の北半部と南半部における様相が異なることである。居住空間であろう北半側に対して空閑地を設け、舌状台地先端に建物跡をもうける点で、例えば「ハレ」の場といった儀式用の用途、あるいは宗教施設といった特殊用途の可能性が想定される。今後こうした事例の検出資料をあたり、今後の機会をもって検討することとしたい。

第2表 東前冲遺跡出土遺物觀察表(1)

第2表 東前沖遺跡出土遺物觀察表(2)

器物番号	遺跡名	器種	量	形	通長	通寬	厚度	色調・胎土	施 工	生産地・時期
第79號 B	8号住居	3 土鍋	杯	1.5頭1.1底	11.0	3.7	—	白褐色、黑色合。内面「L」面。	口縁部切立、内面「L」面。	口縁部切立、内面「L」面。
B	4 +5頭8杯	杯	1.5頭1.1底	12.8	3.7	—	白色、黑色合。	口縁部切立、内面「L」面。	口縁部切立、内面「L」面。	
B	4 +5頭8杯	杯	1.5頭1.1底	12.2	3.75	—	白色、黑色合。	口縁部切立、内面「L」面。	口縁部切立、内面「L」面。	
第71號 B	1 +5頭8杯	杯	1.5頭1.1底	11.7	3.5	—	白色、黑色合。	口縁部切立、内面「L」面。	口縁部切立、内面「L」面。	
B	3 +5頭8杯	杯	1.5頭1.1底	17.5	3.8	—	白色、黑色合。	口縁部切立、内面「L」面。	口縁部切立、内面「L」面。	
B	3 +5頭8杯	杯	1.5頭1.1底	16.6	4.35	—	白色、黑色合。	口縁部切立、内面「L」面。	口縁部切立、内面「L」面。	
B	5 +5頭8杯	杯	1.5頭1.1底	17.7	3.8	—	白色、黑色、褐色合。	口縁部切立、内面「L」面。	口縁部切立、内面「L」面。	
B	6 +5頭8杯	杯	1.5頭1.1底	11.9	3.7	—	白色、黑色、褐色合。	口縁部切立、内面「L」面。	口縁部切立、内面「L」面。	
B	7 跳脚盆	罐	20頭	1.5頭1.1底	22.8	6.0	—	白色、黑色、褐色合。	口縁部切立、内面「L」面。	口縁部切立、内面「L」面。
第22號 B	10号住居	杯	341件完形	11.7	3.6	—	白色、黑色、褐色合。	口縁部切立、内面「L」面。	口縁部切立、内面「L」面。	
第23號 B	3 壺	瓶	1	1.5頭1.1底	9.3	9.6	9.6	安洋青	口縫部切立、内面「L」面。	口縫部切立、内面「L」面。
B	4 壺	瓶	1	1.5頭1.1底	9.6	9.2	9.4	安洋青	口縫部切立、内面「L」面。	口縫部切立、内面「L」面。
B	5 壺	瓶	1	1.5頭1.1底	9.6	9.5	9.4	安洋青	口縫部切立、内面「L」面。	口縫部切立、内面「L」面。
B	6 壺	瓶	1	1.5頭1.1底	9.6	9.5	9.4	安洋青	口縫部切立、内面「L」面。	口縫部切立、内面「L」面。
B	7 壺	瓶	1	1.5頭1.1底	10.1	9.5	9.5	安洋青	口縫部切立、内面「L」面。	口縫部切立、内面「L」面。
B	8 壺	瓶	1	1.5頭1.1底	9.8	9.7	9.4	安洋青	口縫部切立、内面「L」面。	口縫部切立、内面「L」面。
B	9 壺	瓶	1	1.5頭1.1底	9.0	9.5	9.4	安洋青	口縫部切立、内面「L」面。	口縫部切立、内面「L」面。
B	10 壺	瓶	1	1.5頭1.1底	9.8	9.6	9.4	安洋青	口縫部切立、内面「L」面。	口縫部切立、内面「L」面。
B	11 壺	瓶	1	1.5頭1.1底	10.3	9.6	9.4	安洋青	口縫部切立、内面「L」面。	口縫部切立、内面「L」面。
B	12 壺	瓶	1	1.5頭1.1底	7.6	9.5	9.3	安洋青	口縫部切立、内面「L」面。	口縫部切立、内面「L」面。
B	13 壺	瓶	1	1.5頭1.1底	11.2	9.5	9.4	安洋青	口縫部切立、内面「L」面。	口縫部切立、内面「L」面。
B	14 壺	瓶	1	1.5頭1.1底	9.1	9.5	9.4	安洋青	口縫部切立、内面「L」面。	口縫部切立、内面「L」面。
B	15 壺	瓶	1	1.5頭1.1底	10.8	9.6	9.7	安洋青	口縫部切立、内面「L」面。	口縫部切立、内面「L」面。
B	16 壺	瓶	1	1.5頭1.1底	9.2	9.7	9.4	安洋青	口縫部切立、内面「L」面。	口縫部切立、内面「L」面。
B	17 壺	瓶	1	1.5頭1.1底	9.0	9.7	9.3	安洋青	口縫部切立、内面「L」面。	口縫部切立、内面「L」面。
B	18 壺	瓶	1	1.5頭1.1底	8.5	9.3	9.4	安洋青	口縫部切立、内面「L」面。	口縫部切立、内面「L」面。
第34號 B	19 壺	瓶	1	1.5頭1.1底	14.3	9.8	9.7	安洋青	口縫部切立、内面「L」面。	口縫部切立、内面「L」面。
B	20 壺	瓶	1	1.5頭1.1底	17.1	9.0	9.4	安洋青	口縫部切立、内面「L」面。	口縫部切立、内面「L」面。
第26號 B	11号住居	1 土鍋	1.5頭1.1底	21.4	—	—	白色、黑色合。	口縫部切立、内面「L」面。	口縫部切立、内面「L」面。	
B	2 土鍋	小壺	1.5頭1.1底	10.2	—	—	白色、黑色合。	口縫部切立、内面「L」面。	口縫部切立、内面「L」面。	
B	3 土鍋	小壺	1.5頭1.1底	14.7	4.5	—	白色、黑色合。	口縫部切立、内面「L」面。	口縫部切立、内面「L」面。	
B	4 土鍋	杯	1.5頭1.1底	13.4	4.3	—	白色、黑色合。	口縫部切立、内面「L」面。	口縫部切立、内面「L」面。	
B	5 土鍋	杯	1.5頭1.1底	12.3	3.5	—	白色、黑色、褐色合。	口縫部切立、内面「L」面。	口縫部切立、内面「L」面。	
B	6 土鍋	杯	1.5頭1.1底	11.4	3.3	—	白色、黑色合。	口縫部切立、内面「L」面。	口縫部切立、内面「L」面。	
B	7 陶瓶	瓶	1	1.5頭1.1底	11.3	3.4	6.5	安洋青	口縫部切立、内面「L」面。	口縫部切立、内面「L」面。
第28號 B	1 +5頭8杯	杯	1.5頭1.1底	23.4	33.0	4.6	白色、黑色合。	口縫部切立、内面「L」面。	口縫部切立、内面「L」面。	
B	2 +5頭8杯	杯	1.5頭1.1底	23.0	33.0	4.6	白色、黑色合。	口縫部切立、内面「L」面。	口縫部切立、内面「L」面。	
B	3 +5頭8杯	杯	1.5頭1.1底	22.5	—	—	白色、黑色合。	口縫部切立、内面「L」面。	口縫部切立、内面「L」面。	
B	4 +5頭8杯	杯	1.5頭1.1底	20.2	—	—	白色、黑色合。	口縫部切立、内面「L」面。	口縫部切立、内面「L」面。	
B	5 +5頭8杯	杯	1.5頭1.1底	20.2	—	—	白色、黑色合。	口縫部切立、内面「L」面。	口縫部切立、内面「L」面。	
B	6 +5頭8杯	杯	1.5頭1.1底	20.2	—	—	白色、黑色合。	口縫部切立、内面「L」面。	口縫部切立、内面「L」面。	
B	7 +5頭8杯	杯	1.5頭1.1底	18.0	4.7	—	白色、黑色合。	口縫部切立、内面「L」面。	口縫部切立、内面「L」面。	
B	8 陶瓶	瓶	1	1.5頭1.1底	16.3	3.1	—	白色、黑色合。	口縫部切立、内面「L」面。	口縫部切立、内面「L」面。

第2表 東前沖地熱出土遺物觀察表(3)

器物番号	遺物名	番号	器種	量	形	通合計数	口径	瓶底	口徑・瓶底・高さ	施 工	施 工	施 工・施工法	出生地・性別
第20回 第41回	12号小刀	3	小刀頭	1	+-切削	-	116.0	3.5	12.3	打削法、削。刮削法。	磨	刮削法	刮削・小刀頭・女性の骨骸。直前の骨髄。
第41回	13号小刀	2	小刀頭	1	+削削	-	97.1	6	4.8	打削法、削。刮削法。	磨	刮削法	刮削・小刀頭・女性の骨髄。
第11回	3	小刀頭	3	±削削	-	117.0	11.2	6.1	打削法、削。刮削法。	磨	刮削法	刮削・小刀頭・女性の骨髄。	
3	4	小刀頭	4	±削削	-	117.0	6.0	—	打削法、削。刮削法。	磨	刮削法	刮削・小刀頭・女性の骨髄。	
3	5	小刀頭	5	±削削	-	19.4	4.8	—	打削法、削。刮削法。	磨	刮削法	刮削・小刀頭・女性の骨髄。	
3	6	小刀頭	6	±削削	-	11.4	4.0	—	打削法、削。刮削法。	磨	刮削法	刮削・小刀頭・女性の骨髄。	
3	7	小刀頭	7	±削削	-	11.6	3.7	—	打削法、削。刮削法。	磨	刮削法	刮削・小刀頭・女性の骨髄。	
3	8	小刀頭	8	±削削	-	11.7	3.6	—	打削法、削。刮削法。	磨	刮削法	刮削・小刀頭・女性の骨髄。	
3	9	小刀頭	9	±削削	-	11.8	2.7	—	打削法、削。刮削法。	磨	刮削法	刮削・小刀頭・女性の骨髄。	
3	10	小刀頭	10	±削削	-	11.8	3.6	—	打削法、削。刮削法。	磨	刮削法	刮削・小刀頭・女性の骨髄。	
3	11	小刀頭	11	±削削	-	12.5	4.0	—	打削法、削。刮削法。	磨	刮削法	刮削・小刀頭・女性の骨髄。	
3	12	小刀頭	12	±削削	-	17.7	4.9	—	打削法、削。刮削法。	磨	刮削法	刮削・小刀頭・女性の骨髄。	
3	13	小刀頭	13	±削削	-	11.8	4.2	—	打削法、削。刮削法。	磨	刮削法	刮削・小刀頭・女性の骨髄。	
3	14	小刀頭	14	±削削	-	19.2	2.9	—	打削法、削。刮削法。	磨	刮削法	刮削・小刀頭・女性の骨髄。	
3	15	小刀頭	15	±削削	-	17.6	4.0	13.9	打削法、削。刮削法。	磨	刮削法	刮削・小刀頭・女性の骨髄。	
3	16	小刀頭	16	±削削	-	—	—	—	打削法、削。刮削法。	外削法	外削法	外削・小刀頭・女性の骨髄。	
3	17	小刀頭	17	±削削	-	—	—	—	打削法、削。刮削法。	外削法	外削法	外削・小刀頭・女性の骨髄。	
3	18	小刀頭	18	±削削	-	—	—	—	打削法、削。刮削法。	外削法	外削法	外削・小刀頭・女性の骨髄。	
第45回	19	飾物品	1	土削頭	1.3	下端膨大	13.7	7.7	—	打削法、削。刮削法。	磨	刮削法	刮削・小刀頭・女性の骨髄。
第45回	20	飾物品	2	土削頭	1.298	下端膨大	11.2	5.9	—	打削法、削。刮削法。	磨	刮削法	刮削・小刀頭・女性の骨髄。
第47回	21	飾物品	3	土削頭	1.496	下端膨大	116.3	3.6	—	打削法、削。刮削法。	磨	刮削法	刮削・小刀頭・女性の骨髄。
3	22	小刀頭	2.2	±削削	-	31.6	22.0	31.0	打削法、削。刮削法。	磨	刮削法	刮削・小刀頭・女性の骨髄。	
3	23	小刀頭	3	±削削	-	22.6	20.1	—	打削法、削。刮削法。	磨	刮削法	刮削・小刀頭・女性の骨髄。	
3	24	小刀頭	4	±削削	-	21.4	26.0	—	打削法、削。刮削法。	磨	刮削法	刮削・小刀頭・女性の骨髄。	
3	25	小刀頭	5	±削削	-	23.0	—	—	打削法、削。刮削法。	磨	刮削法	刮削・小刀頭・女性の骨髄。	
3	26	小刀頭	6	±削削	-	21.6	56.1	(5.0)	打削法、削。刮削法。	磨	刮削法	刮削・小刀頭・女性の骨髄。	
3	27	小刀頭	7	±削削	-	22.6	40.0	—	打削法、削。刮削法。	磨	刮削法	刮削・小刀頭・女性の骨髄。	
3	28	小刀頭	8	±削削	-	18.7	92.7	—	打削法、削。刮削法。	磨	刮削法	刮削・小刀頭・女性の骨髄。	
3	29	小刀頭	9	±削削	-	23.0	—	—	打削法、削。刮削法。	磨	刮削法	刮削・小刀頭・女性の骨髄。	
3	30	小刀頭	10	±削削	-	16.0	9.7	—	打削法、削。刮削法。	磨	刮削法	刮削・小刀頭・女性の骨髄。	
3	31	小刀頭	11	±削削	-	13.8	4.4	—	打削法、削。刮削法。	磨	刮削法	刮削・小刀頭・女性の骨髄。	
3	32	小刀頭	12	±削削	-	12.7	4.0	—	打削法、削。刮削法。	磨	刮削法	刮削・小刀頭・女性の骨髄。	
3	33	小刀頭	13	±削削	-	15.3	4.1	—	打削法、削。刮削法。	磨	刮削法	刮削・小刀頭・女性の骨髄。	
3	34	小刀頭	14	±削削	-	12.6	3.7	—	打削法、削。刮削法。	磨	刮削法	刮削・小刀頭・女性の骨髄。	
3	35	小刀頭	15	±削削	-	12.6	5.1	6.9	打削法、削。刮削法。	磨	刮削法	刮削・小刀頭・女性の骨髄。	
3	36	小刀頭	16	±削削	1.2	下端膨大	7.7	4.7	—	打削法、削。刮削法。	磨	刮削法	刮削・小刀頭・女性の骨髄。
3	37	小刀頭	17	±削削	1.041	下端膨大	17.9	4.7	14.1	打削法、削。刮削法。	磨	刮削法	刮削・小刀頭・女性の骨髄。
3	38	小刀頭	18	±削削	1.041	下端膨大	—	—	—	打削法、削。刮削法。	磨	刮削法	刮削・小刀頭・女性の骨髄。
3	39	小刀頭	19	±削削	1.041	下端膨大	—	—	—	打削法、削。刮削法。	磨	刮削法	刮削・小刀頭・女性の骨髄。
3	40	小刀頭	20	±削削	1.041	下端膨大	—	—	—	打削法、削。刮削法。	磨	刮削法	刮削・小刀頭・女性の骨髄。
第51回	21	16号小刀	1	±削削	1.041	下端膨大	27.7	33.4	—	打削法、削。刮削法。	磨	刮削法	刮削・小刀頭・女性の骨髄。
3	22	16号小刀	2	±削削	1.041	下端膨大	11.9	4.0	—	打削法、削。刮削法。	磨	刮削法	刮削・小刀頭・女性の骨髄。
3	23	16号小刀	3	±削削	1.041	下端膨大	27.5	4.5	—	打削法、削。刮削法。	磨	刮削法	刮削・小刀頭・女性の骨髄。

表第2 東前沖遺跡出土遺物觀察表(4)



第2表 東前沖遺跡出土遺物觀察表(6)

器物番号	遺物名	番号	器種	器形	直徑	腹深	底径	色調・土	施 工	生産地・時期
新石器 26号灰陶盤	7 土灰陶盤	7	土灰陶盤	直口盤	—	—	—	褐色・青色・灰褐色・鐵青色	素面	遺跡内面・外側・外周部(1)・底面部(1)
新石器 8	8 +5668 台付盤	8	土灰陶盤	直口盤	9.0	9.6	8.0	褐色・青色・鐵青色	素面	遺跡内面・外側・外周部(1)・底面部(1)
新石器 9	9 +5668 台付盤	9	土灰陶盤	直口盤	—	—	—	褐色・青色・鐵青色	素面	遺跡内面・外側・外周部(1)・底面部(1)
新石器 10	10 +5668 台付盤	10	土灰陶盤	直口盤	11.2	6.6	9.1	褐色・青色・鐵青色	素面	遺跡内面・外側・外周部(1)・底面部(1)
新石器 11	11 +5668 台付盤	11	土灰陶盤	直口盤	8.2	4.6	—	褐色・青色・鐵青色	素面	遺跡内面・外側・外周部(1)・底面部(1)
新石器 12	12 +5668 小口盤	12	土灰陶盤	小口盤	8.3	10.1	4.0	灰褐色・青色	素面	遺跡内面・外側・外周部(1)・底面部(1)
新石器 13	13 +5668 素面盤	13	土灰陶盤	素面盤	—	—	—	褐色・青色	素面	遺跡内面・外側・外周部(1)・底面部(1)
新石器 14	14 +5668 台付盤	14	土灰陶盤	台付盤	—	—	6.4	褐色・青色・鐵青色	素面	遺跡内面・外側・外周部(1)・底面部(1)
新石器 15	15 +5668 台付盤	15	土灰陶盤	台付盤	—	—	—	褐色・青色・鐵青色	素面	遺跡内面・外側・外周部(1)・底面部(1)
新石器 2号灰陶六	2号灰陶六	2	青陶	直口盤	8.0	9.0	9.0	褐色・青色	素面	新石器時代後期・中期(1)・後期(1)
新石器 3	3 黃陶盆	3	黃陶盆	直口盆	10.0	10.0	9.0	褐色・青色	素面	新石器時代後期(1)
新石器 4	4 黃陶盆	4	黃陶盆	直口盆	—	—	—	褐色・青色	素面	新石器時代後期(1)
新石器 5	5 黃陶盆	5	黃陶盆	直口盆	—	—	—	褐色・青色	素面	新石器時代後期(1)
新石器 6	6 黃陶盆	6	黃陶盆	直口盆	—	—	—	褐色・青色	素面	新石器時代後期(1)
新石器 7	7 黃陶盆	7	黃陶盆	直口盆	—	—	—	褐色・青色	素面	新石器時代後期(1)
新石器 8	8 黃陶盆	8	黃陶盆	直口盆	14.0	14.0	13.4	褐色・青色	素面	新石器時代後期(1)
新石器 9	9 黃陶盆	9	黃陶盆	直口盆	14.0	14.0	13.4	褐色・青色	素面	新石器時代後期(1)
新石器 10	10 +5668 台付盆	10	土灰陶盆	直口盆	14.0	14.0	13.4	褐色・青色	素面	新石器時代後期(1)
新石器 11	11 +5668 台付盆	11	土灰陶盆	直口盆	14.0	14.0	13.4	褐色・青色	素面	新石器時代後期(1)
新石器 12	12 +5668 小口盆	12	土灰陶盆	小口盆	14.0	14.0	13.4	褐色・青色	素面	新石器時代後期(1)
新石器 13	13 +5668 完形盆	13	土灰陶盆	完形盆	14.0	14.0	13.4	褐色・青色	素面	新石器時代後期(1)
新石器 14	14 +5668 素面盆	14	土灰陶盆	素面盆	—	—	—	褐色・青色	素面	新石器時代後期(1)
新石器 15	15 +5668 素面盆	15	土灰陶盆	素面盆	—	—	—	褐色・青色	素面	新石器時代後期(1)

第3表 西前沖遺跡B地出土物観察表(1)

器物番号	遺物名	番号	器種	器形	直徑	腹深	底径	色調・土	施 工	生産地・時期	
第3138 16号土灰	1 土灰陶盤	1	土灰陶盤	かづらうど	22.3	2.0	5.8	褐色・青色・鐵青色	素面	遺跡内面・外側・外周部(1)・底面部(1)	
新石器 2	2 土灰陶盤	2	土灰陶盤	かづらうど	10.0	2.0	5.6	褐色・青色	素面	遺跡内面・外側・外周部(1)・底面部(1)	
新石器 3	3 土灰陶盤	3	土灰陶盤	かづらうど	22.3	3.8	5.5	褐色・青色	素面	遺跡内面・外側・外周部(1)・底面部(1)	
新石器 4	4 土灰陶盤	4	土灰陶盤	かづらうど	—	—	5.6	褐色・青色	素面	遺跡内面・外側・外周部(1)・底面部(1)	
新石器 5	5 土灰陶盤	5	土灰陶盤	かづらうど	13.4	2.8	8.5	褐色・青色	素面	遺跡内面・外側・外周部(1)・底面部(1)	
新石器 6	6 土灰陶盤	6	土灰陶盤	かづらうど	7.8	1.4	6.5	褐色・青色	素面	遺跡内面・外側・外周部(1)・底面部(1)	
新石器 7	7 土灰陶盤	7	土灰陶盤	かづらうど	7.6	2.2	4.0	褐色・青色	素面	遺跡内面・外側・外周部(1)・底面部(1)	
新石器 8	8 土灰陶盤	8	土灰陶盤	かづらうど	—	—	3.4	褐色・青色	素面	遺跡内面・外側・外周部(1)・底面部(1)	
新石器 9	9 新砂陶盤	9	新砂陶盤	かづらうど	12.3	5.1	—	褐色・青色	素面	遺跡内面・外側・外周部(1)・底面部(1)	
新石器 10	10 新砂陶盤	10	新砂陶盤	かづらうど	—	—	5.8	白色・青色	素面	遺跡内面・外側・外周部(1)・底面部(1)	
新石器 11	11 在地灰土盤	11	在地灰土盤	土壤	土壤部分	—	—	—	灰褐色・青色	素面	遺跡内面・外側・外周部(1)・底面部(1)
新石器 12	12 在地灰土盤	12	在地灰土盤	土壤	土壤部分	—	—	—	灰褐色・青色	素面	遺跡内面・外側・外周部(1)・底面部(1)
新石器 13	13 在地灰土盤	13	在地灰土盤	土壤	土壤部分	—	—	—	灰褐色・青色	素面	遺跡内面・外側・外周部(1)・底面部(1)
新石器 14	14 在地灰土盤	14	在地灰土盤	土壤	土壤部分	—	—	—	灰褐色・青色	素面	遺跡内面・外側・外周部(1)・底面部(1)
新石器 15	15 在地灰土盤	15	在地灰土盤	土壤	土壤部分	—	—	—	灰褐色・青色	素面	遺跡内面・外側・外周部(1)・底面部(1)
新石器 16	16 在地灰土盤	16	在地灰土盤	土壤	土壤部分	—	—	—	灰褐色・青色	素面	遺跡内面・外側・外周部(1)・底面部(1)

第3表 西前沖跡B地点出土物類別表(2)

器種番号	標示番号	器種	型	基部	口徑	體高	直徑	施 工	施 工	生態・時期
器種番号	標示番号	器種	型	基部	口徑	體高	直徑	施 工	施 工	生態・時期
P-16+17	17	在地密閉器	瓶体	上端斜片	—	—	—	环状・砂合	环状・砂合	中世 13-14C±20
P	1号井7號	18	在地密閉器	瓶体	上端斜片	—	—	环状・砂合	环状・砂合	中世 13-14C±20
P	13号井7號	19	在地密閉器	瓶体	上端斜片	—	—	环状・砂合	环状・砂合	中世 13-14C±20
P	35号井7號	20	在地密閉器	大明	上端斜片	35.6	6.0	环状・砂合	环状・砂合	中世 13-14C±20
P	35号井7號	21	在地密閉器	包口	上端斜片	10.0	—	环状・砂合	环状・砂合	中世 13-14C±20
器種番号	ピ-1.1	22	陶器?	色	上端斜片	—	—	环状・砂合	环状・砂合	中世 13-14C±20
P	1号井7號	23	陶器?	色	上端斜片	—	—	环状・砂合	环状・砂合	中世 13-14C±20
P	15号井7號	24	陶器?	色	上端斜片	—	—	环状・砂合	环状・砂合	中世 13-14C±20
P	1号井7號	25	陶器?	色	上端斜片	14.1	3.6	环状・砂合	环状・砂合	中世 13-14C±20
P	15号井7號	26	陶器?	色	上端斜片	10.7	—	环状・砂合	环状・砂合	中世 13-14C±20
P	25号井7號	27	陶器?	色	上端斜片	11.2	3.0	环状・砂合	环状・砂合	中世 13-14C±20
P	1号井7號	28	陶器?	色	上端斜片	—	—	环状・砂合	环状・砂合	中世 13-14C±20
P	13号井7號	29	陶器?	色	上端斜片	—	—	环状・砂合	环状・砂合	中世 13-14C±20
P	1号井7號	30	陶器?	色	下端部?	—	—	环状・砂合	环状・砂合	中世 13-14C±20
P	ピ-1.9	31	陶器?	色	下端部?	—	—	环状・砂合	环状・砂合	中世 13-14C±20
P	7号井7號	32	陶器?	色	下端部?	—	—	环状・砂合	环状・砂合	中世 13-14C±20
P	7号井7號	33	陶器?	色	下端部?	—	—	环状・砂合	环状・砂合	中世 13-14C±20
P	7号井7號	34	陶器?	色	下端部?	—	—	环状・砂合	环状・砂合	中世 13-14C±20
P	26号井7號	35	陶器?	色	下端部?	—	—	环状・砂合	环状・砂合	中世 13-14C±20
P	1号井7號	36	陶器?	色	下端部?	—	—	环状・砂合	环状・砂合	中世 13-14C±20
P	1号井7號	37	陶器?	色	下端部?	—	—	环状・砂合	环状・砂合	中世 13-14C±20
P	3号井7號	38	陶器?	色	下端部?	—	—	环状・砂合	环状・砂合	中世 13-14C±20
P	3号井7號	39	陶器?	色	下端部?	—	—	环状・砂合	环状・砂合	中世 13-14C±20
P	3号井7號	40	陶器?	色	下端部?	—	—	环状・砂合	环状・砂合	中世 13-14C±20
P	3号井7號	41	陶器?	色	下端部?	—	—	环状・砂合	环状・砂合	中世 13-14C±20
P	7号井7號	42	陶器?	色	下端部?	—	—	环状・砂合	环状・砂合	中世 13-14C±20
P	6号井7號	43	陶器?	色	下端部?	—	—	环状・砂合	环状・砂合	中世 13-14C±20
P	91+92号土坑	44	陶器品	7号具	泡脚具	泡脚具	泡脚具	环状・砂合	环状・砂合	中世 13-14C±20
P	5号井7號	45	陶器品	7号具	泡脚具	泡脚具	泡脚具	环状・砂合	环状・砂合	中世 13-14C±20
P	90号井7號	46	陶器品	7号具	泡脚具	泡脚具	泡脚具	环状・砂合	环状・砂合	中世 13-14C±20
P	9号井7號	48	陶器品	7号具	泡脚具	泡脚具	泡脚具	环状・砂合	环状・砂合	中世 13-14C±20
P	3号井7號	49	陶器品	7号具	泡脚具	泡脚具	泡脚具	环状・砂合	环状・砂合	中世 13-14C±20
P	1号井7號	50	陶器品	7号具	泡脚具	泡脚具	泡脚具	环状・砂合	环状・砂合	中世 13-14C±20
P	4号井7號	51	陶器品	7号具	泡脚具	泡脚具	泡脚具	环状・砂合	环状・砂合	中世 13-14C±20
P	32号井7號	52	陶器品	7号具	泡脚具	泡脚具	泡脚具	环状・砂合	环状・砂合	中世 13-14C±20
P	8号井7號	53	陶器品	7号具	泡脚具	泡脚具	泡脚具	环状・砂合	环状・砂合	中世 13-14C±20
P	1号井7號	54	陶器品	7号具	泡脚具	泡脚具	泡脚具	环状・砂合	环状・砂合	中世 13-14C±20
P	91+92号土坑	55	陶器品	7号具	泡脚具	泡脚具	泡脚具	环状・砂合	环状・砂合	中世 13-14C±20
P	1号井7號	56	陶器品	7号具	泡脚具	泡脚具	泡脚具	环状・砂合	环状・砂合	中世 13-14C±20
P	5号井7號	57	陶器品	7号具	泡脚具	泡脚具	泡脚具	环状・砂合	环状・砂合	中世 13-14C±20
P	38号井7號	58	陶器品	7号具	泡脚具	泡脚具	泡脚具	环状・砂合	环状・砂合	中世 13-14C±20
P	1号井7號	59	陶器品	7号具	泡脚具	泡脚具	泡脚具	环状・砂合	环状・砂合	中世 13-14C±20
P	17号井7號	60	陶器品	7号具	泡脚具	泡脚具	泡脚具	环状・砂合	环状・砂合	中世 13-14C±20
P	1号井7號	61	陶器品	7号具	泡脚具	泡脚具	泡脚具	环状・砂合	环状・砂合	中世 13-14C±20

第3表 西前沖遺跡B地点出土實物觀察表(2)

遺物番号	遺物名	系号	器種	形狀	通合狀態	口径	底面	直徑	色別・胎土	施 工	生産地・時期
新1554	石製品	63	石製品	扁平	原形	長1.8 幅1.4 厚0.8	圓孔 幅1.4 厚0.8	厚1.1	白色 黑色	自然打制 磨光打制	新石器時代
新1555	石製品	64	石製品	扁平	原形	長1.5 幅1.3 厚0.8	圓孔 幅1.3 厚0.8	厚1.1	白色 黑色	自然打制 磨光打制	新石器時代
新1556	石製品	65	石製品	扁平	原形	長0.9 幅0.7 厚0.5	圓孔 幅0.7 厚0.5	厚1.1	白色 黑色	自然打制 磨光打制	新石器時代
新1557	石製品	66	石製品	扁平	原形	長0.5 幅0.5 厚0.5	圓孔 幅0.5 厚0.5	厚1.1	白色 黑色	自然打制 磨光打制	新石器時代
新1558	石製品	67	石製品	扁平	原形	長0.5 幅0.5 厚0.5	圓孔 幅0.5 厚0.5	厚1.1	白色 黑色	自然打制 磨光打制	新石器時代
新1559	石製品	68	石製品	扁平	原形	長0.5 幅0.5 厚0.5	圓孔 幅0.5 厚0.5	厚1.1	白色 黑色	自然打制 磨光打制	新石器時代
新1560	石製品	69	石製品	扁平	原形	長1.2 幅0.8 厚0.5	圓孔 幅0.8 厚0.5	厚1.1	白色 黑色	自然打制 磨光打制	新石器時代
新1561	石製品	70	石製品	扁平	原形	長0.7 幅0.5 厚0.5	圓孔 幅0.5 厚0.5	厚1.1	白色 黑色	自然打制 磨光打制	新石器時代
新1562	石製品	71	石製品	扁平	原形	長0.9 幅0.7 厚0.5	圓孔 幅0.7 厚0.5	厚1.1	白色 黑色	自然打制 磨光打制	新石器時代
新1563	石製品	72	石製品	扁平	原形	長1.0 幅0.8 厚0.5	圓孔 幅0.8 厚0.5	厚1.1	白色 黑色	自然打制 磨光打制	新石器時代
新1564	石製品	73	石製品	扁平	原形	長1.0 幅0.8 厚0.5	圓孔 幅0.8 厚0.5	厚1.1	白色 黑色	自然打制 磨光打制	新石器時代
新1565	石製品	74	石製品	扁平	原形	長1.0 幅0.8 厚0.5	圓孔 幅0.8 厚0.5	厚1.1	白色 黑色	自然打制 磨光打制	新石器時代
新1566	石製品	75	石製品	扁平	原形	長1.0 幅0.8 厚0.5	圓孔 幅0.8 厚0.5	厚1.1	白色 黑色	自然打制 磨光打制	新石器時代

第4表 西前沖遺跡E地点出土實物觀察表(1)

遺物番号	遺物名	系号	器種	形狀	通合狀態	口径	底面	直徑	色別・胎土	施 工	生産地・時期
新1115	4号陶器	1	在地燒成 土燒	圓筒形	口部破缺	—	—	—	灰色 黑色	自然打制	日本奈良時代 13°C時代
新1116	8号陶器	2	在地燒成 土燒	圓筒	輪制	—	—	—	灰色 黑色	自然打制	中世 13°C時代
新1117	6号陶器	3	在地燒成 土燒	圓筒	輪制	—	—	—	灰色 黑色	自然打制	中世 13°C時代
新1118	4号陶器	4	在地燒成 土燒	圓筒	輪制	—	—	—	灰色 黑色	自然打制	中世 13°C時代
新1119	5号陶器	5	在地燒成 土燒	圓筒	輪制	—	—	—	灰色 黑色	自然打制	中世 13°C時代
新1120	7号陶器	6	在地燒成 土燒	圓筒	輪制	—	—	—	灰色 黑色	自然打制	中世 13°C時代
新1121	3号陶器	7	在地燒成 土燒	圓筒	輪制	—	—	—	灰色 黑色	自然打制	中世 13°C時代
新1122	4号陶器	8	在地燒成 土燒	圓筒	輪制	—	—	—	灰色 黑色	自然打制	中世 13°C時代
新1123	9号陶器	9	在地燒成 土燒	圓筒	輪制	—	—	—	灰色 黑色	自然打制	中世 13°C時代
新1124	10号陶器	10	在地燒成 土燒	圓筒	輪制	—	—	—	灰色 黑色	自然打制	中世 13°C時代
新1125	11号陶器	11	在地燒成 土燒	圓筒	輪制	—	—	—	灰色 黑色	自然打制	中世 13°C時代
新1126	12号陶器	12	在地燒成 土燒	圓筒	輪制	—	—	—	灰色 黑色	自然打制	中世 13°C時代
新1127	8号陶器	13	在地燒成 土燒	圓筒	輪制	—	—	—	灰色 黑色	自然打制	中世 13°C時代
新1128	14号陶器	14	在地燒成 土燒	圓筒	輪制	—	—	—	灰色 黑色	自然打制	中世 13°C時代
新1129	15号陶器	15	在地燒成 土燒	圓筒	輪制	—	—	—	灰色 黑色	自然打制	中世 13°C時代
新1130	16号陶器	16	在地燒成 土燒	圓筒	輪制	—	—	—	灰色 黑色	自然打制	中世 13°C時代
新1131	17号陶器	17	在地燒成 土燒	圓筒	輪制	—	—	—	灰色 黑色	自然打制	中世 13°C時代
新1132	18号陶器	18	在地燒成 土燒	圓筒	輪制	—	—	—	灰色 黑色	自然打制	中世 13°C時代
新1133	19号陶器	19	在地燒成 土燒	圓筒	輪制	—	—	—	灰色 黑色	自然打制	中世 13°C時代
新1134	20号陶器	20	在地燒成 土燒	圓筒	輪制	—	—	—	灰色 黑色	自然打制	中世 13°C時代
新1135	21号陶器	21	在地燒成 土燒	圓筒	輪制	—	—	—	灰色 黑色	自然打制	中世 13°C時代
新1136	22号陶器	22	在地燒成 土燒	圓筒	輪制	—	—	—	灰色 黑色	自然打制	中世 13°C時代
新1137	23号陶器	23	在地燒成 土燒	圓筒	輪制	—	—	—	灰色 黑色	自然打制	中世 13°C時代
新1138	24号陶器	24	在地燒成 土燒	圓筒	輪制	—	—	—	灰色 黑色	自然打制	中世 13°C時代
新1139	25号陶器	25	在地燒成 土燒	圓筒	輪制	—	—	—	灰色 黑色	自然打制	中世 13°C時代
新1140	26号陶器	26	在地燒成 土燒	圓筒	輪制	—	—	—	灰色 黑色	自然打制	中世 13°C時代
新1141	27号陶器	27	在地燒成 土燒	圓筒	輪制	—	—	—	灰色 黑色	自然打制	中世 13°C時代
新1142	28号陶器	28	在地燒成 土燒	圓筒	輪制	—	—	—	灰色 黑色	自然打制	中世 13°C時代

第4表 西前沖遺跡E地点出土實物量測表(2)

點名番号	標識番号	品名	器種	量 形	直徑	體容積	口徑	底面	直徑	底面	直徑	底面	直面・底面・土	施 工	漆	生漆地・漆膜
第41回	79	石製品	石核	7.5cm	13.3	105.4	7.6	7.6	105.4	105.4	7.6	105.4	直面漆地	漆	漆	漆地・漆膜
n	1号標B-C	30	石製品	石核	8.5-1	17.9	高6.5	高6.5	高6.5	高6.5	高6.5	高6.5	直面漆地	漆	漆	漆地・漆膜
n	2号標B-E	31	石製品	石核	1.5cm	直面漆地	漆	漆	漆地・漆膜							
n	1号標C-E	32	石製品	石核	1.5cm	直面漆地	漆	漆	漆地・漆膜							
n	水滴形切口	33	石製品	石核	1.7	1.6	1.6	1.6	1.6	1.6	1.6	1.6	直面漆地	漆	漆	漆地・漆膜
n	8号標B	34	石製品	石核	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	直面漆地	漆	漆	漆地・漆膜

第5表 西前沖遺跡C地点出土實物量測表(1)

點名番号	標識番号	品名	器種	量 形	直徑	體容積	口徑	底面	直徑	底面	直徑	底面	直面・底面・土	施 工	漆	生漆地・漆膜
第37回	1	土燒質陶器	砂土質	1.4	6.8	4.5	5.6	5.6	5.6	5.6	5.6	5.6	砂土質	漆	漆	漆地・漆膜
n	4号片状	2	土燒質陶器	砂土質	8.5	2.1	—	—	—	—	—	—	砂土質	漆	漆	漆地・漆膜
n	3	土燒質陶器	砂土質	11.8	3.7	4.5	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	砂土質	漆	漆	漆地・漆膜
n	1A号標	4	土燒質陶器	砂土質	11.4	3.0	7.4	8.2	8.2	8.2	8.2	8.2	砂土質	漆	漆	漆地・漆膜
n	1号標A	5	土燒質陶器	砂土質	11.4	3.0	7.4	8.2	8.2	8.2	8.2	8.2	砂土質	漆	漆	漆地・漆膜
n	1号標A-C	6	土燒質陶器	砂土質	—	—	—	—	—	—	—	—	砂土質	漆	漆	漆地・漆膜
n	1号標A-C	7	陶器	—	—	—	—	—	—	—	—	—	砂土質	漆	漆	漆地・漆膜
n	1号標A-C	8	陶器	—	—	—	—	—	—	—	—	—	砂土質	漆	漆	漆地・漆膜
n	2号標	9	陶器	砂土質	1.2cm	砂土質	漆	漆	漆地・漆膜							
n	2号標	10	陶器	砂土質	1.2cm	砂土質	漆	漆	漆地・漆膜							
n	2号標	11	陶器	砂土質	—	—	—	—	—	—	—	—	砂土質	漆	漆	漆地・漆膜
n	4号片状	12	陶器	砂土質	—	—	—	—	—	—	—	—	砂土質	漆	漆	漆地・漆膜
n	1号標A	13	陶器	砂土質	—	—	—	—	—	—	—	—	砂土質	漆	漆	漆地・漆膜
n	1号標A	14	陶器	砂土質	—	—	—	—	—	—	—	—	砂土質	漆	漆	漆地・漆膜
n	13号片状	15	陶器	砂土質	—	—	—	—	—	—	—	—	砂土質	漆	漆	漆地・漆膜
n	1号標A-C	16	陶器	砂土質	—	—	—	—	—	—	—	—	砂土質	漆	漆	漆地・漆膜
n	1号標A-C	17	陶器	砂土質	—	—	—	—	—	—	—	—	砂土質	漆	漆	漆地・漆膜
n	2号標	18	陶器	砂土質	—	—	—	—	—	—	—	—	砂土質	漆	漆	漆地・漆膜
n	1号標A	19	陶器	砂土質	—	—	—	—	—	—	—	—	砂土質	漆	漆	漆地・漆膜
n	5号標	20	陶器	砂土質	—	—	—	—	—	—	—	—	砂土質	漆	漆	漆地・漆膜
n	3号標	21	陶器	砂土質	—	—	—	—	—	—	—	—	砂土質	漆	漆	漆地・漆膜
n	3号標	22	陶器	砂土質	—	—	—	—	—	—	—	—	砂土質	漆	漆	漆地・漆膜
n	5号片状	23	陶器	砂土質	—	—	—	—	—	—	—	—	砂土質	漆	漆	漆地・漆膜
n	1号標A	24	陶器	砂土質	—	—	—	—	—	—	—	—	砂土質	漆	漆	漆地・漆膜
n	2号標	25	陶器	砂土質	—	—	—	—	—	—	—	—	砂土質	漆	漆	漆地・漆膜
n	5号片状	26	陶器	砂土質	—	—	—	—	—	—	—	—	砂土質	漆	漆	漆地・漆膜
n	1号標A	27	陶器	砂土質	—	—	—	—	—	—	—	—	砂土質	漆	漆	漆地・漆膜
n	5号標	28	陶器	砂土質	—	—	—	—	—	—	—	—	砂土質	漆	漆	漆地・漆膜
n	5号標	29	陶器	砂土質	—	—	—	—	—	—	—	—	砂土質	漆	漆	漆地・漆膜
n	1号標A	30	陶器	砂土質	—	—	—	—	—	—	—	—	砂土質	漆	漆	漆地・漆膜
n	1号標	31	陶器	砂土質	—	—	—	—	—	—	—	—	砂土質	漆	漆	漆地・漆膜
n	5号標	32	陶器	砂土質	—	—	—	—	—	—	—	—	砂土質	漆	漆	漆地・漆膜
n	2号標	33	陶器	砂土質	—	—	—	—	—	—	—	—	砂土質	漆	漆	漆地・漆膜
n	5号標	34	陶器	砂土質	—	—	—	—	—	—	—	—	砂土質	漆	漆	漆地・漆膜
n	17号標	35	陶器	砂土質	—	—	—	—	—	—	—	—	砂土質	漆	漆	漆地・漆膜
n	10号土坑	36	陶器	砂土質	—	—	—	—	—	—	—	—	砂土質	漆	漆	漆地・漆膜
n	3号標	37	陶器	砂土質	—	—	—	—	—	—	—	—	砂土質	漆	漆	漆地・漆膜

第5表 西前沖遺跡C地点出土遺物觀察表(2)

品目番号	遺物番号	名	器種	性状	造形・形態	口径	底径	高さ	色調・施土・施土	施土	表面	成形法・裏面・文様の特徴・備考	生産地・販路
第50回	2号井D	36	陶製品	輪形	輪形	長3.4	幅1.9	厚0.7	施土無し	無	無	無	無
n	ピースA	39	陶製品	輪形	輪形	長3.3	幅1.8	厚0.6	施土無し	無	無	無	無
n	ピースB	41	陶製品	輪形	輪形	長3.8	幅1.1	厚0.6	施土無し	無	無	無	無
n	29号遺物	42	陶製品	輪形	輪形	長3.0	幅1.0	厚0.6	施土無し	無	無	無	無
n	3号遺物	43	陶製品	輪形	輪形	長3.5	幅1.2	厚0.6	施土無し	無	無	無	無
n	23号遺物	44	陶製品	輪形	輪形	長3.5	幅1.2	厚0.6	施土無し	無	無	無	無
第50回	25号遺物	45	陶製品	輪形	輪形	長3.8	幅1.2	厚0.6	施土無し	無	無	無	無
n	ピースA	46	陶製品	輪形	輪形	長3.5	幅1.2	厚0.6	施土無し	無	無	無	無
n	4号井D	47	陶製品	輪形	輪形	長3.5	幅1.2	厚0.6	施土無し	無	無	無	無
n	9号遺物	48	陶製品	輪形	輪形	長3.5	幅1.2	厚0.6	施土無し	無	無	無	無
n	2号遺物	49	陶製品	輪形	輪形	長3.5	幅1.2	厚0.6	施土無し	無	無	無	無
n	31号遺物	50	陶製品	輪形	輪形	長3.5	幅1.2	厚0.6	施土無し	無	無	無	無
n	7号遺物	52	陶製品	輪形	輪形	長3.5	幅1.2	厚0.6	施土無し	無	無	無	無
n	1号遺物	53	陶製品	輪形	輪形	長3.5	幅1.2	厚0.6	施土無し	無	無	無	無
第51回	5号遺物上	54	陶製品	輪形	輪形	長3.6	幅1.2	厚0.6	施土無し	無	無	無	無
n	55号遺物	55	陶製品	輪形	輪形	長3.6	幅1.2	厚0.6	施土無し	無	無	無	無
n	通物C	56	陶製品	輪形	輪形	長3.6	幅1.2	厚0.6	施土無し	無	無	無	無
n	4号井D	57	陶製品	輪形	輪形	長3.6	幅1.2	厚0.6	施土無し	無	無	無	無
n	10号遺物	58	陶製品	輪形	輪形	長3.6	幅1.2	厚0.6	施土無し	無	無	無	無
n	9号遺物	59	陶製品	輪形	輪形	長3.6	幅1.2	厚0.6	施土無し	無	無	無	無
第52回	2号遺物	60	陶製品	輪形	輪形	長3.6	幅1.2	厚0.6	施土無し	無	無	無	無
n	2号遺物	61	陶製品	輪形	輪形	長3.6	幅1.2	厚0.6	施土無し	無	無	無	無
n	5号井D	62	陶製品	輪形	輪形	長3.6	幅1.2	厚0.6	施土無し	無	無	無	無
n	5号井D	63	陶製品	輪形	輪形	長3.6	幅1.2	厚0.6	施土無し	無	無	無	無
n	4号井D	64	陶製品	輪形	輪形	長3.6	幅1.2	厚0.6	施土無し	無	無	無	無
第53回	5号井D	65	陶製品	輪形	輪形	長3.6	幅1.2	厚0.6	施土無し	無	無	無	無
n	5号井D	66	陶製品	輪形	輪形	長3.6	幅1.2	厚0.6	施土無し	無	無	無	無
n	1号遺物	67	陶製品	輪形	輪形	長3.6	幅1.2	厚0.6	施土無し	無	無	無	無
n	5号井D	68	陶製品	輪形	輪形	長3.6	幅1.2	厚0.6	施土無し	無	無	無	無
n	1号遺物	69	陶製品	輪形	輪形	長3.6	幅1.2	厚0.6	施土無し	無	無	無	無
n	70	陶製品	輪形	輪形	長3.6	幅1.2	厚0.6	施土無し	無	無	無	無	
n	2号井D	71	陶製品	輪形	輪形	長3.6	幅1.2	厚0.6	施土無し	無	無	無	無
n	2号井D	72	陶製品	輪形	輪形	長3.6	幅1.2	厚0.6	施土無し	無	無	無	無
n	1号遺物	73	陶製品	輪形	輪形	長3.6	幅1.2	厚0.6	施土無し	無	無	無	無
n	2号井D	74	陶製品	輪形	輪形	長3.6	幅1.2	厚0.6	施土無し	無	無	無	無
n	75	陶製品	輪形	輪形	長3.6	幅1.2	厚0.6	施土無し	無	無	無	無	
第54回	2号井D	76	陶製品	輪形	輪形	長3.6	幅1.2	厚0.6	施土無し	無	無	無	無
n	77	陶製品	輪形	輪形	長3.6	幅1.2	厚0.6	施土無し	無	無	無	無	
n	2号井D	78	陶製品	輪形	輪形	長3.6	幅1.2	厚0.6	施土無し	無	無	無	無
n	4号井D	79	陶製品	輪形	輪形	長3.6	幅1.2	厚0.6	施土無し	無	無	無	無
第55回	80	陶製品	輪形	輪形	長3.6	幅1.2	厚0.6	施土無し	無	無	無	無	
n	81	陶製品	輪形	輪形	長3.6	幅1.2	厚0.6	施土無し	無	無	無	無	

出土遺物觀察表

表5 西前冲遺跡C地点出土遺物觀察表(4)

第5表 西前冲遺跡C地点出土遺物観察表(5)

第6表 西前冲遺跡F地点出土遺物觀察表(1)

第6表 西前沖遺跡F地点出土遺物觀察表(2)

測量番号	遺物番号	番号	器種	器形	遺存狀態	口徑	體高	色調・胎土	施 工	生産地・時期
第760回 17号工作場	石	35	陶器	盆子丸頭	上緣斜直	9.2	—	青釉(?)	内削・外磨、輪郭線・之字形切口、輪郭	新石器・馬家浜文化
石	36	陶器	盆子丸頭	下緣直	—	—	青釉(?)	内削・外磨、輪郭線・之字形切口、輪郭	新石器・馬家浜文化	
石	39	陶器	盆子	輪郭線	—	—	青釉(?)	内削・外磨、輪郭線・之字形切口、輪郭	新石器・馬家浜文化	
石	40	陶器	盆子	輪郭線	—	—	青釉(?)	内削・外磨、輪郭線・之字形切口、輪郭	新石器・馬家浜文化	
石	41	陶器	盆子	輪郭線	—	—	青釉(?)	内削・外磨、輪郭線・之字形切口、輪郭	新石器・馬家浜文化	
石	42	陶器	盆子	輪郭線	—	—	青釉(?)	内削・外磨、輪郭線・之字形切口、輪郭	新石器・馬家浜文化	
石	43	陶器	盆子	輪郭線	—	—	青釉(?)	内削・外磨、輪郭線・之字形切口、輪郭	新石器・馬家浜文化	
石	44	陶器	盆子	輪郭線	—	—	青釉(?)	内削・外磨、輪郭線・之字形切口、輪郭	新石器・馬家浜文化	
石	45	陶器	盆子	輪郭線	—	—	青釉(?)	内削・外磨、輪郭線・之字形切口、輪郭	新石器・馬家浜文化	
石	46	陶器	盆子	輪郭線	—	—	青釉(?)	内削・外磨、輪郭線・之字形切口、輪郭	新石器・馬家浜文化	
石	47	陶器	盆子	輪郭線	—	—	青釉(?)	内削・外磨、輪郭線・之字形切口、輪郭	新石器・馬家浜文化	
石	48	陶器	盆子(手切)	輪郭線	—	—	青釉(?)	内削・外磨、輪郭線・之字形切口、輪郭	新石器・馬家浜文化	
石	49	陶器	盆子	輪郭線	—	—	青釉(?)	内削・外磨、輪郭線・之字形切口、輪郭	新石器・馬家浜文化	
石	50	陶器	盆子	輪郭線	—	—	青釉(?)	内削・外磨、輪郭線・之字形切口、輪郭	新石器・馬家浜文化	
第760回 16号工作場	51	陶器	盆子	輪郭線	—	—	青釉(?)	内削・外磨、輪郭線・之字形切口、輪郭	新石器・馬家浜文化	
石	52	陶器	盆子	輪郭線	—	—	青釉(?)	内削・外磨、輪郭線・之字形切口、輪郭	新石器・馬家浜文化	
石	53	陶器	盆子	輪郭線	—	—	青釉(?)	内削・外磨、輪郭線・之字形切口、輪郭	新石器・馬家浜文化	
石	54	陶器	盆子	輪郭線	—	—	青釉(?)	内削・外磨、輪郭線・之字形切口、輪郭	新石器・馬家浜文化	
石	55	陶器	盆子	輪郭線	—	—	青釉(?)	内削・外磨、輪郭線・之字形切口、輪郭	新石器・馬家浜文化	
石	56	陶器	盆子	輪郭線	—	—	青釉(?)	内削・外磨、輪郭線・之字形切口、輪郭	新石器・馬家浜文化	
石	57	陶器	盆子	輪郭線	—	—	青釉(?)	内削・外磨、輪郭線・之字形切口、輪郭	新石器・馬家浜文化	
第760回 17号工作場	58	陶器	盆子	輪郭線	—	—	青釉(?)	内削・外磨、輪郭線・之字形切口、輪郭	新石器・馬家浜文化	
石	59	陶器	盆子	輪郭線	—	—	青釉(?)	内削・外磨、輪郭線・之字形切口、輪郭	新石器・馬家浜文化	
石	60	陶器	盆子	輪郭線	—	—	青釉(?)	内削・外磨、輪郭線・之字形切口、輪郭	新石器・馬家浜文化	
石	61	陶器	盆子	輪郭線	—	—	青釉(?)	内削・外磨、輪郭線・之字形切口、輪郭	新石器・馬家浜文化	
石	62	陶器	盆子	輪郭線	—	—	青釉(?)	内削・外磨、輪郭線・之字形切口、輪郭	新石器・馬家浜文化	
石	63	陶器	盆子	輪郭線	—	—	青釉(?)	内削・外磨、輪郭線・之字形切口、輪郭	新石器・馬家浜文化	
石	64	陶器	盆子	輪郭線	—	—	青釉(?)	内削・外磨、輪郭線・之字形切口、輪郭	新石器・馬家浜文化	
石	65	陶器	盆子	輪郭線	—	—	青釉(?)	内削・外磨、輪郭線・之字形切口、輪郭	新石器・馬家浜文化	
第760回 18号工作場	66	陶器	盆子	輪郭線	—	—	青釉(?)	内削・外磨、輪郭線・之字形切口、輪郭	新石器・馬家浜文化	
石	67	陶器	盆子	輪郭線	—	—	青釉(?)	内削・外磨、輪郭線・之字形切口、輪郭	新石器・馬家浜文化	
石	68	陶器	盆子	輪郭線	—	—	青釉(?)	内削・外磨、輪郭線・之字形切口、輪郭	新石器・馬家浜文化	

第7表 西前沖遺跡D地点出土遺物觀察表(1)

測量番号	遺物番号	番号	器種	器形	遺存狀態	口徑	體高	色調・胎土	施 工	生産地・時期
第760回 10号工作場	1	土師器	罐	かづらけ	遺存狀態	7.9	1.8	灰褐色	内削・外磨、輪郭線・之字形切口、輪郭	新石器・良渚文化
石	2	土師器	丸皿	かづらけ	底盤	11.5	2.6	灰褐色	内削・外磨、輪郭線・之字形切口、輪郭	新石器・良渚文化
石	3	土師器	丸皿	かづらけ	底盤	11.4	2.3	灰褐色	内削・外磨、輪郭線・之字形切口、輪郭	新石器・良渚文化
石	4	陶器	丸皿	かづらけ	底盤	11.0	2.6	5.9 綠色	内削・外磨、輪郭線・之字形切口、輪郭	新石器・良渚文化
石	5	陶器	丸皿	かづらけ	底盤	11.8	2.2	7.4 黃褐色	内削・外磨、輪郭線・之字形切口、輪郭	新石器・良渚文化
石	6	陶器	丸皿	かづらけ	底盤	13.7	2.5	5.9 黃褐色	内削・外磨、輪郭線・之字形切口、輪郭	新石器・良渚文化
石	7	陶器	丸皿	かづらけ	底盤	—	—	6.0 黃褐色	内削・外磨、輪郭線・之字形切口、輪郭	新石器・良渚文化
石	8	陶器	丸皿	かづらけ	底盤	—	—	4.5 淺褐色	内削・外磨、輪郭線・之字形切口、輪郭	新石器・良渚文化
石	9	陶器	丸皿	かづらけ	底盤	—	—	6.3 淺褐色	内削・外磨、輪郭線・之字形切口、輪郭	新石器・良渚文化

第7表 西前沖遺跡D地点出土遺物觀察表(2)

器物番号	遺物名	器種	器形	遺存地點	口径	腹深	前深	色別・胎土	胎・素	生産地・時期
P	A.5.6.7.8.北	10 鏊	打明皿	空腹	9.6	1.9	5.0	赤褐色帶赤	赤褐色	赤褐色帶赤。内腹面・外腹面・側面・底面。14C後。
P	1.1.-2.7.北	11 鏊	打明皿	空腹	10.0	2.0	4.5	赤褐色帶赤	赤褐色	赤褐色帶赤。内腹面・外腹面・側面・底面。14C後。
P	12 鏊	打明皿	空腹	10.6	3.0	4.5	赤褐色帶赤	赤褐色	赤褐色帶赤。内腹面・外腹面・側面・底面。14C後。	
P	土型切削	13 鏊	打明皿	1.1B-1.1C-赤	10.6	3.0	4.5	赤褐色帶赤	赤褐色	赤褐色帶赤。内腹面・外腹面・側面・底面。14C後。
P	14 直筒型	13 鏊	打明皿	空腹	4.3	1.0	2.5	赤褐色帶赤	赤褐色	赤褐色帶赤。内腹面・外腹面・側面・底面。14C後。
P	A.K.瓶	15 鏊	打明皿	小口小片	—	—	4.6	赤褐色帶赤	赤褐色	赤褐色帶赤。内腹面・外腹面・側面・底面。14C後。
P	燒過的	16 鏊	打明皿	小口	—	—	6.8	赤褐色帶赤	赤褐色	赤褐色帶赤。内腹面・外腹面・側面・底面。14C後。
P	17 直筒	17 鏊	打明皿	小口直	—	—	6.8	赤褐色帶赤	赤褐色	赤褐色帶赤。内腹面・外腹面・側面・底面。14C後。
P	18 直筒	18 鏊	打明皿	直筒	17.8	—	—	赤褐色	赤褐色	赤褐色。内腹面・外腹面・側面・底面。14C後。
P	19 鏊	19 鏊	打明皿	直筒	17.0/1.5	—	—	赤褐色	赤褐色	赤褐色。内腹面・外腹面・側面・底面。14C後。
P	20 圓盤	20 圓盤	盤	直筒	—	—	—	赤褐色	赤褐色	赤褐色。内腹面・外腹面・側面・底面。14C後。
P	土型切削	21 圓盤	盤	直筒	—	—	—	赤褐色	赤褐色	赤褐色。内腹面・外腹面・側面・底面。14C後。
P	22 烧熟品	22 烧熟品	盤	直筒	—	—	—	赤褐色	赤褐色	赤褐色。内腹面・外腹面・側面・底面。14C後。
P	燒記憶	23 烧熟品	盤	直筒	—	—	—	赤褐色	赤褐色	赤褐色。内腹面・外腹面・側面・底面。14C後。
P	24 烧熟品	24 烧熟品	盤	直筒	—	—	—	赤褐色	赤褐色	赤褐色。内腹面・外腹面・側面・底面。14C後。
P	燒的燒的	25 瓢	碗	短足厚壁	6.8	3.1	3.4	赤褐色	赤褐色	赤褐色。内腹面・外腹面・側面・底面。14C後。
號16684	1.1レ-2.チ北	26 鏊	打明皿	1.1B-1.2C	7.0	5.2	3.7	赤褐色	赤褐色	赤褐色。内腹面・外腹面・側面・底面。14C後。
P	27 鏊	27 鏊	打明皿	空腹	6.9	3.7	3.6	赤褐色	赤褐色	赤褐色。内腹面・外腹面・側面・底面。14C後。
P	28 鏊	28 鏊	打明皿	空腹	7.29	—	—	赤褐色	赤褐色	赤褐色。内腹面・外腹面・側面・底面。14C後。
P	29 鏊	29 鏊	打明皿	空腹	1.5	8.4	—	赤褐色	赤褐色	赤褐色。内腹面・外腹面・側面・底面。14C後。
P	西土型瓶	30 鏊	打明皿	空腹	1.40	9.2	5.3	4.4	赤褐色	赤褐色。内腹面・外腹面・側面・底面。14C後。
P	1.1-2.2チ北	31 鏊	打明皿	空腹	1.4	10.0	5.3	4.0	赤褐色	赤褐色。内腹面・外腹面・側面・底面。14C後。
P	32 鏊	32 鏊	打明皿	1.1B-2.3C	8.6	5.2	3.5	赤褐色	赤褐色	赤褐色。内腹面・外腹面・側面・底面。14C後。
P	33 鏊	33 鏊	打明皿	1.1B-2.3C	8.6	5.1	3.5	赤褐色	赤褐色	赤褐色。内腹面・外腹面・側面・底面。14C後。
P	34 鏊	34 鏊	打明皿	小嘴	7.0	3.3	2.8	赤褐色	赤褐色	赤褐色。内腹面・外腹面・側面・底面。14C後。
P	35 鏊	35 鏊	打明皿	空腹	7.0/1.2	—	—	赤褐色	赤褐色	赤褐色。内腹面・外腹面・側面・底面。14C後。
P	土型切削	36 鏊	打明皿	空腹	7.1/1.2	—	—	赤褐色	赤褐色	赤褐色。内腹面・外腹面・側面・底面。14C後。
P	平底盤	37 鏊	打明皿	空腹	1.6	15.2	3.8	赤褐色	赤褐色	赤褐色。内腹面・外腹面・側面・底面。14C後。
P	燒記憶	38 鏊	打明皿	空腹	—	6.7	6.7	赤褐色	赤褐色	赤褐色。内腹面・外腹面・側面・底面。14C後。
P	土型切削	39 鏊	打明皿	空腹	1.1B-1.4	—	—	赤褐色	赤褐色	赤褐色。内腹面・外腹面・側面・底面。14C後。
P	40 鏊	40 鏊	打明皿	空腹	1.1B-1.4	14.4	—	赤褐色	赤褐色	赤褐色。内腹面・外腹面・側面・底面。14C後。
P	西土型瓶	41 鏊	打明皿	空腹	1.1B-1.4	35.0	—	赤褐色	赤褐色	赤褐色。内腹面・外腹面・側面・底面。14C後。
號16685	1.1レ-2.チ北	42 在地盤上層	匂合	1.1B-1.4	34.0	—	—	赤褐色	赤褐色	赤褐色。内腹面・外腹面・側面・底面。14C後。
P	1号井D	43 在地盤上層	匂合	1.1B-1.4	—	—	—	赤褐色	赤褐色	赤褐色。内腹面・外腹面・側面・底面。14C後。
P	2	44 在地盤上層	匂合	1.1B-1.4	39.3	5.5	9	赤褐色	赤褐色	赤褐色。内腹面・外腹面・側面・底面。14C後。
P	1.1レ-2.チ北	45 在地盤上層	匂合	1.1B-1.4	—	—	—	赤褐色	赤褐色	赤褐色。内腹面・外腹面・側面・底面。14C後。
P	6号井D	46 在地盤上層	匂合	1.1B-1.4	—	—	—	赤褐色	赤褐色	赤褐色。内腹面・外腹面・側面・底面。14C後。
P	燒記憶	47 在地盤上層	匂合	1.1B-1.4	—	—	—	赤褐色	赤褐色	赤褐色。内腹面・外腹面・側面・底面。14C後。
P	燒記憶	48 在地盤上層	匂合	1.1B-1.4	—	—	—	赤褐色	赤褐色	赤褐色。内腹面・外腹面・側面・底面。14C後。
P	燒記憶	49 在地盤上層	匂合	1.1B-1.4	—	—	—	赤褐色	赤褐色	赤褐色。内腹面・外腹面・側面・底面。14C後。
P	A.K.	50 在地盤上層	匂合	1.1B-1.4	—	—	—	赤褐色	赤褐色	赤褐色。内腹面・外腹面・側面・底面。14C後。
P	6号井D	51 在地盤上層	匂合	1.1B-1.4	—	—	—	赤褐色	赤褐色	赤褐色。内腹面・外腹面・側面・底面。14C後。
P	燒記憶	52 在地盤上層	匂合	1.1B-1.4	—	—	—	赤褐色	赤褐色	赤褐色。内腹面・外腹面・側面・底面。14C後。
P	1.1レ-2.チ	53 在地盤上層	匂合	1.1B-1.4	—	—	—	赤褐色	赤褐色	赤褐色。内腹面・外腹面・側面・底面。14C後。
P	1号井D	54 在地盤上層	匂合	1.1B-1.4	—	—	—	赤褐色	赤褐色	赤褐色。内腹面・外腹面・側面・底面。14C後。
P	2	55 在地盤上層	匂合	1.1B-1.4	—	—	—	赤褐色	赤褐色	赤褐色。内腹面・外腹面・側面・底面。14C後。

第7表 西前沖遺跡D地点出土遺物觀察表(3)

出土品番	標識番号	器種	器名	形態	測定値	口径	底面	色調・胎土	施 工	生産地・時期
D-1585	55	在地物・圓盤	圓盤小片	上端斜面 下端直面	—	—	灰褐色	外輪子削出小片	手打・輪打	江戸時代
D-1586	56	在地物・圓盤	圓盤小片	上端斜面 下端直面	—	—	灰褐色	外輪子削出小片	手打・輪打	江戸時代
D-1587	57	在地物・圓盤	圓盤小片	上端斜面 下端直面	—	—	灰褐色	外輪子削出小片	手打・輪打	江戸時代
D-1588	58	石製品	石棒	直棒	16.0cm	15.2	—	—	磨打	磨打・研磨
D-1589	59	石製品	石棒	直棒	16.0cm	15.2	—	—	磨打	磨打・研磨
D-1590	60	石製品	石棒	直棒	16.0cm	15.2	—	—	磨打	磨打・研磨
D-1591	61	石製品	石棒	直棒	27.0cm	—	—	—	磨打	磨打・研磨
D-1592	62	石製品	石棒	直棒	27.0cm	—	—	—	磨打	磨打・研磨
D-1593	63	石製品	石棒	直棒	27.0cm	—	—	—	磨打	磨打・研磨
D-1594	64	石製品	石棒	直棒	27.0cm	—	—	—	磨打	磨打・研磨
D-1595	65	石製品	石棒	直棒	27.0cm	—	—	—	磨打	磨打・研磨
D-1596	66	石製品	石棒	直棒	27.0cm	—	—	—	磨打	磨打・研磨
D-1597	67	石製品	石棒	直棒	27.0cm	—	—	—	磨打	磨打・研磨
D-1598	68	石製品	石棒	直棒	27.0cm	—	—	—	磨打	磨打・研磨
D-1599	69	石製品	石棒	直棒	27.0cm	—	—	—	磨打	磨打・研磨
D-1600	70	石製品	石棒	直棒	27.0cm	—	—	—	磨打	磨打・研磨
D-1601	71	石製品	石棒	直棒	27.0cm	—	—	—	磨打	磨打・研磨
D-1602	72	石製品	石棒	直棒	27.0cm	—	—	—	磨打	磨打・研磨
D-1603	73	石製品	石棒	直棒	27.0cm	—	—	—	磨打	磨打・研磨
D-1604	74	石製品	石棒	直棒	27.0cm	—	—	—	磨打	磨打・研磨
D-1605	75	石製品	石棒	直棒	27.0cm	—	—	—	磨打	磨打・研磨
D-1606	76	石製品	石棒	直棒	27.0cm	—	—	—	磨打	磨打・研磨
D-1607	77	石製品	石棒	直棒	27.0cm	—	—	—	磨打	磨打・研磨
D-1608	78	石製品	石棒	直棒	27.0cm	—	—	—	磨打	磨打・研磨
D-1609	79	石製品	石棒	直棒	27.0cm	—	—	—	磨打	磨打・研磨
D-1610	80	石製品	石棒	直棒	27.0cm	—	—	—	磨打	磨打・研磨
D-1611	81	石製品	石棒	直棒	27.0cm	—	—	—	磨打	磨打・研磨
D-1612	82	石製品	石棒	直棒	27.0cm	—	—	—	磨打	磨打・研磨
D-1613	83	石製品	石棒	直棒	27.0cm	—	—	—	磨打	磨打・研磨
D-1614	84	石製品	石棒	直棒	27.0cm	—	—	—	磨打	磨打・研磨
D-1615	85	石製品	石棒	直棒	27.0cm	—	—	—	磨打	磨打・研磨
D-1616	86	石製品	石棒	直棒	27.0cm	—	—	—	磨打	磨打・研磨
D-1617	87	石製品	石棒	直棒	27.0cm	—	—	—	磨打	磨打・研磨
D-1618	88	石製品	石棒	直棒	27.0cm	—	—	—	磨打	磨打・研磨
D-1619	89	石製品	直棒	直棒	27.0cm	—	—	—	磨打	磨打・研磨
D-1620	90	土製品	土燒杯	上端斜面 下端直面	16.0cm	15.2	—	—	磨打	磨打・研磨
D-1621	91	土製品	土燒杯	上端斜面 下端直面	16.0cm	15.2	—	—	磨打	磨打・研磨
D-1622	92	土製品	土燒杯	上端斜面 下端直面	16.0cm	15.2	—	—	磨打	磨打・研磨
D-1623	93	土製品	土燒杯	上端斜面 下端直面	16.0cm	15.2	—	—	磨打	磨打・研磨
D-1624	94	土製品	土燒杯	上端斜面 下端直面	16.0cm	15.2	—	—	磨打	磨打・研磨
D-1625	95	土製品	土燒杯	上端斜面 下端直面	16.0cm	15.2	—	—	磨打	磨打・研磨
D-1626	96	土製品	土燒杯	上端斜面 下端直面	16.0cm	15.2	—	—	磨打	磨打・研磨
D-1627	97	石製品	石棒	直棒	16.0cm	15.2	—	—	磨打	磨打・研磨
D-1628	98	石製品	石棒	直棒	16.0cm	15.2	—	—	磨打	磨打・研磨
D-1629	99	石製品	石棒	直棒	16.0cm	15.2	—	—	磨打	磨打・研磨
D-1630	100	石製品	石棒	直棒	16.0cm	15.2	—	—	磨打	磨打・研磨
D-1631	101	石製品	石棒	直棒	16.0cm	15.2	—	—	磨打	磨打・研磨

第 7 表 西前沖遺跡 D 地点出土實物觀察表(4)

地點番号	遺物番号	品名	器 形	直 徑	體 高	底 高	口 径	形狀	色調・土 壤	施 工	生 造	時 期
第 3 号	102 石製品	鑿 1	環	163.4, 7.8	164.0	7.3	164.3	圓底盤	黑色・褐色	圓底盤	有磨損，有裂紋。文様の付帯・側面に墨色・黒色	西周初期
n	163 石製品	鑿 2	環	163.4, 7.8	165.0	6.5	165.7	圓底盤	黑色・褐色	圓底盤	有磨損，有裂紋。文様の付帯・側面に墨色・黒色	西周初期
n	165 石製品	鑿 3	環	163.4, 7.8	165.9	6.4	165.7	圓底盤	黑色・褐色	圓底盤	有磨損，有裂紋。文様の付帯・側面に墨色・黒色	西周初期
n	3-1 陶片	盆 1	盆	161.7	12.3	8.0	165.2	圓底盤	黑色	圓底盤	有磨損，有裂紋。文様の付帯・側面に墨色・黒色	西周初期
n	165 玉製品	管 1	管	161.1	4.9	2.6	161.2	圓底盤	白色	圓底盤	有磨損，有裂紋。文様の付帯・側面に墨色・黒色	西周初期
n	166 玉製品	管 2	管	161.1	4.9	2.6	161.2	圓底盤	白色	圓底盤	有磨損，有裂紋。文様の付帯・側面に墨色・黒色	西周初期
n	167 玉製品	管 3	管	161.1	4.9	2.6	161.2	圓底盤	白色	圓底盤	有磨損，有裂紋。文様の付帯・側面に墨色・黒色	西周初期
n	168 玉製品	管 4	管	161.1	4.9	2.6	161.2	圓底盤	白色	圓底盤	有磨損，有裂紋。文様の付帯・側面に墨色・黒色	西周初期
n	169 玉製品	管 5	管	161.1	4.9	2.6	161.2	圓底盤	白色	圓底盤	有磨損，有裂紋。文様の付帯・側面に墨色・黒色	西周初期
n	6-1 陶片	盆 2	盆	161.4, 7.8	165.6	5.6	165.6	圓底盤	黑色	圓底盤	有磨損，有裂紋。文様の付帯・側面に墨色・黒色	西周初期
n	110 石製品	鑿 6	鑿	161.2	11.1	7.6	163.3	圓底盤	黑色	圓底盤	有磨損，有裂紋。文様の付帯・側面に墨色・黒色	西周初期
n	111 石製品	鑿 7	鑿	161.2	11.1	7.6	163.3	圓底盤	黑色	圓底盤	有磨損，有裂紋。文様の付帯・側面に墨色・黒色	西周初期

第 8 表 西久保遺跡出土實物觀察表(4)

地點番号	遺物番号	品名	器 形	直 徑	體 高	底 高	口 径	形 畫	色 調・施 工	施 工	生 造	時 期
第 3 号	1-1 陶片	环 1	土烧环	163.4	11.9	5.5	164.0	圆底盘	黑色	圆底盘	有磨痕，有裂痕，上部外圈有斜坡，上部内圈有斜坡。	西周中期
n	2 土烧环	环 2	土烧环	163.4	11.9	5.5	164.0	圆底盘	黑色	圆底盘	有磨痕，有裂痕，上部外圈有斜坡，上部内圈有斜坡。	西周中期
n	3 陶片	盆 1	盆	161.1	14.4	10.0	161.4	圆底盘	黑色	圆底盘	有磨痕，有裂痕，上部外圈有斜坡，上部内圈有斜坡。	西周中期
n	4 陶片	盆 2	盆	161.1	14.4	10.0	161.4	圆底盘	黑色	圆底盘	有磨痕，有裂痕，上部外圈有斜坡，上部内圈有斜坡。	西周中期
n	5 陶片	管 1	管	161.1	4.9	2.6	161.2	圆底盘	白色	圆底盘	有磨痕，有裂痕，上部外圈有斜坡，上部内圈有斜坡。	西周中期
n	6 陶片	管 2	管	161.1	4.9	2.6	161.2	圆底盘	白色	圆底盘	有磨痕，有裂痕，上部外圈有斜坡，上部内圈有斜坡。	西周中期
n	7 陶片	管 3	管	161.1	4.9	2.6	161.2	圆底盘	白色	圆底盘	有磨痕，有裂痕，上部外圈有斜坡，上部内圈有斜坡。	西周中期
n	8 陶片	管 4	管	161.1	4.9	2.6	161.2	圆底盘	白色	圆底盘	有磨痕，有裂痕，上部外圈有斜坡，上部内圈有斜坡。	西周中期
n	9 陶片	管 5	管	161.1	4.9	2.6	161.2	圆底盘	白色	圆底盘	有磨痕，有裂痕，上部外圈有斜坡，上部内圈有斜坡。	西周中期
n	10 陶片	管 6	管	161.1	4.9	2.6	161.2	圆底盘	白色	圆底盘	有磨痕，有裂痕，上部外圈有斜坡，上部内圈有斜坡。	西周中期
n	11 陶片	管 7	管	161.1	4.9	2.6	161.2	圆底盘	白色	圆底盘	有磨痕，有裂痕，上部外圈有斜坡，上部内圈有斜坡。	西周中期
n	12 陶片	管 8	管	161.1	4.9	2.6	161.2	圆底盘	白色	圆底盘	有磨痕，有裂痕，上部外圈有斜坡，上部内圈有斜坡。	西周中期
n	13 陶片	管 9	管	161.1	4.9	2.6	161.2	圆底盘	白色	圆底盘	有磨痕，有裂痕，上部外圈有斜坡，上部内圈有斜坡。	西周中期
n	14 陶片	管 10	管	161.1	4.9	2.6	161.2	圆底盘	白色	圆底盘	有磨痕，有裂痕，上部外圈有斜坡，上部内圈有斜坡。	西周中期
n	15 陶片	管 11	管	161.1	4.9	2.6	161.2	圆底盘	白色	圆底盘	有磨痕，有裂痕，上部外圈有斜坡，上部内圈有斜坡。	西周中期
n	16 陶片	管 12	管	161.1	4.9	2.6	161.2	圆底盘	白色	圆底盘	有磨痕，有裂痕，上部外圈有斜坡，上部内圈有斜坡。	西周中期
n	17 陶片	管 13	管	161.1	4.9	2.6	161.2	圆底盘	白色	圆底盘	有磨痕，有裂痕，上部外圈有斜坡，上部内圈有斜坡。	西周中期
n	18 陶片	管 14	管	161.1	4.9	2.6	161.2	圆底盘	白色	圆底盘	有磨痕，有裂痕，上部外圈有斜坡，上部内圈有斜坡。	西周中期
n	19 陶片	管 15	管	161.1	4.9	2.6	161.2	圆底盘	白色	圆底盘	有磨痕，有裂痕，上部外圈有斜坡，上部内圈有斜坡。	西周中期
n	20 陶片	管 16	管	161.1	4.9	2.6	161.2	圆底盘	白色	圆底盘	有磨痕，有裂痕，上部外圈有斜坡，上部内圈有斜坡。	西周中期
n	21 陶片	管 17	管	161.1	4.9	2.6	161.2	圆底盘	白色	圆底盘	有磨痕，有裂痕，上部外圈有斜坡，上部内圈有斜坡。	西周中期
n	22 陶片	管 18	管	161.1	4.9	2.6	161.2	圆底盘	白色	圆底盘	有磨痕，有裂痕，上部外圈有斜坡，上部内圈有斜坡。	西周中期
n	23 陶片	管 19	管	161.1	4.9	2.6	161.2	圆底盘	白色	圆底盘	有磨痕，有裂痕，上部外圈有斜坡，上部内圈有斜坡。	西周中期
n	24 陶片	管 20	管	161.1	4.9	2.6	161.2	圆底盘	白色	圆底盘	有磨痕，有裂痕，上部外圈有斜坡，上部内圈有斜坡。	西周中期
n	25 陶片	管 21	管	161.1	4.9	2.6	161.2	圆底盘	白色	圆底盘	有磨痕，有裂痕，上部外圈有斜坡，上部内圈有斜坡。	西周中期
n	26 陶片	管 22	管	161.1	4.9	2.6	161.2	圆底盘	白色	圆底盘	有磨痕，有裂痕，上部外圈有斜坡，上部内圈有斜坡。	西周中期
n	27 陶片	管 23	管	161.1	4.9	2.6	161.2	圆底盘	白色	圆底盘	有磨痕，有裂痕，上部外圈有斜坡，上部内圈有斜坡。	西周中期
n	28 陶片	管 24	管	161.1	4.9	2.6	161.2	圆底盘	白色	圆底盘	有磨痕，有裂痕，上部外圈有斜坡，上部内圈有斜坡。	西周中期



## 東前沖遺跡( I・II 区)

PL1－PL26 出土遺構  
PL61－PL69 出土遺物





I 区 東前冲遺跡基本土層狀況



I 区 1号住居跡遺物出土狀況 (S→)



I 区 1号住居跡貯藏穴遺物出土狀況 (S→)



I 区 1号住居跡南東側出土磨礪石群 (W→)



I 区 1号住居跡竈 (S→)



I 区 1号住居跡完掘状况 (S→)



I 区 1号竖穴遺構 (S→)



I 区 2号竖穴遺構 (S E→)



I区 2号住居跡出土炭化材状況 (W→)



I区 同上 (S→)



I区 2号住居跡出土暗渠状況 (SW→)



I区 2号住居跡竈 (W→)



I区 2号住居跡北西隅出土噴砂 (S→)



I 区 3号住居跡竈 (S→)



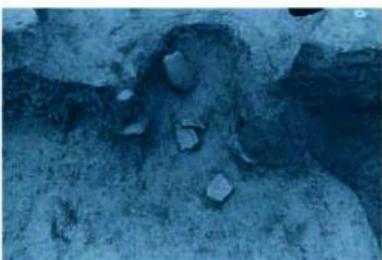
I 区 3号住居跡・3号堅穴遺構 (S→)



I 区 4号住居跡遺物出土状況 (W→)



I 区 4号住居跡土層状況 (SE→)



I 区 4号住居跡竈 (W→)



1号土坑土層狀況 (S→)



2号土坑土層狀況 (E→)



3号土坑完掘狀況 (E→)



4号土坑土層狀況 (E→)



5号土坑土層狀況 (SE→)



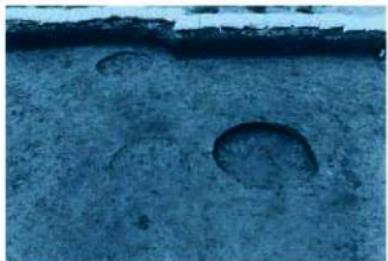
6号土坑土層狀況 (E→)



7号土坑土層狀況 (E→)



8号土坑土層狀況 (E→)



8号～10号土坑 (E→)



10号土坑土層狀況 (E→)



11号～13号土坑 (W→)



14号土坑土層狀況 (E→)



15号土坑土層狀況 (E→)



I 区 16・17号土坑土層狀況 (S→)



I 区 18号土坑土層狀況 (S→)



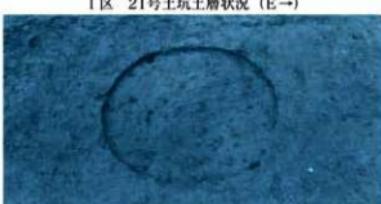
I 区 19・20号土坑土層狀況 (E→)



I 区 21号土坑土層狀況 (E→)



I 区 22号土坑土層狀況 (E→)



I 区 26号土坑完掘狀況 (E→)



I 区 27号 (左) - 28号 (右) 土坑 (→W)



I 区 29号土坑完掘状况 (S→)



I 区 30号 (左) · 31号土坑 (S→)



I 区 40号土坑土層狀況 (S→)



I 区 33号土坑完掘狀況 (N→)



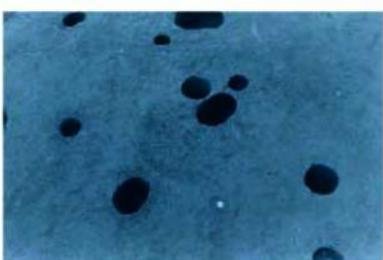
I 区 41号土坑土層狀況 (E→)



I 区 42号土坑土層狀況 (S E→)



I 区 42号土坑完掘狀況 (S E→)



I 区 43号土坑完掘狀況 (E→)



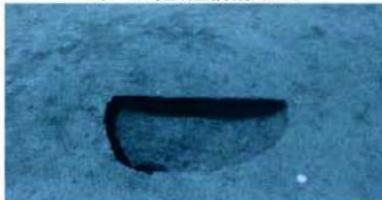
I 区 40号～44号土坑 (W→)



I 区 44号土坑土層狀況 (E→)



I 区 45号土坑土層狀況 (E→)



I 区 46号土坑土層狀況 (E→)



I 区 47号土坑土層狀況 (E→)



I 区 49号・50号土坑土層狀況 (S→)



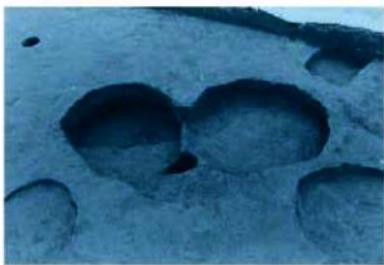
I 区 51号土坑土層狀況 (E→)



I 区 47号～52号土坑 (W→)



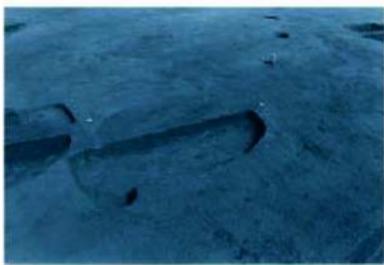
I 区 52号土坑土層狀況 (E→)



I 区 55号～58号土坑 (W→)



I 区 58号土坑 (N→)



I 区 59号土坑土層狀況 (E→)



I 区 60・61号土坑土層狀況 (E→)



I 区 59・60・61号土坑 (W→)



I 区 62号土坑 (N→)



I 区 63号(左)・64号土坑 (N→)



I 区 65・66・67号土坑 (W→)



I 区 68・69・70号土坑 (N→)



I 区 4号住居跡周辺土坑群 (N→)



I 区 78号土坑土層狀況 (N→)



II区 5号居住跡完掘状況 (W→)



II区 5号居住跡南東隅遺物出土状況 (W→)



II区 6号居住跡南東隅遺物出土状況 (S→)



II区 5号居住跡遺物出土状況 (S→)



II区 6号居住跡遺物出土状況 (W→)



II区 6号住居跡遺物出土状況 (N→)



II区 7号住居跡遺物出土状況 (W→)



II区 7号住居跡南東隅遺物出土状況 (E→)



II区 7号住居跡完掘状況 (W→)



II区 7号住居跡遺物出土状況 (S→)



II区 8号住居跡遺物出土状況 (W→)



II区 8号住居跡遺物出土状況 (W→)



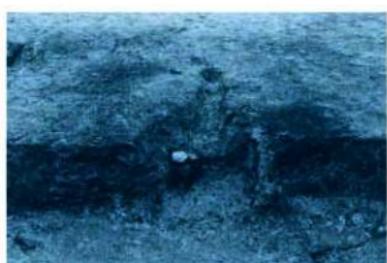
II区 同上完掘状況 (W→)



II区 9号住居跡北東隅遺物出土状況 (S→)



II区 9号住居跡遺物出土状況 (S→)



II区 9号住居跡竈遺物出土状況 (S→)



II区 同上完掘状況 (S→)



II区 10号住居跡遺物出土状況 (W→)



II区 10号住居跡出土遺物 (环) 状況 (N→)



II区 同上完掘状況 (W→)



II区 10号住居跡竈完掘状況 (S→)



II区 11号住居跡遺物出土状況 (W→)



II区 11号住居跡竪穴完掘状況 (W→)



II区 同上完掘状況 (W→)



II区 12号住居跡遺物出土状況 (W→)



II区 12号住居跡南壁下遺物出土状況 (W→)



II区 12号住居跡竪坑状況 (W→)



II区 13号住居跡遺物出土状況 (W→)



II区 13号住居跡南東隅遺物出土状況 (N→)



II区 13号住居跡遺物出土状況 (W→)



II区 13号住居跡完掘状況 (W→)



II区 14号住居跡遺物出土状況 (W→)



II区 14号住居跡付近遺物出土状況 (S E→)



II区 同上北壁下遺物出土状況 (W→)



II区 14号住居跡完掘状況 (W→)



II区 15号住居跡遺物出土状況 (S→)



II区 15号住居跡遺物出土状況 (S E→)



II区 15号住居跡北東隅遺物出土状況 (S→)



II区 15号住居跡竪土層状況 (S E→)



II区 15号住居跡遺物出土状況 (N→)



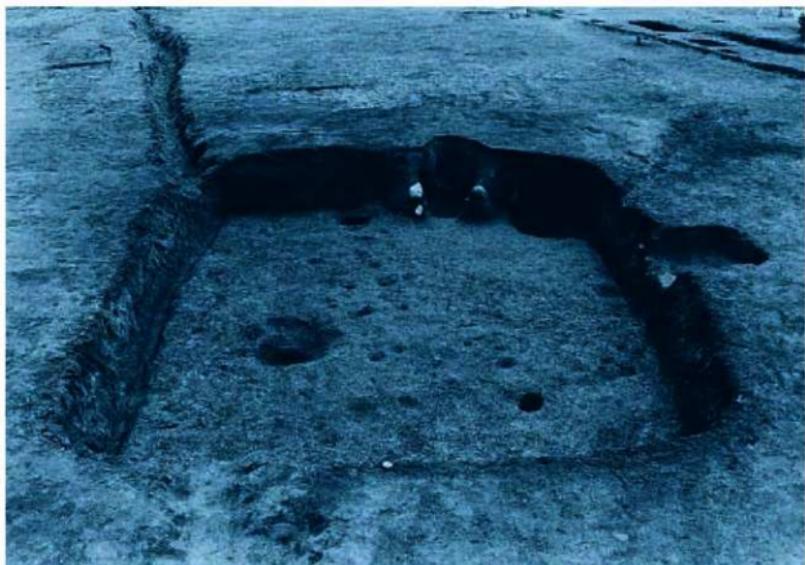
II区 15号住居跡完成状況 (S E→)



II区 16号住居跡遺物出土状況 (W→)



II区 16号住居跡完成状況 (W→)



II区 16号住居跡完成状況 (W→)



II区 17号住居跡南西隅遺物出土状況 (N E→)



II区 17号住居跡埴土層状況 (W→)



II区 18号住居跡遺物出土状況 (N→)



II区 18号住居跡埴土層状況 (S→)



II区 18号住居跡埴土層完掘状況 (W→)



II区 19号住居跡遺物出土状況 (W→)



II区 19号住居跡埴土層状況 (S→)



II区 20号住居跡遺物出土状況 (S→)



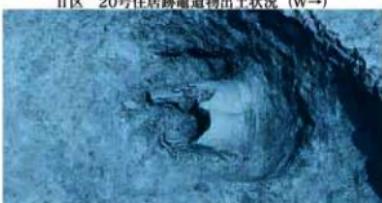
II区 20号住居跡遺物出土状況 (S→)



II区 20号住居跡遺物出土状況 (W→)



II区 21号住居跡遺物出土状況 (S→)



II区 21号住居跡遺物出土状況 (S→)



II区 21号住居跡遺物出土状況 (S→)



II区 21号住居跡遺物出土状況 (S→)



II区 21号住居跡完掘状況 (S→)



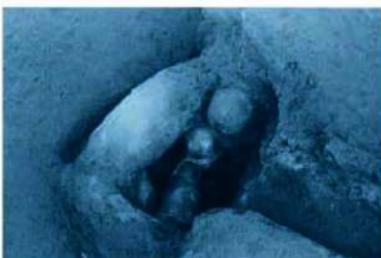
II区 22号住居跡遺物出土状況 (N→)



II区 22号住居跡南壁下遺物出土状況 (N→)



II区 22号住居跡状況 (W→)



II区 同左 (E→)



II区 23号住居跡遺物出土状況 (S→)



II区 23号住居跡完掘状況 (W→)



II区 24号住居跡遺物出土状況 (NE→)



II区 24号住居跡土層状況 (W→)



II区 25号住居跡遺物出土状況 (N→)



II区 25号住居跡遺物出土状況 (W→)



II区 26号住居跡遺物・炭化材出土状況 (E→)



II区 同上北壁下遺物出土状況 (N→)



II区 同上出土土師器器台 (N→)



II区 1号掘立柱建物跡 (W→)



II区 2号掘立柱建物跡 (S→)



II区 3号掘立柱建物跡 (N→)



II区 調査状況



II区 4号掘立柱建物跡 (S→)



II区 81号土坑 (W→)



II区 82号土坑 (S→)



II区 84号(右)・85号(左)土坑 (N→)



II区 86号土坑 (S→)



II区 93号土坑土層狀況 (S→)



II区 87号～91号土坑 (W→)



II区 94号土坑土層狀況 (S→)



II区 95号土坑土層狀況 (S→)



II区 96号土坑土層状況 (S→)



II区 97号～103号土坑 (W→)



II区 100号(手前)・101号(奥側)土坑 (N→)



II区 104号(左)・105号(右)土坑 (S→)



II区 108号土坑土層状況 (S→)



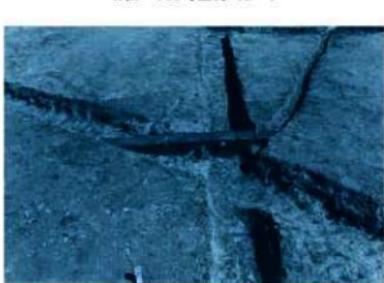
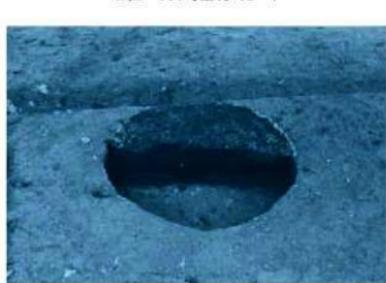
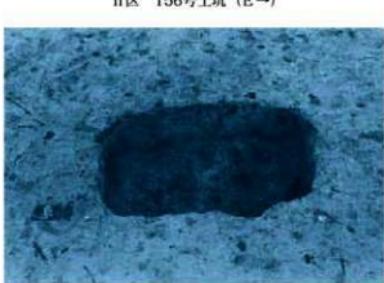
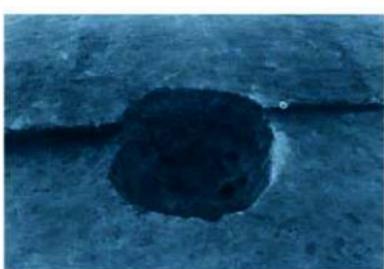
II区 112号土坑土層状況 (S→)



II区 113号土坑土層状況 (W→)



II区 115号土坑土層状況 (S→)





II区 27号溝跡西側コーナー土層状況 (S→)



II区 27号溝跡土層状況 (E→)



II区 17号溝跡土層状況 (S→)



II区 34号溝跡土層状況 (N→)



II区 AA・AB-27・28グリッド縄文遺物集中区 (S→)

# 西前沖遺跡

PL27－PL56 出土遺構  
PL70－PL81 出土遺物





B地点 3号地下式土坑 (W→)



B地点 3号地下式土坑 (E→)



B地点 1号地下式土坑土層狀況 (S→)



B地点 2号地下式土坑土層狀況 (S→)



B地点 1号堅穴住居跡出土香爐



B地点 1号地下式土坑·86号土坑 (E→)



B地点 1号堅穴住居跡土層狀況 (N→)



B地点 1号堅穴住居跡出土鉢皿



B地点 4号地下式土坑完掘状况 (N E→)



B地点 同上 (SW→)



B地点 同上 土層狀況 (S E→)



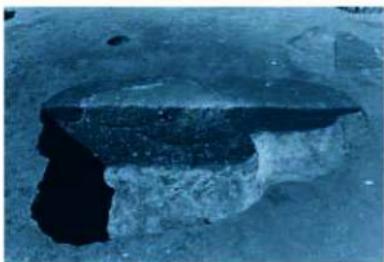
B地点 2号土坑土層狀況 (E→)



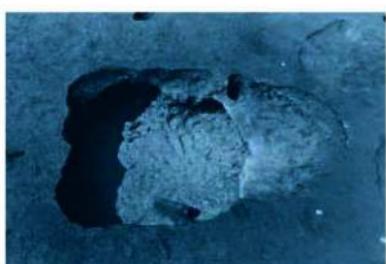
B地点 3号土坑 (E→)



B地点 6号～9号土坑プラン確認状況 (E→)



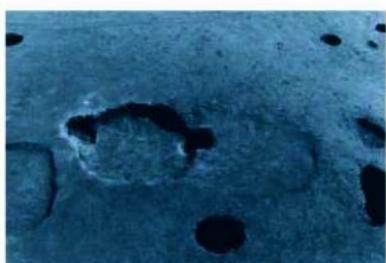
B地点 同左土層状況 (E→)



B地点 同上完掘状況 (E→)



B地点 11号(左)・12号土坑(右) (W→)



B地点 13号(左)・14号土坑(W→)



B地点 15号土坑 (W→)



B地点 16号土坑 (S→)



B地点 16号土坑遺物出土状況 (E→)



B地点 22号土坑 (W→)



B地点 21号土坑 (W→)



B地点 23号土坑 (W→)



B地点 23号土坑遺物出土状况 (W→)



B地点 24号土坑 (E→)



B地点 25号土坑土層狀況 (E→)



B地点 27号土坑 (W→)



B地点 31号土坑 (E→)



B地点 32号土坑 (S→)



B地点 33号土坑銭寶出土狀況 (E→)



B地点 35号土坑 (E→)



B地点 36号土坑 (S→)



B地点 37号土坑土層狀況 (S→)



B地点 39号土坑土層狀況 (S→)



B地点 41号土坑 (N→)



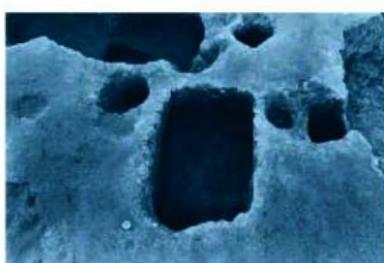
B地点 43号土坑土層狀況 (SW→)



B地点 同左完掘狀況 (SW→)



B地点 48号土坑 (N→)



B地点 50号土坑 (N→)



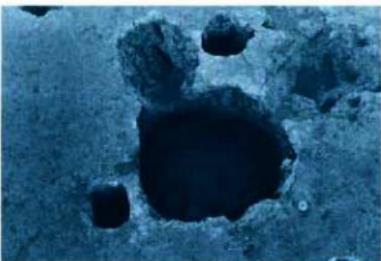
B地点 51号土坑 (W→)



B地点 53号土坑土層狀況 (E→)



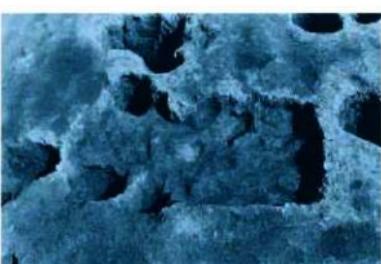
B地点 54号土坑土层状况 (N→)



B地点 55号土坑 (E→)



B地点 56号土坑土层状况 (S→)



B地点 57号土坑 (S→)



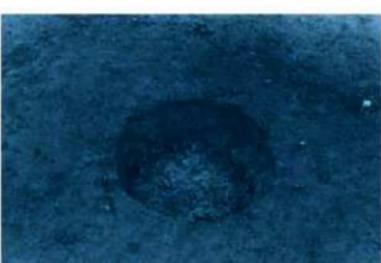
B地点 58号土坑 (W→)



B地点 59号土坑 (E→)



B地点 62号土坑砾出土状况 (W→)



B地点 62号土坑完掘状况 (W→)



B地点 63号土坑砾出土状況 (N→)



B地点 63号土坑完翻状況 (N→)



B地点 64号土坑 (W→)



B地点 65号土坑 (S→)



B地点 調査区北半土坑群 (S→)



B地点 66号土坑遺物出土状况 (W→)



B地点 67号土坑 (E→)



B地点 68号土坑 (S→)



B地点 69号土坑 (W→)



B地点 70号土坑 (W→)



B地点 71号土坑遺物出土状况 (S→)



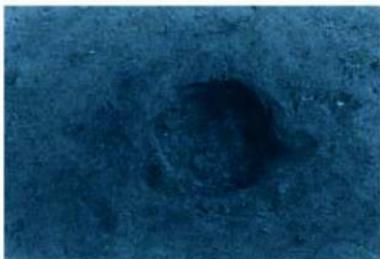
B地点 72号土坑土層狀況 (S→)



B地点 72号土坑完掘状况 (SW→)



B地点 73号土坑出土状况 (S→)



B地点 73号土坑完翻狀況 (S→)



B地点 74号(手前)・75号(奥側)土坑 (N→)



B地点 74・75号土坑 (W→)



B地点 78号土坑土層狀況 (S→)



B地点 80号土坑出土狀況 (N→)



B地点 82号土坑土層狀況 (S→)



B地点 83号土坑 (E→)



B地点 84号土坑土層狀況 (S→)



B地点 84号土坑完掘狀況 (S→)



B地点 87号土坑 (W→)



B地点 89号土坑土層狀況 (W→)



B地点 90号土坑錢貨出土狀況



B地点 90号土坑完掘狀況 (W→)



B地点 91·92号土坑土層狀況 (E→)



B地点 91·92号土坑刀裝具出土狀況



B地点 91号（縦長）・92号（横長）土坑完掘状況（W→）



B地点 93号土坑遺物出土状況（W→）



B地点 同左出土木製形石製品



B地点 94号土坑完掘状況（E→）



B地点 94号土坑土層状況（E→）



B地点 95号土坑 (E→)



B地点 96号土坑 (E→)



B地点 98号~100号土坑土层状况 (E→)



B地点 101号土坑土层状况 (E→)



B地点 105号土坑 (N→)



B地点 111·112号土坑土层状况 (E→)



B地点 114号土坑 (W→)



B地点 115号土坑土层状况 (W→)



B地点 115号土坑完掘状況 (E→)



B地点 122号土坑土層状況 (S→)



B地点 123・125号土坑 (S→)



B地点 1号井戸跡 (S→)



B地点 2号井戸跡 (W→)



B地点 3号井戸跡 (E→)



B地点 4号井戸跡 (N→)



B地点 5号井戸跡 (E→)



B地点 6号井戸跡 (E→)



B地点 7号井戸跡 (W→)



B地点 8号井戸跡遺物出土状況 (W→)



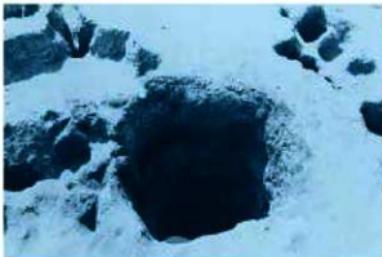
B地点 10号井戸跡 (N→)



B地点 12号井戸跡 (N→)



B地点 14号井戸跡 (W→)



B地点 16号井戸跡 (E→)



B地点 17号井戸跡 (N→)



B地点 18号・19号井戸跡 (N→)



B地点 1号溝跡土刷状況 (W→)



B地点 1号溝跡土層状況 (W→)



B地点 1号溝跡出土石造物



B地点 5号溝跡土層状況 (W→)



B地点 5・6号溝跡土層状況 (E→)



B地点 ピットA銭貨出土状況



B地点 ピットD常滑片出土状況



B地点 ピットEかわらけ出土状況



B地点 ピットG砥石出土状況



B地点 低地部水田跡面耕作痕 (S→)



B地点 低地部水田跡面 (W→)



E地点 低地部水田跡土層狀況 (W→)



E地点 低地部水田跡土層狀況 (SW→)



B地点 低地部水田跡土層狀況 (N→)



E地点 J 1号土坑土層狀況 (S→)



E地点 J 1号土坑完掘狀況 (NW→)



E地点 1・2号竪穴遺構出土狀況 (E→)



E地点 1・2号竪穴遺構土層狀況 (S→)



E地点 127号土坑土層狀況 (S→)



E地点 145号土坑土層状況 (W→)



E地点 127号土坑完掘状況 (W→)



E地点 3号ピット列 ピット1 砥出土状況 (S→)



E地点 3号ピット列 ピット2 砥出土状況 (S→)



E地点 3号ピット列 ピット3 砥出土状況 (S→)



E地点 4号溝跡土層状況 (E→)



E地点 8号溝跡土層状況 (E→)



E地点 20号井戸跡 (S→)



C地点 1号遺構-A(左)・B(中央)・C(右)(S)



C地点 1号遺構土層狀況(SW→)



C地点 7·32·33号遺構(N→)



C地点 7号遺構出土狀況(W→)



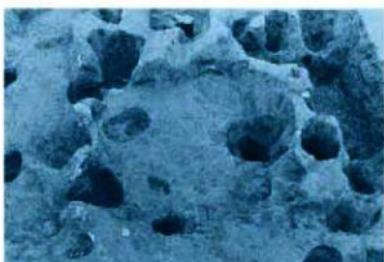
C地点 7·8·32·33号遺構(NE→)



C地点 24号遺構完闢狀況(N→)



C地点 10号遺構土層狀況(S→)



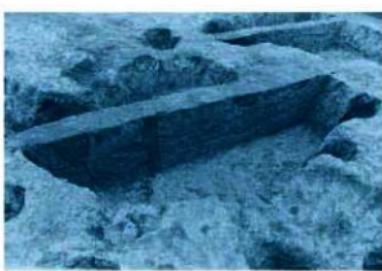
C地点 11号遺構完闢狀況(E→)



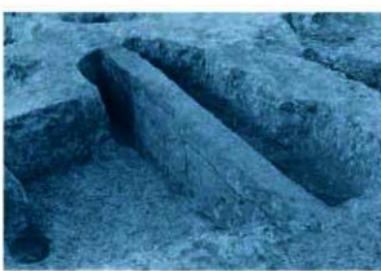
C地點 15・16号遺構完掘状況 (E→)



C地點 23号遺構遺物出土状況 (E→)



C地點 26号遺構土層状況 (W→)



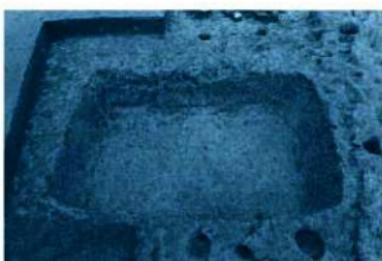
C地點 27号遺構土層状況 (SW→)



C地點 29号遺構完掘状況 (NW→)



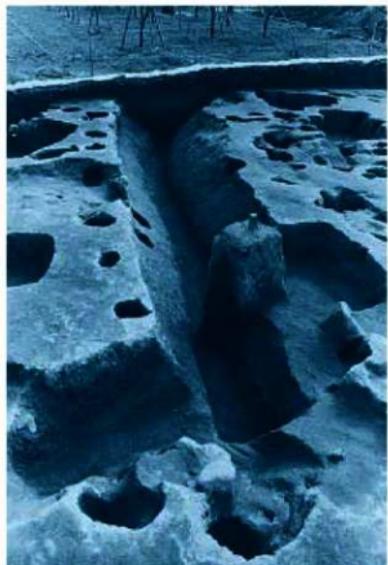
C地點 1号竖穴遺構完掘状況 (E→)



C地點 2号竖穴遺構完掘状況 (S→)



C地點 1号溝跡土層状況 (E→)



C地点 2号溝跡 (W→)



C地点 11号溝跡 (W→)



C地点 5号溝跡拵張区 (SW→)



C地点 4・6・7号溝跡 (E→)



C地点 1号井戸跡 (E→)



C地点 3号井戸跡 (E→)



C地点 2号井戸跡遺物出土状況 (W→)



C地点 4号井戸跡遺物出土状況 (W→)



C地点 4号井戸跡完掘状況 (W→)



C地点 4号井戸跡周辺 (NW→)



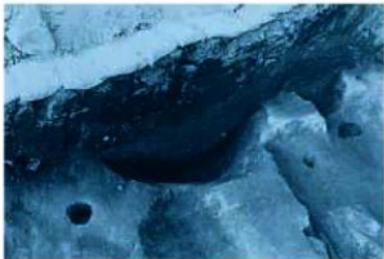
C地点 5号井戸跡 (N→)



C地点 33号石積み状況 (NE→)



C地点 6号井戸跡遺物出土状況



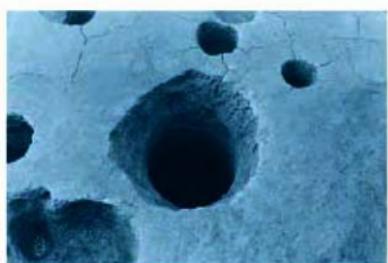
C地点 7号井戸跡完掘状況 (E→)



C地点 8号井戸跡 (S E→)



C地点 9号井戸跡 (N→)



C地点 10号井戸跡 (S E→)



C地点 11号井戸跡 (S E→)



C地点 12号井戸跡 (S E→)



C地点 13号井戸跡 (N E→)



C 地點 1 号 (右) · 2号 (左) 土坑 · MD - 2号土坑 (N→)



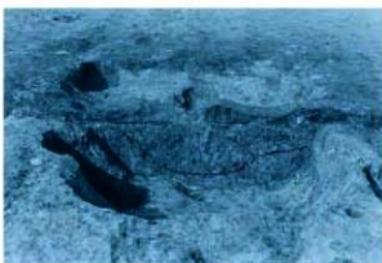
C 地點 1 · 2号土坑土層狀況 (S→)



C 地點 5号土坑罐出土狀況 (W→)



C 地點 4 号土坑 (W→)



C 地點 4号土坑土層狀況 (E→)



C地点 6号土坑 (W→)



C地点 6号土坑土層状況 (W→)



C地点 8号土坑 (E→)



C地点 8号土坑土層状況 (E→)



C地点 9・10号土坑出土状況 (SW→)



C地点 12号土坑土層状況 (SW→)



C地点 15号土坑 (S→)



C地点 ピットC完掘状況 (E→)



F地点 17号井戸跡遺物出土状況 (E→)



F地点 17号井戸跡下面遺物出土状況 (E→)



D地点 1号土坑 (N→)



D地点 2号土坑 (N→)



D地点 3・4・5号土坑 (N→)



D地点 7号土坑 (S→)



D地点 9・10・11・20号土坑 (W→)



D地点 16号土坑 (SE→)



D地点 19号土坑 (E→)



D地点 河床砾集中区土層狀況



D地点 1号建物跡西側石列 (W→)



D地点 1号建物跡東側石列・竈状遺構 (SE→)



1号建物跡竈状遺構 (E→)



D地点 1号建物跡東側石列 (E→)



D地点 1号建物跡東側石列付近出土石臼 (E→)



D地点 1号建物跡西側東部分石列 (S→)



D地点 1号建物跡東側石列 (N→)



D地点 1号建物跡西側西部分石列 (N→)

# 西久保遺跡

PL57－PL60 出土遺構  
PL82 出土遺物

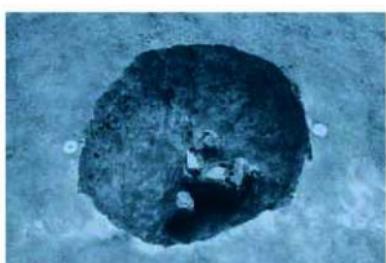




J 1号土坑土層狀況 (S-E→)



J 1号土坑完掘狀況 (E→)



J 2号土坑遺物出土狀況 (N→)



J 3号土坑遺物出土狀況 (N→)



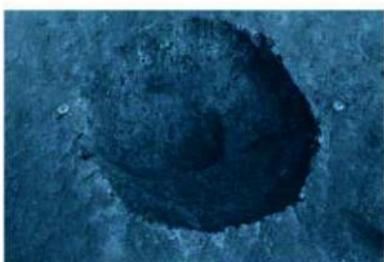
J 4号土坑完掘狀況 (W→)



J 5号土坑完掘狀況 (E→)



J 4号土坑土層狀況 (E→)



J 6号土坑完掘狀況 (S→)



1号填前庭部閉塞石出土状況 (S→)



1号填渠道部礫出土状況 (W→)



1号填渠道部礫出土状況 (S→)



1号填前庭部遺物出土状況 (S→)



1号填前庭部掘り方土層状況 (E→)



石室奥壁構築礫タガネ状工具痕 (S→)



1号填渠道部西侧状況 (E→)



1号填渠道部東側状況 (S→)



1号墳玄室内石敷状況 (S→)



玄室西壁状況 (E→)



玄室東壁状況 (W→)



奥門石設置状況 (N→)



1号墳西側掘り方土層 (S→)



玄室掘り方状況 (W→)



玄室掘り方全景 (S→)



1号墳・1号溝跡周縁土層状況 (S→)



1号古墓 (E→)



1号墳主体部全景 (S→)



1号住居跡-1



3号住居跡-1



3号住居跡-2



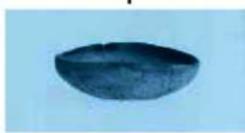
4号住居跡-3



5号住居跡-1



5号住居跡-3



5号住居跡-2



5号住居跡-8



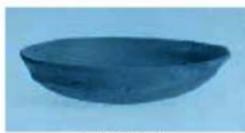
1号住居跡-3



6号住居跡-4



7号住居跡-1



6号住居跡-6



6号住居跡-1



6号住居跡-8



7号住居跡-5



7号住居跡-8

## 東前沖遺跡



7号住居跡-9



7号住居跡-11



9号住居跡-1



9号住居跡-6



8号住居跡-3



9号住居跡-4



8号住居跡-4



10号住居跡-1



12号住居跡-8



11号住居跡-4



11号住居跡-5



11号住居跡-3



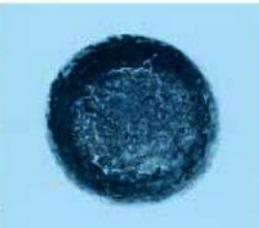
11号住居跡-4



11号住居跡-5



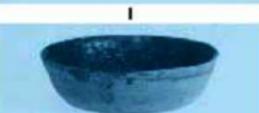
11号住居跡-3



11号住居跡-7



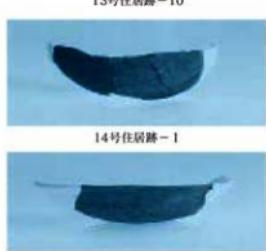
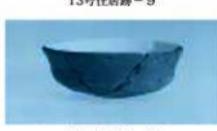
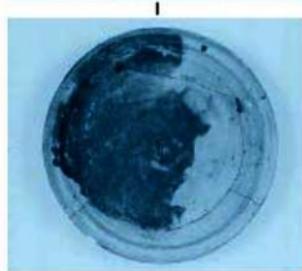
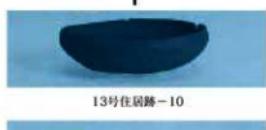
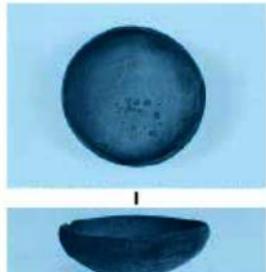
12号住居跡-7



12号住居跡-1



12号住居跡-4





15号住居跡-2



15号住居跡-5



15号住居跡-20



15号住居跡-3



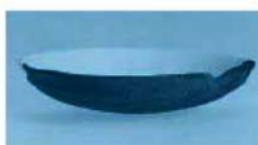
15号住居跡-19



15号住居跡-14



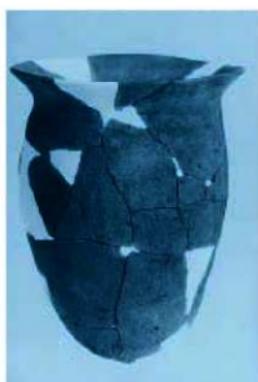
15号住居跡-16



15号住居跡-11



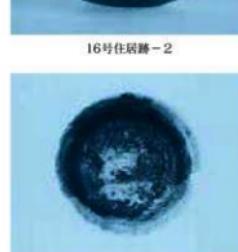
16号住居跡-2



15号住居跡-7



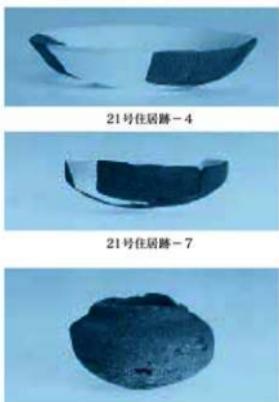
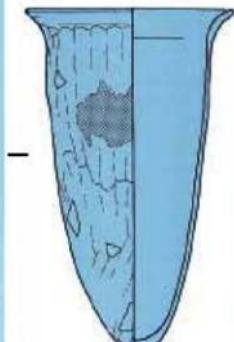
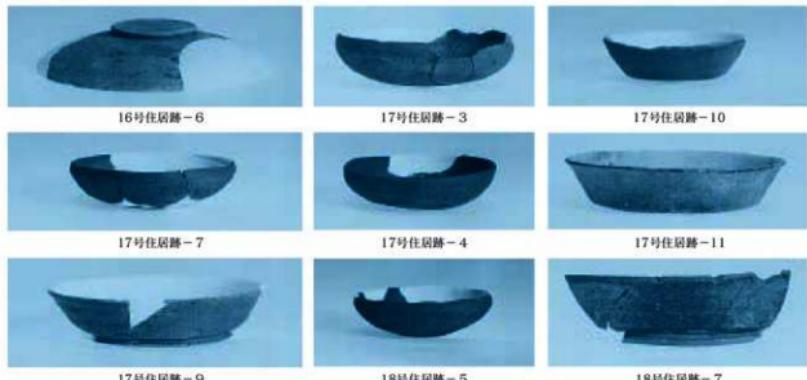
15号住居跡-17



16号住居跡-3



16号住居跡-8

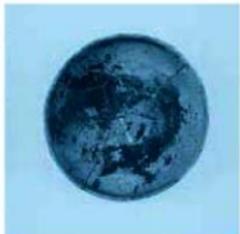




22号住居跡-2



22号住居跡-1



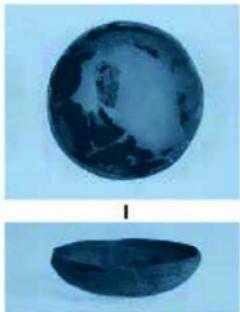
22号住居跡-7



22号住居跡-17



22号住居跡-6



22号住居跡-8



22号住居跡-20



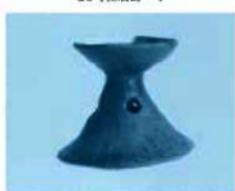
23号住居跡-5



23号住居跡-2



23号住居跡-3

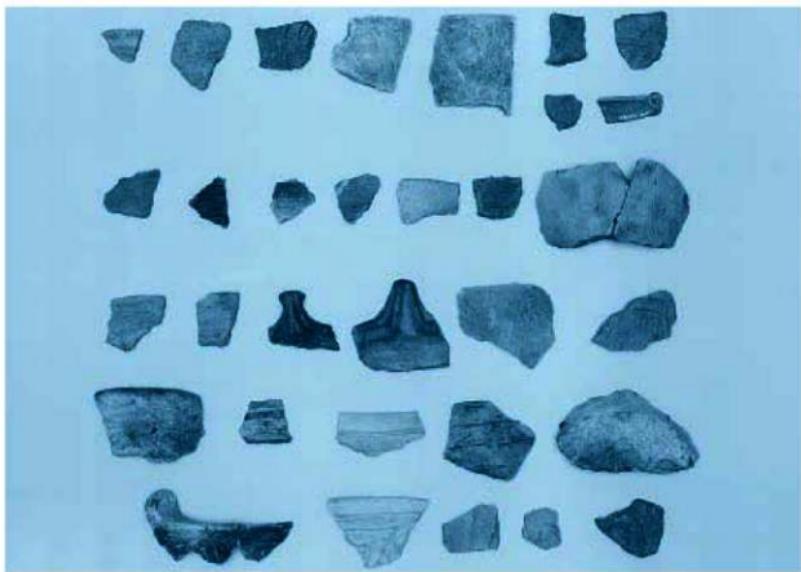




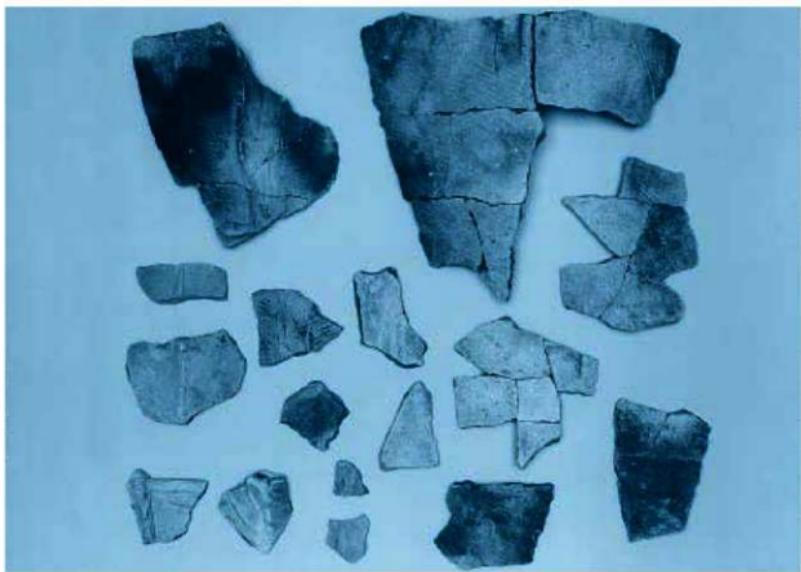
住居跡・竪穴出土遺物 石器・玉・鐵製品



10号住居跡出土 磨盤石



縄文時代出土遺物－1



縄文時代出土遺物－2

## 西前冲遺跡B・C地点



B地点-9



B地点-1



B地点-3



B地点-2



B地点-28



C地点-3



C地点-4



C地点-1



B地点-41



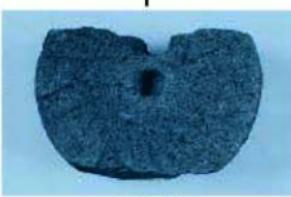
B地点-21



B地点-56



I



B地点-71



B地点-58



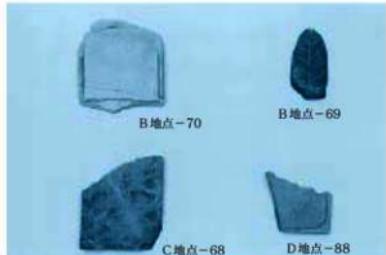
B地点-57



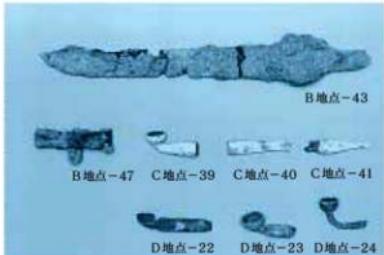
C地点-53



C地点-54



B・C・D地点 出土石器・石製品



B・C・D地点 出土金属製品



B地点 出土砾石



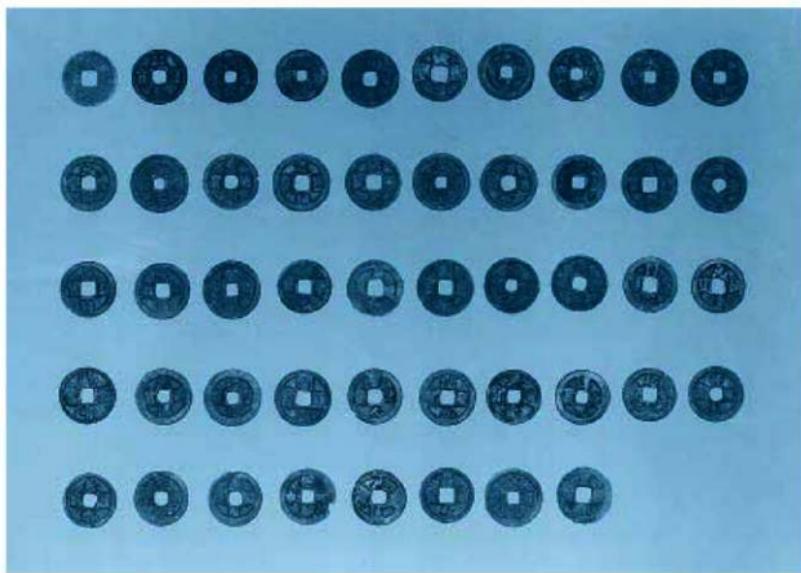
B地点 出土陶磁器-1



B地点 出土陶磁器-2



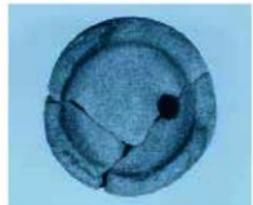
縄文時代出土遺物



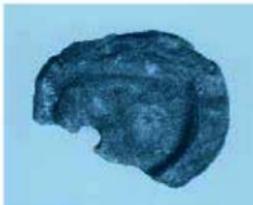
B地点出土銭貨（ピットA）



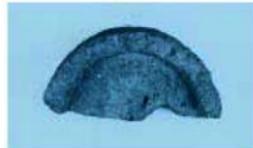
C地点-167



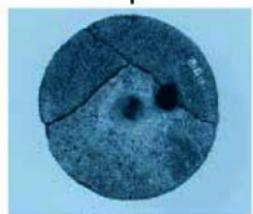
C地点-78



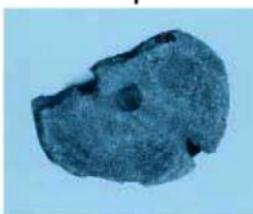
C地点-79



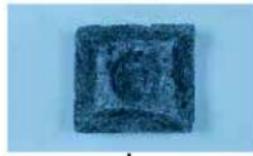
C地点-87



C地点-80



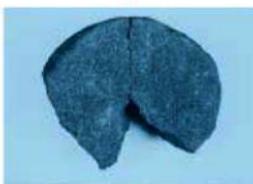
C地点-105



C地点-172



C地点-106



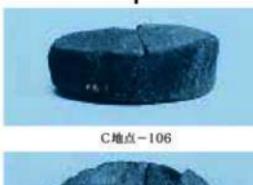
C地点-103



C地点-107



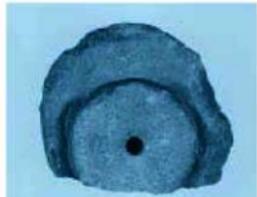
C地点-108



C地点-109



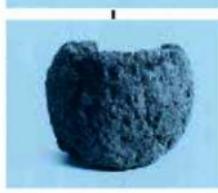
C地点-95



C地点-96



C地点-97



C地点-162



C地点-171



C地点-175



C地点-170



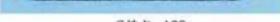
C地点-177



C地点-53



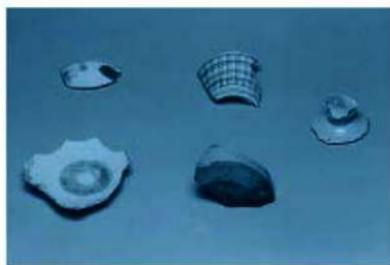
C地点-174



C地点-168



出土遺物—陶器類



出土遺物—磁器類



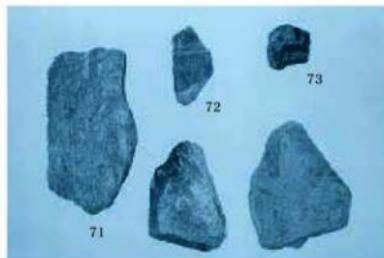
出土遺物—在地產土器類—1



出土遺物—熱燒陶器類



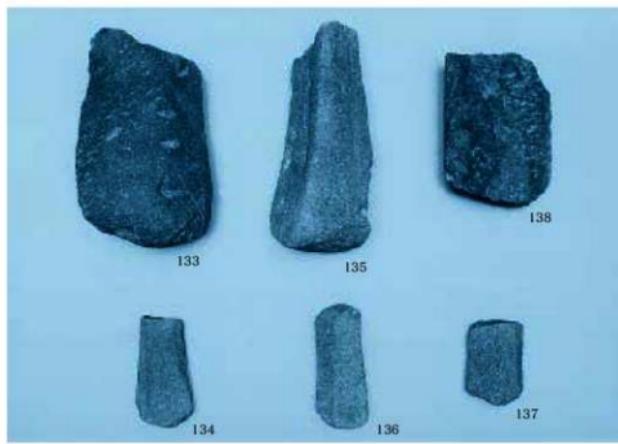
出土遺物—在地產土器—2



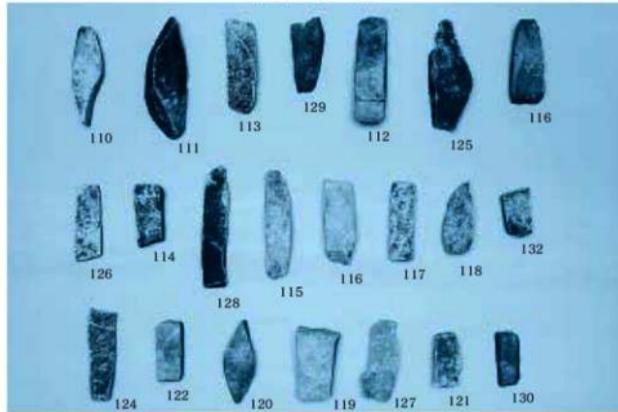
C地点 出土遺物—板磚類



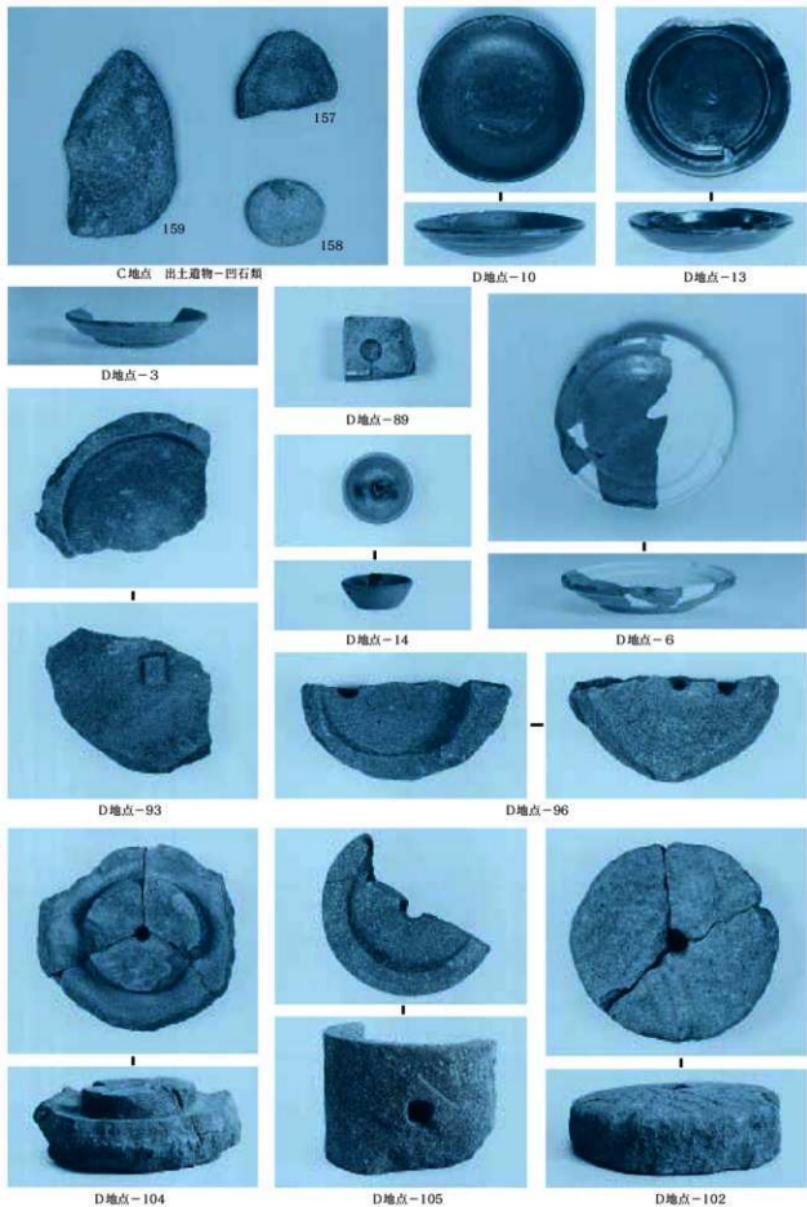
C地点 出土遺物—鐵淬·羽口類



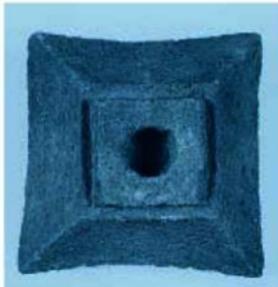
C地点 出土遺物—砥石類—1



C地点 出土遺物—砥石類—2



## 西前冲遺跡D地点



D地点-111

D地点-107

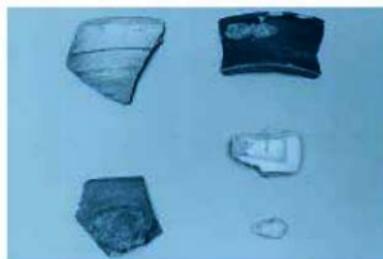
D地点-109



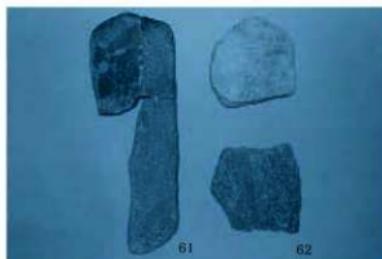
D地点 出土遺物-常滑類



D地点 出土遺物-在地產土器-1・陶紐帶類



D地点 出土遺物-在地產土器-2



D地点 出土遺物-板磚類

61 62



D地点 出土遺物—肥前系磁器類



D地点 出土遺物—砥石類



F 地點 - 67



F 地點 - 1



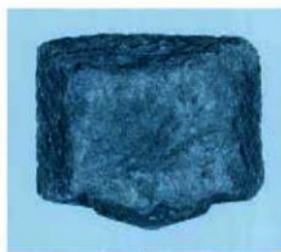
I



F 地點 - 3



F 地點 - 11



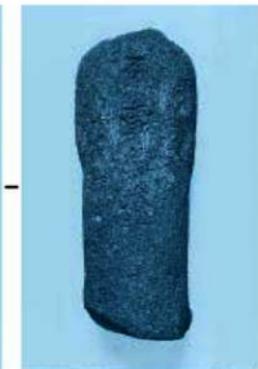
I



E 地點 - 32



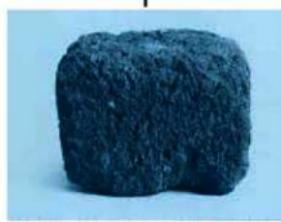
F 地點 - 65



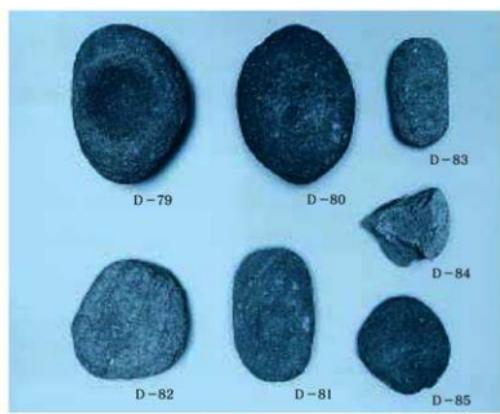
I



I



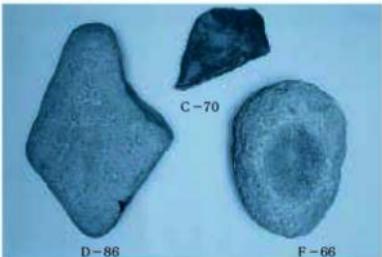
F 地點 - 68



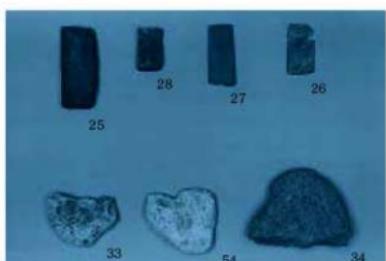
D 地點 出土遺物 - 凹石類



E地点 出土—陶磁器類



C·D·F地点 出土金床石·凹石類



E地点 出土砾石·凹石類



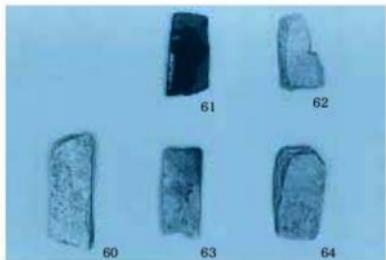
F地点 出土—陶器類



F地点 出土—磁器類



F地点 出土—在地產土器·陶器類



F地点 出土—磁石類



F地点 出土—石臼類



縄文時代出土遺物



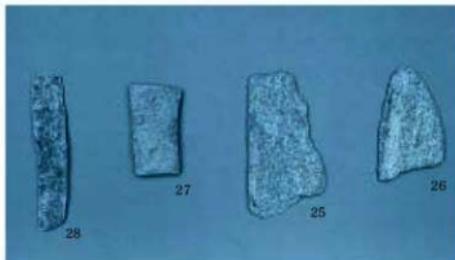
1号墳-1



出土遺物-陶器磨片



1号墳-2



出土遺物-砥石・板磚類



1号墳-3

## 樋 越 南 部 遺 跡 群

樋越南部地区土地改良に伴う埋蔵文化財調査報告書

---

平成18年3月13日

編集・発行 前橋市埋蔵文化財発掘調査団

〒371-0018 群馬県前橋市三保町二丁目10-2

前橋市教育委員会文化財保護課内

電話 027-231-9531

印 刷 朝 日 印 刷 工 業 株 式 会 社

---

